

S O A I U n i v e r s i t y

**Syllabus**

**講義要綱**

**令和元年度(2019)**

**相愛大学**

# 講義要綱の見方

巻頭の2019年度授業科目一覧で自分の回生の配当科目を確認し、  
インデックス番号で履修する授業科目をさがして講義要綱をよく読むこと。

インデックス番号



例)

1-001

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を充分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復習の準備 学習などのアド バイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</li> <li>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する………復習 2時間 (90分)</li> </ul>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

# 目 次

## ◎授業科目一覽

2019年度 授業科目一覽	p.3
---------------	-----

## ◎講義要綱

1. 基礎科目・共通科目	p.47
2. 音楽学部 共通専門科目	p.141
3. 音楽学部 専門科目	p.285
4. 人文学部	p.621
5. 人間発達学部	p.841
6. 教職課程科目	p.1067
7. 図書館司書課程科目	p.1111
8. 留学生科目	p.1137
9. 専攻科目	p.1157
10. 大学院	p.1179



# 2019年度 授業科目一覧

# 2019(H31)年度 授業科目一覧

## 1. 基礎科目・共通科目

index	配当 年次	2016	2016(H28)年度入学生 IV回生用	配当 年次	2017	2017(H29)年度入学生 III回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 II回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
1-001	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	中平 了悟	E
1-002	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	日高 明	E
1-003	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	佐々木 隆晃	E
1-004	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	後期	塚田 博教	E
1-005	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	後期	本多 彩	E
1-006	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	釋 大智	E
1-007	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	赤井 智顕	E
1-008	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	日高 明	E
1-009	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			前期	本多 彩	E
1-010	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	多村 至恩	E
1-011	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	乗山 悟	E
1-012	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	井上 陽	E
1-013	I	共	大学と地域社会	I	共	大学と地域社会	I	共	大学と地域社会	I			前期/後期	中村 圭爾 ほか	E
1-014											全	大学と社会	前期/後期	中村 圭爾 ほか	E
1-015	II	共	大阪学入門	II	共	大阪学入門	II	共	大阪学入門	II			前期	千葉 真也・前垣 和義	
1-016	II	共	まちづくり入門	II	共	まちづくり入門	II	共	まちづくり入門	II			後期	岡田 裕	
1-017	I	共	キャリアデザイン論	I	共	キャリアデザイン論	I	共	キャリアデザイン論	I	共	キャリアデザイン	前期/後期	向井 光太郎	E
1-018	I	共	キャリアデザイン論 (子)	I	共	キャリアデザイン論 (子)	I	共	キャリアデザイン論 (子)	I	共	キャリアデザイン (子)	前期	直島正樹・木村久男・中井清津子・ 私島京	E
1-019	II	共	キャリアデザイン演習	II	共	キャリアデザイン演習	II	共	キャリアデザイン演習	II			後期	碓 ともみ	
1-020	III	共	インターンシップ実践	III	共	インターンシップ実践	III						前期	碓 ともみ	
1-021	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I			前期	千葉 真也	
1-022	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I			前期	沼田 潤	
1-023	I	共	大学生のための日本語入門(留)	I	共	大学生のための日本語入門(留)	I	共	大学生のための日本語入門(留)	I			前期	千葉 真也	
1-024	II	共	文章表現	II	共	文章表現	II	共	文章表現	II			前期/後期	千葉 真也	
1-025	I	共	世界の文学	I	共	世界の文学	I	共	世界の文学	I	全	文学概論	前期	山下 昇	E

A+Bはリレー  
A+Bは共担

Index	2016 配当年次	2016(H28)年度入学生 IV回生用	2017 配当年次	2017(H29)年度入学生 III回生用	2018 配当年次	2018(H30)年度入学生 II回生用	2019 配当年次	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当名	H31 科自生
1-026	I 共	世界の歴史	I 共	世界の歴史	I 共	世界の歴史	全 共	歴史学概論	前期	岡本 託	E
1-027	I 共	世界の地理	I 共	世界の地理	I 共	世界の地理			後期	関口 康之	E
1-028	II 共	世界の思想	II 共	世界の思想	II 共	世界の思想	全 共	倫理学概論	前期	田中 美子	E
1-029	I 共	心理学入門	I 共	心理学入門	I 共	心理学入門	全 共	心理学概論	前期/後期	渡部 美穂子	E
1-030	II 共	経済学入門	II 共	経済学入門	II 共	経済学入門	全 共	経済学概論	集中	薛 秀娟	E
1-031	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	全 共	日本国憲法	前期/後期	秋元 洋祐	E
1-032	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	全 共	日本国憲法	後期	奥野 浩之	E
1-033	I 共	教育原論	I 共	教育原論	I 共	教育原論	全 共	教育原論	前期/後期	長谷川 精一	E
1-034	I 共	生活の中の数学	I 共	生活の中の数学	I 共	生活の中の数学	全 共	生活の中の数学	前期/後期	魚住 義介	E
1-035	I 共	科学史入門	I 共	科学史入門	I 共	科学史入門	全 共	科学史概論	前期	池山 鋭郎	E
1-036	II 共	生物学入門	II 共	生物学入門	II 共	生物学入門			後期	太田 和孝	E
1-037	II 共	現代と医学	II 共	現代と医学	II 共	現代と医学	全 共	生活の中の医学	後期	中川 学	E
1-038	II 共	健康科学	II 共	健康科学	II 共	健康科学			前期/後期	西迫 成一郎	E
1-039	II 共	健康科学	II 共	健康科学	II 共	健康科学			後期	奥野 暢通	E
1-040	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	前期/後期	奥野 暢通	E
1-041	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	前期/後期	越智 祐光	E
1-042	I 共	健康とスポーツ実技 (健康コー ス)	I 共	健康とスポーツ実技(健康コー ス)	I 共	健康とスポーツ実技(健康コー ス)	I 共	健康とスポーツ実技(健康コー ス)	後期	越智 祐光	E
1-043	II 共	生涯健康とスポーツ実技	II 共	生涯健康とスポーツ実技	II 共	生涯健康とスポーツ実技			前期	奥野 暢通	E
1-044	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	前期/後期	岡本 久仁子	E
1-045	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	前期/後期	岡田 裕	E
1-046	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	前期/後期	中島 欣哉	E
1-047	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	後期	岡本 久仁子	E
1-048	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	後期	中島 欣哉	E
1-049	I 共	生涯学習概論	I 共	生涯学習概論	I 共	生涯学習概論	全 共	生涯学習概論	後期集中	鏝 純香	E
1-050	II 共	ポランティア論	II 共	ポランティア論	II 共	ポランティア論			前期	名和 月之介	
1-051	II 共	ポランティア体験	II 共	ポランティア体験	II 共	ポランティア体験			後期	名和 月之介	
1-052	II 共	人権教育	II 共	人権教育	II 共	人権教育	全 共	人権教育	後期	益田 圭	E
1-053	II 共	人権教育	II 共	人権教育	II 共	人権教育	全 共	人権教育	前期	鷗目 巳恵子	E

Index	2016 配当年次	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 配当年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 配当年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 配当年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当名	H31 科自生
1-054	I 共	TOEIC対策ⅠA	I 共	TOEIC対策ⅠA	I 共	TOEIC対策ⅠA	全 共	ステップアップ英語A	前期	野口 昌子	E
1-055	I 共	TOEIC対策ⅠB	I 共	TOEIC対策ⅠB	I 共	TOEIC対策ⅠB	全 共	ステップアップ英語B	後期	野口 昌子	E
1-056	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡA	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡA	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡA			前期	森川 康子	
1-057	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡB	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡB	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡB			後期	相馬 沙織	
1-058	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	森川 康子	E
1-059	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	Alexander Morgus	E
1-060	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	Jonathan MacNab	E
1-061	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	Marcel Hurtado	E
1-062	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	名和 月之介	E
1-063	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	相馬 沙織	E
1-064	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	森川 康子	E
1-065	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	Alexander Morgus	E
1-066	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	Jonathan MacNab	E
1-067	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	Marcel Hurtado	E
1-068	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	名和 月之介	E
1-069	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	相馬 沙織	E
1-070	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	前期	飯盛 康史	E
1-071	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	前期	野口 昌子	E
1-072	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	前期	西垣 有夏	E
1-073	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	後期	飯盛 康史	E
1-074	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	後期	野口 昌子	E
1-075	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	後期	西垣 有夏	E
1-076	I 共	ドイツ語Ⅰ	I 共	ドイツ語Ⅰ	I 共	ドイツ語Ⅰ	I 共	ドイツ語Ⅰ	前期	田島 昭洋	E
1-077	I 共	ドイツ語Ⅱ	I 共	ドイツ語Ⅱ	I 共	ドイツ語Ⅱ	I 共	ドイツ語Ⅱ	後期	田島 昭洋	E
1-078	I 共	イタリア語Ⅰ	I 共	イタリア語Ⅰ	I 共	イタリア語Ⅰ	I 共	イタリア語Ⅰ	前期	小松 寛明	E
1-079	I 共	イタリア語Ⅱ	I 共	イタリア語Ⅱ	I 共	イタリア語Ⅱ	I 共	イタリア語Ⅱ	後期	小松 寛明	E
1-080	I 共	フランス語Ⅰ	I 共	フランス語Ⅰ	I 共	フランス語Ⅰ	I 共	フランス語Ⅰ	前期	宮脇 玲奈	E
1-081	I 共	フランス語Ⅱ	I 共	フランス語Ⅱ	I 共	フランス語Ⅱ	I 共	フランス語Ⅱ	後期	宮脇 玲奈	E



index	配当 年次	2016	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
1-082	I	共	中国語 I	I	中国語 I	I	中国語 I	I	中国語 I	前期	張 煜	E
1-083	I	共	中国語 II	I	中国語 II	I	中国語 II	I	中国語 II	後期	張 煜	E
1-084								全	市民性 (シテイズンシップ) 育成論	前期	長谷川誠一・大橋忠司・生駒佳也・奥野浩之	E
1-085								全	共生社会論	前期	沼田潤・大橋忠司・田中敏正・奥忠憲	E
1-086								全	現代社会とリテラシー	前期	千葉真也・黄樹茜・猿山隆子	E
1-087								全	食と健康	後期	角谷・藤本・品川・竹山・田條・杉山・古川・今井・小野・水野・金石・上田	E
1-088								全	生活文化を知る	後期	川中 美津子	E
1-089								全	図書館概論	前期	岡田 大輔	E
1-090								全	音楽の楽しみ	後期	音楽学部専任教員	E
1-091								全	異文化を知る (海外研修実践)	集中	J.E.Alsdorf	

## 2. 音楽学部 共通専門科目

index	配当 年次	2016	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
2-001	I	音	真宗礼拝音楽	I	真宗礼拝音楽	I	真宗礼拝音楽	I	真宗礼拝音楽	前期	萬田 一樹	
2-002	I	音	真宗礼拝音楽実習 I	I	真宗礼拝音楽実習 I	I	真宗礼拝音楽実習	I	真宗礼拝音楽実習	通年集中	泉 貴子	
2-003	II	音	真宗礼拝音楽実習 II	II	真宗礼拝音楽実習 II					通年集中	泉 貴子	
2-004	III	音	真宗礼拝音楽実習 III	III	真宗礼拝音楽実習 III					通年集中	泉 貴子	
2-005	II	音	西洋音楽史 A	II	西洋音楽史 A					前期	黒坂 俊昭	
2-006						II	西洋音楽史 (中世・ルネッサンス・バロック)			前期	黒坂 俊昭	
2-007	II	音	西洋音楽史 B	II	西洋音楽史 B					後期	黒坂 俊昭	
2-008						II	西洋音楽史 (古典派・ロマン派)			後期	黒坂 俊昭	
2-009	II	音	音楽心理学	II	音楽心理学	II	音楽心理学			集中	河瀬 諭	
2-010	II	音	楽器論	II	楽器論					前期	井上 ハルカ	E
2-011	II	音	諸民族の音楽	II	諸民族の音楽	II	諸民族の音楽			前期/後期	由比 邦子	E
2-012	II	音	アレクサンダー・テクニク	II	アレクサンダー・テクニク	II	アレクサンダー・テクニク			集中	畑田 日出美	
2-013	III	音	西洋音楽史各論 A	III	西洋音楽史各論 A					前期	村井 晶子	
2-014	III	音	西洋音楽史各論 B	III	西洋音楽史各論 B					後期	村井 晶子	
2-015	III	音	管弦楽概説	III	管弦楽概説					前期/後期	上田 真紀郎	E

index	配当 年次	2016	2016(H28) IV回生用	2017	2017(H29) III回生用	配当 年次	2018	2018(H30) II回生用	2019	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
4-207	II	人	国際金融論	II	人	II	人	国際金融論			後期	向井 光太郎 他	E
4-208	II	人	国際政治論	II	人	II	人	国際政治論			後期	佐々木 太郎	E
4-209	II	人	社会統計学	II	人	II	人	社会統計学			後期	益田 圭	E
4-210	II	人	社会調査方法論	II	人	II	人	社会調査法			後期	藤谷 忠昭	
4-211	III	人	企業管理	III	人			企業管理論			後期	向井 光太郎	
4-212	III	人	国際経済・貿易論	III	人			貿易論			後期	登坂 一博	
4-213	III	人	企業経営論	II	人	II	人	企業経営論			前期	向井 光太郎	E
4-214	III	人	社会調査演習	III	人			社会調査演習			通年	藤谷 忠昭	
4-215	III	人	比較文化論演習								後期	中村 圭爾	
4-216				I	人	I	人	真宗入門	I	人	後期	佐々木 隆晃	
4-217				III	人	III	人	マーケティング論			前期	向井 光太郎	
4-218				II	人	II	人	観光学			前期	西村 典芳	

## 5. 人間発達学部

index	配当 年次	2016	2016(H28) IV回生用	2017	2017(H29) III回生用	配当 年次	2018	2018(H30) II回生用	2019	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-001	I	子	人間発達論	I	子	I	子	人間発達論			前期	渡部 美穂子	E
5-002	I	子	ベーシックセミナー	I	子	I	子	ベーシックセミナー	I	子	前期	進藤 啓子+粟光 由里子+前田 雅章 +鹿嶋 藏伸	
5-003	I	子	健康管理論								後期	進藤 啓子	
5-004	II	子	コミュニケーション論	II	子	II	子	コミュニケーション論			後期	粟光 由里子	E
5-005	III	子	文化と社会	III	子						後期	川中 美津子	E
5-006	III	子	保育カウンセリング	III	子						前期	粟光 由里子	B
5-007	IV	子	学校カウンセリング								後期	粟光 由里子	
5-008	III	子	教育心理学(子ども)	III	子	III	子	教育心理学(子ども)			前期	粟光 由里子	
5-009	I	子	発達心理学	I	子	I	子	発達心理学	I	子	後期	粟光 由里子	
5-010	III	子	子どもの遊びと文化	III	子	III	子	子どもの遊びと文化			後期	中西 利恵	
5-011	III	子	ICT活用教育	III	子	III	子	ICT活用教育			後期	横島 三和子	
5-012	IV	子	子ども生活文化論								前期	川中 美津子+進藤 啓子	
5-013	IV	子	子ども生活文化演習								前期	川中 美津子	

Index	配当 年次	2016(H28) IV回生用	2016 配当 年次	2017(H29) III回生用	2018 配当 年次	2018(H30) II回生用	2019 配当 年次	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
5-014	III	子 家庭支援論	III	子 家庭支援論					後期	中西 利恵	
5-015	III	子 世代間交流演習	III	子 世代間交流演習					前期	中西 利恵+川中 美津子	
5-016	I	子 保育原理	I	子 保育原理	I	子 保育原理	I	子 保育原理	前期	中井 清津子	
5-017	II	子 保育者論	II	子 保育者論	II	子 保育者論	I	子 保育者論	後期	松島 京	B
5-018	II	子 保育課程論	II	子 保育課程論	II	子 保育課程論			前期	松島 京	
5-019	I	子 乳児保育	I	子 乳児保育	I	子 乳児保育	I	子 乳児保育 I	後期	中西 利恵+永井 久美子	B
5-020	II	子 保育内容総合	II	子 保育内容総合	II	子 保育内容総合			前期	中西 利恵+松島 京	B
5-021	II	子 保育内容健康	II	子 保育内容健康	II	子 保育内容健康			後期	宮下 恭子	B
5-022	III	子 保育内容人間関係	III	子 保育内容人間関係					前期	中井 清津子	
5-023	II	子 保育内容環境	II	子 保育内容環境	II	子 保育内容環境			前期	進藤 容子	B
5-024	I	子 保育内容言葉	I	子 保育内容言葉	I	子 保育内容言葉			後期	花房 ナオミ	B
5-025	II	子 保育内容総合表現A	II	子 保育内容総合表現A	II	子 保育内容総合表現A			後期	岩口 摂子+小西 智咲子	B
5-026	III	子 保育内容総合表現B	III	子 保育内容総合表現B					後期	川中 美津子+橋本 永子	
5-027	I	子 教育原理	I	子 教育原理	I	子 教育原理	I	子 教育原理	前期	横島 三和子	
5-028	II	子 子どもの保健 I	II	子 子どもの保健 I	II	子 子どもの保健 I			前期	井上 里子	
5-029	III	子 子どもの保健 II	III	子 子どもの保健 II					前期	井上 里子	
5-030	II	子 子どもの保健演習	II	子 子どもの保健演習	II	子 子どもの保健演習			前期	伊野 栄子+服部 保子	
5-031	III	子 子どもの食と栄養	III	子 子どもの食と栄養					後期	進藤 容子	
5-032	IV	子 子どもの食育							後期	進藤 容子	
5-033	I	子 子どものためのピアノ/奏法 (基 礎)	I	子 子どものためのピアノ/奏法 (基礎)	I	子 子どものためのピアノ/奏法 (基礎)	I	子 子どものためのピアノ/奏法 (基礎)	前期	岩口 摂子+大橋邦康+田口友子+山本景子 +横山由美子	B
5-034	II	子 子どものための歌と伴奏	II	子 子どものための歌と伴奏	II	子 子どものための歌と伴奏			前期/後期	岩口 摂子+大橋 邦康+田口 友子 +横山 由美子	
5-035	II	子 子どものための歌と伴奏 (再)	II	子 子どものための歌と伴奏 (再)	II	子 子どものための歌と伴奏 (再)			前期	岩口 摂子+大橋邦康+田口友子+山本景子 +横山由美子	
5-036	IV	子 子どものためのピアノ/伴奏 (発 展)							前期	岩口 摂子+大橋邦康	
5-037	III	子 子どもと楽しむ音楽	III	子 子どもと楽しむ音楽					後期	高橋 尚子+柴田 健+添辺 友希子	
5-038	II	子 体育	II	子 体育	II	子 体育			後期	前田 雅章	B
5-039	II	子 体育	II	子 体育	II	子 体育			前期	中西 利恵	B
5-040	I	子 図画工作	I	子 図画工作	I	子 図画工作			後期	川中 美津子+高田 学+川嶋 啓子	
5-041	II	子 絵画表現	II	子 絵画表現	II	子 絵画表現			前期	川中 美津子+川嶋 啓子	

Index	配当 年次	2016(H28) IV回生用	2017(H29) III回生用	2018 配当 年次	2018(H30) II回生用	2019 配当 年次	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科日生
5-042	IV	子 造形実習						後期	高田 学+川崎 啓子	
5-043	II	子 障害児保育	子 障害児保育	II	子 障害児保育			前期	直島 正樹	B
5-044	I	子 社会福祉	子 社会福祉	I	子 社会福祉	I	子 社会福祉	前期	直島 正樹	
5-045	III	子 相談援助	子 相談援助					後期	直島 正樹	
5-046	I	子 児童家庭福祉	子 児童家庭福祉	I	子 児童家庭福祉	I	子 児童家庭福祉	後期	直島 正樹	
5-047	II	子 社会的養護	子 社会的養護	II	子 社会的養護			後期	松島 京	
5-048	III	子 社会的養護内容	子 社会的養護内容					後期	河野 清志	
5-049	I	子 教育職の研究	子 教育職の研究	I	子 教育職の研究			後期	木村 久男	
5-050						I	子 教職論	後期	木村 久男	
5-051	II	子 教育課程論	子 教育課程論	II	子 教育課程論			前期	楳島 三和子	
5-052	II	子 教育方法論	子 教育方法論	II	子 教育方法論			後期	楳島 三和子	
5-053	I	子 生活	子 生活	I	子 生活	I	子 生活	後期	河内 晴彦	
5-054	II	子 国語(書写を含む)	子 国語(書写を含む)	II	子 国語(書写を含む)			前期	馬場 義伸+中井清津子	B
5-055	II	子 社会	子 社会	II	子 社会			前期	馬場 義伸	B
5-056	II	子 算数	子 算数	II	子 算数			前期	関 忠和	B
5-057	II	子 理科	子 理科	II	子 理科			前期	木村 久男	B
5-058	II	子 家庭	子 家庭	II	子 家庭			前期	角江 繁美	B
5-059	III	子 国語科指導法	子 国語科指導法					後期	馬場 義伸	
5-060	III	子 算数科指導法	子 算数科指導法					後期	関 忠和	
5-061	III	子 生活科指導法	子 生活科指導法					前期	河内 晴彦	
5-062	IV	子 音楽科指導法						前期	藤本 佳子	
5-063	III	子 図画工作指導法	子 図画工作指導法					前期	辰巳 三郎	
5-064	III	子 体育科指導法	子 体育科指導法	III	子 体育科指導法			後期	前田 雅章	
5-065	III	子 社会科指導法	子 社会科指導法	III	子 社会科指導法			前期	河内 晴彦	
5-066	III	子 理科指導法	子 理科指導法	III	子 理科指導法			前期	木村 久男	
5-067	IV	子 家庭科指導法						後期	角江 繁美	
5-068	IV	子 外国語活動の指導法						前期	藤本 聡美	
5-069	IV	子 道徳教育の理論と実践						後期	楳島 三和子	

Index	配当 年次	2016(H28)年度入学生 IV回生用	配当 年次	2017(H29)年度入学生 III回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 II回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-070	IV	子 特別活動の指導法									前期	馬場 義伸	
5-071	III	子 生徒・進路指導の理論と方法	III	子 生徒・進路指導の理論と方法							後期	木村 久男	
5-072	I	子 保育生活技術演習	I	子 保育生活技術演習	I	子	保育生活技術演習	I	子	保育生活技術演習	前期	川中 美津子+進藤 容子	
5-073	IV	子 子ども学専門演習									通年	進藤+岩口+前田+川中+木村+美光+直島 +中井+中西+馬場+曲田+松島+横島	
5-074	II	子 教職特別演習A	II	子 教職特別演習A	II	子	教職特別演習A				通年	木村久男+前田雅章+横島 美和子	
5-075	III	子 教職特別演習B	III	子 教職特別演習B							通年	木村久男+前田雅章+横島 美和子	
5-076	I	子 保育・教育マネジメントA	I	子 保育・教育マネジメントA	I	子	保育・教育マネジメントA	I	子	保育・教育マネジメントA	通年	進藤容子+美光由里子+前田雅章 +馬場義伸	
5-077	II	子 保育・教育マネジメントB	II	子 保育・教育マネジメントB	II	子	保育・教育マネジメントB				集中	中西利恵+木村久男+進藤容子 +曲田映世	
5-078	III	子 保育・教育マネジメントC	III	子 保育・教育マネジメントC	III	子	保育・教育マネジメントC				集中	中西利恵+木村久男+進藤容子 +曲田映世	
5-079	IV	子 保育・教育マネジメントD									集中	進藤+前田+川中+木村+美光+直島 +中井+中西+馬場+曲田+松島+横島	
5-080	I	子 保育所実習の指導	I	子 保育所実習の指導	I	子	保育所実習の指導	I	子	保育所実習の指導	通年	中西 利恵+曲田 映世	
5-081	II	子 保育所実習	II	子 保育所実習	II	子	保育所実習				集中	中西 利恵+曲田 映世+松島 京	
5-082	III	子 施設実習の指導	III	子 施設実習の指導	III	子	施設実習の指導				通年	直島 正樹+曲田 映世+杉山 崇尚	
5-083	III	子 施設実習	III	子 施設実習	III	子	施設実習				集中	直島 正樹+曲田 映世	
5-084	II	子 保育実習 II の指導	II	子 保育実習 II の指導	II	子	保育実習 II の指導				通年	曲田 映世+松島 京	
5-085	II	子 保育実習 II	II	子 保育実習 II	II	子	保育実習 II				集中	曲田 映世+松島 京+中西 利恵	
5-086	III	子 保育実習 III の指導	III	子 保育実習 III の指導	III	子	保育実習 III の指導				通年	直島 正樹	
5-087	III	子 保育実習 III	III	子 保育実習 III	III	子	保育実習 III				集中	直島 正樹	
5-088	III	子 教育実習の指導 (事前事後指導) (幼)	III	子 教育実習の指導 (事前事後指導) (幼)	III	子	教育実習の指導 (事前事後指導) (幼)				通年	中西 利恵・中井 清津子・曲田 映世	
5-089	III	子 教育実習の指導 (事前事後指導) (小)	III	子 教育実習の指導 (事前事後指導) (小)	III	子	教育実習の指導 (事前事後指導) (小)				通年	木村久男+前田雅章+馬場 義伸 +横島三和子	
5-090	IV	子 教育実習の指導 (事前事後指導) (幼)									通年	中西 利恵・中井 清津子・曲田 映世	
5-091	IV	子 教育実習の指導 (事前事後指導) (小)									通年	木村久男+前田雅章+馬場 義伸 +横島三和子	
5-092	IV	子 教育実習 (実地実習) (幼)									集中	中西 利恵・中井 清津子・曲田 映世	
5-093	IV	子 教育実習 (実地実習) (小)									集中	木村久男+前田雅章+馬場 義伸+横島 三和子	
5-094	I	子 保育・教育実践学習	I	子 保育・教育実践学習	I	子	保育・教育実践学習	I	子	保育・教育実践学習	集中	横島+前田+進藤+中井+曲田+松島 +直島	
5-095	II	子 保育・教育ボランティア実習A	II	子 保育・教育ボランティア実習A	II	子	保育・教育ボランティア実習A				集中	松島 京+直島 正樹+前田 雅章	
5-096	III	子 保育・教育ボランティア実習B	III	子 保育・教育ボランティア実習B	III	子	保育・教育ボランティア実習B				集中	松島 京+直島 正樹+前田 雅章	
5-097	IV	子 保育・教育インターンシップ									集中	曲田+中西+美光+中井+馬場+松島	

index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 配当 年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 配当 年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-098	Ⅲ	子	Ⅱ	子					後期	中井 清津子	
5-099	Ⅳ	子							後期	木村 久男+中井 清津子+前田 雅章	
5-100	Ⅳ	子							後期	直島 正樹	
5-101	Ⅳ	子							後期	進藤 容子	
5-102	Ⅳ	子							後期	松島 京	
5-103	Ⅳ	子							後期	中井 清津子	
5-104	Ⅳ	子							後期	岩口 摂子	
5-105	Ⅳ	子							後期	中西 利恵	
5-106	Ⅳ	子							後期	川中 美津子	
5-107	Ⅳ	子							後期	楸島 三和子	
5-108	Ⅳ	子							後期	栗光 由里子	
5-109	Ⅳ	子							後期	木村 久男	
5-110	Ⅳ	子							後期	前田 雅章	
5-111	Ⅳ	子							後期	馬場 義伸	
5-112	Ⅳ	子							後期	曲田 映世	
5-113							Ⅰ	子	前期	岩口+大橋+田口+山本+横山	
5-114							Ⅰ	子	前期	川中 美津子+川嶋 啓子+高田 学	
5-115							Ⅰ	子	後期	宮下 恭子	
5-116							Ⅰ	子	後期	中井 清津子	
5-117							Ⅰ	子	後期	進藤 容子	
5-118							Ⅰ	子	後期	花房 ナオミ	
5-119							Ⅰ	子	後期	川中 美津子・曲田 映世	
5-120	Ⅰ	栄	Ⅰ	栄	Ⅰ	人間発達論			前期	渡部 美穂子	
5-121	Ⅰ	栄	Ⅰ	栄	Ⅰ	ベーシックセミナー	Ⅰ	栄	前期	今井 ももこ	
5-122	Ⅰ	栄	Ⅰ	栄	Ⅰ	ベーシックセミナー	Ⅰ	栄	前期	庄條 愛子	
5-123	Ⅰ	栄	Ⅰ	栄	Ⅰ	ベーシックセミナー	Ⅰ	栄	前期	金石 智津子	
5-124	Ⅰ	栄	Ⅰ	栄	Ⅰ	ベーシックセミナー	Ⅰ	栄	前期	小野 くに子	
5-125	Ⅰ	栄	Ⅰ	栄	Ⅰ	健康管理論	Ⅰ	栄	後期	古川 和子	

Index	配当 年次	2016(H28) IV回生用	2017 配当 年次	2017(H29) III回生用	2018 配当 年次	2018(H30) II回生用	2019 配当 年次	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-126	II	栄 コミュニケーション論	II	栄 コミュニケーション論	II	栄 コミュニケーション論			後期	美光 由里子	E
5-127	III	栄 文化と社会	III	栄 文化と社会					後期	川中 美津子	E
5-128	I	栄 食育総論	I	栄 食育総論	I	栄 食育総論	I	栄 食育総論	前期	上田秀樹・古川和子・金石智津子・ 山北人志・湯本剛治・藤岡和徳	
5-129	I	栄 産官学食育実践演習	I	栄 産官学食育実践演習	I	栄 産官学食育実践演習	I	栄 産官学食育実践演習	通年集中	古川 和子	
5-130	II	栄 食環境論	II	栄 公衆衛生学A	II	栄 公衆衛生学A			後期	大西 宏昭	
5-131	III	栄 公衆衛生学	III	栄 公衆衛生学B					前期	大西 宏昭	B
5-132	I	栄 食品学A	I	栄 食品学A	I	栄 食品学A	I	栄 食品学A	後期	中屋 慎	
5-133	III	栄 公衆衛生学実習	III	栄 公衆衛生学実習					前期	古川 和子・福嶋 実	B
5-134	I	栄 解剖学	I	栄 人体の構造(解剖学)	I	栄 人体の構造(解剖学)	I	栄 人体の構造(解剖学)	前期	品川 英明	B
5-135	I	栄 生理学A	I	栄 生理学A	I	栄 生理学A	I	栄 生理学A	前期	藤本 繁夫	B
5-136	I	栄 生理学B	I	栄 生理学B	I	栄 生理学B	I	栄 生理学B	後期	坂井 孝	
5-137	I	栄 解剖生理学実験	I	栄 解剖生理学実験	I	栄 解剖生理学実験	I	栄 解剖生理学実験	後期	藤本 繁夫・庄條愛子	
5-138	II	栄 運動生理学実習	II	栄 運動生理学実習	II	栄 運動生理学実習	II	栄 運動生理学実習	前期	宮本 忠吉	B
5-139	II	栄 病理学	II	栄 疾病の成り立ち	II	栄 疾病の成り立ち			前期	品川 英明	B
5-140	II	栄 微生物学	II	栄 微生物学	II	栄 微生物学			後期	藤原 永年	
5-141	II	栄 栄養生化学	II	栄 栄養生化学	II	栄 栄養生化学			後期	水野 浄子+岡崎 眞	
5-142	I	栄 生化学	I	栄 生化学	I	栄 生化学	I	栄 生化学	前期	水野 浄子	B
5-143	I	栄 生化学実験	I	栄 生化学実験	I	栄 生化学実験	I	栄 生化学実験	前期	水野 浄子・庄條 昌之	
5-144	II	栄 食品学B	II	栄 食品学B	II	栄 食品学B			前期	庄條 愛子	B
5-145	II	栄 食品学実習	II	栄 食品学実習	II	栄 食品学実習			前期	庄條 愛子	
5-146	I	栄 食品学実験	I	栄 食品学実験	I	栄 食品学実験	I	栄 食品学実験	後期	庄條 愛子・中 崇・亀井 健吾	
5-147	II	栄 食品衛生学	II	栄 食品衛生学	II	栄 食品衛生学			前期	中屋 慎	B
5-148	II	栄 食品衛生学実験	II	栄 食品衛生学実験	II	栄 食品衛生学実験			後期	庄條 昌之・中 崇・亀井 健吾	B
5-149	I	栄 調理学	I	栄 調理学	I	栄 調理学	I	栄 調理学	前期	杉山 文	B
5-150	I	栄 調理学実習A	I	栄 調理学実習A	I	栄 調理学実習A	I	栄 調理学実習A	前期	杉山 文	B
5-151	I	栄 調理学実習B	I	栄 調理学実習B	I	栄 調理学実習B	I	栄 調理学実習B	後期	杉山 文	
5-152	II	栄 調理科学実験	II	栄 調理科学実験	II	栄 調理科学実験			前期	為後 左依	
5-153	II	栄 基礎栄養学	II	栄 基礎栄養学	II	栄 基礎栄養学			前期	今井 ももこ	B

Index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 配当 年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 配当 年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-154	Ⅱ	栄 基礎栄養学実験	Ⅱ	栄 基礎栄養学実験	Ⅱ	栄 基礎栄養学実験			後期	今井 ももこ	B
5-155	Ⅲ	栄 発達栄養学化学	Ⅲ	栄 発達栄養学化学					前期	岡崎 眞	B
5-156	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学A	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学A	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学A			前期	品川 英明	B
5-157	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学B	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学B	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学B			後期	品川 英明	B
5-158	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学実習	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学実習	Ⅱ	栄 ライフステージ栄養学実習			後期	吉村 智春	B
5-159	Ⅱ	栄 栄養教育論A	Ⅱ	栄 栄養教育論A	Ⅱ	栄 栄養教育論A			前期	小野 くに子	B
5-160	Ⅲ	栄 栄養教育論B	Ⅲ	栄 栄養教育論B					前期	小田 麗子	B
5-161	Ⅱ	栄 栄養教育論実習A	Ⅱ	栄 栄養教育論実習A	Ⅱ	栄 栄養教育論実習A			後期	小野 くに子	B
5-162	Ⅲ	栄 栄養教育論実習B	Ⅲ	栄 栄養教育論実習B					後期	小田 麗子	B
5-163	Ⅲ	栄 栄養教育演習	Ⅲ	栄 栄養教育演習					後期	小野 くに子・小田 麗子	
5-164	Ⅱ	栄 臨床栄養学A	Ⅱ	栄 臨床栄養学A	Ⅱ	栄 臨床栄養学A			前期	金石 智津子	B
5-165	Ⅲ	栄 臨床栄養学B	Ⅲ	栄 臨床栄養学B					前期	竹山 育子	B
5-166	Ⅱ	栄 臨床栄養アセスメント論	Ⅱ	栄 臨床栄養アセスメント論	Ⅱ	栄 臨床栄養アセスメント論			後期	石橋 朋美	
5-167	Ⅲ	栄 臨床栄養カウンセリング論	Ⅲ	栄 臨床栄養カウンセリング論					後期	竹山 育子	
5-168	Ⅲ	栄 臨床栄養学実習A	Ⅲ	栄 臨床栄養学実習A					前期	竹山 育子・金石 智津子	
5-169	Ⅲ	栄 臨床栄養学実習B	Ⅲ	栄 臨床栄養学実習B					後期	竹山 育子・金石 智津子	
5-170	Ⅲ	栄 公衆栄養学A	Ⅲ	栄 公衆栄養学A					前期	上田 秀樹	B
5-171	Ⅲ	栄 公衆栄養学B	Ⅲ	栄 公衆栄養学B					後期	上田 秀樹	
5-172	Ⅲ	栄 公衆栄養学実習A	Ⅲ	栄 公衆栄養学実習A					後期	多門 隆子	B
5-173	Ⅲ	栄 公衆栄養学実習B	Ⅲ	栄 公衆栄養学実習B					前期	上田 秀樹	B
5-174	Ⅱ	栄 給食経営管理論	Ⅱ	栄 給食経営管理論	Ⅱ	栄 給食経営管理論			後期	角谷 勲	B
5-175	Ⅱ	栄 給食経営管理実務論	Ⅱ	栄 給食経営管理実務論	Ⅱ	栄 給食経営管理実務論			後期	岡村 吉隆	B
5-176	Ⅲ	栄 給食経営実習	Ⅲ	栄 給食経営実習					前期	角谷 勲	B
5-177	Ⅲ	栄 管理栄養総合演習	Ⅲ	栄 管理栄養総合演習					後期	金石 智津子・上田 秀樹 角谷 勲・竹山 育子	B
5-178	Ⅲ	栄 臨地実習A	Ⅲ	栄 臨地実習A					通年集中	竹山 育子・金石 智津子	
5-179	Ⅲ	栄 臨地実習B	Ⅲ	栄 臨地実習B					通年集中	上田 秀樹・古川 和子・多門 隆子	
5-180	Ⅲ	栄 臨地実習C	Ⅲ	栄 臨地実習C					通年集中	角谷 勲・石橋 朋美	
5-181	Ⅲ	栄 臨地実習D (給食の運営を含む)	Ⅲ	栄 臨地実習D (給食の運営を含む)					通年集中	角谷 勲・山北 人志	B



Index	配当 年次	2016	2016(H28) IV回生用	2016 年次	2017	2017(H29) II回生用	配当 年次	2018	2018(H30) II回生用	2018 年次	2019	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-182	I	栄 基礎化学		I	栄 基礎化学		I	栄 基礎化学		I	栄 基礎化学		前期	原田 匠彦	B
5-183	I	栄 基礎統計学演習		I	栄 基礎統計学演習		I	栄 基礎統計学演習		I	栄 基礎統計学演習		後期	藤本 要	
5-184	III	栄 学校栄養教育論A		III	栄 学校栄養教育論A								前期	山北 人志	B
5-185	III	栄 学校栄養教育論B		III	栄 学校栄養教育論B								後期	山北 人志	B
5-186	IV	栄 栄養教育実習											前期集中	小野くに子+山北人志	B
5-187	III	栄 スポーツ栄養演習											後期	保井 智香子	
5-188	III	栄 臨床薬理学											前期	上坂 康子	
5-189	I	栄 行動カウンセリング論		I	栄 行動カウンセリング論		I	栄 行動カウンセリング論		I	栄 行動カウンセリング論		前期集中	廣瀬 真理子	
5-190	I	栄 行動カウンセリング演習		I	栄 行動カウンセリング演習		I	栄 行動カウンセリング演習		I	栄 行動カウンセリング演習		後期集中	廣瀬 真理子	
5-191	IV	栄 食文化論											後期	千葉 真也	B
5-192	IV	栄 生活文化研究											後期	川中 美津子	B
5-193	IV	栄 茶樓石論											後期	湯木 潤治	
5-194	IV	栄 製菓実習											前期	杉山 文	
5-195	I	栄 食デザイン演習		I	栄 食デザイン演習		I	栄 食デザイン演習		I	栄 食デザイン演習		前期	吉田 由美	
5-196				I	栄 商品開発入門		I	栄 商品開発入門		I	栄 商品開発入門		前期	竹山 育子+杉山 文+齋岡 和徳	
5-197	IV	栄 栄養疫学特別研究											後期	古川和子・上田 秀樹	B
5-198	IV	栄 衛生学											後期	中川 学	B
5-199	IV	栄 インターンシップ実習											前期集中	金石 智津子	
5-200	III	栄 管理栄養士演習A											後期	藤本 繁夫・水野 淳子・庄條 慶子・ 杉山 文	
5-201	IV	栄 管理栄養士演習B											前期	品川 英明・竹山 育子・金石 智津子 ・今井 ももこ	
5-202	IV	栄 管理栄養士演習C											前期	上田 秀樹・角谷 勲・古川 和子 ・小野 くに子	
5-203	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	金石 智津子	
5-204	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	今井 ももこ	
5-205	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	角谷 勲	
5-206	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	上田 秀樹	
5-207	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	藤本 繁夫	
5-208	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	水野 淳子	
5-209	IV	栄 管理栄養士演習D											集中	品川 英明	

Index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	配当 年次	2017 (H29)年度入学生 Ⅲ回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-210	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	小野 くに子	
5-211	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	庄條 愛子	
5-212	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	竹山 育子	
5-213	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	古川 和子	
5-214	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	杉山 文	
5-215	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	藤本 繁夫	
5-216	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	角谷 順	
5-217	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	水野 浄子	
5-218	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	今井 ももこ	
5-219	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	品川 英朗	
5-220	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	竹山 育子	
5-221	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	庄條 愛子	
5-222	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	杉山 文	
5-223	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	古川 和子	
5-224	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	小野 くに子	

## 6. 教職課程科目

Index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	配当 年次	2017 (H29)年度入学生 Ⅲ回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
6-001	Ⅱ	教 教職入門	Ⅱ	教 教職入門	Ⅱ	教 教職入門	教職入門				前期/後期	長谷川 精一	E
6-002	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	教育心理学	Ⅰ	教 教	教育心理学	後期	池本 真知子	E
6-003	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	教育心理学	Ⅰ	教 教	教育心理学	集中	渡邊 ひとみ	E
6-004	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	学校の制度と経営	Ⅱ			集中	高橋 みづき	E
6-005	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	学校の制度と経営	Ⅱ			後期	弘田 みな子	E
6-006	Ⅱ	教 学校の制度と経営 (幼・小)	Ⅱ	教 学校の制度と経営 (幼・小)	Ⅱ	教 学校の制度と経営 (幼・小)	学校の制度と経営 (幼・小)	Ⅱ			前期	弘田 みな子	E
6-007									Ⅰ	教 特別支援教育	前期/後期	坂井 美恵子	E
6-008	Ⅲ	教 教育課程の意義と編成	Ⅲ	教 教育課程の意義と編成	Ⅲ	教 教育課程の意義と編成					前期	奥野 浩之	E
6-009	Ⅲ	教 教育の方法と技術	Ⅲ	教 教育の方法と技術	Ⅲ	教 教育の方法と技術					前期/後期	沼田 潤	E
6-010	Ⅲ	教 道徳教育論	Ⅲ	教 道徳教育論	Ⅲ	教 道徳教育論					前期	倉本 香	E



# 1. 基礎科目・共通科目





1-001

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55%</p> <p>試験 ・ レポート ・ 課題 ・ 提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する………復習 2時間 (90分)</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-003

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</li> <li>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</li> </ul>		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	後期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	塚田 博教		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教經典『仏説無量寿經』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55% 試験 ・ レポート ・ 課題 ・ 提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</li> <li>身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。</li> <li>一度、仏教の本を読んでみよう。</li> <li>大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間</li> <li>講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分)</li> <li>講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		



1-005

ナンバリング	CC100A01	期間	後期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	本多 彩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</li> <li>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	釋 大智		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-007

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	赤井 智顕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</li> <li>身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。</li> <li>一度、仏教の本を読んでみよう。</li> <li>大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外における予習・復習等に必要時間</li> <li>講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分）</li> <li>講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</li> </ul>		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見詰め、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想  第2回 宗教とは何か  第3回 宗教の種々相  第4回 ブッダの生涯と苦の自覚  第5回 縁起思想について  第6回 空の思想について  第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土  第8回 浄土思想：中国浄土教思想  第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ  第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯  第11回 親鸞聖人の教え：他力について  第12回 現代社会と仏教：概説  第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から  第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から  第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50%  試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。</li> <li>・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-009

ナンバリング	CC100B01	期間	前期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	本多 彩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見つめ、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想  第2回 宗教とは何か  第3回 宗教の種々相  第4回 ブッダの生涯と苦の自覚  第5回 縁起思想について  第6回 空の思想について  第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土  第8回 浄土思想：中国浄土教思想  第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ  第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯  第11回 親鸞聖人の教え：他力について  第12回 現代社会と仏教：概説  第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から  第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から  第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50%  試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。</li> <li>・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-010

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	多村 至恩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見つめ、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想  第2回 宗教とは何か  第3回 宗教の種々相  第4回 ブッダの生涯と苦の自覚  第5回 縁起思想について  第6回 空の思想について  第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土  第8回 浄土思想：中国浄土教思想  第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ  第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯  第11回 親鸞聖人の教え：他力について  第12回 現代社会と仏教：概説  第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から  第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から  第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50%  試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。</li> <li>・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-011

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	乗山 悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見つめ、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想  第2回 宗教とは何か  第3回 宗教の種々相  第4回 ブッダの生涯と苦の自覚  第5回 縁起思想について  第6回 空の思想について  第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土  第8回 浄土思想：中国浄土教思想  第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ  第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯  第11回 親鸞聖人の教え：他力について  第12回 現代社会と仏教：概説  第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から  第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から  第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50%  試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。</li> <li>講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</li> </ul>		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-012

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	○
ディプロマ・ポリシー-3	○	ディプロマ・ポリシー-4	◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見詰め、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想  第2回 宗教とは何か  第3回 宗教の種々相  第4回 ブッダの生涯と苦の自覚  第5回 縁起思想について  第6回 空の思想について  第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土  第8回 浄土思想：中国浄土教思想  第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ  第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯  第11回 親鸞聖人の教え：他力について  第12回 現代社会と仏教：概説  第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から  第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から  第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50%  試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。</li> <li>・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</li> </ul>		
課題へのフィードバック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		



ナンバリング		期間	前期/後期
授業科目名	大学と地域社会		
英訳科目名	University and Regional Society		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきました。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>それでは、私たち相愛大学は、大学が位置している大阪府や大阪市、そして実際にキャンパスがある住之江区や中央区に対して、これまでどのような役割を果たしてきているのでしょうか、またどのような役割をこれから果たしていこうとしているのでしょうか。</p> <p>このようなことを考える時には、まず相愛大学がどのような精神で設立され、どのような方針で大学の使命を果たそうとしているのかを正しく理解したうえで、相愛大学の教育や研究、地域貢献の考え方と、具体的な内容を知るとともに、地元大阪府大阪市、そして中央区や住之江区の現状、地元と大学の現在の関係について認識を広めていくことが重要となります。</p> <p>この科目は、相愛大学の歴史、相愛大学の地域社会に関する教育・研究・地域貢献の現状を、大学の立場から学ぶとともに、地元地域の実情と、地元のさまざまな立場からの大学に対する見方や考え方を認識し、大学と地域とのよりよい共生や連携を発展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	相愛大学の歴史と地域への貢献、地域の経済・社会・文化のさまざまな現状や課題について十分に理解でき、そのことを自分で他者に対して正しく説明できるようになる。		
授業計画	第1回 授業内容と進め方の説明 第2回 相愛大学のあゆみ 第3回 日本の大学と社会 第4回 相愛大学と社会 第5回 相愛大学の研究と社会 第6回 相愛大学の社会貢献 第7回 音楽学部の教育研究と地域社会 第8回 人文学部の教育研究と地域社会 第9回 人間発達学部の教育研究と地域社会 第10回 大阪の経済社会文化の現状と課題 第11回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅰ 第12回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅱ 第13回 地元の保育・教育界の現状Ⅰ 第14回 地元の保育・教育界の現状Ⅱ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の後で復習としてレポートを作成することにします。 各回のレポートの評価点を合計した点数を成績とします。 ・授業への参加態度 20% ・授業内容の理解度 80%		
失格条件	欠席回数が5回をこえた場合（6回欠席すれば失格です）。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視します。毎回、授業の後で、所定の用紙に、授業のまとめ（約100字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約100字）、あわせて約200字を記し、提出してください（所要時間4時間）。提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明します。		
課題へのフィード バック	毎回提出するレポートについて、それぞれの回の担当者から、到達目標とその達成度、理解不足の部分の内容などの意見を出して頂き、その概要を最終授業日のまとめで紹介するとともに、ポータルサイトで履修者に向けて周知します。		
教科書	不使用。基本的に毎回授業資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他	特になし		
備考	この授業の第10回、第11回、第12回は自治体の管理職（住之江区長、中央区長、大阪市経済戦略局の局長）を外部講師として招き、行政責任者としての実務経験をもとに授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A02	期間	前期/後期
授業科目名	大学と社会		
英訳科目名	Soai University and Society		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	○
ディプロマ・ポリシー-3	○	ディプロマ・ポリシー-4	◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この科目には、二つの大きな目的があります。一つ目は、相愛大学はどのような大学なのかを在學生に皆さんに正しく理解していただき、相愛大学生であることの自覚をもって大学生生活を有意義に過ごしていただく一助とすることです。二つ目は、相愛大学をふくめ、日本の大学は今どのような状況にあり、どのような役割を期待されているかを社会との関係でとらえ、大学生としてどのように社会と関わるのかを、受講生一人一人に考えていただくことです。</p> <p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきました。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>そのために、まず相愛大学がどのような精神で設立され、どのような歴史をもっているのか、教育や研究、社会貢献についてどのような体制と方針で大学の使命を果たそうとしているのかを正しく理解していただく必要があります。それと同時に、今日本の社会全体はもちろん、相愛大学が位置する地元大阪府大阪市、そして中央区や住之江区の現状、地元と大学の現在の関係について認識を広めていくことが重要となります。</p> <p>この科目は、相愛大学の建学の精神と歴史、現在の教育・研究・地域貢献の具体的な現状を、大学の立場から学ぶとともに、地元地域の実情と、地元のさまざまな立場からの大学に対する見方や考え方を認識し、大学と地域とのよりよい共生や連携を進展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	相愛大学の歴史と現在および社会に果たしている役割、地域の経済・社会・文化のさまざまな現状や課題について十分に理解でき、そのことを自分で他者に対して正しく説明できるようになる。		
授業計画	第1回 授業内容と進め方の説明 第2回 相愛大学のあゆみ 第3回 日本の大学と社会 第4回 相愛大学と社会 第5回 相愛大学の研究と社会 第6回 相愛大学の社会貢献 第7回 音楽学部の教育研究と地域社会 第8回 人文学部の教育研究と地域社会 第9回 人間発達学部の教育研究と地域社会 第10回 大阪の経済社会文化の現状と課題 第11回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅰ 第12回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅱ 第13回 地元の保育・教育界の現状Ⅰ 第14回 地元の保育・教育界の現状Ⅱ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の後で復習としてレポートを作成することにします。 各回のレポートの評価点を合計した点数を成績とします。 ・授業への参加態度 20% ・授業内容の理解度 80%		
失格条件	欠席回数が5回をこえた場合（6回欠席すれば失格です）。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視します。毎回、授業の後で、所定の用紙に、授業のまとめ（約100字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約100字）、あわせて約200字を記し、提出してください（所要時間4時間）。提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明します。		
課題へのフィード バック	毎回提出するレポートについて、それぞれの回の担当者から、到達目標とその達成度、理解不足の部分の内容などの意見を出して頂き、その概要を最終授業日のまとめで紹介するとともに、ポータルサイトで履修者に向けて周知します。		
教科書	不使用。基本的に毎回授業資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他	特になし		
備考	この授業の第10回、第11回、第12回は自治体の管理職（住之江区長、中央区長、大阪市経済戦略局の局長）を外務講師として招き、行政責任者としての実務経験をもとに授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期															
授業科目名	大阪学入門																	
英訳科目名	Introduction to Osaka Studies																	
担当教員名	千葉 真也、前垣 和義																	
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2																
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4																
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6																
授業概要・ポイント	<p>前垣は主に現代の大阪についてお話しします。今やカレーライスは国民食ですが、その歴史に、大阪企業が果たした役割をご存じですか。授業は、このように身近なものをテーマに取り上げ、大阪の視点から興味深く分析を図っていきます。(前垣)</p> <p>千葉は古代から江戸時代までの大阪についてお話しします。大阪の歴史とその背景となる地理的条件について基礎知識を身につけましょう。(千葉)</p> <p>江戸時代の大阪の生んだ作家・文人(西鶴、近松、契沖、秋成など)は、新しい領域の開拓者であり第一人者でした。キーワードは新しさです。(千葉)</p>																	
到達目標	<p>大阪という地域を多様な視点から考察することができる。</p> <p>大阪について自分の言葉で表現できる。</p>																	
授業計画	<p>第1回 大阪の地理的条件(千葉)</p> <p>第2回 「コンビニ」で出会える食の大阪学(前垣)</p> <p>第3回 『広辞苑』から見えてくる東西文化比較(前垣)</p> <p>第4回 「カレーライス」から大阪のビジネスを考える(前垣)</p> <p>第5回 「大阪のおばちゃん」から考察する大阪経済学(前垣)</p> <p>第6回 「大阪の地名」から、ことば、文化、歴史を探る(前垣)</p> <p>第7回 クイズで読み解く、「水都大阪」(前垣)</p> <p>第8回 「大阪のしゃれ」考察&amp;まとめ(前垣)</p> <p>第9回 大阪の歴史(1)―古代～中世(千葉)</p> <p>第10回 大阪の歴史(2)―近世～現代(千葉)</p> <p>第11回 井原西鶴(千葉)</p> <p>第12回 近松門左衛門(千葉)</p> <p>第13回 契沖(千葉)</p> <p>第14回 上田秋成(千葉)</p> <p>第15回 与謝蕪村(千葉)</p>																	
評価方法 (合計100%)	<p>二人の担当者の評価を平均して算出します。</p> <p>前垣 授業への参加意欲度、レポート、課題などによって評価します。</p> <table border="1"> <tr> <td>評価比率</td> <td>授業への参加態度、意欲度(授業後提出のコメントを含む)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>課題</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>千葉 授業への参加態度と小テストによって評価します。</p> <table border="1"> <tr> <td>評価比率</td> <td>授業への参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小テスト</td> <td>60%</td> </tr> </table>			評価比率	授業への参加態度、意欲度(授業後提出のコメントを含む)	30%		レポート	50%		課題	20%	評価比率	授業への参加態度	40%		小テスト	60%
評価比率	授業への参加態度、意欲度(授業後提出のコメントを含む)	30%																
	レポート	50%																
	課題	20%																
評価比率	授業への参加態度	40%																
	小テスト	60%																
失格条件	なし																	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・次の授業のテーマを捉え、関連情報を探し、家族や友人等と、ディスカッション等を重ねる。(予習時間 1時間)</p> <p>・授業中に配布されたプリントをもとに参考文献や関連するサイトを調べ、小テストやレポートの準備をすること。(3時間)</p>																	
課題へのフィードバック	<p>レポート、課題、授業後のコメントに関しては、提出物受領後、全体に向けコメントします。ポータルサイトを使う場合もあります。(前垣)</p> <p>小テストについては、原則的に実施した次の授業の時に全体に向けてコメントします。また個々の答えは採点后、できるだけ速やかに返却します。(千葉)</p>																	
教科書	プリントを使用します。																	
著者名																		
出版社																		
参考書																		
その他																		
備考																		
科目生への開講	なし																	

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	まちづくり入門		
英訳科目名	Introduction to Community Building		
担当教員名	岡田 裕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきました。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>それでは、私たちが生まれ育ってきた地域社会、私たちが学んでいる相愛大学が位置する地域社会は現在どのような姿をしていて、その姿の中で私たちはこれからどのように生活していくのでしょうか。そのような疑問を解決していくためのとっかかりとして「幼老共生」について考え、「人口減少社会」・「まちづくり」、さらに「ライフサイクル」という3つの視点について学習します。そしてこれら3つの視点を持って私たちが生まれ育ってきた地域社会、私たちが学んでいる相愛大学が位置する地域社会の姿を見つめ直します。そして自分自身が地域社会の中でこれからどのように生きて行こうとしているのかを仲間とのグループワークやディスカッションを通してより明確にしていきたいと考えています。</p> <p>この科目は、地域を眺め自分の地域生活を見つめ直すことを通して、大学と地域と自分とのよりよい共生や連携を発展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	地域を「コミュニティ」「まちづくり」という視点から眺め、さらに「ライフサイクル」という視点でもって今後の自分の生き方と地域とのかかわり方について他者に対して自信を持って説明できるようになる。		
授業計画	<p>第1回 授業内容と進め方の説明</p> <p>第2回 「人口減少社会」が意味するもの①</p> <p>第3回 「人口減少社会」が意味するもの②(グループワーク中心)</p> <p>第4回 「人口減少社会」が意味するもの③ (プレゼン制作中心)</p> <p>第5回 「人口減少社会」が意味するものについてのグループワークとディスカッション</p> <p>第6回 幼老共生と「ライフサイクル」の意味するもの①</p> <p>第7回 幼老共生と「ライフサイクル」の意味するもの②(グループワーク中心)</p> <p>第8回 幼老共生と「ライフサイクル」の意味するもの③ (プレゼン制作中心)</p> <p>第9回 「ライフサイクル」についてのグループワークとディスカッション</p> <p>第10回 「まちづくり」が意味するもの①</p> <p>第11回 「まちづくり」が意味するもの②(グループワーク中心)</p> <p>第12回 「まちづくり」が意味するもの③ (プレゼン制作中心)</p> <p>第13回 「まちづくり」についてのグループワークとディスカッション</p> <p>第14回 「今後の自分と地域とのかかわり方」についてのプレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への積極的参加 30%</p> <p>2回のプレゼン及びレポート 20%</p> <p>最終プレゼン及び最終レポート 50%</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2を超えない者(遅刻3回で欠席1回とカウントする)</p> <p>レポートを1つでも未提出の者 (レポートはすべて提出しないと失格となる)</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>この授業は、授業中のグループワークとディスカッションを重視します。欠席が続くと授業についていけなくなります。ですからクラスの中に友人(学習ペア)を作っておいて、もし欠席した時には授業中にどんなグループワークしたか、また次回までに個人作業として準備しておくべきことは何かを相互に教え合って、欠席した時間分を必ず自分で補習しておきましょう。(最初の授業オリエンテーションで学習ペアづくりをします)</p> <p>1回の授業(2時間)に予習・復習の時間を4時間充てましょう。</p>		
課題へのフィードバック	課題やプレゼンに対して、学生同士で相互評価したり、教員がコメントする。		
教科書	使用しません。ただ内容によってプリントを配布することがあります。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A01	期間	前期/後期
授業科目名	キャリアデザイン論/キャリアデザイン		
英訳科目名	Career Design Theory/Career Design		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この講義は、建学の精神を在学生活の中で行動によって表現し、いずれ社会に出て活躍する「プロフェッショナル」のフィールドでも踏襲して実践する人物になるための要素を体系的に学びます。講義形式の授業の中に、教員と学生または学生同士のコミュニケーションなどを取り入れ、社会との関わりを強く意識します。		
到達目標	周囲に対する働きかけを行えること いろいろなコミュニケーションを実践できること 教養を得る人格を備えること 思考と洞察の能力を高めること これらの素養を通して、卒業後の進路（働くフィールド）を設計すること		
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 変化について -変化をとらえる、変化のあとの世界を描く 第3回 洞察について -物事を見極める、複眼で考える 第4回 コミュニケーションについて -優れたコミュニケーション 第5回 自分の魅力について -自分自身、人間的魅力 第6回 将来を考えることについて* -ディスカッション（全体） 第7回 リーダーシップについて -スタイル、役目、課題など 第8回 決断について -情報、知識 第9回 ネットワーク・人脈について -仕事、人物、接点、他者 第10回 モラル・ルールについて -道徳、正義 第11回 現場感覚について -情報、アイデア、理論と実践 第12回 これからの仕事について* -ディスカッション（全体） 第13回 教養について -学力、学業、語学 第14回 私の役目について -将来のフィールドとは 第15回 周囲と他者への関わり -プロフェッショナルとして		
評価方法 (合計100%)	本授業の意義を理解し、授業への参加態度、授業内課題・レポート、発表等を含め、積極的に取り組んだかを総合的に評価します。具体的な評価割合は以下のとおりです。 1. 授業内パフォーマンス評価（コミュニケーション、課題、発言、リアクションなど） 50% 2. レポート評価（レポート作成への取組み姿勢や文章力など） 50%		
失格条件	1. 欠席5回以上は失格とします。 2. 30分超の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1. 各回のテーマについて理解を深め、自身の将来設計に役立てること。課題について調べること。（1時間） 2. 自分が社会とどのように関わっていくのかという視点を持つために、世の中のトピックや身の回りの生活環境から情報を常にインプットしておくこと。（1時間）		
課題へのフィードバック	・リアクションペーパーの返却 ・リアクションペーパーに関するフィードバックやコミュニケーション ・質疑に対する受講者シェア型の応答など		
教科書	指定する教科書はありません。板書などに必要なノートやファイルは各自準備してください。		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、授業内で指示します。また、ポータルで公開する場合がありますので、常にアクセスできるようにしておいてください。		
その他	ポータルによる教材配信をする場合があります。ポータルへのアクセスが常にできる状態にしておいてください。		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A01	期間	前期
授業科目名	キャリアデザイン論(子)/キャリアデザイン(子)		
英訳科目名	Career Design Theory/Career Design		
担当教員名	直島 正樹、木村 久男、中井 清津子、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	子どもを支援する専門職である保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をめざすにあたり、基本的な知識を身につけ、感性を養う。子ども発達学科での4年間の学びの第一段階として、将来の進路選択について考える契機として欲しい。		
到達目標	①保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の仕事・役割に関する基本的な知識を習得できる。 ②将来の進路選択のために必要な基本的知識を身につけ、今後の学びの姿勢についての考えを深めることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業の進め方・留意点・評価方法等 第2回 子どもと自然①：相愛大学の自然環境を活用した学習（概要） 第3回 子どもと自然②：相愛大学の自然環境を体験 第4回 子どもと自然③：自然環境を活用した学習に関するまとめ 第5回 分野別学習①（幼稚園）：幼稚園教諭の仕事・資質について 第6回 分野別学習②（保育所）：保育所における保育士の仕事・資質について 第7回 分野別学習③（施設）：施設における保育士の仕事・資質について 第8回 分野別学習④（小学校）：小学校教諭の仕事・資質について 第9回 分野別学習⑤：分野別学習のまとめ 第10回 今後の現場実習に向けて①：実習について（概要・目的） 第11回 今後の現場実習に向けて②：書類作成について 第12回 今後の現場実習に向けて③：実習先の理解（実習先別） 第13回 今後の現場実習に向けて④：実習記録について（文章作成上の基本的事項） 第14回 今後の現場実習に向けて⑤：実習記録について（実習先別） 第15回 まとめ（半期の振り返り）		
評価方法 (合計100%)	受講状況【積極的参加、マナー等】40% 課題【授業内課題等】60%		
失格条件	以下、2つのいずれかにあてはまる場合、失格とする。 ①出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合 *20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ②課題等が指定通りに提出できなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内で学んだ内容および関連するものについて、自身で積極的に調べ、意見をまとめておくこと（予習時間：2時間・復習時間：2時間）。		
課題へのフィード バック	・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。 ・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。		
教科書	①『保育所保育指針解説』（厚生労働省） ②『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） ③『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） *その他、必要に応じてプリント類を配布する。		
著者名	①厚生労働省②文部科学省③内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①②③すべてフレーベル館		
参考書	適宜紹介する。		
その他	①私語等は謹んで意欲的に授業に参加すること。授業態度等の改善が見られない場合、単位認定を行わない場合もある。 ②今後の現場実習に向けての基本的な学習も行う。1年次開講科目（集中講義）である「保育・教育実践学習」も必ず履修すること。 ③指定したテキストは、他の授業でも使用するため、必ず購入すること。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	キャリアデザイン演習		
英訳科目名	Career Design Practices		
担当教員名	碓 ともみ		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	社会で大切な「社会人基礎力」を養い、個々人が「なぜ働くのか、どう生きていくのか」を自立的にキャリア形成が出来る様になることを目標とする。自己分析で自分の強みを把握し自己理解を探索し、計画的に将来に向けた準備をする。また、他者との協働作業から人との関わりを学び考えていく。更に、労働市場や雇用形態を学び、職業理解を深めていく。		
到達目標	自立的・主体的にキャリアつくり上げていくことを学ぶ。 単に個々人やグループで考えるだけでなく、パフォーマンスを組み入れ協働意識を高めていくことで、自己理解と共に他者理解を深めていくことのできる。 また、社会に出るためのビジネスマナーを体得できる。		
授業計画	第1回 プロローグ キャリアデザインとは何か 第2回 社会人基礎力 第3回 企業のしくみ（大企業・中小企業・ベンチャー企業） 第4回 現在の労働市場・雇用形態（職業理解） 第5回 働く意義 第6回 自己理解（自分の強みを知ろう） 第7回 他者理解（他者の考えを知る） 第8回 モチベーション論とリーダーシップ論 第9回 ビジネスマナー（丁寧な挨拶、日本語、一般教養） 第10回 多様な働き方（ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ） 第11回 キャリア理論（計画された偶発性） 第12回 グループワーク①（ケースから学ぶ課題解決型学習） 第13回 キャリアアンカー 第14回 キャリアプランニング（アクションプランをつくる） 第15回 理解度確認チェックとまとめ		
評価方法 (合計100%)	理解度(40%) 授業の参加態度 (20%) 中間レポート (20%) グループワーク・プレゼンテーション(20%) 総合的に判断します。		
失格条件	1.全授業の3分の1以上の欠席(4回まで) 2.30分超の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席と考える。（早退も遅刻と同様） 3..評価基準の割合が単位認定割合に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業で発言やコメントを求めることがあります。新聞などで労働市場に関心を持って生活してください。 また、講義中に取り上げる項目に対して、自分の考えを発表できるようにまとめておくこと。 1.課題のレポートへの事前準備（予習時間 3時間） 2.グループワークでの課題に対しても学習（予習・復習時間 3時間） 3.理解度確認テストのための学習（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	・授業理解度や課題のフィードバックは、授業中もしくはポータルサイトを使用して全体にコメントします。		
教科書	特に使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	「受かる」就活女子レッスン 碓ともみ 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0844-3		
その他	1.ワーク、発表には積極的に参加すること（ワークはグループごとに評価）。 2.ワークなど指示以外の私語・携帯電話使用 厳禁。 3.アクティブラーニング実施。 4.中間レポートなどの提出期日は厳守。 5.授業の流れは1回目に説明。必要に応じプリントを配布します。 6.理解度テストは参考書からも出題予定です。		
備考	キャリアコンサルタントとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	インターンシップ実践		
英訳科目名	Internship Practice		
担当教員名	碓 ともみ		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	満足いく就職をするためにインターンシップ（就業体験）を経験しておくことは、「働く意義」や「志望企業」を明確にするものとして有意義である。インターンシップの必要性、業界研究、エントリーシートの書き方、ビジネスマナーまで幅広く知ることができ、グループワークやアクティブラーニングを通して、インターンシップに行く前の準備に役立つ実践的な授業を展開する。		
到達目標	インターンシップを応募する前に意義を知り、準備をしていくことで、自信を持って志望企業先に応募することができ、その後の自律的な就職活動を円滑に進めていくための礎となる。また、自己表現力を磨きをかけ、社会人としての振る舞い（ビジネスマナー）を学ぶことができる。		
授業計画	第1回 インターンシップの目的と必要性 第2回 組織と個人（社会との関わり） 第3回 業界・業種を知る（情報収集力） 第4回 インターンシップへの応募書類 第5回 エントリーシートの書き方 第6回 自己表現力①（自己PR） 第7回 自己表現力②（志望動機） 第8回 企業が求める人材 第9回 採用管理(面接を知る) 第10回 ビジネスマナー（服装・身だしなみ・あいさつ） 第11回 ビジネスマナー（会話術、自己紹介） 第12回 ビジネスマナー（会社でのマナー） 第13回 ビジネスマナー（丁寧な日本語） 第14回 インターンシップ計画書 第15回 まとめと総括		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% グループワーク・発表 20% 中間レポート 20% 課題レポート 20% インターンシップ計画書 20%		
失格条件	1.全授業の3分の1以上の欠席(4回まで) 2.30分超の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席と考える。（早退も遅刻と同様） 3.評価基準の割合が単位認定割合に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	志望する企業をホームページなどで情報収集をすること（90分） 参考書を予習として事前に目を通しておくこと。（90分） 自己の経験を棚卸して自己理解をしておくこと。（90分）		
課題へのフィード バック	毎時の授業の振り返り、レポートなどについては、授業中もしくはポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	特に使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	「受かる」就活女子レッスン 碓ともみ 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0844-3		
その他	1.授業の流れは第1回目に説明します。 2.授業は基本的にパワーポイントを使用して進めていきます。 3.中間レポート・課題レポート・インターンシップ計画書の提出期限厳守。期限や形式は授業中に説明します。4.アクティブラーニング実施。 5.インターンシップは「自分で決める」「大学学生支援センター活用」などご自身で決めてください。 6.課題レポートのテーマは参考書を使用します。		
備考	キャリアコンサルタントとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング		期間	前期
授業科目名	大学生のための日本語入門		
英訳科目名	Introduction to Japanese for University Students		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、大学での学習につなげるとともに就業力に発展させるのが本クラスの目的である。新聞記事を題材として用いて、日本語の読解力と表現力を向上させ、同時に時事問題への理解を深める。また、読解の基礎となる漢字の読み書き訓練を並行して行う。		
到達目標	新聞記事の内容を理解して他の受講生と議論でき、記事内容およびそれに関する自分の意見（考え）を小レポートとしてまとめることができる。新聞記事のなかで用いられている漢字や用語の意味を調べて理解できる。漢字検定3級模擬問題で、合格ラインとなる140点を獲得できる。		
授業計画	<p>各回の授業は3部構成で行う。第1部は、漢字学習（5分間のテスト、採点、解説）。第2部は、新聞を題材とした文章の読解。記事に含まれる漢字、用語を確認し、記事内容の理解に努める。また、音読を積極的に用いる。第3部は担当教員による説明や指示および前回のレポートの提出など。</p> <p>第1回 授業の進め方などの説明および漢字検定3級模擬問題を用いた到達度の測定。  第2～5回 新聞記事を用いた授業の展開の仕方の練習。担当教員が選んだ最近の記事を用いて、記事の読解、用語の理解、記事内容の把握に努める。  第6～14回 学生自身の興味・関心に基づいて、グループで新聞記事を選び、学習と発表を行う。  記事はなるべく複数準備し、どの記事を用いるかについて担当教員と相談する。準備や発表の方法についてはグループ内でよく相談する。必要に応じて数種類の新聞記事を比較してみる。  第15回 小テストを行い、授業中に学習した漢字や用語などがどれくらい身についているかを確認する。  また、漢字検定模擬問題を用いて到達度の測定を行い、どれくらい漢字力が伸びたかを見る。</p>		
評価方法 (合計100%)	漢字小テスト	30%	
	小レポート	40%	
	グループ発表	30%	
失格条件	欠席5回で失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について  毎回、授業の冒頭に小テストを行うので、事前に（家または学校での空き時間に）該当する回の問題を全問解いて、解答と照らしあわせて採点し、間違ったところの正解を確認する（予習時間120分）。</p> <p>復習について  大事なところに線を引きながら、当日の授業で用いられた記事を再読し、全部理解できているかどうか確認する。理解できていない点があれば調べたり、友人に教えてもらう。ポイントを整理して記事内容のまとめを書く。記事内容についての自分の考えを整理して、レポートに意見として書く。できれば一度下書きをして、見直し、それでよければ清書する（復習時間120分）。</p>		
課題へのフィードバック	漢字小テストは、実施した次の週に採点して返却する。その際、受講者全体への講評も行う。 小レポートは受領後、すみやかに評価を行い、コメントや採点表をつけて返却する。 グループ発表には、その場でコメントする。		
教科書	模試形式 漢検予想問題集 3級		
著者名	旺文社 編		
出版社	旺文社		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	大学生のための日本語入門		
英訳科目名	Introduction to Japanese for University Students		
担当教員名	沼田 潤		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、大学での学習につなげるとともに就業力に発展させるのが本クラスの目的である。新聞記事を題材として用いて、日本語の読解力と表現力を向上させ、同時に時事問題への理解を深める。また、読解の基礎となる漢字の読み書き訓練を並行して行う。		
到達目標	新聞記事の内容を理解して他の受講生と議論でき、記事内容およびそれに関する自分の意見（考え）を小レポートとしてまとめることができる。新聞記事のなかで用いられている漢字や用語の意味を調べて理解できる。漢字検定3級模擬問題で、合格ラインとなる140点を獲得できる。		
授業計画	<p>各回の授業は3部構成で行う。第1部は、漢字学習（5分間のテスト、採点、解説）。第2部は、新聞を題材とした文章の読解。記事に含まれる漢字、用語を確認し、記事内容の理解に努める。また、音読を積極的に用いる。第3部は担当教員による説明や指示および前回のレポートの提出など。</p> <p>第1回 授業の進め方などの説明および漢字検定3級模擬問題を用いた到達度の測定。</p> <p>第2～5回 新聞記事を用いた授業の展開の仕方の練習。担当教員が選んだ最近の記事を用いて、記事の読解、用語の理解、記事内容の把握に努める。</p> <p>第6～14回 学生自身の興味・関心に基づいて、グループで新聞記事を選び、学習と発表を行う。記事はなるべく複数準備し、どの記事を用いるかについて担当教員と相談する。準備や発表の方法についてはグループ内でよく相談する。必要に応じて数種類の新聞記事を比較してみる。</p> <p>第15回 小テストを行い、授業中に学習した漢字や用語などがどれくらい身についているかを確認する。また、漢字検定模擬問題を用いて到達度の測定を行い、どれくらい漢字力が伸びたかを見る。</p>		
評価方法 (合計100%)	漢字小テスト 30% 小レポート 40% グループ発表 30%		
失格条件	欠席5回で失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について 毎回、授業の冒頭に小テストを行うので、事前に（家または学校での空き時間に）該当する回の問題を全問解いて、解答と照らしあわせて採点し、間違ったところの正解を確認する（予習時間120分）。</p> <p>復習について 大事などころに線を引きながら、当日の授業で用いられた記事を再読し、全部理解できているかどうか確認する。理解できていない点があれば調べたり、友人に教えてもらう。ポイントを整理して記事内容のまとめを書く。記事内容についての自分の考えを整理して、レポートに意見として書く。できれば一度下書きをして、見直し、それでよければ清書する（復習時間120分）。</p>		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	模試形式 漢検予想問題集 3級		
著者名	旺文社 編		
出版社	旺文社		
参考書			
その他	5～6人でグループを構成し、グループで記事選びと発表をしてもらうので、グループ活動がしやすいように互いに連絡できる体制をつくるのが大切。グループ分けと発表順が決まったら直ぐに一度集まり、どのような手順で準備するかを決めておくことも必要。いずれにしろ、時間的余裕をもって、3週間前ぐらいには取り組みを始めるのが賢明。		
備考			
科目生への開講	なし		

1-023

ナンバリング	期間	前期
授業科目名	大学生のための日本語入門 (留)	
英訳科目名	Introduction to Japanese for University Students	
担当教員名	千葉 真也	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、大学での学習につなげるとともに就業力に発展させるのが本クラスの目的である。新聞記事を題材として用いて、日本語の読解力を向上させ、同時に時事問題への理解を深める。また、留学生にとって最も困難な漢字のよみについてとくに丁寧な指導を行う。	
到達目標	新聞記事を正確に音読し、内容が理解できる。漢字検定4級程度の漢字が正確に読める。	
授業計画	<p>各回の授業は3部構成で行う。第1部は、漢字検定の問題集からの小テストと解説を行う。第2部は、前回は配布した新聞を用いて文章を音読させ、漢字・用語の確認、記事内容の理解を図る。第3部は、第2部で音読した記事に出てくる語句についての小テストを行う。</p> <p>第1回 漢字検定4級模擬問題を用いて到達度を測定し、授業の進行についての説明を行う。</p> <p>第2～14回 漢字検定4級程度の漢字の理解を深めさせ、さらに、授業担当者が選んだ記事をもとにして、用いられた用語や取り上げられた問題を理解させる。</p> <p>第15回 漢字検定4級模擬問題を用いて到達度を測定し、さらに、これまでの授業で学習した漢字・用語などがどれくらい身についているかを確認する。</p>	
評価方法 (合計100%)	音読	40%
	漢字検定問題集からのテスト	30%
	新聞記事の漢字のテスト	30%
失格条件	欠席5回で失格とする。	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について</p> <p>毎回の授業で小テストを行うので、問題集の該当する回の問題を全問解き、解答と照らしあわせて採点をし、正解を確認する。配布された新聞記事の漢字を確認し、難しい語句の意味を調べ、正確に音読できるように練習する (180分)。</p> <p>復習について</p> <p>授業で用いられた記事を再読し、全部理解できているかどうか確認する。理解できていない点があれば調べたり、友人に教えてもらったりして、学習した内容を定着させる (60分)。</p>	
課題へのフィードバック	小テストは採点を、原則的に次回の授業の時に返却します。また、小テスト返却時に、受講者全体に対するコメントを口頭で発表します。	
教科書	模試形式 漢検予想問題集 4級	
著者名	旺文社 編	
出版社	旺文社	
参考書		
その他	特になし	
備考		
科目生への開講	なし	

1-024

ナンバリング		期間	前期/後期
授業科目名	文章表現		
英訳科目名	Japanese Writing		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>文章を書く力を実践的に向上させることが狙いです。メールを使って、同窓会のお知らせをしたり、欠席した授業の課題を友だちに聞いたりするのも、本当は文章の力が必要です。大学で提出するレポートや企業に提出するエントリーシートは、とくに文章の力が必要です。「どんな情報をどんな順序で書けばよいか」（「この本を読んでくださるかたへ」から）を一緒に考えてゆきましょう。授業の前後、授業中に教科書の課題にしたがって、いくつかの文章を作成してもらいます。また課題をめぐっての話し合いにも積極的に参加することが望まれます。</p>		
到達目標	<p>読み手を意識した文章を書くことができる。            正確な文章を書くことができる。            文章を簡単に書くことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 はじめに            第2回 お知らせのメール            第3回 レストランのメニュー            第4回 問い合わせのメール            第5回 注意書きやサービス案内            第6回 お願いのメール            第7回 レポートや論文を書く①            第8回 レポートや論文を書く②            第9回 お店やイベントの広告            第10回 わかりやすいマニュアル            第11回 ニュースレターを作る            第12回 アンケート用紙を作る            第13回 日本語弱者のことを考えて書く            第14回 自己アピールする①            第15回 自己アピールする②</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50%            提出物50%</p>		
失格条件	欠席が3分の1を超える場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、課題が与えられます。与えられた課題に対して、自分自身で考えて文章を書いてもらいます（予習時間 2時間）            また、授業の後、授業をふまえて読み手を念頭に置いた文章を作成してもらいます（復習時間 2時間）</p>		
課題へのフィードバック	提出された課題は、できるだけ速やかに一つ一つに採点表をつけて返却します。採点表によって自分の長所や短所がわかるようにしています。		
教科書	日本語を書くトレーニング 第2版		
著者名	野田尚史・森口稔		
出版社	ひつじ書房		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

1-025

ナンバリング	CC200A03	期間	前期
授業科目名	世界の文学/文学概論		
英訳科目名	World Literature/Introduction to Literature		
担当教員名	山下 昇		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	さまざま国や地方の文学をなるべく多く取り上げて、その特徴について考える。また代表的な作品を通して人間や社会について考える。世界文学の代表的なものとともに、なるべく現代的なものも取り上げることによって、「今を生きる私たち」に栄養となり、問題提起となる授業を目指す。		
到達目標	世界のさまざまな国や地方の文学について広い知識を身に付けることができる。 実際に作品を読み、文学作品の読み方を習得することができる。 あらすじをまとめたり、意見を述べて、レポートを書けるようになる。		
授業計画	第1回 世界の文学について 第2回 日本の文学 大江健三郎を中心に 第3回 アジアの文学1 韓国・朝鮮の文学 第4回 アジアの文学2 中国 莫言を中心に 第5回 アジアの文学3 ベトナム バオ・ニンを中心に 第6回 アジアの文学4 インドの文学 第7回 アフリカの文学 チヌア・アチェベを中心に 第8回 中東・アラブの文学 ガッサン・カナファアーニを中心に 第9回 ヨーロッパの文学1 フランス アルベール・カミュを中心に 第10回 ヨーロッパの文学2 ドイツ フランツ・カフカを中心に 第11回 ヨーロッパの文学3 ロシア ドストエフスキーを中心に 第12回 ヨーロッパの文学4 イギリス シェークスピアを中心に 第13回 カリブの文学 マリーズ・コンデを中心に 第14回 ラテンアメリカの文学 ガルシア・マルケスを中心に 第15回 アメリカの文学 ウィリアム・フォークナーを中心に		
評価方法 (合計100%)	ワーク（毎回の授業コメント） 30% レポート(2回) 70%		
失格条件	5回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	その時間に取り上げる作品を読んでくる。(3時間) その日の授業で学習したことを整理する。(1時間)		
課題へのフィード バック	前回授業へのコメントのを講義冒頭で紹介し、疑問などに答える。 レポートの特徴的な点を講義で紹介し、受講生全体で共有する。 不十分なレポート等は難点を指摘して、再提出させる。		
教科書	使用しない（プリント配布）		
著者名			
出版社			
参考書	宮下志朗、小野正嗣編「世界文学への招待」NHK出版		
その他			
備考	特になし		
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC200A05	期間	前期
授業科目名	世界の歴史/歴史学概論		
英訳科目名	World History/Introduction to History		
担当教員名	岡本 託		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>近現代ヨーロッパ（フランス）の歴史をさまざまなトピックに分けて学んでいきます。現在、EUの主要国であるフランスは、教育、家族、宗教、移民、言語、政治において多様な問題を抱えています。しかし、これらの問題は現代に突然発生したものではなく、その起源と本質を知るためには19世紀にまで遡らなければなりません。そこで、本講義では、これらの問題が19世紀から現代へと、どのように受け継がれていったのかを考えていきます。</p> <p>また、ヨーロッパの事例だけではなく、日本の歴史との比較と関連性の解明も随時おこなっていきます。そのことにより、ヨーロッパの歴史と日本の歴史において異なる点と共通する点とを明らかにしながら、近現代の歴史についてグローバルに学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>1.外国の歴史を知ることで、時間と空間の双方で自分の立ち位置を認識できる能力を養います。それは、自分が、過去から現在に至る時間の流れの中で生きている一個人であることを知り、そして、世界の中で生きる一個人であることを知ることです。これらの認識を深めることで、歴史と世界の中で、一個人として自立した人間になる能力を養います。同時に、日本（＝自分）とは異なる国の価値観や社会的・文化的背景を理解することで、グローバルな価値観を身につけることを目指します。</p> <p>2.各項目に対して自分なりの意見をもてるようにします。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：どのようにすれば歴史を正確に理解できるのか 外国の歴史を知ることによどのような意味があるのか</p> <p>第2回 宗教の歴史：政教分離とは何か／現在の宗教問題との関わりとは</p> <p>第3回 少子化と移民の歴史：200年前からの少子化国フランス／移民の統合</p> <p>第4回 ジェンダーの歴史：女性の就業／子育て／議会への女性の進出</p> <p>第5回 社会福祉の歴史：貧困救済の歴史／国家権力の介入</p> <p>第6回 スポーツの歴史：娯楽としてのスポーツ／国民的アイデンティティとしてのスポーツ</p> <p>第7回 教育の歴史：十字架（教会）から三色旗（公教育）へ／ナポレオンがつくった近代的大学</p> <p>第8回 言語政策の歴史：近代「フランス語」の誕生とグローバリズムの中の地方言語</p> <p>第9回 近代議会と民衆の政治参加の歴史：万人の代表となるまで／なぜ選挙に行くべきなのか</p> <p>第10回 音楽の歴史と近代社会：音楽の歴史からみる19世紀の社会</p> <p>第11回 軍隊と社会の歴史①：国民とは？国家とは？／科学技術が社会に与えた影響</p> <p>第12回 軍隊と社会の歴史②：江戸のナポレオン伝説／日本の近代軍隊制度と国際社会</p> <p>第13回 戦争と社会の歴史①：世界初の総力戦（第一次世界大戦）の衝撃／ 兵庫県青野ヶ原捕虜収容所の記憶</p> <p>第14回 戦争と社会の歴史②：新たな総力戦（第二次世界大戦）の勃発と展開</p> <p>第15回 植民地の歴史：フランス植民地帝国とその後／異文明間の反発と交流</p> <p>なお、学生の理解度や授業の進行状況により、若干内容を変更することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.コメントペーパーの作成30% (毎回の授業終了時に感想や質問などを記入してもらいます。担当教員は次回授業時の冒頭にそれらの質問に答えます。)</p> <p>2.授業への参加態度20% (担当教員の質問に対する積極性)</p> <p>3.試験50%</p>		
失格条件	全授業の3分の1を超えて欠席した場合、あるいは学期末筆記試験を受けなかった場合には原則として単位認定いたしません。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・歴史上の出来事を年代順に説明していくスタイルの授業ではありません。また、授業で取り上げるテーマは、現代を生きるみなさんの日常に関係する項目も多くあり、自らとそれらの項目との関係性を常に意識しながら受講してください。</p> <p>授業の際に示す参考文献などを中心に、フランスの文化・歴史に関する文献を読んでください。さらに、授業で取り上げるテーマに対して、自分なりの意見を考えてみてください。</p> <p>・復習及び授業ノートの整理（復習時間 1時間） ・授業中に紹介した参考文献を読むこと（復習時間 2時間）</p>		
課題へのフィードバック	毎講義時に作成されるコメントペーパーを利用し、受講生の疑問・感想に対して担当教員が回答をおこなう。		
教科書	適宜プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	世界の地理		
英訳科目名	World Geography		
担当教員名	関口 靖之		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	地理学は、地表面にみられる様々な現象を観察・検討し、地域の特性を解明する。自然環境や人間の活動で形成された文化が相互関連して地域に及ぼした影響を検討してその特性を解明する。授業では地理学の基礎的な内容を確認した後に、世界各地の自然環境と主要都市を中心に地域の特性や課題を検討する。受講者の質問は歓迎する。また、シラバスはよく読むこと。		
到達目標	地理の基礎的な内容を理解すること、各地の様子を描いた地図を適切に使用する能力を養うことができる。世界各地の概要を理解し、地域の特性について観察と判断する視点を養うことができる。世界各地の特徴を自然環境と主要都市の確認や検討することから、地理学的な理解が進み、今後の課題についても検討できる。		
授業計画	第1回 地理学の概要 第2回 世界の地域区分 第3回 ヨーロッパの自然環境 第4回 ヨーロッパの主要都市 第5回 アジアの自然環境 第6回 アジアの主要都市 第7回 アフリカの自然環境 第8回 アフリカの主要都市 第9回 北アメリカの自然環境 第10回 北アメリカの主要都市 第11回 南アメリカの自然環境 第12回 南アメリカの主要都市 第13回 オセアニアの自然環境 第14回 オセアニアの主要都市 第15回 まとめ、学習成果の確認		
評価方法 (合計100%)	試験70%、授業中課題30%で総合的に評価する。		
失格条件	全授業を3回以上欠席した場合 最終授業を欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各回授業に関する地図や文献を探し、それらに目を通す努力が必要。(60分) 各回授業で学習した事象や地域の特性について整理するとともに、身近に観察できる地域との比較検討をして、理解を深めること。(60分)		
課題へのフィード バック	授業中課題は、基本的に次回の授業で解説する。 試験の概要は試験終了後に掲示する予定。		
教科書	使用せず、ほぼ毎回資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	各種地図・地図帳を授業に持参することが望ましい。 その他の参考図書は授業中に紹介するが、各自で探す努力を求める。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A06	期間	前期
授業科目名	世界の思想/倫理学概論		
英訳科目名	Modern Thoughts of the World/Introduction to Ethics		
担当教員名	田中 美子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「人間はいかに生きるべきか」という古くて新しい問題を考えます。「何のために働くのか」や「中絶の是非」など、身近なテーマから入り、哲学的な議論へと考えを深めていきます。講義が中心になりますが、みなさんが授業中に議論したり、自分の考えを文章にまとめたりできるようなワークも取り入れたいと思います。		
到達目標	社会生活のなかで生じる身近な問題に対して、深いレベル（「人間はいかに生きるべきか」という哲学的なレベル）から、捉え直せるようになる。		
授業計画	第1回 事実判断と価値判断 — 倫理学で学ぶこと 第2回 いつか死ぬのに、なぜ生きねばならないの？ — ハイデガーの実存思想 第3回 これが人生か、ではもう一度！ — ニーチェの生の哲学 第4回 生きる目的の決まっている人生は楽か？ — サルトルの実存思想 第5回 女の子は女装して女になる！？ — ジェンダー論（ボーヴォワールの思想） 第6回 なぜか嫌いな人、なぜか魅かれる人 — 無意識の心理学（フロイトとユングの思想） 第7回 いい男／女がない！ — 鷲田清一の恋愛論 第8回 中間まとめ、ディスカッション 第9回 儲けてなんぼ？ — ビジネス倫理学 第10回 下心のある善行と良心にもとづいた善行 — カントの倫理思想 第11回 だれのための仕事 — 鷲田清一の仕事論 第12回 パターナリズムとインフォームド・コンセント — 医療倫理（1） 第13回 赤ちゃんをデザインする？ — 医療倫理（2） 第14回 安楽死と優生思想 — 医療倫理（3） 第15回 正義の味方アンパンマンの孤独 — 正義論		
評価方法 (合計100%)	授業への積極的な参加	約30%	
	学期末レポート	約70%	
失格条件	学期末レポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	自習がしやすいように、教科書を指定しました。復習として、授業で扱った範囲の教科書を読み直しましょう。 (教科書の読解にかかる復習時間 約1時間、ノートなどのまとめ直しにかかる復習時間 約1時間)		
課題へのフィード バック	毎授業で提出するリフレクションシートに対し、次の授業でコメントを返します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	南部ヤスヒロ・相原コージ『4コマ哲学教室』イースト・プレス、2006年、ISBN978-4-87257-651-1 小坂国継他編『倫理学概説』ミネルヴァ書房、2005年、ISBN978-4-623-04141-1 村松茂美他編『はじめて学ぶ西洋思想』ミネルヴァ書房、2005年、ISBN978-4-623-04152-7 岡田安弘『生命科学 ただいま講義中』金芳堂、2016年、ISBN978-4-7653-1677-4		
その他	授業内容は、多少変更することがあります。		
備考			
科目生への開講	あり		



1-029

ナンバリング	CC200A04	期間	前期/後期
授業科目名	心理学入門/心理学概論		
英訳科目名	Introduction to Psychology		
担当教員名	渡部 美穂子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	心理学には様々な方法論的立場があるが、本講義では、人間の行動や心の働きに関して、経験科学的な心理学がもたらした知見を紹介する。入門の講義なので、知覚、学習、記憶、発達、社会心理など、心の働きの広範な側面について最も基礎的な事柄を取り上げ、心に関する全般的な理解を図る。また、心という非実体的な対象を扱う上での、経験科学的心理学独特の観点や研究方法についての理解を目指す。		
到達目標	日常生活で経験する自分の心の働きや他者の行動を、心理学の知見に基づいて、科学的に理解できる。		
授業計画	第1回 心理学的研究の対象と方法 第2回 感覚 第3回 知覚 第4回 学習 第5回 記憶 第6回 発達(1) 乳幼児期、学童期 第7回 発達(2) 青年期 第8回 発達(3) 成人以降 第9回 性格 第10回 臨床 第11回 社会心理(1) 自己認知 第12回 社会心理(2) 対人認知 第13回 社会心理(3) 援助、攻撃 第14回 社会心理(4) 同調、服従 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (授業内に指示する課題への取り組みを含む) 30% 試験の評価 70%		
失格条件	試験を受験しなかった場合 出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された課題について積極的に取り組む (予習1時間)。 配布した資料や板書したものをもとに、授業内容を復習しながらノートにまとめる (復習3時間)。		
課題へのフィードバック	授業において、課題へのフィードバックを行う。		
教科書	イラストレート心理学入門		
著者名	齊藤 勇		
出版社	誠信書房		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1-030

ナンバリング	CC200A09	期間	集中
授業科目名	経済学入門/経済学概論		
英訳科目名	Introduction to Economics		
担当教員名	薛 秀娟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	経済学はマクロ経済学とミクロ経済学の2つ分野に大別される。この経済学入門では、2つ分野のうちマクロ経済の基礎的な内容について、講義して行きたい。この講義を通じて、マクロ経済学の基本経済用語及び基礎理論を習得することが授業のポイントである。		
到達目標	マクロ経済学の基本用語と基礎理論を習得し、今まで関心なく聞き流していた経済ニュースについて、理論的に考察できるようになること。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 市場における需要と供給 第3回 GDPとは何か 第4回 GDPの構成要素 第5回 消費者物価指数とインフレーション 第6回 長期の実物経済 第7回 消費関数 第8回 投資関数 第9回 乗数理論 第10回 貨幣と為替レート 第11回 貨幣の需要と供給 第12回 IS曲線とIM曲線 第13回 金融政策の効果 第14回 失業と自然失業 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% レポート 20% 試験 50%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義で紹介する参考文献を次回までに読んでおくこと。(予習時間 1時間) 講義終了時に講義の内容を復習し、課題を完成すること。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	小テストは授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A07	期間	前期/後期
授業科目名	日本国憲法		
英訳科目名	The Japanese Constitution		
担当教員名	秋元 洋祐		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>憲法の役割は、基本的人権の保障にある。人権には、公立学校における生徒の髪型の自由から、商売を始める際の営業の自由まで様々な保障が認められている。もっとも、これらの人権は、完全な自由を保障するものではなく、学校の校則や商店の開設を制限する法律によって規制を受ける。この法的な規制に対して、憲法が保障する自由は、どこまで認められるのが最も重要な問題となる。そのため、憲法を学ぶうえでの視点は、法的な規制に対峙する人権保障の限界を探ることにあるので、その限界について考えていきたい。</p> <p>憲法の人権保障と制限について、裁判例を題材にして学ぶ。平等権や表現の自由といった各人権規定について、毎回の授業で1つずつ裁判例を踏まえることで、社会での憲法の役割を明確にする。とりわけ、実際に起こった事例に触れることで、憲法を含めた法律の身近さを体感し、法学一般への興味をもってもらいたい。</p>		
到達目標	<p>①憲法の人権保障を理解できる。          ②人権を規制する法律の問題点を説明できる。          ③主要な裁判例について条文を参照しながら、解決方法を考えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 法学の基礎①：オリエンテーション、憲法と法律          第2回 法学の基礎②：社会における法の役割          第3回 法学の基礎③：法解釈や法と慣習・道徳の差異          第4回 憲法の基礎：憲法の構造と歴史的な経緯          第5回 人権の享有主体：在留期間の更新が認められなかった事案を題材に、外国人や子供の人権          第6回 幸福追求権：男子生徒の髪型で丸刈り校則を制定された事案を題材に、一般的・包括的人権          第7回 法の下での平等①：形式的平等と実質的平等の区別          第8回 法の下での平等②・到達度の確認（小テスト）：法定相続分が問題になった事案を題材に、法の下での平等          第9回 法の下での平等③：女性の再婚禁止期間が問題になった事案を題材に、平等権と合理的な区別          第10回 精神的自由①：高校受験の際に不適切な内申書を記載された事案を題材に、思想・良心の自由          第11回 精神的自由②：剣道の不受講によって退学処分を受けた事案を題材に、信教の自由          第12回 精神的自由③：少年事件の匿名報道が問題になった事案を題材に、推知報道と表現の自由          第13回 経済的自由①：既存の小売市場からの距離制限が問題になった事案を題材に、営業の自由          第14回 経済的自由②：予防接種によって健康被害を受けた事案を題材に、財産権の保障          第15回 教育権：学力テストを実力で妨害した事案を題材に、国家と国民の教育権の所在</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 70%</li> <li>・小テスト 30%</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験を受験しなかった場合</li> <li>・私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講の際には、事前に教科書の該当範囲を伝えるので、一読しておく（予習2時間）。</li> <li>・区切りごとに復習問題を配布するので、授業用プリントを参考に取り組む（復習2時間）。</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習問題で2・3回の授業内容を顧みる。</li> <li>・小テストを授業中に返却するので、間違いを復習問題で確認する。</li> </ul>		
教科書	いちばんやさしい憲法入門〔第5版〕		
著者名	初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行		
出版社	有斐閣		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
その他	毎回授業用プリントを配布する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-032

ナンバリング	CC200A07	期間	後期
授業科目名	日本国憲法		
英訳科目名	The Japanese Constitution		
担当教員名	奥野 浩之		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「憲法とは何か」から始まり、国民主権、基本的人権、平和主義、統治機構（国会・内閣・裁判所の作用）、地方自治、憲法の改正、といった憲法全体の主要事項の内容について概説する。また、それぞれの項目に関連する基本問題や主要判例を提示し、憲法理念と現実社会の動向について考察する。		
到達目標	国民主権、基本的人権、平和主義、統治機構、地方自治、憲法の改正といった憲法全体の主要事項について理解し、憲法理念と現実社会の動向について考える力を身につける。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 憲法とは何か 第3回 日本の憲法 第4回 基本的人権の原理 第5回 基本的人権の限界 第6回 包括的基本権 第7回 内容理解の確認 第8回 精神的自由権 第9回 経済的自由権 第10回 社会権 第11回 平和主義 第12回 統治機構 第13回 地方自治 第14回 憲法の改正 第15回 到達度確認		
評価方法 (合計100%)	試験 60% 授業への参加状況 20% 小テスト 20%		
失格条件	試験を受験しなかった場合 出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする) 私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業の中で出す予習課題に取り組み各回の授業に臨むこと。 ・各回配布したプリントはファイリングし、次の授業までに前回の復習をしておくこと。 ・次の授業までに、予習1時間、復習3時間を目標として学習に取り組むこと。		
課題へのフィードバック	課題に対する評価規準を明確に示すとともに、提出課題の講評を行う。		
教科書	ここから始める『憲法学習』の授業 ー児童生徒の深く豊かな学びのためにー		
著者名	長瀬・杉浦・奥野・渡辺・松森		
出版社	ミネルヴァ書房		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-033

ナンバリング	CC200A08	期間	前期/後期
授業科目名	教育原論		
英訳科目名	Pedagogics		
担当教員名	長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この科目は、教育の基礎理論に関する科目であり、教育思想の歴史を振り返り、教育の理念、目的に関してこれまで蓄積されてきた知見に関して思想史的な考察を行なうこと、及び、現在の学校教育が抱える様々な問題について、教育改革の歴史や諸外国との比較も視野に入れつつ、その背景にある社会状況の現代的変容を検討すること、の2点を通じて、子どもの発達、成長を促す営みとしての教育の意義と課題について原理的な理解を深めることを目指す。		
到達目標	人間の発達、成長を促す営みとしての教育の意義と課題について、また、その思想史的な展開について、原理的な理解を深め、自らの教育観、人間観を築いていく上での基本的な視座を得ること。		
授業計画	第1回 授業の概要と導入 第2回 教育の理念：人間の成長・発達と教育 第3回 教育的価値の歴史的多様性 第4回 教育思想の歴史：近代教育思想の誕生 第5回 教育思想の歴史：子どもの発見 第6回 教育思想の歴史：近代公教育思想の展開 第7回 社会の変容と教育格差問題 第8回 これまでの授業に対する内容理解の確認 第9回 学校教育の諸問題：教師の力量の問題 第10回 学校教育の諸問題：学力問題とゆとり教育 第11回 学校教育の諸問題：学級崩壊 第12回 学校教育の諸問題：不登校 第13回 学校教育の諸問題：いじめ 第14回 教育改革の歴史 第15回 授業のまとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	課題レポート（60%）、グループワークや発表などへの参加の積極性（40%）などを総合して評価を行う。		
失格条件	授業中に課したすべてのレポートを期限内に提出しなかった場合 担当日時の決定した発表等を正当な理由なく行なわなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業中に、その回の授業の内容に基づいて、また、次回の授業の準備として、各自自宅を書くようにと指定した課題レポート、あるいは、読むようにと指定した参考文献に関しては十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月告示） 文部科学省 高等学校学習指導要領		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-034

ナンバリング	CC200A10	期間	前期/後期
授業科目名	生活の中の数学		
英訳科目名	Mathematics in Daily Life		
担当教員名	魚住 義介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>数学の考え方や基本的構造を学びます。</p> <p>話題の中心は整数の性質です。数学の得意な学生や反対に苦手な学生でも数学に興味を持てるように話し進めたいと思います。</p>		
到達目標	<p>人々のこれまでの暮らしの中から数や数学が生まれて来たことに気付くこと。</p> <p>また、数学の考え方の合理性を学ぶこと。</p>		
授業計画	<p>第1回 数の誕生</p> <p>第2回 一対一対応</p> <p>第3回 整数の基本的な性質</p> <p>第4回 分数や小数の誕生</p> <p>第5回 合同式その1</p> <p>第6回 合同式その2</p> <p>第7回 合同式その3</p> <p>第8回 合同式その4</p> <p>第9回 合同式その5</p> <p>第10回 合同式その6</p> <p>第11回 集合論の初歩</p> <p>第12回 確率の考え方</p> <p>第13回 テストの実施</p> <p>第14回 順列・組み合わせ</p> <p>第15回 予備</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>①試験 (60%) ②小テスト (30%) ③授業への参加態度 (10%)</p> <p>試験は授業の13回目に予定しています。</p> <p>小テストは毎回の授業で実施します。</p> <p>授業への参加態度は授業中の発言や発表を評価します。</p>		
失格条件	出席回数が10回未満の場合は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	問題意識をもって授業に臨んでください。復習を十分におこなって試験に臨んで下さい。		
課題へのフィード バック	小テスト(10回または5回)実施の予定。 その返却時にそれまでの内容を再説明することで理解の充実を図りたい。		
教科書	授業で配布するプリントを使用するので教科書は指定しません。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特に無し		
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A11	期間	前期
授業科目名	科学史入門/科学史概論		
英訳科目名	Introduction to History of Science/Introduction to Science History		
担当教員名	池山 説郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>世界各地（エジプト・メソポタミア・中国・ギリシア・インド・イスラーム圏など）の昔の算数や暦の話から、面白そうなトピックを選んで紹介する。</p> <p>算数は、中学くらいの数学がわかれば十分。ただし、私たちとは異なった文明圏の、しかも大昔の人たちの考えの流れについてゆくことはそれほどやさしくはないかもしれない。問題を解きながら、「なんでそんな風に考えるの?!」という驚き、戸惑いを楽しんでいただきたいと思う。</p> <p>暦はあたりまえに使っているがそのしくみとなると予想外に難しい。いろいろな予備知識が必要になるので、それらをそのつど解説しながら進めたいと思う。</p>		
到達目標	古代文明のさまざまな算数を知ることで、複眼的な、柔軟なものの見方を身につける。		
授業計画	<p>授業の順番や時間数、確認テストの実施日は変更することがある。</p> <p>第1回 イントロダクション / 足し算・引き算・掛け算・割り算①</p> <p>第2回 足し算・引き算・掛け算・割り算②</p> <p>第3回 足し算・引き算・掛け算・割り算③</p> <p>第4回 さまざまな問題①（アハ問題、財産相続問題など）</p> <p>第5回 さまざまな問題②（盈不足算、三量法など）/ 確認テスト①</p> <p>第6回 ピュタゴラスの定理①</p> <p>第7回 ピュタゴラスの定理②</p> <p>第8回 ピュタゴラスの定理③</p> <p>第9回 円の面積①</p> <p>第10回 円の面積②/確認テスト②</p> <p>第11回 暦①（暦の種類、基礎知識、グレゴリオ暦の確認）</p> <p>第12回 暦②（グレゴリオ暦の歴史①）</p> <p>第13回 暦③（グレゴリオ暦の歴史②）</p> <p>第14回 暦④（グレゴリオ暦の歴史③）/ 確認テスト③</p> <p>第15回 暦⑤ 確認テスト③の振り返りとまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>内容の区切りごとに確認テストを行なう。勉強しないで点が取れるほど甘いテストではない。確認テスト3回の平均点で評価するので、各確認テストの配分は33%ということになる。</p> <p>1度でも、確認テストを受験しなかったものは単位不認定とする。ただし正当な理由があると担当が認めた場合はその限りではない。必ず申し出て、指示を仰ぐように。</p> <p>出席は毎回確認する。</p>		
失格条件	いい加減な受講姿勢（私語、居眠り、授業中のスマホ使用など）には、単位不認定など厳しい態度で臨む。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習として、中学で習った数学や天文の知識を、復習しておくことよい。（各回1時間（45分））</p> <p>授業中は話をよく聞き、その内容をまとめてしっかりノートを取る。授業概略や資料のプリントを配ることもあるが、それだけを見ても授業内容はわからない。また、板書をぼんやり書き写しても理解していかなくては意味がない。</p> <p>初めて聞く事柄が多いと思うので、授業内容をしっかり復習しておくこと。（各回3時間（135分））</p>		
課題へのフィードバック	確認テストは、次週に答案を返却し、正答を示しながら解説をする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業中の私語など「他の学生の邪魔になる行為」には厳しく対処する。その場で退室命令をする場合もある。留意されたい。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	生物学入門		
英訳科目名	Introduction to Biology		
担当教員名	太田 和孝		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>現在、地球上には、未知の生物も含めて約10003000万種の生物が生息しているといわれています。その生物の半分以上は皆が忌み嫌う昆虫です。昆虫に対し、嫌いだからいなくなればいいと考える人は多くいますが、もしいなくなれば地球上の半分の生物が消失します。地球上に棲む生物、それが昆虫であれ哺乳類であれ、我々と決して無関係ではありません。彼らが本当にいなくなるとどうなるか想像できますか？このような多種多様な生物は、元々地球上に存在していたわけではなく、全ては約40億年前に地球に誕生した原始生命体から進化してきたものです。皆さんは、この進化という言葉テレビ、新聞、雑誌など見聞きしたことがあるはずですが、日常で使う言葉かもしれません。しかし、殆どの人は進化の意味を勘違いしており、正しく理解できていません。本講義では、生物と我々との関わりや生物の面白い生態を通じて、生物多様性及び生物の進化について解説していきたいと考えています。</p>		
到達目標	本講義では、生物の進化について理解し、生き物を正しく見る目を養うことを目標とします。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション この講義内で学べる内容、評価方法などを説明  本講義を受講する意思のある場合、必ず出席すること</p> <p>第2回 生物多様性1 社会問題である生物多様性の減少について、現状を交えながら解説</p> <p>第3回 生物多様性2 社会問題である生物多様性の減少について、現状を交えながら解説</p> <p>第4回 生命の誕生 地球上にいかにして生命が誕生したのかについて、現在の知見をもとに解説</p> <p>第5回 分類、種概念 生物を分けるという作業の意味を説明</p> <p>第6回 多様性と進化1 ダーウィンの進化論を説明</p> <p>第7回 多様性と進化2 ダーウィンの進化論を実例とともに説明</p> <p>第8回 多様性と進化3 最新の知見を交えて進化論をさらに詳しく解説。小テスト実施</p> <p>第9回 生物間相互作用1 生き物同士の関わり合いとその進化について説明</p> <p>第10回 生物間相互作用2 生き物同士の関わり合いとその進化について説明</p> <p>第11回 生物間相互作用3 生き物同士の関わり合いとその進化について説明</p> <p>第12回 性と進化1 性とは何か、性があることでどんな進化が起こるかを説明</p> <p>第13回 性と進化2 ダーウィンの進化論を実例とともに説明</p> <p>第14回 生物の社会 生物間相互作用とは異なる着物同士のつながりについて説明</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度と参加意欲 30%</p> <p>試験 70%</p>		
失格条件	総合点(授業への参加度と参加意欲の点数+試験の点数)で評価する。 試験を受けなかったものは失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	参考図書を事前に読んでおくことは、本講義内容を理解する上で役に立ちます。また、TVで放送されている生物系ドキュメンタリーも本講義内容を理解する上で役立つでしょう。登下校、休み時間に回りにいる生物に目を向ければ、その面白い生態を見ることが出来るでしょう。そのような簡単なことから生物についての見識を深めることができます。		
課題へのフィードバック	小テスト、期末試験を実施しますが、いずれも終了後全体に向けてコメントします。 各人の希望があれば個別にコメントすることもできます。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	<p>進化のなぜを解明する、ジェリー・A・コイン 著、日経BP社</p> <p>生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系、宮下直・井鷲裕司・千葉聡著、朝倉書店</p> <p>生命の意味、桑村哲生 著、裳華房</p> <p>フィンチの嘴—ガラパゴスで起きている種の変貌、ジョナサン・ワイナー 著、ハヤカワ・ノンフィクション</p> <p>クジャクの雄はなぜ美しい? 増補改訂版、長谷川真理子 著、紀伊国屋書店</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		



1-037

ナンバリング	CC200A12	期間	後期
授業科目名	現代と医学/生活の中の医学		
英訳科目名	Medical Science and Modern Society/Medical Science in Daily Life		
担当教員名	中川 学		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	現代に生きる人間にとって、医学（医療）は生活を営む上でなくてはならない存在になっている。本講義においては、その歴史や最新のトピックス等を題材に、現代における医学について考える。		
到達目標	現代において利用されている治療手法や薬剤などは、有名、無名の先人達の大いなる努力と犠牲のもとに確立されてきたものである。 また、技術の進歩により優れた治療法が生まれる一方で、新たな問題点も生じている。 これらを理解することで、生命に対する考え方が深まる。		
授業計画	第1回 医学のあゆみ（医学史概略） 第2回 古代の医療 第3回 中世～近代の医療 第4回 代謝（栄養素の働き） 第5回 薬と臨床 第6回 精神衛生 第7回 生活習慣病①(糖尿病) 第8回 生活習慣病②（脂質異常症） 第9回 公衆衛生 第10回 出産と性 第11回 死とは（脳死、臓器移植） 第12回 医学と工学① 第13回 医学と工学② 第14回 医療崩壊 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	最終試験(約70%)を中心に評価する。 その他、授業への参加態度(約30%)等を考慮して総合的に評価する。		
失格条件	3分の1より多く欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この講義は本学オリジナルであり、各回の内容はそれぞれ独立しています。 また、教科書は使用しません。 日常生活を過ごす際にシラバスに記載されたテーマに関連するニュースなどに興味を持ち、自分なりに健康や生命について考える習慣を身につけましょう。（予習 約1時間に相当） そして各回の講義終了後は、配布資料、板書ノートなどを利用して、各自十分に復習し、自分なりの考えをまとめるように心がけてください。（復習 約2時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	適宜、プリント資料を配布します。		
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC300A03	期間	前期/後期
授業科目名	健康科学		
英訳科目名	Health Science		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	健康的な生活はわれわれの幸福の源であり、生活の質を高める基本的な条件である。そして、健康的な生活を維持するためには日常的に積極的な取り組みが必要でもある。健康科学の授業では、その方途の基礎となる栄養と健康との関係についての問題や運動・スポーツを通じて如何に健康的な生活を維持していくのかといった問題、また飲酒・喫煙が健康に及ぼす悪影響の問題、さらにリラクセーションと健康の問題などを取り上げていく。		
到達目標	健康的で質の高い生活を送るために必要な知識を獲得し、実生活において健康的な生活習慣を実践できること。		
授業計画	第1回 健康科学とは 第2回 食生活と健康(1)食生活の変遷 第3回 食生活と健康(2)現代社会における食生活上の問題点 第4回 食生活と健康(3)各栄養成分の働き 第5回 喫煙と健康(1)喫煙による害 第6回 喫煙と健康(2)禁煙への取り組み 第7回 飲酒と健康(1)飲酒による害 第8回 飲酒と健康(2)アルコール依存 第9回 リラクセーション 第10回 運動と健康(1)運動の効用 第11回 運動と健康(2)スポーツ 第12回 運動と健康(3)運動と疲労 第13回 現代社会と薬物(1)薬の人類への貢献 第14回 現代社会と薬物(2)薬の副作用と薬物乱用問題 第15回 授業のまとめ・理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験の評価 70% 授業への参加態度 (授業に出席することだけでなく、質問されたことや課題への取り組み度合いなどを含め総合的に評価します) 30%		
失格条件	次のいずれかに該当した場合は失格となる。 1. 5回を超えて欠席した場合 (20分以上遅れて来た場合は欠席に数えます。20分以内の遅刻3回で1回の欠席と数えます) 2. 試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。(予習時間 1時間) また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各用語をしっかりと理解したうえで覚えること。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	試験終了後、必要に応じて、全体に向けポータルを通じコメントします。		
教科書	適宜プリントを配布する		
著者名			
出版社			
参考書	『健康科学』 前橋明監修 明研図書		
その他	試験は、ノート、プリントなど一切持ち込み不可という条件で行う。原則、座席を指定する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A03	期間	後期
授業科目名	健康科学		
英訳科目名	Health Science		
担当教員名	奥野 暢通		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	健康的な生活はわれわれの幸福の源であり、生活の質を高める基本的な条件である。そして、健康的な生活を維持するためには積極的な取り組みが必要でもある。健康科学の授業では、その方途の基礎となる栄養と健康との関係についての問題や運動・スポーツを通じて如何に健康的な生活を維持していくのかといった問題、また飲酒・喫煙が健康に及ぼす悪影響の問題、さらにリラクセーションと健康の問題などを取り上げていく。		
到達目標	健康的で質の高い生活を送るために必要な知識を獲得し、実生活において健康的な生活習慣を実践できること。		
授業計画	第1回 健康とは・健康科学とは 第2回 食生活と健康 第3回 5大栄養素とは 第4回 各栄養素の働き (1) 糖・タンパク質 第5回 各栄養素の働き (2) 脂質・ミネラル・ビタミン 第6回 体力とは 第7回 健康と体力 第8回 健康の増進について 第9回 トレーニングの基礎概念 第10回 筋収縮のエネルギー源 第11回 有酸素運動と無酸素運動 第12回 筋と運動 第13回 アルコール・喫煙の影響 第14回 薬物・睡眠・ストレスの影響 第15回 授業のまとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と学習態度の総合評価 30% レポート 70%		
失格条件	次のいずれかに該当した場合は失格となる。 1.5回を超えて欠席した場合 (20分以上遅れて来た場合は欠席に数えます。20分以内の遅刻3回で1回の欠席と数えます) 2.レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。(予習時間 1時間) また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各用語をしっかりと理解したうえで覚えること。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	毎時間前時までの学習内容の確認を行う。		
教科書	適宜プリントを配布する		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-040

ナンバリング	CC300A04	期間	前期/後期
授業科目名	健康とスポーツ実技		
英訳科目名	Health and Physical Practices		
担当教員名	奥野 暢通		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」、「卓球」、「テニス」等の中から1種目を選択することになります。ただし、みなさんが希望により1または2種目を決定し同一種目を授業期間を通して実施します。偏りがあった場合、希望した種目になるとは限りません。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な体調の維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	技能向上の毎時間の確認		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-041

ナンバリング	CC300A04	期間	前期/後期
授業科目名	健康とスポーツ実技		
英訳科目名	Health and Physical Practices		
担当教員名	越智 祐光		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」「卓球」のいずれか1種目を開講することになります。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	実技の取り組みに対して、全体、または個別にコメントする。		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-042

ナンバリング	CC300A04	期間	後期
授業科目名	健康とスポーツ実技 (健康コース)		
英訳科目名	Health and Physical Practices		
担当教員名	越智 祐光		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」、「卓球」等を予定しています。各クラスでの実施種目はこのうち指定された2種目あるいは3種目となり、その中から1種目を選択することになります（担当者が1名のクラスの場合には1種目しか指定されません）。ただし、みなさんが希望した（選択した）種目に偏りがあった場合、希望した種目になるとは限りません。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。</p>		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、実施種目の選択  第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義  第3回 基本のサーブ  第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで）  第5回 フォアハンドでの打法  第6回 フォアハンドを中心としたラリー  第7回 バックハンドでの打法  第8回 ラリー（バックハンドも含める）  第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで）  第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して  第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫  第12回 種々のサーブ  第13回 ダブルス練習  第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫  第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業時における技能評価50%  授業への取り組み方50%</p>		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>スポーツの実施可能な維持・管理を心がけること。  授業以外での身体活動を積極的に行うこと。</p>		
課題へのフィード バック	実技の取り組みに対して、全体、または個別にコメントする。		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-043

ナンバリング	CC300B02	期間	前期
授業科目名	生涯健康とスポーツ実技		
英訳科目名	Sports and Fitness Maintenance (Physical Education)		
担当教員名	奥野 暢通		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」、「卓球」、「テニス」、「ゴルフ」等の中から1種目を選択することになります。ただし、みなさんが希望により1または2種目を決定し同一種目を授業期間を通して実施します。偏りがあった場合、希望した種目になるとは限りません。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	技能向上の毎時間の確認		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC300A02	期間	前期/後期
授業科目名	情報処理演習 A		
英訳科目名	Data Processing A		
担当教員名	岡本 久仁子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、大学における授業・研究に最低限必要なコンピュータの基礎的運用技術の習得を目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロソフトを使って文書を作成できるようになること。</li> <li>・インターネットで情報を収集できるようになること。</li> <li>・表計算ソフトを使って数値データを処理しグラフを作成できるようにすること。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを使って発表できるようになること。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション 情報機器の基本操作とタッチタイピング 第2回 Word(1) 日本語の入力 第3回 情報検索 インターネット 第4回 Word(2) 文字の編集とページ設定 第5回 Word(3) 罫線を使った表の作成 印刷 第6回 Word(4) 図形描画 第7回 Word(5) 課題A作成 (ワードの課題) 第8回 Excel(1) エクセルの基本操作 表の作成 第9回 Excel(2) 計算と関数 第10回 Excel(3) グラフ作成 印刷 第11回 Excel(4) データ統合 課題B作成 (エクセルの課題) 第12回 PowerPoint(1) パワーポイントの基本操作 第13回 PowerPoint(2) 課題C作成 (パワーポイントの課題) アウトラインの作成 第14回 PowerPoint(3) 課題C作成 (パワーポイントの課題) 仕上げと配布資料の作成 第15回 PowerPoint(4) プレゼンテーション 評価表の作成		
評価方法 (合計100%)	課題 (3回) : 60% タッチタイピング能力および練習態度 : 10% 受講態度および授業への参加態度 : 30%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業の3分の1以上欠席した者 (遅刻は3回で1欠席とします)</li> <li>・課題未提出の者</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は大学の環境 (Windows 10、Office2016) で行うので、自宅での環境について調べておくこと。 また、授業中に配布するプリント類はOffice2016を使った内容のものです。バージョンによる操作の違いなどは質問してください。 ・シラバスに基づいた機能のチェック。(予習時間1時間) ・授業で行ったことについてレポートを作成すること。(復習時間1時間)		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出されたワード課題・エクセル課題については、提出された印刷物にコメントをつけて個別に返却します。</li> <li>・パワーポイントの課題については、総評として全体に対してコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用。プリントを配布。		
著者名			
出版社			
参考書	30時間でマスターOffice2016		
その他	授業を遅刻、欠席した場合は自分でその内容を学習しておくこと。 配布プリントはポータルサイトにアップしてあります。		
備考			
科目生への開講	あり		



1-045

ナンバリング	CC300A02	期間	前期/後期
授業科目名	情報処理演習 A		
英訳科目名	Data Processing A		
担当教員名	岡田 裕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、大学における授業・研究に最低限必要なコンピュータ技術の習得を目標とする。 情報機器の基本操作(Windows)、タッチタイピングの練習、インターネットでの情報収集(Internet Explorer)、レポートの作成方法(Word)、データの分析の仕方(Excel)、プレゼンテーションと資料作成(PowerPoint)などを行う。		
到達目標	大学における授業・研究に最低限必要なコンピュータリテラシーを習得し、レポート作成やゼミ発表等に役立てることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 情報機器の基本操作 第2回 Office365とOneDrive (クラウドメモリー) の利用 第3回 Word(1) 日本語の入力 第4回 Word(2) 文字の編集・ページ設定・印刷 第5回 Word(3) 表の作成・文書編集 第6回 Word(4) 課題作成 第7回 Excel(1) 基本操作・表の作成 第8回 Excel(2) 計算と関数 第9回 Excel(3) グラフ作成 第10回 Excel(4) 課題作成 第11回 PowerPoint(1) 基本操作 第12回 PowerPoint(2) プレゼンテーションの基礎知識 第13回 PowerPoint(3) 課題作成 第14回 PowerPoint(4) プレゼンテーション 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題とプレゼンテーション 70% (タッチタイピング30%を含む)		
失格条件	出席回数が3分の2を超えない者 (遅刻3回で欠席1回とカウントする) 課題を1つでも未提出の者 (課題をすべて提出しないと失格になります)		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	パソコンは慣れることが重要なので、家庭や自習室で必ず復習をしておきましょう。 またもし休んだ場合は、その日の学習内容を友人から聞いて必ず確認・習得しておきましょう。 1回の授業 (2時間) に予習・復習の時間を4時間充てましょう。		
課題へのフィード バック	課題やプレゼンに対して、学生同士で相互評価したり、教員がコメントする。		
教科書	学生のためのOffice2016&情報モラル		
著者名			
出版社	noa出版		
参考書	必要に応じて指示します		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A02	期間	前期/後期
授業科目名	情報処理演習 A		
英訳科目名	Data Processing A		
担当教員名	中島 欣哉		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能>◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>パソコンの基本的な使い方を学び、さらに、各自の興味・能力に応じて好きな課題に取り組んでもらいます。ワープロWord、表計算ソフトExcel、プレゼンソフトPowerPointやネット検索の技術について基本を学び、レポートは次の2つを作成します。</p> <p>●基本課題：ワープロ文書作成。案内状や自己紹介など、好きなものを作る。</p> <p>●応用課題：Word、Excel、PowerPoint、音楽ソフト、動画作成ソフトなど、どんなソフトを使ってもよいから、何か自由課題に取り組む。</p> <p>課題例</p> <p>◎文章や絵の作品製作。カレンダー、絵本、ミュージシャン紹介など。</p> <p>◎PowerPointでプレゼンや簡単なアニメなどを作成。</p> <p>◎動画、アニメ制作 ◎ゲーム制作 ◎プログラミング ◎ホームページ制作</p> <p>◎楽譜作成（既存曲の打ち込み、耳コピ、自作の作曲・編曲）</p> <p>◎「打ち込み」による音楽制作</p> <p>◎Excelで家計簿、カロリー計算表などを作成。</p> <p>◎アンケート調査。アンケート用紙を作って配り、データを集計・分析。</p>		
到達目標	ワープロ、表計算ソフト、プレゼンソフトやネット検索を自力で使いこなせ、さらにそれらを組み合わせて比較的長期間にわたって規模の大きな製作物を作り上げられるようになること。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、パソコンの基本操作</p> <p>第2回 ワープロの基本編集操作、タッチタイプの練習</p> <p>第3回 ワープロ文書の装飾、タッチタイプの練習</p> <p>第4回 ワープロ文書作成練習（見本通りのビジネス文書作成）</p> <p>第5回 ワープロで各自オリジナルの文書作成（基本課題）、ネットの情報収集のコツ</p> <p>第6回 基本課題の続き、ネットの情報収集の練習</p> <p>第7回 Excelによるデータ処理：基本操作、関数、データ分析</p> <p>第8回 Excelによるデータ処理：データ分析、グラフ作成</p> <p>第9回 PowerPointの基本操作、プレゼンテーション作成</p> <p>第10回 PowerPointによるプレゼンテーション作成、発表のコツ</p> <p>第11回 応用課題（各自の選んだ課題に応じて、使用するソフトの勉強、製作開始）</p> <p>第12回 応用課題（ソフトの勉強、製作続き）</p> <p>第13回 応用課題（製作続き）</p> <p>第14回 応用課題（製作続き、報告書の作成について）</p> <p>第15回 応用課題（作品の完成。報告書まとめ、または発表）</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% レポート 80%		
失格条件	6回以上欠席した者（遅刻3回で、欠席1回分にカウントします。） また、最初の3回（第1～3回）を全て欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回までに予習が必要な事項はその都度指示するので予習すること。（予習時間 1時間） その日に学んだパソコン技術の練習と、レポートの作成をすること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	授業内小課題については、適宜個別もしくは全体にコメントします。 提出物の作成は授業内に行うことが多いので、提出までに個別に何度もコメントやアドバイスを与え、修正・改善してもらい、教師・学生双方が納得したうえで提出してもらいます。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	★★★ 注意 ★★★ 文字入力やワープロの基本操作などの初歩的な事柄はすでに習得している人は、「情報処理演習B」（担当教員：中島欣哉）の方を選んでください。そちらはこの科目と似た内容ですが、初歩的な事柄は省略して、少し進んだ内容で、応用課題（自由に好きなものを作る）に多くの時間をかけてもらいます。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B01	期間	後期
授業科目名	情報処理演習B		
英訳科目名	Data Processing B		
担当教員名	岡本 久仁子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、大学における授業・研究に必要なコンピュータの発展的な運用技術の習得を目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロソフトを使って文書を作成できるようになること。</li> <li>・インターネット上のデータベースからデータをダウンロードし加工することができるようになること。</li> <li>・表計算ソフトを使って数値データを目的に合わせて処理しグラフを作成できるようにすること。</li> <li>・グラフや図表などを使ったレポートが作成できるようになること。</li> </ul>		
授業計画	第1回 Wordの基礎 ワードの基礎（復習） ページ設定・文字書式・段落書式 第2回 Wordの基礎 表の作成 第3回 Wordの基礎 図形描画 第4回 Excelの基礎 エクセルの基礎（復習） 第5回 Excelの応用 順位と絶対参照 第6回 Excelの応用 IF関数による条件判定 第7回 Excelの応用 グラフ作成 ExcelとWordの連携 第8回 Excelの応用 インターネットからのデータベース検索 第9回 Wordの応用 レポート演習（表紙・脚注など） 第10回 Wordの応用 レポート演習（長文練習） 第11回 Wordの応用 レポート演習（図・表の入ったレポートの作成） 第12回 Wordの応用 レポート演習（グラフの入ったレポートの作成） 第13回 総合練習(1) 資料検索とアウトラインの作成 第14回 総合練習(2) 最終課題レポート作成（表、グラフ、図の作成） 第15回 総合練習(3) 最終課題レポート作成（形式にのっとったレポートの作成）		
評価方法 (合計100%)	タッチタイピング能力及び練習態度10% 受講態度および授業への参加態度40% 最終課題レポート50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業の3分の1以上欠席した者（遅刻は3回で1欠席とします）</li> <li>・最終課題未提出の者</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は大学の環境（Windows10、Office2016）で行うので、自宅の環境について調べておくこと。 また授業中に使用するプリント類はOffice2016を使った内容のものになるので、バージョンによる操作の違いについては質問してください。 シラバスに基づいた機能のチェック。（予習時間1時間） 授業内容に関するレポート作成。（復習時間1時間）		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内課題については、注意点などを全体に向けてコメントします。</li> <li>・最終課題は、ポータルサイトを通じコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用。プリントを配布。		
著者名			
出版社			
参考書	30時間でマスターOffice2016		
その他	授業を遅刻、欠席した場合は自分でその内容を学習しておくこと。 配布プリントはポータルサイトにアップしてあるので参照すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B01	期間	後期
授業科目名	情報処理演習B		
英訳科目名	Data Processing B		
担当教員名	中島 欣哉		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能>◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>パソコンの基本的な使い方を学び（★注： 文字入力やワープロの基本操作などの初歩的な事柄は省略します。下の「その他」欄の注意を参照）、さらに、各自の興味・能力に応じて好きな課題に取り組んでもらいます。ワープロWord、表計算ソフトExcel、プレゼンソフトPowerPointやネット検索の技術について基本を学び、レポートは次の2つを作成します。</p> <p>●基本課題：ワープロ文書作成。案内状や自己紹介など、好きなものを作る。</p> <p>●応用課題：Word、Excel、PowerPoint、音楽ソフト、動画作成ソフトなど、どんなソフトを使ってもよいから、何か自由課題に取り組む。</p> <p>課題例</p> <p>◎文章や絵の作品製作。カレンダー、絵本、ミュージシャン紹介など。</p> <p>◎PowerPointでプレゼンや簡単なアニメなどを作成。</p> <p>◎動画、アニメ制作 ◎ゲーム制作 ◎プログラミング ◎ホームページ制作</p> <p>◎楽譜作成（既存曲の打ち込み、耳コピ、自作の作曲・編曲）</p> <p>◎「打ち込み」による音楽制作</p> <p>◎Excelで家計簿、カロリー計算表などを作成。</p> <p>◎アンケート調査。アンケート用紙を作って配り、データを集計・分析。</p>		
到達目標	ワープロ、表計算ソフト、プレゼンソフトやネット検索を自力で使いこなせ、さらにそれらを組み合わせて比較的長期間にわたって規模の大きな製作物を作り上げられるようになること。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、パソコンの操作、ワープロの操作</p> <p>第2回 ワープロで各自オリジナルの文書作成（基本課題）、ネットの情報収集のコツ</p> <p>第3回 基本課題の続き、ネットの情報収集の練習</p> <p>第4回 Excelによるデータ処理：基本操作、関数、データ分析</p> <p>第5回 Excelによるデータ処理：データ分析、グラフ作成</p> <p>第6回 PowerPointの基本操作、プレゼンテーション作成</p> <p>第7回 PowerPointによるプレゼンテーション作成、発表のコツ</p> <p>第8回 応用課題（各自の選んだ課題に応じて、使用するソフトの勉強、製作開始）</p> <p>第9回 応用課題（ソフトの勉強、製作続き）</p> <p>第10回 応用課題（製作続き）</p> <p>第11回 応用課題（製作続き、課題の経過報告）</p> <p>第12回 応用課題（製作続き、報告書の作成について）</p> <p>第13回 応用課題（製作続き）、プレゼン課題選択者の発表会</p> <p>第14回 応用課題（製作続き）、プレゼン課題選択者の発表会続き</p> <p>第15回 応用課題（作品の完成。報告書まとめ、または発表）</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% レポート 80%		
失格条件	6回以上欠席した者（遅刻3回で、欠席1回分にカウントします。） また、最初の3回（第1～3回）を全て欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回までに予習が必要な事項はその都度指示するので予習すること。（予習時間 1時間） その回に学んだパソコン技術の練習と、レポートの作成をすること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	授業内小課題については、適宜個別もしくは全体にコメントします。 提出物の作成は授業内に行うことが多いので、提出までに個別に何度もコメントやアドバイスを与え、修正・改善してもらい、教師・学生双方が納得したうえで提出してもらいます。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	★★★ 注意 ★★★ 文字入力やワープロの基本操作などの初歩的な事柄から学習したい人は、「情報処理演習A」（担当教員：中島欣哉）の方を選んでください。そちらはこの科目と似た内容ですが、初歩的な事柄から教えます。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A01	期間	後期集中
授業科目名	生涯学習概論		
英訳科目名	Lifelong Learning/Introduction to Lifelong Learning		
担当教員名	鉦 純香		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、司書課程の学習に関連して「生涯学習」という考え方を紹介し、具体的な活動を紹介しながら、理論的・実践的に考えていく。生涯学習とは、誰もが「いつでも・どこでも」、自分の人生（仕事・趣味・生活…）を充実させるために、また積極的に市民として社会に参加していくために、それぞれが興味と能力を高めていくことを意味する。授業ではこれを推進する、図書館を中心とした社会教育施設や学校、地域などの活動について、映像や資料を使って紹介しながら、背景にある考え方を理解し、実際に生涯学習に参加し、なおかつそれを支援するための情報や考え方を提供したい。		
到達目標	学習目標は次の3つである。①生涯学習概念について具体的な実践から考え、その理論を理解できる。②自らが生涯学習者として自身の学びを計画、評価できる。③図書館などの社会教育施設において、人を育てる、人の学びを支援する専門職として学び続けることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス—生涯学習とは何か 第2回 生涯学習入門① 学びを学びほぐす「unlearn」の可能性 第3回 生涯学習入門② 生涯学習の理念について—その系譜と社会的背景 第4回 生涯学習入門③ 生涯学習の「空間」—社会教育施設について（図書館を中心に） 第5回 生涯学習入門④ 生涯学習の「時間」—ライフスタイルと学習 第6回 生涯学習における学びの方法1—事例から考える 第7回 生涯学習における学びの方法2—計画と実践 第8回 生涯学習支援者の役割—司書を中心に 第9回 図書館における生涯学習1—国内の実践事例から 第10回 図書館における生涯学習2—国外の実践事例から 第11回 図書館における生涯学習3—学習支援の在り方について考える 第12回 生涯学習と学校・地域・社会 第13回 生涯学習支援と評価 第14回 生涯学習における学びを企画する 第15回 まとめ—生涯学習支援のこれから		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度及び小レポート：60% 最終レポート：40%		
失格条件	なし		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	身近な図書館・博物館・公民館の講座や取り組みについて関心を持ち、ある程度知っておくこと（予習） 授業内で紹介した参考文献等をもとに課題を考える（復習）		
課題へのフィード バック	小レポートに関しては、授業内で適宜行うが、最終レポートに関しては成績評価後コメントをつけて返却する。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜指示する		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-050

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	ボランティア論		
英訳科目名	Volunteer Theory		
担当教員名	名和 月之介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	ボランティアは、障がい者、高齢者、児童という社会福祉の分野を中心に、地域や地域を越えて、国際協力に至るまで、様々な分野への広がりを見せている。ボランティアの担い手も、一部の有志者から、企業人や一般市民にまで及んでいる。授業計画に沿って、基礎的なボランティアに関する知見を得ることによって、学生自身による自発的・主体的なボランティア活動への発展を意図して授業を進めてゆく。		
到達目標	ボランティアに関する基本的な知識の習得と活動展開への基盤を構築する。		
授業計画	第1回 ボランティアとは何か(1)ボランティアの考え方 第2回 ボランティアとは何か(2)ボランティアの目的 第3回 地域の問題とボランティア 第4回 地域福祉とボランティア 第5回 障がい者福祉におけるボランティア 第6回 障がい者の活動と参加のためのボランティア 第7回 高齢社会のボランティア 第8回 高齢者の社会参加とボランティア 第9回 児童問題とボランティア 第10回 児童養護とボランティア 第11回 地域の子育て支援とボランティア 第12回 社会貢献・募金活動とボランティア 第13回 外国人との共生社会におけるボランティア 第14回 ボランティアの新しい展開 第15回 授業のまとめ		
評価方法 (合計100%)	期末レポート50% 授業への参加態度50%		
失格条件	期末レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	配布プリントを30分～1時間読んでおくことが望ましい。		
課題へのフィード バック	レポート提出時授業において全体に向けてコメントします。		
教科書	関連プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	早瀬昇『「参加の力」が創る共生社会』ミネルヴァ書房 (ISBN978-4-623-08338-1)		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

1-051

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	ボランティア体験	
英訳科目名	Volunteer Experience	
担当教員名	名和 月之介	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	履修者自身が、ボランティア活動を計画・実践し、さらに評価・反省することによって、ボランティア活動についてPLAN-DO-SEEという方法論の習得を図る。	
到達目標	ボランティア活動に関するPLAN-DO-SEEという方法論の習得。	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回～2回 事前指導（教室で2回）</li> <li>・中間指導（教室で2回）</li> <li>・ボランティア体験活動のレポート発表提出（教室で1回）</li> </ul> なお中間指導とボランティア体験活動発表提出の日時については事前指導時に通知する。	
評価方法 (合計100%)	ボランティア体験活動のレポート(400字4枚計1600字相当)発表提出(70%) 事前・中間指導への参加態度(30%) なおボランティア体験活動は、授業がない時（平日の空き時間、日曜祝日、長期休暇等）合計18時間以上、または終日3日間以上行うこととする。	
失格条件	事前・中間指導を1回も出席しなかった場合、あるいはボランティア体験活動のレポート発表提出をしなかった場合。	
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	授業において適宜アドバイスする。	
課題へのフィード バック	レポート提出時授業において全員にコメントします。	
教科書	不使用	
著者名		
出版社		
参考書		
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1-052

ナンバリング	CC200B01	期間	前期/後期
授業科目名	人権教育		
英訳科目名	Human Rights Education		
担当教員名	葛目 巴恵子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは社会の不安定な中で、自分の存在を否定されかねない状況におかれています。子どもたちに自分を大切にできる力を育てるのが人権教育の最大のテーマです。具体的には、仲間を大切にできる力を育て、人々が誠実に生きている姿を伝え、子ども達の自尊感情を育てる教育を、現実の学校教育の場の実践から学び、人々の生きている姿から学びます。</p> <p>さらに、学校だけでなくさまざまな場面で子どもと出会い指導者となっていく皆さんの、人権感覚を高めていく授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>人権とは何かを具体的課題につなげて説明できる。</p> <p>人権教育の課題を説明できる</p> <p>学習課題である人権上のテーマについて自分の考えで述べる事が出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 シラバス アンケートをとる</p> <p>第2回 NHKスペシャルのビデオを観る</p> <p>第3回 スペシャルのいきさつ</p> <p>第4回 6年2組の子どもたち</p> <p>第5回 好きな先生、嫌いな先生について</p> <p>第6回 いじめ・体罰</p> <p>第7回 いじめの問題と子どもの人権のDVDを観る</p> <p>第8回 名前の由来を考える</p> <p>第9回 障害児教育についてのDVDを観る</p> <p>第10回 被爆者への暴言平和への願い</p> <p>第11回 中国（小皇帝の涙）を観る（DVD）</p> <p>第12回 子どもへのメッセージ七夕の願い</p> <p>第13回 子どもの問題行動</p> <p>第14回 保護者との関係</p> <p>第15回 まとめ、テスト</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、聴く姿勢、資料ノートの整理）50%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>欠席は4回まで</p> <p>試験を受けない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習プリントを配られたときはあらかじめ読んで、自分なりの考えをノートに記入しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>配布プリントは整理し、講義ごとに、自分なりの考えをまとめておくこと。（毎週1時間）</p> <p>新聞等で講座のテーマに関連すること、自分とのかかわりで問題意識を持っていることは整理しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>建前でなく本音でものを考える習慣をつけてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>今起こっている社会の出来事の中で、授業で取り上げた課題を通して、人権について考えてみる。</p> <p>毎授業の感想を書き、それぞれの意見を出し合う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		



1-053

ナンバリング	CC200B01	期間	前期
授業科目名	人権教育		
英訳科目名	Human Rights Education		
担当教員名	葛目 巴恵子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは社会の不安定な中で、自分の存在を否定されかねない状況におかれています。子どもたちに自分を大切にできる力を育てるのが人権教育の最大のテーマです。具体的には、仲間を大切にできる力を育て、人々が誠実に生きている姿を伝え、子ども達の自尊感情を育てる教育を、現実の学校教育の場の実践から学び、人々の生きている姿から学びます。</p> <p>さらに、学校だけでなくさまざまな場面で子どもと出会い指導者となっていく皆さんの、人権感覚を高めていく授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>人権とは何かを具体的課題につなげて説明できる。</p> <p>人権教育の課題を説明できる</p> <p>学習課題である人権上のテーマについて自分の考えで述べる事が出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 シラバス アンケートをとる</p> <p>第2回 NHKスペシャルのビデオを観る</p> <p>第3回 スペシャルのいきさつ</p> <p>第4回 6年2組の子どもたち</p> <p>第5回 好きな先生、嫌いな先生について</p> <p>第6回 いじめ・体罰</p> <p>第7回 いじめの問題と子どもの人権のDVDを観る</p> <p>第8回 名前の由来を考える</p> <p>第9回 障害児教育についてのDVDを観る</p> <p>第10回 被爆者への暴言平和への願い</p> <p>第11回 中国（小皇帝の涙）を観る（DVD）</p> <p>第12回 子どもへのメッセージ七夕の願い</p> <p>第13回 子どもの問題行動</p> <p>第14回 保護者との関係</p> <p>第15回 まとめ、テスト</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、聴く姿勢、資料ノートの整理）50%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>欠席は4回まで</p> <p>試験を受けない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習プリントを配られたときはあらかじめ読んで、自分なりの考えをノートに記入しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>配布プリントは整理し、講義ごとに、自分なりの考えをまとめておくこと。（毎週1時間）</p> <p>新聞等で講座のテーマに関連すること、自分とのかかわりで問題意識を持っていることは整理しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>建前でなく本音でものを考える習慣をつけてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>今起こっている社会の出来事の中で、授業で取り上げた課題を通して、人権について考えてみる。</p> <p>毎授業の感想を書き、それぞれの意見を出し合う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-054

ナンバリング	CC300C02	期間	前期
授業科目名	TOEIC対策 I A/ステップアップ英語 A		
英訳科目名	Preparation for TOEIC I A/Step-up English A (TOEIC Preparation 1)		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	TOEIC Listening & Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リスニングとリーディングの力を磨くタスクを行います。		
到達目標	TOEICスコア400以上を目指して、次の項目を達成目標とします。 1.音声変化などの発音に慣れ、聴き、音読してリスニング力を上げる 2. 語彙を増やし、英文を読んで内容をより正確に理解できる 3.文法・語法・口語表現をよりよく理解し、認識できる		
授業計画	第1回 オリエンテーション Unit 1 Traffic 現在時制 第2回 Unit 2 Weather & Events 過去時制 第3回 Unit 3 Lunchtime 進行形・完了形 第4回 Unit 4 Hotels 冠詞・代名詞 第5回 Unit 5 Health 名詞 第6回 Unit 6 A New Life 形容詞・副詞 第7回 Unit 7 Mini Test 第8回 Unit 8 Job Hunting 比較 第9回 Unit 9 Workplaces & Products 不定詞・動名詞 第10回 Unit 10 Customer Service & Office Crime 受動態・助動詞 第11回 Unit 11 Office Messages 使役動詞・知覚動詞 第12回 Unit 12 Ordering & Shipping 関係代名詞・関係副詞 第13回 Unit 13 Business Trips 接続詞・前置詞 第14回 Unit 14 Success in Business 仮定法 第15回 まとめ 達成度の確認		
評価方法 (合計100%)	出席率(10%) 授業への参加態度・内容(30%) 小テスト・提出課題(10%) 試験(50%)		
失格条件	欠席回数が5回又は5回を超えた場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は毎回テキストの1課を消化していきます。前もって問題に目を通し、解らない語や語句に印をつけ、辞書で意味を確認する形の予習をして下さい。(1時間～2時間) 授業後に間違った箇所は重点的に復習をしましょう。又テキストのリスニング問題はCDが添付されているので、リスニング問題の復習もしっかり続けて下さい。(2時間～3時間)		
課題へのフィードバック	提出された課題や小テストは次回の授業でコメントをつけ個別に返却します。		
教科書	Totally TOEIC L & R Test: Challenge 400 TOEICテスト：チャレンジ400		
著者名	Terry O'Brien/三原 京/塩谷 直史/木村 博是		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他	第1回目の授業からテキストを使用します。遅刻・欠席をしないで、筆記用具も忘れず持参すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-055

ナンバリング	CC300C03	期間	後期
授業科目名	TOEIC対策 I B/ステップアップ英語 B		
英訳科目名	Preparation for TOEIC I B/Step-up English B (TOEIC Preparation 2)		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	基本的な英語力の強化に努め、近年就職に役立つTOEICのスコアアップを目指す。		
到達目標	TOEICで500点以上のスコアを取得できることを目標とする。		
授業計画	第1回 オリエンテーション Unit 1 Let's One's Hair Down 名詞 第2回 Unit 2 In the Pink 前置詞 第3回 Unit 3 Let the Cat Out of the Bag 接続詞 第4回 Unit 4 Sell like Hotcakes 5文型 第5回 Unit 5 Have Feet of Clay 受動態 第6回 Unit 6 It's Fishy 時制 第7回 Unit 7 No ifs, Ands or Buts 関係詞 第8回 Unit 8 Jump the Gun 不定詞 第9回 Unit 9 Eat Someone Up 動名詞 第10回 Unit 10 Have the World by the Tail 仮定法 第11回 Unit 11 Cool as a Cucumber 否定 第12回 Unit 12 Turn Purple with Rage 比較 第13回 Unit 13 Have It Made 完了形 第14回 Unit 14 Get Out from Under 助動詞 第15回 まとめと理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・内容 30% 小テスト、提出課題など 20% 試験 50%		
失格条件	5回またはそれ以上の欠席を失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は毎回テキストの1単元を消化していきます。前もって問題に目を通し、解らない語や語句に印をつけ、辞書で意味を確認する形の予習をして下さい。(1時間～2時間) 間違った箇所は重点的に復習をしましょう。又テキストのリスニング問題は無料でダウンロードできるので、リスニング問題の復習をしっかりと続けて下さい。(2時間～3時間)		
課題へのフィード バック	提出課題や小テストは次回の授業でコメントをつけ個別に返却します。		
教科書	TOEIC L & R Test: 500 Power Phrases 使える英語フレーズ500ではじめるTOEICテスト		
著者名	竹村 日出夫/永田 喜文/小田井 勝彦/大谷 多摩貴		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他	第1回目の授業からテキストを使用します。遅刻・欠席をしないで、筆記用具も忘れず持参すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	TOEIC対策ⅡA		
英訳科目名	Preparation for TOEICⅡA		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	近年、多くの会社や企業がTOEICの試験を社員教育の一環として推奨するようになってきた。このクラスはTOEIC対策のための問題演習を行い、会社や、企業など社会の一員として求められるであろうTOEICのスコアを目指すとともに、限られた時間内に問題を解く処理能力、またその為に必要とされる英語力を身につけることを目標とする。		
到達目標	できる限り多くのTOEICの問題に触れ、その傾向と対策を学ぶことで、450点以上を取得できることを目標とする。		
授業計画	第1回 Pre-test 第2回 Pre-test Review 第3回 Unit1 and Unit2 第4回 Unit3 and Unit4 第5回 Unit5 and Unit6 第6回 Unit7 and Unit8 第7回 Unit9 and Unit10 第8回 Unit11 and Unit 12 第9回 Unit 13 and Unit 14 第10回 Post-test 第11回 Post-test Review 第12回 演習① 第13回 演習② 第14回 演習③ 第15回 学期末試験		
評価方法 (合計100%)	試験50% 問題演習への取り組み・課題提出など30% 授業への参加態度(参加状況)20% 20分以上の遅刻は欠席とする。 3回の遅刻を1回の欠席とする。		
失格条件	学期を通じて1/3以上欠席すると失格する。 学期末試験を受けなかった場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各ユニットに入る前に不明な英単語の意味を調べておくこと。また、文法、リーディングの問題はできる範囲で解いておき、不明な単語や分からない文章などをマークしておくこと。 (予習時間 1時間) 学んだユニットのリスニングを自習用CDで聞き返し、また、シャドーイングをしておく。 間違った文法、リーディングの問題を見直すこと。ポイントになる英語表現、難しいと感じた英単語などを書き出しておくこと。(復習時間 3時間)		
課題へのフィードバック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	Power-up Practice for the TOEIC Listening and Reading Test		
著者名	Kazumichi Enokida,Satoshi Hiramoto,Simon Fraser		
出版社	Eihosha		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

1-057

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	TOEIC対策ⅡB	
英訳科目名	Preparation for TOEICⅡB	
担当教員名	相馬 沙織	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	資格英語ⅡAに続いて、後期はさらに難度の高いTOEICの問題に挑戦する。多様なシーンでの問題に触れるとともに、細かく文法・語彙の確認をする。テキスト以外にもプリントを使う。	
到達目標	前期で学んだTOEICの問題の傾向と対策を踏まえて、450点以上を取得することができる。	
授業計画	第1回 Introduction 第2回 Unit1 Food and Restaurant 第3回 Unit2 Entertainment 第4回 Unit3 Travel 第5回 Unit4 Sports & Health 第6回 Unit5 Purchasing 第7回 Unit6 Housing & Accommodations 第8回 Unit7 Office Work (1) 日常業務 第9回 Unit8 Office Work (2) クレーム処理 第10回 Unit9 Employment 第11回 Unit10 Lectures & Presentations 第12回 Unit11 Business Affairs 交渉 第13回 Unit12 Business Affairs 市場調査 第14回 Review 第15回 Final Exam (到達度確認テスト)	
評価方法 (合計100%)	試験50% 問題演習への取り組み・課題提出など30% 授業への参加態度(参加状況)20% 20分以上の遅刻は欠席とする。 3回の遅刻を1回の欠席とする。	
失格条件	学期を通じて1/3以上欠席すると失格する。 学期末試験を受けなかった場合、失格とする。	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各ユニットに入る前に不明な英単語の意味を調べておくこと。また、文法、リーディングの問題はできる範囲で解いておき、不明な単語や分からない文章などをマークしておくこと。 (予習時間 1時間) 学んだユニットのリスニングを自習用CDで聞き返し、また、シャドーイングをしておく。 間違った文法、リーディングの問題を見直すこと。ポイントになる英語表現、難しいと感じた英単語などを書き出しておくこと。(復習時間 3時間)	
課題へのフィードバック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。	
教科書	Fast Pass for the TOEIC L&R Test、Revised Edition	
著者名	Ritsuko Uenaka and Seiko Korechika	
出版社	センゲージラーニング株式会社	
参考書		
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

1-058

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. The course covers the four primary skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	To develop students' communicative English skills.		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to Units 1-10 of the textbook. There will be homework and writing assignments.</p> <p>教科書に沿って授業を進める。適宜、クイズや小テストを行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1)Class participation 授業への参加態度 30%</p> <p>2)Homework and essays 課題 50%</p> <p>3)Evaluation of achievement 到達度評価 20%</p>		
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness". Three latenesses equal one absence.</p> <p>8回の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻は1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>Students should read the text aloud at least 5 times to familiarize themselves with the wording and sentence structure of the text. They are also recommended to make notes of vocabulary that might come in use when discussing the text or answering questions.</p> <p>If there is a sentence or phrase that is difficult to understand, the student should ask the teacher. (予習1時間・復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	Reading Pass 1		
著者名	Andrew Bennett		
出版社	Nan'un-do		
参考書	University-level dictionaries		
その他	<p>The class size is limited within 20. (20名以下限定のクラス)   Students are expected to actively participate in class activities.</p> <p>If a student is absent, he/she must check with classmates as to the homework assignment and come to class prepared.</p> <p>All homework assignments must be handed in on the due date.</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

1-059

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	Alexander Morgus		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。 第1回 Introduction 第2～3回 Unit 1 第4～5回 Unit 2 第6～7回 Unit 3 第8～9回 Unit 4 第10～11回 Unit 5 第12～13回 Unit 6 第14回 Unit 7 第15回 Review Unit 1～7		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)		
課題へのフィードバック	Homework and assignments will be returned with comments. 宿題や提出物はコメントをつけて返却します。		
教科書	TOP Notch: Fundamentals with Active Book (3rd edition)		
著者名	Joan Saelow and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-060

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	Jonathan MacNab		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.</p> <p>この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15週で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。</p> <p>第1回 Introduction  第2～3回 Unit 1  第4～5回 Unit 2  第6～7回 Unit 3  第8～9回 Unit 4  第10～11回 Unit 5  第12～13回 Unit 6  第14回 Unit 7  第15回 Review Unit 1～7</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review.</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>Homework and assignments will be returned with comments.</p> <p>宿題や提出物はコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	TOP Notch: Fundamentals with Active Book (3rd edition)		
著者名	Joan Saelow and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		



1-061

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	Marcel Hurtado		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.</p> <p>この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。</p> <p>第1回 Introduction  第2～3回 Unit 1  第4～5回 Unit 2  第6～7回 Unit 3  第8～9回 Unit 4  第10～11回 Unit 5  第12～13回 Unit 6  第14回 Unit 7  第15回 Review Unit 1～7</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review.</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>Homework and assignments will be returned with comments.</p> <p>宿題や提出物はコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	TOP Notch: Fundamentals with Active Book (3rd edition)		
著者名	Joan Saelow and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-062

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	名和 月之介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. There will be quizzes. テキストの6ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2回で終えることになる。随時クイズを行う。 第1回 Introduction 第2～3回 Unit 1 第4～5回 Unit 2 第6～7回 Unit 3 第8回 Review Unit 1～3 第9～10回 Unit 4 第11～12回 Unit 5 第13～14回 Unit 6 第15回 Review Unit 4～6		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes	クイズ	40%
	evaluation of achievement	到達度評価	20%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.  前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻は1回の欠席とみなす。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours) 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(2時間) 復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(2時間)		
課題へのフィードバック	After the review test in class, all the students will be informed about it .授業内試験後、履修者全員に向けてコメントします。		
教科書	Four Corners Student' s Book 1		
著者名	Jack C. Richards・David Bohlke		
出版社	Cambridge University Press		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	相馬 沙織		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. 授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	第1回 Unit 1 Introductions 第2回 Unit 1 Introductions: personal information 第3回 Unit 1 Introductions: short talk 第4回 Unit 2 Daily Life 第5回 Unit 2 Daily Life:routines 第6回 Unit 2 Daily Life:break fast 第7回 Unit 3 Weekend Events 第8回 Unit 3 Weekend Events:interests 第9回 Unit 3 Weekend Events:Favorites 第10回 Unit 4 Small Talk 第11回 Unit 4 Small Talk:Greeting 第12回 Unit 4 Small Talk:Part time 第13回 Unit 5 Likes and Dislikes 第14回 Unit 5 Likes and Dislikes:preferences 第15回 Unit 5 Likes and Dislikes:Activities 第16回 Unit 6 Student Life 第17回 Unit 6 Student Life:needs 第18回 Unit 6 Student Life:events 第19回 Unit 7 Family 第20回 Unit 7 Family:appearance 第21回 Unit 7 Family:future image 第22回 Unit 8 Friends 第23回 Unit 8 Friends:examples 第24回 Unit 8 Friends:personality 第25回 Unit 9 Going out 第26回 Unit 9 Going out:schedules 第27回 Unit 9 Going out:favorite places 第28回 Review: Unit 1~4 第29回 Review: Unit 5~9 第30回 Final Exam (到達度確認テスト)		
評価方法 (合計100%)	Class participation 授業への参加態度 30% Quizzes and Assignments 小テスト・課題 20% Evaluation of achievement 到達度評価 50%		
失格条件	Absences from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. 8回またはそれ以上の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours) 予習として、知らない意味の単語を辞書で調べ、学習範囲のCDを聞いてくること。(2時間) 復習として、自習用CDを聞いて発音を再度確認し、練習すること。(2時間)		
課題へのフィード バック	I will return students' homework individually and give comments to all the students in class. 課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。		
教科書	Free Talking-Basic Strategies for Building Communication		
著者名	Matthew Guay/Lauren Eldekvist/長谷川 由貴		
出版社	センゲージラーニング株式会社		
参考書	University-level Dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-064

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation Ⅱ		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>This course is the follow-up course of English Conversation I. This course will help students develop communicative skills in English. Since classes will be smaller than in the first semester, students are encouraged to participate in the class activities more actively than in the first semester.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	To develop students' communicative English skills.		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to Units 11-20 of the textbook. Occasionally there will be written assignments and quizzes.</p> <p>教科書に沿って授業を進める。適宜、クイズや小テストを行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1)Class participation 授業への参加態度 30%</p> <p>2)Homework and essays 課題 50%</p> <p>3)Evaluation of achievement 到達度評価 20%</p>		
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness". Three latenesses equal one absence.</p> <p>8回の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻は1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>Students should read the text aloud at least 5 times to familiarize themselves with the wording and sentence structure of the text. They are also recommended to make notes of vocabulary that might come in use when discussing the text or answering questions.</p> <p>If there is a sentence or phrase that is difficult to understand, the student should ask the teacher. (予習1時間・復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	Reading Pass 1		
著者名	Andrew Bennett		
出版社	Nan'un-do		
参考書	University-level dictionaries		
その他	<p>The class size is limited within 20. (20名以下限定のクラス)   Students are expected to actively participate in class activities.</p> <p>If a student is absent, he/she must check with classmates as to the homework assignment and come to class prepared.</p> <p>All homework assignments must be handed in on the due date.</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	Alexander Morgus		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。 第1～2回 Unit 8 第3～4回 Unit 9 第5～6回 Unit 10 第7～8回 Unit 11 第9～10回 Unit 12 第11～12回 Unit 13 第13～14回 Unit 14 第15回 Review Unit 8～14		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)		
課題へのフィードバック	Homework and assignments will be returned with comments. 宿題や提出物はコメントをつけて返却します。		
教科書	Top Notch		
著者名	Joan Saeloe and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	Jonathan MacNab		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.</p> <p>この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。</p> <p>第1～2回 Unit 8  第3～4回 Unit 9  第5～6回 Unit 10  第7～8回 Unit 11  第9～10回 Unit 12  第11～12回 Unit 13  第13～14回 Unit 14  第15回 Review Unit 8～14</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review.</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>Homework and assignments will be returned with comments.</p> <p>宿題や提出物はコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	Top Notch		
著者名	Joan Saeloe and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-067

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	Marcel Hurtado		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。 第1～2回 Unit 8 第3～4回 Unit 9 第5～6回 Unit 10 第7～8回 Unit 11 第9～10回 Unit 12 第11～12回 Unit 13 第13～14回 Unit 14 第15回 Review Unit 8～14		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)		
課題へのフィードバック	Homework and assignments will be returned with comments. 宿題や提出物はコメントをつけて返却します。		
教科書	Top Notch		
著者名	Joan Saeloe and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-068

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	名和 月之介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. There will be quizzes.</p> <p>テキストの6ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2回で終えることになる。随時クイズを行う。</p> <p>第1回 Introduction  第2～3回 Unit 7  第4～5回 Unit 8  第6～7回 Unit 9  第8回 Review Unit 7～9  第9～10回 Unit 10  第11～12回 Unit 11  第13～14回 Unit 12  第15回 Review Unit 10～12</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes	クイズ	40%
	evaluation of achievement	到達度評価	20%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours)</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(2時間)</p> <p>復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(2時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>After the review test in class, all the students will be informed about it.</p> <p>授業内テスト終了後、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	Four Corners Student's Book 1		
著者名	Jack C. Richards ・ David Bohlke		
出版社	Cambridge University Press		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English ConversationⅡ		
担当教員名	相馬 沙織		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能(聞く、話す、読む、書く)を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. 授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	第1回 Unit 10.Restaurants 第2回 Unit 10.Restaurants:Ordering 第3回 Unit 10.Restaurants:Short talk 第4回 Unit 11.Shopping 第5回 Unit 11.Shopping:Shopping places 第6回 Unit 11.Shopping:Opinions 第7回 Unit 12.Strengths and weaknesses 第8回 Unit 12.Strengths and weaknesses:abilities 第9回 Unit 12.Strengths and weaknesses:Personal skills 第10回 Unit 13.Places 第11回 Unit 13.Places:features 第12回 Unit 13.Places:Hometown 第13回 Unit 14.Vacations 第14回 Unit 14.Vacations:travel plans 第15回 Unit 14.Vacations:plans 第16回 Unit 15.Experiences 第17回 Unit 15.Experiences:feelings 第18回 Unit 15.Experiences:Memories 第19回 Unit 16.Opinions 第20回 Unit 16.Opinions:comparisons 第21回 Unit 16.Opinions:relax 第22回 Unit 17.Health and Illness 第23回 Unit 17.Health and Illness:health problems 第24回 Unit 17.Health and Illness:habits 第25回 Unit 18.The Future 第26回 Unit 18.The Future:Dreams 第27回 Unit 18.The Future:Future plans 第28回 Review Unit 10~14 第29回 Review Unit 15~18 第30回 Final Exam (到達度確認テスト)		
評価方法 (合計100%)	Class participation 授業への参加態度 30% Quizzes and Assignments 小テスト・課題 20% Evaluation of achievement 到達度評価 50%		
失格条件	Absences from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. 8回またはそれ以上の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours) 予習として、知らない意味の単語を辞書で調べ、学習範囲のCDを聞いてくること。(2時間) 復習として、自習用CDを聞いて発音を再度確認し、練習すること。(2時間)		
課題へのフィード バック	I will return students' homework individually and give comments to all the students in class. 課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。		
教科書	Free Talking-Basic Strategies for Building Communication		
著者名	Matthew Guay, Lauren Eldevikvist, 長谷川由貴		
出版社	センゲージラーニング株式会社		
参考書	University-level Dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-070

ナンバリング	CC300A06	期間	前期
授業科目名	英語 I		
英訳科目名	English I		
担当教員名	飯盛 康史		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	主にTOEICテスト対策を目的とした教材を用いて、TOEIC試験に主眼を置いた授業を行う。ただ講義を行うだけでなく実際に文を読み上げる、訳を行うなどの内容も取り入れ、総合的な英語力の養成を目的とする。		
到達目標	TOEICテスト350程度の英語力を身につけ、日常的な英語の文章やスピーチに対応できる。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の説明を行います。履修者は必ず出席してください。</p> <p>第2回 Unit 1前半</p> <p>第3回 Unit 1後半</p> <p>第4回 Unit 2前半</p> <p>第5回 Unit 2後半</p> <p>第6回 Unit 3前半</p> <p>第7回 Unit 3後半</p> <p>第8回 Unit 4前半</p> <p>第9回 Unit 4後半</p> <p>第10回 Unit 5前半</p> <p>第11回 Unit 5後半</p> <p>第12回 Unit 6前半</p> <p>第13回 Unit 6後半</p> <p>第14回 Unit 7前半</p> <p>第15回 Unit 7後半</p> <p>第16回 Unit 8前半</p> <p>第17回 Unit 8後半</p> <p>第18回 Unit 9前半</p> <p>第19回 Unit 9後半</p> <p>第20回 Unit 10前半</p> <p>第21回 Unit 10後半</p> <p>第22回 Unit 11前半</p> <p>第23回 Unit 11後半</p> <p>第24回 Unit 12前半</p> <p>第25回 Unit 12後半</p> <p>第26回 Unit 13前半</p> <p>第27回 Unit 13後半</p> <p>第28回 Unit 14前半</p> <p>第29回 Unit 14後半</p> <p>第30回 前期内容のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>試験 60%</p> <p>小テスト (毎回、単語テストを実施します) 20%</p> <p>課題 (その回の内容に関連した課題を課します) 20%</p>		
失格条件	8回以上の理由なき欠席、および試験を受けないものは失格となります。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間)</p> <p>また、章が終わっても必ず問題を復習する必要があります。特にリスニングに関しては授業で一度聞いただけで学習できるものではありませんので、指定のサイトより音声ダウンロードし、復習するようにしてください。(復習目安：3時間)</p>		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST INTRO		
著者名	水本篤・Mark D. Stafford		
出版社	桐原書店		
参考書			
その他	原則として、20名以下の限定クラスとする。 TOEIC学内団体試験を必ず受験すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A06	期間	前期
授業科目名	英語 I		
英訳科目名	English I		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	英文法の基礎を固め、英語でのコミュニケーション能力の向上を目的とします。練習問題だけでなく、パラグラフリーディングも取り入れ読解力の向上も目指します。		
到達目標	基礎的な英文法が理解でき、表現を正しく使うことができる。 パラグラフリーディングに慣れ、内容をよりよく読みとれることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 履修者は必ず出席してください 第2回 Unit 1 名詞 前半 第3回 Unit 1 名詞 後半 第4回 Unit 2 冠詞 前半 第5回 Unit 2 冠詞 後半 第6回 Unit 3 代名詞 (1)前半 第7回 Unit 3 代名詞 (1)後半 第8回 Unit 4 代名詞 (2)前半 第9回 Unit 4 代名詞 (2)後半 第10回 Unit 5 時制 前半 第11回 Unit 5 時制 後半 第12回 Unit 6 進行形 前半 第13回 Unit 6 進行形 後半 第14回 Unit 1～Unit 6 復習 第15回 Unit 7 完了形 (1)前半 第16回 Unit 7 完了形 (1)後半 第17回 Unit 8 完了形 (2)前半 第18回 Unit 8 完了形 (2)後半 第19回 Unit 9 助動詞 (1)前半 第20回 Unit 9 助動詞 (1)後半 第21回 Unit 10 助動詞 (2)前半 第22回 Unit 10 助動詞 (2)後半 第23回 Unit 11 態 (1)前半 第24回 Unit 11 態 (1)後半 第25回 Unit 12 態 (2)前半 第26回 Unit 12 態 (2)後半 第27回 Unit 13 不定詞 (1)前半 第28回 Unit 13 不定詞 (1)後半 第29回 Unit 7～Unit 13の復習 第30回 前期のまとめ 達成度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験 50% 提出課題・小テスト 20% 授業への参加態度・内容 30%		
失格条件	8回を超える欠席をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間) 授業の後は必ず問題を復習し、間違えたり解らなかつたところはそのままにせず、しっかり確認し直します。パラグラフは読み誤りがないか注意して、ゆっくり読み直します。(復習目安：3時間)		
課題へのフィード バック	提出課題や小テストは、次回の授業でコメントをつけて個別に返却します。		
教科書	Fundamental English Grammar with Short Readings 読解力につなげるコア英文法		
著者名	福井 慶一郎/山中 マーガレット/北山 長貴		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A06	期間	前期
授業科目名	英語 I		
英訳科目名	English I		
担当教員名	西垣 有夏		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本授業ではテキスト中心に授業を進めていくが、英検やTOEICといった検定試験についても解説する。テキスト本文の重要単語・熟語を用いた英作文に取り組むことで語彙を増やし、文法説明を取り入れながら精読することによって正確に英文を読み進める実力を養う。語学には反復学習が欠かせないので定期的に復習する。		
到達目標	1.文法事項の理解、語彙を確認して英文構造を把握し、英文を正しく読み進めることができる。 2.英単語についてはそれらの意味の理解にとどまらず、単語を利用して英作文ができる。		
授業計画	以下に授業計画を記すが、学生の理解度によって変更する可能性があるなのでその都度担当者の指示を聞くように。 第1回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Keywords and Keyphrases 第2回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Writing 第3回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Reading 第4回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Exercises 第5回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Keywords and Keyphrases 第6回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Writing 第7回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Reading 第8回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Exercises 第9回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Keywords and Keyphrases 第10回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Writing 第11回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Reading 第12回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Exercises 第13回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Keywords and Keyphrases 第14回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Writing 第15回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Reading 第16回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Exercises 第17回 Unit1～Unit4までの復習 第18回 Unit5:Are You Shy?—Keywords and Keyphrases 第19回 Unit5:Are You Shy?—Writing 第20回 Unit5:Are You Shy?—Reading 第21回 Unit5:Are You Shy?—Exercises 第22回 Unit6:Pet Profits—Keywords and Keyphrases 第23回 Unit6:Pet Profits—Writing 第24回 Unit6:Pet Profits —Reading 第25回 Unit6:Pet Profits—Exercises 第26回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Keywords and Keyphrases 第27回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Writing 第28回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Reading 第29回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Exercises 第30回 Unit5～Unit7までの復習、期末試験の説明		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度15%、課題プリント25%、定期試験60%		
失格条件	欠席8回で失格、なお遅刻3回で欠席1回とカウントする。遅刻は授業開始30分以内、それ以降は欠席とする。なお、クラブの公式戦、教育実習、その他やむを得ない事情があると判明できる場合は証明書提出で公欠とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回授業終了時に次回の授業について説明するのであらかじめ辞書で単語を調べて読んでおくこと。(予習時間1時間) 復習を兼ねた課題プリントを配布するので次回の授業時に仕上げ提出すること。また、課題プリントを仕上げることだけに専念せず、授業で読んだテキストの箇所を読み直しておくこと。(復習時間3時間)		
課題へのフィード バック	毎回の授業で、その時間で行った授業内容に関する復習を兼ねた課題プリントを配布し、次の時間に提出してもらう。課題プリントはチェックはもちろん、一人ひとりにコメントを記入して返却する。		
教科書	Comprehensive Reading: Getting Key Skills through 15 Topics		
著者名	Tom Dillon, Michael Schauerte, Koji Nishiya		
出版社	音羽書房鶴見書店		
参考書	必ず授業では英和辞典を持ってくること。		
その他	TOEICや英検などの資格に関心のある学生は個別に相談に応じる。各種英語関係の検定試験の公式問題集や過去問題集は各自で購入すること。テキスト中心で授業を進めるが、合間に資格検定についての説明も取り入れる。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-073

ナンバリング	CC300B04	期間	後期
授業科目名	英語Ⅱ		
英訳科目名	EnglishⅡ		
担当教員名	飯盛 康史		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	前期よりやや高度のテキストを用い、TOEIC試験に主眼を置いた授業を行う。ただ講義を行うだけでなく実際に文を読み上げる、訳を行うなどの内容も取り入れ、総合的な英語力の養成を目的とする。		
到達目標	TOEICテスト400程度の英語力を身につけ、日常的な英語の文章やスピーチに対応できる。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の説明を行います。履修者は必ず出席してください。</p> <p>第2回 Unit 1前半</p> <p>第3回 Unit 1後半</p> <p>第4回 Unit 2前半</p> <p>第5回 Unit 2後半</p> <p>第6回 Unit 3前半</p> <p>第7回 Unit 3後半</p> <p>第8回 Unit 4前半</p> <p>第9回 Unit 4後半</p> <p>第10回 Unit 5前半</p> <p>第11回 Unit 5後半</p> <p>第12回 Unit 6前半</p> <p>第13回 Unit 6後半</p> <p>第14回 Unit 7前半</p> <p>第15回 Unit 7後半</p> <p>第16回 Unit 8前半</p> <p>第17回 Unit 8後半</p> <p>第18回 Unit 9前半</p> <p>第19回 Unit 9後半</p> <p>第20回 Unit 10前半</p> <p>第21回 Unit 10後半</p> <p>第22回 Unit 11前半</p> <p>第23回 Unit 11後半</p> <p>第24回 Unit 12前半</p> <p>第25回 Unit 12後半</p> <p>第26回 Unit 13前半</p> <p>第27回 Unit 13後半</p> <p>第28回 Unit 14前半</p> <p>第29回 Unit 14後半</p> <p>第30回 後期内容のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>試験 60%</p> <p>小テスト (毎回、単語テストを実施します) 20%</p> <p>課題 (その回の内容に関連した課題を課します) 20%</p>		
失格条件	8回以上の理由なき欠席、および試験を受けないものは失格となります。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間)</p> <p>また、章が終わっても必ず問題を復習する必要があります。特にリスニングに関しては授業で一度聞いただけで学習できるものではありませんので、指定のサイトより音声ダウンロードし、復習するようにしてください。(復習目安：3時間)</p>		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 Goal 500		
著者名	水本篤・Mark D. Stafford		
出版社	桐原書店		
参考書			
その他	原則として、20名以下の限定クラスとする。 TOEIC学内団体試験を必ず受験すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B04	期間	後期
授業科目名	英語Ⅱ		
英訳科目名	EnglishⅡ		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	英文法の基礎を固め、英語でのコミュニケーション能力の向上を目的とします。練習問題だけでなく、パラグラフリーディングも取り入れ読解力の向上も目指します。		
到達目標	基礎的な英文法が理解でき、表現を正しく使うことができる。 パラグラフリーディングに慣れ、内容をよりよく読みとれることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション Unit 1～Unit 13の復習 第2回 Unit 14 不定詞 (2)前半 第3回 Unit 14 不定詞 (2)後半 第4回 Unit 15 分詞 (1)前半 第5回 Unit 15 分詞 (1)後半 第6回 Unit 16 分詞 (2)前半 第7回 Unit 16 分詞 (2)後半 第8回 Unit 17 動名詞 (1)前半 第9回 Unit 17 動名詞 (1)後半 第10回 Unit 18 動名詞 (2)前半 第11回 Unit 18 動名詞 (2)後半 第12回 Unit 19 形容詞・副詞 前半 第13回 Unit 19 形容詞・副詞 後半 第14回 Unit 14～Unit 19 復習 第15回 Unit 20 比較 (1)前半 第16回 Unit 20 比較 (1)後半 第17回 Unit 21 比較 (2)前半 第18回 Unit 21 比較 (2)後半 第19回 Unit 22 前置詞 前半 第20回 Unit 22 前置詞 後半 第21回 Unit 23 関係詞 (1)前半 第22回 Unit 23 関係詞 (1)後半 第23回 Unit 24 関係詞 (2)前半 第24回 Unit 24 関係詞 (2)後半 第25回 Unit 25 仮定法 (1)前半 第26回 Unit 25 仮定法 (1)後半 第27回 Unit 26 仮定法 (2)前半 第28回 Unit 26 仮定法 (2)後半 第29回 Unit 20～Unit 26の復習 第30回 後期のまとめ 達成度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験 50% 提出課題・小テスト 20% 授業への参加態度・内容 30%		
失格条件	8回を超える欠席をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間) 授業の後は必ず問題を復習し、間違えたり解らなかつたところそのままにせず、しっかり確認し直します。パラグラフは読み誤りがないか注意して、ゆっくり読み直します。(復習目安：3時間)		
課題へのフィードバック	提出課題や小テストは、次回の授業でコメントをつけて個別に返却します。		
教科書	Fundamental English Grammar with Short Readings 読解力につなげるコア英文法		
著者名	福井 慶一郎/山中 マーガレット/北山 長貴		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B04	期間	後期
授業科目名	英語Ⅱ		
英訳科目名	EnglishⅡ		
担当教員名	西垣 有夏		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	基本的に授業運営は前期開講の英語Ⅰ(3)と同様だが、本授業では精読だけでなく多読にも力を入れるので授業ペースは英語Ⅰ(3)より速くなる。英文を正確に読み進める実力を養う。語学には反復学習が肝心なので定期的に復習する。		
到達目標	1.多読を通じて英文を正確に読むことができる。 2.英単語・熟語についてはそれらの意味の理解にとどまらず、その語句を利用して英作ができる。		
授業計画	以下に授業計画を記すが、学生の理解度によって変更する可能性があるなのでその都度担当者の指示を聞くように。 第1回 Unit8:New York as Artistic Hub—Reading 第2回 Unit8:New York as Artistic Hub—Exercises 第3回 Unit8:New York as Artistic Hub—Writing 第4回 Unit9:John Dillinger, Public Enemy No.1—Reading 第5回 Unit9:John Dillinger, Public Enemy No.1—Exercises 第6回 Unit9:John Dillinger, Public Enemy No.1—Writing 第7回 Unit8, 9の復習 第8回 Unit10:The Attraction of Kealakekua Bay—Reading 第9回 Unit10:The Attraction of Kealakekua Bay—Exercises 第10回 Unit10:The Attraction of Kealakekua Bay—Writing 第11回 Unit11:Cyber-Bullying—Reading 第12回 Unit11:Cyber-Bullying—Exercises 第13回 Unit11:Cyber-Bullying—Writing 第14回 Unit10,11の復習 第15回 Unit8～Unit11までの復習 第16回 Unit12:A Job for Fast Talkers and Fast Thinkers—Reading 第17回 Unit12:A Job for Fast Talkers and Fast Thinkers—Exercises 第18回 Unit12:A Job for Fast Talkers and Fast Thinkers—Writing 第19回 Unit13:Graphic Novels—Reading 第20回 Unit13:Graphic Novels—Exercises 第21回 Unit13:Graphic Novels—Writing 第22回 Unit12,13の復習 第23回 Unit14:Canal Houses—Reading 第24回 Unit14:Canal Houses—Exercises 第25回 Unit14:Canal Houses—Writing 第26回 Unit15:Road Rage—Reading 第27回 Unit15:Road Rage—Exercises 第28回 Unit15:Road Rage—Writing 第29回 Unit14,15の復習 第30回 Unit12～Unit15の復習、期末試験の説明		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度15%、課題プリント25%、定期試験60%		
失格条件	欠席8回で失格、なお遅刻3回で欠席1回とカウントする。遅刻は授業開始30分以内、それ以降は欠席とする。なお、クラブの公式戦、教育実習、その他やむを得ない事情があると判明できる場合は証明書提出で公欠とする。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	毎回授業終了時に次回の授業について説明するのであらかじめ辞書で単語を調べて読んでおくこと。(予習時間1時間) 復習を兼ねた課題プリントを配布するので次回の授業時に仕上げ提出すること。また、課題プリントを仕上げることだけに専念せず、授業で読んだテキストの箇所を読み直しておくこと。(復習時間3時間)		
課題へのフィードバック	毎回の授業で、その時間で行った授業内容に関する復習を兼ねた課題プリントを配布し、次の時間に提出してもらう。課題プリントはチェックはもちろん、一人ひとりにコメントを記入して返却する。		
教科書	Comprehensive Reading: Getting Key Skills through 15 Topics		
著者名	Tom Dillon, Michael Schauerte, Koji Nishiya		
出版社	音羽書房鶴見書店		
参考書	必ず授業では英和辞典を持ってくること。		
その他	TOEICや英検などの資格に関心のある学生は個別に相談に応じる。各種英語関係の検定試験の公式問題集や過去問題集は各自で購入すること。テキスト中心で授業を進めるが、合間に資格検定についての説明も取り入れる。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A07	期間	前期
授業科目名	ドイツ語 I		
英訳科目名	German I		
担当教員名	田島 昭洋		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本科目は、ドイツ語を初めて学習する学生向けられたものである。基本的な文法をもとに、ドイツ語理解（読解、聴解）、ドイツ語表現（会話、作文）をバランスよく学び、ドイツ語能力の基礎を身につけ、それによりまた、自国の客観的な理解を深めていくことを目標とする。授業は、教科書（および補助プリント）を中心として進む。合わせて、視聴覚教材（CDやDVD）を用いたり担当者の体験談や拙唱をこころみたりしながら、音楽や演劇、映画、文学、食文化などに広く触れることをとおして感覚的により深く、語学学習にとどまらないドイツ語圏の文化と社会を学ぶ。		
到達目標	1.読解、聴解において初歩的な文章を大まかに理解できるようにする。 2.会話と作文において動詞の現在形を使って基礎的なコミュニケーションがはかれるようにする。 3.ドイツ語圏の文化と社会についての知識を深める。		
授業計画	第1回 ガイダンスとアンケート、ドイツ語の紹介 第2回 文字と発音、あいさつ 第3回 人称の種類 第4回 動詞の現在人称変化① 第5回 性の前につける敬称 第6回 決定疑問文 第7回 理解度の確認 第8回 名詞の性 第9回 冠詞と名詞の格変化 第10回 duとSieの使い分け 第11回 人称代名詞の格変化 第12回 理解度の確認 第13回 不定冠詞 第14回 所有冠詞 第15回 動詞の現在人称変化② 第16回 理解度の確認 第17回 名詞の複数形 第18回 命令形① 第19回 否定表現 第20回 理解度の確認 第21回 命令形② 第22回 前置詞 第23回 zu不定詞 第24回 否定冠詞kein 第25回 理解度の確認 第26回 形容詞① 第27回 形容詞② 第28回 形容詞③ 第29回 理解度の確認 第30回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	本授業の意義を理解し、習熟度（学習内容の理解度と到達度）、積極性（授業への参加度、自主的な発表など）を担当者が総合的に判断する。 授業参加態度（出席と参加の度合）：40% 到達度（試験）：30% 理解度（小テスト、課題提出、発表）：30%		
失格条件	(次のいずれかに該当すれば失格となるので注意されたい) 1.出席回数3分の2以上に満たない場合 2.欠席が連続3回になった場合 30分以上の遅刻は欠席とし、30分までの遅刻は3回で1回の欠席とする。 (公共交通機関の遅延や演奏会出演などやむをえない特別な場合を除く。交通機関の遅延の場合は教室に入り次第その旨報告すること。演奏会出演の場合は事前に連絡を入れること。) 3.授業の理解度と到達度の確認ができなかった場合（小テストと試験の欠席者）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	初めて学ぶ外国語は感覚が身に付くまでに時間と努力を要します。準備学習においては予習よりも復習に力を入れることが大事です。（予習・復習を合わせて2時間）		
課題へのフィード バック	・準備学習用課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・授業内での個別発表の取り組みに対して個別にコメントします。		
教科書	楽しいドイツ語の旅 ― ベア練習で学ぶ初級ドイツ語 ―		
著者名	神竹道士・田島昭洋		
出版社	朝日出版社		
参考書	第1回授業時に「すすめる辞書」（とあまりお勧めしない辞書）を紹介します。特に指定した辞書ではなくてもかまわないが、独和辞典は必携なので、各自、毎回用意しておくように。 辞書と教科書を含めた準備物（プリントなど）に関しては、最初のガイダンスで説明します。		
その他	ドイツ語は学習初期に覚える規則が多い言語です。その規則はその後新しい言葉のきまり（文法）を学習するたびに应用でき、面白くなってきます。とりわけ「基礎」を大事にして、前進しながらもくりかえし基本に立ちかえることを心がけましょう。		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	CC300B05	期間	後期
授業科目名	ドイツ語Ⅱ		
英訳科目名	GermanⅡ		
担当教員名	田島 昭洋		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>本科目は、ドイツ語Ⅰの単位取得者向けられたものである。基本的な文法をもとに、ドイツ語理解（読解、聴解）、ドイツ語表現（会話、作文）をバランスよく学び、日常生活に必要なドイツ語能力の基礎を身につけることを目標とする。授業は、教科書（および補助プリント）を中心として進む。合わせて、視聴覚教材（CDやDVD）を用いたり担当者の体験談や拙唱をこころみたりしながら、音楽や演劇、映画、文学、食文化、（本場と言われるドイツの）クリスマスに広く触れることをとおして感覚的により深く、語学学習にとどまらないドイツ語圏の文化と社会を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1.読解、聴解において平易な文章を大まかに理解できるようにする。 2.会話と作文において基礎的なコミュニケーションがはかれるようにする。 3.上記1.2を踏まえて、ドイツ語圏で（一人でも）旅行と生活ができるドイツ語運用能力を目指し、異文化理解を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回 前期の復習① 第2回 理解度の確認 第3回 前期の復習② 第4回 理解度の確認 第5回 比較表現 第6回 語順 第7回 理解度の確認 第8回 話法の助動詞 第9回 従属接続詞① 第10回 分離動詞 第11回 理解度の確認 第12回 動詞の3基本形 第13回 過去形 第14回 従属接続詞② 第15回 理解度の確認 第16回 現在完了形① 第17回 現在完了形② 第18回 再帰動詞 第19回 理解度の確認 第20回 関係代名詞 第21回 関係代名詞と指示代名詞 第22回 理解度の確認 第23回 受動文 第24回 理解度の確認 第25回 接続法第1式 第26回 理解度の確認 第27回 接続法第2式① 第28回 接続法第2式② 第29回 理解度の確認 第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>本授業の意義を理解し、習熟度（学習内容の理解度と到達度）、積極性（授業への参加度、自主的な発表など）を担当者が総合的に判断する。 授業参加態度（参加状況）：40% 到達度（試験）：30% 理解度（小テスト、課題提出、発表）：30%</p>		
失格条件	<p>（次のいずれかに該当すれば失格となるので注意されたい） 1.出席回数が3分の2以上に満たない場合 2.欠席が連続3回になった場合 30分以上の遅刻は欠席とし、30分までの遅刻は3回で1回の欠席とする。 （公共交通機関の遅延や演奏会出演などやむをえない特別な場合を除く。交通機関の遅延の場合は教室に入り次第その旨報告すること。演奏会出演の場合は事前に連絡を入れること。） 3.授業の理解度と到達度の確認ができなかった場合（小テストと試験の欠席者）</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>初めて学ぶ外国語は感覚が身に付くまでに時間と努力を要します。準備学習においては予習よりも復習に力を入れることが大事です。（予習・復習を合わせて2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習用課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。</li> <li>・小テストは授業時間内に返却し、解説します。</li> <li>・授業内での個別発表の取り組みに対して個別にコメントします。</li> </ul>		
教科書	楽しいドイツ語の旅 ― ペア練習で学ぶ初級ドイツ語 ―		
著者名	神竹道士・田島昭洋		
出版社	朝日出版社		
参考書	独和辞典、教科書は授業に必ず持ってくること。		
その他	ドイツ語は学習初期に覚える規則が多い言語であり、ドイツ語Ⅰで学んだ規則はその後新しい言葉のきまり（文法）を学習するたびに応用でき、面白くなってきます。とりわけ「基礎」を大事にして、くりかえし基本に立ちかえりながら、新しい表現を学んで前へ進んでいきましょう。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A08	期間	前期
授業科目名	イタリア語 I		
英訳科目名	Italian I		
担当教員名	小松 寛明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	アルファベットの読み方、つづり字の読み方の習得、文法の初歩の習得（名詞とその関連事項、基本動詞と一般動詞(現在形)）、基本語彙の習得が主な内容です。イタリアをめぐる諸情勢にも言及します。		
到達目標	発音についてはつづり字を正確に発音できることを目標とします。名詞とその関連領域（冠詞、形容詞）については男性形・女性形の区別、単数形・複数形の区別があるので、その判別ができることとします。最重要事項は動詞の活用です。動詞の活用で主語や時制が判断されるからです。なお、日本語の動詞などの「活用」とは意味が違い、英語ではあまり意識されません。まずは基本動詞（英語のbe動詞やhaveに相当）の変化と用法（現在形）、ついで一般動詞の変化と用法（現在形）を習得し、ごく基本的な内容を理解し表現できるようになることを到達点とします。		
授業計画	第1回 アルファベットの読み方① 第2回 アルファベットの読み方② 第3回 基本的なつづり字の読み方① 第4回 基本的なつづり字の読み方② 第5回 注意すべきつづり字の読み方① 第6回 注意すべきつづり字の読み方② 第7回 名詞の種類と変化① 第8回 名詞の種類と変化② 第9回 冠詞の種類と変化① 第10回 冠詞の種類と変化② 第11回 主語の代名詞、基本動詞（essere）の変化と用法(現在形) ①-1 第12回 主語の代名詞、基本動詞（essere）の変化と用法(現在形) ②-2 第13回 形容詞の変化と用法① 第14回 形容詞の変化と用法② 第15回 基本動詞（avere）の変化と用法(現在形)① 第16回 基本動詞（avere）の変化と用法(現在形)② 第17回 一般動詞の変化と用法(現在形) ① 第18回 一般動詞の変化と用法(現在形) ② 第19回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ①-1 第20回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ①-2 第21回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ②-1 第22回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ②-2 第23回 不規則動詞（現在形）①-1 第24回 不規則動詞（現在形）①-2 第25回 不規則動詞（現在形）②-1 第26回 不規則動詞（現在形）②-2 第27回 不規則動詞（現在形）③-1 第28回 不規則動詞（現在形）③-2 第29回 時刻の表現① 第30回 時刻の表現②		
評価方法 (合計100%)	前期学科試験（40%） 授業中の小テスト（30%） 課題など（30%）		
失格条件	前期学科試験、授業中に行う小テストを受験しなかった場合、課題の提出がなかった場合。小テストと課題は、受験指定日、提出締め切り期日より遅れて受験・提出の場合には減点します。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業の復習は各回徹底すること。項目ごとに小テストを行い、課題提出を求めます。予習（単語調べなど）と課題に毎週1時間30分、復習に2時間30分を目安とすること。辞書や参考書は大学図書館や公共図書館でも利用できます。各種情報端末も利用可能ですが、情報が膨大過ぎたり、不適切なものも相当見受けられるので、警戒してください。		
課題へのフィードバック	課題は添削の上、評価を記載し解答例を付して返却します。小テストは採点の上、解答（配点を明示）を付して返却します。いずれも授業内で復習・自己点検をしていただきます。		
教科書	『イタリアーノ・イタリアーノ』		
著者名	マッテオ・カスターニャ、吉富 文		
出版社	朝日出版社		
参考書	秋山余思監修『フリーモ伊和辞典・和伊付き』（白水社）		
その他	B5(普通のノートの大きさ)のファイルノートを用意してください。（応用問題、課題のプリント、単語・表現集のプリントの保管に使用します。）		
備考	なし		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B06	期間	後期
授業科目名	イタリア語Ⅱ		
英訳科目名	ItalianⅡ		
担当教員名	小松 寛明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	イタリア語には過去時制が3つありますが、このうち近過去と半過去とを取り上げて、現在形を含めて時制の使い分けを徹底して指導します。日本文化圏における「時」のとらえ方とは異なるからです。日常的な範囲の内容を理解し、かつ表現できる程度までの文法、単語・語彙の習得を目標とします。		
到達目標	動詞についてはまず補助動詞（「…出来る」「…したい」「…すべきだ」のように言えば「気持ち」を加える表現）を習得します。ついで再帰動詞と一般的な動詞との区別（例えば「起こす」と「起きる」違い）ができるようになることとします。時制については過去時制が重要です。過去の事柄をどのように捉えるかに違いがあるからです。（「近過去」と「半過去」）動詞の変化を含めて、この違いを理解し使いこなせることを最大の目標とします。発音については文の抑揚を意識して文を聞き取り表現できることを到達点とします。		
授業計画	第1回 二重子音について① 第2回 二重子音について② 第3回 補助動詞①-1 第4回 補助動詞①-2 第5回 補助動詞②-1 第6回 補助動詞②-2 第7回 再帰動詞①-1 第8回 再帰動詞②-2 第9回 近過去①-1 第10回 近過去①-2 第11回 近過去②-1 第12回 注意すべき近過去① 第13回 注意すべき近過去② 第14回 近過去②-2 第15回 半過去①-1 第16回 半過去①-2 第17回 半過去②-1 第18回 半過去②-2 第19回 時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け①-1 第20回 時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け①-2 第21回 過去時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け②-1 第22回 過去時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け②-2 第23回 直接目的語代名詞①-1 第24回 直接目的語代名詞①-2 第25回 直接目的語代名詞②-1 第26回 直接目的語代名詞②-2 第27回 命令法① 第28回 命令法② 第29回 比較表現① 第30回 比較表現②		
評価方法 (合計100%)	後期学科試験（40%） 授業中の小テスト（30%） 課題など（30%）		
失格条件	後期学科試験、授業中に行う小テストを受験しなかった場合、課題の提出がなかった場合。小テストと課題は、受験指定日、提出締め切り日より遅れて受験・提出の場合には減点します。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業の復習は各回徹底すること。項目ごとに小テストを行い、課題提出を求めます。予習（単語調べなど）と課題に毎週1時間30分、復習に2時間30分を目安とすること。辞書や参考書は大学図書館や公共図書館でも利用できます。各種情報端末も利用可能ですが、情報が膨大過ぎたり、不適切な解説や間違いも相当見受けられるので、警戒してください。		
課題へのフィード バック	課題は添削の上、評価を記載し解答例を付して返却します。小テストは採点の上、解答（配点を明示）を付して返却します。いずれも授業内で復習・自己点検をしていただきます。		
教科書	『イタリアーノ・イタリアーノ』（イタリア語Ⅰと同じ）		
著者名	マッテオ・カスターニャ、吉富 文		
出版社	朝日出版社		
参考書	秋山余思監修『プリーモ伊和辞典・和伊付き』（白水社）		
その他	B5(普通のノートの大きさ)のファイルノートを用意してください。(応用問題、課題プリント、単語・表現集のプリントの保管に使用します。)		
備考	なし		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A09	期間	前期
授業科目名	フランス語 I		
英訳科目名	French I		
担当教員名	宮脇 玲奈		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	あいさつや自己紹介などの基本的な日常のフランス語会話を身につけることを中心に学びます。各授業でペアワークを取り入れ、会話の中からフランス語を習得することを目指します。		
到達目標	実用フランス語能力試験5級程度のフランス語運用能力を身につけること		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン、アルファベットの読み方  第2回 アルファベットの読み方・フランス語のあいさつ  第3回 自己紹介の仕方  第4回 元気かどうか尋ねる表現・数字 (0~20)  第5回 Lesson1のまとめ (まとめでは、その課で習った表現を使ってペアワークをします)  第6回 自分の住んでいるところを伝える表現  第7回 職業・数字(21~30)  第8回 Lesson2のまとめ  第9回 国籍と言語  第10回 「私は~人です」「私は~語を話します」  第11回 数字(30~69)・注文の仕方  第12回 Lesson3のまとめ  第13回 身の回りのもの・「~を持っている」という表現  第14回 否定の表現・数字(0~69)  第15回 到達度の確認  第16回 兄弟・年齢  第17回 Lesson4のまとめ  第18回 「誰ですか?」と尋ねる表現と答え方  第19回 人物の描写の仕方  第20回 疑問詞・所有形容詞  第21回 Lesson5のまとめ  第22回 「これはなんですか?」の尋ね方と答え方  第23回 「~はどこですか?」の尋ね方と答え方  第24回 数字(70~100)・電話番号の読み方  第25回 Lesson6のまとめ  第26回 好き嫌いの尋ね方と答え方1  第27回 「~があります、~がいます」の表現  第28回 Lesson7のまとめ  第29回 色と洋服  第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度：30% 小テスト：40% 到達度の確認：30%		
失格条件	授業全体の前半に4回、後半に4回を超えて理由もなく欠席した場合 (初習の言語は一度の欠席の影響がとても大きい)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	復習2時間。付属CDを使って、毎日音声聞くことが望ましい。内容が大体把握できるようになれば、シャドーイングをすること。最終的には意味を理解した上で、文法上の誤りなく聞き取れるか確認するため、ディクテーションをすること。		
課題へのフィード バック	毎回小テストがあり、その都度小テストの間違ったところにコメントをする。 また、15回目には中間テストがあるが、16回目の授業では、中間テストの問題の解説をする。		
教科書	Café Français : nouveau		
著者名	Nicaolas Gaillard, Toyoko Kato, Takayuki Nakagawa, Florence Yoko Sudre, Shu Yanagishima		
出版社	朝日出版社		
参考書	なし		
その他	教科書は必ず購入すること (教科書がない場合は宿題などの平常点に大きく影響します) 毎週1度小テストがあり、必ず宿題が出されます。 新しい言語を学ぶ場合、一度の欠席で付いていけなくなってしまいます。 やむを得ない事情がある場合を除いて欠席しないこと。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B07	期間	後期
授業科目名	フランス語Ⅱ		
英訳科目名	FrenchⅡ		
担当教員名	宮脇 玲奈		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	前期に引き続き、基本的なフランス語の文法や表現を身につけます。また、各授業でペアワークをすることで、話せるフランス語を身につけます。		
到達目標	実用フランス語能力試験4級程度のフランス語運用能力を身につけること		
授業計画	<p>第1回 前期の復習：フランス語の文の作り方・読み方</p> <p>第2回 L8:色と洋服の復習・比較の表現</p> <p>第3回 L8:天気表現</p> <p>第4回 Lesson8のまとめ</p> <p>第5回 L9:「私は～をします」という表現・頻度</p> <p>第6回 L9:「朝食に～を取ります」という表現</p> <p>第7回 Lesson9のまとめ</p> <p>第8回 L10:「～へ行きましょう」の伝え方・曜日</p> <p>第9回 L10:「どのくらい時間がかかりますか?」という表現と答え方</p> <p>第10回 L10:疑問詞combien(どれくらい)の使い方</p> <p>第11回 Lesson10のまとめ</p> <p>第12回 L11:時間表現「～時に…します」・代名動詞se coucherについて</p> <p>第13回 L11:時間表現「今何時ですか?」</p> <p>第14回 Lesson11のまとめ</p> <p>第15回 到達度の確認</p> <p>第16回 L12:「～を知っていますか?」という尋ね方・代名詞</p> <p>第17回 L12:自分のアルバイトについて話す</p> <p>第18回 Lesson12のまとめ</p> <p>第19回 L13:レストランでの注文の仕方</p> <p>第20回 L13:料理の感想を相手に伝える</p> <p>第21回 L13:複合過去形(avoir+過去分詞)</p> <p>第22回 L13:半過去形</p> <p>第23回 Lesson13のまとめ</p> <p>第24回 L14:代名詞onの使い方</p> <p>第25回 L14:複合過去形(tre+過去分詞)</p> <p>第26回 L14:複合過去形を使って冬休みの思い出を書く</p> <p>第27回 L14:半過去形を使って冬休みの思い出を書く</p> <p>第28回 L14:複合過去形と半過去形を使って冬休みの思い出を書く</p> <p>第29回 Lesson14のまとめ</p> <p>第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度：30% 小テスト：40% 到達度の確認：30%		
失格条件	授業全体の前半に4回、後半に4回を超えて理由もなく欠席した場合 (初習の言語は一度の欠席の影響がとても大きい)		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	復習2時間。付属CDを使って、毎日音声聞くことが望ましい。内容が大体把握できるようになれば、シャドーイングをすること。最終的には意味を理解した上で、文法上の誤りなく聞き取れるか確認するため、ディクテーションをすること。		
課題へのフィードバック	毎回小テストがあり、その都度小テストの間違ったところにコメントをする。 また、15回目には中間テストがあるが、16回目の授業では、中間テストの問題の解説をする。		
教科書	Café Français : nouveau		
著者名	Nicaolas Gaillard, Toyoko Kato, Takayuki Nakagawa, Florence Yoko Sudre, Shu Yanagishima		
出版社	朝日出版社		
参考書	なし		
その他	教科書は必ず購入すること(教科書がない場合は宿題などの平常点に大きく影響します) ※ただし、前期に購入済みの場合は購入の必要はありません 毎週1度小テストがあり、必ず宿題が出されます。 新しい言語を学ぶ場合、一度の欠席で付いていけなくなってしまいます。 やむを得ない事情がある場合を除いて欠席しないこと。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A10	期間	前期
授業科目名	中国語 I		
英訳科目名	Chinese I		
担当教員名	張 焜		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	中国語学習における最初の難関ともいえる発音の学習を重視しながら、基本的な文法が身につくよう、学習を進めていく。この授業は初級中国語として位置づけられ、中国語の発音、単語、簡単な日常会話の確乎とした基礎造りを目指す。		
到達目標	1.中国語の音に慣れ、ピンインがついていれば中国語の文章を音読できる。 2.教室における教師の中国語による指示を聞いて理解できる。 3.自分に関する簡単な情報(姓名、年齢、居住地、所属団体、家族のことなど)を中国語で表現できる。 4.日常的な事柄を簡単な中国語で表現できる。		
授業計画	第1回 第1課 (声調、単母音) 第2回 第1課 (複母音) 第3回 第2課 (声母表、無気音と有気音、他) 第4回 第3課 (鼻音を伴う母音、他) 第5回 第4課 (声調変化、他) 第6回 復習 第7回 第5課 (本文の学習、練習) 第8回 第5課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第9回 第5課 (会話と単語) 第10回 第6課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第11回 第6課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第12回 第6課 (会話と単語) 第13回 第7課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第14回 第7課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第15回 第7課 (会話と単語) 第16回 復習 第17回 第8課 (本文の学習、練習) 第18回 第8課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第19回 第8課 (会話と単語) 第20回 第9課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第21回 第9課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第22回 第9課 (会話と単語) 第23回 第10課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第24回 第10課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第25回 第10課 (会話と単語) 第26回 第11課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第27回 第11課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第28回 第11課 (会話と単語) 第29回 総復習 第30回 到達度の確認 注：一年を通じて、「発音」と「基礎知識」、「自己紹介」「私の家族」「一日の生活」「趣味」「病気」「食事に行く」「スーパーに行く」「遊びに行く」「中国の観光スポット」「中国の交通」などの話題についての説明文、会話文、および翻訳について学ぶ。		
評価方法 (合計100%)	最終試験 (50%)、小テスト等 (20%)、授業への参加態度 (30%) などの各評価の合計により、総合的に判断する		
失格条件	次のいずれかに該当する場合、失格とする。 正当な理由がなく授業数の1/3以上欠席した場合 最終授業試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業の前に、前回学習した内容を確認し、その日学習する予定の箇所に目を通しておくこと。特に新出単語はチェックして、CD等で発音を確認しておくこと。(予習時間 1時間) ・学習したことは、できるだけその日のうちに復習しておこう。習った単語はピンインがなくても読めるように、また、漢字(簡体字)が正しく書けるように練習しておくこと。発音に関しては、テキスト付属のCDを使って繰り返し練習しよう。(復習時間 1時間) ・日頃から中国語を見たり聞いたりして慣れ親しみ、また中国に関連のあるものに対して、常に関心を持つことも大切である。		
課題へのフィード バック	小テストについては次回授業でコメント、解説する。 前期の期末試験については後期授業の初回でコメント、解説する。		
教科書	初級テキスト 日中いぶこみ広場		
著者名	相原茂・陳淑梅・飯田敦子		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他	2011年出版		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B08	期間	後期
授業科目名	中国語Ⅱ		
英訳科目名	ChineseⅡ		
担当教員名	張 焜		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	1.中国語の音に慣れ、ピンインがついていれば中国語の文章を音読できる。 2.教室における教師の中国語による指示を聞いて理解できる。 3.自分に関する簡単な情報(姓名、年齢、居住地、所属団体、家族のことなど)を中国語で表現できる。 4.日常的な事柄を簡単な中国語で表現できる。		
到達目標	1.文章を朗読し、内容が正確に伝わるレベルまで中国語の発音に習熟する。 2.語句の意味と用法、文化や風俗に関する簡単な談話を聞いて理解できるようになると同時に、それらについて教師に中国語で質問できるようになる。 3.日常的な事柄を簡単な中国語で表現できるようになる。 4.短い文章を読んで大意を理解し、それを中国語で表現できるようになる。		
授業計画	第1回 前期の復習 第2回 第12課 (本文の学習、練習) 第3回 第12課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第4回 第12課 (会話と単語) 第5回 第13課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第6回 第13課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第7回 第13課 (会話と単語) 第8回 第14課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第9回 第14課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第10回 第14課 (会話と単語) 第11回 第15課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第12回 第15課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第13回 第15課 (会話と単語) 第14回 第16課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第15回 第16課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第16回 第16課 (会話と単語) 第17回 会話練習1 第18回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第19回 該話題の復習 第20回 会話練習2 第21回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第22回 該話題の復習 第23回 会話の練習3 第24回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第25回 該話題の復習 第26回 会話の練習4 第27回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第28回 該話題の復習 第29回 総復習 第30回 到達度の確認 注：一年を通じて、「発音」と「基礎知識」、「自己紹介」「私の家族」「一日の生活」「趣味」「病気」「食事に行く」「スーパーに行く」「遊びに行く」「中国の観光スポット」「中国の交通」などの話題についての説明文、会話文、および翻訳について学ぶ。		
評価方法 (合計100%)	最終試験 (50%)、小テスト等 (20%)、授業への参加態度 (30%) などの各評価の合計により、総合的に判断する		
失格条件	次のいずれかに該当する場合、失格とする。 正当な理由がなく授業数の1/3以上欠席した場合 最終授業試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業の前に、前回学習した内容を確認し、その日学習する予定の箇所に目を通しておくこと。特に新出単語はチェックして、CD等で発音を確認しておくこと。(予習時間 1時間) ・学習したことは、できるだけその日のうちに復習しておこう。習った単語はピンインがなくても読めるように、また、漢字(簡体字)が正しく書けるように練習しておくこと。発音に関しては、テキスト付属のCDを使って繰り返し練習しよう。(復習時間 1時間) ・日頃から中国語を見たり聞いたりして慣れ親しみ、また中国に関連のあるものに対して、常に関心を持つことも大切である。		
課題へのフィードバック	小テストについては次回授業でコメント、解説する。		
教科書	初級テキスト 日中いぶこみ広場		
著者名	相原茂・陳淑梅・飯田敦子		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B03	期間	前期
授業科目名	市民性（シティズンシップ）育成論		
英訳科目名	Citizenship Education		
担当教員名	長谷川 精一、奥野 浩之、大橋 忠司、生駒 佳也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>従来より、日本社会は均質性が高いとされ、近年では一部の人々によって、日本「固有」の美点を自画自賛するような説が声高に叫ばれている。しかし、そのような説とは逆に、社会的経済的变化の中で、日本社会には異文化の要素が入るとともに、地域的、社会的、経済的な格差が拡大し、社会の多様化、複合化が進んでいる。このような状況の下で、様々な背景をもつ人々が差別・偏見を許さない社会的公平への信念をもち、互いの人権・人格を尊重し合うことが、今後の社会を展望する上で不可欠である。地球規模で人類全体の状況を理解し考慮するユニバーサルな視点と、自分が今そこで生きる地域の状況を理解し考慮するローカルな視点との両方もち、複眼的な思考ができる市民の存在が重要となっているのである。</p> <p>本講義では、4人の教員によるオムニバス形式で授業を展開し、批判的思考に基づいて、真摯な対話を通じて新しい社会の形成に積極的に参加するという、能動的な意味での市民性をどのように育成していくべきかについて、受講生のみなさんと共に考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>①市民性（シティズンシップ）とその育成に関する課題が理解できる。</p> <p>②社会的・倫理的責任を担う主体的・能動的な市民として、どのように行動するべきかを説明できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス（長谷川）</p> <p>第2回 現代的課題としての市民性（シティズンシップ）育成（長谷川）</p> <p>第3回 生涯学習者としての市民（生駒）</p> <p>第4回 地域社会構成者としての市民（生駒）</p> <p>第5回 生涯学習社会と地域社会への参加（生駒）</p> <p>第6回 市民としての社会参加：具体例から考える（生駒）</p> <p>第7回 日本国憲法における人権保障と市民性（奥野）</p> <p>第8回 日本国憲法の国民主権主義とポリティカル・リテラシーの育成（奥野）</p> <p>第9回 学校教育における市民性（シティズンシップ）育成（大橋）</p> <p>第10回 教科教育と市民性育成（大橋）</p> <p>第11回 「総合的な学習の時間」と市民性育成（大橋）</p> <p>第12回 「特別活動」と市民性育成（大橋）</p> <p>第13回 「特別の教科 道徳」と市民性育成（大橋）</p> <p>第14回 これからの教育への展望と市民性育成（大橋）</p> <p>第15回 授業のまとめ（長谷川）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>提出課題60%</p> <p>授業への参加態度40%</p>		
失格条件	<p>①出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする)</p> <p>②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）を掛けて取り組むこと。</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業で課題へのフィードバックを行う。</p>		
教科書	<p>特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>本授業では、講義形式に加えて、グループワークを行う。また、受講者の関心と理解度、受講生数に応じて計画を一部変更することがある。</p>		
備考	<p>教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（大橋）</p>		
科目生への開講	あり		



ナンバリング	CC200B04	期間	前期
授業科目名	共生社会論		
英訳科目名	Inclusive Society		
担当教員名	沼田 潤、大橋 忠司、田中 敏正、奥 忠憲		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	人間は様々な文化的・社会的背景を有している。例えば、民族、使用言語、ジェンダー、出身地、障がいの有無、病気の有無、経済的状況などが挙げられる。そして、多様な文化的・社会的背景を有する他者と共に、安心して生きていくことができる共生社会を実現していくことが今日的な重要課題として考えられるようになっていく。共生社会の実現に向けて、どのような問題があるのか、どのような取り組みが行われているのかを理解して、自らがどのように行動すべきかを考えていくことが欠かせない。本講義では、4人の教員によるオムニバス形式で授業を展開し、共生に関して多角的な観点から考察し、今後どのように共生社会を実現していくべきなのかを考える上での視点について受講生のみなさんと共に考えていきたい。		
到達目標	①共生に関する課題が理解できる。 ②共生社会の実現に向けてどのように行動すべきが説明できる。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス（沼田） 第2回 共生とは：偏見・差別を越えた共生社会に向けて（沼田） 第3回 心身の障がいに対する理解（田中） 第4回 障がいのある人々が直面する諸課題（田中） 第5回 障がいのある人々と共生する社会を目指して（田中） 第6回 共生社会の構築における基本的人権の重要性（奥） 第7回 日本国憲法における基本的人権の保障（奥） 第8回 現在の日本社会における労働をめぐる諸問題と共生社会への展望（奥） 第9回 学校教育における共生への課題と取り組み（大橋） 第10回 共生社会を目指す学校教育：教科教育に焦点を当てて（大橋） 第11回 共生社会を目指す学校教育：総合的な学習の時間・特別活動に焦点を当てて（大橋） 第12回 共生社会を目指す学校教育：「特別の教科 道徳」に焦点を当てて（大橋） 第13回 共生社会を目指す学校教育：インクルーシブ教育の理念と実践（大橋） 第14回 共生社会を目指す教育への展望（大橋） 第15回 授業のまとめ（沼田）		
評価方法 (合計100%)	提出課題60%、授業への参加態度40%		
失格条件	①出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする） ②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけた取り組み（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	本授業では、講義形式に加えて、グループワークを行う。また、受講者の関心と理解度、受講生数に応じて計画を一部変更することがある。		
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（大橋） 社会福祉施設での実務経験をもとに、この授業を進めます。（田中）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B05	期間	前期
授業科目名	現代社会とリテラシー		
英訳科目名	Literacies in Modern Society		
担当教員名	千葉 真也、黄 琬茜、猿山 隆子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>「リテラシー」という語は、もともとは「読み書きができる能力」（読解記述力）を意味していたが、今では単に言葉に関してだけでなく、表現されたものを理解して活用する力、分析して判断する総合的な力を表している。現代社会が直面する問題の中には、既存の学問では十分にとらえきれないもの、一つの学問分野には収まらない広がりを持つものも多い。本講義では、3人の教員によるオムニバス形式で、異文化、ジェンダー、言語、環境などの現代的問題について、多角的な観点から考察し、問題を正しく理解し、対処する方法としてのリテラシーという点から考察していく。</p>		
到達目標	<p>異文化・ジェンダー・言語・環境などの現代的問題について、理解、活用、分析、判断する力としてのリテラシーという点から、現代の社会が直面する多様な問題について対処する方法を主体的に考えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス：リテラシー概念と現代社会における様々なリテラシー（千葉）  第2回 「読み」のリテラシー（千葉）  第3回 異文化リテラシー（1）異文化リテラシーとは何か（黄）  第4回 異文化リテラシー（2）グローバル化における異文化リテラシーの現状（黄）  第5回 異文化リテラシー（3）母語習得と外国語活用能力（黄）  第6回 ジェンダーリテラシー（1）ジェンダー・リテラシーとは何か（黄）  第7回 ジェンダーリテラシー（2）ライフ・コースと結婚・出産（黄）  第8回 ジェンダーリテラシー（3）国際結婚とジェンダー・リテラシー（黄）  第9回 言語リテラシー（1）生活に根ざした教育—生活綴方教育（猿山）  第10回 言語リテラシー（2）おとなの自己教育運動—生活記録運動（猿山）  第11回 言語リテラシー（3）自己に直面するものとしての記録—自分史（猿山）  第12回 環境リテラシー（1）環境問題と記録（猿山）  第13回 環境リテラシー（2）水俣の記録とその意味を事例として（猿山）  第14回 環境リテラシー（3）水俣にみる自治と共生の思想を事例として（猿山）  第15回 まとめ（千葉）</p>		
評価方法 (合計100%)	提出課題60%、授業への参加度40%		
失格条件	<p>①出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする）  ②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけて取り組むこと。  （大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。</p>		
課題へのフィードバック	授業中で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B06	期間	後期
授業科目名	食と健康		
英訳科目名	General Introductions to the Food and Health		
担当教員名	庄條 愛子、角谷 勲、藤本 繁夫、品川 英朗、上田 秀樹、竹山 育子、杉山 文、古川 和子、今井 ももこ、小野 くに子、金石 智津子、水野 淨子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「抗酸化食品」、「スーパーフード」、「アンチエイジングフード」など食と健康に関連するキーワードが、SNSやwebでも日常的に使われています。これらの食品の詳しい内容や身体で働きは、難しそうだから何か良さそうと思っています。本講義は、毎日食べる「食べ物」や身体の中での働きについて、「食と健康」をテーマに総合的に学ぶことを目的とします。		
到達目標	食と健康に関する正しい知識を身に付け、自らの生活に反映させることができる。		
授業計画	<p>第1回 食べ物と健康分野：食品の意義・目的と健康との関連性について(庄條)</p> <p>第2回 食べ物と健康分野：SNSやWebで人気の食品について(庄條)</p> <p>第3回 食べ物と健康分野：食品加工と発酵食品について(庄條)</p> <p>第4回 食べ物と健康分野：調理と健康について(杉山)</p> <p>第5回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち分野：食べ物と身体を構成する物質について(水野)</p> <p>第6回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち分野：食べ物と身体について(藤本)</p> <p>第7回 基礎栄養学分野：身体の中での食べ物の変化について(今井)</p> <p>第8回 応用栄養学分野：様々な年齢のヒトの身体と食べ物について(品川)</p> <p>第9回 栄養教育論分野：第三者への食べ物と健康の指導方法について(小野)</p> <p>第10回 臨床栄養学分野：健康・疾病と食べ物について(竹山)</p> <p>第11回 臨床栄養学分野：健康・疾病と食べ物について(金石)</p> <p>第12回 公衆栄養学分野：健康・疾病と食べ物に関する政策について(古川)</p> <p>第13回 公衆栄養学分野：健康・疾病と食べ物に関する政策について(上田)</p> <p>第14回 給食経営管理分野：健康・疾病と食べ物と給食について(角谷)</p> <p>第15回 まとめ：「食と健康」とは？発達栄養学科の取り組みを紹介(庄條)</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席・遅刻、居眠り、スマートフォン使用や講義中の私語などの授業の参加態度：50%</li> <li>・課題・レポートの提出：50%</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格</li> <li>・5分以上の遅刻は欠席</li> <li>・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席</li> <li>※電車遅延は、遅刻理由として考慮しません</li> <li>・レポート・課題など未提出</li> <li>※本やWebの内容を丸写ししたレポートや課題は、認めない</li> <li>※※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の生活における「食と健康」と運動・行動内容を関連付けて考える</li> <li>・日常生活の食や栄養、健康についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習として各2時間の学習を実施すること</li> </ul>		
課題へのフィード バック	提出された課題・レポート、ミニッツペーパーは教員が点検・添削し、効果的な学習のための指導を行う		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	各教員が、講義の際に指定します		
その他	講義に出るだけでなく、講義ごとの学習内容をノートにまとめたり、図書館で関連する資料を借りて読むことなど理解を深める努力をすること		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B07	期間	後期
授業科目名	生活文化を知る		
英訳科目名	Life Culture in Society		
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>日本の文化は日本人の社会生活の中で生まれ育ってきました。このように、文化は、ある社会における共通認識、共通言語ということが出来ます。</p> <p>戦後の物資の乏しかった時期から高度経済成長期、バブル期そしてバブルの崩壊、経済の変動と科学技術の進展により、私たちを取り巻く社会は60年余りの間に大きく変化してきました。それに伴い、私たちの生活も大きく変化しました。</p> <p>本講義では、経済成長と共に変化してきた私たちの生活を通して、私たちの文化の移り変わりについて考察すると共に、日本の特徴的な時代における生活文化を概観します。</p>		
到達目標	生活に見られる文化の諸相について、知ることができる。		
授業計画	<p>第1回 本授業について</p> <p>第2回 日本人の生活と文化はどのようなものだったの？</p> <p>第3回 戦後の都市生活と文化</p> <p>第4回 高度経済成長期の生活と文化</p> <p>第5回 東京オリンピックと大阪万博</p> <p>第6回 ファーストフードと歩行者天国</p> <p>第7回 バブル期の社会と生活文化</p> <p>第8回 バブル崩壊後の社会と生活文化</p> <p>第9回 これからの社会生活と文化</p> <p>第10回 まとめと理解の確認1</p> <p>第11回 平安時代の生活と文化</p> <p>第12回 江戸時代の生活と文化</p> <p>第13回 明治時代の生活と文化</p> <p>第14回 大正から昭和初期の生活と文化</p> <p>第15回 まとめと理解の確認2</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 30%</p> <p>小レポート 30%</p> <p>最終レポート 40%</p>		
失格条件	<p>1.最終レポートを提出していない場合</p> <p>2.実授業回数の2/3以上の出席回数がない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>&lt;予習&gt;</p> <p>図書館やパソコン演習室を活用して、食に係わる新聞記事や関連資料を調べるなど、積極的に情報を取り入れるように務めて下さい。(予習 2時間)</p> <p>&lt;復習&gt;</p> <p>授業で取り上げた内容をまとめて下さい。(復習 2時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>小レポートについては、授業時間内に個別もしくは全体にコメントします。</p> <p>最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A02	期間	前期
授業科目名	図書館概論		
英訳科目名	Introduction to Library and Information Science		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>この科目は図書館司書の資格を取りたい人が最初に受ける科目です。ただ、2019年度に1回生の人は、共通教育科目として、司書の資格を目指していない人も受けることができます。1回生の人はこの授業を受けていく中で、司書の資格を取るかどうか決めてもらえればと思います。</p> <p>まず、「図書館の思い出」を思い出してもらいます。学校の図書室以外は全く思い出せない人がいるかもしれません。</p> <p>次に司書になるにはどうすればいいかを説明します。実は終身雇用の司書になるのは簡単ではありません。図書館で働いている司書はパートやいわゆる契約社員が多いのです。なぜそのような状況になっているのか、日本の図書館の状況を説明します。</p> <p>その後、「なぜ税金を使って図書館を無料で使えるようにしているのか、図書館とは何なのか」や「マンガを図書館でどの程度買うべきか」「電子書籍の時代に図書館は何をしようとしているのか」などを説明し、「図書館は今後どうなっていくのか」を皆さんと一っしょに考えていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共図書館・学校図書館(図書室)・大学図書館の違いを説明することができる。</li> <li>・図書館司書の資格を取るには、司書として働くにはどうすればいいか説明することができる。</li> <li>・図書館が無料で利用できる理由を説明することができる。</li> <li>・司書がどのようなところに注意しながら仕事をしているか、一般人の判断と司書の判断の違いを説明することができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 図書館の体験の共有</p> <p>第2回 司書になるには</p> <p>第3回 図書館の意義と役割</p> <p>第4回 図書館の歴史</p> <p>第5回 図書館の機能と種類</p> <p>第6回 図書館のサービス</p> <p>第7回 図書館のコレクション</p> <p>第8回 図書館の情報組織化</p> <p>第9回 図書館のネットワーク</p> <p>第10回 電子書籍時代の図書館</p> <p>第11回 図書館利用教育と情報リテラシー</p> <p>第12回 図書館経営</p> <p>第13回 図書館と博物館の違い</p> <p>第14回 知的自由と図書館の自由</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>大学に来るたびに相愛の図書館の中に入ってください。図書館について学ぶのですから、本を読むことの他に、図書館内のどういうところに何があるのかや、司書さんはどういう仕事をしているのか、など、図書館の仕組みを週に1回は観察してみてください。また、市立図書館など、他の図書館に実際に行って見てくることも必要です。図書館が出てくる小説やマンガを見て、現実との違いを考えるのもいいことです。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。</li> <li>・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。</li> <li>・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	今まど子・小山 憲司 編著『図書館情報学基礎資料』樹村房, 2016, 978-4883672660		
その他	授業の中ではただ聞くだけではなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B08	期間	後期
授業科目名	音楽の楽しみ		
英訳科目名	Introduction to music		
担当教員名	黒坂 俊昭、稲垣 聡、赤石 敏夫、中谷 満、前田 昌宏、松本 直祐樹、清水 信貴、斎藤 建寛、石村 真紀、井上 麻紀、橋田 光代、大谷 玲子、志村 聖子、岡坊 久美子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	西洋クラシック音楽と一口に言っても、その内容は極めて広範である。時代、作曲家、国や地域にとらわれず、音楽学部教員がオムニバス形式で、これまでの音楽生活の中で着目した楽曲、学生諸君に聴かせたいと感ずる楽曲を個々の視点から選び、解説を交えて音源(CD、DVD等)を試聴、あるいは生演奏を披露し「音楽の感動」を求めていく。		
到達目標	クラシック音楽の個々の作品に接する機会を通じて、音楽の読み解き方を理解することができる。		
授業計画	<p>各回、以下の教員による授業を予定する（急遽変更の可能性あり）。</p> <p>内容についてはポータル等で追って発表する。</p> <p>第1回 授業内容と進め方の説明 コーディネーター：橋田光代</p> <p>第2回 斎藤建寛（チェロ）</p> <p>第3回 大谷玲子（ヴァイオリン）</p> <p>第4回 赤石敏夫（音楽理論）</p> <p>第5回 松本直祐樹（作曲）</p> <p>第6回 中谷満（打楽器）</p> <p>第7回 井上麻紀（ピアノ）</p> <p>第8回 黒坂俊昭（音楽学）</p> <p>第9回 前田昌宏（サクソフォン）</p> <p>第10回 志村聖子（音楽マネジメント）</p> <p>第11回 橋田光代（音楽情報学）</p> <p>第12回 清水信貴（フルート）</p> <p>第13回 石村真紀（音楽療法）</p> <p>第14回 岡坊久美子（声楽）</p> <p>第15回 稲垣聡（ピアノ）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回、授業の後に復習としてレポートを作成する。</p> <p>15回分の合計を100%に換算（7%×15回÷1.05）して、成績とする。</p>		
失格条件	6回の欠席に到達した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>この授業は、復習を重視する。毎回、授業の後に、レポートとして、所定の用紙に、授業のまとめ（約200字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約200字）、あわせて約400字を記し、提出すること。（所要時間4時間）。</p> <p>提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明する。</p>		
課題へのフィードバック	必要に応じて、個別または授業時に全体に向けてフィードバックする。		
教科書	不使用。授業によって、プリントを配布することがある。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-091

ナンバリング	CC200B09	期間	集中
授業科目名	異文化を知る (海外研修実践)		
英訳科目名	Cross-Cultural Training (Short-Term Study Abroad Program)		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この科目の受講者は、8月に実施される本学の「海外研修」に参加し、帰国後に課題を提出することが求められる。「海外研修」では、ハワイ大学マノア校または英国バンガー大学で実施される3週間の夏期語学研修プログラムに参加し、英語によるコミュニケーション力を養うとともに、米国の文化や自然を体験する。 なお、渡航の手続きを含め、「海外研修」のための事前指導を6～7回、また帰国後も事後指導と報告会をキャンパスタイムに行う。受講者は、この事前・事後指導にも原則として毎回出席するものとする。 また、最後に課題を提出する。		
到達目標	渡航に必要なさまざまな手続きを行うことができる。 英語でコミュニケーションを図ることができる。 異なる文化・習慣を持つ人々とのコミュニケーションとはどのようなものかを知ることができる。 米国または英国の文化の一端を知ることができる。		
授業計画	木曜日5限に67回事前指導を行う。 その中で、渡航の手続きを行ったり、渡航・研修における注意点を確認したり、さらには研修中に行われる「交流会」におけるプレゼンテーションの準備なども行う。 事前指導にはe-ラーニングも利用する。  8月末 出国 海外研修期間3週間 9月下旬頃 帰国  帰国後、キャンパスタイムに事後指導と報告会を行う。		
評価方法 (合計100%)	事前・事後指導への参加態度30% 「海外研修」40% 報告会・課題30%		
失格条件	以下のいずれかに該当する場合 1.事前・事後指導を正当な理由なく4回以上欠席した場合 2.夏期語学プログラムに参加しなかった場合 3.報告会への参加、課題の提出のいずれかを行わなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 8月の海外研修のための事前指導に参加し、自分ですべき必要な手続きや準備を期限内にきちんと行う。 米国または英国での研修に備えて、英語のリスニングの練習や英語の表現の暗記などをする。  復習： ハワイ大学マノア校または英国バンガー大学のプログラムで出された宿題をこなし、クラスや日常生活の中で覚えた単語や表現、異文化体験を書き留める。 (帰国後) 米国または英国で学んだことを、自分なりに振り返り、まとめる(報告会で発表・課題として提出)		
課題へのフィードバック	実技、実習の取り組みに対して個別にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	事前・事後指導には、辞書を持参すること。		
備考			
科目生への開講	なし		







## 5. 人間発達学部





5-001

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	人間発達論		
英訳科目名			
担当教員名	渡部 美穂子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	現在の発達心理学とは、胎児期から青年期、成人期のみならず中年期、高齢期および死の瞬間まですべての段階における生涯の変化をとらえている。本講義では、それぞれの段階における発達の特徴、個人内の変化や社会化の過程について理解を深めることを目的とする。さらに、高齢化社会における介護や看取りといった、人生の晩年に関わるさまざまな問題をテーマにした講義、ディスカッションなどを通じて、自分だけでなく他者の人生についても深く考えてもらいたい。		
到達目標	生涯発達の観点から、人の行動や思考の特徴を理解できる。 自分の考えだけにとらわれず、他者の視点に立って物事をとらえることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 生涯発達心理学の基礎 第3回 胎児期・乳児期 第4回 幼児期 第5回 児童期前期 第6回 児童期後期 第7回 青年期前期 第8回 青年期後期 第9回 ここまでのまとめと確認 第10回 成人期前期 第11回 成人期中期 第12回 成人期後期 第13回 高齢化社会における問題（1） 看護、介護 第14回 高齢化社会における問題（2） 看取り 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（授業内に指示する課題への取り組みを含む） 30% 授業内容の理解度（試験）：70%		
失格条件	1.最終の試験を受験しなかった場合 2.出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業後には、板書したものをもとに内容を確認しながらノートをまとめる（復習3時間） 指示した課題に取り組むとともに、授業内で取り上げる社会問題についての知識をメディアなどから積極的に取り入れるようにする（予習1時間）		
課題へのフィードバック	授業において、課題へのフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	FN100A01	期間	前期
授業科目名	ベーシックセミナー		
英訳科目名	Basic Seminar		
担当教員名	進藤 容子、馬場 義伸、前田 雅章、実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>本科目は、新入生が大学での学修の成果をあげ、有意義な大学生生活を過ごせるように、大学での学修にむけた自覚を促すと共に、学ぶことの基本姿勢を身につけ、主体的な学修者となるための基礎を身につけることを目標とします。</p> <p>授業方法は、全体説明の後、少人数に分かれての実施とします。前半は、大学での学修について考えるグループワークや、実際に図書館利用などの方法を体験します。その後、テーマに従って、主体的な学修過程を体験することで、学ぶことの姿勢や視点、学びのスキルを身に付けていきます。</p>		
到達目標	<p>①大学で求められる学修に必要な教育資源の活用についての「できる感覚」をもてる。</p> <p>②大学での学びに対し、自分自身がどのような意識と態度で望めばよいかかわかる。</p> <p>③学び合う態度を身につけることができる。</p> <p>④提出物を作成し提出することや、必要な情報を確実に得ることなど、大学の学修に不可欠なスキルを身につけることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 授業の目的、達成目標、内容、方法など</p> <p>第2回 大学の授業とは</p> <p>第3回 図書館活用演習① 大学図書館とは</p> <p>第4回 図書館活用演習② 図書館見学</p> <p>第5回 図書館活用演習③ OPAC活用方法の習得</p> <p>第6回 レポート作成演習① レポートの書き方 構成の仕方</p> <p>第7回 レポート作成演習② 図書館で借りた本を活用したレポート作成</p> <p>第8回 課題取組み演習① 大学の施設・情報に気づく</p> <p>第9回 課題取組み演習② 大学の施設・情報を調べる</p> <p>第10回 レポート作成演習③ さらによいレポートをめざす</p> <p>第11回 課題取組み演習③ 入学前課題をテーマに課題研究（ディスカッション）</p> <p>第12回 課題取組み演習④ 入学前課題をテーマに課題研究（調べる・まとめる）</p> <p>第13回 課題取組み演習⑤ 入学前課題をテーマに課題研究（発表準備）</p> <p>第14回 課題取組み演習⑦ 発表</p> <p>第15回 ふり返り 大学生活で自らがすべきこと</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 40%</p> <p>課題 60%</p>		
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>ほぼ毎回課題があるため、図書館やパソコン室を積極的に利用して、関連資料の収集や課題作成をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク等への準備（1回の授業に対し2時間）</li> <li>・課題の取組み等（1回の授業に対し2時間）</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題については、ルーブリックを用いてフィードバックする</li> <li>・授業ごとの課題については、必要に応じ個別または全体にコメントする</li> </ul>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	改訂版「知のツールボックスー新入生援助（フレッシュマンおたすけ）集」、専修大学出版企画委員会 編		
その他	20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	健康管理論		
英訳科目名			
担当教員名	進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>健康は、QOL（生活の質）の基本的条件となるものです。健康な状態であるためには、個人的、社会的両面からの考慮や配慮、行動やしきみづくりが必要となります。これが健康管理です。健康管理には、健康とは何か、健康を脅かす要因は何かを正しく理解することが必要です。また、社会的な健康づくりのしきみもふまえた、適切な健康行動をとることが求められます。授業では、このようなしきみや行動について、日常生活を題材に学んでいきます。</p> <p>さらに、保育者・教育者には、子どもの健やかな育ちを支援し、学習環境を整えることが望まれます。健康管理を健康教育の視点からとらえ、ライフスキルとして修得する過程を体験し、意識化することで、保育・教育現場にいかす力につなげていきます。</p>		
到達目標	<p>①健康に対する意識を高め、正確な情報に基づく健康行動を考える重要性に気づける。</p> <p>②健康行動をとるために獲得すべきスキルに気づき、応用することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業概要の説明 健康管理って何だろう</p> <p>第2回 健康基礎知識 (1) 死因から見る健康管理</p> <p>第3回 健康基礎知識 (2) 感染症から見る健康管理</p> <p>第4回 健康基礎知識 (3) 生活リズムと心身の健康1 (概説)</p> <p>第5回 健康基礎知識 (4) 生活リズムと心身の健康2 (事例)</p> <p>第6回 健康基礎知識 (5) 生活リズムと心身の健康3 (科学的根拠)</p> <p>第7回 健康行動実践 (1) 課題を考える</p> <p>第8回 健康行動実践 (2) 方策を考える</p> <p>第9回 健康行動実践 (3) 計画を考える</p> <p>第10回 健康基礎知識 (6) 第一次予防、第二次予防、第三次予防</p> <p>第11回 健康行動実践 (4) ふり返り</p> <p>第12回 健康基礎知識 (7) 社会的な健康管理のしきみ</p> <p>第13回 健康管理について理解を深める (1) 健康行動理論から</p> <p>第14回 健康管理について理解を深める (2) 授業での実践から</p> <p>第15回 ふり返りとまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度40%</p> <p>レポート 60%</p>		
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・各自が設定する課題にそって日常生活の振りかえりや、調べ学習を行っておく (2時間)。</p> <p>・「気づき」の学習に対し必要な情報を提示するので、各時間のテーマに関連付けてまとめを行う (2時間)。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・提出された健康管理報告について、全体に共有し教材として活用する。</p>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。</p> <p>授業に必要な資料は、その都度プリントとして配布します。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	人間関係とコミュニケーション/コミュニケーション論		
英訳科目名			
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>私たちは幼い頃から、周囲の人たちとのコミュニケーションを通して人間関係を築く術を身につけていく。現代社会においては、地域社会とのつながりや世代を超えた交流が減少する反面、親しい間柄・気の合う仲間だけでのSNSによる交流が増加するなどの変化が生じている。また、他者の意見に簡単に流されたり、反対に過剰に攻撃するなど、コミュニケーション力（りょく）の低下がみられることも指摘されている。この授業では、心理学、特に社会心理学や臨床心理学の視点から、コミュニケーションについての理論を学ぶ。また、自分自身と他者の理解につとめ、人間関係やコミュニケーションに関する様々な問題について熟考することによって、日常生活で生じる困惑や葛藤への対処方法についても考える。</p>		
到達目標	<p>(1)よい良い人間関係を築くための基本的な知識や技法を理解することができる。  (2)自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションに活かすことができる。  (3)人間関係における諸問題に関心を持ち、自分の意見や考えを伝えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションの基本構造  第2回 自己理解：自己概念をつくるもの  第3回 他者理解：思い込みをつくるもの  第4回 人間関係に関する社会心理学的研究  第5回 コミュニケーションにおける個人差  第6回 対人行動・態度  第7回 人間関係の維持・進展と崩壊のプロセス  第8回 コミュニケーションの文化的差異  第9回 怒りの感情表出とコミュニケーション  第10回 援助的コミュニケーション  第11回 役割理論とパーソナリティ  第12回 コミュニケーション力向上へのスキル (1) アサーティブなコミュニケーション  第13回 コミュニケーション力向上へのスキル (2) 雑談力  第14回 コミュニケーションにおける諸問題  第15回 まとめと内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>(1)提出課題（毎回授業後）：30%  (2)試験：70%</p>		
失格条件	<p>以下のうち1つでも該当すると失格となる。  (1)欠席が3分の1を超えた場合  20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。  (2)未提出の課題が3分の1を超えた場合  (3)試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 次回の内容を示したシートを元に、自分なりの考えをまとめる（予習：1時間）。  ・ 返却された課題のまとめ直し、授業内で学んだ内容を確認する（復習：3時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・ 提出課題は次回の授業時間内に返却し解説する。  ・ 配付資料およびスライド資料はポータルサイトに掲載し、課題のポイントを示す。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	文化と社会		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	日本の文化は日本の社会の中で生まれ育ってきました。このように、文化は、ある社会における共通認識、共通言語ということが出来ます。戦後の物資の乏しかった時期から高度経済成長期、バブル期そしてバブルの崩壊、経済の変動と科学技術の進展により、私たちを取り巻く社会は60年余りの間に大きく変化してきました。それに伴い、私たちの生活も大きく変化しました。 本講義では、経済成長と共に変化してきた私たちの生活を通して、文化と社会の変化について考察します。		
到達目標	文化と社会のかかわりについて、知ることができる。		
授業計画	第1回 本授業について 第2回 日本人の生活と文化 第3回 戦後の都市生活と文化 第4回 高度経済成長期の社会と文化 第5回 東京オリンピックと大阪万博 第6回 ファーストフードと歩行者天国 第7回 バブル期の社会と文化 第8回 バブル崩壊後の社会と文化 第9回 これからの社会と文化 第10回 まとめと理解の確認1 第11回 暦ってなに？ 第12回 暦を知ろう①～調べる～ 第13回 暦を知ろう②～まとめる～ 第14回 暦を知ろう③～発表する～ 第15回 まとめと理解の確認2		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	30%	
	小レポート	30%	
	最終レポート	40%	
失格条件	1.最終レポートを提出していない場合 2.10回以上の出席回数がない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<予習> 図書館やパソコン演習室を活用して、子どもに係わる新聞記事や関連資料を調べるなど、積極的に情報を取り入れるように務めて下さい。(予習 2時間) <復習> 授業で取り上げた内容をまとめて下さい。(復習 2時間)		
課題へのフィードバック	小レポートについては、授業時間内に個別もしくは全体にコメントします。 最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。		
教科書	特に使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて、紹介します。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CD105C01	期間	前期
授業科目名	保育カウンセリング		
英訳科目名			
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	子どもを取り巻く環境は時代と共に変化しており、それに伴って様々な個人的・社会的問題が生じており、保育者に求められるニーズも多様化している。そのため保育者には、子ども一人ひとりを理解し対応すると同時に、集団として子どもたちを適切かつ安定的に保育する力も期待されている。さらに、子どもや保護者の声に耳を傾け支援する、カウンセラー的力も必要とされている。この授業では、カウンセリングの基本的な考え方や技法を学び、カウンセリング・マインドを身につけるための演習を行なう。また、保護者への対応についても事例を通して実践的に学ぶ。		
到達目標	(1) 保育カウンセリングの意義と必要性を理解することができる。 (2) 現代社会の特徴と子ども・保護者の関係を包括的に捉える視点を持つことができる。 (3) カウンセリングの理論や技法を理解し、適切に対応できる力をつけることができる。		
授業計画	第1回 保育カウンセリングのめざすもの 第2回 自己理解 (1) コミュニケーションパターン 第3回 自己理解 (2) 価値観 第4回 カウンセリングの基礎 (1) 理論 第5回 カウンセリングの基礎 (2) 基本的技法 第6回 カウンセリング技法の実践 (1) 傾聴 第7回 カウンセリング技法の実践 (2) 受容・共感 第8回 心理発達アセスメント (1) 発達検査 第9回 心理発達アセスメント (2) 観察と記録の方法 第10回 子ども理解と関わり (1) 発達の理解と諸問題 第11回 子ども理解と関わり (2) 応用行動分析の基礎 第12回 子ども理解と関わり (3) 応用行動分析の応用 第13回 保護者への対応と支援 第14回 地域社会・関係機関との連携 第15回 まとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	(1) 提出課題 (毎回) : 20% (2) ワークシート : 20% (3) 試験 : 60%		
失格条件	以下のうち1つでも該当すると失格となる。 (1)欠席が3分の1を超えた場合 20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。 (2)未提出の課題が3分の1を超えた場合 (3)試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・ 次回の内容を示したシートを読み、自分なりの考えをまとめる (予習 : 1時間)。 ・ 返却された課題のまとめ直し、授業内で学んだ内容を確認する (復習 : 3時間)。		
課題へのフィード バック	・ 提出課題やワークシートは次回の授業時間内に返却し解説する。 ・ 配付資料およびスライド資料はポータルサイトに掲載し、課題のポイントを示す。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業で随時紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり (※子ども発達学科卒業生のみ対象)		



5-007

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	学校カウンセリング		
英訳科目名			
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>発達に伴って子どもの生活の場が広がってくると、家族・友人関係、学業などの不安や悩みは増していく。こうした試練は子どもの発達においてはつきものであるが、早めに対応しなければ悪化するケースも多い。また、子どもを取り巻く環境も多様化しており、早期発見・早期対応の必要性がますます高まっている。本授業では、学校現場で活かせるカウンセリングの理論及び方法、子どもの特性を理解するための心理アセスメント、保護者対応、学内・外の機関との連携についても学ぶ。さらに、新聞記事などから時事情報も取りあげて考えを深め、実践力をつける。</p>		
到達目標	<p>(1)教師がカウンセリングの理論・技法を身につけることの必要性を理解できる。  (2)カウンセリングに関する基礎的な知識と理論及び方法を適切に運用できる。  (3)学校カウンセリングの機能と役割、学内・外の連携について理解を深められる。  (4)子どもの心理面をサポートする実践力を身につけることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 学校カウンセリングの機能と役割  第2回 カウンセリングの理論と技法 (1) カウンセリングの諸理論  第3回 カウンセリングの理論と技法 (2) 基本的技法  第4回 カウンセリングの実際  第5回 心理アセスメントの種類と実施方法  第6回 心理アセスメントの実際  第7回 児童期にみられる発達上の問題  第8回 児童期に現れやすい心理的問題と症状  第9回 学校現場での支援の実際  第10回 問題行動・不適応行動の理解と援助 (1) 不登校  第11回 問題行動・不適応行動の理解と援助 (2) いじめ  第12回 保護者との関係作りと対応  第13回 学校内の組織と運営  第14回 他機関との連携と学校カウンセリングにおける今後の問題  第15回 まとめと内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>(1)提出課題 (毎回授業後) : 20%  (2)ワークシート : 20%  (3)試験 : 60%</p>		
失格条件	<p>以下のうち1つでも該当すると失格となる。  (1)欠席が3分の1を超えた場合  20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。  (2)未提出の課題が3分の1を超えた場合  (3)試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 次回の内容を示したシートを読み、自分なりの考えをまとめる (予習 : 1時間)。  ・ 返却された課題のまとめ直し、授業内で学んだ内容を確認する (復習 : 3時間)。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・ 提出課題やワークシートは次回の授業時間内に返却し解説する。  ・ 配付資料およびスライド資料はポータルサイトに掲載し、課題のポイントを示す。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に随時紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	教育心理学（子ども）		
英訳科目名			
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	学校教育現場において子どもが直面する問題はさまざまである。そうした問題への支援方法を検討するに当たっては、発達心理学や教育心理学、学習心理学、臨床心理学などの幅広い知見を応用することが求められる。本講義の目的は、子どもの発達段階の特性や人格形成についての知識を基礎として、子ども一人ひとりの理解のための理論と対応方法を学ぶことである。また、子どもの心理学的現象や、不登校・いじめの問題も取り上げて理解を深め、教育現場における学内・学外の連携など、子どもを支援する体制を総合的に学ぶ。		
到達目標	(1)子どもの発達段階の特徴や個人差を理解することができる。 (2)子どもの力を伸ばし支えるために、教育者として何が求められるかを理解することができる。 (3)子どもの心理学的変化や、適応の問題などを包括的に捉える思考力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 発達の理解 (1) 発達観と認知発達 第2回 発達の理解 (2) 言語の発達 第3回 性格の形成 第4回 社会的スキル 第5回 動機づけ (1) 動機づけの基礎 第6回 動機づけ (2) 動機づけの応用 第7回 記憶のメカニズムと認知プロセス 第8回 学級の間関係 第9回 教育評価 第10回 授業のタイプと個人差に応じる指導 第11回 不適応行動の理解と対応 第12回 心理教育アセスメント 第13回 発達障害の理解 (1) 理論 第14回 発達障害の理解 (2) 支援 第15回 まとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	(1)提出課題（毎回）：20% (2)小テスト：20% (3)試験：60%		
失格条件	以下のうち1つでも該当すると失格となる。 (1)欠席が3分の1を超えた場合 20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。 (2)未提出の課題が3分の1を超えた場合 (3)試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・ 次回の内容について教科書を読み、自分なりの見解を持つ（予習：2時間）。 ・ 授業を通して理解した内容と返却した課題をまとめる（復習：2時間）。		
課題へのフィード バック	・ 提出した課題（まとめ問題）は次回の授業時間内に返却し解説する。 ・ 配付資料およびスライド資料はポータルサイトに掲載し、課題のポイントを示す。 ・ 小テストは実施の次回に返却し解説する。		
教科書	『精選 コンパクト教育心理学—教師になる人のために』		
著者名	北尾倫彦・林龍平・高岡昌子・中島実・広瀬雄彦・伊藤美加		
出版社	北大路書房		
参考書	授業中に随時紹介する。		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD104A05	期間	後期
授業科目名	発達心理学/保育の心理学		
英訳科目名	Psychology of Childcare		
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	誕生から死に至るまで、生涯発達の視点から捉えるのが発達心理学である。本講義では、乳幼児期を中心にその過程について基礎的な内容を学ぶ。各段階における発達の特徴を理解し、認知や言語、社会性、人間関係の発達などの側面から人間特有の発達について理解を深める。特に、幼児期・児童期は、多様な能力が伸びる時期であり、時代の変化の影響も受けやすい。この時期の子どもを取り巻く社会的問題や現象も取り上げ理解を深める。さらに、発達につまづきがある場合の特徴を理解し、心理的支援や指導のための基礎を学ぶ。		
到達目標	(1)発達過程において、各発達段階の特徴と変化の過程を理解することができる。 (2)各発達段階で生じやすい課題とその要因について考察できる。 (3)自らの成長・発達過程を振り返り、発達についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回 発達心理学とは：発達過程の特徴 第2回 胎児期・新生時期の発達の特徴 第3回 乳児期の発達の特徴 第4回 幼児期前期の発達の特徴 第5回 幼児期後期の発達の特徴 第6回 児童期の発達の特徴 第7回 青年期の発達の特徴 第8回 成人・老年期の発達の特徴 第9回 感覚・知覚と認知の発達 第10回 言語の発達 第11回 社会性・道徳性の発達 第12回 自己理解・他者理解の発達 第13回 人間関係の発達 (1) 親子関係 第14回 人間関係の発達 (2) 仲間関係 第15回 まとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	(1)提出課題 (毎回) : 10% (2)小テスト (4回実施) : 30% (3)試験 : 60%		
失格条件	以下のうち1つでも該当すると失格となる。 (1)欠席が3分の1を超えた場合 20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。 (2)試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・ 次回の内容を示したシートを元に調べて、自分なりの考えをまとめる (予習 : 1時間)。 ・ 返却された課題のまとめ直し、授業内で学んだ内容を確認する (復習 : 3時間)。		
課題へのフィード バック	・ 提出した課題 (まとめ問題) は次回の授業時間内に返却し解説する。 ・ 配付資料およびスライド資料はポータルサイトに掲載し、課題のポイントを示す。 ・ 小テストは実施の次回に返却し解説する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に随時紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD109C01	期間	後期
授業科目名	子どもの遊びと文化		
英訳科目名	Play and Culture of children		
担当教員名	中西 利恵		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	遊びを中心とした子育て（保育）文化や、その文化の継承の重要性と方法について理解を深める。大学内施設を活用して、地域の保育施設（保育園5歳児）とさまざまな遊びを中心とした交流活動を実施する。子どもたちが感動体験できるような活動のあり方や指導方法について実践を通して学ぶ。具体的な活動計画の立案と実行を試みるうえで、その方法を採り、検証する。さらに、遊び文化の伝承をめざし、保護者や地域の老人会と連携した活動も企画する。就学前教育と小学校教育の円滑の連携のあり方として、遊びを活用した方法についても探る。先生力として必要な専門性を高めることにもつなげる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを通じた感動体験プログラムが立案でき、それに基づき活動を展開できる。</li> <li>・子どもたちとともに感動体験を共感でき、自己評価を適切に行い、次の活動に向けた改善ができる。</li> <li>・準備や立案、実施にあたり協働して取り組むことができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実践事例から方法等の研究 ① さまざまな事例から考える 第3回 実践設計と準備 ① 2回の実践内容の検討 第4回 実践設計と準備 ② 全体計画の検討 第5回 実践設計と準備 ③ 指導計画の作成 第6回 模擬実践 第7回 実践（1） 年長（5歳児）クラス対象の保育実践 第8回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し① 第9回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し② 第10回 実践設計と準備 指導計画の作成 第11回 模擬実践 第12回 実践（2） 年長（5歳児）クラス対象の保育実践 第13回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し① 第14回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し② 第15回 教育的ドキュメンテーションの実践		
評価方法 (合計100%)	授業への取り組み態度	50%	
	企画立案、レポート提出、教材準備等	50%	
失格条件	出席時数が15回の3分の2に達しない場合 「実践」を正当な理由なく欠席した場合 実践の準備や計画を協力して行わなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1.活動計画の検討のための情報収集を行うこと。（予習：4時間） 2.参画する子どもの年齢等に配慮し教材研究を行うこと。（予習&復習：6時間） 3.活動計画を立案し、実践準備をすること。（予習：6時間） 4.実践のふりかえりを行い、レポートを作成すること。（復習：4時間） 5.多様な人々との交流や協同的な取り組みを日常において積極的に設けること。（予習・復習：日常的に）		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・保育実践の取り組みに対しては、ドキュメンテーションを活用してコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業の中で随時紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	ICT活用教育		
英訳科目名			
担当教員名	横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本授業では、学校現場におけるICT活用に関する基本的事項を学び、情報活用考察する。また、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりまとめたりするために、情報機器を活用して効果的な教材等を作成・提示する方法を理解する。学習活動や環境構成ができるようになるための基礎的な知識や技能の理解をめざす。		
到達目標	①情報活用の基盤となる知識や態度について理解し、指導する能力を高めることができる。 ②教材研究や指導の準備、校務などにICTを活用するための基礎的な知識や技能を身につけることができる。 ③情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する方法を理解し、授業設計や保育の構想に活かすことができる。		
授業計画	第1回 知識基盤社会のなかの子どもと学校 第2回 学校現場におけるICT環境の現状 第3回 教員に求められるICT活用能力 第4回 初等教育における情報モラルに関する指導 第5回 教材研究、授業設計、教材作成・提示におけるICTの活用 第6回 一斉学習・個別学習・協働学習におけるICTを活用した新たな学び 第7回 子どもの学習ツールとしてのICT活用の可能性 第8回 ICTを活用した学習活動(1) 情報収集 第9回 ICTを活用した学習活動(2) 構想、計画 第10回 ICTを活用した学習活動(3) 指導案・教材の作成 第11回 ICTを活用した学習活動(4) 実践 第12回 ICTを活用した学習活動(5) 実践のふりかえりと改善 第13回 プログラミング教育 第14回 情報活用能力の育成とカリキュラム・マネジメント 第15回 ICT活用の課題と展望		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・取組姿勢 20% 授業内での小課題 30% ICTを活用した学習活動における成果物と発表 30% プレゼンテーションソフト等を使った発表 20%		
失格条件	出席回数が開講時数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】(3時間) ・パソコンやタブレット端末などの情報機器を積極的に活用する ・指導案や教材の作成と実践の準備をする ・プレゼン発表の準備をする 【復習】(1時間) ・学習内容をふりかえる ・提示された課題に取り組む		
課題へのフィード バック	・課題への取り組み中及び指導案や教材作成時には、個別もしくは全体に向けてコメントする。 ・課題提出後や発表後には、個別もしくは全体に向けてコメントする。		
教科書	特に指定はしない。 必要に応じて、適宜資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	参考になる資料や動画、サイトなどを紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

5-012

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	子ども生活文化論		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子、進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	子どもは遊びや日常生活の中で、育っていきます。子どもの存在が歴史的にどのような認識されてきたかを探ると共に、現代の子どもたちが送っている生活についての分析を試みます。それにより、子どもが日常生活を送っている「生活」を基盤に、広い意味で子どもを取り巻く文化を考察します。		
到達目標	子どもの生活のあり方の変化が理解できる。		
授業計画	<p>第1回 本授業について、     暦について①（暦のなりたち）（川中、進藤）</p> <p>第2回 暦について②（暦と行事）（進藤）</p> <p>第3回 子どもの食事（川中）</p> <p>第4回 子どもの食を取り巻く環境（川中）</p> <p>第5回 子どもの服装（川中）</p> <p>第6回 子どもの服装と健康（川中）</p> <p>第7回 まとめと理解の確認（川中）</p> <p>第8回 私たちの住まい（川中）</p> <p>第9回 子どもを取り巻く住環境（川中）</p> <p>第10回 消費社会と私たち（川中）</p> <p>第11回 消費社会の中の子ども（川中）</p> <p>第12回 私たちの生活環境（川中）</p> <p>第13回 子どもの生活環境の変化（川中）</p> <p>第14回 子どもを取り巻く生活のこれから（川中）</p> <p>第15回 まとめと理解の確認（川中）</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 小レポート 30% 最終レポート 40%		
失格条件	1.最終レポートを提出しない場合。 2.出席回数が3分の2に満たない場合 （30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<予習> 日常の中で、自分たちの生活や子どもたちの様子を観察したり、図書館やパソコン演習室を活用して関連資料を調べるなど、積極的に取り組んで下さい。（予習 2時間） <復習> 授業で取り上げた内容をまとめて下さい。（復習 2時間）		
課題へのフィード バック	授業内課題については、個別もしくは全体にコメントします。 最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。		
教科書	使用しません		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

5-013

ナンバリング	CD108C03	期間	前期
授業科目名	子ども生活文化演習		
英訳科目名	Seminar on Children's Life and Culture		
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは遊びや日常生活の中で、外界から五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚）を刺激される事により、豊かな感性や創造性を育てていきます。特に子どもにとっては、遊びの場における様々なおもちゃや造形物がそれにあたります。</p> <p>本演習では、子どもの成長と遊びやおもちゃの関係を検証すると共に、手作りのおもちゃや壁面装飾などの制作や実践の場を豊富にもつことで、子育てに必要な創造力を養います。</p>		
到達目標	子どもの生活の場面で必要な援助力を身につけることができる。		
授業計画	<p>第1回 本授業について  第2回 壁面装飾について  第3回 壁面装飾の計画  第4回 壁面装飾の制作  第5回 壁面装飾の完成とふりかえり学習  第6回 布おもちゃについて  第7回 布おもちゃの計画  第8回 布おもちゃの制作  第9回 布おもちゃの完成  第10回 布おもちゃの実践活用とふりかえり学習  第11回 手作りのおもちゃについて  第12回 手作りおもちゃの計画  第13回 手作りおもちゃの制作  第14回 手作りおもちゃの完成  第15回 手作りおもちゃの実践的活用とふりかえり学習</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 提出課題 60%		
失格条件	1.授業内で課する課題を提出しない場合 2.出席が実授業回数の3分の2に満たない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	図書館やパソコン演習室を活用して、子どもの遊びに関連する新聞記事や関連資料を調べるなど、積極的に情報を取り入れるように務めてください。 (予習 3時間 復習 1時間)		
課題へのフィード バック	作品提出時お互いの作品を観る時間を設けており、その時に必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	使用しません		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	家庭支援論		
英訳科目名			
担当教員名	中西 利恵		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>今、子育ての知識、経験、技術を蓄積している保育所や保育所以外の児童福祉施設において、地域社会の児童・親を含めた家族も保育の対象として、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供することが社会的役割として求められている。そして当然そこに勤務する保育者にも、種々の援助活動などの提供ができる力量が求められている。以上のことを踏まえ、ここでは子育てにおける支援の対象や目的について理解し、保育者として何が求められており、役割として果たしていく内容や具体的な援助活動の方法や関係機関との連携について学んでいく。</p>		
到達目標	<p>1.子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解することができる。  2.保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解することができる。  3.子育て家庭の支援体制についての知識を身に付けることができる。  4.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 家族とは  第3回 家族支援の意義と役割  第4回 家族をとりまく社会的状況と支援体制 ①今どきの子育て事情  第5回 家族をとりまく社会的状況と支援体制 ②児童虐待・ひとり親家庭への支援  第6回 子育て支援の施策  第7回 子育て支援と保育者の役割  第8回 保育所における在園児家庭への支援 ①さまざまな取り組み  第9回 保育所における在園児家庭への支援 ②特に連絡帳による支援  第10回 保育所における地域子育て家庭への支援  第11回 保育所以外の保育施設における支援  第12回 地域子育て支援センターにおける支援  第13回 さまざまな家族に対する支援  第14回 関係機関との連携  第15回 理解度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への取り組み姿勢・提出物	30%	
	筆記試験	70%	
失格条件	<p>1.出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合  (30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。)  2.期限までに提出物を提出しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>1.保育所保育指針解説書・第6章を読んでおくこと。(予習：2時間)  2.保育所保育指針解説書・第6章の内容について整理し、調べ学習をすること。(予習：4時間)  3.授業内で指示した課題について、情報収集をすること。(復習：5時間)  4.子育て支援の事例について調べ学習をすること。(予習&amp;復習：8時間)  5.授業内で指示した課題についてレポートを作成すること。(復習：3時間)</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験終了後、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> </ul>		
教科書	新保育ライブラリ・子どもを知る「家庭支援論」		
著者名	小田豊・日浦直美・中橋美穂編著		
出版社	北大路書房		
参考書	<p>①「保育所保育指針解説書」厚生労働省、フレーベル館、205円  ②「幼稚園教育要領解説」文部科学省、フレーベル館、205円  ③「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、162円  その他必要に応じて随時紹介する。</p>		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		



ナンバリング	CD109C02	期間	前期
授業科目名	世代間交流演習		
英訳科目名			
担当教員名	中西 利恵、川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>地域との連携と協同が今や不可欠の保育・教育および次世代育成支援分野において、地域の人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行を図れるよう知識を身に付け見聞を広げる。</p> <p>具体的には、本学の施設を活用して地域の子育て支援家庭（0～3歳児とその母親）を対象に「よつばのクローバー」(あそびの広場) を開設し、交流活動を実施する。活動を通して、参画した世代の発達支援のあり方や人と人をつなぐ（ファシリテーター的）実践力の育成をめざす。そして、交流を主体とした活動（事業）を将来的に適切に計画し、実施していける力を培う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な世代と適切なコミュニケーションを図ることができる。</li> <li>・交流活動の計画の立案、実施、自己評価を適切に行い、次の活動に向けた改善ができる。</li> <li>・準備や立案、実施にあたり協働して取り組むことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと活動事例の検討（中西）</p> <p>第2回 実施計画作成と実践準備（中西）</p> <p>第3回 模擬実践（中西）</p> <p>第4回 世代間交流活動「よつばのクローバー」の実施(1回目)（中西・川中）</p> <p>第5回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し（中西）</p> <p>第6回 模擬実践（中西）</p> <p>第7回 世代間交流活動「よつばのクローバー」の実施(2回目)（中西・川中）</p> <p>第8回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し（中西）</p> <p>第9回 模擬実践（中西）</p> <p>第10回 世代間交流活動「よつばのクローバー」の実施(3回目)（中西・川中）</p> <p>第11回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し（中西）</p> <p>第12回 模擬実践（中西）</p> <p>第13回 世代間交流活動「よつばのクローバー」の実施(4回目)（中西・川中）</p> <p>第14回 ドキュメンテーションを活用した実践の共有とふり返し（中西）</p> <p>第15回 教育的ドキュメンテーションの実践（中西）</p>		
評価方法 (合計100%)	授業や実践への取り組み状況（特に協働性）	50%	
	企画立案、課題レポート、教材準備等	50%	
失格条件	<p>出席時数が15回の3分の2に達しない場合</p> <p>交流活動に正当な理由なく欠席した場合</p> <p>実践の準備や計画を協働して行わなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>1.交流活動の具体的な内容について参考文献等を活用し調べ学習すること。（予習：4時間）</p> <p>2.教材研究を行うこと。（予習&amp;復習：8時間）</p> <p>3.活動計画を立案すること。（予習：5時間）</p> <p>4.日頃から多様な人々と交流する機会や多様な経験を積極的に設けること。（予習&amp;復習：5時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後、ICTを活用して全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・交流活動の実践に対しては、動画と静止画の記録を用いてコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	「子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習」入江・小原・白川編著、萌文書林		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD104A01	期間	前期
授業科目名	保育原理		
英訳科目名	Nursing Principle		
担当教員名	中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	保育実践を支える基本的な原理及び体系的な知識や考え方について学び、保育の概略を理解すると共に、多様な保育ニーズや社会の変化に対応できる保育者としての基本を学ぶ。具体的には、保育の意義や目的、保育思想・制度の歴史、保育内容や方法、保育課程、指導と評価、保育の今日的課題と対応を学び、望ましい保育・教育を考えていくための基礎を培う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の概念、保育思想・保育制度の歴史など、保育実践を支える基本的な原理や体系的なことが理解できる。</li> <li>・保育内容や方法、保育課程、指導と評価などに関する保育者としての基本的知識を身に付けることができる。</li> <li>・保育における今日的課題と対応について理解を深め、今後の在り方について考えることができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション 保育とは何か 第2回 保育制度と保育の現状（子ども・子育て支援新制度） 第3回 保育の思想と歴史（欧米の保育の思想と歴史） 第4回 保育の思想と歴史（日本の保育の歴史） 第5回 保育の思想と歴史（保育思想の発展） 第6回 保育の内容と方法（保育の目標） 第7回 保育の内容と方法（ねらいと内容） 第8回 保育の内容と方法（幼児期の発達理解） 第9回 保育の内容と方法（保育課程と評価） 第10回 保育の内容と方法（環境の意味） 第11回 保育の内容と方法（保育者の役割） 第12回 保育の今日的課題と対応（子どもの健康と安全） 第13回 保育の今日的課題と対応（子育て支援） 第14回 保育の今日的課題と対応（幼小連携・地域連携） 第15回 まとめ・内容理解・到達度の確認及び今後の在り方について		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 10% 試験 50% 課題提出 40%		
失格条件	(1) 授業内で示したあらゆる提出物が期限を守って提出されない場合 (2) 出席時数が開講時数（15回）の3分の2に達しない場合（つまり15回中6回以上欠席した場合） なお、この授業では、遅刻は3回で1回の休みと換算しますので、注意してください。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前は、必ず教科書や配布資料を読み予習をすること。（予習 1時間）</li> <li>・授業後は、学んだ内容を中心に復習し、紹介した参考文献を読むなど自主的に学習をする。</li> <li>・課題が出た場合は、授業中の指示に従って提出できるようにしておく。（復習 3時間）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・グループワークは、各グループで発表後講評します。</li> </ul>		
教科書	新・保育原理―すばらしき保育の世界へ―第4版		
著者名	三宅 茂夫編		
出版社	みらい		
参考書	保育所保育指針解説（厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（文部科学省） 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説（内閣府、文部科学省、厚生労働省）		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や配布された資料プリントなど、必要とされたものを毎回持ってくること。</li> <li>・欠席や遅刻をする場合は授業で指示するとおりに必ず連絡すること。</li> </ul>		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD104A04	期間	後期
授業科目名	保育者論		
英訳科目名	Theory of Pre-school Teacher		
担当教員名	松島 京		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>保育所、幼稚園、認定こども園等保育施設およびそこで働く保育者の役割は、社会状況の変化とともにますます重視されており、保育者は専門性を高めることが求められている。</p> <p>本授業では、保育者に求められる役割や倫理および職務内容について学ぶとともに、それらの特性や重要性を理解する。また、保育者として成長していくため、今日的な課題についても考えながら、専門性を身につけるために必要な基本的な知識を習得する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割と倫理について理解することができる</li> <li>・保育者の専門性と協働について理解することができる</li> <li>・保育者の専門職的成長について理解することができる</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは</p> <p>第2回 保育者の役割と倫理 (1) 保育者の役割</p> <p>第3回 保育者の役割と倫理 (2) 保育者の倫理</p> <p>第4回 保育者の職務内容 (1) 保育者の制度的位置づけ</p> <p>第5回 保育者の職務内容 (2) 保育者の責任と義務</p> <p>第6回 保育者の専門性 (1) 子どもとともに生きる</p> <p>第7回 保育者の専門性 (2) 保護者支援・家庭支援</p> <p>第8回 保育者の専門性 (3) 知識・技術及び判断</p> <p>第9回 保育者の専門性 (4) 保育課程による保育の展開と自己評価</p> <p>第10回 保育者の協働 (1) 保育者同士の協働</p> <p>第11回 保育者の協働 (2) 保護者及び地域社会との協働</p> <p>第12回 保育者の協働 (3) 専門職間及び専門機関との連携</p> <p>第13回 保育者の専門職的成長 (1) 専門性向上と組織的取組</p> <p>第14回 保育者の専門職的成長 (2) 生涯発達とキャリア形成</p> <p>第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>定期試験および平常点評価により、総合的に評価する。</p> <p>評価の割合は、定期試験70%、平常点評価（小レポート課題）30%とする。</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画に沿って事前に教科書（該当部分）を読んでおく（予習時間2時間）</li> <li>・教科書の該当箇所およびレジュメやノートを見直し復習する（復習時間2時間）</li> <li>・日頃から子どもと関わる機会を多く持ち、積極的に子どもを知ろうとすること</li> <li>・日頃から子どもに関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持っておくこと</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験終了後、全体に向けてコメントする</li> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却する</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする</li> </ul>		
教科書	<p>『幼稚園教育要領解説』</p> <p>『保育所保育指針解説』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p> <p>（既に他の授業で購入しているものであるから、それを持参すること）</p>		
著者名	文部科学省 厚生労働省 内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	フレーベル館		
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。		
その他	<p>小レポートとは別に、毎授業時にコミュニケーションペーパーを配布し、授業内容に対する意見や質問を受け付ける。質問等については次回授業開始時に回答をする。これは出席を確認すると同時に、授業をインタラクティブに進行するためのものであり、評価の対象となるものではない。</p> <p>専門職（プロフェSSIONナル）になるという自覚を持って、受講すること。特に、開始時間や課題提出時のルールは厳守すること。時間やルールを守ることは、他者との信頼関係を築くにあたって重要なことである。</p>		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	保育課程論		
英訳科目名			
担当教員名	松島 京		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>保育の場において、子どもの生きる力、伸びようとする力が発揮され、子どもが心身共に健やかに育つためには、一人一人の育ちを見通し、発達過程を押さえて保育を組み立てていくこと、すなわち計画性のある保育が必要である。</p> <p>本講義では、保育内容の充実と質の向上に必要となる保育計画と評価について理解した上で、保育課程の編成及び指導計画の作成について学びながら、保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を理解することを目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解することができる</li> <li>・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することができる</li> <li>・計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造をとらえ、理解することができる</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について、保育課程とは</p> <p>第2回 保育施設：保育環境の変化と多様な保育施設</p> <p>第3回 幼稚園教育と保育所保育（1）幼稚園と保育所の歴史</p> <p>第4回 幼稚園教育と保育所保育（2）幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷</p> <p>第5回 保育の計画と評価の基本：保育の目標と保育課程</p> <p>第6回 子どもの発達過程と指導計画：発達の特性と保育計画</p> <p>第7回 指導計画の種類と役割：保育課程の編成と展開</p> <p>第8回 長期の指導計画：長期の指導計画の作成と留意事項</p> <p>第9回 短期の指導計画（1）子どもの姿をとらえる視点とねらいと内容の立て方</p> <p>第10回 短期の指導計画（2）環境構成のありかたと子どもの活動の予測</p> <p>第11回 短期の指導計画（3）保育者の援助と配慮の視点</p> <p>第12回 保育における評価（1）保育の省察と記録</p> <p>第13回 保育における評価（2）保育の自己評価</p> <p>第14回 保育の計画における展望と課題：これからの保育にむけて</p> <p>第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>定期試験および平常点評価により、総合的に評価する。</p> <p>評価の割合は、定期試験70%、平常点評価（小レポート課題）30%とする。</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画に沿って事前に教科書（該当部分）を読んでおく（予習時間2時間）</li> <li>・教科書の該当箇所およびレジュメやノートを見直し復習する（復習時間2時間）</li> <li>・日頃から子どもと関わる機会を多く持ち、積極的に子どもを知ろうとすること</li> <li>・日頃から子どもに関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持っておくこと</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験終了後、全体に向けてコメントする</li> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却する</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする</li> </ul>		
教科書	保育の計画と評価を学ぶ		
著者名	加藤敏子・岡田耕一編		
出版社	萌文書林		
参考書	『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
その他	<p>小レポートとは別に、毎講義時にコミュニケーションペーパーを配布し、講義内容に対する意見や質問を受け付ける。質問等については次回講義開始時に回答をする。これは出席を確認すると同時に、講義をインタラクティブに進行するためのものであり、評価の対象となるものではない。</p> <p>専門職（プロフェSSIONAL）になるという自覚を持って、受講すること。特に、開始時間や課題提出時のルールは厳守すること。時間やルールを守ることは、他者との信頼関係を築くにあたって重要なことである。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD104A06	期間	後期
授業科目名	乳児保育/乳児保育 I		
英訳科目名	Infant Care I		
担当教員名	中西 利恵、永井 久美子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	乳児保育を支える理念と歴史の変遷、「子ども・子育て支援制度」における乳児保育について学ぶ。そして、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題、乳児保育が果たす役割等について理解する。3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解し、そこにおける大人の役割について、事例をとおして具体的に学び理解していく。乳児保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等、乳児保育の実践について学ぶ。		
到達目標	1.乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解することができる。 2.保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解することができる。 3.3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解することができる。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解することができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、乳児保育の意義・目的と歴史の変遷（永井、中西） 第2回 乳児保育の役割と機能、乳児保育における養護及び教育（永井） 第3回 乳児保育及び子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題（永井） 第4回 保育所における乳児保育（永井） 第5回 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育（永井） 第6回 家庭的保育等における乳児保育（永井） 第7回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育① 3歳未満児の生活と環境（中西） 第8回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育② 3歳未満児の遊びと環境（中西） 第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育③ 3歳未満時の保育士等による援助や関わり（中西） 第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育④ 保育における配慮（永井） 第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑤ 乳児保育における計画・記録・評価とその意義（永井） 第12回 乳児保育における連携・協働① 職員間の連携・協働（永井） 第13回 保護者との連携・協働（中西） 第14回 自治体や地域の関係機関等との連携・協働（永井） 第15回 まとめ（永井・中西）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度、発表・実践取組姿勢	30%	
	提出物（各種課題・指導計画等）	70%	
失格条件	1.出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合 (30分を越える遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。) 2.授業で指示した提出物を期限までに提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1.日頃から身近な乳児を観察し、乳児の実態把握に努めるよう心がけること。（予習&復習：毎回1時間） 2.授業内で紹介した参考文献や資料を次回授業までに読んでおくこと。（予習：1～9回目に各回2時間） 3.乳児保育で活用する教材研究を行うこと。（予習：6～10回目に2時間） 4.授業内で指示した課題（指導計画等）を作成すること。（復習：11～15回目に2時間） ※その他、厚生労働省ホームページ、ニュース、関連図書などを活用し、積極的かつ継続的に情報収集しえ、予習・復習の質と量を確保すること。		
課題へのフィードバック	・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。 ・実践に対しては、グループ及び全体に対してコメントします。		
教科書	①「保育所保育指針解説書」 ②「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 ※①②共に、1年次に全員が購入の指示あり。指示に従って購入すること。		
著者名	①厚生労働省②内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①②フレーベル館		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※子ども発達学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	CD105B01	期間	前期
授業科目名	保育内容総合		
英訳科目名	Content of Pre-school Education (Language)		
担当教員名	中西 利恵、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。保育の全体的な構造を理解した上で、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。特に、5つの領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そして、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、保育の多様な展開についても具体的に理解する。		
到達目標	1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解することができる。 2.子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解することができる。 3.具体的な指導場面を想定して、5つの領域のねらいと内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つ保育を構想する方法を身に付けることができる。 4.保育の多様な展開について具体的に理解することができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、幼稚園教育・保育所保育・認定こども園の基本と保育の営みや全体構造 第2回 保育内容の歴史の変遷 第3回 保育所・認定こども園における保育内容の実際 養護と教育の一体等 第4回 幼稚園における保育内容の実際 幼児教育における見方・考え方 第5回 乳幼児教育における遊びを通した総合的な指導 視聴覚教材の活用 第6回 環境構成の分析を通して、具体的な環境のあり方 第7回 乳幼児教育における5つの領域のねらい及び内容① 遊びを通した育ち 第8回 乳幼児教育における5つの領域のねらい及び内容② 遊びを通した育ち 第9回 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり① 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり 第10回 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり② 乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり 第11回 支援を要する子どもの生活・遊びや、クラス運営における保育者の役割・環境構成 第12回 子どもの「やりたい」を実現できる場、空間、モノ、時間のあり方と指導法 第13回 保育の全体計画・教育課程・指導計画 実際の保育の計画・教育課程・指導計画を参考に学ぶ 第14回 模擬保育をめざした指導計画の作成 子ども理解、目標、保育の内容、援助の方法、評価 第15回 模擬保育の実施 ねらい及び内容に沿った指導の実践的学習		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度、課題や実践への取組状況等	50%	
	レポート・指導計画等提出物	50%	
失格条件	1.出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合 (30分を越える遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。) 2.授業で指示した提出物を期限までに提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1.保育所保育指針解説書と幼稚園教育要領解説書の特に保育内容に関する章を読むこと。(予習：4時間) 2.保育所や幼稚園の保育内容について整理すること。(予習&復習：3時間) 3.授業内で紹介した参考文献などを指示された回までに読んでおくこと。(予習：3時間) 4.「保育」や「子ども」に関する記事を検索し、読むこと。(予習&復習：3時間) 5.授業内で指示した課題についてレポートを作成すること。(復習：4時間) 6.各種保育施設の中から選択して、見学を試みる。(復習：5時間)		
課題へのフィード バック	・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。 ・実践に対しては、グループ及び全体に対してコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり(※子ども発達学科卒業生のみ対象)		

5-021

ナンバリング	CD105B02	期間	後期
授業科目名	保育内容健康		
英訳科目名	Content of Pre-school Education (Health)		
担当教員名	宮下 恭子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保認定型子ども園教育・保育要領における領域「健康」を理解し、健康な心と体を育て、子どもが健康で安全な生活を自らつくり出す力を育む援助のために、保育者として必要な知識や技能について学びます。さらに、保育の場で実践できるように、遊びを通して育む心身の成長や発達の様相、健康な生活リズム、基本的な生活習慣の形成、食育、清潔や衛生習慣、怪我や安全に対する危険回避能力、子どもの自立に向かう心身の発達を援助するための指導方法を具体的に考えていきます。		
到達目標	保育者として子どもに関わる際に、計画的な健康指導が進められるような指導案が作成できる。 授業を通して学んだ知識や深められた健康の課題を、保育現場において実践できる。		
授業計画	第1回 子どもの健康の理解 第2回 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「健康」の取扱い 第3回 からだと心の発育・発達～成長と運動の発達～ 第4回 からだと心の発育・発達～運動と心の発達～ 第5回 遊びが育むもの 第6回 健康な生活習慣～その意義と子どもの生活リズム～ 第7回 健康な生活習慣～獲得のプロセスと支援～ 第8回 食育と健康～食の重要性～ 第9回 食育と健康～食を通して知る生活と文化～ 第10回 健康に生きる力を育む 第11回 事例に基づく傷病対策 第12回 アレルギーへの対応 第13回 安全教育と生きる力～自己と災害から身を守る～ 第14回 安全教育と生きる力～防災、防犯教育～ 第15回 食の安全と保連携・総括		
評価方法 (合計100%)	授業時の取組 (50%)、授業内試験 (50%) により評価を行う。		
失格条件	(1)出席回数が授業時数の3分の2に達しない場合 (2)授業内試験を受けなかった場合、課題提出をしなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	教科書を中心に授業計画通りに進めていくので必ず教科書を準備し、教科書を授業前に読む予習 (1時間) をしておくこと。授業後には、授業の内容を復習 (3時間) し、理解のできなかったところがあれば、次の授業時に質問事項を提示すること。		
課題へのフィード バック	課題等は採点后返却するので、自己の学びが十分であったかどうか振り返ってみてください。		
教科書	(改定新版) 保育内容「健康」 ー生きる力を育む健やかな心とからだー		
著者名	宮下恭子編著		
出版社	大学図書出版		
参考書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり (※子ども発達学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	CD105B03	期間	前期
授業科目名	保育内容人間関係		
英訳科目名	Content of Pre-school Education (Human Relationships)		
担当教員名	中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	現代社会においての、子どもを取り巻く人間関係の変化を捉えながら、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域保育内容「人間関係」のねらいや内容について理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的、対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定した保育の構想・指導方法を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について理解し、保育課程・教育課程及び指導方法について学び、実践力を身に付けることができる。</li> <li>・領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が体験し、身に付けていく内容や指導上の留意点を理解することができる。</li> <li>・就学前教育・保育における評価の考え方を理解することができる。</li> <li>・幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解することができる。</li> <li>・乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。</li> <li>・領域「人間関係」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に生かすことができる。</li> <li>・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけることができる。</li> <li>・領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション、幼児教育の目的と保育内容「人間関係」について －「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における保育内容「人間関係」－ 第2回 領域「人間関係」の概論（現代社会の状況と人間関係の課題） 第3回 人とかかわる力の育ちと保育（乳幼児期の発達と援助） 第4回 人とかかわる力の育ちと保育（自我の形成と3歳児の発達） 第5回 人とかかわる力の育ちと保育（自己発揮と自己抑制 4歳児の発達） 第6回 人とかかわる力の育ちと保育（協同性と5歳児の発達） 第7回 遊びの中で育つ人との関わり（いざこざ場面理解と援助） 第8回 人との豊かなかかわりを育む指導計画・教材研究 第9回 人との豊かなかかわりを育む指導計画・指導案の作成 第10回 人との豊かなかかわりを育む指導計画・模擬保育・ロールプレイと評価（1グループ） 第11回 人との豊かなかかわりを育む指導計画・模擬保育・ロールプレイと評価（2グループ） 第12回 「個」と「集団」の育ちを捉えた学級経営と保育者の役割・道徳性の芽生えや規範意識の形成 第13回 幼児と小学生が相互主体的に関わり合う互恵的な幼小連携の在り方 第14回 様々な人との関わりを育む家庭・地域社会との連携 第15回 まとめ モデルとしての保育者集団の形成		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・提出物（40%） レポート課題（60%）		
失格条件	(1) 授業内で示したあらゆる提出物が期限を守って提出されない場合 (2) 出席時数が開講時数（15回）の3分の2に達しない場合（つまり15回中6回以上欠席した場合） なお、この授業では、遅刻は3回で1回の休みと換算しますので、注意してください。 (3) 授業態度に問題のある場合 (4) 以下の「その他」の欄に記載した内容を守ることが出来なかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業前は、必ず教科書や配布資料を読み予習をすること。（予習 2時間） ・授業後は、学んだ内容を中心に復習し、紹介した参考文献を読むなど自主的に学習をする。 ・課題が出た場合は、授業中の指示に従って提出できるようにしておく。（復習 2時間）		
課題へのフィード バック	・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 ・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・模擬保育やロールプレイ等、グループ発表後、グループに対して講評をします。		
教科書	乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 人間関係		
著者名	岩立京子・西坂小百合 編著		
出版社	光生館		
参考書	保育所保育指針（厚生労働省） 幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省） 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」:乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは（北大路書房、2016）		
その他	・教科書や配布された資料プリントなど、必要とされたものを毎回持ってくること。 ・欠席や遅刻をする場合は授業で指示するとおりに必ず連絡すること。		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	CD105B04	期間	前期
授業科目名	保育内容環境		
英訳科目名	Content of Pre-school Education (Environment)		
担当教員名	進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>保育内容領域「環境」では、子ども達が身近な環境と十分に関わる中で、好奇心をもち、探究しようとする心の育ちを期待するとともに、さらにそこで得た事柄を生活に応用しようとするといった一連の心の動き（過程）を重視しています。この心の動きは、科学的思考の芽ばえでもあります。</p> <p>この授業では、子どもが環境と関わるとはどういうことかを理解し、より発展的な関わりへ導く援助ができる力を育成することを目標とします。そのために求められる、保育者自身も自らをとりまく環境に興味や関心をもって意欲的に関わり、そのしくみや不思議さについて認識を深めていこうとする態度を身に付けます。</p> <p>領域「環境」のねらいをよく理解したうえで、学生自身が環境と関わることによって思考の過程を体験し、意識化する取組から、子どもが「周囲のさまざまな環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力」が育つ場面についての認識を深め、その場面での子どもの心の動きを理解できるよう、活動やそのふり返りを取り入れ、具体的な指導法につなげます。</p>		
到達目標	<p>①子どもが環境に主体的に関わっていける環境構成が考えられる。</p> <p>②好奇心や探究心をもった関わりへと発展するような援助が考えられる。</p> <p>③自らが周囲の環境に気づき、興味を持ち、工夫して関わろうとできる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 保育内容領域「環境」の概要</p> <p>第2回 自然との関わりについて1（講義）</p> <p>第3回 自然との関わりについて2（音さがし）</p> <p>第4回 自然との関わりについて3（生き物さがし）</p> <p>第5回 自然との関わりについて4（気づきとふり返り）</p> <p>第6回 物との関わりについて1（講義）</p> <p>第7回 物との関わりについて2（工夫を楽しむ製作活動を考える）</p> <p>第8回 物との関わりについて3（気づきとふり返り）</p> <p>第9回 環境と関わる中で好奇心や探究心を育むあそびを考える1(紙飛行機を使った遊び)</p> <p>第10回 環境と関わる中で好奇心や探究心を育むあそびを考える2（保育指導案構想）</p> <p>第11回 環境と関わる中で好奇心や探究心を育むあそびを考える3（保育指導案作成）</p> <p>第12回 機能する情報について1（講義）</p> <p>第13回 機能する情報について2（グループワーク）</p> <p>第14回 総合的なふり返り（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から）</p> <p>第15回 保育指導案のふり返り・理解度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>各演習のワークシート 40% （演習に主体的な取組ができたか 該当時のねらいとした内容が理解できているか）</p> <p>季節のノート 10% （自主学習の成果としてテーマ別（旬・行事・あそび）にまとめられているか）</p> <p>保育指導計画 20% （子どもが主体的に環境に関わろうとできる環境構成や好奇心や探究心をうながす援助が考えられているか 指導案にふさわしい書き方ができているか）</p> <p>レポート課題 30% （事例から子どもの環境への関わり、思考の過程を見出すことができるか）</p>		
失格条件	出席が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・準備学習：「季節のノート」を計画的にまとめる。幼稚園教育要領の「ねらい及び内容」等をよく読み、自分なりに保育の具体像を描けるようにしておく。（1回の授業に対し2時間）</p> <p>・復習：授業では体験を中心に進めるため、その都度、幼稚園教育要領等にある領域「環境」の記載との関連を考え、確認する。（1回の授業に対し2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・毎時提出するワークシートの記述内容については、教材として活用し全体に向けたフィードバックを行う。</p> <p>・ワークシートについて、必要に応じ個別にコメントする。</p> <p>・保育指導計画について、コメントをつけて返却する。</p>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説（平成29年3月31日告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針解説書（平成29年3月31日告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月31日告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>		
その他	20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
備考			
科目生への開講	あり（※子ども発達学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	保育内容言葉 (再)		
英訳科目名			
担当教員名	花房 ナオミ		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	①領域「言葉」のねらいと内容や言葉の発達過程を理解すること、②乳幼児の言葉を育てる保育者の言葉かけや援助のあり方を学ぶこと、③豊かな言葉を育むために児童文化財を活用した教材研究やその具体的な指導法などを身につけることを目的とする。授業は具体的な事例や視聴覚教材を活用するとともにグループ討議を交えた講義と、児童文化財の教材研究や実技演習にも積極的に取り組み、理論と実践を結ぶ学びを展開する。		
到達目標	子どもが言葉を獲得する過程、一人ひとりの発達に応じた適切な援助や保育者の役割を理解することができる。豊かな言葉を育む児童文化財への関心を高め、活用する力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育内容「言葉」の意義 第3回 子どもの言葉 ねらいと内容 第4回 こどもの言葉と環境 第5回 保育者の指導・支援・発達の道筋 第6回 配慮を必要とする子どもへの支援 第7回 保育者の言葉 第8回 子どもの児童文化 乳児絵本について 第9回 子どもの児童文化 絵本について(読み方・選び方) 第10回 子どもの児童文化 お話 新聞紙を使ったお話 第11回 子どもの児童文化 パネルシアターをつくろう①(計画) 第12回 子どもの児童文化 パネルシアターをつくろう②(制作) 第13回 理解度確認テスト 第14回 模擬保育① パネルシアター発表 第15回 模擬保育② 素話・新聞紙を使ったお話の発表		
評価方法 (合計100%)	実技演習課題への積極的参加、提出課題の評価、内容理解の確認等による採点方法 授業への参加態度 10% 提出課題 10% 実践(発表) 40% 内容理解の確認 40%		
失格条件	出席回数が3分の2(10回)以上に満たない場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・日頃から児童文化財等へ関心を持ち、積極的にかかわり、実践をすること。 ・授業で学んだ技術を、積極的に反復して練習し、活用すること。 ・子どもの理解を深め、言葉を育てるためにどのように言葉かけをすればよいか、日常生活の中で観察し、実践を試みることを。 ・パネルシアターの内容を考えておくこと。(予習1時間・復習1時間)		
課題へのフィードバック	レポートには、評価、メッセージを随時提示する。保育実践発表時、口頭で評価、反省点を伝える。		
教科書	教科書 保育者をめざす人の保育内容「言葉」 教材 パネルシアター PRIPRI		
著者名	駒井美智子 編		
出版社	株式会社みらい／世界文化社		
参考書	厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説書」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		
その他	特になし		
備考	保育士・幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※B種科目等履修生対象)		

ナンバリング	CD105B06	期間	後期
授業科目名	保育内容総合表現 A		
英訳科目名	Content of Pre-school Education (Expression) A		
担当教員名	岩口 摂子、小西 智咲子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>保育者にとって、個々の子どもの発達段階を正確に把握する観察力や、子どもの表現に対して多様な受け止め方ができ、それを創意工夫して活かしながら、全体的な活動へと展開するような指導力をもつことは重要である。それとともに、子どもと一緒に自らが表現活動を楽しむ姿勢も大切である。本演習では、保育の専門科目間の有機的な関連付けを図り、それらの知識・技術を踏まえ、音楽表現、身体表現の演習をとおして、遊びから総合的な表現活動へと展開できる技術及び指導法を獲得する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階を、生活の中で正確に把握し、表現活動を企画・実践できる。</li> <li>・保育者として、自らの表現力を高めることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>【（音楽系）担当：岩口 摂子／（身体系）担当：小西 智咲子】</p> <p>第1回 子どもの音楽的発達・身体的発達と子どもの表現について  第2回（音楽系）即興的表現から音楽活動へ  第3回（音楽系）さまざまな子どもの歌について  第4回（音楽系）さまざまな楽器とリズム  第5回（音楽系）表現活動(1) 音楽づくりのための素材とアイディア  第6回（音楽系）表現活動(2) 音楽づくり  第7回（音楽系）表現活動(3) 創作発表と鑑賞  第8回（音楽系）音楽表現を育てるための保育者の援助について  第9回（身体系）歌をともなった遊び  第10回（身体系）からだを触れ合う遊び  第11回（身体系）身近なものを使った表現遊び  第12回（身体系）身体表現のための基礎的な動き  第13回（身体系）子どものリズムダンス・フォークダンス  第14回（身体系）作品の創作・発表①(創造的な動きを考える)  第15回（身体系）作品の創作・発表②(構成と空間配置を考える)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 50%</p> <p>課題への取り組み 50%</p>		
失格条件	<p>次のいずれかの項に該当する場合は、失格とします。</p> <p>1.音楽系、身体系、各分野での出席回数が5回に満たない場合  (20分以上の遅刻は欠席扱い。また、遅刻は2回で1回の欠席扱いとする)</p> <p>2. 授業環境を損なう等、演習への参加態度が不適格であると判断した場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針や幼稚園教育要領の読み込みのほか、月齢にあった保育が企画できるよう、資料収集に努める。</li> <li>・授業で紹介された活動を自分でも実践・応用できるよう、指導計画のためのアイディア帳などを作成する。</li> <li>・30分程度の予習と授業後に150分程度の事後学習を行うことがのぞましい。</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<p>毎回の小レポートについては、次回に必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。</p>		
教科書	<p>①「表現」がみるみる広がる！保育ソング90  ②保育表現技術―豊かに育つ・育てる身体表現―</p>		
著者名	<p>①編著者：岩口摂子・高見仁志 執筆：中尾美千子、他；②編著者：古市久子</p>		
出版社	<p>①明治図書；②ミネルヴァ書房</p>		
参考書	<p>幼稚園教育要領  保育所保育指針  その他、授業の中で紹介</p>		
その他	<p>身体系の授業のときは、必ずTシャツやジャージ上下等の体操服、上靴を着用すること。</p>		
備考			
科目生への開講	あり（※子ども発達学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	CD105B07	期間	後期
授業科目名	保育内容総合表現 B		
英訳科目名	Content of Pre-school Education (Expression) B		
担当教員名	川中 美津子、橋本 永子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	保育内容の領域「言葉」や領域「表現」のねらいと内容を踏まえ、豊かな感性や表現性を育て、絵本等の教材研究や具体的な指導法を身に付けるために、演習を中心とした実践的授業を展開する。		
到達目標	幼稚園教育要領に示される幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」や領域「表現」のねらいと内容、さらには、子どもの発達や学びの過程への理解を深めることができる。		
授業計画	第1回 本授業のねらいと内容、授業の進め方について（川中、橋本） 第2回 こどもと絵本を読むということ（橋本） 第3回 絵本を読んでもらうということ（橋本） 第4回 絵本を読むということ（橋本） 第5回 絵本を選ぶということ（橋本） 第6回 幼年童話（橋本） 第7回 素話の実践（橋本） 第8回 こどもの作品から表現・言葉について考える（橋本） 第9回 表現するということについて考えてみよう（川中） 第10回 1枚の紙から立体を表現してみよう（川中） 第11回 音や言葉、匂いを色や形で表現してみよう（川中） 第12回 紙コップを使って表現してみよう（川中） 第13回 様々な表現に触れてみよう（川中） 第14回 壁面装飾を計画してみよう①（デザイン）（川中） 第15回 壁面装飾を計画してみよう②（作成）（川中）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	50%	
	提出物	50%	
失格条件	1.提出物を提出しない場合 2.出席回数が3分の2に満たない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<予習> 日常の中で、自分たちの生活や子どもたちの様子を観察したり、図書館やパソコン演習室を活用して関連資料を調べるなど、積極的に取り組んで下さい。（予習 2時間） <復習> 授業で取り上げた内容をまとめて下さい。（復習 2時間）		
課題へのフィードバック	課題ごとに意見交換やコメントカードの作成を行っており、その時に必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	使用しません		
著者名			
出版社			
参考書	・幼稚園教育要項、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要項 ・保育のなかの絵本 正置友子著 かもがわ出版 ・適宜授業内で紹介します。		
その他	特になし		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（橋本）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD106A01	期間	前期
授業科目名	教育原理		
英訳科目名	The Principle of Education		
担当教員名	横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本授業では、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。		
到達目標	①教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解することができる。 ②教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現在に至るまでの教育及び学校の変遷を理解することができる。 ③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することができる。		
授業計画	第1回 教育の基本的概念 (1) 教育とは何か、教育の目的・目標、教育という営みと人間形成 第2回 教育の基本的概念 (2) 子供の視点から教育を考える 第3回 教育の基本的概念 (3) 教員の視点から教育を考える 第4回 教育の基本的概念 (4) 家庭・社会の視点から教育を考える 第5回 教育の基本的概念 (5) 学校の視点から教育を考える 第6回 教育及び学校の歴史の変遷 (1) 家庭教育、社会教育の歴史 第7回 教育及び学校の歴史の変遷 (2) 近代教育制度の成立と展開 第8回 現代社会における教育課題 (1) 社会構造の急激な変化と教育現象の特徴 第9回 現代社会における教育課題 (2) 我が国の教育政策の過去と現在 第10回 現代社会における教育課題 (3) 様々な教育課題について探究する 第11回 教育に関する思想 (1) 子供という存在、子供が育つということ 第12回 教育に関する思想 (2) 子供にとっての学校と家庭 第13回 教育に関する思想 (3) 教えるということ 第14回 教育に関する思想 (4) 学ぶということ 第15回 教育に関する思想 (5) 子供のための教育及び学校について探究する 定期試験		
評価方法 (合計100%)	定期試験 40% 学習ポートフォリオの記述内容 30% 自己評価シートの記述内容 10% 学習内容の確認小テスト 20%		
失格条件	出席回数が開講時数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】 (3時間) ・ 次回の学習内容について、参考文献や資料を精読してキーワード集に書き込む。 ・ 提示された課題に取り組む。 ・ 小テストや定期試験に向けての準備をする。 【復習】 (1時間) ・ 配布資料やポータルサイトから授業スライドを見直し、学習内容を振り返る。 ・ 授業中にキーワード集に記述できていない部分を追記したり、自分の考えをまとめる。 ・ 学習ポートフォリオを整理する。		
課題へのフィードバック	・ 自己評価シートおよび学習ポートフォリオについては、個別にコメントをつけて返却し、全体に向けてもコメントする。 ・ 小テストについては添削後に返却して、全体に向けて解説とコメントをする。		
教科書	特に指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	問いからはじめる教育学 (勝野正章・庄井良信著、有斐閣) 教職の原理 第1巻 教育とは何か (石村卓也・伊藤朋子著、晃洋書房) 教師のための教育学シリーズ2 教育の哲学・歴史 (古屋恵太編著、学文社) 授業中に適宜資料を配布する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	子どもの保健 I		
英訳科目名			
担当教員名	井上 里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	少子高齢化における子どもの健全育成には、単に子どもの身体と心の発達のみならず、子どもを取り巻く教育環境の時代的変遷を理解し、統合できる力が求められている。保育者の質と向上を目指して、保育に必要な保健知識を深め、小児の特徴的な疾病や事故を把握し、母子保健や児童福祉施策とその課題についても概説し、子どもの理解を深め、到達度の確認をする。		
到達目標	子どもの心身の健康増進を図る意義を理解し、子どもの身体発育、生理、運動、精神機能の発達と保健、また疾病とその予防法や、適切な対応を理解することができる。更に保育における環境や、衛生と安全管理、並びに施設などにおける子どもの心身の健康について、現状と課題も理解する事ができる。		
授業計画	第1回 小児の発達、発育の総論（子どもの健全な発育について） 第2回 子どもの成長発達について（身長、体重などの身体発育について） 第3回 生理機能①体温、呼吸、排泄 第4回 生理機能②睡眠、排泄 第5回 感染症：①ウイルス感染症 第6回 感染症：②細菌感染症 第7回 予防接種について（予防接種の現状と課題について） 第8回 食中毒について 第9回 皮膚、アレルギーの病気（子どものアレルギーの現状と課題について） 第10回 循環器・血液の病気 第11回 眼・耳・鼻・運動器の病気 第12回 事故と応急処置①（現場で起こりやすい事故の応急手当てについて） 第13回 事故と応急処置②（応急対応と救命処置について） 第14回 子どもの精神保健：現状と課題 第15回 到達度の確認（全ての項目についてふり返り各自の達成度と課題を確認）		
評価方法 (合計100%)	到達度の確認、授業への参加度や授業態度、レポートなど、総合的に評価して、60点以上を合格とする。 ・テスト80% ・授業への参加態度・小レポートなど20%		
失格条件	出席回数が3分の2以上に満たない場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	子どもの病気の疾患名や状態など、医学用語がありますが、理解できないときは質問する、または各自調べる、参考資料を活用する、などして、習得してください。 ・講義で紹介する参考文献を読み、わかる範囲で医学用語などを調べておくこと（予習2時間） ・講義内容をノートにまとめ、参考文献をノートに貼付して、到達度確認試験に備える事（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	準備学習用課題および毎時の学習については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 テスト・小テストやレポートは授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	子どもの保健 第4版 巷野悟郎（診断と治療社） 子どもの保健1 佐藤益子 授業で配布するプリント		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	子どもの保健Ⅱ		
英訳科目名			
担当教員名	井上 里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	子どもの健全な育成のために、子どもを取り巻く社会や教育環境の現状を理解する。特に保育における保健活動や精神保健と社会や医療との連携に重点を置く。そして、今の子どもの心とからだの育ちを理解し、保育士の専門性の向上と保育実践に役立つことを目的として、内容理解の確認をする。		
到達目標	子どもの心身の健康増進を図る意義を理解し、子どもの身体発育、生理、運動、精神機能の発達と保健、また疾病とその予防法や、適切な対応を理解することができる。更に保育における環境や、衛生と安全管理、並び施設などにおける子どもの心身の健康について、発達障害や虐待などの現状と課題も理解する事ができる。		
授業計画	第1回 保育における保健活動とは・・・ 第2回 保育における保健活動（保育における保健活動の位置づけ） 第3回 保育における保健活動（子ども集団全体の健康と安全・衛生管理） 第4回 子どもの保健と環境（養護と教育の一体性と保健との関連） 第5回 子どもの保健と環境（健康増進と保育の環境） 第6回 子どもの保健と環境（子どもの発達援助と保健活動） 第7回 子どもの疾病と適切な対応（感染症の予防と対策） 第8回 子どもの疾病と適切な対応、（個別的な配慮を必要とする子どもへの対応） 第9回 子どもの疾病と適切な対応（障害のある子どもへの適切な対応） 第10回 事故防止・および健康と安全管理（事故防止、および健康管理、安全指導） 第11回 事故防止・および健康と安全管理（急な病気への対応の基本） 第12回 発達障害の現状について 第13回 発達障害の理解と対応 第14回 心とからだの健康づくりと地域保健活動 第15回 授業のまとめと理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	到達度の確認、授業への参加度や授業態度、レポートなど、総合的に評価して、60点以上を合格とする。 ・テスト80%、授業への参加態度と小レポート20%		
失格条件	出席回数が3分の2以上に満たない場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	子どもの病気の疾患名や状態など、医学用語がでてきますが、理解できないときは質問する、または各自調べる、参考資料を活用する、などして、習得してください。 ・講義で紹介する参考文献を読み、わかる範囲で医学用語などを調べておくこと（予習2時間） ・講義内容をノートにまとめ、参考文献をノートに貼付して、到達度確認試験に備える事（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	準備学習用課題および毎時の学習については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 テスト・小テストやレポートは授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	子供の保健 第4版 ・巷野悟郎 子どもの保健1 佐藤益子 子どもの保健2 佐藤益子他 授業で配布するプリント		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	前期
授業科目名	子どもの保健演習	
英訳科目名		
担当教員名	伊野 栄子、服部 保子	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもは乳児期・幼児期・学童期と発育、発達は目ざましいものであり、それぞれの時期での発育・発達を理解することは重要である。子どもの保健で得た知識を基本に、養護に必要な健康の保持増進、衛生、安全のための知識と技術を習得する。</p> <p>そのために授業では、子どもの健康状態の把握、病気の予防、事故防止、病気やケガの状態に応じた手当てができるように演習を通して学んでいく。</p>	
到達目標	<p>1.子どもの健康、衛生、安全について理解することができる。</p> <p>2.目的、ねらいを理解した演習ができる。</p> <p>3.子どもの保健に関する基礎知識と基本的技術を習得することができる。</p>	
授業計画	<p>第1回 子どもの保健演習ガイダンス</p> <p>第2回 子どもの発育（発育(歯を含む)・計測)</p> <p>第3回 乳幼児期の養護①（抱き方・更衣・排泄・おむつ交換）</p> <p>第4回 乳幼児期の養護②（調乳・栄養）</p> <p>第5回 乳幼児期の養護③（清潔・沐浴）</p> <p>第6回 子どもの発達（運動（眼含む）・精神発達、評価）</p> <p>第7回 子どもの健康管理（観察・発見・手当て）</p> <p>第8回 乳幼児期の事故（予防と対策）</p> <p>第9回 慢性疾患・障がいを持つ子どもの保健</p> <p>第10回 集団における感染症予防と対策</p> <p>第11回 応急手当て①（急病時の対応）</p> <p>第12回 応急手当て②（負傷時対応）</p> <p>第13回 集団における健康教育①（ふり返り、話し合い・準備）</p> <p>第14回 集団における健康教育②（作成・実践・評価）</p> <p>第15回 まとめ（内容の理解並びに到達度の確認）</p>	
評価方法 (合計100%)	<p>授業の参加態度 20%</p> <p>取り組み姿勢 10%</p> <p>提出物 10%</p> <p>筆記試験 60%</p>	
失格条件	<p>出席回数が2/3以上に満たない場合（6回以上の欠席）は失格となる。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>1.次回授業までに教科書をよく読んでおくこと。（予習時間 2時間）</p> <p>2.授業終了後、教科書や配付資料で理解を深めること。（復習時間 2時間）</p> <p>3.わからないことがあれば、質問をすること。</p> <p>4.授業には積極的に参加すること。</p>	
課題へのフィードバック	<p>演習主体の授業のため、その都度理解状況を確認するとともに、学生に質問の有無などを求め、課題到達に努める。</p> <p>また、授業終了時、出席票のほかその日の授業に関する感想、意見、質問などを記載、提出してもらう。</p> <p>そのことにより、学生の関心、理解度を把握する。結果を次回の授業冒頭に学生全体に返し、課題到達をより図る。</p>	
教科書	これならわかる！ 子どもの保健演習ノート	
著者名	榊原洋一監修/小林美由紀執筆	
出版社	株式会社 診断と治療社	
参考書	特になし。 必要時、資料を配付する。	
その他	学習態度・遅刻等の取扱い、演習中の服装（靴）、持ち物等については、初回授業で説明する。 再履修するものは、初日に講師に確認すること。	
備考		
科目生への開講	なし	



ナンバリング	CD104C04	期間		後期	
授業科目名	子どもの食と栄養				
英訳科目名	Nutrition for Children				
担当教員名	進藤 容子				
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○		
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎		
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6			
授業概要・ポイント	子どもの食と栄養は、健全な発育にとってだけでなく、生涯にわたる食生活の基礎となる点でも重要です。したがって保育者には、乳幼児期の食の体験が心身の健康と発達を促すことをふまえて適切な食の援助を行うことが求められます。本授業では、グループワークや実習、演習を通して子どもの食生活に見られる問題を考えていきます。その中で、健やかな子どもの育ちを支援するためには子どもの食と栄養についての理解が重要であることへの気づきをうながし、必要な理解と技術についての学習を深めます。				
到達目標	この授業は、「子どもの食」を養護と教育とを一体的に展開する保育として正しく理解し、実践的に応用できる力の修得をめざし、次の項目を達成目標とします。 ①栄養や食品に関する基礎知識を身につけることができる。 ②乳幼児の食生活の特徴に関する知識を身につけることができる。 ③授乳・離乳支援の基本的な技術を身につけることができる。 ④身につけた知識をいかして子どもの食の問題への対応を考えられる。				
授業計画	第1回 授業ガイダンス 子どもの健康と食生活 第2回 栄養の知識を確かめる 第3回 からだのしくみと栄養 第4回 栄養素のはたらき1 エネルギーになる栄養素(糖質) 第5回 栄養素のはたらき2 エネルギーになる栄養素(脂質) からだを作るもとになるになる栄養素 第6回 栄養素のはたらき3 からだの調子を整える栄養素 その他の食品成分 何をどれだけ食べたらよいのか 第7回 幼児の食事 幼児の一日の食事を考える 第8回 子どもの発育・発達と食生活 第9回 子どもの食の問題から考える1 好き嫌いを考える 第10回 子どもの食の問題から考える2 「咀嚼」の問題を考える 離乳について1 離乳の概要 第11回 離乳について2 離乳食調理 第12回 乳汁栄養について 第13回 食の安全について とくに「食物アレルギー」について考える 第14回 食育の基本と実践 第15回 ふり返り 全ての項目についてふり返り各自の達成度と課題を確認				
評価方法 (合計100%)	学修ファイル 30% (丁寧に整理ができていないか 毎回の理解の程度) 課題(準備学習) 10% (準備学習に誠実に取り組んだか 準備学習から課題を見出したか) 小テスト 20% (食物や栄養に関する基礎知識が身についているか) 振り返り 5% (学びの経緯を振り返り、自分の課題を正確に判断することができたか) 最終レポート 35% (子どもの食の問題について正確な知識に基づき対応を考えられるか)				
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合				
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・準備学習用課題(予習2時間)。 ・学修ファイルの整理(復習2時間)。				
課題へのフィード バック	・準備学習用課題および毎時の学習シートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。				
教科書	新しい時代の保育者養成「子どもの食と栄養」				
著者名	進藤容子 編著、山本友江、豊原容子、塩田二三子、反保多美子、廣陽子 著				
出版社	あいり出版				
参考書	「授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き」、柳澤正義 監修、母子保健事業団発行、2008年 「保育所保育指針解説書」厚生労働省、フレーベル館、2018 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省、フレーベル館、2018 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」厚生労働省、2011 「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省、2012 「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」厚生労働省、2004				
その他	20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。				
備考					
科目生への開講	なし				

ナンバリング	CD108C05	期間	後期
授業科目名	子どもの食育		
英訳科目名	Shokuiku for Children		
担当教員名	進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>食をめぐる課題の深刻化に対応するため、平成17年に「食育基本法」が制定されました。食育は、全ての世代を通して間断なく推進されることが望まれます。特に幼児期は、生きる力の基礎を育てる時期であり、健やかな育ちを保証するとともに、生涯にわたる食を営む力の基礎を培う食育のもつ意義は大きいものです。</p> <p>授業では、子どもの食と栄養に関する基本的な知識、理解に基づき、子どもの実態に応じた食育のねらいを考え、子どもの生活全体に食育の場面を見出し、実践できる力を養うことを目標とします。また、保育・教育現場では、全職員が協働して食育実践できるよう、食育計画を保育計画に位置付けることが重要となるため、そのあり方を考えられるよう、進めていきます。</p>		
到達目標	<p>①食育の定義、意義を正しく理解できる。</p> <p>②保育・教育現場での食育計画のあり方を理解することができる。</p> <p>③保育者・教育者として専門性を生かした食育実践を計画、実行できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 授業計画の確認</p> <p>第2回 「食育とは」 保育所、幼稚園、小学校での食育</p> <p>第3回 望ましい食行動が身につく「教育」を考える</p> <p>第4回 乳幼児期の食育 (1) めざす子ども像の理論</p> <p>第5回 乳幼児期の食育 (2) 食育計画</p> <p>第6回 学童期の食育 (1) 食育を科目横断的に実施するとは</p> <p>第7回 学童期の食育 (2) 食に関する指導に係る全体計画</p> <p>第8回 こども主体の調理活動を考える (1) 調理活動を考える</p> <p>第9回 こども主体の調理活動を考える (2) 調理 (準備)</p> <p>第10回 こども主体の調理活動を考える (3) 調理 (実践)</p> <p>第11回 アレルギー対応の食事を考える (1) 食事内容を考える</p> <p>第12回 アレルギー対応の食事を考える (2) 調理 (準備)</p> <p>第13回 アレルギー対応の食事を考える (3) 調理 (実践)</p> <p>第14回 保護者を対象とした食育を考える</p> <p>第15回 家庭に発信できる媒体づくり</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業参加態度 (実践・報告) 30%</p> <p>教材作成 20%</p> <p>レポート 50%</p>		
失格条件	出席回数が3分の2に満たなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>・毎時の授業での活動において、「子どもの食と栄養」で学んだ基礎的な子どもの食に関する知識を確認することが望まれます。予習2時間 (90分)</p> <p>・授業のふり返り、教材作成などの事後学習が必要となります。復習2時間 (90分)</p>		
課題へのフィード バック	<p>・毎時のコメントカードについては、クラス全体で共有しコメントします。</p> <p>・レポートについては、全体に対しポータルで講評を公開します。</p>		
教科書	必要に応じて、プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>新しい時代の保育者養成「子どもの食と栄養」進藤容子編著、山本友江、豊原容子、塩田二三子、反保多美子、廣陽子 著、あいら出版発行、2012年</p> <p>「幼児期の保育と食育 保育園・幼稚園での食育のすすめ方」、小川雄二、須賀瑞枝 著、芽ばえ社、2017年</p> <p>「食育と保育をつなぐ—こどもをまん中においた現場での実践—」濱名清美 著、建帛社、2018年</p> <p>「保育所保育指針」厚生労働省、「幼稚園教育要領」文部科学省、</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>「食に関する指導の手引き」文部科学省、2010年</p> <p>「保育所における食育に関する指針」厚生労働省、2004年</p> <p>「児童福祉施設における食事の提供ガイド」厚生労働省、2010年</p> <p>「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省、2012年</p>		
その他	20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD103A04	期間	後期
授業科目名	子どものためのピアノ奏法（基礎）		
英訳科目名	Piano playing style for children (Basic)		
担当教員名	岩口 摂子、大橋 邦康、田口 友子、横山 由美子、山本 景子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	保育・教育の音楽活動を支えるピアノ演奏の基礎を習得する。本授業では特に楽譜を見ながらブラインドタッチで弾くことと、手のポジションと指使いの関係について学びながら、いろいろなポジションでの音や和音が弾けるような手指の柔軟性も獲得していく。また初歩段階から、曲のイメージをつかんだり、一つ一つの音の方向性を探りフレージングしたり、曲全体の構成を考える習慣をつけて豊かな音楽表現を目指す。		
到達目標	(初級レベル) ・調号1つまでの調の長音階が弾ける ・I IV Vの和音で簡易伴奏ができる ・歌いながら簡単な伴奏ができる		
授業計画	(例：初級レベル用) 第1回 いすの座り方、手指の形、手首の位置、同時打鍵、指番号、ブラインドタッチ、楽譜の読み方など 第2回 音・休符の長さ、旋律線、右手・左手の打鍵・離鍵のタイミングについて 第3回 五線上で相対的に読んだ音を、そのまま指に対応させることに慣れる 第4回 歌を意識しながら右手の旋律を弾く 第5回 レガートとスタッカートの違いを意識して弾く 第6回 I、IV、Vの記号を見て、即、音に変換できるようにする I⇔IV⇔Vで動かない指、移動する指がどれかを覚え、鍵盤移動がスムーズに行えるようにする 第7回 和音のいろいろな分散型を使って、伴奏パートを変奏する ト長調やヘ長調においても和音記号を見て、即、音に変換できるようにする 第8回 移調して弾くことに慣れる 第9回 フレーズにまとまりが感じられるように弾く 第10回 ブラインドタッチで指くぐり、指越えがスムーズにできるようにする 第11回 ブラインドタッチができるよう、可能なかぎり合理的な指使いを考える 第12回 左手も歌っているように弾く 第13回 弾き歌い 第14回 弾き歌いの応用 第15回 暗譜の仕方を覚える。人前で弾くことに慣れる		
評価方法 (合計100%)	平生の練習度50% 公開での試験50%		
失格条件	・授業出席回数が3分の2以上に満たない場合 ・正当な理由なくテストを受験しなかった場合 ・必修ラインの課題曲まで到達しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指定された進度表にしたがって、課題曲を予習し、授業のあとは復習をしておくこと。授業の直前にまとめて練習するのではなく、一定量の練習を毎日続けてください。目安としては毎日、予習・復習を含めて30分以上練習するのがのぞましい。		
課題へのフィード バック	個別のレッスン形式で授業をすすめます。		
教科書	1.ピアノが弾ける3つのステージ～楽しく無駄なくピアノをマスター～ 2.「表現」がみるみる広がる！保育ソング90		
著者名	1.水戸博道・小山和彦・岩口摂子 2.編著者：岩口摂子・高見仁志		
出版社	1.東音企画 2.明治図書		
参考書	授業中に適宜資料を配布する。		
その他	電子ピアノの練習用ヘッドフォンを持参すること		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング	CD103B01	期間	前期/後期
授業科目名	子どものための歌と伴奏		
英訳科目名	Songs and accompaniment for children		
担当教員名	岩口 摂子、大橋 邦康、田口 友子、横山 由美子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	「子どものためのピアノ奏法(基礎)」で得たピアノの基礎的な技術を子どもの歌の弾き歌いなどに応用して、保育実践で使える音楽のレパートリーを増やししながら、ピアノや歌で豊かな音楽表現ができるようにする。さらに、学生が新しい曲に取り組む際に、指使いを決定したり自らの練習課題を発見することができるような独習方法を教授し、自主的なピアノ学習もサポートする。		
到達目標	(初級レベル) ・ピアノの音量以上の声を出して、表情豊かに弾き歌いできる ・バイエル100番程度の楽曲が弾けるようになる ・いろいろな和音が弾けるようになる		
授業計画	(例：初級レベル用) 第1回 ピアノを弾く際の基本的なことを確認する 第2回 ブラインドタッチで指くぐり・指越えがスムーズにできるようにする 第3回 より音楽的な表現を目指す 第4回 旋律と指使いの関係において合理的な指使いを考える 第5回 同時打鍵とともに和音のポジション移動がスムーズにできるようにする 第6回 左手の第5指を保持しながらその他の指を動かす 3連符やスキップなどのリズムを正確に弾く 強弱記号などを参考にして、音楽表現を工夫する 第7～10回 弾き歌いではピアノの音量以上の声を出して歌う 第11回 重音と重音が途切れないように、なめらかに弾く 第12回 強弱の幅が大きくなるようタッチをコントロールする 装飾音符によって、リズムが不正確にならないよう弾く 第13回 進度調整 第14～15回 暗譜の仕方を覚える。人前で弾くことに慣れる		
評価方法 (合計100%)	平生の練習度50% 公開での試験50%		
失格条件	・授業出席回数が3分の2以上に満たない場合 ・正当な理由なくテストを受験しなかった場合 ・必修ラインの課題曲まで到達しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指定された進度表にしたがって、課題曲を予習し、授業のあとは復習をしておくこと。授業の直前にまとめて練習するのではなく、一定量の練習を毎日続けてください。目安としては毎日、予習・復習を含めて30分以上練習するのがのぞましい。		
課題へのフィード バック	個別のレッスン形式で授業をすすめます。		
教科書	1.ピアノが弾ける3つのステージ～楽しく無駄なくピアノをマスター～ 2.「表現」がみるみる広がる！保育ソング90		
著者名	1.水戸博道・小山和彦・岩口摂子 2.編著者：岩口摂子・高見仁志		
出版社	1.東音企画 2.明治図書		
参考書			
その他	電子ピアノの練習用ヘッドフォンを持参すること		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD103B01	期間	前期
授業科目名	子どものための歌と伴奏(再)		
英訳科目名	Songs and accompaniment for children		
担当教員名	岩口 摂子、大橋 邦康、田口 友子、横山 由美子、山本 景子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「子どものためのピアノ奏法(基礎)」で得たピアノの基礎的な技術を子どもの歌の弾き歌いなどに応用して、保育実践で使える音楽のレパートリーを増やししながら、ピアノや歌で豊かな音楽表現ができるようにする。さらに、学生が新しい曲に取り組む際に、指使いを決定したり自らの練習課題を発見することができるような独習方法を教授し、自主的なピアノ学習もサポートする。		
到達目標	(初級レベル) ・ピアノの音量以上の声を出して、表情豊かに弾き歌いできる ・バイエル100番程度の楽曲が弾けるようになる ・いろいろな和音が弾けるようになる		
授業計画	(例：初級レベル用) 第1回 ピアノを弾く際の基本的なことを確認する 第2回 ブラインドタッチで指くぐり・指越えがスムーズにできるようにする 第3回 より音楽的な表現を目指す 第4回 旋律と指使いの関係において合理的な指使いを考える 第5回 同時打鍵とともに和音のポジション移動がスムーズにできるようにする 第6回 左手の第5指を保持しながらその他の指を動かす 3連符やスキップなどのリズムを正確に弾く 強弱記号などを参考にして、音楽表現を工夫する 第7～10回 弾き歌いではピアノの音量以上の声を出して歌う 第11回 重音と重音が途切れないように、なめらかに弾く 第12回 強弱の幅が大きくなるようタッチをコントロールする 装飾音符によって、リズムが不正確にならないよう弾く 第13回 進度調整 第14～15回 暗譜の仕方を覚える。人前で弾くことに慣れる		
評価方法 (合計100%)	平生の練習度50% 公開での試験50%		
失格条件	・授業出席回数が3分の2以上に満たない場合 ・正当な理由なくテストを受験しなかった場合 ・必修ラインの課題曲まで到達しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指定された進度表にしたがって、課題曲を予習し、授業のあとは復習をしておくこと。授業の直前にまとめて練習するのではなく、一定量の練習を毎日続けてください。目安としては毎日、予習・復習を含めて30分以上練習するのがのぞましい。		
課題へのフィード バック	個別のレッスン形式で授業をすすめます。		
教科書	1.ピアノが弾ける3つのステージ～楽しく無駄なくピアノをマスター～ 2.「表現」がみるみる広がる！保育ソング90		
著者名	1.水戸博道・小山和彦・岩口摂子 2.編著者：岩口摂子・高見仁志		
出版社	1.東音企画 2.明治図書		
参考書			
その他	電子ピアノの練習用ヘッドフォンを持参すること		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD108C06	期間	前期
授業科目名	子どものためのピアノ奏法（発展）		
英訳科目名	Piano playing style for children (Development)		
担当教員名	岩口 摂子、大橋 邦康		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「子どものためのピアノ奏法（基礎）」や「子どものための歌と伴奏」で習得したピアノスキルを、各自のピアノレベルに応じて、さらに向上させるとともに、簡易伴奏法を習得し、子どもの歌と伴奏のレパートリーを広げていきます。また他者と音楽を楽しめるアンサンブルの経験のために連弾を行います。保育所や幼稚園に就職を希望する人は、ピアノの就職試験対策も行いますので、ぜひ履修していただきたいと思います。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌やピアノで豊かに表現できるようになる。</li> <li>・歌やピアノ曲のレパートリーを増やすことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 コード(絶対度数と相対度数)を読む／コードに慣れる。初見のコツをつかむ</p> <p>第2～6回 採用試験のためのピアノ曲(感性と技術の両面から、音楽的な表現の深化を図る)</p> <p>第7～11回 弾き歌い(もっとも合理的な指使いを考える／ピアノの音量以上に声を出して、歌唱上でも豊かな表現をする)</p> <p>第12～13回 連弾(相手のテンポや音量を聞きながら弾く／他者とともに音楽を作る楽しさを味わう)</p> <p>第14～15回 暗譜の仕方を覚える／人前で弾くことに慣れる</p>		
評価方法 (合計100%)	平生の練習度50% 公開での試験50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業出席回数が3分の2上に満たない場合</li> <li>・正当な理由なくテストを受験しなかった場合</li> </ul>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	自己課題を見つけられるようになると、卒後も学習を継続していけます。練習は、自己課題を設定してから始めましょう。また採用試験に備えて、初見で楽譜を読む訓練も積極的に行ってください。目安としては、毎日、予習・復習を含めて30分以上練習するのがのぞましい。		
課題へのフィード バック	個別のレッスン形式で授業をすすめます。		
教科書	1.ピアノが弾ける3つのステージ～楽しく無駄なくピアノをマスター～ 2.「表現」がみるみる広がる！保育ソング90		
著者名	1.水戸博道・小山和彦・岩口摂子 2.編著者：岩口摂子・高見仁志		
出版社	1.東音企画 2.明治図書		
参考書	授業中に適宜資料を配布する。		
その他	電子ピアノの練習用ヘッドフォンを持参すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD108C07	期間	後期
授業科目名	子どもと楽しむ音楽		
英訳科目名	Music to enjoy with children		
担当教員名	岩口 摂子、柴田 健、渡辺 友希子、高橋 侑子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	保育者には、鍵盤楽器の演奏技術のほかに、子どもに対面して伴奏できる楽器の演奏や、子どもに扱える簡易打楽器に関する知識や技術があることがのぞましい。また、子どもに接するときの声の出し方は、歌唱活動以外の保育場面でも配慮を要するところである。そのような必要性から本演習では、声楽、ギター奏法、簡易打楽器奏法について5週ずつオムニバス形式で学習する。		
到達目標	幼児歌曲で求められる歌唱表現のテクニックを身につけ、ギターと簡易打楽器の基本的な奏法をマスターできる。		
授業計画	<p>(声楽：高橋,ギター：柴田,打楽器：渡辺)</p> <p>第1回 (声楽)腹式呼吸法の練習とその呼吸法を使った発声 主に擬音・擬態表現を使った、幼児に比較的認知度が高いと思われる曲で表現方法を学ぶ</p> <p>第2回 (声楽)前回学んだ擬音・擬態表現を含む、リズムの難易度が少し高い曲を扱う</p> <p>第3回 (声楽)レガート唱法を意識して、叙情性の表現を学習</p> <p>第4回 (声楽)リズム、声域の広さ等において、難度が少し高い、新しい曲を扱う</p> <p>第5回 (声楽)各自の習得度により、あらかじめ自分で選択してきた曲を独唱</p> <p>第6回 (ギター)ギターの構え方と名称 基礎練習(右手)i mを使った曲の練習-1、2弦</p> <p>第7回 (ギター)(右手)i mを使った曲の練習-2、3、4弦 (左手)1、2、3を使った練習</p> <p>第8回 (ギター)ト長調、二長調の練習</p> <p>第9回 (ギター)(右手)親指を使った練習 リズム変化のある曲</p> <p>第10回 (ギター)ハ長調以外の単音練習曲 メロディーに簡単な低音伴奏をつける コード練習</p> <p>第11回 (打楽器)スティック及びマレットの持ち方、構え方とともに、リズム分割を用いて基本奏法を習得</p> <p>第12回 (打楽器)ポピュラーな曲を用いて、鍵盤打楽器を中心にアンサンブルを行う</p> <p>第13回 (打楽器)様々な打楽器の名前と奏法を習得しながら、エイトビート、ピギン、サンバのリズムパターンを習得</p> <p>第14回 (打楽器)ポピュラーな曲に、前回学んだ任意のリズムを加え、アンサンブル曲を組み立てる</p> <p>第15回 (打楽器)前回の授業のアンサンブル曲を仕上げ、到達度テストを行う</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 70% 発表30%		
失格条件	次のいずれかの項に該当する場合は、失格とします。 1.声楽、造ギター、打楽器、各分野での出席回数が3回に満たない場合 2.全体の出席回数が10回に満たない場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業を受ける前に90分程度の予習と授業を受けた後に90分程度の復習を行うことがのぞましい。いつでも練習できる環境にはないが、少なくとも読譜は行っておくこと。		
課題へのフィード バック	個別のレッスン形式で授業をすすめます。声楽では、授業中に学習した曲を5回目の授業で各人歌唱のうえ、個別にアドバイスします。ギターは最終授業でセゴヴィア・スケールが弾けるか低音付きメロディーが弾けるかハ長調コードが弾けるか確認し、成績に反映させます。打楽器は5回目の授業のアンサンブル曲を仕上げる際、個別にアドバイスをを行い、その後到達度テストを行います。		
教科書	声楽と打楽器の授業ではピアノの授業等で使用した、岩口・高見編著「『表現』がみるみる広がる！保育ソング90」(明治図書)を使います。ギターの授業では、担当者からプリントが適宜配布されます。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107B08	期間	後期
授業科目名	体育		
英訳科目名	Physical Education		
担当教員名	前田 雅章		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>&lt;キーワード&gt;  教科内容 技能習熟（できる）  技術認識（わかる） 技術指導の系統性  指導内容・方法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  幼稚園・保育所・小学校において体育を展開していく場合問われるのは、発達課題とかかわらせたいうえで、子どもたちに体育で何を教え・伝えるのかという内容が科学的・系統的に整理された取り組みであるかどうかである。そのために幼稚園教員・保育士・小学校教員は、マット運動などの教材でしか味わえないおもしろさや、そのことを実感できうる技術指導の内容・方法を系統的に整理する必要がある。そのことによって、「できる」ようになることに加え、「わかる」という技術認識を子どもたちに獲得させることが可能になってくる。本講義は「できて・わかり・楽しい」体育の指導内容・方法について考えていく。  また、幼・保・小学校では、表現の教育が重視されてきている。本講義では、表現運動として民舞「荒馬」をとりあげ、踊りの習熟と系統的な指導方法について学んでいく。</p>		
到達目標	教材固有のおもしろさについて理解し、実際に「できる」「わかる」ようになる。 技術指導の系統性について理解できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション グループイング 第2回 キャスターボード遊び運動① 運動感覚づくり 第3回 キャスターボード遊び運動② 用具を使った技集め グループ発表 第4回 マット運動① ねこちゃん体操 運動感覚づくり 動物歩き 第5回 マット運動② おはなしマット 第6回 マット運動③ 側転の系統的な指導 第7回 マット運動④ 側転の習熟と連続技 第8回 マット運動⑤ 側転を含む連続技づくり グループ発表 第9回 表現運動 民舞「荒馬」① 動きを覚える 第10回 表現運動 民舞「荒馬」② 踊りの質を高める 第11回 表現運動 民舞「荒馬」③ 踊りの習熟と踊りの構成 第12回 表現運動 民舞「荒馬」④ 発表会 第13回 保健 健康教育 第14回 体育理論 教室でする体育の授業 第15回 まとめ 最終レポート作成		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・取り組み 30% 体育実技への積極的な参加 30% レポート課題 40%		
失格条件	・欠席が6回以上の場合 ・実技発表を行なわなかった場合 ・最終レポートを提出しない場合 ・正当な理由（自然災害、交通機関の延着など）がない遅刻は欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業で紹介する文献や実践記録を読んでおくこと。（予習2時間） ・授業内容についてレポートをまとめること。（復習2時間）		
課題へのフィード バック	・毎講義後の授業コメント（振り返り）については、講義通信を発行し、必要に応じて個人もしくは全体にコメントします。 ・最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて資料を配布する。		
その他	ジャージなど運動しやすい服に着がえておくこと。運動の得意な学生、不得意な学生、そして男女が一緒になって学習をするグループをつくる。「異質」な集団が教え合い共同して学んでいくグループ学習で授業を進める。グループ学習は、体育科教育の方法だけでなく内容にもなることを念頭に授業に臨んでもらいたい。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		



ナンバリング	CD107B08	期間	前期
授業科目名	体育		
英訳科目名	Physical Education		
担当教員名	中西 利恵		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>さまざまな身体づくりや動きづくりの実践やスポーツの体験を通して、からだを動かすことの喜びや楽しさを味わい、運動に関する基礎的な知識を理解する。そして、乳幼児期および児童期前半の子どもが順調な発達を遂げられるよう、からだを使った遊びを中心とした活動を援助できる能力や技能を高める。特に、子どもたちに経験させたい運動遊びについては、実践をとおしてその遊びのもつ楽しさを体得し、具体的に指導方法や保育の中での展開方法について理解を深めていく。</p> <p>また、指導力を高めるため、他の学生さんたちを子どもたちに見立て模擬的な指導の実践練習を行う。指導の実践練習のようすは録画し、VTRから自己点検・自己評価を実施する。そして、実践にともない指導計画の作成練習も行う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「遊び好奇心」を満ちし、運動効果を高める指導をするために必要な技能や資質を身につけることができる。</li> <li>・子どもの発育発達を踏まえた運動遊びの計画の立案と実践することができる。</li> <li>・実践に対する適切な振り返りを行うことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 運動（遊び）の実践と発達理解(1)：道具を必要としない実践①</p> <p>第3回 運動（遊び）の実践と発達理解(2)：道具を必要としない実践②</p> <p>第4回 運動（遊び）の実践と発達理解(3)：道具を使って：フープ</p> <p>第5回 運動（遊び）の実践と発達理解(4)：道具を使って：ボール</p> <p>第6回 運動（遊び）の実践と発達理解(5)：道具を使って：なわ</p> <p>第7回 運動（遊び）の実践と発達理解(6)：道具を使って：マット・跳び箱</p> <p>第8回 道具を使った運動遊びの計画と実践</p> <p>第9回 運動（遊び）の実践と発達理解(7)：身近なもので：新聞紙</p> <p>第10回 運動（遊び）の実践と発達理解(8)：身近なもので：その他</p> <p>第11回 運動（遊び）の実践と発達理解(9)：音楽を使って</p> <p>第12回 指導練習(1)：指導計画の立案</p> <p>第13回 指導練習(2)：実践と自己評価①</p> <p>第14回 指導練習(3)：実践と自己評価②</p> <p>第15回 総合的な振り返り</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 50%</p> <p>課題、模擬保育実践、指導計画 50%</p>		
失格条件	<p>出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合</p> <p>指導練習等を正当な理由なく行わなかった場合</p> <p>授業内で支持された提出物が期限までに提出されなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>①幼児・小学校低学年が興味・関心を示すような素材を見つけられるよう参考文献等から情報収集すること。（予習：6時間）</p> <p>②日常において意識して幼児・児童を観察すること。（予習&amp;復習4時間）</p> <p>③幼児・学童子どもたちが楽しく体を動かすために使用する音楽について情報収集すること。（予習：4時間）</p> <p>④他者の自己点検・自己評価内容について考察すること。（復習：2時間）</p> <p>⑤模擬保育に関連する課題の作成をすること。（予習&amp;復習：6時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・実技の取り組みに対しては、授業で動画を用いて個別および全体にコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業内において、必要に応じて資料プリントを配布する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	図画工作		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子、高田 学、川嶋 啓子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>ものをつくる、という事は、技術だけを伝えるものではありません。          感性や創造力を豊かにし、人や物と共存する方法をみつけるための、一つの道筋です。          この授業では、保育者となるための、実践的なプログラムのたて方を学びます。          実際の図画工作の授業のための、子どもたちの年齢や発育に合わせた企画・立案から計画書づくり、そして実際に体験しながら検証する事で、実施のために必要となってくる画材や素材の研究と学習を行います。</p>		
到達目標	<p>保育者・教育者自身が楽しむことを知らなければ、子どもたちも本当に楽しむことはできません。          子どもと一緒に造形表現を楽しみながらも、多視点からの企画を立て進行することで、保育者・教育者に必要な造形表現の知識・技術・発想力の基礎を身につけることができるようになります。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：授業の意義と進行説明          素材研究／紙を知る(原料・種類・特性について)          第2回 立体表現①          素材研究／粘土を知る(土粘土の性質・粘土の種類・技法)          第3回 立体表現②          素材研究／粘土を知る(土粘土の特性を活かした表現)          第4回 平面表現①          素材研究／絵の具を知る(透明／不透明水彩絵の具について・原料・色の混色)          第5回 平面表現②          素材研究／絵の具を知る(道具の使い方・保管方法)          第6回 技法あそび①          素材研究／画材について(クレヨン・パステル・クレパス・コンテ)          第7回 技法あそび②          素材研究／様々な版表現を使った技法あそび(凸版・凹版・平版・孔版の技法理解)          第8回 版表現          素材研究／紙版画(凸版)の技法習得①          第9回 版表現          素材研究／紙版画(凸版)の技法習得②          第10回 室内装飾①          素材研究／平面から立体への工夫          第11回 室内装飾②          素材研究／立体作品による室内装飾計画、及び制作          第12回 共同制作          素材研究／共同作業の際の計画書づくり          第13回 共同制作          素材研究／様々な材料の加工方法と道具の扱い方を知る①          第14回 共同制作          素材研究／様々な材料の加工方法と道具の扱い方を知る②          第15回 共同制作          素材研究／合評・異素材を使用した場合の片付けの方法</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 60%          指導計画書ファイル提出 40%</p>		
失格条件	<p>次のいずれかに該当すれば失格となります。          ・1/3以上の欠席があった場合          ・期末に資料をまとめたファイルを提出しない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>子どもの表現活動に関する題材・資料・アイデアなどを、普段から集めたり記録する事を習慣としておいて下さい。(2時間)          美術館などでアート作品の鑑賞を積極的に行うように心がけ、様々な表現を理解する目と感性を養っておくことも良いでしょう。(2時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>作品完成ごとに、個別もしくは全体にコメントします。</p>		
教科書	使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	幼児造形教育の基礎知識 建帛社		
その他	様々な画材・道具をつかうので、動きやすく、汚れても良い格好で受講して下さい。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	絵画表現		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子、川嶋 啓子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>この授業では、絵画表現をするうえで必要となる、さまざまな描画材料・用具の特徴を知り、その特性を活かして使いこなせるようになることを目的とします。</p> <p>素描を中心とした実習を通して、ものを見る目を養い、表現する力を身につけます。</p> <p>自らが絵画を制作することで、表現することの喜びを知り、豊かな感性を養います。</p>		
到達目標	<p>生活環境にある身近な造形や自然の中にある多様な形をよく観察し、それらを様々な画材を用いて平面上で表現することで、保育者として必要な感性と絵画表現技術を身につけることができるようになります。</p>		
授業計画	<p>第1回 導入 美術教育の必要性・描画材料研究</p> <p>第2回 静物を描く 鉛筆による素描表現</p> <p>第3回 野菜・果物を描く① 水彩絵の具による着色表現</p> <p>第4回 野菜・果物を描く② 水彩絵の具による着色表現</p> <p>第5回 人物表現① コンテ・パステルによる着色表現</p> <p>第6回 人物表現② コンテ・パステルによる着色表現</p> <p>第7回 屋外写生 自然を描く① 水彩絵の具による着色表現</p> <p>第8回 屋外写生 自然を描く② 水彩絵の具による着色表現</p> <p>第9回 屋外写生 自然を描く③ 水彩絵の具による着色表現</p> <p>第10回 貼り絵による表現①</p> <p>第11回 貼り絵による表現②</p> <p>第12回 貼り絵による表現③</p> <p>第13回 壁面装飾 ポスター制作① 不透明水彩絵の具によるデザイン表現</p> <p>第14回 壁面装飾 ポスター制作② 不透明水彩絵の具によるデザイン表現</p> <p>第15回 壁面装飾 ポスター制作③ 不透明水彩絵の具によるデザイン表現</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 70%</p> <p>提出作品 30%</p>		
失格条件	授業の1/3以上の欠席があった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>日々の生活で触れる様々なものをよく観察し、そこから生まれる感動をスケッチやメモとして記録することを習慣として下さい。</p> <p>普段から美術館などへ積極的に行くように心がけ、様々な表現を理解する目を養うように努めて下さい。</p> <p>(予習 2時間 復習 2時間)</p>		
課題へのフィード バック	作品提出時にお互いの作品を観る時間を設けており、その時に必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	使用しません		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	造形実習		
英訳科目名			
担当教員名	高田 学、川嶋 啓子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	この授業では、表現するための道具である「画材」の研究を通じて、画材の知識や技能の習得とともに、描くことや造ること表現することの根本とは何かを考察する。 与えられた画材を使って作品を作るだけでなく、造形に携わる際の「動機」と「プロセス」に重点を置くことで、自身の経験を通じて造ることの楽しさや喜び・難しさを知り、子ども達に伝えるためのリアリティの伴った経験の習得を目的とする。		
到達目標	自らが作った画材を使って作品表現をすることによって、より深い画材に対する知識とそれらを使いこなす技術力を養うことができる。作品の描写力の向上を目的とするのではなく、よく観察することによって感じ、気づくことから表現につなげていくことの大切さを理解することができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の意義と進行説明 支持体研究 和紙を作る 第2回 色財研究① 染料で和紙を染める 第3回 色財研究② 自分で作った画材で描く 第4回 描画材料研究① 顔料でパステルを作る 第5回 描画材料研究② 自分で作ったパステルで描く 第6回 立体造形研究① 和紙立体を作るⅠ 第7回 立体造形研究② 和紙立体を作るⅡ 第8回 立体造形素材研究① 紙粘土を作るⅠ 第9回 立体造形素材研究② 紙粘土を作るⅡ 第10回 立体造形素材研究③ 紙粘土を作るⅢ 第11回 織物造形研究 壁掛けを作る 第12回 版画表現研究 オリジナルバッグを作る 第13回 壁面装飾① 自分で作った色紙で貼り絵 第14回 壁面装飾② 自分で作った色紙で貼り絵 第15回 壁面装飾③ 自分で作った色紙で貼り絵		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 70% 作品提出 30%		
失格条件	授業の1/3以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	子どもの表現活動に関する題材・資料・アイデアなどを、普段から集めたり記録する事を習慣としておくこと。(2時間) 美術館などでアート作品の鑑賞を積極的に行うように心がけ、様々な画材・素材によって表現された作品にふれておくこと。(2時間)		
課題へのフィードバック	作品提出時にお互いの作品を観る時間を設けており、その時に必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業は2週以上連続したものがほとんどです。欠席すれば、次の週の進行にまで影響がでますので、欠席のないようにすること。 エプロン・つなぎなど、汚れても良い格好で受講してください。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD104B06	期間	前期
授業科目名	障害児保育		
英訳科目名			
担当教員名	直島 正樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「障害」のとりえ方、障害児保育に関する基本理念、関連制度・施策、障害児保育の実際等について、講義・演習を通して学ぶ。特に「インクルージョン」の考え方をキーワードに、「障害」とは何か、社会福祉専門職としての保育士の役割について考えて欲しい。		
到達目標	①さまざまな障害について学び、その理解を深めることができる。 ②障害児保育に関わる理念について理解できる。 ③障害児保育に関わる制度・施策、関係機関との連携について理解できる。 ④障害児及び保護者への支援を進める上で、社会福祉専門職（保育士）として必要な視点・考え方を理解できる。		
授業計画	第1回 障害児保育を学ぶにあたって 第2回 障害の概念ととりえ方①（「障害」について考える） 第3回 障害の概念ととりえ方②（ICIDH、ICF等から学ぶ） 第4回 障害の特性理解①（身体障害） 第5回 障害の特性理解②（知的障害、発達障害） 第6回 障害児の生活理解に求められる視点・コミュニケーションについて 第7回 障害児保育に関する理念と動向 第8回 障害児保育に関する法・制度 第9回 障害児保育の実際①（保育所における実践） 第10回 障害児保育の実際②（保育所以外の施設での実践） 第11回 保育所における保護者への支援 第12回 障害児保育実践における関係機関との連携 第13回 障害児・保護者への支援機関とその実際 第14回 インクルーシブ保育の意義と今後の課題 第15回 まとめ（最終課題） *定期的に「講義内容のまとめ（学び・考え）」を記入してもらう予定		
評価方法 (合計100%)	授業内課題【演習シート、グループ演習等】30% 受講状況【積極的参加、マナー（私語、化粧、スマホ）等】20% 最終レポート 50% *最終レポートを提出しなかった場合、必然的に「不合格」となるので注意。		
失格条件	出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義内容の理解を深めるため、授業計画に与えているテーマについて、事前に教科書（該当部分）を読んでおくこと。また、日頃から障害に関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持ち、意見をノート等にまとめておくこと（予習時間：1時間・復習時間：3時間）。		
課題へのフィード バック	・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。 ・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。		
教科書	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』		
著者名	堀智晴・橋本好市・直島正樹（編著）		
出版社	ミネルヴァ書房		
参考書	適宜紹介する。		
その他	①教科書の内容のみならず、教員自身が関わった現場での事例等も紹介したいと考えている。私語等は謹んで意欲的に授業に参加し、「障害」についてさまざまなことを考えて欲しい。 ②必要に応じてプリント類を配布する。また、DVD教材等も使用する。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※子ども発達学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	CD104A03	期間	前期
授業科目名	社会福祉		
英訳科目名	Social Welfare		
担当教員名	直島 正樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>福祉は、社会のさまざまな分野で深くつながっており、私たちは福祉と無関係で生活することはほぼ不可能である。しかし、その意味や内容を理解している人は少ないと言える。保育士をめざす学生でさえ、「社会福祉は高齢者のためのものではないか」「社会福祉を学ぶ理由がわからない」等という者もいる。</p> <p>そこで本講義では、現代社会における社会福祉の意義・歴史の変遷をはじめ、社会福祉と子ども家庭福祉の関係、社会福祉の制度・実施体系、今後の社会福祉の展望等について学習する。人間の一生・生活と社会福祉を関連させながら学び、保育士が社会福祉を学習する意義を実感して欲しい。</p>		
到達目標	<p>①社会福祉と人間の一生・生活との関連性、保育士が社会福祉を学ぶ意義、必要な視点・考え方について理解できる。</p> <p>②現代社会における社会福祉の意義・歴史の変遷、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解できる。</p> <p>③社会福祉の制度・実施体系について理解できる。</p> <p>④社会福祉における利用者の保護の仕組みについて理解できる。</p> <p>⑤社会福祉の現状・課題、今後の動向・展望について理解できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業の進め方・内容等（保育士が社会福祉を学ぶ意義も含む）</p> <p>第2回 社会福祉を取り巻く環境・社会福祉のとらえ方</p> <p>第3回 社会福祉に携わる人々・仕事</p> <p>第4回 子どもと家族の福祉①（妊娠・出産、養育に関わる制度）</p> <p>第5回 子どもと家族の福祉②（子ども家庭福祉に関わる施設・行政機関・サービス利用の仕組み）</p> <p>第6回 子どもと家族の福祉③（子どもの権利、子どもの虐待・関連する法律）</p> <p>第7回 社会保障①（年金制度）</p> <p>第8回 社会保障②（医療保険）</p> <p>第9回 障害児・者福祉</p> <p>第10回 女性への福祉的支援・地域福祉</p> <p>第11回 保育士とソーシャルワーク</p> <p>第12回 低所得者の福祉</p> <p>第13回 高齢者の福祉、社会福祉における利用者保護の仕組み</p> <p>第14回 社会福祉の動向と課題</p> <p>第15回 まとめ（最終課題）</p> <p>*定期的に「講義内容のまとめ（学び・考え）」を記入してもらう予定</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>受講状況【積極的参加、マナー（私語、化粧、スマホ）】40%</p> <p>課題【授業内課題・最終課題等】60%</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義内容の理解を深めるため、授業計画に与えているテーマについて、事前に教科書（該当部分）を読んでおくこと。また、日頃から社会福祉に関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持ち、意見をノート等にまとめておくこと（予習時間：1時間・復習時間：3時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。</p> <p>・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。</p>		
教科書	①『図解で学ぶ保育 社会福祉（第2版）』 ②『福祉小六法（2019年版）』		
著者名	①直島正樹・原田旬哉（編著） ②福祉小六法編集委員会（編）		
出版社	①萌文書林 ②みらい		
参考書	<p>山縣文治・柏女霊峰（編）『社会福祉用語辞典（第9版）』（ミネルヴァ書房）</p> <p>山縣文治・岡田忠克（編）『よくわかる社会福祉（第11版）』（ミネルヴァ書房）</p> <p>大嶋恭二他（編）『保育者のための教育と福祉の事典』（建帛社）</p>		
その他	<p>①教科書の内容のみならず、教員自身が関わった現場での事例等も紹介したいと考えている。私語等は謹んで意欲的に授業に参加し、社会福祉に興味・関心を持つ契機として欲しい。</p> <p>②必要に応じてプリント類を配布する。また、DVD教材等も使用する。</p>		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	相談援助	
英訳科目名		
担当教員名	直島 正樹	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>昨今のわが国における社会福祉（保育）をめぐる現状・課題等を踏まえながら、保育士がソーシャルワークを学ぶ意義、定義、支援のあり方等に関して、講義・演習を通して学習していく。その上で、「社会福祉専門職としての保育士の役割」「保育ソーシャルワーク」について考察を深め、実習・就職後に向けて専門職としての自覚を高めていくことを目的とする。</p>	
到達目標	<p>①ソーシャルワークのとらえ方、考え方等について理解できる。          ②保育士がソーシャルワークを学ぶ意義を理解できる。          ③保育現場におけるソーシャルワーク活用の必要性・重要性を理解できる。</p>	
授業計画	<p>第1回 授業の進め方・内容等          第2回 保育とソーシャルワーク①（保育士がソーシャルワークを学ぶ意義）          第3回 保育とソーシャルワーク②（ソーシャルワーカーについて）          第4回 保育ソーシャルワークの考え方・視点          第5回 保育所等におけるソーシャルワークの重要性          第6回 保育ソーシャルワークの機能と実際          第7回 保育ソーシャルワークの方法と技術          第8回 保育相談支援の重要性・基本的考え方          第9回 保護者との関係構築に求められる保育士の基本姿勢          第10回 保護者との関係構築・苦情対応のあり方          第11回 地域子育て支援に求められる保育士の視点・考え方          第12回 より学びを深めるための事例分析①（事例分析に必要な手法）          第13回 より学びを深めるための事例分析②（保育所における事例）          第14回 より学びを深めるための事例分析③（児童養護施設等における事例）          第15回 まとめ          ＊定期的に「講義内容のまとめ（学び・考え）」を記入してもらう予定</p>	
評価方法 (合計100%)	<p>授業内課題【演習シート、グループ演習等】30%          受講状況【積極的参加、マナー（私語、化粧、携帯電話）等】20%          最終レポート 50%          ＊最終レポートを提出しなかった場合、必然的に「不合格」となるので注意。</p>	
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。          20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>	
予習・復讐の準備	<p>講義内容の理解を深めるため、授業計画に与えているテーマについて、事前に教科書を読んでおくこと（予習時間1時間）。授業後は、教科書の演習課題等に取り組むこと（復習時間3時間）。</p>	
課題へのフィードバック	<p>・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。          ・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。</p>	
教科書	『保育実践に求められるソーシャルワーク—子どもと保護者のための相談援助・保育相談支援—』	
著者名	橋本好市・直島正樹（編著）	
出版社	ミネルヴァ書房	
参考書	適宜紹介する。	
その他	<p>①教科書の内容のみならず、教員自身が関わった現場での事例等も紹介したいと考えている。私語等は謹んで意欲的に授業に参加し、保育ソーシャルワークについて理解を深める契機として欲しい。          ②教科書は、ほぼ毎時間使用する予定である。また、授業内課題、最終レポートも教科書を用いて取り組むものとする。必ず購入して欲しい。          ③必要に応じてプリント類を配布する。また、DVD教材等も使用する。</p>	
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。	
科目生への開講	なし	

ナンバリング	CD104A02	期間	後期
授業科目名	児童家庭福祉		
英訳科目名	Child and Family Welfare		
担当教員名	直島 正樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>近年、子どもと家庭をとりまく社会環境は大きく変化し、それらをめぐる問題は複雑多様化している。そのため、子どもの福祉の増進とともに、子どもの家庭を含めて支援する体制や仕組みづくりが、従来以上に必要となっている。そして保育士は、子ども家庭福祉の中心的役割を担うこと、そのための高い専門性を持つことがより一層求められている。</p> <p>本講義では、社会福祉での学びを踏まえながら、子ども家庭福祉の意義や制度の歴史的な変遷を学び、子ども家庭福祉の制度・実施体系について理解する。そこで、子ども家庭福祉の課題・展望等について考えていく。人間の一生・生活と子ども家庭福祉を関連させながら学び、保育士が子ども家庭福祉について学習する意義を実感して欲しい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利および子ども家庭福祉の意義を理解することができる</li> <li>・子ども家庭福祉の制度・政策・実施体系を理解することができる</li> <li>・子ども家庭福祉の現状・課題、今後の動向・展望について理解することができる</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 授業の進め方・内容・成績評価方法等、「子ども」「子ども家庭福祉」とは</p> <p>第2回 子ども家庭福祉の意義・歴史の変遷・基本的枠組み、子どもと家庭を取り巻く社会</p> <p>第3回 子どもの権利、子どもの最善の利益</p> <p>第4回 子ども家庭福祉の歴史①：海外における子ども家庭福祉の歴史</p> <p>第5回 子ども家庭福祉の歴史②：日本における子ども家庭福祉の歴史</p> <p>第6回 子ども家庭福祉の制度と法律①：子ども家庭福祉の制度・法体系</p> <p>第7回 子ども家庭福祉の制度と法律②：子ども家庭福祉の実施体系</p> <p>第8回 子ども家庭福祉にかかわる機関・施設</p> <p>第9回 子ども家庭福祉の現状と課題①：地域の子育て支援サービス</p> <p>第10回 子ども家庭福祉の現状と課題②：子ども虐待・社会的養護</p> <p>第11回 子ども家庭福祉の現状と課題③：障害のある子どもの福祉・少年非行</p> <p>第12回 子ども家庭福祉の現状と課題④：貧困家庭、外国籍の子ども・家庭への支援</p> <p>第13回 子ども家庭福祉の現状と課題⑤：母子保健と子どもの健全育成、多様な保育ニーズへの対応</p> <p>第14回 関係機関のネットワークと子ども家庭福祉の動向・展望</p> <p>第15回 まとめ（最終課題）</p> <p>*定期的に「講義内容のまとめ（学び・考え）」を記入してもらう予定</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>受講状況【積極的参加、マナー（私語、化粧、スマホ）】40%</p> <p>課題【授業内課題・最終課題等】60%</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義内容の理解を深めるため、授業計画に与えているテーマについて、事前に教科書（該当部分）を読んでおくこと。また、日頃から児童家庭福祉に関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持ち、意見をノート等にまとめておくこと（予習時間：1時間・復習時間：3時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。</li> <li>・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。</li> </ul>		
教科書	①『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 ②『福祉小六法（2019年版）』		
著者名	①直島正樹・河野清志（編著） ②福祉小六法編集委員会（編）		
出版社	①萌文書林 ②みらい		
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。		
その他	<p>①教科書の内容のみならず、さまざまな現場での事例等も紹介したいと考えている。私語等は謹んで意欲的に授業に参加し、社会福祉での学びも踏まえながら、子ども家庭福祉に興味・関心を持つ契機として欲しい。</p> <p>②必要に応じてプリント類を配布する。また、DVD教材等も使用する。</p> <p>③『福祉小六法（2019年版）』は、前期の「社会福祉」で使用するものと同様である。</p>		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング		期間	後期
授業科目名	社会的養護		
英訳科目名			
担当教員名	松島 京		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>近年、児童と家庭をとりまく社会環境は大きく変化し、子どもをめぐる問題は多様化している。そのため、社会全体で子どもをまもり、育て、支えるシステムが必要である。社会的養護の重要性は増し、そのあり方が問われている。</p> <p>本講義では、社会的養護の理念や制度の歴史的な変遷を整理し、社会的養護の実施体制について理解した上で、施設養護の実際についての理解を深め、子どもの最善の利益を保障するための社会的養護の課題について考えていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会的養護の意義について理解することができる</li> <li>・社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる</li> <li>・社会的養護における子どもの権利擁護及び自立支援等について理解することができる</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について、社会的養護とは</p> <p>第2回 社会的養護の理念と概念：社会的養護の意義</p> <p>第3回 社会的養護の歴史的変遷：社会的養護への時代的要請</p> <p>第4回 社会的養護と児童家庭福祉：子どもと家庭にとっての社会的養護</p> <p>第5回 社会的養護の制度と実施体系（1）制度と法体系</p> <p>第6回 社会的養護の制度と実施体系（2）家庭的養護と施設養護</p> <p>第7回 社会的養護の制度と実施体系（3）社会的養護の専門職</p> <p>第8回 施設養護の実際（1）施設養護の基本原則</p> <p>第9回 施設養護の実際（2）施設養護における多様な支援</p> <p>第10回 施設養護の実際（3）施設養護とソーシャルワーク</p> <p>第11回 社会的養護の現状と課題（1）施設等の運営管理</p> <p>第12回 社会的養護の現状と課題（2）子どもの権利擁護と倫理</p> <p>第13回 社会的養護の現状と課題（3）家庭的養護と家庭養護</p> <p>第14回 社会的養護の現状と課題（4）これからの社会的養護</p> <p>第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>定期試験および平常点評価により、総合的に評価する。</p> <p>評価の割合は、定期試験70%、平常点評価（小レポート課題）30%とする。</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画に沿って事前に教科書（該当部分）を読んでおく（予習時間2時間）</li> <li>・教科書の該当箇所およびレジュメやノートを見直し復習する（復習時間2時間）</li> <li>・日頃から社会的養護に関連するニュースに対して、積極的に興味・関心を持っておくこと</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験終了後、全体に向けてコメントする</li> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却する</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする</li> </ul>		
教科書	社会的養護 [第4版]		
著者名	小池由佳・山縣文治編		
出版社	ミネルヴァ書房		
参考書	<p>『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』（北樹出版）</p> <p>ISBNコード9784779305245</p> <p>その他、授業内で必要に応じて紹介する</p>		
その他	<p>小レポートとは別に、毎講義時にコミュニケーションペーパーを配布し、講義内容に対する意見や質問を受け付ける。質問等については次回講義開始時に回答をする。これは出席を確認すると同時に、講義をインタラクティブに進行するためのものであり、評価の対象となるものではない。</p> <p>専門職（プロフェSSIONナル）になるという自覚を持って、受講すること。特に、開始時間や課題提出時のルールは厳守すること。時間やルールを守ることは、他者との信頼関係を築くにあたって重要なことである。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	社会的養護内容		
英訳科目名			
担当教員名	河野 清志		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	社会的養護施設における子どもの生活の実際を理解した上で、子どもの心身の成長、発達を保障し、子どもの自立を支援するために必要な援助の理論、知識、方法について理解する。グループディスカッションや視聴覚教材、事例を用いて学んでいく。		
到達目標	社会的養護施設において展開されている子どもたちの生活や保育士の援助内容について理解することができる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 社会的養護とはなにか？社会的養護施設での保育士の役割</p> <p>第3回 社会的養護の仕組み</p> <p>第4回 施設保育士について—社会的養護に関する映画の視聴を手掛かりに考える</p> <p>第5回 社会的養護にかかわる機関</p> <p>第6回 子どもの権利とは①—子どもの人権とこれまでの歩み</p> <p>第7回 子どもの権利とは②—演習を通して考える</p> <p>第8回 施設養護における施設保育士の援助・支援の方法</p> <p>第9回 措置を基本とする施設①乳児院</p> <p>第10回 措置を基本とする施設②児童養護施設・児童自立支援施設</p> <p>第11回 措置を基本とする施設③と利用・契約を基本とする施設① —児童心理治療施設・障害児入所施設・児童発達支援センター</p> <p>第12回 利用・契約を基本とする施設②—母子生活支援施設</p> <p>第13回 里親制度と里親支援</p> <p>第14回 里親の実際—視聴覚教材から学ぶ</p> <p>第15回 まとめ（到達度の確認）</p>		
評価方法 (合計100%)	レポート等提出物及び授業参加態度 40% 到達度確認課題 60%		
失格条件	出席回数が開講回数の3分の2以上（10回以上）に満たない場合 遅刻等の取り扱いは初回授業時に伝える。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>2単位の修得のためには、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要となる。</p> <p>30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習（復習）を目安に学習に取り組むこと。</p> <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護（児童虐待、里親制度など）に関するニュースを日々把握し、情報収集をする。</li> <li>・教科書を読み、「社会的養護とは」「社会的養護の方向性」「社会的養護に関する機関」「児童福祉施設について」「社会的養護の歴史」について自主レポートとしてまとめる。まとめたものは、授業時に提出すると教員が講評を加え評価をつけて返却する。</li> </ul> <p>・毎回授業後に、授業の振り返りとして内容をまとめ、さらに自分で調べたことも加えてレポートとしてまとめる。まとめたものは、授業時に提出すると教員が講評を加え評価をつけて返却する。</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートに関しては、講評し、授業の振り返りを行う。</li> <li>・質問に関しては、授業時、授業後、またはメールなどで随時受け付ける。質問内容に応じて、個別もしくは全体に対して回答・説明を行う。</li> </ul>		
教科書	「社会的養護内容演習」		
著者名	安藤和彦・石田慎二・山川宏和 編著		
出版社	建帛社		
参考書	適宜紹介する。		
その他	この授業で何かを学び得ようという姿勢があるかないかで、授業の楽しさも変わってきます。ぜひ、前向きな姿勢で臨んでください。		
備考	児童養護施設職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	教育職の研究	
英訳科目名		
担当教員名	木村 久男	
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2 <技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4 <関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6
授業概要・ポイント	<p>この授業は、初等教育（幼稚園・小学校）教員免許状取得に必要な「教職の意義等に関する科目」で、教職の意義及び教員の役割、教員の資質能力、職務内容（研修及び身分保障等を含む）、進路選択に資する各種の機会の提供等について学ぶ。授業のポイントは以下の通りである。</p> <p>①教育の歴史的視点に加えて、世界の教育や日本の今日の教育改革の動向もふまえた視野の広い教育 職の研究をおこなう。</p> <p>②子ども・保護者・教員が現実には生きている日常世界と結び付けて「子ども理解」を深めるために現代社会の中の教育の課題について学ぶ。</p> <p>③教員の仕事について、教員の職務内容・授業をどうするか等具体的な資料に基づいて学ぶ。</p> <p>④教員も目指してどのような学びが必要かについて学ぶ。</p> <p>⑤学んだことをもと、に毎回自分の考えをレポートにまとめ・交流し考えを深める。</p>	
到達目標	<p>授業テーマ： 専門職として生涯にわたって学び続け成長し続ける教員となれるよう教職の重要性を知り、教育に対する夢や希望を共に語れる仲間となることを目指す。</p> <p>到達目標： ①教育職について教育職の意義・教員の役割・教員の職務内容について理解することができる。 ②公教育の目的とその担い手である教員の存在意義について考え、理解できる。 ③進路選択に向けて、他の職業との比較を通して教職の職業的特徴を理解することができる。 ④教育職について理解を深め、自分の考えをレポートにまとめることができる。</p>	
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション。教育の意義と教員の役割ー「チーム学校」 「本当は***日本の教育」</p> <p>第2回 私の学校体験、印象に残る先生と理想の教師像</p> <p>第3回 歴史や文学、映画・ドラマにみる教育の課題と日本の教師ー今日に求められる教師の役割とは</p> <p>第4回 「教員に求められる資質能力」（文部科学省）と「大阪府の求める先生像」「先生力を養う」には</p> <p>第5回 現代社会と教育① 子どもを理解するということー「いじめ」と「不登校」</p> <p>第6回 現代社会と教育② 様々な課題をどう見るか（「学級崩壊」「クレーム」「虐待」）</p> <p>第7回 現代社会と教育③ 子どもをとりまく現代社会（情報化社会・子どもの格差と貧困）</p> <p>第8回 現代社会と教育④ 発達障害を持つ子どもたちをどう理解するか</p> <p>第9回 現代社会と教育⑤ 「道徳教育」道徳性が育つということ</p> <p>第10回 現代社会と教育⑥ 学校教育と学力・・・学力をどう育むか</p> <p>第11回 教員の仕事① 校務分掌・教員の日・保幼小連携</p> <p>第12回 教員の仕事② 授業をつくる①カリキュラムをつくる・学習指導要領</p> <p>第13回 教員の仕事③ 授業をつくる②教職の専門性と研修</p> <p>第14回 教員への道をめざして 大学での学びについて 学び合い成長し合う教師を目指して</p> <p>第15回 まとめ、内容理解の確認</p>	
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的参加 (40%)</li> <li>・授業レポートの提出 (30%)</li> <li>・内容理解の確認 (30%)</li> </ul>	
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が授業回数の3分の2に満たない場合</li> <li>・授業レポートの未提出の場合（やむをえず欠席をしても、課題にそってレポートを退出すること）</li> <li>・正当な理由なく最終授業の「内容理解の確認」を受けなかった場合</li> </ul>	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、資料を配布します。きちんと綴っておいてください。</p> <p>&lt;予習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を読むこと。講義内容に合わせて課題を出します。（3時間）</li> </ul> <p>&lt;復讐&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に基づき復讐（1時間）</li> </ul>	
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後のミニレポートは、全員分を印刷して配布し、次回授業の冒頭で発表・交流すると共に、解説等を行いテーマを深める。</li> <li>・分担した課題レポートは授業の中で提案し、グループワークで活用する。</li> </ul>	
教科書	とくに使用しませんが、参考資料は授業時に紹介します。	
著者名		
出版社		
参考書	小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）	
その他	特になし	
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。	
科目生への開講	なし	

ナンバリング	CD106A02	期間	後期
授業科目名	教職論		
英訳科目名			
担当教員名	木村 久男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身につけ、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。		
到達目標	(1)わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 (2)教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 (3)教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 (4)学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。		
授業計画	第1回 公教育の目的と教員の存在意義 第2回 私の学校体験、印象に残る先生と理想の教師像 第3回 歴史や文学、映画・ドラマにみる教育の課題と日本の教師—今日に求められる教師の役割とは 第4回 教員に求められる資質能力と大阪府の求める先生像、先生力を養うには 第5回 現代社会と教育(1)子どもを理解すること—いじめと不登校、チーム学校としての対応 第6回 現代社会と教育(2)様々な課題をどうみるか—学級崩壊、クレーム、虐待、チーム学校としての対応 第7回 現代社会と教育(3)子どもをとりまく現代社会—情報化社会、子どもの格差と貧困、チーム学校としての対応 第8回 現代社会と教育(4)発達障害をもつ子どもたちをどう理解するか—チーム学校としての対応 第9回 現代社会と教育(5)道徳教育—道徳性が育つということ 第10回 現代社会と教育(6)学校教育と学力—学力をどう育むか 第11回 教員の仕事(1)公務分掌・教員の日・保幼小連携・チーム学校運営 第12回 教員の仕事(2)授業をつくる・カリキュラムをつくる・学習指導要領 第13回 教員の仕事(3)教職の専門性と研修 第14回 教員への道を目指して—大学の学びについて、学び合い成長し合う教師を目指して、チーム学校運営への対応。 第15回 授業全体の振り返りと内容理解の確認、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を踏まえて 定期試験は実施しない		
評価方法 (合計100%)	授業での討論・発表内容(40%) 授業レポートの提出(30%) 内容理解の確認(30%)		
失格条件	出席が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・毎回資料を配布します。きちんと綴って読んでおいてください。 ・予習：新聞を読むこと。講義内容に合わせて課題を出します。(3時間) ・復習：資料に基づき復習する。(1時間)		
課題へのフィードバック	・授業後のミニレポートは、全員分を印刷して配布し、次回授業の冒頭で発表・交流すると共に、解説等を行いテーマを深める。 ・分担した課題レポートは授業の中で提案し、グループワークで活用する。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 授業の中で適宜資料を配布する。 参考文献も授業の中で紹介する。		
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD106B02	期間	前期
授業科目名	教育課程論		
英訳科目名	Theory of Educational Curriculums		
担当教員名	横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本授業では、学習指導要領・幼稚園教育要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。		
到達目標	①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解することができる。 ②教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解することができる。 ③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することができる。		
授業計画	第1回 幼稚園教育要領・学習指導要領の性格と位置づけ 第2回 幼稚園教育要領・学習指導要領の改訂の変遷と基本的考え方 第3回 教育課程の役割・機能・意義 第4回 教育課程編成の基本原則 第5回 幼稚園教育要領と教育課程の編成 第6回 小学校学習指導要領と教育課程の編成 第7回 領域・教科等を横断した教育内容の選択・配列方法について 第8回 単元・学期・学年間及び校種間のつながりをふまえた教育課程 第9回 学校の実情に即した教育課程の編成と指導計画の作成 第10回 子供を中心に据えたカリキュラム 子供の体験と言語、暮らし、人をつなぐ 第11回 カリキュラム・マネジメントの意義と基本的考え方、カリキュラム評価の理論と方法 第12回 社会に開かれた教育課程 学校教育と社会との連携・協働 第13回 幼稚園における教育課程の構想とアプローチカリキュラムの実際 第14回 小学校における教育課程の構想とスタートカリキュラムの実際 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	自己評価シートの記述内容 15% 毎時の小レポート 30% 学習内容の確認小テスト 15% 試験 40%		
失格条件	出席回数が開講時数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】 (2時間) ・次回の学習内容についての情報収集 ・予習カードへの取り組み ・小テスト及び試験に向けての準備 【復習】 (2時間) ・学習内容のふりかえり ・復習カードへの取り組み ・学習ポートフォリオの整理		
課題へのフィード バック	・自己評価シートについては、個別もしくは全体にコメントする。 ・予習・復習カードは、個別にコメントをつけて返却し、全体に向けてもコメントする。 ・小テストについては添削後に返却して、全体に向けて解説とコメントをする。		
教科書	①幼稚園教育要領解説 (平成30年告示) ②小学校学習指導要領解説 総則編 (平成29年告示)		
著者名	①②文部科学省		
出版社	①フレーベル館②東洋館出版社		
参考書	授業中に適宜資料を配布する。 また、参考になる書籍やホームページは適宜紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD106B03	期間	後期
授業科目名	教育方法論		
英訳科目名	Theory of Educational Methods		
担当教員名	横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本授業では、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）について学ぶ。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
到達目標	①これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することができる。 ②授業・保育実践に必要な教育方法や基礎的技術を体得し、指導に活かすことができる。 ③情報機器を活用した効果的な授業・保育や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 教育の方法論 (1) 学習指導要領改訂の基本的な考え方 第2回 教育の方法論 (2) 授業・保育を構成する基礎的要件について考える 第3回 教育の方法論 (3) 教授・学習理論と教育方法の展開 第4回 教育の方法論 (4) 多様な学習活動と教育方法の工夫 学びの質に着目して 第5回 教育の技術 (1) 教育の目的に適した指導技術を身に付けるということ 第6回 教育の技術 (2) 授業・保育における基本的な指導技術 第7回 教育の技術 (3) 授業・保育をどう創るか 設計、実施について 第8回 教育の方法論 (5) 主体的・対話的で深い学びとその実現に向けた教育方法を探る 第9回 教育の方法論 (6) 学習評価の意義・考え方と多様な評価方法 －資質・能力の育成と幼児理解・児童理解を基盤として－ 第10回 教育の技術 (4) 学習指導案の構想 第11回 教育の技術 (5) 学習指導案の作成 第12回 教育の技術 (6) 学習指導案に基づいた授業・保育実践 第13回 情報機器及び教材の活用 (1) ICTを活用した効果的な教材と情報機器の使い方 第14回 情報機器及び教材の活用 (2) ICTを活用した教材の作成・提示、展開について探究する 第15回 情報機器及び教材の活用 (3) 情報活用能力育成のための指導法の検討		
評価方法 (合計100%)	授業ごとの小レポート 30% グループワークの成果物 15% グループでの発表内容 15% レポート課題 40%		
失格条件	出席回数が開講時数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】 (2時間) ・次回の学習内容についての情報収集 ・グループでの発表に向けての準備（構想、教材づくり、リハーサル） 【復習】 (2時間) ・学習内容のふりかえり ・参考資料の精読 ・レポート課題への取り組み		
課題へのフィード バック	・毎時の小レポート（振り返りシート）は、個別にコメントして返却し、全体に向けてもコメントする。 ・グループでの発表後や成果物の提出後は、授業時間内にグループ毎にもしくは全体に向けてコメントする。		
教科書	特に指定はしない。 適宜資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省） そのほか、必要に応じて参考文献や資料を紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107A01	期間		後期	
授業科目名	生活				
英訳科目名	Life Environment Studies				
担当教員名	河内 晴彦				
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○		
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎		
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6			
授業概要・ポイント	低学年の子どもたちにとって極めて重要な役割を担っている生活科。その誕生の背景や経緯そして教科の特性を理解するとともに、生活科の目標・内容・評価等のあり方について理解を深める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科誕生の背景や経緯について理解することができる。</li> <li>・生活科の目標を知り、他教科とは異なる教科の特性について理解することができる。</li> <li>・生活科の9つの内容について、それぞれのもつ役割と階層性について理解することができる。</li> </ul>				
授業計画	第1回 生活科はどんな教科か 誕生の背景と経過 目標と内容 第2回 小学校入門期の学習と生活科、第1次班編成 第3回 内容①「学校と生活」学校たんけん・名しこうかん会 第4回 内容②「家庭と生活」家族しょうかい・家族のしごと 第5回 内容③「地域と生活」校区たんけん・あそびば紹介 第6回 内容④「公共物や公共施設の利用」のりものにのろう 第7回 「相愛大学生生活科マップ」発表会（班で取り組む） 第8回 内容⑤「季節の変化と生活」落ち葉を使って、第2次班編成 第9回 内容⑥「自然や物を使った遊び」手づくりおもちゃ 第10回 内容⑦「動植物の飼育・栽培」どんなものを育てるの・土とあそぼう 第11回 内容⑧「生活や出来事の交流」地域の人々との交流 第12回 内容⑨「自分の成長」大きくなったね・「わたし物語」 第13回 「むかし遊び・表現遊び」発表会（班で取り組む） 第14回 生活科と幼児教育の関連、3・4年生の学習への発展 第15回 理解度の確認と今後の学修の課題				
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 定期試験40% 課題提出物30%				
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が全授業時数の2/3に達しない者は失格とする。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とする。20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</li> <li>・正当な理由なく定期試験を受けない場合は失格とする。</li> </ul>				
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	子どもたちの置かれている環境（社会・自然・家庭）を意識して見ておくことが必要である。さらに、生活科が学習対象とする身近な自然事象や季節の変化、地域社会の諸行事や出来事などについても日常的に関心をもっておくこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。（予習 2時間）</li> <li>・授業終了時に出す課題について、レポートを作成すること。（復習 2時間）</li> </ul> その日に学修した内容について、必ずテキストに立ち返って考察する。 授業の中で紹介された地域の課題について、ネットや文献で更に深める。 生活科で取り組まれる「遊び」について継続的に取り組み、「遊び」の種目・内容を広げる。				
課題へのフィードバック	提出された課題に対してまとめてコメントを添えて返却する。				
教科書	「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編」（平成29年7月）				
著者名	文部科学省				
出版社	東洋館出版				
参考書	授業中に資料としてプリントを配布する。				
その他	毎回準備する物・・・クリアーファイル（20枚入るもの）2色、スティックのり、蛍光ペン2色以上、ポストイット1色以上   授業中に適時班活動を取り入れる。大学内の見学・実習も含むので、服装・持ち物をよく考えること。 実際に小学校「生活科」として取り組まれている活動を行うが、常に指導者としての視点を持って活動に参加してほしい。				
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。				
科目生への開講	なし				

ナンバリング	CD107B01	期間	前期
授業科目名	国語（書写を含む）		
英訳科目名	Japanese Language		
担当教員名	馬場 義伸、中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>「国語（書写を含む）」は、小学校教員として指導に必要な知識や国語力を身につけることを目的としている。小学校学習指導要領（国語科）が目標として掲げる以下の目標を達成するための基礎的な理解力を持ち、教師に必要な力を付ける。</p> <p>「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。  (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。  (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」</p>		
到達目標	<p>学習指導要領の内容および記述方針について理解できる。  教科「国語」の目標・内容についてその構成を踏まえつつ基礎的な理解ができる。  教科「国語」の指導案作りと指導法のポイントについて理解することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと学習指導要領の理解(担当：馬場義伸、中井清津子)  第2回 「話すこと・聞くこと」の領域(担当：馬場義伸)  第3回 「書くこと」の領域（詩や散文）(担当：馬場義伸)  第4回 「読むこと」の領域（物語文）(担当：馬場義伸)  第5回 「読むこと」の領域（説明文）(担当：馬場義伸)  第6回 「伝統的な言語文化と国語の特質」に関して(古文、俳句・短歌・論語・漢詩)(担当：馬場義伸)  第7回 書写指導・読書指導(担当：馬場義伸)  第8回 1年生の指導内容(担当：馬場義伸)  第9回 2年生の指導内容(担当：馬場義伸)  第10回 3年生の指導内容(担当：馬場義伸)  第11回 4年生の指導内容(担当：馬場義伸)  第12回 5年生の指導内容(担当：馬場義伸)  第13回 6年生の指導内容(担当：馬場義伸)  第14回 豊かな言葉の発達を目指した幼小連携(担当：中井清津子)  第15回 まとめと内容理解度の確認（持ち込み不可による確認）(担当：馬場義伸、中井清津子)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への積極的参加（40%）  課題提出物（30%）  最終講義時における到達度の確認（30%）</p>		
失格条件	<p>出席が授業回数の3分の2に満たない場合  遅刻3回は欠席1回に換算</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>原則毎回プリントを配付する。そのプリントは、最終の「到達度の確認」のためだけでなく、採用試験対策にもなるように配慮するので、きちんとファイリングして整理し、日々その確認をする。</p> <p>&lt;予習&gt;  ・新聞を読み、読書をする。読書は、計画的にする。感想文も書く。（2時間）</p> <p>&lt;復習&gt;  ・配布されたプリントを整理し、復習する（2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>①授業のコメントカードをプリントして、次回の授業の最初に読みあい、全体で共有する。討論すべき課題があれば討論する。  ②課題提出後、授業で全体に向けてコメントしたり個別にコメントする。またレポートを印刷するなどして全体で討論もする。</p>		
教科書	『小学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月）』		
著者名	文部科学省編		
出版社	東洋館出版社		
参考書			
その他	子どもたちに表現する力や想像豊かに文章を読む力をつけるための手だてを学ぶ。 そのために、自身がその体験をする。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		



ナンバリング	CD107B02	期間	前期
授業科目名	社会		
英訳科目名	Social Studies		
担当教員名	馬場 義伸		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>小学校社会科の学習指導要領「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成する」の目標達成が出来るように、教師としての力量をつけることを目指す。そのために、具体的に以下のことを学ぶ。</p> <p>①社会生活についての理解を図り、各学年で学習すべき国土と地域に関する内容、産業に関する内容、歴史的内容や公民的内容について確認していく。</p> <p>②地図、学習参考書、年表、写真、動画、具体物、統計資料等様々な資料が活用出来るようにする。</p>		
到達目標	小学校社会科で指導する内容を理解することができる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション—社会科の授業について</p> <p>第2回 小学校社会科の目標・内容・方法・評価(指導要領概説)</p> <p>第3回 社会科における各種資料の紹介・活用</p> <p>第4回 小学校3・4年の学習内容—地図</p> <p>第5回 小学校3・4年の学習内容—商店街・昔の暮らし</p> <p>第6回 小学校5年の学習内容—日本の食料と農業</p> <p>第7回 小学校5年の学習内容—日本の工業</p> <p>第8回 小学校5年の学習内容—運輸・情報</p> <p>第9回 小学校5年の学習内容—日本の国土、都道府県、地形</p> <p>第10回 小学校6年の学習内容—古代・中世史分野</p> <p>第11回 小学校6年の学習内容—近世・近代史分野</p> <p>第12回 小学校6年の学習内容—近代・現代(戦争)</p> <p>第13回 小学校6年の学習内容—現代分野(日本国憲法と私たちの政治や生活、時事問題)</p> <p>第14回 小学校6年の学習内容—国際理解と連帯・平和学習</p> <p>第15回 授業のまとめと理解度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度30%</p> <p>定期試験40%</p> <p>課題提出物30%</p>		
失格条件	<p>出席が授業回数の3分の2に満たない場合失格</p> <p>遅刻は3回で1回の欠席とする</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>新聞等マスメディアを通じて国内外の社会事象について関心を持ち、資料を収集して読んでおくこと。(予習時間 90分)</p> <p>配布したプリントの整理、関連する資料などを探してまとめる。(復習時間 90分)</p>		
課題へのフィード バック	<p>①授業のコメントカードをプリントして、次回の授業の最初に読みあい、全体で共有する。討論すべき課題があれば討論する。</p> <p>②課題提出後、授業で全体に向けてコメントしたり個別にコメントする。またレポートを印刷するなどして全体で討論もする。</p>		
教科書	小学校学習指導要領解説「社会編」(平成29年7月)		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書			
その他	社会科では主体的で意欲的な活動が重視される。生起する社会問題にも関心を持ち、教師を目指す高い志をもって、授業への積極的な参加と活発な交流を期待する。また資料に関心を持ち、読み解く力を付ける。 授業中に適宜プリントを資料として配布する。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※B種科目等履修生対象)		

ナンバリング	CD107B03	期間	前期
授業科目名	算数		
英訳科目名	Arithmetic		
担当教員名	関 忠和		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>本授業は小学校算数科の授業を行う上で必要な算数・数学の基礎知識と思考力を身につける授業です。小学校学習指導要領算数では、教科の目標を「数学的な見方・考え方を働かせ数学的活動を通して数学的に考える資質能力を育成することを目指す」としています。資質能力を「①知識技能の力②思考力・判断力・表現力③生活や学習に活用する態度を養う」としています。小学校の教員として、この目標に挙げられている力を育むためにしっかり力をつけましょう。</p> <p>ポイントは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.算数科の目標と内容の理解</li> <li>2.各学年ごとの指導内容と基礎知識・指導方法の理解</li> <li>3.重点教材の指導計画作成と配慮事項の理解</li> </ol>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導目標と内容について理解することができる。</li> <li>・各学年ごとの指導内容と基礎知識を身につけ、指導方法について理解することができる。</li> <li>・重点教材について指導計画を立てることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学習指導要領と算数科教育</p> <p>第2回 算数科の目標（教科の目標・学年の目標）重要単元</p> <p>第3回 領域別：数と計算</p> <p>第4回 領域別：測定・変化と関係</p> <p>第5回 領域別：図形</p> <p>第6回 領域別：データの活用</p> <p>第7回 学年別：第1学年の内容と就学前の数や形の認識</p> <p>第8回 学年別：第2学年の内容</p> <p>第9回 学年別：第3学年の内容</p> <p>第10回 学年別：第4学年の内容</p> <p>第11回 学年別：第5学年の内容</p> <p>第12回 学年別：第6学年の内容</p> <p>第13回 指導計画の立て方</p> <p>第14回 指導計画の交流と配慮すること</p> <p>第15回 まとめ、内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的参加 (30%)</li> <li>・レポート及び指導計画の作成 (40%)</li> <li>・最終授業における内容理解の確認 (30%)</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が授業回数の3分の2に満たない場合</li> <li>・提出物の未提出</li> <li>・正当な理由なく最終授業の「内容理解の確認」を受けなかったもの。</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>かなりたくさん資料を配布します。資料は指導案を作成するときや、採用試験対策としても学べる資料です。きちんと保存しておきましょう。</p> <p>それまでの資料を活用して課題に取り組むことがあります。欠席した時は資料を取りに来てください。</p> <p>&lt;予習・復習のアドバイス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・・・算数・数学の問題に親しもう。授業の始まりに紹介する問題集等を活用し、次回学習予定の分野の問題を解いてみよう。課題として出します。(2時間)</li> <li>・復習・・・授業中学んだことをもとに、大まかな指導計画や教材作りなどに取り組んでみよう。課題として出します。(2時間)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<p>課題提出後、授業で全体に向けてコメントします。</p> <p>また、必要な場合は個別にコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	小学校学習指導要領解説算数編		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書	必要な時に、授業中に紹介します。		
その他	・授業中の携帯ツール等の使用は禁止。電源も必ずOFFにしておくこと。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	理科		
英訳科目名	Science		
担当教員名	木村 久男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>1.理科教育で大切にしたいものは何か？理科とは、こどもにとってどんな意味を持つ教科なのか？まず、「理科」の面白さをたくさん体感してもらいたい。</p> <p>2.身近な自然に親しみ、自然の事物や現象に対する実感と感動を伴った理解と科学的な見方を養う。</p> <p>3.小学校で教える内容が中学校でどう発展しつながっていくかを知り、単元設定に必要な教材観や指導観を育成できるようにする。</p> <p>4.義務教育最終段階で到達すべき粒子概念やエネルギー概念、生命や地球の見方・考え方を振り返り、見通しを持って「児童が楽しく学ぶ理科」を創出できる能力や実験技能を育成する。</p> <p>5.一般教養試験の自然科学分野及び専門試験の理科の問題を解く学力を育成する。</p>		
到達目標	<p>1.「理科」の面白さを知ること。「なぜ？と問う」心を大切に探求する力をつけることができる。</p> <p>2.小学校で教える内容が中学校でどう発展しつながっていくかを知ることができる。</p> <p>3.自然に親しみ、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことができる。</p> <p>4.一般教養試験の自然科学分野及び専門試験の理科の問題を解く力をつけることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション。「理科」でめざすものと「学習指導要領」</p> <p>第2回 生物（1）「花や種子の構造とはたらき」</p> <p>第3回 生物（2）「野草の種族維持戦略 光とり競争・植物と日光」</p> <p>第4回 生物（3）「ヒトや動物のからだ だ液の働き・肺の働き」</p> <p>第5回 生物（4）「ヒトの誕生」</p> <p>第6回 生物（5）「昆虫」</p> <p>第7回 粒子概念（1）「原子のものの見方・考え方」</p> <p>第8回 粒子概念（2）「三大物質の通電性と水溶性」</p> <p>第9回 粒子概念（3）「水溶液の働き 酸・アルカリ」</p> <p>第10回 エネルギー領域（1）「風で動く」</p> <p>第11回 エネルギー概念（2）「てこの働き」</p> <p>第12回 エネルギー概念（3）「雲の発生、気圧の実験、水圧の実験」</p> <p>第13回 顕微鏡観察の仕方</p> <p>第14回 地学領域（1）「月と星、星座」</p> <p>第15回 地学領域（2）「大地のつくり」</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.授業への参加態度および授業末の自己評価記録 30%</p> <p>2.課題レポート 30%</p> <p>3.科目試験 40%</p>		
失格条件	出席が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習(2時間)</p> <p>1.身近な自然の中の「面白い」ものを見つけ、「なぜ？」を追求する好奇心を鍛えよう。</p> <p>2.花や植物、昆虫、生き物に関心を持ち、写真・実物を持ち込もう。</p> <p>3.岩石、天体などの理科にかかわる実物、写真、新聞記事や資料を持ち込もう。</p> <p>4.授業で出された課題に取り組む。</p> <p>復習(2時間)</p> <p>1.一般教養や教職教養「理科」の問題に取り組もう。</p> <p>2.専用の理科ノートを準備して、授業記録を残そう。</p> <p>3.講義通信読み、ファイルしてとっておこう。</p>		
課題へのフィードバック	授業でのミニレポートや観察記録は、「講義通信」で紹介する他、全員分を印刷配布して交流に活用して共に学ぶとともに、ポートフォリオにまとめる。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	学習指導要領 学習指導要領の解説		
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）		
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	家庭		
英訳科目名			
担当教員名	角江 繁美		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	家庭科は自らの生活を創造する力を育成する教科です。小学校学習指導要領の家庭科の目標・内容を理解するにあたり、日常の生活事象を教材として様々な視点から捉えていきます。改めて向き合うときっと多くの気付きがあると思います。基本的な知識や技能の習得も含めて、家庭科教育の楽しさ、奥深さや可能性を感じることができる学修を期待します。		
到達目標	①小学校学習指導要領における目標と内容について理解することができる。 ②家庭科の学習指導における基礎的な知識・技能を身に付け、指導にあたっての配慮事項や留意点を理解することができる。		
授業計画	第1回 家庭科で何を学ぶか 家庭科教育の意義 第2回 学習指導要領における家庭科の目標と内容構成・内容の系統性 第3回 「A家族・家庭生活」 (1) 自分の成長と家族・家庭生活 第4回 「A家族・家庭生活」 (2) 家庭生活と時間 (3) 家族と地域の人々との関わり (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 第5回 「B衣食住の生活」 (1) 食事の役割 第6回 「B衣食住の生活」 (2) 調理の基礎 第7回 「B衣食住の生活」 (3) -1栄養を考えた食事 (栄養素) 第8回 「B衣食住の生活」 (3) -2栄養を考えた食事 (1食分の献立) 第9回 「B衣食住の生活」 (4) 衣服の着用と手入れ 第10回 「B衣食住の生活」 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 第11回 「B衣食住の生活」 (6) 快適な住まい方 第12回 「C消費生活・環境」 (1) 物や金銭の使い方と買物 第13回 「C消費生活・環境」 (2) 環境に配慮した生活 第14回 生活の営みに係る見方・考え方 第15回 振り返りと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	30%	
	小テスト・課題レポート	40%	
	最終授業における理解の確認	30%	
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①テキスト・資料を事前に読み、準備課題についてテキスト・資料等を参照して取り組む。(予習 2時間) ②講義内容のまとめ、資料等をファイリングする。学修ファイルの整理と振り返りを行い、学びの定着を図る。(復習 2時間) ③日頃から、子どもをめぐる衣食住の問題、家族・家庭、消費・環境などに関する報道内容に関心をもち、情報収集を心がけるとともに見聞を広げることが望まれます。		
課題へのフィードバック	・小テスト・課題レポートについては当日または後日の授業内で解説を行います。必要に応じて個別のコメントを行います。 ・最終授業では理解の確認後、ポイントを解説し、全体へのコメントを行います。		
教科書	小学校学習指導要領解説 家庭編 (平成29年告示)		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書	必要に応じて紹介します。		
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※B種科目等履修生対象)		

ナンバリング	CD107C02	期間	後期
授業科目名	国語科指導法		
英訳科目名	Teaching Methods in Japanese Language (for Elementary Schools)		
担当教員名	馬場 義伸		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「国語科指導法」は教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」である。学習指導要領では国語科の目標を「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」としている。豊かな国語の学力を育むために、国語教育の目標・内容（各学年の重点教材の研究も含め）・指導の方法についての理解を深め、演習を通して指導する力を身につけていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の指導目標・指導内容（各学年の重点教材の研究も含め）について理解することができる。</li> <li>・指導方法について理解を深め、指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬授業を行い、討論に参加できる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 国語科の学習内容と学習指導要領・国語教科書、授業計画づくり 第2回 領域別「読むこと」と指導法 第3回 領域別「書くこと」と指導法 第4回 領域別「話す・聞くこと」と指導法・模擬授業の準備 第5回 「入門期の国語」指導法・国語科指導案の作り方 第6回 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と「読書活動」や「新聞を活用しての授業」の指導法 第7回 模擬授業①1年生の教材 第8回 模擬授業②2年生の教材 第9回 模擬授業③3年生の教材 第10回 模擬授業④4年生の教材 第11回 模擬授業⑤5年生の教材 第12回 模擬授業⑥6年生の教材 第13回 模擬授業⑦(新聞や資料等を活用しての授業) 第14回 模擬授業のまとめと国語科指導法 第15回 まとめ、理解の確認		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的参加 (40%)</li> <li>・指導案作成・模擬授業と討論への参加 (30%)</li> <li>・最終授業における内容理解の確認 (30%)</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が授業回数の3分の2に満たない場合失格</li> <li>・指導案・レポートの未提出</li> <li>・模擬授業を行わなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書教材等たくさんの資料を配布する。後の模擬授業や教員採用試験対策の資料として活用するためきちんと保存しておく。 <予習> ・授業1～6・14・15 国語科への関心を深めるため、紹介する文学教材等を読む（2時間） ・授業7～13 模擬授業の準備（3時間） ・15時間目は、今までのまとめを予習復習を兼ねて（3時間） <復習> ・授業1～6・14・15 授業の資料をもとに復習（2時間） ・授業7～13 模擬授業後の反省をもとに学修計画をたてる。（1時間）		
課題へのフィードバック	①授業のコメントカードをプリントして、次回の授業の最初に読みあい、全体で共有する。討論すべき課題があれば討論する。 ②課題提出後、授業で全体に向けてコメントしたり個別にコメントする。またレポートを印刷するなどして全体で討論もする。		
教科書	小学校学習指導要領解説国語編[（29年7月）]		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書	各出版社の国語教科書・・・必要な時に紹介します。 小学校実習指導室にて閲覧できます。		
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107C04	期間	後期
授業科目名	算数科指導法		
英訳科目名	Teaching Methods in Arithmetic (for Elementary Schools)		
担当教員名	関 忠和		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>「算数科指導法」は、教育職員免許状取得のための「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」です。学習指導要領では算数科の目標を「数学的な見方・考え方を働かせ数学的活動を通して数学的に考える資質能力を育成することを目指す」としています。資質能力を「①知識技能の力②思考力・判断力・表現力③生活や学習に活用する態度を養う」としています。確かな算数の学力を育むために、算数教育の目標・内容・指導方法について理解を深め、模擬授業、教具作り等演習を通して指導する力を身につけます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科の指導目標・内容について理解することができる。</li> <li>・指導方法について理解を深め、指導案や教具・教材を作成することができる。</li> <li>・模擬授業に基づいて、お互いに授業について感想を述べ合ったり討論に参加できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 算数科の学習内容と学習指導要領・算数教科書、授業計画づくり  第2回 幼年期の数と形の理解 領域別「数と計算」1年生  第3回 領域別「図形」領域別「数と計算」2年生  第4回 領域別「測定」領域別「数と計算」3年生  第5回 領域別「変化と関係」領域別「数と計算」4年生  第6回 算数科指導案作り・模擬授業の準備 領域別「変化と関係」5年生  第7回 発展的学習と中学校の数学 領域別「データの活用」領域別「数と計算」6年生  第8回 模擬授業① 1年生  第9回 模擬授業② 2年生  第10回 模擬授業③ 3年生  第11回 模擬授業④ 4年生  第12回 模擬授業⑤ 5年生  第13回 模擬授業⑥ 6年生  第14回 模擬授業のまとめ  第15回 理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的参加 (30%)</li> <li>・指導案作成・模擬授業・教具づくり・討論への参加 (40%)</li> <li>・最終授業における内容理解の確認 (30%)</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が授業回数の3分の2に満たない場合</li> <li>・指導案・レポートの未提出</li> <li>・模擬授業を行わなかった場合</li> <li>・正当な理由なく最終授業の「内容理解の確認」を受けなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業によって、コンパス・ものさし・分度器・はさみ等を使用することがあります。事前に連絡しますので必ず持ってきてください。たくさんの資料を配布します。模擬授業や教員採用試験対策の資料になりますのできちんと取っておいてください。</p> <p>&lt;予習・復習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習</li> <li>* 授業1～6・・・算数や数学に親しむため授業の初めに紹介する問題集など積極的に取り組みましょう。(1時間)</li> <li>* 授業7～14・・・指導案の作成 (2時間)</li> <li>* 授業15・・・まとめのテスト勉強 (予習・復習合わせて3時間)</li> <li>・復習</li> <li>* 授業1～6・・・配布されたプリントをもとに復習 (2時間)</li> <li>* 授業7～14・・・自分や友達の授業のまとめをする (1時間)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<p>模擬授業については、みんなのコメントと先生のコメントおよび評価を個別に返却します。課題提出後の授業で全体に向けてコメントします。必要な場合は、個別にコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	小学校学習指導要領解説算数編		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書	各出版社の算数教科書。小学校実習指導室にて閲覧できます。		
その他	授業中携帯等を使用することは禁止です。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107C06	期間	前期
授業科目名	生活科指導法		
英訳科目名	Teaching Methods in Life Environment Studies (for Elementary Schools)		
担当教員名	河内 晴彦		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>・生活科の内容・方法・全体の階層について再確認するとともに、「たんけん活動」「飼育・栽培活動」「製作活動・あそび」の単元指導計画と学習指導案を作成する。</p> <p>・3つの活動の模擬授業と授業研究をもとに、生活科の内容や活動の特質について考えを深める。</p>		
到達目標	<p>・生活科における単元の指導計画と学習指導案を作成することができる。</p> <p>・学習指導案に基づく模擬授業と授業研究を行うことができる。</p> <p>・生活科の内容や活動の特質について考えを深めることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンスー生活科の目標と内容及び階層</p> <p>第2回 生活科の学習内容と評価</p> <p>第3回 生活科の創設までの経緯と小学校の教育課程の中での位置づけ</p> <p>第4回 授業展開の具体（単元の指導計画・学習指導案）</p> <p>第5回 生活科の多様な体験や活動</p> <p>第6回 「たんけん活動」の指導①（講義・計画）</p> <p>第7回 「たんけん活動」の指導②（模擬授業・授業研究）</p> <p>第8回 「たんけん活動」の指導③（振り返り・評価）</p> <p>第9回 「飼育・栽培活動」の指導①（講義・計画）</p> <p>第10回 「飼育・栽培活動」の指導②（模擬授業・授業研究）</p> <p>第11回 「飼育・栽培活動」の指導③（振り返り・評価）</p> <p>第12回 「製作活動・あそび」の指導①（講義・計画）</p> <p>第13回 「製作活動・あそび」の指導②（模擬授業・授業研究）</p> <p>第14回 「製作活動・あそび」の指導③（振り返り・評価）</p> <p>第15回 授業のまとめと3・4年生の学習への発展及び理解度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度40%</p> <p>定期試験30%</p> <p>課題提出物30%</p>		
失格条件	<p>出席回数が全授業時数の3分の2以上に満たない場合は欠格とする。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>子どもたちの置かれている環境(社会・自然・家庭・人的)を意識して見ておく必要がある。さらに、生活科が学習対象とする身近な自然事象や季節の変化、地域社会の行事や出来事などについても日常的に関心をもち積極的ににかかわること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で紹介する参考文献等を次回授業までに読んでくること。(予習 2時間)</li> <li>・ 授業終了時に出す課題について、レポート等を作成すること。(復習 2時間)</li> </ul> <p>学修した内容を常にテキストに立ち戻って理解する。</p> <p>生活科で扱う「地域」や「自然」及び「社会」について、ネットや文献を手がかりに更に深める。</p> <p>生活科で取り組む「遊び」などの活動の技能を更に追究する。</p>		
課題へのフィードバック	<p>提出された課題に対してまとめてコメントを添えて返却する。</p>		
教科書	「小学校学習指導要領《平成29年告示》解説 生活編」（平成29年7月）		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版		
参考書	プリントを資料として配布する。参考書は適宜紹介する。		
その他	<p>生活科では多様な体験や活動が必要である。教職をめざすものとして、積極的に活動や授業に参加して欲しい。</p> <p>活動や「遊び」に参加するにあたって、指導者としての視点を持って参加すること。その際、汚れてもかまわない服装など服装・持ち物についてもよく準備してほしい。</p>		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107C07	期間	前期
授業科目名	音楽科指導法		
英訳科目名	Teaching Methods in Music (for Elementary Schools)		
担当教員名	藤本 佳子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論を根拠として小学校音楽科の学習指導案が作成できるようになることをねらいとします。ビデオで授業のモデルを見たり、模擬授業を行ったりして、具体的な授業像が描けるように講義します。学習指導案を作成しながらテキストにそって講義を進め、模擬授業はテキストの事例を基本としてグループで行います。		
到達目標	学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論を根拠として小学校音楽科の学習指導案が作成できる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、グループ編成など）</p> <p>第2回 音楽科の授業像</p> <p>第3回 音楽科の基礎的な能力と共通事項</p> <p>第4回 音楽科の目標と評価</p> <p>第5回 音楽科の授業デザイン</p> <p>第6回 模擬授業の体験</p> <p>第7回 指導内容と教材研究</p> <p>第8回 音楽科の指導方法①</p> <p>第9回 音楽科の指導方法②</p> <p>第10回 小テスト（学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論についての復習）と模擬授業の準備（模擬授業に向けて発問の仕方や教材提示の方法を考えておく）</p> <p>第11回～第14回までグループで模擬授業を行い、それに関わる基礎理論を解説する。</p> <p>第11回 鑑賞</p> <p>第12回 音楽づくり</p> <p>第13回 器楽</p> <p>第14回 歌唱</p> <p>第15回 模擬授業のふりかえりとまとめ 試験</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論を問う小テスト（20%）</li> <li>・模擬授業のふりかえりレポート（30%）</li> <li>・最終試験（音楽科の基礎理論を根拠とした学習指導案作成に関する基礎知識を問う試験）（50%）</li> </ul>		
失格条件	・欠席3コマ以上		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業に向けての準備（予習3時間）</li> <li>・模擬授業のふりかえり（復習1時間）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	・毎時の学習シート、小テスト、最終試験について、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『三訂版 小学校音楽科の学習指導』		
著者名	小島律子監修(2018)		
出版社	廣済堂あかつき		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』平成29年7月</li> <li>・日本学校音楽教育実践学会編『生成を原理とする21世紀音楽カリキュラム』東京書籍、2006 ISBN4-487-80157-5</li> <li>・西園芳信、小島律子監修『小学校音楽科の指導と評価』暁教育図書、2004、ISBN4-252-78283-X</li> <li>・小島律子、関西音楽教育実践学会著『学校における「わらべうた」教育の再創造DVD付き』黎明書房 2010、ISBN978-4-654-01847-5C3037</li> <li>・小島律子監修『日本伝統音楽の授業をデザインするDVD付き』廣済堂あかつき2008 ISBN978-4-252-78291-4C1073</li> </ul>		
その他	特になし。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	期間	前期
授業科目名	図画工作指導法	
英訳科目名		
担当教員名	辰巳 三郎	
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2 <技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4 <関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づいて、図画工作の指導のあり方を学ぶ</li> <li>●講義・実技を通して、子どもの表現活動を支援するために必要な基礎基本の知識・技能を身につける</li> <li>●指導計画、題材研究、学修展開、評価などの基本事項を具体的に知り、理解して、指導者としてのセンスの向上をめざす。</li> <li>●指導案を作成し、模擬授業をする。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図画工作の指導上必要な基礎的基本的なセンス（考え方・知識・技能）を身につけることができる</li> <li>●図画工作の目標・内容を理解し授業実践を具体的にイメージしながら、学習指導案を作成し、授業展開（模擬授業）ができる。</li> </ul>	
授業計画	<p>第1回 授業開き（図工って何？なぜ必要か）・オリエンテーション（留意点、各授業のテーマ概要）</p> <p>第2回 美術教育の歴史、学習指導要領「図画工作」と教科書の考察（提起された課題は）</p> <p>第3回 教育課程を指導計画について・模擬授業の計画（学習指導案の作成とは）</p> <p>第4回 図工の授業をどう創るか、j実技の基礎を通じて学ぶ</p> <p>第5回 実技：絵の表現（中学年の題材で）－表現内容と表現方法を考えながら－</p> <p>第6回 実技：絵の表現（高学年の題材で）－いろんな表現技法を考えながら－</p> <p>第7回 実技：絵の表現（低学年の題材で）－色による表現の大切さを考えながら－</p> <p>第8回 実技：工作－表現や道具その特性を考えて作る（創る）－</p> <p>第9回 実技：工作－原理・しくみを知って（理解して）作る（創る）－</p> <p>第10回 実技：工作－工作の役割、なぜ大切なのかを考えて作る（創る）－</p> <p>第11回 鑑賞・評価とも関連させて</p> <p>第12回 模擬授業①教師の役割は？ 相互評価 中学年</p> <p>第13回 模擬授業②教師の役割は？ 相互評価 高学年</p> <p>第14回 模擬授業③教師の役割は？ 相互評価 低学年</p> <p>第15回 まとめ、内容理解の確認（最終レポートの作成）</p>	
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	50%
	提出物（作品・プリント・小レポート）	50%
失格条件	<p>（次のいずれかに該当すれば失格とする）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●模擬授業日、まとめ日の無断欠席</li> <li>●授業中の小レポート・制作物を提出しなかった場合</li> <li>●出席回数が3分の2に満たない場合（遅刻3回で1回の欠席とする。20分以上の遅刻は欠席1とする）</li> </ul>	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テキスト（①教科書：学習指導要領・図画工作 ②各授業毎の"テキスト・資料" プリント）の各回の授業内容に該当する部分を授業の前後に読み解いておくこと。その際、疑問点や問題点をまとめておく。（授業で質問することが望ましい）</li> <li>●授業終了時に出す課題について、小レポートや作品を作成すること。また、授業時間内にできなかった小レポートや作品を完成させておくこと。</li> </ul> <p>〔予習：1時間 復習：3時間〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各回のプリントや資料など、いつでも振り返ることができるよう綴るなどしてまとめておくこと。また作品なども写真に撮るなど記録として残すことも大切。</li> </ul>	
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の学習シートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。</li> <li>・提出物は授業時間内に返却し、必要に応じて解説します。</li> </ul>	
教科書	①小学校学習指導要領解説 「図画工作」	
著者名	①文部科学省	
出版社	①日本文教出版	
参考書	特になし。必要に応じて「資料」としてプリントする。また必要に応じて授業内で紹介する。	
その他	講義・実技・実習を通して、班分けをして班活動・班学習を取り入れる。（途中、班がえをする可能性もあり）	
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。	
科目生への開講	なし	

ナンバリング	CD107C10	期間	後期
授業科目名	体育科指導法		
英訳科目名	Teaching Methods in Physical Education (for Elementary Schools)		
担当教員名	前田 雅章		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	体育科教育の目標や各運動領域・運動種目の特性と内容を理解し、児童の発達段階や興味・関心等に応じて、授業計画づくり、具体的な授業展開、そして評価という一連の体育の授業づくりについて学ぶ。その中で、体育の技術指導の系統性を理解し、技能の向上をめざしてグループで学習する。また、模擬授業の実施と評価を通して指導する力を身につける。		
到達目標	体育科の指導目標や内容を理解し、各学年、内容に応じた学習指導案を作成することができる。 技術指導の系統性を理解し、グループで教え合い、技術指導内容の意味を問い直すことができる。 模擬授業での実践と評価を通して、「みんなが、わかり、できる体育の指導」をめざすことができる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・体育科の目標及び内容 「今まで私が受けた体育の授業」を交流し「他の教科との違い」を考え、体育の授業はどのように つくられていくのかを学ぶ。これから学習していくグループづくり。</p> <p>第2回 小学校低学年の体育の授業づくり①1年生 第3回 小学校低学年の体育の授業づくり②2年生 第4回 小学校中学年の体育の授業づくり①3年生 第5回 小学校中学年の体育の授業づくり②4年生 第6回 小学校高学年の体育の授業づくり①5年生 第7回 小学校高学年の体育の授業づくり②6年生 第8回 保健・健康教育の授業づくり 第9回 戦後体育科教育の変遷と学習指導要領 第10回 模擬授業の打ち合わせ・教材準備 第11回 模擬授業とその検討①低学年 第12回 模擬授業とその検討②中学年 第13回 模擬授業とその検討③高学年 第14回 模擬授業とその検討④支援の必要な子ども 第15回 まとめ 体育の授業づくりの基本的な考え方 最終レポート作成</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・取り組み 30% 体育実技への積極的参加 20% レポート課題 30% 模擬授業の実施とふりかえり 20%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が3分の2に満たない場合</li> <li>・模擬授業、または実技発表を行なわなかった場合</li> <li>・最終レポートを提出しない場合</li> <li>・正当な理由（自然災害、交通機関の延着など）がない遅刻は欠席とする。</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で紹介する文献や実践記録を読んでおくこと。（予習2時間）</li> <li>・授業内容についてレポートをまとめ、模擬授業の学習指導案を作成すること。（復習2時間）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎講義後の授業コメント（振り返り）については、講義通信を発行し、必要に応じて個人もしくは全体にコメントします。</li> <li>・最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用。 必要に応じて資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	小学校学習指導要領解説 体育		
その他	実技の場合は、ジャージなど運動しやすい服に着がえておくこと。運動の得意な学生、不得意な学生、そして男女が一緒になって学習をするグループをつくる。「異質」な集団が教え合い共同して学んでいくグループ学習で授業を進める。グループ学習は、体育科教育の方法だけでなく内容にもなることを念頭に授業に臨んでもらいたい。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107C03	期間	前期						
授業科目名	社会科指導法								
英訳科目名	Teaching Methods in Social Studies (for Elementary Schools)								
担当教員名	河内 晴彦								
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○						
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎						
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6							
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の内容・方法について再確認するとともに、学年に応じた単元指導計画・学習指導案を作成する</li> <li>・6回の模擬授業と授業研究をもとに学習指導案を再構成する。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の学習内容・方法の特徴がわかることができる</li> <li>・各学年の学習内容をつかみ、その学年に応じた学習方法を考えることができる</li> <li>・学習指導案を作成し、模擬授業・授業研究をもとに振り返ることができる</li> </ul>								
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー社会科の目標と内容と全体構造</p> <p>第2回 社会科の学習方法と評価</p> <p>第3回 社会科の歴史と「総合的な学習」との関連</p> <p>第4回 授業展開の具体（単元の指導計画・学習指導案）</p> <p>第5回 教材研究の方法（インターネット、博物館、図書館、現地見学等の活用）</p> <p>第6回 3・4年生の学習内容と方法① 講義</p> <p>第7回 3・4年生の学習方法と方法② 模擬授業と授業研究Aグループ</p> <p>第8回 3・4年生の学習内容と方法③ 模擬授業と授業研究Bグループ</p> <p>第9回 5年生の学習内容と方法① 講義</p> <p>第10回 5年生の学習内容と方法② 模擬授業と授業研究Aグループ</p> <p>第11回 5年生の学習内容と方法③ 模擬授業と授業研究Bグループ</p> <p>第12回 6年生の学習内容と方法① 講義</p> <p>第13回 6年生の学習内容と方法② 模擬授業と授業研究Aグループ</p> <p>第14回 6年生の学習内容と方法③ 模擬授業と授業研究Bグループ</p> <p>第15回 まとめと中学校への発展及び理解度の確認</p>								
評価方法 (合計100%)	<table> <tr> <td>授業への参加度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>課題提出物</td> <td>30%</td> </tr> </table>			授業への参加度	30%	定期試験	40%	課題提出物	30%
授業への参加度	30%								
定期試験	40%								
課題提出物	30%								
失格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.出席が3分の2に満たない場合</li> <li>2.最終的な「学習指導案」を提出しなかった場合</li> </ol>								
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学の内外や地域の「教材」を見つけたり、新聞などで自分の「深めたいこと」や「おもしろそうなこと」を探そう。</li> <li>2.各学年の学習内容について調べたり、テーマをもって考えたりしよう。 (予習は、毎時間2時間程度)</li> <li>3.紹介された文献や資料を読んで、理解を深めよう。</li> <li>4.紹介された実践や模擬授業をもとに、社会科の授業のあり方を考えよう。 (復習は、毎時間2時間程度)</li> <li>5.自分の学習・研究したことを「学習指導案」にいかすようになろう。</li> </ol> <p>大学のある地域や自分たちの住んでいる地域についてさらに理解を深めよう。 社会科の教材となる「新聞」や「放送」などを資料として集めよう。 社会科の副読本や地図帳などにもあたり、多様な教材内容を集めよう。</p>								
課題へのフィードバック	提出された課題に対してまとめてコメントを添えて返却する。								
教科書	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』								
著者名	文部科学省								
出版社	日本文教出版								
参考書	プリントを資料として配付する。参考書は適宜紹介する。								
その他	模擬授業別にグループを編成する。グループでの調査・研究・討議などに積極的に取り組んで欲しい。 様々な教材や実践を紹介していきたい。図書館などを利用した自主的な学習を進めて欲しい。								
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。								
科目生への開講	なし								

ナンバリング	CD107C05	期間	前期
授業科目名	理科指導法		
英訳科目名	Teaching Methods in Science (for Elementary Schools)		
担当教員名	木村 久男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> 〇	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> 〇
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> 〇	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> 〇
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> 〇	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この授業では、教材開発の仕方や授業の展開方法、学習指導案の作成の仕方を習得できるよう、研究発表や模擬授業に取り組む。</p> <p>「面白い」授業のためには、まず、私たちがその教材に魅力を感じることに、「面白さ」を見つけることである。この授業で心がけてほしいことは次の5点。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自らが好奇心を持って自然に親しみ、「面白いもの」を見つけることを心がけ、持ち込もう。</li> <li>2.子ども達が発見する喜びや科学的思考を味わえる楽しい理科の教材を開発しよう。</li> <li>3.受講者による教材研究の発表や模擬授業を行い、実践的的力量をつけよう。</li> <li>4.コミュニケーションを大切にし、協働と学習を通して受講生が「学びあう仲間」になるように努めよう。</li> <li>5.教材研究や授業計画作成に当たっては、子どもの感性や思考方法・学力の実態などを視野に入れて考えよう。</li> </ol>		
到達目標	<p>授業のテーマ： 発見する喜びや科学的思考力を養う「面白い」理科の授業を創るための、教師としての心構えや実践力をつけることをめざす。</p> <p>理科の授業では、子ども達が知的好奇心をもって自然に親しみ、目的意識を持った実験・観察や飼育・栽培を行うことにより、自然の事物・現象について実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことが大切である。そのために学習指導要領に示された目標や内容を理解すると共に、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけなければならない。</p> <p>到達目標： ①教材開発の仕方や授業の展開方法、学習指導案の作成の仕方を習得することができる。 ②その際、学習指導要領に示された理科の目標や内容を理解した上で、グループで協力して楽しい理科の教材を開発し、基礎的な学習理論を踏まえた指導案の作成や授業準備ができる。 ③模擬授業の実施と授業検討・授業評価を通して実践研究の動向を知り、よりよい授業を目指すことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション理科の授業でめざすもの。「面白い」とは？ 講義の概要、講義通信、受講時の心得、「受講コメントカード」、評価の説明等 ①理科の目標及び領域構成・単元と全体構造</p> <p>第2回 理科の授業の思い出、「面白かった?」「面白くなかった?」から、「面白い理科」の原則を探る ②理科の指導法と指導の原則を探る</p> <p>第3回 「問題解決学習」(予想、討論、実験・観察、結果と考察、試行錯誤) ③実験や観察に当たっての基本と注意点。実験器具、情報機器の活用と工夫。</p> <p>第4回 小学校の教材開発1 面白い「植物」の学習。花と種 (タンポポ・・・) ④「指導上の留意点」と学習評価。野外活動の注意点。</p> <p>第5回 小学校の教材開発2 面白い「昆虫」の学習。(チョウ・・・) ⑤観察・実験の結果を整理し、考察し、表現する学習活動。</p> <p>第6回 小学校の教材開発3 面白い「魚」の学習。(メダカ・・・) ⑥身近な自然を対象とした自然体験と観察。「見通しをもって観察を行う」</p> <p>第7回 模擬授業とその検討1 学習指導案の書き方「教材観」「指導観」</p> <p>第8回 模擬授業とその検討2 学習指導案の書き方「子ども観」「評価」</p> <p>第9回 模擬授業とその検討3 学習指導案の書き方「指導計画」「本時の目標」</p> <p>第10回 模擬授業とその検討4 学習指導案の書き方「展開」と「板書計画」 発問計画</p> <p>第11回 模擬授業とその検討5 3年単元</p> <p>第12回 模擬授業とその検討6 4年単元</p> <p>第13回 模擬授業とその検討7 5年単元</p> <p>第14回 模擬授業とその検討8 6年単元</p> <p>第15回 まとめ 学生の疑問や不安にこたえ、めざしたい理科の授業を考える。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.レポートを提出してもらい評価する 30%</p> <p>2.授業への参加態度・「受講コメントカード」など小レポート 30%</p> <p>3.模擬授業や調査・研究の発表(グループ) 30%</p> <p>4.学習指導案(グループ) 10%</p>		
失格条件	<p>1.出席が3分の2に満たない場合</p> <p>2.模擬授業をできない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習(2時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.地域や大学内の身近な自然の中の「面白い」ものを見つけ、「なぜ?」を追求する好奇心を鍛えよう。</li> <li>2.模擬授業に当たって、教科書・指導書だけでなく、図書館やインターネットを活用して教材研究を深めよう。</li> <li>3.模擬授業には、できるだけ「実物」「本物」を持ち込むこと、実験観察で検証する。そのために、予備の実験観察を欠かさないようにしよう。</li> <li>4.実験器具や道具、薬品などがない場合にも、手作り・代用など、身近なもので工夫する面白さを見つけよう。</li> </ol> <p>復習(2時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.紹介された参考図書や資料、「講義通信」を読もう。</li> </ol>		
課題へのフィードバック	<p>・毎授業の最後に提出したミニレポート及び模擬授業の感想などは、全員分印刷して授業通信などに掲載し、次時の最初に前時振り返り発表等として活用する。</p>		
教科書	小学校学習指導要領解説・理科編		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書	学習指導要領、教科書、指導書、その他授業で紹介します。		
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD107C09	期間		後期	
授業科目名	家庭科指導法				
英訳科目名	Teaching Methods in Homemaking (for Elementary Schools)				
担当教員名	角江 繁美				
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○		
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎		
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6			
授業概要・ポイント	<p>小学校家庭科は、第5・6学年の2年間において指導する教科です。他教科との関連や中高との系統性も視野に入れて指導していきます。家庭科の授業では日常生活から問題を見いだして課題を設定する、習得した知識・技能を活用して課題を解決する、さらに生活をよりよくしようと工夫する、このプロセスを展開し、最終的には児童が実生活で自己決定できる、実践できることを目指します。本授業では具体的な授業を想定した授業設計、学習指導案の作成、模擬授業、またそれらの振り返りを通して、家庭科指導の力をつけていきます。</p>				
到達目標	<p>①小学校家庭科において育成すべき資質・能力について理解することができる。          ②小学校家庭科の学習指導案の作成ができる。          ③指導方法や評価について理解し、よりよい授業を目指すことができる。</p>				
授業計画	<p>第1回 家庭科の授業づくり 家庭科の目標と内容構成 他教科との関連          第2回 学習指導案と2年間の指導計画          第3回 授業評価          第4回 模擬授業学習指導案の作成          第5回 模擬授業①「A家族・家庭生活」(1)自分の成長と家族・家庭生活          第6回 模擬授業②「A家族・家庭生活」(2)家庭生活と時間          第7回 模擬授業③「B衣食住の生活」(1)食事の役割          第8回 模擬授業④「B衣食住の生活」(2)調理の基礎          第9回 模擬授業⑤「B衣食住の生活」(3)栄養を考えた食事          第10回 模擬授業⑥「B衣食住の生活」(4)衣服の着用と手入れ          第11回 模擬授業⑦「B衣食住の生活」(5)生活を豊かにするための布を用いた製作          第12回 模擬授業⑧「B衣食住の生活」(6)快適な住まい方          第13回 模擬授業⑨「C消費生活・環境」(1)物や金銭の使い方と買物          第14回 模擬授業⑩「C消費生活・環境」(2)環境に配慮した生活          第15回 まとめと振り返り</p>				
評価方法 (合計100%)	<p>小テスト 20%          学習指導案作成 30%          模擬授業の発表と振り返り 30%          模擬授業後の討論への参加度 20%</p>				
失格条件	<p>出席回数が3分の2に満たない場合          (20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。)</p>				
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>①小学校学習指導要領解説家庭編と家庭科教科書、資料等を読み、教材研究を行う。模擬授業の指導案を作成する。(予習 2時間)          ②講義内容のまとめ、模擬授業のまとめ等をファイリングする。学修ファイルを用いて振り返りを行い、ポイントの整理をする。(復習 2時間)          ③子どもをめぐる衣食住の問題、家族・家庭、消費・環境などに関する情報に関心を持ち、多様な視点があることを知ってください。教材研究、授業づくりに生かすことができます。</p>				
課題へのフィードバック	<p>・小テストは授業内で解説をします。          ・模擬授業の指導案、発表内容、振り返りについては個別にコメントし、内容によっては全体へのコメントを行います。</p>				
教科書	<p>小学校家庭科教科書 『私たちの家庭科 5・6』          小学校学習指導要領解説 家庭編 (平成29年告示)</p>				
著者名	内海紀子・鳴海多恵子・石井克枝  文部科学省				
出版社	開隆堂出版株式会社 東洋館出版社				
参考書	必要に応じて紹介します。				
その他	特になし				
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。				
科目生への開講	なし				

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	外国語活動の指導法		
英訳科目名			
担当教員名	脇本 聡美		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>グローバル化が進む中、外国語によるコミュニケーション能力向上と、多文化共生のための資質の育成が求められています。そのような背景から、2011年度より、小学校第5学年および第6学年において外国語教育が「外国語活動」として導入されました。さらに2017年に公示された新学習指導要領では、小学校5～6年生で外国語（英語）を正式教科にするほか、英語に親しむ「外国語活動」の開始を3年生に早めることになりました。新指導要領は小学校では2020年度から実施されることになっています。</p> <p>小学校外国語活動の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」を育成することです。育成を目指す資質・能力の3つの柱に関わる目標として①外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ（知識及び技能の習得）②身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う（思考力、判断力、表現力等の育成）③外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う（学びに向かう力、人間性等の涵養）が設定されています。すなわち、児童が聞いたり話したりする言語活動を通じ、さまざまな文化をもった人々とコミュニケーションをとり、相手を理解したいという意欲や態度を高めることをねらいとしています。特に技能の面では、柔軟な適応力をもった子どもの特性を生かし、外国語の音、リズム、イントネーションを体得することも大切です。</p> <p>授業では、活動の目標を理解し、自ら体験することを通して「外国語でコミュニケーション」とはどのようなことかを、学生とともに考えていきます。外国語活動では、ALT（外国語指導助手）やHRT（学級担任）とのチームティーチングや、ICTを活用した指導など多様な教育方法がとられています。事例研究なども通して、多様な教育方法についても理解を深めます。</p>		
到達目標	<p>1.小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。</p> <p>2.児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。</p> <p>3.授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。</p> <p>4.「外国語活動」の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 学習指導要領の確認 第3回 「外国語活動」DVD映像による授業観察 第4回 子どもの第二言語修得と指導法について 第5回 授業実践研究①クラスルームイングリッシュ、ゲーム 第6回 授業実践研究②チャンツ、歌 第7回 授業実践研究③英語絵本 第8回 「外国語活動」教材（Let's Try!）とデジタル教材を使った活動の年間指導計画・単元計画・指導案・評価 第9回 Let's Try!を使用した「外国語活動」模擬授業（デジタル教材の使用と児童とのやり取り）・振り返り 第10回 Let's Try!を使用した「外国語活動」模擬授業（ALT等とのチーム・ティーチングと評価）・振り返り 第11回 国際理解教育と外国語学習 第12回 Authentic教材を使用した「外国語活動」・「外国語」と指導略案の作成 第13回 Authentic教材を使用した「外国語活動」模擬授業 （タスク志向や意味のやり取りのある活動）・振り返り 第14回 Authentic教材を使用した「外国語」模擬授業（アウトプットの活動）振り返り 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>提出物 30% 発表 30% 定期試験 40%</p>		
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>日常生活において、海外の出来事や文化に関心をもつようにしましょう。 配布資料などに目を通し、授業の準備をしましょう。 指導案やレポート課題にしっかり取り組みましょう 模擬授業の準備学習をしっかり行いましょう。（予習2時間・復習2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業で課す課題は採点をして返却します。 発表（模擬授業）は発表後に振り返りをします。</p>		
教科書	小学校学習指導要領解説（外国語活動）・（外国語）平成29年告示		
著者名	文部科学省		
出版社	開隆堂出版		
参考書	<p>『小学校英語の教育法』アレン玉井光江著 大修館書店 『小学校英語教育法入門』樋口忠彦他 研究者 『小学校外国語活動 基本の「き」』酒井英樹 『アメリカの小学校で?はこうやって英語を教えている—英語か?話せない子?ものための英語習得?ロク?ラム ライミク?編』リーハ?すみ子著 径書房 『小学校におけるフ?ロシ?エクト型英語活動の実践と評価』東野裕子 高島英幸著 高陵社 『[小学校]英語活動ネタのタネ』小泉清裕著 アルク 『はじめてのジョリーフォニックス—ティーチャーズブック』ジョリーフォニックス社</p>		
その他	20分以上の遅刻は欠席とします。20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	道徳教育の理論と実践		
英訳科目名			
担当教員名	横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本的精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。		
到達目標	(1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。 (2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解することができる。		
授業計画	第1回 道徳の理論 (1) 道徳とは何か、道徳の意義と原理 第2回 道徳の理論 (2) 学校における道徳教育の変遷と道徳教育の課題 第3回 道徳の理論 (3) 子供の心の成長と道徳性の発達 第4回 道徳の理論 (4) 学習指導要領改訂の基本方針、道徳教育及び道徳科の目標と内容 第5回 道徳の指導法 (1) 道徳教育の指導体制と全体指導計画、指導の配慮事項 第6回 道徳の指導法 (2) 多様な指導方法 考え、議論する道徳へ 第7回 道徳の指導法 (3) 道徳科における多様な教材と活用 第8回 道徳の指導法 (4) 道徳科の授業設計と学習指導案 第9回 道徳の指導法 (5) 道徳科の特性を踏まえた学習評価 第10回 道徳科の実践的研究 (1) 授業の構想 第11回 道徳科の実践的研究 (2) 学習指導案の作成 第12回 道徳科の実践的研究 (3) 模擬授業の実践 第13回 道徳科の実践的研究 (4) 模擬授業の振り返り 第14回 道徳科の実践的研究 (5) 授業改善に向けて 第15回 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の展開		
評価方法 (合計100%)	毎時の小課題 30% 実践的研究への取り組み (模擬授業の学習指導案・教材の作成、発表内容) 30% レポート課題 40%		
失格条件	出席回数が開講時数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】 (3時間) ・ 次回の学習内容に関する情報収集 ・ 実践的研究 (模擬授業) にむけた準備 (授業の構想、学習指導案・教材の作成、実践の反復) 【復習】 (1時間) ・ 学習内容のふりかえり ・ 関連文献・資料の精読		
課題へのフィード バック	・ 小課題への取り組みについて、授業内で全体にコメントする。 ・ 模擬授業の構想中には、授業時間内・外でグループもしくは全体にコメントする。 ・ 模擬授業の発表時には、グループおよび全体にコメントする。また、他のグループからの感想コメントを返却し、全体にコメントする。		
教科書	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成29年告示)		
著者名	文部科学省		
出版社	廣済堂あかつき		
参考書	小学校学習指導要領解説 総則編 (平成29年6月 文部科学省) そのほか、授業中に適宜資料を配付する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	特別活動の指導法		
英訳科目名			
担当教員名	馬場 義伸		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	小学校学習指導要領「特別活動」に掲げる以下の目標を達成できるように、教師としての役割や指導法について学ぶ。「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。」特に、学級活動や児童会活動などの自発的・自主的な活動を活性化するための指導法や、特別活動をいかした学級経営や生徒指導についてロールプレイ等も取り入れて、学び・考える。		
到達目標	特別活動の意義と目標・内容について理解することができる。 特別活動の実践的な指導力と方法を身につけることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス——特別活動とは何か 第2回 特別活動の歴史、特別活動に関わる指導理論とその意義・目標・内容 第3回 学級活動の指導①（総論と具体的実践例①） 第4回 学級活動の指導②（具体的実践例②） 第5回 学級活動の指導③（具体実践例③お楽しみ会、誕生日会、学級内クラブ活動など） 第6回 児童会活動の指導①（総論） 第7回 児童会活動の指導②（七夕集会の用意） 第8回 児童会活動の指導③—七夕集会など 第9回 クラブ活動の指導 第10回 学校行事の指導（総論と具体的実践例） 第11回 教育問題と特別活動への期待①—学級の荒れ 第12回 教育問題と特別活動への期待②—いじめ・不登校や支援を要する児童 第13回 望ましい学校・学級と目指したい教師像(低学年) 第14回 望ましい学校・学級と目指したい教師像(高学年) 第15回 まとめと課題（定期試験）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度40% 定期試験40% 課題提出物20%		
失格条件	出席が授業回数の3分の2に満たない場合失格 遅刻3回で欠席1回に換算		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・特別活動では主体的で意欲的な活動が重視される。教師を目指す志をもって、授業への参加と活発な交流を求める。 ・授業で紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。（予習時間 2時間） ・授業の整理をして、必要な資料や文献で学修を深める。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	①授業のコメントカードをプリントして、次回の授業の最初に読みあい、全体で共有する。討論すべき課題があれば討論する。 ②課題提出後、授業で全体に向けてコメントしたり個別にコメントする。またレポートを印刷するなどして全体で討論もする。		
教科書	「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月）		
著者名	文部科学省		
出版社	東洋館出版社		
参考書			
その他	マスコミで取り上げられる子どもと教育の問題について日常的に関心を持ち、自分なりの意見を考えておく。  事業中に適宜プリントを配布する。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	CD107C14	期間	後期
授業科目名	生徒・進路指導の理論と方法		
英訳科目名	Theory and Method of Guidance and Counseling		
担当教員名	木村 久男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> 〇	ディプロマ・ポリシー2	<技能> 〇
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> 〇	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> 〇
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> 〇	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>学習指導要領に沿った授業テーマや到達目標を、具体的な事例を基に明らかにして、「児童理解」深め、「指導観」を磨くことで目指す教師像をイメージする。</p> <p>対話的な講義が中心に受講者がともに考え、語り合う時間を大切にする。配布資料や時々の生徒指導に関係する報道等をもとにした受講者同士の意見交流やグループ討議、毎時間提出する小レポートを活用した交流など、アクティブラーニングの手法を用いて授業を行う。</p> <p>生徒指導は、児童生徒の人格の健全な発達を図るため学校の教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な機能である。</p> <p>生徒指導は、「非行」等の対策という消極的な面にとどまるものではなく、一人ひとりの生徒にとって充実した学校生活を作り出すためのものであり、すべての生徒の人格を尊重し、より良い発達を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われるものである。</p> <p>1.「安心と信頼」の土台になる「こどもを好きになる」ための原則を知る。 2.「問題行動」をどう見るか。「こども観」・「指導観」を深める。 3.キーワードは「つなぐ」こと。教育集団の力を理解する。 4.生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができる進路指導の理論と方法を学ぶ。 以上の4点を具体的な事例をもとに明らかにして、「こども観」を磨き、自分のめざす教師像をイメージ化する。 そのために、受講者が「学びあう仲間」として共に考え、語り合う時間を大切にする授業にしたい。</p>		
到達目標	<p>授業テーマ： 学校における教育活動全般にかかる生徒指導・進路指導の理論と方法を学び理解する。児童が輝く「安心と信頼」の学校をつくり出すために大切なこと。</p> <p>到達目標： 1.生徒指導の意義は、「問題行動」や「非行」等の対策ということにとどまるものではなく、全教職員による、すべての児童の人格のよりよい発達と充実した学校生活を作り出すためのものであるということを理解することができる。 2.すべての児童を対象にした学級・学年・学校の教育課程内外での学習指導、進路指導、教育相談等を通しての生徒指導の進め方を理解することができる。 3.児童の「問題行動」等の生徒指導上の課題の背景をつかみ、その課題に応える指導を行えるように、養護教諭等の教職員やカウンセラー等の専門家、外部機関や家庭・地域等の学校内外との連携を含めた対応の在り方を理解することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「生徒指導の領域と機能」－教育課程における生徒指導の位置づけを知る 講義概要、講義通信、受講時の心得、成績評価について</p> <p>第2回 生徒指導と教師の役割－生徒指導の土台となる、児童・保護者との「信頼関係」をどうつくるか 集団指導・個別指導の方法原理を知る</p> <p>第3回 学級・学校づくりと生徒指導の原則－教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生活指導の意義や重要性を理解する。</p> <p>第4回 「指導を受け容れる力」－生徒指導上の課題の定義とその背景にあるもの、対応の視点 「問題行動」や「荒れ」・非行と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べたり、自身の体験を思い出して考える</p> <p>第5回 「いじめ」の現実を明らかにし、その定義や対応の視点と原則を考える</p> <p>第6回 「登校拒否」「不登校」や「暴力行為」等の事態を明らかにし、その定義や対応の視点と原則を考える</p> <p>第7回 今日的な生徒指導の課題（児童虐待、性、薬物、インターネット等）への対応について考え、専門家や関係機関との連携の必要性を理解する。教育相談、外部機関との連携</p> <p>第8回 「クレーム」問題を考える－「モンスターペアレント」の正体 保護者理解と家庭・地域との連携の在り方を考える</p> <p>第9回 発達障がいや特別支援教育と生徒指導の関連について、体験や学んだことをもとにして考える 「問題行動」の背景にある発達課題や学校・家庭の問題と生徒指導のあり方を理解する</p> <p>第10回 校則、体罰、懲戒等の生徒指導に関する問題を考え、それに関する主な法令の内容を理解する</p> <p>第11回 日々の学習活動や道徳・総合的な学習の時間、給食、清掃活動、特別活動を通しての生徒指導と学級・学年・学校づくり－生活習慣の確立や規範意識の醸成等と児童の存在感が育まれる場や機会の設定の意義と方法</p> <p>第12回 「学習権」と進路指導－キャリアガイダンスとの連携</p> <p>第13回 「教育の力」－教育集団（子ども集団、父母集団、教師集団）の力 その中核となる学校教職員の組織的な取り組みの重要性を理解する</p> <p>第14回 課題レポート発表Ⅰ－キャリアカウンセリングの基礎的な考え方と実践方法について理解する</p> <p>第15回 課題レポート発表Ⅱ－この講義で学んだことを振り返り、目指す教育と教師像を考え合う</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業理解を確認するレポート試験（40%）</li> <li>・授業への積極的参加とレポートの発表内容（30%）</li> <li>・毎回の授業最後に提出する小レポート（30%）</li> </ul>		
失格条件	出席が3分の2に達しない場合 レポート、「手作り通信」提出しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義テーマを自分自身の学校生活などでの体験に引き寄せて、問題意識をもって講義に参加しましょう。</p> <p>ニュースに関心を持ち、新聞やインターネットの情報を講義にもちこみ、紹介しましょう。</p> <p>授業で配布される資料を読んで、感じたり考えたことをまとめたり、興味関心のある問題について調べてみましょう。</p> <p>コメントカードや講義のまとめの掲載された「講義通信」をファイルしておいて、それをもとに教育や子どもの問題に対して、自分の意見や考えを書いてみましょう。</p> <p>講義の中や「講義通信」で「参考文献」を紹介するので、興味のある問題を探究してください。（予習2時間、復習2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後のミニレポートは、「講義通信」に全員分を掲載して、授業の冒頭で発表交流するとともに「振り返り」によってテーマを深める。</li> <li>・最終課題である「手作り通信」は全員分を印刷配布し、全員が1分間のプレゼンテーションを行う。</li> </ul>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	<p>学習指導要領 学習指導要領の解説 その他、授業の中で参考図書、文献を紹介します。</p>		
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD103A02	期間	前期
授業科目名	保育生活技術演習		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子、進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	子どもの育ちを支援するのに必要な、基本的な生活技術の修得を目指します。さらに、保育や教育の現場で、どのような生活技術が望まれるのかを確認し、必要感に基づく主体的な取り組みにつなげます。		
到達目標	子どもの育ちや生活の支援に必要な基本的技術力を、身につけることができる。		
授業計画	第1回 本授業について(川中・進藤) 第2回 生活に必要な技術について (川中) 第3回 演習①(衣生活に関連して) (川中) 第4回 演習②(名札をつくろう) (川中) 第5回 演習③(食生活に関連して) (川中) 第6回 演習④(遊びや日常生活関連して) (川中) 第7回 演習⑤(住生活に関連して) (川中) 第8回 ふりかえり学習とまとめ (川中) 第9回 保育に必要な生活技術と態度について (進藤) 第10回 演習⑥(正しい姿勢・手紙の書き方) (進藤) 第11回 演習⑦(紙を切る) (進藤) 第12回 演習⑧(火かげんを知ろう) (進藤) 第13回 演習⑨(ご飯を炊こう) (進藤) 第14回 演習⑩(一食分を作ろう) (進藤) 第15回 ふりかえり学習とまとめ (進藤)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 課題の取り組み 60%		
失格条件	1.授業内で課する課題を提出しない場合 2.出席が実授業回数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	本演習で学んだ技術を、積極的に反復して使用し、自分の身に付けるよう努めて下さい。(予習 1時間、復習 3時間)		
課題へのフィードバック	課題ごとに意見交換やコメントカードの作成を行っており、その時に必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	特に使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて、紹介します。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	通年
授業科目名	子ども学専門演習		
英訳科目名			
担当教員名	進藤 容子、木村 久男、直島 正樹、馬場 義伸、前田 雅章、岩口 摂子、中西 利恵、曲田 映世、中井 清津子、実光 由里子、横島 三和子、松島 京、川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>子どもの発達や子ども理解、指導観等を深め、保育士、幼稚園教諭、保育教諭、小学校教諭として求められる資質能力を、4年間の養成期間の最終年として向上させることを課題とします。</p> <p>授業では、グループ討論やロールプレイング等の方法を取り入れ、実践的な資質能力の向上をめざします。保育・教育現場で求められる知識や技能の習得や、自己が課題と考える分野の克服をより確実にするため、必要に応じた対策学習も実施します。なお、現場の視点を取り入れる観点から、関連する分野からの外部講師も招きます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健やかな心身の育ちにかかわるこれまでの学びを有機的に統合できる。</li> <li>・保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭として、また、専門職以外の立場からも、子どもの育ちを支援するうえで必要な現場対応力を修得する。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 4年次に必要な取り組みを考えよう</p> <p>第2回 オリエンテーション（前期）</p> <p>第3回 グループ活動 面接練習</p> <p>第4～10回 グループ活動（課題別取組）</p> <p>第11回 グループワーク「採用したい人物像」</p> <p>第12回 グループワーク「論作文」</p> <p>第13～15回 グループ活動（課題別取組）</p> <p>第16回 オリエンテーション（後期）</p> <p>第17～26回 グループ活動（課題別ゼミナール形式の取組）</p> <p>第27回 外部講師に学ぼう①（表現活動）</p> <p>第28回 外部講師に学ぼう②（環境理解）</p> <p>第29回 外部講師に学ぼう③（防災）</p> <p>第30回 4年間の学びをふり返って</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>全体活動への取組（積極性・協働性） 40%</p> <p>各組での取組姿勢 30%</p> <p>レポート 30%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業出席回数が3分の2に満たない場合</li> <li>・レポートを提出しなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>①テーマに関し事前に調べ学習をし、自分の意見をまとめる。（1回の授業に対し準備学習：2時間）</p> <p>②自己課題（不得意・弱点）である分野の検討と考察を行う。（1回の授業に対し事後学修：2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>毎時のコメントカードは、学生間での学びあいの資料とする。</p> <p>提出物については、必要に応じ個別もしくは全体に対しコメントする。</p>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業の中で紹介します。		
その他	特になし。		
備考	<p>社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p> <p>幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	通年
授業科目名	教職特別演習A		
英訳科目名			
担当教員名	木村 久男、前田 雅章、横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、児童理解と指導力、教員として求められる資質能力を向上させていくことを課題とする。</p> <p>授業においては、グループ討論、ロールプレイング、模擬授業等の方法を取り入れ、実践的な資質能力の向上を目指す。</p> <p>大学生活や社会的な経験、育成歴などを振り返り、ボランティアなどの学校現場での体験などもふまえて目指す教育・教員像を探究する。</p> <p>教育現場の視点を取り入れる観点から、現職の先生も外部講師として招く。</p>		
到達目標	<p>1.教職課程の授業科目の履修や、大学生活での様々な活動を通じて身につけた資質能力を、教員として必要な資質能力として有機的に統合し形成できる。</p> <p>2.教職に就くために自己にとって何が課題であるかを自覚し、教職への責任感と自覚を高めることができる。</p> <p>3.自然観察や栽培活動、ビオトープの環境維持とそれを利用した子どもとの活動を通して「先生力」を育むことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション。教員・保育士としての資質能力を高めるために。 (先生になるために自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識・技能を補うこと。 教職への責任感と自覚を高めること。)</p> <p>第2回 「教員・保育士の資質と使命感」…目指す先生像は。</p> <p>第3回 「こども理解と指導」・(グループ討論)</p> <p>第4回 『指導』とは？「こどものトラブル」をどう考え対処するか。(場面指導)</p> <p>第5回 「家庭との連携」・・・保護者の問題への対応。</p> <p>第6回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究①Aグループ</p> <p>第7回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究②Bグループ</p> <p>第8回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究③Cグループ</p> <p>第9回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究④Dグループ</p> <p>第10回 現場の先生を招いての授業</p> <p>第11回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究⑤Eグループ</p> <p>第12回 「こどもとあそび、飼育栽培活動や自然体験」①飼育栽培活動</p> <p>第13回 「こどもとあそび、飼育栽培活動や自然体験」②自然体験</p> <p>第14回 現場の課題と先生の使命。</p> <p>第15回 まとめと自身の課題など。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.授業の参加態度と授業後のミニレポート提出 50%</p> <p>2.模擬授業・集団討議、発表など 50%</p>		
失格条件	<p>1.出席が授業回数の3分の2に満たない場合</p> <p>2.担当日時の決定した発表を正当な理由なく行わなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習(2時間)</p> <p>1.模擬授業やグループ討議、ロールプレイなどの指導案は、グループで協力して行うこと。事前にグループで予行をしておこう。</p> <p>2.ビオトープや部活・学生会やボランティアなど、大学内外の活動に積極的に参加し、総合的人間力を高めよう。</p> <p>復習(2時間)</p> <p>1.授業で紹介された参考図書・資料等を活用し、すすんで情報収集しよう。</p> <p>2.専用の「練習ノート」などを準備し、計画を立てて予習復習をしよう。</p>		
課題へのフィードバック	課題レポート、授業後のミニレポートは、授業の中でのグループ活動・集団討議や全体交流で活用する。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業で紹介します。		
その他	特になし		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(木村)</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(前田)</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	通年
授業科目名	教職特別演習B	
英訳科目名		
担当教員名	木村 久男、前田 雅章、横島 三和子	
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2 <技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4 <関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6
授業概要・ポイント	<p>教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、児童理解と指導力、教員として求められる資質能力を向上させていくことを課題とする。</p> <p>授業においては、グループ討論、ロールプレイング、模擬授業等の方法を取り入れ、実践的な資質能力の向上を目指す。</p> <p>大学生活や社会的な経験、育成歴などを振り返り、ボランティアなどの学校現場での体験などもふまえて目指す教育・教員像を探究する。</p> <p>教育現場の視点を取り入れる観点から、現職の先生も外部講師として招く。</p>	
到達目標	<p>1.教職課程の授業科目の履修や、大学生活での様々な活動を通じて身につけた資質能力を、教員として必要な資質能力として有機的に統合し形成できる。</p> <p>2.教職に就くために自己にとって何が課題であるかを自覚し、教職への責任感と自覚を高めることができる。</p> <p>3.自然観察や栽培活動、ビオトープの環境維持とそれを利用した子どもとの活動を通して「先生力」を育むことができる。</p>	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション。教員・保育士としての資質能力を高めるために (先生になるために自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識・技能を補うこと。 教職への責任感と自覚を高めること。)</p> <p>第2回 「教員・保育士の資質と使命感」…目指す先生像は</p> <p>第3回 「こども理解と指導」・(グループ討論)</p> <p>第4回 『指導』とは？「こどものトラブル」をどう考え対処するか(場面指導)</p> <p>第5回 「家庭との連携」・・・保護者の問題への対応</p> <p>第6回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究①Aグループ</p> <p>第7回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究②Bグループ</p> <p>第8回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究③Cグループ</p> <p>第9回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究④Dグループ</p> <p>第10回 現場の先生を招いての授業</p> <p>第11回 模擬授業・ロールプレイングと事後研究⑤Eグループ</p> <p>第12回 「こどもとあそび、飼育栽培活動や自然体験」①飼育栽培活動</p> <p>第13回 「こどもとあそび、飼育栽培活動や自然体験」②自然体験</p> <p>第14回 現場の課題と先生の使命</p> <p>第15回 まとめと自身の課題など</p>	
評価方法 (合計100%)	<p>1.授業の参加態度と授業後のミニレポート提出 50%</p> <p>2.模擬授業・集団討議、発表など 50%</p>	
失格条件	<p>1.出席が授業回数の3分の2に満たない場合</p> <p>2.担当日時の設定した発表を正当な理由なく行わなかった場合</p>	
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>予習(2時間)</p> <p>1.模擬授業やグループ討議、ロールプレイなどの指導案は、グループで協力して行うこと。事前にグループで予行をしておこう。</p> <p>2.ビオトープや部活・学生会やボランティアなど、大学内外の活動に積極的に参加し、総合的人間力を高めよう。</p> <p>復習(2時間)</p> <p>1.授業で紹介された参考図書・資料等を活用し、すすんで情報収集しよう。</p> <p>2.専用の「練習ノート」などを準備し、計画を立てて予習復習をしよう。</p>	
課題へのフィードバック	課題レポート、授業後のミニレポートは、授業の中でのグループ活動・集団討議や全体交流で活用する。	
教科書	指定しない	
著者名		
出版社		
参考書	授業で紹介します。	
その他	特になし	
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(木村)</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(前田)</p>	
科目生への開講	なし	

ナンバリング	CD209A01	期間	通年
授業科目名	保育・教育マネジメントA		
英訳科目名	Management Training in Childcare and Education A		
担当教員名	進藤 容子、馬場 義伸、前田 雅章、実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>「保育・教育マネジメントA～D」科目では、4年間を通し、「実践」を軸とした段階を追った学びを展開します。学びの基盤は本学の建学の精神「尙相敬愛」であり、各年次の学びの課題に即した交流を中心とした体験的な授業（活動）を通して、建学の精神の具現化（実践化）を図る共に、先生力として求められる専門性の高度化を図ります。</p> <p>第1段階にあたる「保育・教育マネジメントA」では、チームでミッションに取り組む活動、グループで文章表現に取り組む活動を通し、マネジメント力の基礎となる、「段取りができる力」と「自分の考えを伝える力」の習得をうながします。</p>		
到達目標	<p>①目標に向け、見通しをもって仲間と協働することができる。</p> <p>②表現力の基本の力として、文章を構想し、書く力をつけられる。</p> <p>③さまざまな人とのつながりの中で、自分自身の役割や態度について考えられる。</p> <p>④学科で取り組む「地域とのつながり合い実践」の諸活動に参加できる力を習得できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 前期ガイダンス 学科で取り組む「地域とのつながり合い実践」の紹介</p> <p>第2回 4年間の学びを見通す (1) 夢を現実にするための道筋</p> <p>第3回 4年間の学びを見通す (2) 自分自身の位置を知る</p> <p>第4回 後期ガイダンス ミッション・表現力演習の進め方</p> <p>第5回 ミッション (1) 作戦を練る</p> <p>第6回 ミッション (2) 試行する</p> <p>第7回 ミッション (3) 実践する</p> <p>第8回 ミッション (4) まとめる</p> <p>第9回 ミッション (5) 発表の順義</p> <p>第10回 ミッション (6) 発表する</p> <p>第11回 地域連携事業報告会 文章作成演習に向けて</p> <p>第12回 文章作成演習 (1) 自分を表現するとは</p> <p>第13回 文章作成演習 (2) 表現したいことを探る</p> <p>第14回 文章作成演習 (3) 作文作成 (1作目)</p> <p>第15回 文章作成演習 (4) 他者の作品鑑賞</p> <p>第16回 文章作成演習 (5) 作文作成 (2作目)</p> <p>第17回 文章作成演習 (6) 発表する</p> <p>第18回 1年の終わりに4年間の学びを見通す</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミッションへの取組姿勢。寄与度。(特に協働性) 25%</li> <li>・ ミッション報告書。 25%</li> <li>・ 文章作成演習への取組姿勢。(特に共感性) 25%</li> <li>・ 文章作成演習での作品。 25%</li> </ul>		
失格条件	出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>ミッションおよび表現活動については、授業外での取り組みがとても重要です。</p> <p>グループおよび個人での準備や振り返りが不可欠となりますので、次に示す時間は目安です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各実践に対する準備。(毎授業について2時間)</li> <li>・ 各実践に対する振り返り。課題への取り組み。(毎時間について2時間)</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現力演習では、作品に対し随時添削、アドバイスを行う。</li> <li>・ 各自のコメントを全体で共有し、教員がコメントする。</li> <li>・ 活動内容、提出物に対し、全体にコメントする。</li> </ul>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(馬場)</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(前田)</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD209A02	期間	集中
授業科目名	保育・教育マネジメントB		
英訳科目名	Management Training in Childcare and Education B		
担当教員名	中西 利恵、木村 久男、曲田 映世、進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>「保育・教育マネジメントA～D」科目では、4年間を通し、「実践」を軸とした段階を追った学びを展開します。学びの基盤は本学の建学の精神「尙相敬愛」であり、各年次の学びの課題に即した交流を中心とした体験的な授業（活動）を通して、建学の精神の具現化（実践化）を図る共に、先生力として求められる専門性の高度化を図ります。</p> <p>第2段階にあたる「保育・教育マネジメントB」では、「保育・教育マネジメントA」での学びを踏まえ、各種の学内プロジェクトの企画・運営に参画します。そして、「保育・教育マネジメントC・D」の学びの段階にある上級生をモデルとしながら、多様な世代との目的に合わせた交流計画、連携の実行を図れるよう実践力やマネジメント力の向上をめざします。多様な人々とのかかわり・つながりを通して、他者への共感力を高め、お互いに敬いあい慈しみあうことの尊さを知り、自己への信頼も高めましょう。</p> <p>具体的には、次の実践活動に参画し、第2段階の学びを展開します。</p> <p>①おはなし隊：住之江区と連携した「おはなしのへや（仮称）」プロジェクト  ②ピオトーブ隊：「相愛ピオトーブとつどいの里山」プロジェクト  ③みそ汁隊：「子ども食育（仮称）」プロジェクト  ④わくわく隊：「相愛子どもわくわくあそび広場」プロジェクト  ⑤その他、地域連携や社会貢献を目的とした事業や活動</p>		
到達目標	①学内や学外のさまざまな他者との出逢いを大切にし、交流を通して他者のこころに寄り添い共感できる。 ②多様な活動を通して、他者への信頼を高めると同時に、自己への信頼を高めることができる。 ③上級生をモデルにして、自己の学びの見通しをより明確にすることができる。 ④学年進行に伴い「周辺の」な位置から徐々に「中心的」な役割に気付ける。 ⑤物事に積極的に取り組む自主性、物事をやり遂げる持続力・責任感を身に付けることができる。 ⑥PDCAでの実施の重要性について知ることができる。		
授業計画	1. オリエンテーション：各種実践活動について知る 2. 2回目以降については、参画する実践活動（プロジェクト等）を決定し、1年間を通して各実践活動の計画に合わせて以下の具体的なプロセスを繰り返し展開する。 ①実践計画作成 ②実践準備 ③模擬実践（リハーサル） ④実践（本番） ⑤実践の振り返り：写真を用いたドキュメンテーションの活用 ⑥実践のまとめと報告・情報発信：ドキュメンテーションゾーンの活用		
評価方法 (合計100%)	授業や実践への取り組み状況（自主性・積極性・協働性） 50% 課題レポート 50%		
失格条件	企画準備（計画立案・リハーサル等）、実践（本番）、振り返りの活動を正当な理由なく欠席した場合 企画準備や実践を協働して行わなかった場合 担当教員全員が活動への参画に不適切だと判断した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①各実践に対し綿密な情報収集を行い、周到な準備をすること。（予習：13時間） ②さまざまな組織が企画する活動に積極的に参加すること。（予習&復習：3時間） ③実践の振り返りや成果の報告、情報の提供において、ていねいに作成すること。（復習：6時間）		
課題へのフィード バック	・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。 ・実践の取り組みに対して、ドキュメンテーションを活用しコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	参画活動数についてはオリエンテーション時に説明する。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD209B01	期間	集中
授業科目名	保育・教育マネジメントC		
英訳科目名	Management Training in Childcare and Education C		
担当教員名	中西 利恵、木村 久男、曲田 映世、進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>「保育・教育マネジメントA～D」科目では、4年間を通し、「実践」を軸とした段階を追った学びを展開します。学びの基盤は本学の建学の精神「尙相敬愛」であり、各年次の学びの課題に即した交流を中心とした体験的な授業（活動）を通して、建学の精神の具現化（実践化）を図る共に、先生力として求められる専門性の高度化を図ります。</p> <p>第2段階にあたる「保育・教育マネジメントB」では、「保育・教育マネジメントA」での学びを踏まえ、各種の学内プロジェクトの企画・運営に参画します。そして、「保育・教育マネジメントC・D」の学びの段階にある上級生をモデルとしながら、多様な世代との目的に合わせた交流計画、連携の実行を図れるよう実践力やマネジメント力の向上をめざします。多様な人々とのかかわり・つながりを通して、他者への共感力を高め、お互いに敬いあい慈しみあうことの尊さを知り、自己への信頼も高めましょう。</p> <p>具体的には、次の実践活動に参画し、第2段階の学びを展開します。</p> <p>①おはなし隊：住之江区と連携した「おはなしのへや（仮称）」プロジェクト  ②ピオトーブ隊：「相愛ピオトーブとつどいの里山」プロジェクト  ③みそ汁隊：「子ども食育（仮称）」プロジェクト  ④わくわく隊：「相愛子どもわくわくあそび広場」プロジェクト  ⑤その他、地域連携や社会貢献を目的とした事業や活動</p>		
到達目標	①学内や学外のさまざまな他者との出逢いを大切にし、交流を通して他者のこころに寄り添い共感できる。 ②多様な活動を通して、他者への信頼を高めると同時に、自己への信頼を高めることができる。 ③上級生をモデルにして、自己の学びの見通しをより明確にすることができる。 ④学年進行に伴い「周辺的」な位置からより「中心的」な役割を果たすようになっていくことができる。 ⑤物事に積極的に取り組む自主性、物事をやり遂げる持続力・責任感を身に付けることができる。 ⑥PDCAでの実施の具体的方法を考えることができる。		
授業計画	1. オリエンテーション：各種実践活動について知る 2. 2回目以降については、参画する実践活動（プロジェクト等）を決定し、1年間を通して各実践活動の計画に合わせて以下の具体的なプロセスを繰り返し展開する。 ①実践計画作成 ②実践準備 ③模擬実践（リハーサル） ④実践（本番） ⑤実践の振り返り：写真を用いたドキュメンテーションの活用 ⑥実践のまとめと報告・情報発信：ドキュメンテーションゾーンの活用		
評価方法 (合計100%)	授業や実践への取り組み状況（自主性・積極性・協働性） 50% 課題レポート 50%		
失格条件	企画準備（計画立案・リハーサル等）、実践（本番）、振り返りの活動を正当な理由なく欠席した場合 企画準備や実践を協働して行わなかった場合 担当教員全員が活動への参画に不適切だと判断した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①各実践に対し綿密な情報収集を行い、周到な準備をすること。（予習：13時間） ②さまざまな組織が企画する活動に積極的に参加すること。（予習&復習：3時間） ③実践の振り返りや成果の報告、情報の提供において、ていねいに作成すること。（復習：6時間）		
課題へのフィード バック	・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。 ・実践の取り組みに対して、ドキュメンテーションを活用しコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	参画活動数についてはオリエンテーション時に説明する。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）		
科目生への開講	なし		



ナンバリング		期間	集中
授業科目名	保育・教育マネジメントD		
英訳科目名	Management Training in Childcare and Education D		
担当教員名	中西 利恵、木村 久男、直島 正樹、馬場 義伸、前田 雅章、曲田 映世、進藤 容子、中井 清津子、実光 由里子、横島 三和子、松島 京、川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>「保育・教育マネジメントA～D」科目では、4年間を通し、「実践」を軸とした段階を追った学びを展開します。学びの基盤は本学の建学の精神「當相敬愛」であり、各年次の学びの課題に即した交流を中心とした体験的な授業（活動）を通して、建学の精神の具現化（実践化）を図る共に、先生力として求められる専門性の高度化を図ります。</p> <p>第2段階にあたる「保育・教育マネジメントB」では、「保育・教育マネジメントA」での学びを踏まえ、各種の学内プロジェクトの企画・運営に参画します。そして、「保育・教育マネジメントC・D」の学びの段階にある上級生をモデルとしながら、多様な世代との目的に合わせた交流計画、連携の実行を図れるよう実践力やマネジメント力の向上をめざします。多様な人々とのかかわり・つながりを通して、他者への共感力を高め、お互いに敬いあい慈しみあうことの尊さを知り、自己への信頼も高めましょう。</p> <p>具体的には、次の実践活動に参画し、第2段階の学びを展開します。</p> <p>①おはなし隊：住之江区と連携した「おはなしのへや（仮称）」プロジェクト  ②ピオトップ隊：「相愛ピオトップとつどいの里山」プロジェクト  ③みそ汁隊：「子ども食育（仮称）」プロジェクト  ④わくわく隊：「相愛子どもわくわくあそび広場」プロジェクト  ⑤その他、地域連携や社会貢献を目的とした事業や活動</p>		
到達目標	①学内や学外のさまざまな他者との出逢いを大切に、交流を通して他者のところに寄り添い共感できる。 ②多様な活動を通して、他者への信頼を高めると同時に、自己への信頼を高めることができる。 ③上級生をモデルにして、自己の学びの見通しをより明確にすることができる。 ④学年進行に伴い「周辺の」な位置から徐々に「中心的」な役割に気付ける。 ⑤物事に積極的に取り組む自主性、物事をやり遂げる持続力・責任感を身に付けることができる。 ⑥PDCAでの実施の重要性について知ることができる。		
授業計画	1. オリエンテーション：各種実践活動について知る 2. 2回目以降については、参画する実践活動（プロジェクト等）を決定し、1年間を通して各実践活動の計画に合わせて以下の具体的なプロセスを繰り返し展開する。 ①実践計画作成 ②実践準備 ③模擬実践（リハーサル） ④実践（本番） ⑤実践の振り返り：写真を用いたドキュメンテーションの活用 ⑥実践のまとめと報告・情報発信：ドキュメンテーションゾーンの活用		
評価方法 (合計100%)	授業や実践への取り組み状況（自主性・積極性・協働性） 50% 課題レポート 50%		
失格条件	企画準備（計画立案・リハーサル等）、実践（本番）、振り返りの活動を正当な理由なく欠席した場合 企画準備や実践を協働して行わなかった場合 担当教員全員が活動への参画に不適切だと判断した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①各実践に対し綿密な情報収集を行い、周到な準備をすること。（予習：13時間） ②さまざまな組織が企画する活動に積極的に参加すること。（予習&復習：3時間） ③実践の振り返りや成果の報告、情報の提供において、ていねいに作成すること。（復習：6時間）		
課題へのフィード バック	・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。 ・実践の取り組みに対して、ドキュメンテーションを活用しコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	参画活動数についてはオリエンテーション時に説明する。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210A01	期間	通年
授業科目名	保育所実習の指導		
英訳科目名	Guidance for Nursing Practice (Nursery)		
担当教員名	中西 利恵、曲田 映世		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	2年次から順次実施される保育実習(保育所実習、保育実習Ⅱ)に備え、それぞれの実習を円滑に進め、より高い効果をあげられるように事前指導を行う。まず、保育所での実習の意義・目的について理解する。そして、実習をとおして理論学習をより確実なものとし、児童との直接的なかかわりから応用力を高めていけるように、特に実習前、実習中の活動について学習し、自己理解力や自己洞察力を深める。保育士としての意識や基本的な態度(子どもの人権と最善の利益の考慮、守秘義務等)を学ぶとともに、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても理解を深め、自らの課題を明確にする。		
到達目標	2年次に実施する保育所実習への意欲や意識を高め、実習に向けて必要な知識や技能を習得することができる。実習を円滑に進めていくため知識・技能を習得し、実習に向けた学習内容や課題等を明確化することができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 本学保育実習の実施計画 第3回 保育所保育の概要 第4回 保育所保育士職の概要 第5回 実習事前指導(1): 保育所実習の目的と概要 第6回 実習事前指導(2): 実習の内容①(保育所理解) 第7回 実習事前指導(3): 実習の内容②(子ども理解) 第8回 実習事前指導(4): 実習の課題 第9回 実習事前指導(5): 依頼訪問ガイダンス 第10回 実習事前指導(6): 実習に際しての留意事項①(必要書類) 第11回 実習事前指導(7): 実習に際しての留意事項②(マナー) 第12回 実習事前指導(8): 指導計画と実践①(計画を立てる) 第13回 実習事前指導(9): 指導計画と実践②(実践する) 第14回 実習事前指導(10): 実習施設による指導 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	筆記試験	70%	
	提出物(作品や課題レポートなど)	20%	
	授業への参加態度	10%	
失格条件	1.原則として欠席は認めない。やむを得ない事情(忌引、病気等)の場合はそれを証明するものを本授業用の欠席届と一緒に提出すること。 2.欠席が4回以上になった場合(20分を越える遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。) 3.授業内で指示した課題や提出物が期限までに提出されない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1.授業内で指導された方法により教材研究を行うこと。(予習:4時間) 2.保育所実習本番に向け、実習記録や指導計画を作成準備をすること。(復習&予習:8時間) 3.授業内での配布資料や紹介文献を参考に、文章表現力を高めるトレーニングをすること(予習:4時間) 4.授業内での指示された課題についてレポートを作成すること。(復習:4時間) 5.参考図書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること。(復習:2時間) その他、日常的に意識し、取り組むこととして、 ①課外での活動にも主体的・積極的に取り組み、協働性を高めること。 ②日頃から省察(ふりかえり)を心がけること。		
課題へのフィードバック	・試験終了後に、全体に向けてコメントします。 ・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・保育実践に対しては、全体に対してコメントし、適宜個別でコメントします。		
教科書	①「保育所保育指針解説書」、厚生労働省、フレーベル館、200円 ②「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、162円 ③「保育所実習・保育実習Ⅱ実施要項」(「保育実習自己管理用ファイル」)、相愛大学人間発達学部子ども発達学科(授業時に配布) ※①と②は1年生次に全員購入の指示あり。指示に従って購入すること。		
著者名	①厚生労働省②内閣府・文部科学省・厚生労働省③相愛大学人間発達学部子ども発達学科		
出版社	①フレーベル館②フレーベル館		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210B01	期間	集中
授業科目名	保育所実習		
英訳科目名			
担当教員名	中西 利恵、曲田 映世、松島 京		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>保育所実習は、既習の教科の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている。</p> <p>実習内容の概要は、保育所の生活に参加し、保育所の役割や機能を具体的に理解する。また、子どもの遊びやその他の活動をよく観察し、どのように活動し適応しているかを熟知するとともに、子どもとの直接的なかかわりを通して子どもへの理解力を高める。そして、観察や参加から得た情報を記録することにより、個別的・集団的な把握に努める。そして、保育の計画や記録、自己評価について具体的に学び、専門職としての保育士の役割や職業倫理の詳細について経験的に理解し学習する。</p>		
到達目標	<p>① 保育所の役割や機能を具体的に理解することができる。</p> <p>② 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる。</p> <p>③ 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解できる。</p> <p>④ 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解できる。</p> <p>⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できる。</p>		
授業計画	<p>保育所実習の進行状況は、概ね以下の内容が段階的にまた同時に展開される。ただし、個々の学生の技能や意欲等により進行状況は柔軟性をもつ。</p> <p>第1回 「観察」という実習</p> <p>(1) 保育所の物的・人的環境を見学し、保育所の実態を全面的に把握する。</p> <p>(2) 子どもの園生活を観察し、子どもへの理解力を高める。</p> <p>(3) 保育士の子どもへのかかわりを観察し、援助について理解を深める。</p> <p>第2回 実習への「補助的参加」</p> <p>(1) 保育のための諸準備や環境の構成</p> <p>(2) 生活指導の補助</p> <p>(3) 「自由遊び」的活動への参加</p> <p>(4) 給食サービスなどの補助的作業</p> <p>(5) その他補助的な作業</p> <p>第3回 部分的に指導計画を立案し保育を担当する実習</p> <p>(1) 比較的短時間の活動の場合</p> <p>(2) 比較的長時間の活動の場合</p> <p>第4回 総合的に一日の保育を担当する実習</p> <p>第5回 省察・自己評価：日々の記録に基づき実施</p> <p>第6回 1～5回に関する記録の作成</p> <p>第7回 1～6回を通して「保育所の役割と機能」「子ども理解」「保育内容・保育環境」「保育の計画・観察・記録」「専門職としての保育士の役割と職業倫理」への理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	実習受け入れ保育所の評価	60%	
	実習の記録や報告等	40%	
失格条件	<p>(1)実習期間が不足の場合（10日間未満もしくは80時間未満の場合）</p> <p>(2)提出物が期限を守って提出されなかった場合。</p> <p>(3)実習中等における態度が、実習生としてふさわしくないと判断された場合。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>学外実習なので予習・復習時間を規程しないが、実習事前事後指導内容と以下の点について、全体の予習復習時間のうち、おおむね予習（実習前）に3分の2、復習（実習後）に3分の1の時間をかけること。</p> <p>①日頃から健康管理に留意すること。</p> <p>②日頃から自己管理・自己責任を徹底させ、実習生も「先生」と呼ばれるという自覚をもつこと。</p> <p>③日頃から積極的な取り組みを実践し、積極性を身につけること。</p> <p>④具体的な教材を最低5種類以上は用意すること。</p> <p>⑤部分実習の指導計画を最低3種類以上準備すること。</p> <p>⑥日頃から記録をとる（文章化する）トレーニングを行うこと。</p> <p>⑦日頃から課題意識をもち、ものごとに取り組むこと。</p>		
課題へのフィードバック	<p>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</p> <p>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</p> <p>・実習の取り組みに対しては、個別にコメントします。</p>		
教科書	<p>①「保育所実習・保育実習Ⅱ実施要項」（「保育実習自己管理用ファイル」）</p> <p>②「新保育ライブラリ 保育所実習（3版第1刷）」1,785円</p> <p>③「保育所保育指針解説書」</p> <p>④「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p>		
著者名	<p>①相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ②民秋言・安藤和彦・米谷光弘・中西利恵編著③厚生労働省④内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>		
出版社	<p>②北大書房③④フレーベル館</p>		
参考書	<p>保育所実習にそなえて、各自、保育活動の内容に関連した参考図書を準備し、研究すること。詳細は、授業内で指示。</p>		
その他	<p>大学側の実習に向けての指導および実習後の資格取得に至るまでの指導は、継続的に実施されます。欠席することなく、必ず指導にしたがい進めてください。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210B02	期間	通年
授業科目名	施設実習の指導		
英訳科目名	Guidance for Nursing Practice (Welfare Facility)		
担当教員名	直島 正樹、杉山 宗尚、曲田 映世		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	施設実習を円滑に進めていくための知識・技術を得し、学習内容・課題を明確化する。事前学習では、施設・利用者への理解を深め、保育士の役割を理解し、実習での課題を明らかにする。また、実習に向けて具体的な準備を行う。事後学習では、実習の経過や課題の達成度を確認し、実習で経験したこと、その中で考えたことを討議・共有し、自己への気づきを深める。		
到達目標	①施設実習の意義・目的を理解することができる。 ②施設実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設における子ども（利用者）の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。 ④実習の計画、実践、観察、記録等の方法や内容について具体的に理解することができる。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（施設実習及び施設実習の指導の概要・計画） 第2回 施設実習の意義・目的、施設の種別等 第3回 実習上の留意点（マナー等） 第4回 施設実習の内容と実際①（実習の様子を映像から学ぶ） 第5回 施設実習の内容と実際②（施設・子ども（利用者）の理解） 第6回 施設実習の内容と実際③（子ども（利用者）の観察方法・コミュニケーション） 第7回 現場職員（経験者）による講義 第8回 施設保育士の役割 第9回 事前訪問について 第10回 実習記録・計画について①（文章作成の基本事項等） 第11回 実習記録・計画について②（実習記録・計画作成の留意点等） 第12回 先輩による体験談 第13回 実習直前指導（実習課題の明確化等） 第14回 事後学習①（実習の振り返り） 第15回 事後学習②（実習報告会・まとめ） ＊学生によって実習時期が異なるため、柔軟性を持って進める。別途、必要に応じて実習先別もしくは個別指導を行う場合もある。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（50%）、課題の内容・提出状況等（50%）を含め、積極的に取り組んだかどうかを総合的に評価する。		
失格条件	原則として欠席は認められない。すべての授業に出席すること。 欠席回数が4回以上となった場合は失格とする。20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。 その他、本学が指定する実習期間をすべて満たさなかった場合等も、失格となることがある。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示した課題には必ず期限までに取り組み、提出すること。 毎回の授業で学んだ内容を自身で振り返り、教科書等も活用しながらポイント・感じたことをノートにまとめること（予習時間2時間・復習時間2時間）（提出については別途指示する）。 なお、万が一欠席した場合は、担当教員が指示する課題等に取り組み、期日までに提出すること。		
課題へのフィードバック	授業ノートをはじめ、提出課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメント・指導する。		
教科書	①2019年度 施設実習・保育実習Ⅲ 実施要項（「施設実習自己管理用ファイル」） ②『本当に知りたいことがわかる！保育所・施設実習ハンドブック』		
著者名	①相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ②小原敏郎・直島正樹・橋本好市・三浦主博（編著）		
出版社	②ミネルヴァ書房		
参考書	適宜紹介する。		
その他	①施設実習に直接つながる授業であるため、私語等は慎み、課題にも積極的に取り組むこと。 本授業における出席状況、態度、課題の取り組み内容・提出状況等が好ましくない場合、在学中の施設実習に取り組めない可能性がある。 ②必要に応じてプリント類を配布する。また、DVD教材等も使用する。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島） 児童養護施設職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（杉山）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210B03	期間	集中
授業科目名	施設実習		
英訳科目名	Nursing Practice (Welfare Facility)		
担当教員名	直島 正樹、曲田 映世		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	保育所以外の児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、障害児入所施設等）での実習に取り組む。それを通じて、子ども（利用者）への理解を深め、施設の機能・役割とそこでの保育士の職務について学び、養護の知識や技術を基礎とした総合的な実践力を養うことを目的とする。		
到達目標	①大学で学んだ理論を実際の現場において応用し実践することで、専門職としての資質を養成できる。 ②児童福祉施設の機能・役割を理解できる。 ③児童福祉施設における専門職や関係する職種の職務について、体験を通して理解し、その職務内容と役割の重要性及び支援・業務のあり方を認識できる。 ④子ども（利用者）を理解し、生活全体を通して子ども（利用者）のありのままの姿と関わりを学び、理解できる。 ⑤専門職としての資質の向上を図り、専門職に求められる専門性・人間性・人間観・価値観（子ども観・保育観・福祉観・倫理等）を養成できる。		
授業計画	施設実習の進行状況は、概ね以下の項目が段階的にまた同時に展開される。ただし、個々の学生の技能や意欲により進行状況は柔軟性を持つ。  1. 施設の役割と機能 ①施設の生活と一日の流れ ②施設の役割と機能  2. 子ども（利用者）理解 ①子ども（利用者）の観察とその記録 ②個々の状態に応じた支援・かかわり  3. 養護内容・生活環境 ①計画に基づく活動や支援 ②子ども（利用者）の心身の状態に応じた対応 ③子ども（利用者）の活動と生活の環境 ④健康管理、安全対策の理解  4. 計画と記録 ①支援計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価  5. 専門職としての保育士の役割と倫理 ①施設保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③施設保育士の役割と職業倫理		
評価方法 (合計100%)	①実習施設による評価（50%） ②実習日誌・報告書等（50%）		
失格条件	以下のいずれかにあてはまる場合は失格となる。 ①「施設実習の指導」の評価が「不可」もしくは「失格」となった場合 ②授業（「施設実習の指導」）や実習中等における姿勢・態度が、学生としてふさわしくないと判断された場合 ③実習期間が不足の場合（10日間（80時間）未満の場合） ④提出物が期限を守って提出されなかった場合  ※実習期間中の欠席は原則として認めないが、やむを得ない事情(急引、病気等)で欠席した場合は、必ず欠席分の補充を行うこととする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	学外実習であるため、特に予習・復習の時間を定めない。実習前事後指導（施設実習の指導および施設別指導）での学習内容と以下の点について、全体の予習復習時間のうち、おおむね予習（実習前）に3分の2、復習（実習後）に3分の1の時間をかけること。  ①実習報告書（過去に実習に取り組んで学生が作成したもの）を読むこと。 ②関連する授業（社会福祉、障害児保育、社会的養護等）での学習内容について振り返ること（例：配布資料や教科書等を読み、疑問点を調べる）。 ③参考書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること（例：日誌の書き方、子どもとの遊び等）。 ④施設関連の新聞記事等を読んで内容を簡潔にまとめ、不明な語句等を調べること。  ※その他、日頃から健康管理に留意するとともに、「何事も勉強」と考え、より一層主体的・積極的に学習することを意識して欲しい。		
課題へのフィードバック	実習日誌等について、必要に応じて個別もしくは全体にコメント・指導する。		
教科書	①2019年度 施設実習・保育実習Ⅲ 実施要項（「施設実習自己管理用ファイル」） ②「本当に知りたいことがわかる！保育所・施設実習ハンドブック」		
著者名	①相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ②小原敏郎・直島正樹・橋本好市・三浦主博（編著）		
出版社	②ミネルヴァ書房		
参考書	適宜紹介する。		
その他	特になし		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210B04	期間	通年
授業科目名	保育実習Ⅱの指導		
英訳科目名			
担当教員名	曲田 映世、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	保育所実習および保育実習Ⅱに備え、それぞれの実習を円滑に進め、より高い実習効果があげられるように事前指導を行うとともに、実習終了後に事後指導として実習総括・評価を行い、実習体験から学んだ保育観、児童観、保育者観を多面的に検討して今後の学習目標を明らかにする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導において、保育実習の意義を自覚し、実習に対する意欲を高めるとともに、保育所習に臨めるようにするための基礎的・予備的知識や技能を習得できる。</li> <li>・実習終了後に事後指導として実習総括・評価を行い、今後の学習課題を明確にするとともに、保育士としての意識と職務に対する責任感を培うことができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習の意義・目的・方法 第2回 実習記録の意義、模擬保育 第3回 実習の心得、実習に際しての留意事項、模擬保育 第4回 実習記録について①（文章作成の基本事項等） 第5回 実習記録について②（実習記録・計画作成の留意点等） 第6回 保育所実習 直前指導①（事前訪問ガイダンス） 第7回 保育所実習 直前指導②（先輩の実習体験から学ぶ） 第8回 保育所実習 直前指導③（評価基準確認・礼状の書き方等） 第9回 保育所実習 事後指導①（実習の反省・自己評価等） 第10回 保育所実習 事後指導②（実習報告会） 第11回 実習の総括と課題の明確化 第12回 指導計画の書き方と実践 第13回 保育実習Ⅱ 直前指導①（事前訪問ガイダンス、礼状の書き方等） 第14回 保育実習Ⅱ 直前指導②（指導計画の実践①模擬保育Aグループ） 第15回 保育実習Ⅱ 直前指導③（指導計画の実践②模擬保育Bグループ） *学生によって実習時期が異なるため、柔軟性を持って進める。別途、必要に応じて実習先別もしくは個別指導を行う場合もある。		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加態度 40%</li> <li>・課題レポート 40%</li> <li>・指導計画の作成 20%</li> </ul>		
失格条件	（1）原則として欠席は認めない。やむを得ない事情(引、病気等)の場合はそれを証明するものを本授業用の欠席届と一緒に提出すること。 （2）欠席回数が4回以上になった場合。20分を超える遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は2回で1回の欠席とする。 （3）授業内で指示した課題や提出物が期限までに提出されない場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1.授業内で学んだ内容をふり返し、配付資料や教科書等も活用しながらポイント・感じたことをノートにまとめること（復習3時間）。 2.実習本番に向け、実習記録や指導計画を作成し、準備をすること。（復習&予習：8時間） 3.次回の授業内容について教科書や配布資料を読んでおくこと。（予習：1時間） 4.授業内での指示された課題についてレポートを作成すること。（復習：4時間） 5.参考図書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること。（復習：2時間） その他、日常的に意識し、取り組むこととして、 ①健康管理や自己管理、期限の厳守、報告・連絡・相談を徹底すること。 ②課外での活動にも主体的・積極的に取り組み、協働性を高めること。 ③日頃から省察（ふりかえり）を心がけること。		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート提出後、個別もしくは全体に向けコメントします。</li> <li>・指導計画提出後、コメントをつけて個別に返却します。</li> <li>・実技、実習の取り組みに対して、必要に応じて個別もしくは全体に向けコメントします。</li> </ul>		
教科書	①「新保育ライブラリ 保育所実習」 ②「保育所保育指針解説書」 ③「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 ④「保育所実習・保育実習Ⅱ実施要項」（「保育実習自己管理用ファイル」）、相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ※①～③は1年生時に全員購入している。		
著者名	①民秋言、米谷光弘、中西利恵、安藤和彦;②厚生労働省;③内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①北大路書房;②フレーベル館;③フレーベル館		
参考書	保育所実習及び保育実習Ⅱにそなえて、各自、保育活動に関連した参考図書を準備し、研究すること。詳細は、授業内で指示する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210B05	期間	集中
授業科目名	保育実習Ⅱ		
英訳科目名	Nursing Practice II		
担当教員名	曲田 映世、中西 利恵、松島 京		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>保育所における実習の第2段階として、前回の実習の見直しから設定した自己の課題に取り組む。具体的には保育所実習をふまえ、保育全般に参加し、保育技術の習得に努める。また、子どもの個人差についての理解や発達の遅れ、生活環境にともなう子どものニーズの理解を深め、その対応について学ぶ。保育の実践力を高めるために、保育についての周到な準備を行い、一日実習や部分実習の指導計画を作成すると同時に、環境の構成に責任をもって取り組む。さらに保育所が担う通常保育以外の役割として求められている、地域子育て支援活動の実際についても可能な範囲で具体的に学ぶ。</p>		
到達目標	<p>習得した教科全体の知識や技能、「保育所実習」での学びを基礎にし、〈援助者〉としての使命感をもち、その役割が果たせるようになる。さらに、子どもの発達への理解と保育所のおかれている今日的現状についての認識を高めることができる。</p>		
授業計画	<p>保育実習Ⅱの進行状況は、概ね以下の内容が段階的にまた同時に展開される。ただし、個々の学生の技能や意欲等により、進行状況は柔軟性をもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「保育所実習」の見直しから設定した自己課題に取り組む。       <ol style="list-style-type: none"> <li>各自、設定した大課題と具体的な課題について、状況を判断しながら積極的に取り組む。 主な課題分野:(a)子どもとのかかわり(援助)について (b)子どもの見方・とらえ方について(c)実習記録・指導計画について (d)実習姿勢・態度について (e)保育技術について (f)その他</li> </ol> </li> <li>ていねいな観察と積極的な参加を試みる。       <ol style="list-style-type: none"> <li>「保育所実習」の経験を踏まえて、ていねいな観察を試みる。 ②補助的作業への積極的な参加③「自由遊び」的活動への積極的な参加</li> </ol> </li> <li>子どもの理解を深める。特に、個人差や発達の遅れ、生活環境にともなう子どものニーズに対する理解を深める。</li> <li>部分的に指導計画を作成し保育を担当する。       <ol style="list-style-type: none"> <li>比較的短時間の活動への頻繁な取り組み ②比較的長時間の活動への取り組み</li> </ol> </li> <li>総合的に一日の保育を担当する。</li> <li>反省・評価：日々の実習におよび全体に対して実施する。</li> <li>16に関する記録を作成する。</li> </ol>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習受け入れ保育所の評価 70%</li> <li>・実習の記録や報告等 30%</li> </ul>		
失格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)実習期間が不足の場合(10日間未満もしくは80時間未満の場合)</li> <li>(2)提出物が期限を守って提出されなかった場合</li> <li>(3)実習中等における態度が、実習生としてふさわしくないと判断された場合</li> </ol>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>学外実習なので予習・復習時間を規程しないが、実習事前事後指導内容と以下の点について、全体の予習復習時間のうち、おおむね予習(実習前)に3分の2、復習(実習後)に3分の1の時間をかけること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調管理に万全を期すること。</li> <li>・清掃・洗濯・整理整頓等の生活知識技能が駆使できるように日々の生活態度を整えておくこと。</li> <li>・身近な生活の中で季節のうた・遊び・絵本などに積極的に関わり、保育中の実践に結び付けられるようにしておくこと。</li> <li>・責任実習などが行えるように指導計画を事前に準備しておくこと。</li> </ul>		
課題へのフィードバック	実習担当者から実習の取り組みに対して個別にコメントします。		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①保育所実習・保育実習Ⅱ 実施要項(「保育実習自己管理ファイル」)</li> <li>②新保育ライブラリー・保育の現場を知る「保育所実習」</li> <li>③厚生労働省「保育所保育指針解説」</li> <li>④「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」</li> </ol>		
著者名	①相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ②民秋言 他編 ③厚生労働省 ④内閣府、文部科学省、厚生労働省		
出版社	①なし ②北大路書房 ③フレーベル館 ④フレーベル館		
参考書	各自の課題に合わせ、参考図書を準備し研究すること。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210B06	期間	通年
授業科目名	保育実習Ⅲの指導		
英訳科目名	Guidance for Nursing Practice Ⅲ		
担当教員名	直島 正樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	児童福祉施設(保育所以外)その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態に触れて、子ども(利用者)の家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		
到達目標	①施設実習(2回目)の意義・目的を理解することができる。 ②実習や関連科目の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ③保育の観察、記録等を踏まえた保育の改善について、事例等を通して学び、理解することができる。 ④施設保育士の専門性と職業倫理を理解することができる。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。		
授業計画	第1回 保育実習Ⅲの概要と実施計画 第2回 保育実習Ⅲに取り組む上での留意点 第3回 児童福祉施設の機能・役割 第4回 施設保育士の仕事・役割 第5回 施設実習の振り返り①(個人での作業) 第6回 施設実習の振り返り②(報告会) 第7回 保育実習Ⅲの内容と実際①(事例検討) 第8回 保育実習Ⅲの内容と実際②(DVDから学ぶ) 第9回 観察の仕方・子ども(利用者)とのコミュニケーション 第10回 保育士としての職業倫理の理解 第11回 事前訪問の準備 第12回 実習記録・計画の書き方①(文章作成上の基本) 第13回 実習記録・計画の書き方②(実習日誌・計画の作成に向けて) 第14回 実習課題の明確化 第15回 まとめ(今後の実習につなげるために) *学生によって実習時期が異なるため、柔軟性を持って進める。別途、実習先別もしくは個別指導を行う場合もある。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(50%)、課題の内容・提出状況等(50%)を含め、積極的に取り組んだかどうかを総合的に評価する。その際、実習施設からの評価も考慮する。		
失格条件	原則として欠席は認められない。すべての授業に出席すること。 欠席回数が4回以上になった場合は失格とする。20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。 その他、本学が指定する実習期間をすべて満たさなかった場合等も、失格となることがある。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示した課題は必ず期限までに取り組み、提出すること。また、学んだ内容を自身で振り返り、教科書等を活用しながらポイントをノートにまとめること(予習時間2時間・復習時間2時間)。 なお、万が一欠席した場合は、該当する授業のプリント類を友人から借り、話を聞いて、内容をまとめること(次回の授業までに提出)。その他、別途教員が提示する課題に取り組むこと。		
課題へのフィードバック	提出課題、作成した発表用レジュメ等については、必要に応じて個別もしくは全体にコメント・指導する。		
教科書	①2019年度 施設実習・保育実習Ⅲ 実施要項(「施設実習自己管理用ファイル」) ②『本当に知りたいことがわかる!保育所・施設実習ハンドブック』		
著者名	①相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ②小原敏郎・直島正樹・橋本好市・三浦主博(編著)		
出版社	②ミネルヴァ書房		
参考書	適宜紹介する。		
その他	①施設実習に直接つながる授業であるため、私語等は慎み、課題にも積極的に取り組むこと。 本授業における出席状況、態度等が好ましくない場合、在学中の保育実習Ⅲに取り組めない可能性がある。 ②「施設実習の指導」の教科書と同じものを使用する。その他、必要に応じてプリント類を配布する。また、DVD教材等も使用する。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	CD210B07	期間	集中
授業科目名	保育実習Ⅲ		
英訳科目名	Nursing Practice Ⅲ		
担当教員名	直島 正樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	児童福祉施設(保育所以外) その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態に触れて、子ども(利用者)の家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		
到達目標	①児童福祉施設(保育所以外)の機能・役割について、実践を通して理解を深めることができる。 ②施設における支援の実際を理解し、施設保育士に必要な知識、技術、判断力を養うことができる。 ③施設保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解できる。 ④保育士としての自己の課題を明確化できる。		
授業計画	施設実習の進行状況は、概ね以下の項目が段階的にまた同時に展開される。 ただし、個々の学生の技能や意欲等により進行状況は柔軟性を持つ。  ①養護全般に参加し、養護技術を習得する。 ②子ども(利用者)の個人差について理解し、対応方法の習得に努める。特に、発達の遅れや生活環境の変化に伴う子ども、利用者のニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ③援助計画を立案し、実践する。 ④子ども(利用者)の家族とのコミュニケーション方法について具体的に習得する。 ⑤地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ⑥子ども(利用者)の最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ⑦保育士としての職業倫理を理解する。 ⑧児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。		
評価方法 (合計100%)	①実習施設による評価(50%) ②実習日誌・報告書等(50%)		
失格条件	以下のいずれかにあてはまる場合は失格となる。 ①「保育実習Ⅲの指導」の評価が「不可」もしくは「失格」となった場合 ②授業(「保育実習Ⅲの指導」)や実習中等における姿勢・態度が、学生としてふさわしくないと判断された場合 ③実習期間が不足の場合(10日間(80時間)未満の場合) ④提出物が期限を守って提出されなかった場合  ※実習期間中の欠席は原則として認めないが、やむを得ない事情(忌引、病気等)で欠席した場合は、必ず欠席分の補充を行うこととする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	学外実習であるため、特に予習・復習の時間を定めない。実習前事後指導(施設実習の指導および施設別指導)での学習内容と以下の点について、全体の予習復習時間のうち、おおむね予習(実習前)に3分の2、復習(実習後)に3分の1の時間をかけること。  ①実習報告書(過去に実習に取り組んで学生が作成したもの)を読むこと。 ②関連する授業(社会福祉、障害児保育、社会的養護等)での学習内容について振り返ること(例:配布資料や教科書等を読み、疑問点を調べる)。 ③参考書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること(例:日誌の書き方、子どもとの遊び等)。 ④施設関連の新聞記事等を読んで内容を簡潔にまとめ、不明な語句等を調べること。 *①～④は、「施設実習」での学習内容を踏まえた上で行うこと。  ※その他、日頃から健康管理に留意するとともに、「何事も勉強」と考え、より一層主体的・積極的に学習することを意識して欲しい。		
課題へのフィードバック	実習日誌等について、必要に応じて個別もしくは全体にコメント・指導する。		
教科書	①2019年度 施設実習・保育実習Ⅲ 実施要項(「施設実習自己管理用ファイル」) ②『本当に知りたいことがわかる!保育所・施設実習ハンドブック』		
著者名	①相愛大学人間発達学部子ども発達学科 ②小原敏郎・直島正樹・橋本好市・三浦主博(編著)		
出版社	②ミネルヴァ書房		
参考書	適宜紹介する。		
その他	特になし		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C01	期間	通年
授業科目名	教育実習の指導（事前事後指導）（幼）		
英訳科目名	Guidance for Teaching Practice		
担当教員名	中西 利恵、曲田 映世、中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	幼稚園での教育実習を円滑に進め、より高い効果をあげられるように事前・事後指導を行う。具体的には、実習をとおして理論学習をより確実なものとし、幼稚園児との直接的なかかわりから応用力を高めていけるように、実習に必要な知識や技能、心構えなどについて学ぶ。そして、幼稚園の実情をふまえた実学的な内容（実習記録の書き方、指導計画の作成方法、子どもへの援助方法など）について実践的に学習する。さらに、幼稚園教諭として求められる専門性全般について学び、先生力を高めるための学習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育実習の目的や意義を理解し、実習に必要な知識や技能、心構えを身につけることができる。</li> <li>2.幼稚園教諭としての役割や職責についての理解を深めて実習に備えることができる。</li> <li>3.実習記録の書き方や指導計画の作成方法を身につけることができる。</li> <li>4.子ども理解の仕方などの実際的な事項について学習し、適切な対応や援助のあり方を知ることができる。</li> <li>5.専門性を高め、幼稚園教諭に必要な先生力を養うことができる。</li> </ol>		
授業計画	第1回 オリエンテーション、希望調査ガイダンス 第2回 先生力育成① 幼稚園における行事について 第3回 依頼訪問ガイダンス 第4回 先生力育成② 専門性の理解 第5回 先生力育成③ 記録（幼稚園の一日の流れ） 第6回 先生力育成④ 記録（実習記録・計画作成の留意点等） 第7回 先生力育成⑤ 記録（「観る」「録る」力の育成） 第8回 先生力育成⑥ 「おもしろスキルアップ講座」-プロから学ぶ人形劇あそび- 第9回 先生力育成⑦ 幼児理解 第10回 先生力育成⑧ あそび理解 第11回 先生力育成⑨ 模擬保育Aグループ 第12回 先生力育成⑩ 模擬保育Bグループ 第13回 先生力育成⑪ 模擬保育Cグループ 第14回 先生力育成⑫ 模擬保育ふりかえり 第15回 先生力育成⑬ 実習報告会		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度、課題や実践への取組状況等	70%	
	提出・作成物（実習記録、指導計画等）	30%	
失格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（忌引、病気等）の場合はそれを証明するものを提出すること。</li> <li>2.欠席が4回以上になった場合 (20分を越える遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。)</li> <li>3.担当日時の決定している発表・実践を正当な理由なく行わなかった場合</li> <li>4.授業内で指示した課題や提出物が期限までに提出されない場合</li> </ol>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業内で指導された方法により教材研究を行うこと。（予習：4時間）</li> <li>2.教育実習本番に向け、実習記録や指導計画を作成準備をすること。（復習＆予習：8時間）</li> <li>3.授業内での配布資料や紹介文献を参考に、文章表現力を高めるトレーニングをすること（予習：4時間）</li> <li>4.授業内での指示された課題についてレポートを作成すること。（復習：4時間）</li> <li>5.参考図書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること。（復習：2時間）</li> </ol>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・実践に対しては、グループ及び全体に対してコメントします。</li> </ul>		
教科書	①「幼稚園教育要領解説」 205円 ②「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 162円 ③「指導計画の作成と保育の展開」〈平成25年7月改訂〉（幼稚園教育指導資料第1集）270円 ※①と②は1年次に全員購入の指示あり。		
著者名	①文部科学省 ②内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①～③すべてフレーベル館		
参考書			
その他	特になし		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C01	期間	通年
授業科目名	教育実習の指導（事前事後指導）（小）		
英訳科目名	Guidance for Teaching Practice		
担当教員名	木村 久男、馬場 義伸、前田 雅章、横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>事前指導では、教育実習の目的や意義を理解し、実習に必要な知識や技能・心構えなどについて学び、小学校教員の役割や職責についての理解を深め、実習に備える。</p> <p>また、実習記録の書き方や指導案の作成方法、学習指導や生徒指導と子ども理解など、教育実習に備えて実際的な事項について学習する。特に、事例研究や模擬授業を通してより実践的な力量を高める。</p> <p>事後指導では、実習の反省や今後の学習課題についての検討と交流を通して、自らの課題をつかみ「先生力」の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>1.教育実習の目的や意義を理解し、実習に必要な知識や技能、心構えを身につけられる。</p> <p>2.小学校教員の役割や職責についての理解を深めて実習に備えることができる。</p> <p>3.実習記録の書き方や指導案の作成方法、授業や学習指導法を身につけられる。</p> <p>4.生徒指導や子ども理解など、学校現場で必要な実際的な事項について学習し、適切な対応や指導の在り方を学ぶことができる。</p> <p>5.事後指導では、実習の反省を通して、教員としての資質能力を高めるための課題をつかむことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 教育実習ガイダンス（事前訪問）および、「実習の目的と意義」「小学校教員の役割と職責」</p> <p>第2回 前期小学校教育実習直前指導（実習の心得と実習記録の記入について）</p> <p>第3回 実習直前模擬授業①指導教員との指導案作成面談日程等。</p> <p>第4回 実習直前模擬授業②実習校の子どもの実態に応じた指導案の作成</p> <p>第5回 実習直前模擬授業③教材研究と指導案</p> <p>第6回 前期実習報告会</p> <p>第7回 後期小学校教育実習直前指導（実習の心得と実習記録の記入について）</p> <p>第8回 先生力育成・実習研究授業発表・交流①子ども理解と授業</p> <p>第9回 先生力育成・実習研究授業発表・交流②教職員協同の教材研究と指導案作成</p> <p>第10回 先生力育成・実習研究授業発表・交流③子どもを惹きつける授業準備物、掲示物の工夫</p> <p>第11回 先生力育成・実習研究授業発表・交流④グループ活動が生きる授業</p> <p>第12回 後期実習報告会</p> <p>第13回 先生力育成・実習研究授業発表・交流⑤ITを活用した授業</p> <p>第14回 先生力育成・実習研究授業発表・交流⑥「対話的で深い学び」の探求</p> <p>第15回 まとめ「後輩に伝えよう・実習報告会」</p>		
評価方法 （合計100%）	授業への参加態度、課題レポート、発表等。	80%	
	模擬授業・指導案作成	20%	
失格条件	<p>1.教育実習の指導をはじめ、教職関連科目は全出席を前提とするが、出席回数が3分の2に満たない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。）</p> <p>2.課題レポートを提出しなかった場合</p> <p>3.担当日時決定した発表を正当な理由なく行わなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>1.模擬授業の指導案は、担当教員の指導を受けて作成し、予行をしておこう。</p> <p>2.授業で指導された内容は、実習に行く前から準備して、万全の態勢で教育実習に臨むようにしよう。</p> <p>3.この科目は、模擬授業などの事前準備と事後指導を受けての復習を特に重視する。参考図書・資料等を活用し、教材研究を入念に行おう。</p> <p>4.今日の教育や子どもの問題に関心を持ち、積極的に情報収集して、教育実習での学びが深くなるように準備しよう。（予習2時間・復習2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>模擬授業や実習発表の交流などに関する感想や評価の交流を授業内やコメント集などを通してフィードバックしていく。模擬授業・実習の準備段階や実施・終了後は、面談を行って先生力を高める。</p>		
教科書	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C01	期間	通年
授業科目名	教育実習の指導（事前事後指導）（幼）		
英訳科目名	Guidance for Teaching Practice		
担当教員名	中西 利恵、曲田 映世、中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	幼稚園での教育実習を円滑に進め、より高い効果をあげられるように事前・事後指導を行う。具体的には、実習をとおして理論学習をより確実なものとし、幼稚園児との直接的なかかわりから応用力を高めていけるように、実習に必要な知識や技能、心構えなどについて学ぶ。そして、幼稚園の実情をふまえた実学的な内容（実習記録の書き方、指導計画の作成方法、子どもへの援助方法など）について実践的に学習する。さらに、幼稚園教諭として求められる専門性全般について学び、先生力を高めるための学習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育実習の目的や意義を理解し、実習に必要な知識や技能、心構えを身につけることができる。</li> <li>2.幼稚園教諭としての役割や職責についての理解を深めて実習に備えることができる。</li> <li>3.実習記録の書き方や指導計画の作成方法を身につけることができる。</li> <li>4.子ども理解の仕方などの実際的な事項について学習し、適切な対応や援助のあり方を知ることができる。</li> <li>5.専門性を高め、幼稚園教諭に必要な先生力を養うことができる。</li> </ol>		
授業計画	第1回 オリエンテーション、希望調査ガイダンス 第2回 先生力育成① 幼稚園における行事について 第3回 依頼訪問ガイダンス 第4回 先生力育成② 専門性の理解 第5回 先生力育成③ 記録（幼稚園の一日の流れ） 第6回 先生力育成④ 記録（実習記録・計画作成の留意点等） 第7回 先生力育成⑤ 記録（「観る」「録る」力の育成） 第8回 先生力育成⑥ 「おもしろスキルアップ講座」-プロから学ぶ人形劇あそび- 第9回 先生力育成⑦ 幼児理解 第10回 先生力育成⑧ あそび理解 第11回 先生力育成⑨ 模擬保育Aグループ 第12回 先生力育成⑩ 模擬保育Bグループ 第13回 先生力育成⑪ 模擬保育Cグループ 第14回 先生力育成⑫ 模擬保育ふりかえり 第15回 先生力育成⑬ 実習報告会		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度、課題や実践への取組状況等	70%	
	提出・作成物（実習記録、指導計画等）	30%	
失格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（忌引、病気等）の場合はそれを証明するものを提出すること。</li> <li>2.欠席が4回以上になった場合 (20分を越える遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とする。)</li> <li>3.担当日時の決定している発表・実践を正当な理由なく行わなかった場合</li> <li>4.授業内で指示した課題や提出物が期限までに提出されない場合</li> </ol>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業内で指導された方法により教材研究を行うこと。（予習：4時間）</li> <li>2.教育実習本番に向け、実習記録や指導計画を作成準備をすること。（復習＆予習：8時間）</li> <li>3.授業内での配布資料や紹介文献を参考に、文章表現力を高めるトレーニングをすること（予習：4時間）</li> <li>4.授業内での指示された課題についてレポートを作成すること。（復習：4時間）</li> <li>5.参考図書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること。（復習：2時間）</li> </ol>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・実践に対しては、グループ及び全体に対してコメントします。</li> </ul>		
教科書	①「幼稚園教育要領解説」 205円 ②「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 162円 ③「指導計画の作成と保育の展開」〈平成25年7月改訂〉（幼稚園教育指導資料第1集）270円 ※①と②は1年次に全員購入の指示あり。		
著者名	①文部科学省 ②内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①～③すべてフレーベル館		
参考書			
その他	特になし		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C01	期間	通年
授業科目名	教育実習の指導（事前事後指導）（小）		
英訳科目名	Guidance for Teaching Practice		
担当教員名	木村 久男、馬場 義伸、前田 雅章、横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>事前指導では、教育実習の目的や意義を理解し、実習に必要な知識や技能・心構えなどについて学び、小学校教員の役割や職責についての理解を深め、実習に備える。</p> <p>また、実習記録の書き方や指導案の作成方法、学習指導や生徒指導と子ども理解など、教育実習に備えて実際的な事項について学習する。特に、事例研究や模擬授業を通してより実践的な力量を高める。</p> <p>事後指導では、実習の反省や今後の学習課題についての検討と交流を通して、自らの課題をつかみ「先生力」の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>1.教育実習の目的や意義を理解し、実習に必要な知識や技能、心構えを身につけられる。</p> <p>2.小学校教員の役割や職責についての理解を深めて実習に備えることができる。</p> <p>3.実習記録の書き方や指導案の作成方法、授業や学習指導法を身につけられる。</p> <p>4.生徒指導や子ども理解など、学校現場で必要な実際的な事項について学習し、適切な対応や指導の在り方を学ぶことができる。</p> <p>5.事後指導では、実習の反省を通して、教員としての資質能力を高めるための課題をつかむことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 教育実習ガイダンス（希望調査）および、「実習の目的と意義」</p> <p>第2回 小学校教育実習に必要な知識・技能①範読及び音読指導、板書等</p> <p>第3回 小学校教育実習に必要な知識・技能②発声と読みの指導法、視写等</p> <p>第4回 小学校教育実習に必要な知識・技能③グループでの読みの指導、斉読、群読等</p> <p>第5回 ガイダンス（内諾訪問）及び模擬授業オリエンテーション</p> <p>第6回 先生力育成・模擬授業①指導教員との指導案作成面談日程等。「教材研究」とは</p> <p>第7回 先生力育成・模擬授業②「『面白い授業』のための教材研究」</p> <p>第8回 先生力育成・模擬授業③「『面白い授業』のための教材研究と指導案」</p> <p>第9回 先生力育成・模擬授業④「『面白い授業』のための指導案と授業展開」</p> <p>第10回 先生力育成・模擬授業⑤子ども理解と授業の目標</p> <p>第11回 先生力育成・模擬授業⑥子ども理解と授業の展開</p> <p>第12回 先生力育成・模擬授業⑦子ども理解と授業の創造</p> <p>第13回 先生力育成・模擬授業⑧「主体的に学ぶ授業」とは</p> <p>第14回 先生力育成・模擬授業⑨「対話的で主体的に学ぶ授業」とは</p> <p>第15回 まとめ「先輩に聞こう・実習報告会」</p>		
評価方法 （合計100%）	授業への参加態度、課題レポート、発表等。	80%	
	模擬授業・指導案作成	20%	
失格条件	<p>1.教育実習の指導をはじめ、教職関連科目は全出席を前提とするが、出席回数が3分の2に満たない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。）</p> <p>2.課題レポートを提出しなかった場合</p> <p>3.担当日時決定した発表を正当な理由なく行わなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>1.模擬授業の指導案は、担当教員の指導を受けて作成し、予行をしておこう。</p> <p>2.授業で指導された内容は、実習に行く前から準備して、万全の態勢で教育実習に臨むようにしよう。</p> <p>3.この科目は、模擬授業などの事前準備と事後指導を受けての復習を特に重視する。参考図書・資料等を活用し、教材研究を入念に行おう。</p> <p>4.今日の教育や子どもの問題に関心を持ち、積極的に情報収集して、教育実習での学びが深くなるように準備しよう。（予習2時間・復習2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>模擬授業や実習発表の交流などに関する感想や評価の交流を授業内やコメント集などを通してフィードバックしていく。模擬授業・実習の準備段階や実施・終了後は、面談を行って先生力を高める。</p>		
教科書	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C02	期間	集中
授業科目名	教育実習（実地実習）（幼）		
英訳科目名	Teaching Practice（Kindergarten / Elementary School）		
担当教員名	中西 利恵、曲田 映世、中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教職と保育領域に関する科目等の十分な学習・研究をふまえ、幼稚園教育の実践について実習を通して学ぶ。幼稚園では、幼児の主體的な活動を特に大切にしており、そこで行われる保育とは、幼児がよりよい方向に向かって発達していくことを援助することである。この相互作用としての援助を実習において身をもって実践・体験する。そして幼稚園教諭の保育技術を見習うとともに、幼稚園における日課の運営や幼稚園教諭としての職務の詳細について、経験的に理解し学習する。さらに実習を通し、教育課程・指導計画に関する理解を深め、教職の性格と幼児教育の機能に関する総合的な理解を含め、教師としての基礎的スキルを身につけるとともに、教職への使命感を培う。		
到達目標	幼稚園の組織や運営のあり方、教材研究と保育の計画づくり、幼児理解と人間関係づくり、学級経営への取り組みの姿勢、指導や援助のあり方などを学ぶとともに、幼稚園教諭としての実践について豊かな資質と力量を身につけることができる。		
授業計画	<p>教育実習（幼稚園）の進行状況は、概ね以下の内容が段階的にまた同時に展開される。ただし、個々の学生の技能や意欲等により進行状況は柔軟性をもつ。</p> <p>第1回 「観察」という実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①幼稚園の物的・人的環境を見学し、幼稚園の実態を全面的に把握する。</li> <li>②子どもの園生活を観察し、子どもへの理解力を高める。</li> <li>③幼稚園教諭の子どもへのかかわりを観察し、援助について理解を深める。</li> </ol> <p>第2回 実習への「補助的参加」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育のための諸準備や環境の構成</li> <li>②指導の補助</li> <li>③その他補助的な作業</li> </ol> <p>第3回 部分的に指導計画を立案し保育を担当する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①比較的短時間の活動の場合</li> <li>②比較的長時間の活動の場合</li> </ol> <p>第4回 総合的に一日の保育を担当する実習</p> <p>第5回 反省・評価：日々の実習におよび全体に対し実施</p> <p>第6回 1～5に関する記録の作成</p>		
評価方法 (合計100%)	教育実習受け入れ園の評価	60%	
	教育実習の記録および実習報告等	40%	
失格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>①実習期間が不足の場合（120時間未満の場合）</li> <li>②提出物が期限を守って提出されなかった場合</li> <li>③実習中等における態度が、実習生としてふさわしくないと判断された場合</li> </ol>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>学外実習なので予習・復習時間を規程しないが、実習事前事後指導内容と以下の点について、全体の予習復習時間のうち、おおむね予習（実習前）に3分の2、復習（実習後）に3分の1の時間をかけること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日頃から健康管理に留意すること。</li> <li>②日頃から自己管理・自己責任を徹底させ、実習生も「先生」と呼ばれるという自覚をもつこと。</li> <li>③日頃から積極的な取り組み姿勢を実践し、積極性を高めること。</li> <li>④事前に具体的な教材を5種類以上は用意すること。</li> <li>⑤日頃から記録をとる（文章化する）トレーニングを行うこと。</li> <li>⑥日頃から課題意識をもち、物事に取り組むこと。</li> </ol>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・実習の取り組みに対しては、全体へのコメントと適宜個別にコメントします。</li> </ul>		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「幼稚園教育要領解説」</li> <li>②「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</li> </ol> <p>※①②ともに1年次に全員購入の指示あり。</p>		
著者名	①文部科学省 ②内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①②ともフレーベル館		
参考書	「指導計画の作成と保育の展開」〈平成25年7月改訂〉（幼稚園教育指導資料第1集）、フレーベル館		
その他	特になし		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C02	期間	集中
授業科目名	教育実習（実地実習）（小）		
英訳科目名	Teaching Practice（Kindergarten / Elementary School）		
担当教員名	木村 久男、馬場 義伸、前田 雅章、横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>教育実習の単位を取得するためには、事前指導、実習校での実習、事後指導のすべてを履修する必要がある。小学校での教育実習では、教科指導、学級経営、生活指導、進路指導、校務分掌など多岐にわたる教職員の職務について現場教職員の指導のもとに学ぶ。児童と直接かかわるなかで、児童理解を深め、実践的な指導力を養う。事前指導では実地実習に必要なこれら基本的な事項と心構えについて、事後指導では、実習体験を振り返りながら、教職についての総合的な理解を深め、先生力の育成をはかる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教科指導、学級経営、生活指導、進路指導、校務分掌など小学校教員の職務と責任・サービスについて理解できる。</li> <li>2.教育実習の記録が書け、指導に生かすことができる。</li> <li>3.指導案の作成や授業ができる。</li> <li>4.児童理解を深め、場面と児童の個性に応じた適切な指導ができる。</li> <li>5.健康管理・自己管理に気を配り、3週間の実習をやりとげられる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.実習担当教員による全般的説明</li> <li>2.実習担当教員による「実習ノート」の記入の仕方等、具体的事項の指導</li> <li>3.実習校の校長・指導教諭等による教育実習ガイダンス</li> <li>4.実習校の校長・指導教諭等による教科指導と生徒指導等についてのガイダンス</li> <li>5.実習校における教育実習および教育実習記録の作成</li> <li>6.教育実習の成果と課題についての発表と検討</li> </ol>		
評価方法 (合計100%)	教育実習受け入れ校の評価	60%	
	教育実習の記録および実習報告	40%	
失格条件	<p>以下の場合失格となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実習期間が不足の場合</li> <li>(2) 提出物が期限を守って提出されなかった場合</li> </ol>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>学外実習なので予習・復習時間を規程しないが、実習事前事後指導内容を以下の点について、全体の予習復習時間のうち、おおむね予習（実習前）に3分の2、復習（実習後）に3分の1の時間をかけること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育実習中は、自己管理が第一である。実習生も「先生」という自覚をもって、教育実習に臨むこと。</li> <li>2.できるだけたくさん授業・学級を見せてもらい、教育現場での指導から学ぶこと。</li> <li>3.研究授業に積極的に取り組み、指導案の作成や学習指導の力をつけること。</li> <li>4.実習記録は、その日のうちに記録して、指導教官に提出すること。</li> <li>5.可能な限り、児童とともに学び、遊び、働き、児童理解を深めること。児童全員の名前を早く覚えること。</li> </ol> <p>その他、「教育実習の指導」の授業の中で指導されたことに留意して、実り多い教育実習にしてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>「実習目標」などは、全体での事前指導の後、担当教員との個別面談を行って実習に臨めるようにする。実習訪問にあたっては、実習校との連携の下で実り多い実習になるよう指導支援を行う。事後指導においては、実習報告会・報告集作成に取り組むとともに、「実習記録」をもとに個別面談を行って実習体験での学びの成果を共有する。</p>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）          小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場）          小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210A02	期間	集中
授業科目名	保育・教育実践学習		
英訳科目名	Practice in the First Step of Childcare and Education		
担当教員名	横島 三和子、直島 正樹、前田 雅章、曲田 映世、進藤 容子、中井 清津子、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	保育所、施設、幼稚園等において、子どもの観察や関わりを通して、コミュニケーションの方法、支援のあり方について考える。入学後、はじめての学外実習となるため、より高い効果をあげられるように事前・事後学習を行い、以後の実習に対する取り組み意欲も高める。		
到達目標	保育・教育現場における子どもの様子、保育者（教員）の業務・役割、環境等を見学することにより、学外実習に取り組む上で必要な心構え、姿勢等を理解することができる。		
授業計画	<p>第1～5回 事前学習</p> <p>①授業の概要、実習の目的・ねらい ②実習施設の理解 ③実習施設の1日の流れと保育（教育）内容 ④実習記録の書き方 ⑤実習の心得、実習課題の明確化</p> <p>第6～10回 実習 保育所、幼稚園等での実習</p> <p>第11～15回 事後学習</p> <p>①実習先の特色と1日の流れについて考察 ②実習課題について考察 ③実習報告会準備 ④実習報告会 ⑤まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	実習への参加態度等 40% 事前・事後学習への参加態度、課題の提出 30% 事後レポート等の提出 30%		
失格条件	「事前学習」「実習」「事後学習」のいずれか一つでも欠席した場合は、失格とする（ただし、特別な理由がある場合を除く）。 なお、「事前学習」を欠席した者は、「実習」に参加できないものとする。また、実習に参加したものの、事後レポートを提出しない場合、指定する期限から大幅に提出が遅れた場合も失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	入学後、初めての学外実習となる。事前・事後学習で配布された資料等に基づき、関連図書等も活用しながら、保育所・幼稚園等の機能・役割、自身の実習先の保育（教育）内容等について学習すること。（予習2時間・復習2時間を目安とする）		
課題へのフィード バック	・事前・事後学習、実習への取り組みについて、個別もしくは全体に向けてコメントする。 ・実習記録提出後、個別もしくは全体に向けてコメントする。 ・実習報告会終了後、全体に向けてコメントする。		
教科書	特に指定はしない。 プリント、映像等を用いる。		
著者名			
出版社			
参考書	適宜紹介する。		
その他	実習の準備等を行うため、「キャリアデザイン（子）」も必ず履修すること。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	CD210N01	期間	集中
授業科目名	保育・教育ボランティア実習A		
英訳科目名	Volunteering in Childcare and Education A		
担当教員名	松島 京、直島 正樹、前田 雅章		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>ボランティアとは、自発性や主体性に基づく活動とそれに関わる人のことをいうが、保育・教育・福祉等の分野におけるボランティアの役割は、近年、社会的にも重視されている。「當相敬愛」の精神を基盤にした本学の教育目標の一つにも「ボランティア精神の涵養」をあげている。</p> <p>以上をふまえ、この実習では、地域の保育・教育・福祉等へのボランティア活動を通して地域貢献をするとともに、地域の実情を知り、保育者・教育者をめざすものとしての自覚を高めることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの社会的意義について理解することができる</li> <li>・自発的、積極的に地域貢献活動に参加する態度を身につけることができる</li> </ul>		
授業計画	<p>ボランティア実習実施については、概ね以下の内容が段階的に同時に展開される。ただし、実習の進行状況は、ボランティア実習の場所や内容の多様性を考慮し、柔軟に実施するものである。</p> <p>第1回 はじめに：ボランティア実習の目的、実習の進め方  第2回 ボランティアとは：ボランティア活動の意義  第3回 事前指導（1）活動先の選定について  第4回 事前指導（2）ボランティア活動の実際と記録について  第5～12回  ボランティア活動：各自が選定したボランティア先でのボランティア活動の実施  ボランティア先（現場）に関する理解  ボランティア先の利用者の理解  ボランティア先での職務内容の理解  ボランティア活動を通じた人とのつながりの実践  ボランティア活動を通じた地域貢献の実践  ボランティア活動の記録による気づきの獲得  第13回 事後指導（1）ボランティア活動のふりかえり  第14回 事後指導（2）ボランティア活動の共有  第15回 おわりに：まとめ、到達目標の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>実習（本学が指定する時間数の終了）：50%  本学における事前指導・事後指導への取組姿勢：20%  提出物（活動記録や報告書等）：30%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時間が不足の場合</li> <li>・事前指導、事後指導を欠席した場合</li> <li>・提出物が期限を守って提出されなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>ボランティア先の活動の参考になる情報を収集する（予習：1時間）  ボランティア先の活動と関連する授業の学びを活用する（予習：1時間）  ボランティア活動の記録を作成する（復習：1時間）  ボランティア活動のふりかえりをする（復習：1時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却する</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする</li> <li>・実習終了後の授業で、全体に向けてコメントする</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する		
その他	<p>実習中の欠席は原則として認めない。やむを得ない事情（忌引、病気等）で欠席する場合は、事前に連絡し、必ず欠席分の補充を行うこと。また、多様なボランティア活動が実施できるよう、授業担当者と相談の上進めること。</p>		
備考	<p>社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島）  小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210N02	期間	集中
授業科目名	保育・教育ボランティア実習B		
英訳科目名	Volunteering in Childcare and Education B		
担当教員名	松島 京、直島 正樹、前田 雅章		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>ボランティアとは、自発性や主体性に基づく活動とそれに関わる人のことをいうが、保育・教育・福祉等の分野におけるボランティアの役割は、近年、社会的にも重視されている。「當相敬愛」の精神を基盤にした本学の教育目標の一つにも「ボランティア精神の涵養」をあげている。</p> <p>以上をふまえ、この実習では、地域の保育・教育・福祉等へのボランティア活動を通して地域貢献をするとともに、地域の実情を知り、保育者・教育者をめざすものとしての自覚を高めることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの社会的意義について理解することができる</li> <li>・自発的、積極的に地域貢献活動に参加する態度を身につけることができる</li> </ul>		
授業計画	<p>ボランティア実習実施については、概ね以下の内容が段階的に同時に展開される。ただし、実習の進行状況は、ボランティア実習の場所や内容の多様性を考慮し、柔軟に実施するものである。</p> <p>第1回 はじめに：ボランティア実習の目的、実習の進め方  第2回 ボランティアとは：ボランティア活動の意義  第3回 事前指導（1）活動先の選定について  第4回 事前指導（2）ボランティア活動の実際と記録について  第5～12回  ボランティア活動：各自が選定したボランティア先でのボランティア活動の実施  ボランティア先（現場）に関する理解  ボランティア先の利用者の理解  ボランティア先での職務内容の理解  ボランティア活動を通じた人とのつながりの実践  ボランティア活動を通じた地域貢献の実践  ボランティア活動の記録による気づきの獲得  第13回 事後指導（1）ボランティア活動のふりかえり  第14回 事後指導（2）ボランティア活動の共有  第15回 おわりに：まとめ、到達目標の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>実習（本学が指定する時間数の終了）：50%  本学における事前指導・事後指導への取組姿勢：20%  提出物（活動記録や報告書等）：30%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時間が不足の場合</li> <li>・事前指導、事後指導を欠席した場合</li> <li>・提出物が期限を守って提出されなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>ボランティア先の活動の参考になる情報を収集する（予習：1時間）  ボランティア先の活動と関連する授業の学びを活用する（予習：1時間）  ボランティア活動の記録を作成する（復習：1時間）  ボランティア活動のふりかえりをする（復習：1時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却する</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする</li> <li>・実習終了後の授業で、全体に向けてコメントする</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する		
その他	<p>実習中の欠席は原則として認めない。やむを得ない事情（忌引、病気等）で欠席する場合は、事前に連絡し、必ず欠席分の補充を行うこと。また、多様なボランティア活動が実施できるよう、授業担当者と相談の上進めること。</p>		
備考	<p>社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島）  小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD210C03	期間	集中
授業科目名	保育・教育インターンシップ		
英訳科目名	Internship in Childcare and Education		
担当教員名	曲田 映世、馬場 義伸、中西 利恵、中井 清津子、実光 由里子、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	最終学年において、保育や教育に携わる専門職としての専門性をさらに高めるために、保育所、幼稚園、小学校、小児病棟（予定）など子ども達が生活する施設や教育機関において実習を行う。専門職としての役割や使命についての理解を深め、より高い職業意識を醸成する。必ずしもめざす分野での実習を行うのではなく、むしろ周辺分野での体験的学習を通し、自己の成長を促進し、創造的に社会参加していける力の育成をめざす。		
到達目標	保育や教育に携わる専門職としての役割や使命についての理解を深め、より高い職業意識をもつことができる。また、自己の成長を促進し、自己の適性を見極め、主体的で創造的に社会参加していけるための態度を養うことができる。		
授業計画	<p>実習実施については、概ね①～⑦の内容が段階的にまた、同時に展開される。ただし、実習内容や進行状況は、実習施設に対応させ柔軟に実施する。</p> <p>第1回 事前指導…授業の概要、実習の目的、ねらい等</p> <p>第2～14回 保育所・幼稚園・小学校・小児病棟、その他子どもたちが生活する施設・教育機関で 観察、参加、補助、部分、一日実習など行う。</p> <p>①実習施設の理解を深める。 ②子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。 ③子どもの個人差について理解し、多様な保育ニーズへの対応方法を習得する。 ④指導計画を立案し、実践する。 ⑤家族とのコミュニケーションの方法を具体的に理解する。 ⑥地域社会との連携について具体的に学ぶ。 ⑦保育者・教育者としての職業倫理を学ぶ。 など実習先に合わせて具体的な実習目標および内容を設定し実施する。</p> <p>第15回 事後指導…まとめ（自己の課題の明確化）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>(1) 本学での事前指導・事後指導への取組姿勢 20%</p> <p>(2) 提出物（実習記録や報告書等） 30%</p> <p>(3) 実習（本学が指定する時間数の終了など） 50%</p>		
失格条件	<p>(1) 事前指導、事後指導を欠席した場合</p> <p>(2) 実習時間が不足の場合</p> <p>(3) 提出物が期限を守って提出されなかった場合</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>①各実習先での活動に参考になる情報を収集し読んでおくこと。（予習：3時間）</p> <p>②指導や援助方法については今までに活用した教科書や参考書など活用すること（予習・復習：5時間）</p> <p>③今までの実習における自己課題を整理しておくこと（予習：3時間）</p> <p>④実習報告書を作成すること（復習：8時間）</p> <p>⑤今後取り組むべき自己課題等について考察すること（復習：3時間）</p>		
課題へのフィードバック	各実習担当者から実習の取り組みに対して、個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	各実習担当者から適宜指示する。		
その他	実習中の欠席は原則として認めない。やむを得ない事情（忌引、病気等）で欠席する場合は、事前に連絡し、必ず欠席分の補充を行うこと。 意欲的・積極的な取り組み姿勢が望まれます。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（馬場） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD109C04	期間	後期
授業科目名	保育実践演習 (A)		
英訳科目名	Practical Exercises for Childcare		
担当教員名	中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践力を高めるために、教材研究・指導案の作成・保育展開等保育の内容や方法について、構成し展開できるような具体的な指導力を修得する。更には、現在の保育における取り組みや課題について、研究すると共に、その成果を発表する。</li> <li>・主体的にグループで取り組み、全体で意見発表を行い、保育実践を高めるために必要な内容や方法について協議しながら、保育技術を習得する。</li> <li>・保育実践上の今日的な課題を捉え、問題解決に向けての方策を考えたり、プレゼンテーションをすることで共有化を図り、主体的な学習をととして保育への意識を高める。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における取り組みや課題について、自ら関心を高め保育実践における総合的な理解と基礎的技能を身につけることができる。</li> <li>・グループでの取り組みをととして、他者と協調しながら様々な視点から保育を捉え、より良い保育を創りだすための指導計画の作成及び展開・反省・評価を行う実践力を身につけることができる。</li> <li>・保育者として必要なプレゼンテーション力や表現力を身につけることができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション 保育実践力の向上について 第2回 グループによる教材研究・開発 (教材決定) 第3回 グループによる教材研究・開発 (教材準備) 第4回 教材発表と評価 (Aグループ、Bグループ、Cグループ) 第5回 教材発表と評価 (Dグループ、Eグループ、Fグループ) 第6回 保育の計画と指導の実際 (指導案の作成) 第7回 保育の計画と指導の実際 (指導案の修正) 第8回 保育計画と指導の実際 (指導の展開) 第9回 模擬保育と発表及び評価 (Aグループ、Bグループ、Cグループ) 第10回 模擬保育と発表及び評価 (Dグループ、Eグループ、Fグループ) 第11回 保育における今日的な課題とテーマ設定 第12回 グループ研究と発表準備 第13回 研究発表と評価 (Aグループ、Bグループ、Cグループ) 第14回 研究発表と評価 (Dグループ、Eグループ、Fグループ) 第15回 自己評価とまとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加状況と取り組み 20% グループ発表 30% レポート等の提出物 50%		
失格条件	以下5つの場合が失格である。 (1) 授業内で示したあらゆる提出物が期限を守って提出されない場合 (2) グループ学習と演習が中心とする授業で、個々の協力や協調性を必要とする。 したがって仲間に迷惑をかけたか、グループ発表や学習に積極的に参加しなかった場合 (3) 出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合 (つまり15回中6回以上欠席した場合) なお、この授業では、遅刻は3回で1回の休みと換算しますので、注意してください。 (4) 授業態度に問題のある場合 (5) 以下の「その他」の欄に記載した内容を守ることが出来なかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	保育に関する取り組みや問題点について、日頃から関心を持ち、情報の収集に努めること。グループ発表ではメンバーと協力して、準備すること。(予習 3時間) 各グループの振り返りや評価・講義終了時に出す課題についてレポートを作成すること。(復習 1時間)		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。</li> <li>・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</li> <li>・模擬保育やグループ発表後、グループに対して講評をします。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	保育所保育指針解説 (厚生労働省) 幼稚園教育要領解説 (文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (内閣府,文部科学省,厚生労働省)		
その他	この授業では、演習やグループ学習であるため、欠席や遅刻をする場合は授業で指示するとおりに必ず連絡してください。実習に向けて必要な課題に取り組みますので、積極的な参加及び態度が必要です。 幼稚園教育要領解説, 保育所保育指針解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説は必要に応じて持参すること。		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD109C05	期間	後期
授業科目名	教職実践演習（幼・小）		
英訳科目名	Teaching Practical Exercises (Kindergarten / Elementary School)		
担当教員名	木村 久男、前田 雅章、中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>1.本授業においては、子どもの発達や子ども理解と指導観など、教員として求められる資質能力を向上させていくことを課題とする。</p> <p>2.教職に向けての資質向上を図るために、「履修カルテ」を活用し、履修終了後に各自が履修科目に対する省察及び資質能力の獲得状況を記入する。</p> <p>3.授業においては、グループ討論、ロールプレイング、ディベート、模擬授業等の方法を取り入れ、実践的な資質能力の向上を目指す。</p> <p>4.教育実習やインターンシップ実習、学校支援学生ボランティア活動等を通しての学校現場での体験や事例、成果を踏まえて、交流や検討を行う。</p> <p>5.教育現場の視点を取り入れる観点から、現職の先生（小学校教諭、幼稚園教諭）も外部講師として招く。</p>		
到達目標	<p>1.本授業は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて学んだ子どもの発達や子ども理解、指導観などを深めるとともに、教員として必要な資質能力を高めることができる。</p> <p>2.教育職に就くために自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識・技能を補うこと同時に、教職への責任感と自覚を高め、職務を遂行しながら現場で成長できる力を高めることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー「履修カルテ」を活用するために 『教育の力』 手作り遊び・工作 「履修カルテ」返却</p> <p>第2回 「教職に求められる資質能力とは」①ビデオをみて（幼稚園教諭） 「履修カルテ」提出</p> <p>第3回 幼稚園教諭に求められる資質能力②</p> <p>第4回 「4年1組ハッピークラス」金森敏郎先生の「指導」に学ぶ①実践から</p> <p>第5回 「4年1組ハッピークラス」金森敏郎先生の「指導」に学ぶ②グループワーク</p> <p>第6回 「教職に求められる資質能力とは」③教育実習、インターンシップ、ボランティアの経験を踏まえて</p> <p>第7回 現場の先生を招いての授業①「身体表現を楽しむ」</p> <p>第8回 現場の先生を招いての授業②「日本語で遊ぼう」</p> <p>第9回 現場の先生（小学校・幼稚園教諭）を招いての授業③小学校</p> <p>第10回 現場の先生（小学校・幼稚園教諭）を招いての授業④幼稚園</p> <p>第11回 現場の先生を招いての授業⑤「子どもたちに生きる希望を」今の子どもをどうみるか</p> <p>第12回 「履修カルテ」をもとに、履修科目に対する省察および獲得状況と課題を明らかにする</p> <p>第13回 保護者対応と同僚性、専門性について</p> <p>第14回 「元気で働き続けるために～働くものの権利と労働条件」</p> <p>第15回 まとめー「履修カルテ」まとめの提出</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.授業の参加態度と授業後のミニレポート提出、グループ発表等 60%</p> <p>2.「履修カルテ」の省察および4年次獲得状況の記入 40%</p>		
失格条件	<p>1.出席が授業回数の3分の2に満たない場合は失格とする。20分を超える遅刻は欠席とする。</p> <p>2.「履修カルテ」の記入提出が、期日までにできない場合は失格とする。</p> <p>3.担当日時の決定した発表を正当な理由なく行わなかった場合は失格とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>1.「履修カルテ」を活用して自らの課題を自覚し、授業で学んだことを活用して資質能力を高めることに努める。</p> <p>2.授業で紹介された参考図書・資料等を活用し、予習復習を行うこと。紹介された教育実践や先生、学校や園について調べたり、著書を読む。（予習2時間・復習2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>・授業コメント・ミニレポートは、全員分を印刷して配布し、次回授業の冒頭で発表・交流するとともに、開設等でテーマを深める。</p> <p>・教育実習やインターンシップ、ボランティア等の経験や「履修カルテ」の省察及び課題を共有し、グループワーク等で解決の見通しが持てるようにする。</p>		
教科書	不使用。		
著者名			
出版社			
参考書	授業の中で紹介します。		
その他	特になし		
備考	<p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村）</p> <p>小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（前田）</p> <p>幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	直島 正樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>保育・福祉・教育現場で実践を行う上で、障害のある子どもへの支援方法、子ども虐待への対応等、多くのことに関心を持ち、考えていく必要がある。本演習では、これらの事項について各自が問題意識を持ち、専門職としての学びを深めていくことを目的とする。具体的には、保育・福祉・教育現場における事例の検討・発表、現場職員との学習会、「学生によるオレンジリボン運動」への取り組み等を考えている。</p> <p>卒業後の現場での実践を見据え、「障害」や「子ども」等について多くのことを学び、考える機会にしていきたい（特に、「障害」「虐待」「施設」等について関心があるという学生に受講して欲しい）。</p>		
到達目標	<p>①福祉・保育・教育に関する多くの事項に興味・関心を持つことができる。</p> <p>②福祉・保育・教育に関する事項に、問題意識を持つことができる。</p> <p>③さまざまな角度から物事を考え、意見を述べることの重要性を理解できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方等）</p> <p>第2回 保育・福祉・教育現場の事例検討①（これまでの学びを踏まえて考えてみよう）</p> <p>第3回 保育・福祉・教育現場の事例検討②（事例を通じてさらに学びを深めよう）</p> <p>第4回 保育・福祉・教育現場の事例検討③（事例検討のまとめ）</p> <p>第5回 発表・討議に向けて（資料収集の方法、プレゼンテーションの方法等）</p> <p>第6回 調べて、発表してみよう①（自分で調べることの重要性）</p> <p>第7回 調べて、発表してみよう②（発表することの重要性）</p> <p>第8回 調べて、発表してみよう③（他のメンバーの発表を聴いて考えよう）</p> <p>第9回 調べて、発表してみよう④（調べること・発表することを通じて見えるもの）</p> <p>第10回 保育・福祉・教育に関わる活動①（学生によるオレンジリボン運動）</p> <p>第11回 保育・福祉・教育に関わる活動②（地域のイベントへの参加）</p> <p>第12回 保育・福祉・教育に関わる活動③（地域のイベントへの参加）</p> <p>第13回 保育・福祉・教育に関わる活動④（現場職員との学習会）</p> <p>第14回 保育・福祉・教育に関わる活動⑤（イベント、学習会等の振り返り）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*学習内容・方法等は、履修者と相談の上、柔軟に進める。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業内課題【レジュメの内容、発表の内容・態度等】50%</p> <p>受講状況【積極的参加、マナー（私語、化粧、携帯電話）等】50%</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>新聞記事等から、保育・福祉・教育に関するニュースを選び、各自で考えを持っておくこと。また、「自分も他者も分かりやすいレジュメ」について調べ、考えておくこと（予習時間2時間・復習時間2時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>提出課題、発表用レジュメ等については、必要に応じて個別もしくは全体にコメント・指導する。</p>		
教科書	<p>特に指定はしない。個人の興味・関心に応じて紹介する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>橋本好市・直島正樹（編著）『保育実践に求められるソーシャルワーカー子どもと保護者のための相談援助・保育相談支援一』（ミネルヴァ書房）</p> <p>直島正樹・原田旬哉（編著）『図解で学ぶ保育 社会福祉（第2版）』（萌文書林）</p>		
その他	<p>地域のイベントや研修会への参加など、大学内に限らず、学外での学びも大切に、真剣かつ楽しんで学んで欲しい。</p> <p>*受講人数、学生の興味・関心等に応じて、施設現場の見学等も行う場合がある。</p>		
備考	<p>社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>研究の過程を主体的な取り組みによって体験することを通し、学士および教育職員に求められる「生涯にわたって主体的に学び続ける力と態度」を育成することを目標とします。扱うテーマは、「食」、「自然現象」、「健康」、「安全」、「理科」、「環境」、「保育内容」等です。例を参考に、学生の関心に応じてテーマを決定します。</p> <p>卒業研究を通して、考えを出し合い、考えを作っていく過程を楽しみましょう。保育者・教育者をめざす学生には、その経験を「子どもの主体的な学び」の基礎を引きだす保育や教育につなげます。</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好奇心や探究心をもったかわりを深める保育を実践的に検討する。</li> <li>・幼児教育と小学校教育のつながりを、特に生活科、理数科、食育から検討する。</li> <li>・保育内容と具体的に関連づけた保育所・幼稚園での食育方法を考える。</li> <li>・保護者に提供すべき食に関する情報は何か、適切な方法は何かを検討する。</li> <li>・子どもの健康管理、健康教育について考える。</li> </ul>		
到達目標	<p>①研究的（探究的）な思考ができる。</p> <p>②必要な資料を考え、利用することができる。</p> <p>③保育、教育の場面で応用できる発想力や技術を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回 テーマの決定</p> <p>第2回 テーマから課題の決定</p> <p>第3回 方法の決定</p> <p>第4回 探究活動①</p> <p>第5回 探究活動②</p> <p>第6回 探究活動③</p> <p>第7回 研究内容の共有①中間報告</p> <p>第8回 探究活動④</p> <p>第9回 探究活動⑤</p> <p>第10回 探究活動⑥</p> <p>第11回 結果の整理①</p> <p>第12回 結果の整理②</p> <p>第13回 研究成果のまとめ</p> <p>第14回 研究成果のまとめ</p> <p>第15回 研究内容の共有②発表</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への取組姿勢（発表・ディスカッション等） 30%</p> <p>研究課題への取組姿勢 30%</p> <p>提出物 40%</p>		
失格条件	成果の未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	時間を有効に使って、主体的に研究を進める。目安として、1回の指導に対し、90分の準備、90分のまとめを行う。自分が設定した課題やその関連領域に関する情報に、日ごろから敏感であるよう意識する。		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の提出物については、個別にコメントします。</li> <li>・最終成果物については、学生間で共有し全体に講評します。</li> </ul>		
教科書	指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	松島 京		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>本演習のテーマは「世界の子どもと権利保障」である。</p> <p>1989年、「子どもの権利条約」が国連で採択された。それにより、子どもの権利は保障されるべきものであることが国際的に明文化された。しかし、生存や発達の危機、不当な労働や搾取、トラフィッキング（人身取引）、虐待など、子どもをめぐる諸問題はあとを立たない。また、近年の社会的変動により、新たな問題も浮上している。</p> <p>本演習では、世界各国の子どもをめぐる現状を把握した上で、各自の興味あるテーマについて調査研究を進めることにより、子どもの権利保障の方策について検討する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの権利と権利保障・権利擁護について理解することができる</li> <li>世界各国の子どもをめぐる現状について理解することができる</li> <li>自ら課題を設定しそれについて考察することができる</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について</p> <p>第2回 子どもの権利条約（1）調べる・まとめる</p> <p>第3回 子どもの権利条約（2）報告する</p> <p>第4回 子どもの権利をめぐる諸問題（1）保健・衛生・教育・識字</p> <p>第5回 子どもの権利をめぐる諸問題（2）労働・搾取・虐待・戦争</p> <p>第6回 子どもの権利を保障するために（1）権利保障の視点</p> <p>第7回 子どもの権利を保障するために（2）権利保障の諸活動</p> <p>第8回 研究テーマを設定する：調べる・まとめる</p> <p>第9回 研究テーマを報告する：報告する</p> <p>第10回 研究を進める（1）発表と討議</p> <p>第11回 研究を進める（2）発表と討議</p> <p>第12回 研究を進める（3）発表と討議</p> <p>第13回 研究成果をまとめる（1）プレゼンテーションと議論</p> <p>第14回 研究成果をまとめる（2）レポートの完成</p> <p>第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	研究成果（50%）と授業への参加態度（50%）により、総合的に評価する。研究成果は、プレゼンテーション及びレポートの内容を評価する。授業への参加態度は、グループ討議への参加姿勢や発表内容など主体的な取り組みを評価する。		
失格条件	<p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。</p> <p>30分以上の遅刻は欠席とし、30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p> <p>定められた発表やレポートの提出がなかった場合は失格とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各自で研究を進めるためには、授業時間外の本を読む・調べる・まとめるという作業が必要となる（予習復習4時間）		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題提出後、コメントをつけて個別に返却する</li> <li>課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする</li> </ul>		
教科書	授業内で必要に応じて資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		



ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>・子どもは、絵本や物語などと出会い、自分の経験と結びつけながら、想像したりその世界に浸ったり、その面白さを存分に味わうことが必要である。また、絵本や物語の中に登場する人や生き物に関心を持ち、想像を豊かに広げていくのである。そのために、絵本や物語を読み聞かせる時には、その絵本の楽しさを十分味わうことができるよう、発達に応じた絵本の選択や読み聞かせの方法など工夫をしなければならない。このような絵本をはじめとする言語表現内容の教育的意味を理解しながら、自らが言語表現の楽しさを感じ興味をもつようになる。</p> <p>・どの子どもの成長にとっても大切な絵本の種類や内容・読み聞かせの方法等について学んでいく。また、自分が興味を持った内容（絵本作り・読み聞かせの実践・ペープサート・人形劇等）について研究し、本学の来園児・幼稚園、保育所、小学校の子ども達を楽しませる企画や実践を行う。</p>		
到達目標	<p>・学生自らが絵本の楽しさや読み聞かせ及び言語表現の体験を広げ、子どもにとって絵本が好きでワクワク・ドキドキの感動体験になるような絵本の基本的知識を身につけることが出来る。</p> <p>・個々の興味のある表現内容を広げ、子ども達に実践する機会を持つことで、現場における実践力を養うことが出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 言語表現（絵本・人形劇・ペープサート等）について  第2回 絵本を通して育つこと  第3回 絵本解釈と読み聞かせについて  第4回 テーマの設定  第5回 テーマに合わせた文献調査・研究活動（1）  第6回 テーマに合わせた研究活動と準備  第7回 テーマに合わせた研究活動と準備・改善  第8回 幼稚園、保育所、小学校での実践  第9回 実践・研究の振り返り  第10回 テーマに合わせた企画・実践準備（2）  第11回 テーマに合わせた企画・検討  第12回 テーマごとの実践・評価  第13回 テーマごとの実践・評価・改善点の明確化  第14回 研究のまとめ  第15回 研究成果のまとめと発表</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>・授業への参加・取り組み 30%  ・研究成果の提出・発表等 70%</p>		
失格条件	<p>出席回数が授業時数の3分の2に満たない場合  発表や成果の提出がされなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・図書館やパソコン演習室・ALPS等を活用しテーマの情報を収集するよう努めること。（予習 2時間）  ・授業時間外に調査・企画・実践・読み聞かせの練習等各自が研究を進めること。（復習 2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>・絵本の解釈や読み聞かせなどの発表後は、個人及び全体に向けコメントをする。  ・課題提出後、コメントをつけて、個別に返却します。  ・ペープサートや人形劇などを演じた場合は、全体やグループに向け講評をする。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介する。		
その他	調査研究や実践のため、幼稚園や保育所・小学校で活動することもある。 相愛大学に来る幼児に実践することもある。		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	岩口 摂子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	音楽表現・造形表現・身体表現の中で、音楽が得意、現場では音楽の表現活動をたくさんしていきたいという人、一方、演奏は苦手だけど、音楽は好きという人にぜひ受講していただきたいと思っています。この演習では、乳幼児期の音楽発達やさまざまな音楽教育に関連したテーマを扱います。研究テーマの例としては、乳幼児の音楽的発達を踏まえた表現あそびの企画・実践、簡易楽器づくりや幼児向けの音楽教材の開発、異文化の音楽体験などが考えられます。保育現場での実践や多彩な音楽体験をとおして、卒業後、現場にスムーズに即応していけるような音楽的指導力を醸成します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を踏まえ、音楽の表現あそびを構想する力をつけられる。</li> <li>・実践に対する省察をとおして、問題の所在を把握し、解決方法や課題を発見できるようになる。</li> <li>・グループで取り組む実践活動では、各自が、集団での自分の役割を考えて行動しながら、プレゼン力を高めていくことができる。</li> <li>・さまざまなジャンルの音楽を受容できるようになる。</li> </ul>		
授業計画	(例示 選んだテーマによって柔軟に対応します) 第1回 オリエンテーション 第2～3回 参考になる文献の検索・収集 第4回 音楽を用いた保育企画(テーマ設定) 第5回 音楽を用いた保育企画(企画書の提出とカンファレンス) 第6～8回 実践に向けた準備 第9回 現場実践 第10回 実践についての省察と今後の課題 第11回 西洋音楽以外の音楽体験(ガムランを予定、ガムランについて概説) 第12回 西洋音楽以外の音楽体験Ⅰ(ガムラン演奏) 第13回 西洋音楽以外の音楽体験Ⅱ(ガムラン演奏) 第14回 ガムラン演奏のまとめ 第15回 全体の総括		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 課題への取り組み 50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業出席回数が3分の2以上に満たない場合</li> <li>・課題を提出しない場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ジャンルを超えていろいろな音楽を聞いてください。また保育に関するさまざまな問題、保育のトレンドにアンテナを張って、現場に近い感覚を養っておくこと。そのためには、現場にボランティアに行ったり、図書館や学科の実習指導室置き雑誌等を読んでマイノートをつけておくのもよいですね。予習と復習には、目安として180分程度をかけていただければ理想的です。		
課題へのフィードバック	各自が提出した課題について、履修者全員と担当教員とでカンファレンスを行い、問題点を整理しながら、自己への課題の深化を目指していきます。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業の中で紹介します。		
その他	相談の上、前期から始めていきたいと思えます		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	中西 利恵		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>現場で役立つ実践力の向上を図るため、以下にあげた展開例を参考に各自目標を設定し取り組む。</p> <p>①今までに学んだことや自分の得意な分野を生かし、地域貢献事業や交流事業、あるいはその他行事において、コミュニケーション力を高めるために可能な範囲で実践活動に学生スタッフとして参画して学ぶ。</p> <p>②就職に役立つ保育・教育現場で使える教材づくりと指導方法の工夫を行う。具体的には、様々な素材から遊びを創作したり、絵本や紙芝居など児童文化を活用したりして、子どもの感動体験の場づくりを考える。</p> <p>③保育・教育に関連する情報の発信について研究する。ブログやFBあるいは、壁新聞やお便りなど多様な情報発信方法を検討し、ドキュメンテーションゾーンの掲示物や大学ブログなど、実際に発信する情報の制作を試みる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における4年間の学業生活の成果として、人と人とのつながりを支援する力をさらに高めることができる。</li> <li>・方法として、教材作りや実践の企画や運営など試みることができる。</li> <li>・得意な分野、あるいは不得意な分野に焦点をあて、卒業に向けて（社会人に向けて）自信をつけることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 研究テーマの設定</p> <p>第3回 研究テーマの設定</p> <p>第4回 テーマにそって具体的な活動の企画</p> <p>第5回 テーマにそって具体的な活動の企画</p> <p>第6回 テーマにそって具体的な活動の企画</p> <p>第7回 テーマにそって具体的な活動の展開</p> <p>第8回 テーマにそって具体的な活動の展開</p> <p>第9回 テーマにそって具体的な活動の展開</p> <p>第10回 テーマにそって具体的な活動を展開</p> <p>第11回 テーマにそって具体的な活動を展開</p> <p>第12回 テーマにそって具体的な活動を展開</p> <p>第13回 研究成果の発表と振り返り</p> <p>第14回 研究成果の発表と振り返り</p> <p>第15回 総合的な振り返りとPDCA</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究の成果、発表等	50%	
	取り組み態度等	50%	
失格条件	<p>成果未提出の場合</p> <p>出席時数が15回の3分の2に達しない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>関心のある分野や領域の情報収集を積極的に行う。授業時間だけでなく、4回生は時間割にゆとりがあるので、空き時間を積極的に活用し、主体的に活動する時間を確保する。（予習復習4時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で、ICTを活用して全体に向けてコメントします。</li> <li>・課題提出後、コメントを付けて個別に返却します。</li> <li>・実践活動に対しては、映像を用いてコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて指導する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	4年間の学習のまとめとして各自がテーマを選び、文献での調査・実証調査（制作も含む）を併せて論文にまとめます。そして、その内容を視覚資料にまとめ、発表します。		
到達目標	大学での4年間の成果として、正しく情報を収集し、それらを分析し、そこから導き出される意見や提案を文章にまとめ、第三者に的確に伝えることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 課題の設定と研究方法 第3回 文献調査の検討① 第4回 実証調査の検討① 第5回 文献調査の検討② 第6回 実証調査の検討② 第7回 実証調査案の作成 第8回 中間報告 第9回 論文構成の指導 第10回 調査・研究の実施① 第11回 調査・研究の実施② 第12回 調査・研究の実施③ 第13回 研究成果のまとめ 第14回 発表資料の作成 第15回 研究発表と意見交換		
評価方法 (合計100%)	卒業研究の取り組み姿勢 30% 研究成果の発表 30% 研究成果の提出課題 40%		
失格条件	1.研究成果を期日までに提出しなかった場合 2.正当な理由なく、中間報告・研究発表時に欠席した場合 3.出席回数が実授業回数の3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	図書館やパソコン演習室、ALPS等を活用して関連資料を検索するなど、関心のあるテーマの情報を普段から収集するように努めて下さい。授業時間外の主体的な学びが必要です。（予習 3時間 復習 1時間）		
課題へのフィードバック	中間発表と最終発表時には、意見交換を行い、個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	使用しません		
著者名			
出版社			
参考書	個別に指示します。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	横島 三和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>教育原理や教育方法論等を学び印象に残っている内容や、実習やボランティア活動、日常目にする・耳にする子どもの姿から生まれた教育や学習に対する問い、あなたの教育の原風景をみつめることから、研究のテーマをみつけていくことになる。</p> <p>ゼミの進め方としては、まず、各自の問題意識に関連する文献や資料を調べて読んだり、ゼミ生や教員と語り合いながらテーマを絞る。次に、学びのデザインとその背景にある理論について、文献を通してつかむ。そして、文献や資料、実際に取り組まれている教育活動の事例から分かったこと、各自のボランティア活動の実践報告などをもとに、ゼミ内で議論しながら教育や学習への考えを深めていき、テーマに沿った研究レポートとしてまとめる。</p>		
到達目標	<p>①文献や資料・調査の結果を踏まえて、問題意識に即したテーマ・研究目的を設定することができる。</p> <p>②他の受講生との議論や研究成果の発表を通して、自らの研究テーマに対する考察を深め、研究レポートとしてまとめることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 レポート作成の基礎指導とテーマの設定  第3回 文献講読  第4回 先行研究の探索  第5回 研究計画の立案  第6回 進捗状況の報告と討議  第7回 文献収集と整理  第8回 調査の準備と実施  第9回 進捗状況の報告と討議  第10回 追調査の実施・分析  第11回 レポートの構成  第12回 レポートの推敲  第13回 レポートの仕上げ  第14回 研究成果の発表と討議  第15回 研究成果のふりかえり</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度、討議 40%</p> <p>卒業研究レポートの内容および発表 60%</p>		
失格条件	<p>出席回数が授業時数の3分の2に満たない場合  授業内で課せられた発表レポートを報告しない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>【予習】 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関連する文献の収集と精読</li> <li>・実践レポート、研究ノートの作成</li> <li>・教育実践の事例検討</li> <li>・授業の構想や教材作成</li> <li>・グループ討論の資料作成</li> <li>・研究レポートにむけた課題の整理</li> </ul> <p>【復習】 (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・討論会のふりかえり</li> <li>・研究レポートの作成と見直し</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの探究または研究計画立案の際には、授業内もしくはポータルサイトから個別にコメントする。また必要に応じて全体にむけてコメントする。</li> <li>・進捗状況の報告時には、授業内もしくはポータルサイトから個別にコメントする。また必要に応じて全体にむけてコメントする。</li> <li>・研究レポートの発表時には、授業内で個別及び全体に向けてコメントする。</li> <li>・研究レポートの提出後には、ポータルサイトから個別にコメントする。</li> </ul>		
教科書	<p>特に指定はしない。  必要に応じて適宜資料を配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦編「事例から学ぶ はじめての質的研究法 教育・学習編」東京図書  その他、研究テーマや研究の進展状況に合わせて適宜指示をする。</p>		
その他	<p>この授業では、研究を進める上で必要な文献精読や調査を課すので、時間外の調査活動に時間と労力を惜しまない学習態度が求められる。主体的な取り組みを期待する。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本演習では、心理学に関連するテーマのうち受講者が関心のあるものを選択し、それに沿って研究を進めていく。取り上げたテーマについての文献収集と同時に、調査・分析を行い、結果を考察してレポートにまとめる。また、自分の考えを相手（他の受講者）に伝える手段や方法を学ぶ。		
到達目標	(1)問題意識に即したテーマを設定し、文献収集や調査結果を踏まえてレポートとしてまとめることができる。 (2)必要に応じて、図表の作成や基礎的な統計処理ができる。 (3)他者の発表に対し、質問や建設的意見を述べるができる。 (4)他者の意見を取り入れ、自分の研究に活かすことができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実践課題のテーマ設定 第3回 レポート作成の基礎 第4回 文献収集と調査 (1) 文献・参考資料の収集方法 第5回 文献収集と調査 (2) 調査の方法・計画 第6回 文献収集と調査 (3) 調査の実践 第7回 データの処理 (1) データ分析の方法 第8回 データの処理 (2) データ分析の実践 第9回 データの処理 (3) 図表の作成 第10回 中間発表 第11回 レポート作成 (1) レポートの構成 第12回 レポート作成 (2) 内容の検討 第13回 プレゼンテーションの方法・計画 第14回 研究発表 (1) まとめ方 第15回 研究発表 (2) 実践		
評価方法 (合計100%)	(1)授業への取り組み姿勢：30% (2)発表内容：30% (3)レポート内容：40%		
失格条件	以下のうち1つでも該当すると失格となる。 (1)欠席が3分の1を超えた場合 20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。 (2)発表しなかった場合 (3)レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・自分でみつけたテーマに沿って、文献検索や調査の準備をする（予習2時間）。 ・授業で検討し、次回までの課題として自ら挙げた内容を実施する（復習2時間）。		
課題へのフィード バック	・グループ発表を通して全体に、必要な場合は個別に対応する。 ・レポートは全員分を配付し、個別にコメントする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	木村 久男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>教育や今日のこどもの問題など、興味を抱くテーマについて考察し、研究する。地域の子どもの自然体験活動や「わくわく遊び広場」などの活動を企画運営する。</p> <p>①ビオトープや相愛田んぼ、畑、相愛の森などの環境整備や自然環境を活用した教育活動に取り組んだり、園児や幼稚園・児童との自然体験活動に取り組む。</p> <p>②「あそび広場」など、地域のこどもも参加活動を企画し運営する。 個人で活動するだけでなく、他の卒研受講生と共に企画したり取り組むことを通して、先生力を高める。</p> <p>③教育実践や子どもの問題、興味ある教育活動について、興味を抱くテーマを探究する。</p>		
到達目標	<p>1.興味を抱くテーマについて研究したり、地域の子どもの自然体験活動や「わくわく遊び広場」などの活動を企画運営することで、自然への感性と環境構成力を高められる。</p> <p>2.共同して子ども参加の活動を企画し、参加者が満足できる会の運営ができる。</p> <p>3.子どもが遊びや自然体験を行うための環境づくりや条件整備を進める力をつけられる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、個別の研究、活動テーマ</p> <p>第2～3回 活動・調査計画の作成とビオトープの環境整備。夏野菜の収穫、調理</p> <p>第4～6回 「遊び広場」や子どもとの自然体験活動の企画運営。芋掘りと冬野菜の植え付け</p> <p>第7～9回 相愛山の畑や遊びの里山、ビオトープの環境整備の計画と活動の企画、立案</p> <p>第10～13回 次年度の活動の準備と振り返り。干し柿。冬野菜の栽培と調理の研究 個別の研究テーマの探究、実践。</p> <p>第14～15回 研究と活動のまとめと発表。春の花畑とバタフライガーデン準備 「学び場アンケート」と卒業文集</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業・活動への参加態度（企画調査や環境整備・栽培収穫調理や子どもとの活動を含め積極的に取り組んだかどうか） 70%</p> <p>卒業研究レポート発表。もしくは活動の成果発表。 30%</p>		
失格条件	<p>出席が3分の2未満の場合は欠格とする。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>子どもの自然体験や飼育栽培活動をの教育的意義についての学びを深め、支援・指導できる構成力や技能を育成するためには、環境に対する積極的なかわりが大切である。子ども発達学科の学生の学びの場であり、地域の子どもの自然体験を通じた交流の場であるビオトープや畑・里山の環境整備を進めるとともに、各自の問題意識にもとづいて、活動や調査を多面的にすすめ、創造性を発揮することが求められます。</p> <p>文献だけでなく、「こと・ひと・もの」との関わりのなかで、多様な調査方法や活動を通じて「問題」を探究してください。</p> <p>プレゼンテーションおよび論文や企画書の書き方の基本的なスキルを身につけるために、集団での検討や事前練習・準備にも自主的に取り組みましょう。（予習復習4時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>研究や活動内容の振り返りと交流を通して、課題へのフィードバックを行う。</p>		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	卒業研究	
英訳科目名		
担当教員名	前田 雅章	
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2 <技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4 <関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6
授業概要・ポイント	<p>民俗舞踊「大森みかぐら」の習得を行う。単に踊ることができるだけでなく、この踊りの歴史的文化的背景を文献を通して学習し、教材化並びに実践化の道を探る。</p> <p>「大森みかぐら」とは、岩手の民俗舞踊の一つである。1970年、岩手県衣川村立衣川小学校大森分校が、地域の民俗舞踊「大原神楽」を学校教育に取り入れ、その後児童全員に踊り継がれてきたものである。分校は廃校となったが保存会に踊り継がれ、この踊りの持つ芸術性、文化性の高さから、全国各地の保育所、幼稚園、小学校、中学校などで教材化され実践の輪が広がっている。</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生同士の意見の交流や教え合いを通して、自らの踊りの習得と踊りの質を高めていくことができる。</li> <li>・踊りを習熟する中で、日本の伝統的身体技法を獲得することができる。</li> <li>・実技と文献学習から自分の考えを卒業研究レポートにまとめ、発表することができる。</li> </ul>	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 踊りの型を覚える①</p> <p>第3回 踊りの型を覚える②</p> <p>第4回 踊りの型を覚え踊り込む①</p> <p>第5回 踊りの型を覚え踊り込む②</p> <p>第6回 踊りの習熟①</p> <p>第7回 踊りの習熟②</p> <p>第8回 中間実技発表会</p> <p>第9回 踊りの歴史、文化背景の研究と学習</p> <p>第10回 踊りの習熟③</p> <p>第11回 踊りの習熟④</p> <p>第12回 卒業実技発表会に向けた習熟練習（発表の構成も含む）①</p> <p>第13回 卒業実技発表会に向けた習熟練習（発表の構成も含む）②</p> <p>第14回 卒業実技発表会</p> <p>第15回 卒業研究レポートの発表会（踊りの歴史・文化の研究と踊りの習得についての成果や課題など）</p>	
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度、討議への参加態度	30%
	卒業研究レポートの内容及び発表	30%
	実技発表	40%
失格条件	<p>卒業研究レポートの未提出</p> <p>実技発表を行わなかった場合</p> <p>出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合</p>	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踊りの習得に向けた習熟練習を行う。</li> <li>・先行研究（文献、資料、実践記録）を読む・調べる・まとめるという作業を行う。</li> <li>・卒業研究レポートに向けて、自らの課題を設定し、先行研究の資料収集し、研究をまとめ発表するための自主学習を望む。（予習復習4時間）</li> </ul>	
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技の取り組みに対して全体または個別にコメントします。</li> <li>・実技発表後、全体に向けてコメントします。</li> <li>・最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。</li> </ul>	
教科書	不使用	
著者名		
出版社		
参考書	<p>「日本の子どもに日本の踊りを」 中森孜郎著 大修館書店 1990年</p> <p>「民舞に恋して」 民俗舞踊を子どもたちに 園田洋一著 新日本出版社 2015年</p>	
その他	受講人数、学生の興味・関心等に応じて、現地取材を行う場合がある。	
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。	
科目生への開講	なし	



ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	馬場 義伸		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>自分の問題意識に沿って調査・研究し、卒業研究レポートを作成する。必要に応じて、参考文献等を活用する。(例)</p> <p>①子どもの作品(作文、物語文、俳句、短歌など)をたくさん読み、子ども理解を深め文章にまとめる。</p> <p>②文学作品や文学作品の授業の研究をして、その成果を文章に纏める。</p> <p>③自分の深めたいことでテーマ設定をして、調査・研究した結果を文章にまとめる。</p> <p>〈これまでのテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新美南吉」文学世界の研究</li> <li>・私のお勧め絵本</li> <li>・ドラえもんについての一考察</li> <li>・児童文学作品創作「おねがいやさん」</li> </ul>		
到達目標	<p>①資料や作品を収集し読み分析して、子ども理解を深めることができる。</p> <p>②表現活動の手だてを考察して作品(論文、創作集、物語・俳句・短歌・詩など、自分史)を完成することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～3回 テキストを参考に、交代で報告し討論する。テーマの大よその設定をする。</p> <p>第4～5回 テキストを参考に、交代で報告し討論する。卒業研究テーマの概要を報告する。</p> <p>第6回 自分のテーマに沿ってお互いにレポート発表をする。</p> <p>第7回 研究テーマを具体化して、活動計画を立てる。</p> <p>第8～14回 計画に沿って、レポート(作品を含む)を作成する。作品集の作成を進める。</p> <p>第15回 レポート(作品を含む)を発表して交流する。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>①資料収集や授業への参加態度。作品の分析などに積極的に取り組んだかどうか(50%)</p> <p>②卒業研究レポート(作品を含む)の内容及び発表状況(50%)</p>		
失格条件	<p>出席が授業回数の3分の2に満たない場合失格</p> <p>卒業研究レポートを提出しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>各自のテーマにもとづいて資料を収集して読み、作品の分析や子ども理解(児童観)を深める。自らの創作体験を通じて、子どもへの表現活動の具体的手だてを考える。(予習・復習4時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>①研究生が交代でチューターになり、テキストを資料に報告して討論する。</p> <p>②お互いのテーマや進捗状況をレポートして、報告をする。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	身近なところで、子どもの言葉、くらし、表現に触れる努力をする。絵本や児童文学を読む。		
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名			
担当教員名	曲田 映世		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ◎	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>保育・福祉・教育現場においての子どもの取り巻く音環境を考える必要がある。その中でも保育者の“声”も重要な人的環境であるため、各自が問題意識を持ち、学びを深める。</p> <p>具体的には、保育・福祉・教育現場における音環境の事例の検討・発表を行う。また、保育者として求められる“声”について研究し、実践的な体験として合唱等の歌唱活動を通して、表現することの学びを深める。さらに、保育・福祉・教育現場の子ども達が楽しめる歌唱活動等に関する企画や実践について考える。</p>		
到達目標	<p>①音環境としての“声”について、問題意識を持つことができる。</p> <p>②保育・福祉・教育現場の子ども達が楽しめる企画や実践について考えることができる。</p> <p>③自らが表現する楽しさを感じ、興味を持つことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方等）</p> <p>第2回 子どもの取り巻く音環境の事例検討①（これまでの学びを踏まえて考える）</p> <p>第3回 子どもの取り巻く音環境の事例検討②（事例を通じてさらに学びを深める）</p> <p>第4回 保育者として求められる“声”についての研究</p> <p>第5回 歌唱活動についての研究</p> <p>第6回 テーマの設定（合唱等の歌唱活動における内容の設定）</p> <p>第7回 テーマに合わせた研究活動①</p> <p>第8回 テーマに合わせた研究活動②</p> <p>第9回 テーマに合わせた研究活動③</p> <p>第10回 研究活動の発表リハーサル</p> <p>第11回 研究成果の発表・ふり返り</p> <p>第12回 テーマに合わせた企画・実践準備</p> <p>第13回 テーマに合わせた企画・検討</p> <p>第14回 テーマに合わせた実践</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度 50%</li> <li>・研究成果の提出・発表等 50%</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が3分の2に満たない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とする。)</li> <li>・課題や成果の提出がされなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やパソコン室等を活用し、情報収集に努めること。（予習 1時間）</li> <li>・歌唱の練習や企画・実践等の研究を進めること。（復習 3時間）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動や課題については、個別および全体にコメントする。</li> <li>・テーマに合わせた実践については、個別にコメントする。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介する。		
その他	調査研究や実践のため、学外での活動することもある。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD103A03	期間	前期
授業科目名	子どものためのピアノ奏法（入門）		
英訳科目名	Piano playing style for children (Introduction)		
担当教員名	岩口 摂子、大橋 邦康、田口 友子、横山 由美子、山本 景子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	大学入学後にピアノを始める人を対象に、楽譜を読むのに必要な知識を学びながら、譜面の情報を音に変換するための基本的テクニックを学ぶ。また、同時開講の「音楽」とセットで習得することによって、読譜力の向上が見込めます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大譜表に慣れることができる。</li> <li>・5指の基本ポジションに慣れることができる。</li> <li>・指を単独で動かすことに慣れることができる。</li> <li>・右手と左手を協応させることを意識できる。</li> <li>・音休符の長さを守り、単純なリズムが正確に弾ける。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、ハ長調、5本指の位置ポジション</p> <p>第2～3回 ハ長調、Cメジャーコード</p> <p>第4回 ヘ長調、5本指の位置ポジション</p> <p>第5回 ヘ長調、Fメジャーコード</p> <p>第6回 ト長調、5本指の位置ポジション</p> <p>第7回 ト長調、Gメジャーコード</p> <p>第8回 低音部記号の音名、上拍・下拍</p> <p>第9回 高音部記号の音名、和音のエチュード</p> <p>第10回 派生音とブルース、等</p> <p>第11回 ペダルに触れる</p> <p>第12回 I、IV、Vの記号を見て、即、音に変換できるようにする。I⇔IV⇔Vで動かない指、移動する指がどれかを覚え、鍵盤移動がスムーズに行えるようにする。</p> <p>第13回 いろいろな分散型を使って、伴奏パートを変奏する。ト長調やヘ長調においても和音記号を見て、即、音に変換できるようにする。</p> <p>第14回 半期間の復習と応用</p> <p>第15回 既習の曲を人前で弾く</p>		
評価方法 (合計100%)	平生の練習度60% 公開での試験40%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業出席回数が3分の2以上に満たない場合</li> <li>・正当な理由なくテストを受験しなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	楽器の習得には不断の練習が欠かせません。必ず次に学習する曲を予習し、授業のあとは復習をしておくこと。授業の直前にまとめて練習するのではなく、一定量の練習を毎日する習慣をつけましょう。目安としては毎日、予習・復習を含めて30分以上練習するのがのぞましいです。		
課題へのフィード バック	個別のレッスン形式で授業をすすめます。		
教科書	1. バスティン ピアノライブラリー ピアノレッスンレベル I 2. ピアノが弾ける3つのステージ～楽しく無駄なくピアノをマスター～		
著者名	1. ジャームズ・バスティン著 日本バスティン研究会訳 2. 水戸博道・小山和彦・岩口摂子 共著		
出版社	1. 東音企画 2. 東音企画		
参考書			
その他	電子ピアノの練習用ヘッドフォンを持参すること		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD103A05	期間	前期
授業科目名	子どもと造形表現		
英訳科目名	Artistic Expression for Children		
担当教員名	川中 美津子、高田 学、川嶋 啓子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	造形表現の指導者として子どもの自由な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要です。 造形活動の指導に必要な材料、用具の扱い方について理解するとともに、その材料を活かした様々な表現について学びます。 また、実際に体験した造形活動をもとに、子どもたちの年齢や発育に合わせた企画・立案から計画書づくりまでの研究と学習を行います。		
到達目標	子どもと一緒に造形表現を楽しみながらも、多視点からの企画を立て進行することで、保育者・教育者に必要な造形表現の知識・技術・発想力の基礎を身につけることができますようになります。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：授業の意義と進行説明 素材研究／紙を知る(原料・種類・特性について)</p> <p>第2回 平面表現① 素材研究／絵の具を知る(透明／不透明水彩絵の具について・原料・色の混色)</p> <p>第3回 平面表現② 素材研究／絵の具を知る(道具の使い方・保管方法)</p> <p>第4回 平面表現③ 素材研究／光を使った技法(光の混色について)</p> <p>第5回 技法あそび① 素材研究／画材について(クレヨン・パステル・クレパス・コンテ)</p> <p>第6回 技法あそび② 素材研究／様々な版表現を使った技法あそび(凸版・凹版・平版・孔版の技法理解)</p> <p>第7回 立体表現① 素材研究／粘土を知る(紙粘土の性質・粘土の種類・技法)</p> <p>第8回 立体表現② 素材研究／粘土を知る(紙粘土の特性を活かした表現)</p> <p>第9回 室内装飾① 素材研究／平面から立体への工夫</p> <p>第10回 室内装飾② 素材研究／立体作品による室内装飾計画、及び制作</p> <p>第11回 作品鑑賞 素材研究／これまでに制作した作品の展示・講評</p> <p>第12回 共同制作 素材研究／共同作業の際の計画書づくり</p> <p>第13回 共同制作 素材研究／様々な材料の加工方法と道具の扱い方を知る①</p> <p>第14回 共同制作 素材研究／様々な材料の加工方法と道具の扱い方を知る②</p> <p>第15回 共同制作 素材研究／合評・異素材を使用した場合の片付けの方法</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 60% 指導計画書ファイル提出 40%		
失格条件	次のいずれかに該当すれば失格となります。 ・1/3以上の欠席があった場合 ・期末に資料をまとめたファイルを提出しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・子どもの表現活動に関する題材・資料・アイデアなどを、普段から集めたり記録する事を習慣としておいて下さい。(2時間) ・美術館などでアート作品の鑑賞を積極的に行うように心がけ、様々な表現を理解する目と感性を養っておくことも良いでしょう。(2時間)		
課題へのフィードバック	作品提出時お互いの作品を観る時間を設けており、その時に個別もしくは全体にコメントしています。		
教科書	使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	様々な画材・道具を使うので、動きやすく、汚れても良い格好で受講すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD105A01	期間	後期
授業科目名	子どもと健康		
英訳科目名	Area in Childcare and Education (Health)		
担当教員名	宮下 恭子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	領域「健康」は乳幼児の健康な心とからだを育て、子どもが自ら安全な生活を作り出す力を養うための教育・保育の領域であり、この指導の基礎となる知識、技能を身につけます。具体的には、幼児の心身の発達、基礎的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、大人とは違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解します。		
到達目標	1.幼児期の健康問題と健康や発達の意味を理解し、説明できるようになる。 2.幼児期の身体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できるようになる。 3.安全教育や健康管理のあり方を理解し、怪我の特徴や病気の予防について説明できるようになる。 4.乳幼児の運動の特徴を理解し、日常生活における動きの経験や身体活動の在り方を説明できるようになる。		
授業計画	第1回 乳幼児の健康課題と乳幼児を取り巻く生活環境 第2回 乳幼児の身体発達の特徴と生理機能の発達 第3回 乳幼児の生活習慣の獲得と生活リズムの形成およびその意義 第4回 乳幼児の安全意識や態度の育成と安全管理 第5回 乳幼児に起こりやすいけがの特徴と応急処置の基礎および病気の予防 第6回 乳幼児期の運動発達の特徴と運動コントロールおよび運動経験、それに対する配慮事項 第7回 日常生活の中における運動と社会変化と生活の中の運動経験、それに対する配慮事項 第8回 遊びを通して育む心身の機能に関する運動の在り方		
評価方法 (合計100%)	授業時の取り組み (50%)、課題、授業内テスト (50%)		
失格条件	授業の3分の1以上の欠席があること 課題の未提出 授業内テストの未受験などある場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業計画に沿って教科書を読んでおく、また、授業に関連するトピックスを読んでおくこと (予習2時間) 学修内容のまとめ、振り返りシートの整理 (復習2時間)		
課題へのフィード バック	課題等は採点后に返却するので、自己の学びが十分であったかどうか振り返ってみてください。		
教科書	(改定新版) 保育内容「健康」－生きる力をはぐくむ健やかな心とからだ－		
著者名	宮下恭子編著		
出版社	大学図書出版		
参考書	幼稚園教育要領解説 (平成29年3月31日告示 文部科学省)		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD105A02	期間	後期
授業科目名	子どもと人間関係		
英訳科目名	Area in Childcare and Education (Human Relationships)		
担当教員名	中井 清津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	幼児を取り巻く人間関係の社会的背景をとらえながら、乳幼児期においての人とかかわる力の育ちがそのあとに続く一人一人の人生を支える力となることを理解する。乳児期に関わる人との関係の大切さや、幼児期の生活や遊びを通して育まれる人とかかわる力の発達について、映像資料等を活用し、保育場面や具体的な幼児の姿を通して理解し、専門的な知識を身につける。		
到達目標	領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人とかかわる力の育ちについて、今日的な課題や発達など専門的な事項についての知識を身につける。 (1) 人間関係の現代的特徴や社会的背景を理解する。 (2) 幼児期の人間関係の発達について、関係発達論的視点から理解し、具体的に説明できる。 (3) 人間関係の育ちとして重要な自立心・協同性・道徳性・規範意識の芽生え・家庭・地域との連携等について理解し説明できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の概要 自分を知る、学生自身の自己理解と自己概念 第2回 現代社会の状況とこどもの人間関係の課題 幼児教育における育みたい資質能力と人間関係との関連 第3回 乳幼児期の発達課題 乳幼児期の自己意識の形成 乳幼児期の愛着の形成 第4回 自我の発達 幼児の自己理解と自己概念 第5回 人とかかわる力の育ちと保育 遊びの中で育つ人との関わり いざこざの場面理解とその意味 第6回 道徳性の芽生えや規範意識の形成 第7回 人とかかわりを豊かにするコミュニケーション力の発達 第8回 家庭・地域社会との連携・協働と人間関係の育ち		
評価方法 (合計100%)	演習・課題 (40%) 最終レポート (60%)		
失格条件	以下4つの場合が失格である。 (1) 授業内で示したあらゆる提出物が期限を守って提出されない場合 (2) 出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合 なお、この授業では、遅刻は3回で1回の休みと換算しますので、注意してください。 (3) 授業態度に問題のある場合 (4) 以下の「その他」の欄に記載した内容を守ることが出来なかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業前は、必ず教科書や配布資料を読み予習をすること。(予習 1時間) ・授業後は、学んだ内容を中心に復習し、紹介した参考文献を読むなど自主的に学習をする。 ・課題が出た場合は、授業中の指示に従って提出できるようにしておく。(復習 3時間)		
課題へのフィード バック	・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。 ・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 ・グループワークは、各グループの発表後講評します。		
教科書	①保育所保育指針解説 平成30年3月 ②幼稚園教育要領解説 平成30年3月 ③幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説 平成30年3月		
著者名	①厚生労働省 ②文部科学省 ③内閣府、文部科学省、厚生労働省		
出版社	フレーベル館		
参考書	・授業中に適時資料を配布する。 ・保育内容 人間関係 (2018年 光生館 )		
その他	・教科書や配布された資料プリントなど、必要とされたものを毎回持ってくること。 ・欠席や遅刻をする場合は授業で指示するとおりに必ず連絡すること。		
備考	幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD105A03	期間	後期
授業科目名	子どもと環境		
英訳科目名	Area in Childcare and Education (Environment)		
担当教員名	進藤 容子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	子どもを取り巻く環境の諸側面を取り上げ、それらの子どもの発達への重要性を考えることを軸に授業を進める。特に、学生自身が環境と関わる体験的活動を通して、思考や科学的概念を形成する過程の意識化をはかり、感性を養う。		
到達目標	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。 (1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解し、説明できる。 (2) 幼児の思考・科学的概念の発達を理解し、説明できる。 (3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりをの発達を理解し、説明できる。		
授業計画	第1回 授業ガイダンス 授業の一般目標、到達目標、授業の進め方について 「季節のあそびノート」の作成について 現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題 第2回 乳幼児期の発達における環境との関わり 認知的発達の特徴の概要 第3回 子どもの物理的、数量・図形との関わり (1) 発達への重要性を実践例から考える 第4回 子どもの物理的、数量・図形との関わり (2) おもちゃの作成を通して思考過程の形成や身体の動き、気持ちを意識する 第5回 子どもの自然との関わり (1) 発達への重要性を実践例から考える 第6回 子どもの自然との関わり (2) キャンパス探索を通して思考過程の形成や身体の動き、気持ちを意識する 第7回 子どもの標識・文字との関わり 子どもを取り巻く標識・文字環境とそれらに関わる活動を考える 第8回 子どもの情報・施設との関わり 子どもの生活に関係の深い情報・施設とそれらに関わる活動を考える		
評価方法 (合計100%)	小レポート (毎時の理解度) (30%) 季節のあそびノート (資料検索とまとめ方の適切さ) (20%) レポート (テーマへの関心の的確さ・考察力) (40%) 小テスト (領域「環境」の基礎知識) (10%)		
失格条件	出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領の確認 (1回の授業に対し事前学修1時間)。</li> <li>・事後学修課題 (1回の授業に対し事後学修1時間)。</li> <li>・その他、季節のあそびノートの作成、発表の準備 (1回の授業に対し2時間程度)。</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小レポートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。</li> <li>・レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。</li> </ul>		
教科書	1.幼稚園教育要領解説 (平成29年3月31日告示) 2.「あそんでまなぶわたしとせかい」子どもの育ちと環境のみみつ		
著者名	1.文部科学省 2.佐治晴夫、勝間田明子、細田直哉		
出版社	1.フレーベル館 2.株式会社みらい		
参考書	保育所保育指針解説書 (平成29年3月31日告示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成29年3月31日告示 内閣府/文部科学省/厚生労働省)		
その他	20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CD105A04	期間	後期
授業科目名	子どもと言葉		
英訳科目名	Area in Childcare and Education (Lungage)		
担当教員名	花房 ナオミ		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	①領域「言葉」のねらいと内容や言葉の発達過程を理解すること、②乳幼児の言葉を育てる保育者の言葉かけや援助のあり方を学ぶこと、③豊かな言葉を育むために児童文化財を活用した教材研究やその具体的な指導法などを身につけることを目的とする。授業は具体的な事例や視聴覚教材を活用するとともにグループ討議を交えた講義と、児童文化財の教材研究や実技演習にも積極的に取り組み、理論と実践を結ぶ学びを展開する。		
到達目標	子どもが言葉を獲得する過程、一人ひとりの発達に応じた適切な援助や保育者の役割を理解することができる。豊かな言葉を育む児童文化財への関心を高め、活用する力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 乳幼児期の健康課題と乳幼児を取り巻く生活環境 第2回 乳幼児の身体発達の特徴と生理的機能の発達 第3回 乳幼児の生活習慣の獲得と生活リズムの形成およびその意義 第4回 幼児の安全意識や態度の育成と安全管理 第5回 幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置の基礎および病気の予防 第6回 乳幼児期の運動発達の特徴と運動コントロール力及び多様な動きの関係 第7回 日常生活の中における運動と社会変化と生活の中の運動経験、それに対する配慮事項 第8回 遊びを通して育む運動の在り方		
評価方法 (合計100%)	実技演習課題への積極的参加、提出課題の評価、内容理解の確認等による採点方法 授業への参加態度 10% 提出課題 10% 実践（発表）40% 内容理解の確認 40%		
失格条件	出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から児童文化財等へ関心を持ち、積極的にかかわり、実践をすること。</li> <li>・授業で学んだ技術を、積極的に反復して練習し、活用すること。</li> <li>・子どもの理解を深め、言葉を育てるためにどのように言葉かけをすればよいか、日常生活の中で観察し、実践を試みることを。</li> <li>・パネルシアターの内容を考えておくこと。（予習1時間・復習1時間）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	レポートには、評価、メッセージを随時提示する。保育実践発表時、口頭で評価、反省点を伝える。		
教科書	教科書 保育者をめざす人の保育内容「言葉」 教材 パネルシアター PRIPRI		
著者名	著者名 駒井美智子 編		
出版社	株式会社みらい／世界文化社		
参考書	参考書 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説書」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		
その他	特になし		
備考	保育士・幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	CD107B04	期間	後期
授業科目名	子どもと表現		
英訳科目名	Area in Childcare and Education (Expression)		
担当教員名	曲田 映世、川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。		
到達目標	<p>1.子どもの表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>(1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>(2)表現を生成する過程について理解している。</p> <p>(3)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>2.身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>(1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>(2)身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。</p> <p>(3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>(4)協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>(5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 領域「表現」のねらい及び内容の理解 (担当：曲田)</p> <p>第2回 子どもの表現の発達の理解 (担当：曲田)</p> <p>第3回 素材との対話 ―素材の特性を生かして― (担当：川中)</p> <p>第4回 生活との対話 ―多感覚性を生かして― (担当：川中)</p> <p>第5回 文化との対話 ―文化的な表現をもとに― (担当：川中)</p> <p>第6回 環境との対話 (担当：曲田)</p> <p>第7回 身のまわりの音・声・楽器による音楽遊び (担当：曲田)</p> <p>第8回 イメージを音に表現する (担当：曲田)</p>		
評価方法 (合計100%)	全授業を通じて、学習内容の様子や気づきをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に、学びの過程を評価する (80%) 課題発表 (20%)		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物を提出しない場合</li> <li>出席回数が3分の2に満たない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回の授業内容について教科書や配布資料を読んでおくこと。(予習1時間)</li> <li>授業内での指示された課題についてレポートを作成すること。(復習2時間)</li> <li>参考図書・資料等を活用し、積極的に情報収集すること。(復習1時間)</li> </ul>		
課題へのフィード バック	レポート、課題発表に関しては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	①「幼稚園教育要領解説」 ②「保育所保育指針解説」 ③「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
著者名	①文部科学省 ②厚生労働省 ③内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①フレーベル館 ②フレーベル館 ③フレーベル館		
参考書	授業時に紹介します。		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	人間発達論		
英訳科目名			
担当教員名	渡部 美穂子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	現在の発達心理学とは、胎児期から青年期、成人期のみならず中年期、高齢期および死の瞬間まですべての段階における生涯の変化をとらえている。本講義では、それぞれの段階における発達の特徴、個人内の変化や社会化の過程について理解を深めることを目的とする。さらに、高齢化社会における介護や看取りといった、人生の晩年に関わるさまざまな問題をテーマにした講義、ディスカッションなどを通じて、自分だけでなく他者の人生についても深く考えてもらいたい。		
到達目標	生涯発達の観点から、人の行動や思考の特徴を理解できる。 自分の考えだけにとらわれず、他者の視点に立って物事をとらえることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 生涯発達心理学の基礎 第3回 胎児期・乳児期 第4回 幼児期 第5回 児童期前期 第6回 児童期後期 第7回 青年期前期 第8回 青年期後期 第9回 ここまでのまとめと確認 第10回 成人期前期 第11回 成人期中期 第12回 成人期後期 第13回 高齢化社会における問題（1） 看護、介護 第14回 高齢化社会における問題（2） 看取り 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（授業内に指示する課題への取り組みを含む） 30% 授業内容の理解度（試験）：70%		
失格条件	1.最終の試験を受験しなかった場合 2.出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業後には、板書したものをもとに内容を確認しながらノートをまとめる（復習3時間） 指示した課題に取り組むとともに、授業内で取り上げる社会問題についての知識をメディアなどから積極的に取り入れるようにする（予習1時間）		
課題へのフィードバック	授業において、課題へのフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	FN100A01	期間	前期
授業科目名	ベーシックセミナー		
英訳科目名	Basic Seminar		
担当教員名	今井 ももこ		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本科目は新入生が安全・健康で有意義な大学生活を過ごせるように、大学生としての基本的な学びの姿勢を身につけることを目標とする。また、「栄養士・管理栄養士」について理解を高めるだけでなく、相愛大学発達栄養学科について理解することも目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神および相愛大学発達栄養学科の沿革について、理解する。</li> <li>・管理栄養士の仕事の内容を深く理解し、自らの目標とする管理栄養士像を見出す。</li> <li>・テーマに応じて文章をまとめることができる。</li> <li>・管理栄養士に必要な基礎的な生物、化学、数学、国語の知識を身につける。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 大学での学びを理解する：ベーシックセミナーガイダンス 建学の精神とはなに？相愛大学発達栄養学科とはどんなところ？ 栄養士・管理栄養士を目指して4年間どう学ぶ？</p> <p>第2回 大学での学びを理解する：栄養士・管理栄養士を知ろう 先輩たちの学び方、進路を聞く</p> <p>第3回 大学での学びを理解する：大学施設(図書館)の利用方法 (図書の利用方法・検索の方法等)</p> <p>第4回 大学での学びを理解する：健康で有意義な学生生活について、考えよう</p> <p>第5回 大学での学びを理解する：災害時の安全と学生生活について、考えよう</p> <p>第6回 大学での学びを理解する：大学の様々な行事について、考えよう</p> <p>第7回 大学での学びを理解する：それぞれが考えた大学での学びを、プレゼンテーションしよう</p> <p>第8回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(1) 事前教育の復習と理解</p> <p>第9回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(2)</p> <p>第10回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(3) 事前教育の復習と理解</p> <p>第11回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(4)</p> <p>第12回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(5) 事前教育の復習と理解</p> <p>第13回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(6)</p> <p>第14回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(7) 基礎教科の力をテストする</p> <p>第15回 管理栄養士への道：栄養士実力試験、管理栄養士国家試験を解いてみる</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と基礎学力テストの点数：50% 感想文、レポート、課題などの点数：50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が2/3以上に満たない場合</li> <li>・指定された提出物が未提出の場合</li> <li>・5分以上の遅刻は欠席</li> <li>・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席</li> <li>・基礎学力テスト未受験</li> </ul> <p>※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	日常生活の食や栄養についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習をすること(予習・復習各2時間)。		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文などは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。</li> <li>・プレゼンテーション課題は事前に担当教員が内容を確認し、時間配分や強調点などを指導する。</li> <li>・基礎教科の学習における小テストの順位と結果は、1回生用掲示板に掲示するとともに、講義のなかでも内容を解説する。</li> </ul>		
教科書	なし		
著者名	なし		
出版社	なし		
参考書	必要に応じてプリントを配布しますので、閉じるためのファイルが必要です。		
その他	少人数に分かれて授業を実施の際には、わからないことがあれば積極的に質問してください。授業の内容を十分に理解しましょう。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN100A01	期間	前期
授業科目名	ベーシックセミナー		
英訳科目名	Basic Seminar		
担当教員名	庄條 愛子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	本科目は新入生が安全・健康で有意義な大学生活を過ごせるように、大学生としての基本的な学びの姿勢を身につけることを目標とする。また、「栄養士・管理栄養士」について理解を高めるだけでなく、相愛大学発達栄養学科について理解することも目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神および相愛大学発達栄養学科の沿革について、理解する。</li> <li>・管理栄養士の仕事の内容を深く理解し、自らの目標とする管理栄養士像を見出す。</li> <li>・テーマに応じて文章をまとめることができる。</li> <li>・管理栄養士に必要な基礎的な生物、化学、数学、国語の知識を身に付ける。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 大学での学びを理解する：ベーシックセミナーガイダンス 建学の精神とはなに？相愛大学発達栄養学科とはどんなところ？ 栄養士・管理栄養士を目指して4年間どう学ぶ？</p> <p>第2回 大学での学びを理解する：栄養士・管理栄養士を知ろう 先輩たちの学び方、進路を聞く</p> <p>第3回 大学での学びを理解する：大学施設(図書館)の利用方法 (図書の利用方法・検索の方法等)</p> <p>第4回 大学での学びを理解する：健康で有意義な学生生活について、考えよう</p> <p>第5回 大学での学びを理解する：災害時の安全と学生生活について、考えよう</p> <p>第6回 大学での学びを理解する：大学の様々な行事について、考えよう</p> <p>第7回 大学での学びを理解する：それぞれが考えた大学での学びを、プレゼンテーションしよう</p> <p>第8回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(1) 事前教育の復習と理解</p> <p>第9回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(2)</p> <p>第10回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(3) 事前教育の復習と理解</p> <p>第11回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(4)</p> <p>第12回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(5) 事前教育の復習と理解</p> <p>第13回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(6)</p> <p>第14回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(7) 基礎教科の力をテストする</p> <p>第15回 管理栄養士への道：栄養士実力試験、管理栄養士国家試験を解いてみる</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と基礎学力テストの点数：50% 感想文・レポート・課題などの点数：50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が2/3以上に満たない場合</li> <li>・指定された提出物が未提出の場合</li> <li>・5分以上の遅刻は欠席</li> <li>・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席</li> <li>・基礎学力テスト未受験</li> </ul> <p>※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	日常生活の食や栄養についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習をすること(予習・復習各2時間)。		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文などは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。</li> <li>・プレゼンテーション課題は事前に担当教員が内容を確認し、時間配分や強調点などを指導する。</li> <li>・基礎教科の学習における小テストの順位と結果は、1回生用掲示板に掲示するとともに、講義のなかでも内容を解説する。</li> </ul>		
教科書	なし		
著者名	なし		
出版社	なし		
参考書	必要に応じてプリントを配布しますので、閉じるためのファイルが必要です。		
その他	少人数に分かれて授業を実施の際には、わからないことがあれば積極的に質問してください。授業の内容を十分に理解しましょう。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN100A01	期間	前期
授業科目名	ベーシックセミナー		
英訳科目名	Basic Seminar		
担当教員名	金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	本科目は新入生が安全・健康で有意義な大学生活を過ごせるように、大学生としての基本的な学びの姿勢を身につけることを目標とする。また、「栄養士・管理栄養士」について理解を高めるだけでなく、相愛大学発達栄養学科について理解することも目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神および相愛大学発達栄養学科の沿革について、理解する。</li> <li>・管理栄養士の仕事の内容を深く理解し、自らの目標とする管理栄養士像を見出す。</li> <li>・テーマに応じて文章をまとめることができる。</li> <li>・管理栄養士に必要な基礎的な生物、化学、数学、国語の知識を身につける。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 大学での学びを理解する：ベーシックセミナーガイダンス 建学の精神とはなに？相愛大学発達栄養学科とはどんなところ？ 栄養士・管理栄養士を目指して4年間どう学ぶ？</p> <p>第2回 大学での学びを理解する：栄養士・管理栄養士を知ろう 先輩たちの学び方、進路を聞く</p> <p>第3回 大学での学びを理解する：大学施設(図書館)の利用方法 (図書の利用方法・検索の方法等)</p> <p>第4回 大学での学びを理解する：健康で有意義な学生生活について、考えよう</p> <p>第5回 大学での学びを理解する：災害時の安全と学生生活について、考えよう</p> <p>第6回 大学での学びを理解する：大学の様々な行事について、考えよう</p> <p>第7回 大学での学びを理解する：それぞれが考えた大学での学びを、プレゼンテーションしよう</p> <p>第8回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(1)事前教育の復習と理解</p> <p>第9回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(2)</p> <p>第10回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(3)事前教育の復習と理解</p> <p>第11回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(4)</p> <p>第12回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(5)事前教育の復習と理解</p> <p>第13回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(6)</p> <p>第14回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(7)基礎教科の力をテストする</p> <p>第15回 管理栄養士への道：栄養士実力試験、管理栄養士国家試験を解いてみる</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と基礎学力テストの点数：50% 感想文、レポート、課題などの点数：50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が2/3以上に満たない場合</li> <li>・指定された提出物が未提出の場合</li> <li>・5分以上の遅刻は欠席</li> <li>・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席</li> <li>・基礎学力テスト未受験</li> </ul> <p>※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	日常生活の食や栄養についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習をすること(予習・復習各2時間)。		
課題へのフィード バック	感想文などは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。 プレゼンテーション課題は事前に担当教員が内容を確認し、時間配分や強調点などを指導する。 基礎教科の学習における小テストについては、講義のなかでも内容を解説する。		
教科書	なし		
著者名	なし		
出版社	なし		
参考書	必要に応じてプリントを配布しますので、閉じるためのファイルが必要です。		
その他	少人数に分かれて授業を実施の際には、わからないことがあれば積極的に質問してください。 授業の内容を十分に理解しましょう。		
備考	病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN100A01	期間	前期
授業科目名	ベーシックセミナー		
英訳科目名	Basic Seminar		
担当教員名	小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本科目は新入生が安全・健康で有意義な大学生活を過ごせるように、大学生としての基本的な学びの姿勢を身につけることを目標とする。また、「栄養士・管理栄養士」について理解を高めるだけでなく、相愛大学発達栄養学科について理解することも目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神および相愛大学発達栄養学科の沿革について、理解する。</li> <li>・管理栄養士の仕事の内容を深く理解し、自らの目標とする管理栄養士像を見出す。</li> <li>・テーマに応じて文章をまとめることができる。</li> <li>・管理栄養士に必要な基礎的な生物、化学、数学、国語の知識を身につける。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 大学での学びを理解する：ベーシックセミナーガイダンス 建学の精神とはなに？相愛大学発達栄養学科とはどんなところ？ 栄養士・管理栄養士を目指して4年間どう学ぶ？</p> <p>第2回 大学での学びを理解する：栄養士・管理栄養士を知ろう 先輩たちの学び方、進路を聞く</p> <p>第3回 大学での学びを理解する：大学施設(図書館)の利用方法 (図書の利用方法・検索の方法等)</p> <p>第4回 大学での学びを理解する：健康で有意義な学生生活について、考えよう</p> <p>第5回 大学での学びを理解する：災害時の安全と学生生活について、考えよう</p> <p>第6回 大学での学びを理解する：大学の様々な行事について、考えよう</p> <p>第7回 大学での学びを理解する：それぞれが考えた大学での学びを、プレゼンテーションしよう</p> <p>第8回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(1) 事前教育の復習と理解</p> <p>第9回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(2)</p> <p>第10回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(3) 事前教育の復習と理解</p> <p>第11回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(4)</p> <p>第12回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(5) 事前教育の復習と理解</p> <p>第13回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(6)</p> <p>第14回 管理栄養士として基礎学力を高める：基礎教科の学習(7) 基礎教科の力をテストする</p> <p>第15回 管理栄養士への道：栄養士実力試験、管理栄養士国家試験を解いてみる</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と基礎学力テストの点数：50% 感想文、レポート、課題などの点数：50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が2/3以上に満たない場合</li> <li>・指定された提出物が未提出の場合</li> <li>・5分以上の遅刻は欠席</li> <li>・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席</li> <li>・基礎学力テスト未受験</li> </ul> <p>※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	日常生活の食や栄養についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習をすること(予習・復習各2時間)。		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文などは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。</li> <li>・プレゼンテーション課題は事前に担当教員が内容を確認し、時間配分や強調点などを指導する。</li> <li>・基礎教科の学習における小テストの順位と結果は、1回生用掲示板に掲示するとともに、講義のなかでも内容を解説する。</li> </ul>		
教科書	なし		
著者名	なし		
出版社	なし		
参考書	必要に応じてプリントを配布しますので、閉じるためのファイルが必要です。		
その他	少人数に分かれて授業を実施の際には、わからないことがあれば積極的に質問してください。 授業の内容を十分に理解しましょう。		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN202A01	期間	後期
授業科目名	健康管理論		
英訳科目名	Health Management		
担当教員名	古川 和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	健康は自らの希望する人生設計へ到達するために欠かせない要素の一つである。自分の健康は自分で守る、そのためには専門的な知識の提供を受け、社会資源を効率よく活用することが求められている。本講義では、健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因としての社会・環境に関する基礎的知識を学ぶ。また人々の健康状態とその規定要因を測定・評価し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方とその取り組みについて理解を深める。さらに保健・医療・福祉制度や関係法規についての基礎的知識も習得する。		
到達目標	①健康に対して、幅広い視点から考える習慣が身につけることができる。 ②社会における人間を取りまく健康問題に関心を持つことができる。 ③健康状態を評価するための指標について説明することができる。		
授業計画	第1回 社会と健康 A 健康の概念 B 公衆衛生の概念 C 公衆衛生・予防医学の歴史 第2回 健康、疾病、行動に関わる統計資料 A 保健統計 B 人口静態統計 第3回 健康、疾病、行動に関わる統計資料 C 人口動態統計 第4回 健康、疾病、行動に関わる統計資料 D 生命表 第5回 健康、疾病、行動に関わる統計資料 E 傷病統計 ★到達度確認1 第6回 健康状態・疾病の測定と評価 A 疫学概念 第7回 健康状態・疾病の測定と評価 B 疫学指標とバイアスの制御 第8回 健康状態・疾病の測定と評価 C 疫学の方法 第9回 健康状態・疾病の測定と評価 D スクリーニング E 根拠（エビデンス）に基づいた保健対策（EBM） ★到達度確認2 第10回 生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策・主要疾患の疫学と予防対策 A 健康に関する行動と社会 第11回 生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策・主要疾患の疫学と予防対策 B 身体活動、運動 第12回 生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策・主要疾患の疫学と予防対策 C 喫煙行動 D 飲酒行動 第13回 生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策・主要疾患の疫学と予防対策 第14回 主要疾患の疫学と予防対策・保健・医療・福祉の制度 第15回 産業・学校・国際保健等 ★到達度の確認3		
評価方法 (合計100%)	到達度確認試験(3回分) 60% 授業への参加態度 30% 課題レポート 10%		
失格条件	出席が2/3以上に満たないもの 20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習2時間（90分）・復習2時間（90分） 社会と環境は、日常生活での出来事に関連する内容も多いので、日頃から新聞等からの情報を得るようにする。		
課題へのフィード バック	・確認テストは授業内で解説し返却する。 ・3回の到達度の確認も授業内で解説する。		
教科書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆衛生学・健康管理概論（社会・環境と健康）		
著者名	武山英麿、中谷弥栄子		
出版社	第一出版		
参考書			
その他	特になし		
備考	大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	コミュニケーション論		
英訳科目名			
担当教員名	実光 由里子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>私たちは幼い頃から、周囲の人たちとのコミュニケーションを通して人間関係を築く術を身につけていく。現代社会においては、地域社会とのつながりや世代を超えた交流が減少する反面、親しい間柄・気の合う仲間だけでのSNSによる交流が増加するなどの変化が生じている。また、他者の意見に簡単に流されたり、反対に過剰に攻撃するなど、コミュニケーション力（りょく）の低下がみられることも指摘されている。この授業では、心理学、特に社会心理学や臨床心理学の視点から、コミュニケーションについての理論を学ぶ。また、自分自身と他者の理解につとめ、人間関係やコミュニケーションに関する様々な問題について熟考することによって、日常生活で生じる困惑や葛藤への対処方法についても考える。</p>		
到達目標	<p>(1)よい良い人間関係を築くための基本的な知識や技法を理解することができる。  (2)自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションに活かすことができる。  (3)人間関係における諸問題に関心を持ち、自分の意見や考えを伝えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションの基本構造  第2回 自己理解：自己概念をつくるもの  第3回 他者理解：思い込みをつくるもの  第4回 人間関係に関する社会心理学的研究  第5回 コミュニケーションにおける個人差  第6回 対人行動・態度  第7回 人間関係の維持・進展と崩壊のプロセス  第8回 コミュニケーションの文化的差異  第9回 怒りの感情表出とコミュニケーション  第10回 援助的コミュニケーション  第11回 役割理論とパーソナリティ  第12回 コミュニケーション力向上へのスキル (1) アサーティブなコミュニケーション  第13回 コミュニケーション力向上へのスキル (2) 雑談力  第14回 コミュニケーションにおける諸問題  第15回 まとめと内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>(1)提出課題（毎回授業後）：30%  (2)試験：70%</p>		
失格条件	<p>以下のうち1つでも該当すると失格となる。  (1)欠席が3分の1を超えた場合  20分以内は遅刻と認め、遅刻3回で欠席1回とみなす。  (2)未提出の課題が3分の1を超えた場合  (3)試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 次回の内容を示したシートを元に、自分なりの考えをまとめる（予習：1時間）。  ・ 返却された課題のまとめ直し、授業内で学んだ内容を確認する（復習：3時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・ 提出課題は次回の授業時間内に返却し解説する。  ・ 配付資料およびスライド資料はポータルサイトに掲載し、課題のポイントを示す。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング		期間	後期
授業科目名	文化と社会		
英訳科目名			
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> -	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> -
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	日本の文化は日本の社会の中で生まれ育ってきました。このように、文化は、ある社会における共通認識、共通言語ということが出来ます。戦後の物資の乏しかった時期から高度経済成長期、バブル期そしてバブルの崩壊、経済の変動と科学技術の進展により、私たちを取り巻く社会は60年余りの間に大きく変化してきました。それに伴い、私たちの生活も大きく変化しました。 本講義では、経済成長と共に変化してきた私たちの生活を通して、文化と社会の変化について考察します。		
到達目標	文化と社会のかかわりについて、知ることができる。		
授業計画	第1回 本授業について 第2回 日本人の生活と文化 第3回 戦後の都市生活と文化 第4回 高度経済成長期の社会と文化 第5回 東京オリンピックと大阪万博 第6回 ファーストフードと歩行者天国 第7回 バブル期の社会と文化 第8回 バブル崩壊後の社会と文化 第9回 これからの社会と文化 第10回 まとめと理解の確認1 第11回 暦ってなに？ 第12回 暦を知ろう①～調べる～ 第13回 暦を知ろう②～まとめる～ 第14回 暦を知ろう③～発表する～ 第15回 まとめと理解の確認2		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 小レポート 30% 最終レポート 40%		
失格条件	1.レポートを提出していない場合 2.実授業回数の2/3以上の出席回数のない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<予習> 図書館やパソコン演習室を活用して、食に係わる新聞記事や関連資料を調べるなど、積極的に情報を取り入れるように務めて下さい。(予習 2時間) <復習> 授業で取り上げた内容をまとめて下さい。(復習 2時間)		
課題へのフィード バック	小レポートについては、授業時間内に個別もしくは全体にコメントします。 最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。		
教科書	特に使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて、紹介します。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	FN100A02	期間	前期
授業科目名	食育総論		
英訳科目名	General introduction on food education		
担当教員名	古川 和子、山北 人志、鷺岡 和徳、上田 秀樹、湯木 潤治、金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	近年、国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。そこで、食育について国の基本方針・施策を中心に引き上げ、その上で、朝食欠食や生活習慣病等の現代的課題について統計資料を活用し展開するとともに、学校・地域、福祉施設・医療機関、外食・食品企業など各分野で取り組まれている食育について解説する。		
到達目標	①国の食育に関する方針や施策、食育の現代的課題について説明できる。 ②幼児・学童期から高齢期等生涯にわたるライフステージ別食育、地域や医療機関及び福祉施設等における食育、伝統的な食文化、「食事のこぼれ」について理解する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、食育基本法・食育推進基本計画について（上田、古川、金石） 第2回 地域における食育の課題と実践—大阪府における食育—（上田） 第3回 食育とビジネス—商品政策と「業態」への転化策—（鷺岡） 第4回 成人を対象とした食育の課題と実践—事業所給食—（古川） 第5回 福祉施設等における食育の課題と実践—高齢者福祉施設—（古川） 第6回 地域における食育と実践（地域活動栄養士会）—（古川） 第7回 児童福祉施設における食育の課題と実践—保育所—（古川） 第8回 食の生産と流通における食育の課題と実践（上田・古川） 第9回 和食—日本人の伝統的な食文化—（湯木） 第10回 成長期の家庭・学校における食育の課題と実践—学校給食の充実—（山北） 第11回 成長期の家庭・学校における食育の課題と実践—学校における食に関する指導の展開—（山北） 第12回 成長期の家庭・学校における食育の課題と実践 —子ども・若者、その保護者に対する食育推進—（山北） 第13回 在宅医療における食育の課題と実践—訪問栄養指導—（金石） 第14回 医療機関等における食育の課題と実践—予防医学に向けた展開（悪性腫瘍）—（金石） 第15回 医療機関等における食育の課題と実践—予防医学に向けた展開（糖尿病）—（金石）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度20% レポート課題80%		
失格条件	欠席回数が5回以上（5回を含む） ただし、20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・料理教室等のボランティア活動を通して、食育推進活動の実践を積極的に体験しておくこと。 ・インターネット、新聞などのマスメディアで食育に関する情報を収集しておくこと。 ・講義終了後は、理解が不十分な内容については配布資料等をよく読み理解を深めること。 (予習時間2時間、復習時間2時間)		
課題へのフィード バック	・課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	講義の中で紹介する。		
その他	外部講師の都合により日程等の変更もある。		
備考	大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（古川） 栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（山北） 調理師、食品衛生指導員および第2種衛生管理者としての実務経験をもとに、この授業をすすめます。（鷺岡）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN100A03	期間	通年集中
授業科目名	産官学食育実践演習		
英訳科目名	General exercises of food education with collaboration to industry, government and academia		
担当教員名	古川 和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本演習は、食育の実践に関する講義・演習を多方面から行う科目として、オムニバス方式により実施する。産官学が連携協働した具体的実践を通してのポピュレーションアプローチという観点から教育を行うとともに、さらに、食育実践のために不可欠な情報獲得および処理のための教育を行う。		
到達目標	産官学が連携した具体的な実践活動を体験することにより食育の実践力を習得する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、産官学連携食育の意義 第2回 食品製造企業における食育活動（講義） 第3回 食品製造企業における食育（企業商品を使った調理実習） 第4回 食品製造企業における食育（試食・グループワーク） 第5回 食品製造企業における商品開発（講義） 第6回 エネルギー企業における次世代向き活動（講義） 第7回 エネルギー企業におけるRiceサイエンスセミナー（エコクッキング：講義） 第8回 エネルギー企業におけるRiceサイエンスセミナー（エコクッキング：実習） 第9回 エネルギー企業における食育と環境教育・火育（講義） 第10回 エネルギー企業におけるライフスタイル提案（見学・大量調理体験） 第11回 卸売市場における食品流通（講義） 第12回 卸売市場における食品流通（市場見学） 第13回 卸売市場における食品流通（地産池消） 第14回 卸売市場における食品衛生（講義） 第15回 産官学食育実践演習のまとめ		
評価方法 (合計100%)	演習の参加態度40% 課題レポートの提出60%		
失格条件	出席回数が2/3以上に満たない場合 20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 指定された提出物の未提出者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義の内容をまとめ、課題意識を持って演習に臨むこと。(予習2時間、復習2時間)		
課題へのフィード バック	演習内容別の課題に対し、必要に応じ個別にコメントする。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業の内容は、企業等の都合で変更となることもあります。食品企業での実習費500円程度は受益者負担となります。		
備考	大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN202B01	期間	後期
授業科目名	食環境論/公衆衛生学 A		
英訳科目名	Public Health A		
担当教員名	大西 宏昭		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>個人の健康増進と疾病予防は、その個人が生活する社会・環境により大きく左右されます。公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、個人・集団・社会における健康の保持増進、疾病の予防等を推進するための学問です。</p> <p>本講義では、健康の概念、生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策、主要疾患の疫学と予防対策を学ぶことにより、管理栄養士として必要な健康増進と疾病予防を図る実践科学を学習することを旨とします。</p>		
到達目標	管理栄養士として、公衆衛生的な考え方に基づいて、健康増進・疾病予防対策を企画立案、評価できる基礎能力を習得することができる。		
授業計画	<p>第1回 社会と健康  第2回 環境と健康  第3回 健康、疾病、行動にかかわる統計資料  第4回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策1 健康に関する行動と社会  第5回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策2 身体活動、運動  第6回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策3 喫煙行動  第7回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策4 飲酒行動  第8回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策5 睡眠・休養、ストレス  第9回 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策6 歯科保健行動と歯科疾患  第10回 主要疾患の疫学と予防対策1 がん  第11回 主要疾患の疫学と予防対策2 循環器疾患  第12回 主要疾患の疫学と予防対策3 代謝疾患・骨・関節疾患  第13回 主要疾患の疫学と予防対策4 感染症  第14回 主要疾患の疫学と予防対策5 精神疾患・その他の疾患・外因（自殺、不慮の事故）  第15回 主要疾患の疫学と予防対策6 外因（虐待・暴力）・習熟度試験</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度試験 80%</li> <li>・授業への参加態度 20%</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が2/3以上に満たない場合</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会制度や法に基づく公衆衛生活動の実施体制・内容は刻々変わるので、日頃から新聞やテレビ放送、インターネット等のニュースに気を配り、日本だけでなく海外、および地域社会の動向を把握しておくこと。</li> <li>・必ず、教科書の該当か所を予習してくとともに、理解が不十分な内容については教科書や配布資料をよく読み理解を深めること。（予習2時間、復習2時間）</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で正答を配布する。</li> </ul>		
教科書	公衆衛生がみえる2018-2019		
著者名	編集 医療情報科学研究所		
出版社	株式会社 メディックメディア		
参考書	厚生指針 臨時増刊「国民衛生の動向」（毎年8月末刊行）／厚生統計協会		
その他			
備考	歯科医師として保健所（所長）での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN202B02	期間	前期
授業科目名	公衆衛生学/公衆衛生学 B		
英訳科目名	Public Health B		
担当教員名	大西 宏昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、個人・集団・社会における健康の保持増進、疾病の予防等を進めるための学問です。</p> <p>本講義では、疫学的手法を理解し、管理栄養士として科学的根拠に基づいた公衆栄養実践活動ができるようになるとともに、法治国家である我が国の保健・医療・福祉制度を学ぶことにより、多職種連携能力の習得を目指します。</p>		
到達目標	<p>管理栄養士として、科学的根拠に基づいた公衆栄養実践活動ができるとともに、多職種との連携のもと健康課題に対応できる礎能力を習得することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 健康状態・疾病の測定と評価1 疫学の概念  第2回 健康状態・疾病の測定と評価2 疫学指標とバイアスの制御  第3回 健康状態・疾病の測定と評価3 疫学の方法  第4回 健康状態・疾病の測定と評価4 スクリーニング・根拠に基づいた医療および保健対策  第5回 健康状態・疾病の測定と評価5 リスクのとらえ方と安全性の確保・疫学研究と倫理  第6回 保健・医療・福祉の制度1 社会保障の概念・保健・医療・福祉における行政のしくみ  第7回 保健・医療・福祉の制度2 医療制度  第8回 保健・医療・福祉の制度3 福祉制度  第9回 保健・医療・福祉の制度4 地域保健  第10回 保健・医療・福祉の制度5 母子保健  第11回 保健・医療・福祉の制度6 成人保健  第12回 保健・医療・福祉の制度7 高齢者保健・介護  第13回 保健・医療・福祉の制度8 産業保健  第14回 保健・医療・福祉の制度9 学校保健  第15回 保健・医療・福祉の制度10 国際保健・習熟度試験</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度試験 80%</li> <li>・授業への参加態度 20%</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が2/3以上に満たない場合</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会制度や法に基づく公衆衛生活動の実施体制・内容は刻々変わるので、日頃から新聞やテレビ放送、インターネット等のニュースに気を配り、日本だけでなく海外、および地域社会の動向を把握しておくこと。</li> <li>・必ず、教科書の該当か所を予習してくるとともに、理解が不十分な内容については教科書や配布資料をよく読み理解を深めること。(予習2時間、復習2時間)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出後の授業で正答を配布する。</li> </ul>		
教科書	公衆衛生がみえる 2018-2019		
著者名	編集 医療情報科学研究所		
出版社	株式会社メディックメディア		
参考書	厚生指針 臨時増刊「国民衛生の動向」(毎年8月末刊行) / 厚生統計協会		
その他	特になし		
備考	歯科医師として保健所(所長)での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN204A01	期間	後期
授業科目名	食品学 A		
英訳科目名	Food Science A		
担当教員名	中屋 慎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	管理栄養士養成カリキュラムにおいて、食品学は「食べ物と健康」分野に包含されている。本講義は、食品の機能に関する基礎的な化学的知識を習得することを目的とする。食品の分類と成分を理解し、人体や健康への影響を科学的に解釈する能力を高める。		
到達目標	食品とは何かを理解し、科学的根拠に基づいて食品を活用するための基礎的知識を習得することができる。		
授業計画	第1回 食品学とは 第2回 人間と食品 第3回 食品の一次機能①（炭水化物） 第4回 食品の一次機能②（脂質） 第5回 食品の一次機能③（たんぱく質） 第6回 食品の一次機能④（ビタミン、ミネラル、核酸） 第7回 食品の二次機能①（水分、色素成分） 第8回 食品の二次機能②（呈味成分、香気成分、等） 第9回 食品の一次機能及び二次機能のまとめ 第10回 食品の三次機能 第11回 食品成分の変化①（炭水化物、脂質の変化） 第12回 食品成分の変化②（たんぱく質、ビタミンの変化、等） 第13回 食品の物性 第14回 食品の表示と規格基準 第15回 食品学（まとめ）		
評価方法 (合計100%)	定期試験	80%	
	課題（レポート・小テスト）	20%	
失格条件	6回以上の欠席者及び課題未提出者には定期試験の受験資格を付与しない。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	[予習：1時間] 教科書の該当箇所を読み、興味を抱いた箇所と理解できなかった箇所をマークしておくことを勧める。受講時にマークした箇所を話題を集中して聞くと、学習効率が良い。 [復習：3時間] 授業で配布する問題集を活用し、授業の復習を必ずすること。真の理解は自らの学習と思考によってのみ得られる。特に、生化学、調理学など他の授業内容との繋がりを意識して学習すると知識の定着が進む。また、得た知識を日常の食生活に反映させることで、知識を実践的に活用することができる。これも重要な復習である。		
課題へのフィードバック	講義内で総評を行う。また、特に優れたものについて、評価ポイントなど具体的な解説を行う。		
教科書	食品学 I～食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ(栄養科学イラストレイテッド)		
著者名	水品善之, 菊崎泰枝, 小西洋太郎 編		
出版社	羊土社		
参考書	日本食品標準成分表		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN202C01	期間	前期
授業科目名	公衆衛生学実習		
英訳科目名	Public Health Practice		
担当教員名	古川 和子、福嶋 実		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	公衆衛生学は疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康と活動能力の増進を図る科学・技術であり、関連する専門領域は多岐に亘る。本実習では①身近な環境に目を向け、主に水質試験を通じて環境衛生に関する基礎的な技術や知識を学ぶ。②人々の健康状態を規定する要因を測定、評価する技術を学ぶ。以上について理解を深め、栄養士、管理栄養士として必要な公衆衛生的立場の実際を体得する。		
到達目標	①実験レポートが適切に記述できる。 ②各水質試験法の意義、結果（濃度）の算出過程が理解できる。 ③健康課題の抽出と地区診断への活用ができる。 ④疫学の方法に沿って、疫学指標の算出ができる。		
授業計画	第1回 授業ガイダンス（福嶋、古川） 第2回 水質試験[1] pHと緩衝液：pHの測定と緩衝液の効果確認（福嶋） 第3回 水質試験[2] 中和滴定法：酸（または塩基）の定量（福嶋） 第4回 水質試験[3] よう素滴定法：塩素系漂白剤中の有効塩素の定量（福嶋） 第5回 水質試験[4] DPD比色法：水道水中の残留塩素の定量（福嶋） 第6回 水質試験[5] 硝酸銀滴定法：河川・海水の塩化物イオンの定量（福嶋） 第7回 水質試験[6] キレート滴定法：飲料水中の硬度の定量（福嶋） 第8回 水質試験[7] 1,10-フェナントロリン吸光度法：水中の全鉄の定量（福嶋） 第9回 水質試験[8] 過マンガン酸カリウム滴定法：河川水の化学的酸素消費量（COD）の測定（福嶋） 第10回 水質試験実習の総括、質疑、片付など（福嶋） 第11回 健康に関わる諸情報の収集を行い、地域の健康課題を抽出（古川） 第12回 人口に関わる統計を活用して指標を計算し、地区診断の実施（古川） 第13回 疫学研究の方法と収集した健康情報と疫学指標についての理解（古川） 第14回 疫学に使用する指標（相対危険、寄与危険、オッズ比等）の理解（古川） 第15回 疾病予防の3段階に関わる対策の資料収集と活用（古川） 注意）予定は諸事情により変更することがある。		
評価方法 (合計100%)	実習への参加態度60%、レポート提出30%、小テスト10%として総合的に評価する。 なお、欠席は1回につき-7%とする。		
失格条件	出席時数が開講時数の3分の2に達しないもの。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 また、レポートの未提出（含む不適正）が3分の1以上のもの。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①化学の基礎、「公衆衛生学」関連のテキスト、プリント等を参考に予習しておくこと。なお、予習・復習時間は各2時間とする。 ②各水質試験の実施に先立ち配布資料を用いて意義、原理、手順等を説明するので、必要事項を記録してレポート作成に反映させて理解を深めること。 質問は大歓迎、随時対応する。		
課題へのフィード バック	実験レポートは、全体にコメントする。 小テストは授業時間内に返却し、解説する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	「サクセス管理栄養士講座 社会・環境と健康」、武山英磨（著）、中谷弥栄子（著）、全国栄養士養成施設協会（監修）、日本栄養士会（監修）、第一出版、2018 「公衆衛生がみえる2018-2019」医療情報科学研究所（著）メディックメディア 「公衆栄養学実習」（学内編）		
その他	実習に必要な資料はその都度配布する。		
備考	大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（古川）		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN203A01	期間	前期
授業科目名	解剖学/人体の構造 (解剖学)		
英訳科目名	Anatomy		
担当教員名	品川 英朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>栄養士・管理栄養士資格の取得を目指す者にとって、食物の摂取・消化吸収、栄養素の代謝や病態との関わりを学ぶ基礎となる「人体の構造と機能」を十分に理解しておく必要がある。人体の構造と機能のうち、構造の知識は解剖学で学ぶ。ところで、1年生の前期には機能面(生理学)の講義も同時進行するが、生理学の学習には解剖学の知識が欠かせない。そこで、本講義では前半7回で解剖学的内容の概略を済ませ、機能の学習が理解しやすい状態にしたい。その後の8回では解剖学の複習と追加の講義を行い、解剖学的記憶の定着と生理学の知識の融合を目指す。</p>		
到達目標	食物摂取や栄養の代謝などに関連の深い器官を中心に、解剖学的な用語を理解し説明できる。		
授業計画	<p>第1回 細胞・組織・器官、消化器系  第2回 消化器系、循環器系  第3回 腎・尿路系、内分泌系  第4回 神経系、感覚器  第5回 呼吸器系、筋肉  第6回 骨格系  第7回 生殖器系、血液・造血器・リンパ系  第8回 細胞・組織・器官、消化器系  第9回 消化器系、循環器系  第10回 腎・尿路系、内分泌系  第11回 神経系、感覚器  第12回 呼吸器系、筋肉  第13回 骨格系  第14回 生殖器系、血液・造血器・リンパ系  第15回 免疫、まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (15%) と期末試験成績 (85%) を総合して判定する。		
失格条件	欠席回数5回以上を失格と判定する。ただし公欠や公共交通機関による遅刻は失格条件には含めない。遅刻回数2回は欠席1回に換算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：教科書に沿った系統講義を進めていく。次回の講義範囲は分かるので、教科書のその分野を読ん  くる。(1時間)  復習：学んだことはその時、その日のうちに復習して理解する。  日頃、自分の体のことや、身の周りに生じている生理学的・解剖学的な現象に注意して確認していく (自分の体は最も良い教科書でもある)。(3時間)</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストは授業時間内に返却し、解説します。</li> <li>・試験終了後、全体に向けてコメントします。</li> </ul>		
教科書	サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾患の成り立ちⅡ (解剖生理学、病理学)		
著者名	加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一(編)		
出版社	第一出版		
参考書			
その他	<p>テキスト、配布プリント、板書およびパワーポイントなどを用いて、図譜を示しながらの授業になります。しっかりと説明を聞いて理解を深めてください。復習をしなければ記憶を定着させることは難しい。授業後は必ず復習する習慣をつけよう。  解剖学の授業は生理学の授業と関連づけて学ぼう。</p>		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		



ナンバリング	FN203A02	期間	前期
授業科目名	生理学 A		
英訳科目名	Physiology A		
担当教員名	藤本 繁夫		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> △	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	人体の各臓器・器官の構造を理解し、健康人の各器官の生理機能について、教科書とスライドを用いて解説する。各臓器の解剖とその生理機能を関連づけて理解する。この各臓器や器官系の生理機能が正常に保たれることが健康の基本になる。この生理学的機能を維持できなくなった状態が病気になる。生理学Aでは健康人の生理学を習得する。(病気については2回生で履修する)		
到達目標	各臓器や器官系の構造と生理機能について系統的に理解する。各臓器や器官系の生理機能が説明できる。また各臓器や器官系の機能を正常域に保とうとするホメオスタシスのメカニズムが説明できる。さらに各臓器・器官の生理機能が維持できなくなった状態(病態)の疾患に関連付けて理解できる。		
授業計画	第1回 総論 (人体の構造を含む) 第2回 消化器系 第3回 循環器系 第4回 腎・尿路系 第5回 内分泌系 第6回 神経系 第7回 感覚系 第8回 呼吸器系 第9回 運動器(筋・骨格)系 第10回 生殖系、血液・造血管系・リンパ系 第11回 免疫・アレルギー 第12回 感染症 第13回 栄養障害と代謝疾患 第14回 加齢・疾患に伴う変化 第15回 疾患の診断・治療の概要		
評価方法 (合計100%)	・講義の初めに行う小テスト(前回の授業で行った内容)を評価する(20%)。当日の講義のレポートを自宅で作成して1週間後に提出する(20%)。 ・授業への参加態度(20%)と期末テスト(40%)を総合して最終評価を行う。		
失格条件	・欠席回数は5回以上を失格と判定する。 ・10分以上の遅刻は欠席とみなす。10分以内の遅刻は3回で欠席1回とする。 ・期末試験での欠席者は失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習:教科書に沿った系統講義を進めていく。次回の講義分野について、教科書を読んでくる(1時間)。 復習:学んだことはその時、その日のうちに復習し、課題レポートを作成する(3時間)。		
課題へのフィード バック	・講義のはじめに、前回の分野の小試験を行い、理解度の評価と解説を行う。 ・講義に関する課題レポートは、1週後に回収する。内容を評価してコメントをつけて返却する。		
教科書	サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾患の成り立ちⅡ(解剖生理学・病理学)		
著者名	加藤昌彦・近藤和雄・箱田雅之・井階幸一		
出版社	第一出版		
参考書	1:栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第2版 羊土社 ISBNコード 978-4-7581-0876-8 C3047		
その他	日頃、自分の体のことや、身の周りに生じている生理学的な現象に注意して確認していく。(自分の体が最も良い教科書である)		
備考	医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN203A03	期間	後期
授業科目名	生理学B		
英訳科目名	Physiology B		
担当教員名	坂井 孝		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	生理学では、器官系それぞれの機能と関係、人体の諸反応について理解する。栄養素を取り入れる人体の器官の働きを十分に理解しなければ、食品学、栄養学など食物や栄養素に関する知識を活用できないだけでなく、管理栄養士として説得力のある健康管理指導はできない。生体反応としての種々の調節機能について、一つの用語にとらわれることなく、系統立て関連づけて理解することが重要である。そのためには単純な暗記ではなく、何故そうなるのかを考えながら、人体の構造と機能を学んでもらいたい。		
到達目標	細胞から組織、器官・器官系にいたる人体の構造を理解し、それぞれの器官系の機能を系統立てて説明することができる。		
授業計画	第1回 消化器系①栄養素の消化・吸収に係わる消化器系のはたらきについて学ぶ 第2回 消化器系②摂食の化学的調節について学ぶ 第3回 循環器系①心臓の機能とはたらきについて学ぶ 第4回 循環器系②血圧の調節について学ぶ 第5回 血液・造血器・リンパ系について学ぶ 第6回 呼吸器系①呼吸器系の機能とはたらきについて学ぶ 第7回 呼吸器系②呼吸の調節について学ぶ 第8回 腎・尿路系①ネフロン、尿の生成、体液の調整について学ぶ 第9回 腎・尿路系②電解質の調節、アシドーシス・アルカローシスについて学ぶ 第10回 運動器（筋・骨格）系について学ぶ 第11回 内分泌系①ホルモンの分類・調節機構、内分泌器官、各種ホルモンについて学ぶ 第12回 内分泌系②ホルモンによる代謝調節について学ぶ 第13回 神経系について学ぶ 第14回 栄養障害と代謝性疾患について学ぶ 第15回 到達度の確認、まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 小テスト 30% 試験 50%		
失格条件	欠席回数5回までは評価の対象とする。 30分以上の遅刻・早退は欠席とし、遅刻または早退3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	あらかじめ、講義内容に該当する部分について精読しておくこと（予習時間 2時間）。 講義内容の理解度を確認するために、講義時間の始めに毎回3分間の確認テストを実施する。 講義後は、講義ノートで重要語句等の整理をすること（復習時間 2時間）。 疑問点があれば次回講義までに質問事項を整理しておく。		
課題へのフィード バック	日常の学習内容の確認は、授業開始前に小テストを実施し、その場で解答解説を行う。 提出されたレポートやノート提については、コメントを入れて返却する。		
教科書	サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾患の成り立ちⅡ（解剖生理学、病理学） （生理学Aで使用したもの）		
著者名	加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一		
出版社	第一出版		
参考書	適宜紹介する。		
その他	万一、講義を欠席する場合は、講義配布資料を入手できるように自分で手配しておくこと （配布資料の後日配布はしない）		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN203C01	期間		後期	
授業科目名	解剖生理学実験				
英訳科目名	Anatomical Physiology Experiment				
担当教員名	藤本 繁夫、庄條 愛子				
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> △		
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○		
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6			
授業概要・ポイント	<p>前期の解剖学や生理学Aで習得した各臓器や器官の構造と生理機能について、実験を通じて的確に理解する。各自の呼吸、循環、消化・吸収、尿、血液、皮膚感覚、運動機能、視覚・味覚などの脳神経系の生理機能を測定して、正常人の臓器・器官系の解剖・生理の知識を習得する。</p> <p>さらに、冷水刺激、運動刺激、糖負荷、飲水負荷、浸透圧などの負荷試験による臓器・器官の正常の生理学的反応を実験を介して理解する。さらに正常反応を逸脱した値から、種々の病気の病態を理解し、治療・予防についての基本的な考え方を習得する。</p> <p>各実験では、実施方法、注意事項の説明を行い、教科書や配布する手引書に従って安全に実験を行うようにする。各実験の最後には小テストを行い、結果と考察はレポートにして提出する。</p>				
到達目標	各臓器・器官の構造と正常の生理機能について、各実験を通じて確実に理解できる。さらに機能異常を呈する病気についての説明ができる。				
授業計画	<p>第1回 総論・心電図実習  第2回 バイタルサイン1 (循環系)  第3回 バイタルサイン2 (呼吸器系・肺機能検査)  第4回 マクロ解剖 (ラットの解剖 )  第5回 組織実習1 (胃・結腸・脾臓の組織)  第6回 組織実習2 (肝臓・腎臓・副腎)  第7回 血液・口腔細胞  第8回 肝臓系 (アルコール遺伝子検査)  第9回 腎泌尿器系 (水負荷試験と尿生成)  第10回 半透膜による浸透圧 (透析)  第11回 内分泌系 (糖負荷検査)  第12回 脳神経系1 (視覚系)  第13回 脳神経系2 (味覚系)  第14回 末梢神経系 (知覚系)  第15回 総まとめ・実習の発表・試験  (実験の順番は準備の都合で前後することがある)</p>				
評価方法 (合計100%)	各実験の最後に、実習に関する小テストを行ない、実習結果と考察をレポートにして提出する (20%)。さらに当日の実験に関する意義・実験の発展性に関するレポート (宿題) を完成して、1週間後に提出する (20%)。また実験の最終には、実験に関する発表 (30%) と筆記試験 (30%) を行い、出席状況とレポートを総合的に評価する。				
失格条件	欠席回数は4回以上を失格と判定する。(第4回の解剖学実習は必須として、欠席者は評価の対象にしない。) 実験・実習は時間厳守のこと。10分以上の遅刻は欠席とみなす。10分以下の遅刻は3回で欠席1回とする。				
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：次回の実験内容についてアナウンスする。その分野について、前期で習った生理学Aの内容を必ず予習すること。(予習は1時間)。 復習：実験結果から、各臓器・組織の解剖と生理機能を総合的に理解する。(復習は2時間) 正常値や異常値を正確に理解して、測定値 (検査値) の意義を考えて、病気の成り立ち、病態を理解する。				
課題へのフィードバック	・実験の結果と考察をまとめて提出する。その内容を個別に評価してコメントを行う。 ・実験に関する課題レポートは、1週後に提出する。内容を評価してコメントをつけて返却する。				
教科書	Nブックス実験シリーズ 解剖生理学実験				
著者名	青峰正裕・藤田守、 編著				
出版社	建帛社				
参考書	栄養学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 羊土社、 志村二三夫編。 I S B N978-4-7581-0876-8 C3047				
その他	実験は一度しかできない。本を読んでも理解できないことがあるので欠席しないこと				
備考	医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(藤本)				
科目生への開講	なし				

ナンバリング	FN203C02	期間	前期
授業科目名	運動生理学実習		
英訳科目名	Exercise physiology experiment		
担当教員名	宮本 忠吉		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>授業の最初に、運動生理学の理論と実際についてレクチャーを行い、グループに分かれ実習を行う。</p> <p>測定項目としては 身体計測、身体組成の計測評価、呼気ガス分析装置を用いたエネルギー代謝量の直接測定、生活活動調査表やライフコーダーを用いた一日の運動量調査、自転車エルゴメーター・トレッドミル、ステップ台を用いた運動負荷試験（呼吸商・有酸素閾値・換気性作業閾値・運動時の心拍数、血圧反応）などを行う。</p> <p>上記実習で得た自らのデータを基に、各自目的に応じた運動処方及び栄養処方プログラムを作成し、それを自ら実践し、全体発表することで、運動生理学に関する理論と実際に関する学びをいっそう深める。</p>		
到達目標	<p>運動中の人体の生理学的応答を測定することにより、生化学で学んだエネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義について学びまた、生活習慣病予防や高齢者への運動についても理解を深めることができる。</p> <p>実習を通じて、運動によって起こる代謝量及び身体機能の一時的変化や適応現象を観察、データの収集、処理及び考察をすすめ、運動処方の作成方法について修得することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・バイタルサイン（呼吸・心拍数・血圧・体温）の見方  第2回 身体組成の計測、評価（In Body, 皮脂厚計測器を用いた体脂肪率の測定評価）  第3回 身体活動量の測定評価（チェックシート・ライフコーダ解析）  第4回 基礎代謝量・安静時代謝量の測定、評価1  第5回 基礎代謝量・安静時代謝量の測定、評価2  第6回 段階的ステップ負荷を用いた運動時エネルギー代謝量の測定1  第7回 段階的ステップ負荷を用いた運動時エネルギー代謝量の測定2  第8回 運動時におけるエネルギー消費量の計算（メッツ）  第9回 運動負荷試験：理論と実践  第10回 運動負荷試験：データ処理と解釈  第11回 運動及び栄養処方プログラム案の作成と実践1  第12回 運動及び栄養処方プログラム案の作成と実践2  第13回 運動及び栄養処方プログラム案の作成と実践3  第14回 運動及び栄養処方プログラム案の作成と実践4  第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	出席状況・授業の取り組み態度等（40%）、課題発表・実習レポート（60%）より評価を行う。		
失格条件	欠席回数4回までは評価の対象とする。20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻または早退は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>実習教科のため、体調管理には留意すること。</p> <p>本実習で得られた数値データの全ては、エクセルを用いて解析し、その後グラフ化するなどの作業を多用するため、ソフトウェアの使い方の復習をしておくこと。また、発表時にはパワーポイントも使用します。その他の予習・復習については、授業時に指示する。（予習・復習各1時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>各回の授業終了時に以下の内容に関するアンケート調査を実施し、与えられた課題に対する学生の理解度や疑問点を随時確認すると同時に、学生からの授業評価（10段階）も実施する。</p> <p>各回の授業のはじめに、全学生に対して前回のアンケート結果に関する内容のフィードバックを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業でわかったこと。理解が深まったこと。</li> <li>●授業でわからなかったこと。もっと知りたいと思ったこと。</li> <li>●授業に対する要望、感想、意見、提案、なんでも（できる限り授業に反映させる）</li> </ul>		
教科書	「運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム」		
著者名	アメリカスポーツ医学会編		
出版社	南江堂		
参考書			
その他	実習後はレポートを必ず提出すること。		
備考			
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN203B01	期間	前期
授業科目名	病理学/疾病の成り立ち		
英訳科目名	Pathology		
担当教員名	品川 英朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	前期で学習した解剖学の『人体のしくみと働き』と、生理学Aで学習した『人体の臓器・組織の正常の働き』を基礎にして、正常から逸脱した病気の概要と各器官の病態について学習する。		
到達目標	各病気の原因、発生のしくみ、経過などの病態の本質を理解して、エビデンス（根拠）に基づいて栄養指導ができる。		
授業計画	第1回 病理学総論（疾患に伴う変化） 第2回 栄養障害と代謝疾患①肥満、糖尿病など 第3回 栄養障害と代謝疾患②脂質異常症、痛風など 第4回 栄養障害と代謝疾患③栄養失調症、悪液質、ビタミン・ミネラル欠乏・過剰症 第5回 消化器疾患 第6回 循環器疾患 第7回 内分泌疾患 第8回 脳神経疾患 第9回 呼吸器疾患 第10回 運動器疾患 第11回 血液系疾患 第12回 免疫・アレルギー疾患 第13回 感染症 第14回 腎・尿路疾患、生殖器疾患 第15回 まとめ・総合評価		
評価方法 (合計100%)	講義の後にレポートや小テストを実施する（20%）。 最終に期末テストを行い（60%）、授業への参加態度（20%）と総合して判定する。		
失格条件	欠席回数は5回以上を失格と判定する。 10分以上の遅刻は欠席とみなす。10分以内の遅刻は3回で欠席1回とする。 期末テストの欠席者は失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：教科書に沿った系統講義を進めていく。次回の講義範囲は分かるので、教科書のその分野を読んでくる（1時間）。 復習：学んだことはその時、その日のうちに復習して理解する（3時間）。		
課題へのフィード バック	・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾患の成り立ちⅡ（解剖生理学、病理学）		
著者名	加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一		
出版社	第一出版		
参考書	1:カラーで学べる病理学 第4判 ニューベルヒロカワ ISBN978-4-86174-062-6 C-3347		
その他	テキスト、配布プリント、板書およびパワーポイントなどを用いて、図譜を示しながらの授業になります。しっかりと説明を聞いて理解を深めてください。		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN203B02	期間	後期
授業科目名	微生物学		
英訳科目名	Microbiology		
担当教員名	藤原 永年		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	微生物は目に見えない生物であり存在感に乏しいが、ヒトは現実的に多種多様な微生物と共生している。また、生活環境においても無数の微生物が存在し、時に我々に有用な活動を行い、時に感染症の恐怖を知らしめる。本講義では微生物の分布、構造、機能を理解し、特に我々の生活に密着する有用微生物と病原微生物について学習する。有用微生物についてはその利用価値と概要を理解する。病原微生物については、感染症を引き起こす生物学的特徴、感染様式、病原性も含め、最新の情報をもとに系統的に感染症とその生体防御機構を理解する。以上より、管理栄養士として必要な専門的知識を習得し、有能な人材の育成を推進する。		
到達目標	我々の生活に密着する有用微生物と病原微生物を系統的に理解する。前者については利用価値を、後者については引き起こされる感染症の特徴を理解し、管理栄養士としてこれらの知識を実践できる。		
授業計画	第1回 微生物学概論 第2回 微生物学の歴史と生物学的特徴 第3回 微生物の分類と性質（細菌、真菌） 第4回 微生物の分類と性質（原虫、ウイルス） 第5回 感染と発病（感染症の種類、感染源および感染経路） 第6回 感染・発病を規定する因子 第7回 生体防御機構（自然免疫、獲得免疫） 第8回 感染症の予防（滅菌、消毒、予防接種） 第9回 細菌検査法 第10回 感染症の診断と治療（化学療法薬と薬剤耐性機構） 第11回 感染症の現状と対策 第12回 病原微生物各論 第13回 食品と微生物の関係 第14回 微生物の応用 第15回 有用微生物各論		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 10% 小テストなど 10% 試験 80%		
失格条件	出席が2/3に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予め配付するスライド資料を次回講義までに読んでおくこと（予習時間1時間）。講義内容を理解する為の復習をすること（復習時間3時間）。 復習時に解らないことは参考書、インターネット等で調べ、次の講義までに確実に理解すること。毎回積み重ねですから、復習を怠ると段々解らなくなる。興味を持って学習することが大切。		
課題へのフィード バック	小テスト実施後に解答解説を行い、前回の講義内容を復習する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	病原微生物学 編集；矢野郁也、熊沢義雄、内山竹彦 価格；¥ 5,460（税込） 出版社；東京化学同人  感染症・アレルギーと生体防御 編著；倉田 毅 価格；¥ 2,730（税込） 出版社；同文書院  感染と微生物の教科書 著者；田爪正気、築地真実、永倉貢一、糠信憲明 価格；¥ 2,625（税込） 出版社；研成社  イラストレイテッド微生物学 著者；桜井純 価格；¥ 7,875（税込） 出版社；南山堂		
その他	講義はシラバスに準じた内容を主にスライド資料を中心に解説学習する。受講者は自分自身の学習様式にあったテキスト（参考書）を選び、配付資料とともに学習できる態勢を整えることが望ましい。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN203B03	期間	後期
授業科目名	栄養生化学		
英訳科目名	Nutritional Biochemistry		
担当教員名	水野 淨子、岡崎 眞		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	各栄養素がどのような特徴をもち、どのように生体内で代謝されるかについて、制御、調節の観点から、その仕組みについて講義する。また、ヒトの体内において、それらの代謝と各臓器との関連についても、疾患などとの関係を交えながら講義する。		
到達目標	1.生体内での化学反応を触媒する酵素について解説できる。 2.酵素反応の調節について解説できる。 3.各栄養素の代謝系の調節について解説できる。		
授業計画	第1回 糖質代謝①解糖系 (水野) 第2回 糖質代謝②クエン酸回路、電子伝達系 (水野) 第3回 糖質代謝③グリコーゲン代謝、糖新生 (水野) 第4回 糖質代謝の理解度の確認 (水野) 第5回 脂質の分類と構造 (岡崎) 第6回 脂質代謝の動態 吸収・移動・蓄積 (岡崎) 第7回 脂質代謝 エネルギー源としての利用 (岡崎) 第8回 アミノ酸・タンパク質の構造 (岡崎) 第9回 タンパク質・アミノ酸の代謝 動的平衡 (岡崎) 第10回 タンパク質の生合成 核酸の種類と構造 ヌクレオチド・DNA & RNA (岡崎) 第11回 タンパク質の生合成 セントラルドグマ・遺伝を表現するタンパク質 (岡崎) 第12回 理解度の確認3 アミノ酸代謝の相互関係と体内利用 (岡崎) 第13回 タンパク質の構造と機能 (岡崎) 第14回 生理活性物質としてのアミノ酸・タンパク質 (岡崎) 第15回 代謝からみた栄養素の相互関係 理解度の確認4 (岡崎)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(小テストを含む) 5% 理解度の確認 95%		
失格条件	5回以上 (5回を含む) の欠席は失格とする。 5分以上の遅刻は欠席とし、5分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 小テストを提出しないものは欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	「生化学」や「解剖生理学」など、受講前に履修している基礎科目で習得した知識を整理し授業に臨むこと。 (予習 2時間) 受講後は学習内容を整理し、他教科との関連を意識して理解を深める。疑問点などは、必ずその都度、もしくは次の講義のときに、聞くようにすること。(復習 2時間)		
課題へのフィードバック	授業時間中に解説		
教科書	生化学 ヒトとからだの構成と働きを学ぶために (はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ) (1回生で使用した教科書です。)		
著者名	小野廣紀		
出版社	化学同人		
参考書	特に指定しない。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN203A04	期間	前期
授業科目名	生化学		
英訳科目名	Biochemistry		
担当教員名	水野 淨子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>21世紀の栄養管理は人を対象としたものであり、そのことは、人を身体的・精神的・社会的に認識しなければならないことを意味している。人の身体と食物を関連させた栄養現象として認識するためには、それらを構成している物質についての基礎的な理解が必要となる。授業内容は、身体および食物を構成する物質についての生化学と身体における物質の代謝である。</p> <p>生化学は解剖学・生理学とともに、広い意味での人間の栄養学を理解するための基本的な土台となる分野であるので、十分な理解のためには各自の予習・復習とともに疑問点について授業中の質問が活発になされることがのぞまれる。</p>		
到達目標	生体内で代謝される物質のうち基礎的なものの名称と化学構造を示し、その代謝経路の概略と意義および代謝過程に関与する細胞内小器官とその構造について解説できる。		
授業計画	<p>第1回 授業の進め方及び細胞とその構成,有機化学の基礎</p> <p>第2回 細胞とその構成,有機化学の基礎</p> <p>第3回 アミノ酸の構造と機能</p> <p>第4回 タンパク質の構造と機能</p> <p>第5回 糖質の構造と機能 (1) 単糖類</p> <p>第6回 糖質の構造と機能 (2) 二糖類、多糖類</p> <p>第7回 中間の学びの確認①</p> <p>第8回 脂質の構造と機能 (1) 脂肪酸</p> <p>第9回 脂質の構造と機能 (2) 中性脂肪、糖脂質、リン脂質、コレステロール</p> <p>第10回 遺伝子 (1) DNAの構造</p> <p>第11回 遺伝子 (2) 遺伝子発現</p> <p>第12回 中間の学びの確認②</p> <p>第13回 酵素</p> <p>第14回 中間の学びの確認③</p> <p>第15回 学びの確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>質疑応答などの受講態度,事前学修課題、授業内小テスト 15%</p> <p>授業内容の理解度 85%</p>		
失格条件	<p>5回以上 (5回を含む) の欠席</p> <p>5分以上の遅刻は欠席とし、5分以内の遅刻は3回で1回分の欠席とする。</p> <p>小テストの未提出は欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>指定する事前学修課題2時間</p> <p>指定する復習個所の再確認2時間</p>		
課題へのフィード バック	授業時間中に解説		
教科書	はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ2生化学 ヒトのからだの構成と働きを学ぶために		
著者名	小野廣紀・千裕美・吉澤みな子・日比野久美子著		
出版社	化学同人		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		



ナンバリング	FN203C03	期間	前期
授業科目名	生化学実験		
英訳科目名	Biochemical Experiment		
担当教員名	水野 淨子、庄條 昌之		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	1年次前期の実験として、実験の基礎的事項について学ぶ。実験器具の名称や操作方法、機器の操作方法などを説明する。生体成分であるタンパク質と糖質の化学的特性を、実験を通して説明する。		
到達目標	実験器具の基礎的な取り扱いを行うことができる。 タンパク質と糖質の化学的特性について、実験を通して理解することができる。		
授業計画	第1回 実験の全般的注意 (担当:水野) 第2回 実験の基礎①(実験器具の説明・操作) (担当:水野) 第3回 実験の基礎②(測容) (担当:水野) 第4回 実験の基礎③(容量検査) (担当:庄條) 第5回 実験の基礎④(秤量) (担当:庄條) 第6回 実験の基礎⑤(分光光度計) (担当:庄條) 第7回 実験の基礎⑥(検量線) (担当:庄條) 第8回 たんぱく質・アミノ酸の定性①(たんぱく質の変性) (担当:庄條) 第9回 たんぱく質・アミノ酸の定性②(呈色反応) (担当:庄條) 第10回 糖質の定性①(ヨウ素-デンプン反応) (担当:庄條) 第11回 糖質の定性②(デンプンの糊化) (担当:庄條) 第12回 糖質の定性③(糖質の呈色反応) (担当:庄條) 第13回 酵素反応 (担当:庄條) 第14回 まとめ (担当:庄條) 第15回 基礎知識ならびに実験内容の理解の確認(試験) (担当:庄條)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度50% 試験 50%		
失格条件	全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格とする。 5分以上の遅刻は欠席とし、5分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 レポートの未提出は欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1年次を対象として前期に開講される「生化学」で学んだ知識を、実験を通して理解することを目的とする。 教員からの次回の予告に従い教科書の該当部分を読み、準備用課題を行ってから実験に臨むこと。(予習時間 2時間) 後日、講義内容、準備用課題および実験結果を結び付け、知識を定着すること。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	準備用課題の説明は実験前に行い、実験との関連を明らかにする。		
教科書	①食品学実験書 第3版 ②生化学: ヒトのからだの構成と働きを学ぶために (はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ)		
著者名	①藤田修三・山田和彦 編著;②小野廣紀・千裕美・日比野久美子・吉澤みな子 著		
出版社	①医薬薬出版;②化学同人		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN204B01	期間	前期
授業科目名	食品学B		
英訳科目名	Food Science B		
担当教員名	庄條 愛子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	食品に含まれる各種成分の構造や性質・機能など、またその栄養成分について理解することを目的とする。さらに食品の生育・生産から、加工・調理を経て、ヒトに摂取されるまでの過程について学び、人体に対する栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から理解し、新規食品・食品成分が健康に及ぼす影響、それらの疾病予防に対する役割についても学習する。		
到達目標	食品に含まれる各種成分についての基礎知識の習得、食品のヒトに対する栄養面、安全面への影響などについて科学的に考察することができる。身の回りの食品についても広く科学的知見を有することができる。		
授業計画	第1回 食品学の意義・目的と食品の分類 第2回 単糖類の化学と機能性 第3回 オリゴ糖および多糖類の化学と機能性 第4回 食物繊維の化学と機能性 第5回 炭水化物を多く含む食品① 第6回 炭水化物を多く含む食品② 第7回 脂肪酸の化学と機能性 第8回 脂質の化学と機能性 第9回 脂質を多く含む食品① 第10回 脂質を多く含む食品② 第11回 アミノ酸の化学と機能性 第12回 タンパク質の化学と機能性 第13回 たんぱく質を多く含む食品① 第14回 たんぱく質を多く含む食品② 第15回 保存貯蔵時における食品成分の変化		
評価方法 (合計100%)	欠席・遅刻、スマートフォン使用や講義中の私語などの授業の参加態度：25% 学習内容をまとめたノートの提出：25% 中間・最終試験：50%		
失格条件	・全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格 ・5分以上の遅刻は欠席 ・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席 ※電車遅延は、遅刻理由として考慮しません ・中間・最終試験未受験、ノート未提出 ※教科書をコピーして貼り付けたノートは、ノートとして認めない ※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎日の食に含まれる各種成分について考える。 毎日の食生活における各種食品成分と運動・行動内容を関連付けて記録する。 日常生活の食や栄養についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習として各2時間の学習を実施すること。		
課題へのフィードバック	・小テスト・中間テストの内容・解説および点数は、2回生用掲示板に掲示する ・講義でも小テスト、中間テストの解説を実施する ・最終試験の内容・解説および点数は、2回生用掲示板に掲示する ・提出されたノートは教員が点検・添削し、効果的な学習のための指導を行う		
教科書	食品学II		
著者名			
出版社	羊土社		
参考書			
その他	講義に出るだけでなく、講義ごとの学習内容をノートにまとめることで理解を深める努力をすること		
備考			
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN204C01	期間	前期
授業科目名	食品学実習		
英訳科目名	Food Laboratory Practice		
担当教員名	庄條 愛子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	植物性および動物性食品のうち、主要な食品群についてそれぞれの化学的・物理的特性を解説し、おのこの食品素材の持つ特性を活かした加工利用や保存の方法を実習を通して習得する。		
到達目標	市販されている加工食品を、適正に選択できる能力を培うことができる		
授業計画	第1回 実習オリエンテーション 第2回 穀類の特性とその加工利用① 第3回 穀類の特性とその加工利用② 第4回 いも類の特性とその加工利用 第5回 豆類の特性とその加工利用① 第6回 豆類の特性とその加工利用② 第7回 豆類の特性とその加工利用③ 第8回 野菜類の特性とその加工利用① 第9回 野菜類の特性とその加工利用② 第10回 果実類の特性とその加工利用 第11回 食肉類の特性とその加工利用 第12回 魚類の特性とその加工利用① 第13回 魚類の特性とその加工利用② 第14回 乳類の特性とその加工利用 第15回 加工食品の規格と品質表示		
評価方法 (合計100%)	・欠席・遅刻、居眠り、小テストなど授業への参加態度 70% ・レポートなどの提出 30%		
失格条件	・全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格 ・5分以上の遅刻は欠席 ・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席 ・実習中にスマートフォンを使っていた場合には、一度であっても失格 ※電車遅延は、遅刻理由として考慮しません ※※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎日の食に含まれる市販されている食品と実習で作製した食品での、使用原材料・製造方法等により生じる食品の品質の違いを調べる。 本実習は、毎時間ごとに2回生を対象として同じ Semester で開講する食品学Bの講義で学んだ内容を反映した実習を行う。そのため、本実習の予習・復習として各1時間の学習を実施すること。 具体的には、①教員の指示に従って食品学Bの教科書の該当部分を読むこと、②食品学Bのノートに実習で学んだ内容を追記すること、③毎時間ごとに実施する小テストの内容を、教科書で必ず確認すること。本実習に臨み、上記①～③を予習・復習として、各1時間程度学習すること。		
課題へのフィードバック	・小テスト・中間テストの内容・解説および点数は、2回生用掲示板に掲示する ・講義でも小テスト、中間テストの解説を実施する ・最終試験の内容・解説および点数は、2回生用掲示板に掲示する		
教科書	つくってみよう加工食品		
著者名	仲尾 玲子、中川 裕子		
出版社	学文社		
参考書			
その他	実習で加工食品を作って食べるだけでなく、実習ごとの製造理論などの学習内容をノートにまとめることで理解を深める努力をすること		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN204C02	期間	後期
授業科目名	食品学実験		
英訳科目名	Food Science Experiment		
担当教員名	庄條 愛子、中 崇、亀井 健吾		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	食品学実験では食品の栄養特性、物性等について理解することを目的とする。食品学で学んだ食品を理解するために必要な知識を、実験によって確かめる。具体的には、各種食品成分の精製や定性、定量実験、各種成分の変化についての実験を行なう。さらに官能検査の判定方法や分析方法の修得にも努める。		
到達目標	食品に含まれる各種成分についての基礎知識を精製や定性、定量実験、各種成分の変化についての実験を介して体得することができ、食品に対する理解を深めることができる。		
授業計画	第1回 実験の全般的注意 (庄條) 第2回 たんぱく質、アミノ酸の定性反応 (庄條) 第3回 還元糖の定性反応、ヨウ素-デンプン反応 (庄條) 第4回 食品成分の分析 (1) 試料の調整 (庄條) 第5回 食品成分の分析 (2) 水分の測定 (庄條) 第6回 食品成分の分析 (3) 脂質の定量 (庄條) 第7回 GLCによる食用油脂の脂肪酸組成の分析 (1) 試料の調整および分析 (中) 第8回 GLCによる食用油脂の脂肪酸組成の分析 (2) 分析結果の解析 (中) 第9回 鶏卵の鮮度試験 (庄條) 第10回 アントシアニンの抽出と安定性試験 (庄條) 第11回 小麦たんぱく質の分離 (1) グルテンの単離 (庄條) 第12回 小麦たんぱく質の分離 (2) グリアジン・グルテニンの単離 (庄條) 第13回 食味テスト (1) 3点識別試験法 (庄條) 第14回 食味テスト (1) 順位法による濃度の識別 (庄條) 第15回 飲料水の検査 水の硬度測定 (庄條)		
評価方法 (合計100%)	・欠席・遅刻、居眠り、小テストなど授業への参加態度：70% ・レポートなどの提出：30%		
失格条件	・全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格 ・5分以上の遅刻は欠席 ・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席 ・実習中にスマートフォンを使っていた場合には、一度であっても失格 ※電車遅延は、遅刻理由として考慮しません ※※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎日の食や身の周りの食品に含まれる成分について考える、毎日の食生活に含まれる食品成分と実験で体得した分析方法を関連付けて食品成分を理解する。 本実験は、1回生を対象として前期に開講する食品学A、生化学実験で学んだ内容を反映した実験を行う。そのため、本実習の予習・復習として各1時間の学習を実施すること。 具体的には、①教員の指示に従って食品学Aの教科書および生化学実験のレポートの該当部分を読むこと、②食品学Aのノートに実験で学んだ内容を追記すること、③毎時間ごとに実施する小テストの内容を、教科書で必ず確認すること。 本実験に臨み、上記①～③を予習・復習として、各1時間程度学習すること。		
課題へのフィードバック	・小テスト・中間テストの内容・解説および点数は、1回生用掲示板に掲示する ・講義でも小テスト、口頭で小テスト・中間テストを解説する ・最終試験の内容・解説および点数は、1回生用掲示板に掲示する		
教科書	食品学実験書 第3版		
著者名	藤田修三 山田和彦		
出版社	医歯薬出版		
参考書			
その他	実験に出席して座っているだけでなく、実験作業にも積極的に参加する。実験ごとの学習内容をノートにまとめることで理解を深める努力をすること		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN204B02	期間	前期
授業科目名	食品衛生学		
英訳科目名	Food Hygiene		
担当教員名	中屋 慎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士養成カリキュラムにおいて、食品衛生学は「食べ物と健康」分野に含まれている。食品に起こり得る我々にとって不利益な科学的現象を正確に理解し、かつ、その現象を未然に防ぐために定められた法規を遵守することにより、食品の安全と安心が実現される。本講義は科学と法規の2つの視点から食品の安全と衛生に関する基礎知識を理解し、習得することを目的とする。		
到達目標	科学的根拠と法規的根拠に基づいて食品を衛生的に活用するための基礎的知識を習得することができる。		
授業計画	第1回 食品衛生と法規①（食品衛生の概要） 第2回 食品衛生と法規②（日本と世界における食品衛生） 第3回 食品の変質 第4回 食中毒①（食中毒の概要） 第5回 食中毒②（食中毒の原因物質） 第6回 食中毒③（食中毒と食品学的特徴） 第7回 食品と食中毒のまとめ 第8回 食品中の汚染物質①（有機成分） 第9回 食品中の汚染物質②（無機成分） 第10回 食品添加物 第11回 残留農薬と遺伝子組換え食品 第12回 食品衛生管理①（衛生管理の重要性） 第13回 食品衛生管理②（HACCP） 第14回 食品表示制度 第15回 食品衛生学（まとめ）		
評価方法 (合計100%)	定期試験	80%	
	課題（レポート・小テスト）	20%	
失格条件	6回以上の欠席者及び課題未提出者には定期試験の受験資格を付与しない。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	[予習：1時間] 教科書の該当箇所を読み、興味を抱いた箇所と理解できなかった箇所をマークしておくことを勧める。受講時にマークした箇所を集中して聞くと、学習効率が良い。 [復習：3時間] 授業で配布する問題集を活用し、授業の復習を必ずすること。真の理解は自らの学習と思考によってのみ得られる。特に、食品学、栄養学など他の授業内容との繋がりを意識して学習すると知識の定着が進む。また、得た知識を日常の生活に反映させることで、知識を実践的に活用することができる。これも重要な復習である。		
課題へのフィードバック	講義内で総評を行う。また、特に優れたものについて、評価ポイントなど具体的な解説を行う。		
教科書	食品衛生学(栄養科学イラストレイテッド)		
著者名	田崎 達明 編		
出版社	羊土社		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN204C03	期間	後期
授業科目名	食品衛生学実験		
英訳科目名	Food Hygiene Experiment		
担当教員名	庄條 昌之、中 崇、亀井 健吾		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	食品の安全性の確保のための食品衛生検査を、微生物検査、食品添加物試験、理化学試験を通して説明する。		
到達目標	微生物、食品添加物および食品の性状について、実験を通して理解を深めることができる。 食品衛生に関する知識を、実務に応用できるようにする。		
授業計画	第1回 実験の全般的注意 (担当:庄條) 第2回 微生物検査1(手指と鼻腔の細菌の培養) (担当:亀井) 第3回 微生物検査2(細菌の染色と顕微鏡観察) (担当:亀井) 第4回 微生物検査3(乳酸菌の培養) (担当:亀井) 第5回 微生物検査4(生菌数) (担当:亀井) 第6回 微生物検査5(乳酸菌の染色と顕微鏡観察) (担当:庄條) 第7回 食品添加物試験1(着色料 PPC法) (担当:亀井) 第8回 食品添加物試験2(着色料 HPLC法) (担当:亀井) 第9回 食品添加物試験3(発色剤 吸光度法) (担当:庄條) 第10回 食品添加物試験4(発色剤 検量線) (担当:庄條) 第11回 理化学試験1(油脂の変質試験) (担当:亀井) 第12回 理化学試験2(残留農薬) (担当:中) 第13回 衛生管理手法 (マスターテーブル法) (担当:庄條) 第14回 まとめ (担当:庄條) 第15回 基礎知識ならびに実験内容の理解の確認 (試験) (担当:庄條)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度50% 試験 50%		
失格条件	全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格とする。 5分以上の遅刻は欠席とし、5分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 レポートの未提出は欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	2年次を対象として前期に開講される「食品衛生学」で学んだ知識を、実験を通して理解することを目的とする。 教員からの次回の予告に従い教科書の該当部分を読み、準備用課題を行ってから実験に臨むこと。(予習時間 2時間) 後日、講義内容、準備用課題および実験結果を結び付け、知識を定着すること。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	準備用課題の説明は実験前に行い、実験との関連を明らかにする。		
教科書	①Nブックス 実験シリーズ 改訂 食品衛生学実験 ②栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学		
著者名	①後藤政幸 編著②田崎達明 編		
出版社	①建帛社②羊土社		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN204A02	期間	前期
授業科目名	調理学		
英訳科目名	Cookery		
担当教員名	杉山 文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	調理の目的や意義、調理に必要な調理操作や食品の調理特性について理論的に学ぶ。栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理の方法を理論的に理解して修得することを目的とする。調理の目的や意義について学び、調理に必要な調理操作や食品の調理特性について理論的に学ぶ。食品を安全でおいしく、栄養学的に価値のある食べ物にするための調理法等について理解し、調理過程における食品の化学的な変化について理解を深める。		
到達目標	1.調理の目的や意義を理解し、調理するために必要な調理操作や調理特性について理解することができる。 2.調理を科学的に捉える理論的思考力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 調理学の概要、意義、調理の目的、文化、様式 第2回 調理と嗜好性 食事設計と食事様式 第3回 調理操作（加熱調理、非加熱調理） 第4回 植物性食品の調理性 米の調理 第5回 植物性食品の調理性 小麦粉の調理 第6回 植物性食品の調理性 いも類、豆類 第7回 植物性食品の調理性 野菜類、果物類 第8回 植物性食品の調理性 種実類、きのこ類、海藻類 第9回 植物性食品の調理性 食肉類 第10回 動物性食品の調理性 魚介類 第11回 動物性食品の調理性 鶏卵類 第12回 動物性食品の調理性 牛乳、乳製品 第13回 成分抽出素材の調理性 デンプン、ゲル化剤、油脂 第14回 エネルギー源および調理器具 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度20% 小テスト20% 定期試験60%		
失格条件	全授業回数の3分の2以上の出席がない者は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席扱いとし、20分以内の遅刻3回で欠席1回とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義で紹介する参考文献、教科書を次回講義までに読んでおくこと。（予習時間 1時間） 講義終了時に出す課題について次の講義までに仕上げてくること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	新 食品・栄養科学シリーズ 調理学 食べ物と健康④		
著者名	木戸詔子 池田ひろ		
出版社	化学同人		
参考書	新ビジュアル食品成分表 新訂第二版 調理と理論 同文書院 山崎清子他著		
その他	特になし		
備考	調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN204C04	期間	前期
授業科目名	調理学実習A		
英訳科目名	Cookery Practical Training A		
担当教員名	杉山 文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	調理学実習Aでは調理学で学んだ知識を確認しながら、基本的な調理操作の技術の習得を目指す。食品の特性を把握し、食品を衛生的に嗜好に合うよう、安全に栄養効果を高めるよう調理する。非加熱調理、加熱調理、調理操作の基本を習得する。各食材の取り扱い、計量、調理操作、盛り付けなど調理的技術を学ぶ。献立作成の基礎となる調味の基礎を理解する。		
到達目標	1.調理器具の使用方法和基本の調理操作を修得することができる。 2.調理の科学を実際に確認し基本的な調理ができる。 3.食品成分表を活用できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、衛生管理、調理器具の扱い、栄養価計算の方法 第2回 和食 飯の炊き方、米の吸水 第3回 食材の切り方 第4回 出しについて 第5回 洋食 野菜のゆで方 第6回 和食 魚おろし 第7回 中華 中国料理の調味料 第8回 卵料理 第9回 洋食 魚料理 第10回 中華 炒め物 第11回 凝固剤について 第12回 和食 揚げ物 第13回 洋食 肉料理 第14回 中華 第14回 洋食 スパイスについて 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題レポート 60% 実技試験 10%		
失格条件	・5回以上欠席したものは失格とする。 ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・試験を受験しなかった場合 ・課題レポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・事前に実習予定献立に目を通しておくこと。(予習 1時間) ・毎回課題レポートを,教科書、文献等から調べまとめること。 ・調理技術習得のために復習すること。(復習 3時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	1.「基礎から学ぶ調理実習」 2.「栄養士・管理栄養士をめざす人の 調理・献立作成の基礎」 3.「新ビジュアル食品成分表 新訂第二版」		
著者名	1.新調理研究会：編 2.坂本裕子、森美奈子、杉山文他3.「-」（代表著者なしのため）		
出版社	1.オーム社2.化学同人3.大修館書店		
参考書	『調理と理論』山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下林道子共著 同文書院		
その他	注意事項 1.実習服の一部でも忘れた学生は実習授業は受講できない。 2.授業開始までに服装身なりを整えて、調理実習室に入室すること。 3.体調が悪いとき（下痢、腹痛など）や手、指に怪我をしている場合は、担当教員に速やかに報告すること。 4.貴重品は各自で管理すること。また、実習途中の退席は必ず担当教員に断ること。 5.爪は短く切っておくこと。マネキュア、ネールアート、つけ爪は厳禁。また、指輪、アクセサリーは外すこと。 (遵守しなければ実習はさせない。欠席扱いとする。) 6.実習終了時は、必ず後片付けのチェックを担当教員から受けた後に退出すること。 7.レポートの提出は、担当教員の指示に基づき行うこと。（提出期限は厳守）		
備考	調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		



ナンバリング	FN204C05	期間	後期
授業科目名	調理学実習B		
英訳科目名	Cookery Practical Training B		
担当教員名	杉山 文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	調理学の理論、調理学実習Iで学んだ基礎的な調理操作をもとに活用へと発展させ、食品の基本的な特性を理解し、栄養、安全、嗜好を兼ね備えた調理を行う技術を向上させる。さらに、食生活の歴史的背景と現状を理解し、伝統的な行事食なども交えながら、献立作成に必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。		
到達目標	調理学実習Aで学んだ知識、技術をもとに、専門的な調理操作や食品の調理特性を理解し、実践に結び付けられる技術を習得することができる。		
授業計画	第1回 調理実習ガイダンスおよび材料の調理操作による重量変化と廃棄率計算、応用調理 第2回 洋食 スライスについて 第3回 小麦粉の調理 第4回 洋食 イーストの扱い 第5回 和食 寿司 第6回 中国料理 第7回 和食 揚げ物について 第8回 洋食 ホワイトソース 第9回 中国料理 点心 第10回 松花堂弁当 第11回 自主献立作成 計画 第12回 行事食 おせち料理 第13回 行事食 クリスマス料理 第14回 自主献立実習 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題レポート 60% 実技試験 10%		
失格条件	・5回以上欠席したものは失格とする ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・試験を受験しなかった場合 ・課題レポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・事前に実習予定献立に目を通しておくこと。(予習 1時間) ・毎回課題レポートを,教科書、文献等から調べまとめること。 ・調理技術習得のために復習すること。(復習 3時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	調理実習A使用のテキストを引き続き使用する。		
著者名			
出版社			
参考書	『調理と理論』 山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下林道子共著 同文書院		
その他	特記事項はありません。		
備考	調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN204C06	期間	前期
授業科目名	調理科学実験		
英訳科目名	Cooking Science Experiment		
担当教員名	為後 左依		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	調理科学実験では、調理学の基礎的な理論を実験の過程を通して具体的に学習し、それぞれの食材について調理特性を理解することを目的とする。植物性および動物性食材や調味料など身近な食品について、色、味、物理化学的特性などの食品の特性を測定する方法を習得する。さらにそれらの特性が調理過程においてどのように変化するかを実験により確かめる。これらの実験結果を、実際の調理に生かせるように考察をする。		
到達目標	目的の調理に、適切な食品選択ができる。また、科学的な視点から最適な調理操作が判断できる。		
授業計画	第1回 実験のオリエンテーション、官能検査 第2回 計量と計測(食品の体積と重量)、味の相互作用 第3回 米の調理特性 第4回 ジャガイモ、さつまいもの調理特性 第5回 野菜の調理特性(吸水と放水) 第6回 野菜の調理特性(色とpH) 第7回 砂糖の調理特性 第8回 小麦粉の種類と調理特性 第9回 油脂の調理特性 第10回 卵の調理特性(卵白の起泡性) 第11回 卵の調理特性(熱凝固性) 第12回 肉、魚の調理性 第13回 豆類、大豆製品の特性 第14回 ゲル化剤の特性 第15回 調味料の特性、塩の効果		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% レポートの提出 30% 小テスト 20%		
失格条件	全授業回数の3分の2以上の出席がない者は失格とする。 15分以上の遅刻は欠席扱いとし、15分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回の実験テーマに関する内容を前年度履修した調理学や食品学のテキストで復習しておくこと。 (予習時間 1時間) 実験結果を整理し、課題に取り組み、レポートを作成すること。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	レポートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 小テストは授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	実験結果の記録のためにデジタルカメラの持ち込みを認める。 携帯電話での写真撮影は教員の許可を得ること。		
備考	調理士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN205B01	期間	前期
授業科目名	基礎栄養学		
英訳科目名	Basic Nutrition		
担当教員名	今井 ももこ		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	栄養とは何か、その意義を各栄養素の構造と体内での代謝を講義することによって理解する。各栄養素の生理学的な役割や意義について理解を深め、栄養学全般の基礎知識を身につける。		
到達目標	1.各栄養素の役割を理解できる。 2.エネルギー代謝と各栄養素の体内動向を理解できる。		
授業計画	第1回 栄養の概念 第2回 食物摂取と栄養素の体内動態① 第3回 食物摂取と栄養素の体内動態② 第4回 糖質の栄養 第5回 糖質の体内代謝 第6回 食物繊維・難消化性物質の作用 第7回 脂質の栄養 第8回 脂質の体内代謝 第9回 たんぱく質の栄養 第10回 たんぱく質の体内代謝 第11回 ビタミンの栄養 第12回 ミネラル（無機質）の栄養 第13回 水と電解質の代謝 第14回 エネルギー代謝 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 試験 70%		
失格条件	・5回欠席で失格とする。 ・10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・「生化学」など、受講前に履修している基礎科目で習得した知識を整理して、授業に臨むこと。 (予習時間 2時間) ・受講後は、学習内容を整理し、ノートをまとめ、他の教科との関連を意識して理解を深める。 (復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	試験終了後、解説を行います。		
教科書	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版		
著者名	編/田地陽一		
出版社	羊土社		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり (※B種科目等履修生対象)		

ナンバリング	FN205C01	期間	後期
授業科目名	基礎栄養学実験		
英訳科目名	Basic Nutrition Experiment		
担当教員名	今井 ももこ		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	栄養成分の摂取、消化、吸収と、体内動態や代謝について、栄養素の定量試験を行うことで実感し、知識を深める、基礎栄養学の観点から、栄養と健康の関係を理解する。		
到達目標	1.講義で学習した基礎知識を実験を通して、実感することで知識を深めることができる。 2.実験レポートを作成することで、自ら考え、理解する力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス；実験における注意事項の説明等 第2回 実験の基礎説明；器具の使い方、レポートの書き方等 第3回 統計分析の説明と実践；検量線の作成 第4回 実験操作の確認①グルコースの定量分析 第5回 実験操作の確認②結果と考察 第6回 糖質の体内代謝に関する実験①グリコーゲンの精製 第7回 糖質の体内代謝に関する実験②グリコーゲンの定量・換算 第8回 糖質の体内代謝に関する実験③結果と考察 第9回 たんぱく質に関する実験①検出と定量<ビウレット法> 第10回 たんぱく質に関する実験②検出と定量<ローリー法> 第11回 生体脂質に関する実験①総脂肪量の測定 第12回 生体脂質に関する実験②結果と考察 第13回 血中成分に関する実験；血中中性脂肪、コレステロールの定量 第14回 体内における酵素の働き①ペプシン、リパーゼによる分解 第15回 体内における酵素の働き②酵素の特性		
評価方法 (合計100%)	実験への参加態度 30% レポート点 70%		
失格条件	・5回欠席で失格とする ・10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする ・実験レポートが未提出の場合は、欠席扱いとする ・他者と内容が全く同じ、酷似したレポートは点数を与えない		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・実験前に、実験内容に該当する内容を基礎栄養学の教科書で予習する。(予習時間 1時間)。 ・実験後は、関連のある文献・資料(教科書を含む)を調べ、レポートを作成することで、内容を復習し理解を深める。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	レポート提出後、コメントをつけて返却します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版		
その他	・実験は原則グループ単位で行う。 ・実験を安全に行なうために指示された服装、行動を厳守する。 ・実験レポートの提出は、実験の1週間後に提出する。		
備考			
科目生への開講	あり(※B種科目等履修生対象)		

ナンバリング	FN206B01	期間	前期
授業科目名	発達栄養生化学		
英訳科目名	Developmental Nutrition Biochemistry		
担当教員名	岡崎 眞		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	ヒトは“祖母”の胎内にある時から受精、胎生期・出生・揺籃期・発育期・思春期・成人期・更年期を経て終末期にいたるまでのその一生の間、様々な外部環境の影響を受けながら、その内部環境の変化によって、恒常性の維持と調和を模索している。卵祖細胞からはじまり終末期にいたる過程を人間の発達ととらえ、その間の生理的变化を知ることは「人間の栄養」を考えるための必須事項となる。この講義では下記のような到達目標の獲得を視野に入れながら、食環境とヒトの発達の関係に注目し、骨や筋肉など各器官と各種栄養素代謝の生理現象の相関を生化学的視点から考察する。		
到達目標	1. ヒトのライフステージについての基礎を理解する能力を身につけることができる。 2. ライフステージごとの栄養素代謝の特徴について理解する能力を身につけることができる。 3. 栄養学的視点から人間のライフステージを総合的に俯瞰する姿勢を身につけることができる。		
授業計画	第1回 生化学的視点からのヒトの発達 第2回 卵祖細胞～受精～幹細胞 第3回 胎児期 第4回 周産期～新生児期 第5回 乳児期～離乳期～幼児期 第6回 学童期～思春期 第7回 青年期～ 第8回 妊娠期 第9回 壮年期 第10回 更年期～ 第11回 ～終末期 第12回 免疫系の発達 第13回 脳・神経系の発達と心 第14回 発達を支える運動・栄養・休息 第15回 人間の発達・総合的理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業の進行に合わせて適時行われる理解度確認調査の結果90% 授業に取り組む姿勢10%		
失格条件	全授業回数の2/3未満の出席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	生化学・栄養生化学・基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学・ライフステージ栄養学などの内容と総合的に関連付ける視座が授業内容を理解するために良い手助けとなります。(予習1時間・復習1時間)		
課題へのフィード バック	課題と同等の内容の印刷物を配布するとともに、課題の内容について次回以降の講義で順次解説します。		
教科書	化学同人刊 小野他著 生化学 (生化学・栄養生化学で使用した教科書です)		
著者名	小野廣紀 千裕美 吉澤みな子 日比野久美子		
出版社	化学同人		
参考書	特に指定しない		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN206A01	期間	前期
授業科目名	ライフステージ栄養学A		
英訳科目名	Life stage Nutrition A		
担当教員名	品川 英朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義ではまず栄養マネジメント、栄養アセスメント、食事摂取基準の概要について学ぶ。この後、ライフステージ毎（妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、閉経期、高齢期など）の栄養学的特性や栄養学的問題点について学ぶ。その後、スポーツ活動や特殊環境（ストレス、生体リズム、気温、気圧など）における栄養について学ぶ。授業ではその日に講義で説明した重要用語や概念を配布用紙にまとめて記載し、記憶の定着を図る。これらの用紙はファイルにまとめ、自己学習の資料とする。		
到達目標	ライフステージ毎の栄養学的特性や問題点を理解し、健康の保持・増進や疾病予防のための栄養ケア・マネジメントに応用できる。		
授業計画	第1回 栄養マネジメント 第2回 栄養アセスメント 第3回 食事摂取基準総論 第4回 妊娠期 第5回 授乳期の栄養 第6回 乳児期の栄養 第7回 幼児期の栄養 第8回 学童期の栄養 第9回 思春期の栄養 第10回 成人期の栄養 第11回 閉経期の栄養 第12回 高齢期の栄養 第13回 活動・スポーツと栄養 第14回 ストレス・生体リズムと栄養 第15回 特殊環境と栄養		
評価方法 (合計100%)	授業中の学習態度・意欲（私語・居眠・本授業以外のレポート作製や勉強は意欲無しと判定） 15% 小テスト 25% 期末試験 60%		
失格条件	5回欠席すると失格とする。 出席しても私語・居眠・本授業以外のレポート作製や勉強など、授業態度不良の場合は授業に出席しているとは認めない。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義後は講義の要点をノートにまとめ、それを再度手書きしながら声に出して覚える。勉強には図書館や信頼できるネット情報を利用することを勧める。 授業で聞いただけでは記憶に定着させることが難しい。記憶を定着させるには復習の時間を十分にとることが重要である。（予習 1時間、復習 3時間）		
課題へのフィードバック	・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	①Nブックス 四訂 応用栄養学 ②縮刷版 2015年版「日本人の食事摂取基準」		
著者名	①江澤郁子、津田博子 編 ②菱田明、佐々木敏 監修		
出版社	①建帛社 ②第一出版		
参考書	厚生労働省が発信するインターネット情報 佐々木敏著、食事摂取基準入門（その心を読む）、同文書院		
その他	ライフステージ栄養学の学習に有用と思われる行事に参加することで本授業出席に読み替えることがある。		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN206B02	期間	後期
授業科目名	ライフステージ栄養学B		
英訳科目名	Life stage Nutrition B		
担当教員名	品川 英朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義ではライフステージ栄養学Aに引き続き、成人期、高齢期の栄養や生活活動・スポーツ時の栄養あるいは特殊環境と栄養について学ぶ。その後、前期に概要を述べた日本人の食事摂取基準を詳しく学ぶ。		
到達目標	国民の健康の保持・増進を図る上で摂取することが望ましいエネルギー及び栄養素の量の基準を示す日本人の食事摂取基準（2015年版）の策定の理論を理解し、栄養ケア・マネジメントに応用できる。		
授業計画	第1回 成人期の栄養 第2回 男性と栄養 第3回 高齢期の栄養 第4回 理解度チェック 第5回 生活活動と栄養 第6回 スポーツと栄養 第7回 ストレスと栄養 第8回 特殊環境と栄養 第9回 理解度チェック 第10回 日本人の食事摂取基準総論 第11回 日本人の食事摂取基準各論（エネルギー、たんぱく質） 第12回 日本人の食事摂取基準各論（脂質、糖質） 第13回 日本人の食事摂取基準（ビタミン、ミネラル） 第14回 日本人お食事摂取基準（ライフステージ） 第15回 総括、理解度チェック		
評価方法 (合計100%)	授業時理解度テスト 50% 期末試験 50%		
失格条件	5回欠席すると失格とする。 出席しても居眠り、私語等授業態度不良の場合は授業に出席しているとは認めない。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義前に、授業計画で示された事柄について、教科書・参考書・ネットからの情報などを調べておく（予習 1時間）。講義後は講義の要点をノートにまとめ、それを再度手書きしながら声を出して覚える（復習 3時間）。ノートづくりには図書館や、信頼できるネット情報を利用することを勧める。 習いっばなしでは記憶に定着させることが難しいので、復習の時間を十分にとること。		
課題へのフィード バック	・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	①Nブックス 四訂 応用栄養学 ②縮刷版2015年版「日本人の食事摂取基準」 【①、②とも前期購入済みの教科書を使用】		
著者名	①江澤郁子、津田博子 編 ②菱田明、佐々木敏 監修		
出版社	①建帛社 ②第一出版		
参考書	厚生労働省が発信するインターネット情報 佐々木敏著、食事摂取基準入門（その心を読む）、同文書院		
その他	ライフステージ栄養学の学習に有用と思われる行事に参加することで本授業出席に読み替えることがある。		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN206C01	期間	後期
授業科目名	ライフステージ栄養学実習		
英訳科目名	Life stage Nutrition Laboratory Practice		
担当教員名	吉村 智春		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ー	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> 〇
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> 〇	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> 〇
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	人が生まれて健やかに成長し、健康で長生きするためには、妊娠期・授乳期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・高齢期の各ライフステージに即した適切な食生活を送ることが大切である。そこで、ライフステージ栄養学の講義を踏まえ、各ライフステージ別の栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）を行い、栄養学上の特性、食事摂取基準、栄養障害に留意した各種栄養管理方法について、実習を通じて学ぶ。		
到達目標	それぞれのライフステージの特性を理解し、栄養ケアのポイントを考えて、献立作成・作成献立の調理・アセスメント・改善ができる。		
授業計画	第1回 授業内容説明 献立作成の実際 第2回 献立作成の評価・改善方法 第3回 ライフステージ別の栄養ケア・マネジメント① 肥満症 第4回 ライフステージ別の栄養ケア・マネジメント② 妊娠糖尿病 第5回 授乳期・離乳期の食事 調理実習 第6回 幼児期・学童期の食事 調理実習 第7回 思春期の食事 献立作成 第8回 思春期の食事 調理実習 第9回 青年期の食事 献立作成 第10回 青年期の食事 調理実習 第11回 壮年期の食事 献立作成 第12回 壮年期の食事 調理実習 第13回 更年期の食事 献立作成 第14回 更年期の食事 調理実習 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 課題レポート提出 50% 小テストなど 10%		
失格条件	4回以上欠席した者（20分を超える遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。）および課題レポート未提出者とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・実習内容を把握するため、ライフステージ栄養学の教科書をよく読んでおくこと。（予習時間 0.5時間） また献立作成に必要な資料を普段から集め、調理技術も磨いておくことよい。 ・各ライフステージ終了後に出す課題についてレポートを作成すること。（復習時間 1.5時間）		
課題へのフィードバック	・課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする。 ・実技、実習の取り組みに対して個別にコメントする。 ・小テストは事業時間内に返却し、解説する。		
教科書	①Nブックス 四訂 応用栄養学 江澤 郁子編（ライフステージ別栄養学で使用している教科書） ②新ビジュアル食品成分表 新訂第二版（他の授業で使用して食品成分表） ③随時資料を配布		
著者名			
出版社	①建帛社②大修館書店		
参考書			
その他	教科書・食品成分表・電卓は必ず持参すること。		
備考	管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		



ナンバリング	FN207A01	期間	前期
授業科目名	栄養教育論 A		
英訳科目名	Nutrition Education A		
担当教員名	小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	A.栄養教育の概念、 B.食行動変容理論をベースにした栄養教育の基礎と応用 C.栄養教育実践の概要(アセスメント 計画→実施→評価→改善) という、3つの観点から講義を行う。		
到達目標	行動科学理論やカウンセリング論に対する理解を深め、栄養教育プログラムを作成することができる。		
授業計画	第1回 栄養教育の目的・目標、対象と機会 第2回 行動科学理論と栄養教育 第3回 行動科学理論とモデル(1)刺激-反応理論、ヘルスビリーフモデル 第4回 行動科学理論とモデル(2)トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論 第5回 行動科学理論とモデル(3)社会的認知理論、ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第6回 行動科学理論とモデル(4)コミュニティオーガニゼーション、プリシード・プロシードモデル 第7回 行動変容技法と概念 第8回 栄養カウンセリング 第9回 組織づくり・地域づくりへの展開 第10回 食環境づくりとの関連 第11回 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第12回 栄養教育の目標設定と学習者の決定 第13回 栄養教育プログラムの作成 第14回 栄養教育プログラムの実施と評価 第15回 まとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 試験 50% 小テストなど 30%		
失格条件	・出席が2/3以上に満たない場合 ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・最終試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業は教科書に沿って進めるので、次回の講義までに教科書の該当箇所を読んで内容を把握しておくこと。(予習時間 1時間) ・教科書、配布プリントで新しく出てきたキーワードを中心に内容を確認すること。特に行動科学理論や栄養カウンセリングでは、専門的な用語が多く出てくるので、それらをしっかりと理解することが重要である。(復習時間 3時間)		
課題へのフィードバック	小テストは、その後の授業で返却し、全体に向けて解説する。		
教科書	管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第7巻 栄養教育論 理論と実践		
著者名	武見ゆかり 赤松利恵		
出版社	医歯薬出版		
参考書	授業の中で紹介する。 必要に応じてプリントを配布する。		
その他	特になし		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN207B02	期間	前期
授業科目名	栄養教育論B		
英訳科目名	Nutrition Education B		
担当教員名	小田 麗子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	栄養教育論Aで修得した内容をより深く理解し、ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について学習する。対象に応じた栄養教育のマネジメントを修得し、QOLの向上につながる望ましい食生活習慣を定着させる方法について理解を深める。		
到達目標	ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育を通して、QOLの向上を目指した食に関する支援を行うことができる。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス 妊娠・授乳期の栄養教育 第2回 乳児期の栄養教育 第3回 栄養教育マネジメント(1)PDCAサイクル・アセスメント・目標設定 第4回 幼児期の栄養教育 第5回 栄養教育マネジメント(2)学習形態 第6回 学童期の栄養教育 第7回 行動科学理論(1) ヘルスピリーフモデル・トランスセオレティカルモデル 第8回 思春期の栄養教育 ダイエットと栄養教育 第9回 成人期の栄養教育(1) 成人期の栄養教育の必要性 第10回 成人期の栄養教育(2) 生活習慣病の予防と栄養教育 第11回 成人期の栄養教育(3) メタボリックシンドロームと特定健診・特定保健指導 第12回 行動科学理論(2) 計画的行動理論・社会的認知理論 第13回 栄養教育マネジメント(3) 評価と評価デザイン 第14回 高齢期の栄養教育・傷病者および障がい者の栄養教育 第15回 栄養教育マネジメント (4) 生態学的モデル、ソーシャルマーケティング、内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 試験 50% 小テスト・課題 30%		
失格条件	・出席が2/3以上に満たない場合 ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・最終試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・次回の講義までに教科書の該当箇所を読んで内容を把握しておくこと。(予習時間 1時間) ・単元ごとに出る課題は毎回期日までに提出し、新しい用語を中心に授業内容を再確認すること。(復習時間 3時間) ・欠席した場合は必ず次の授業までにレジュメを受け取り自宅学習すること(要提出)		
課題へのフィード バック	・課題はその後の授業で返却し、解説を行う。 ・小テストはその後の授業で返却し、解説を行う。		
教科書	サクセス管理栄養士講座 栄養教育論(栄養教育論Aで使用した教科書と同一)		
著者名	池田小夜子 斎藤トシ子 川野因		
出版社	第一出版		
参考書	授業の中で紹介する。 必要に応じてプリントを配布する。		
その他	第1回目のガイダンスは全員必ず出席すること 課題の提出は期日を守ること 小テストを6回実施します		
備考	管理栄養士としての公衆栄養活動の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN207C01	期間	後期
授業科目名	栄養教育論実習 A		
英訳科目名	Nutrition Education Practice A		
担当教員名	小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	栄養教育論Aで学んだ理論に基づき、栄養教育プログラムの作成・実施・評価の方法を習得する。健康・栄養におけるニーズアセスメント、行動科学やカウンセリングなどの理論と応用、栄養教育の効果判定について実習する。一人一人が実践力を身につけるため、積極的に授業に参加すること。		
到達目標	個人や集団についての栄養問題を診断して改善計画を立て、効果的な手法や媒体を用いて、栄養教育を展開できる。		
授業計画	第1回 栄養教育の概念、行動科学の理論・モデル 第2回 栄養アセスメント、栄養教育計画 第3回 食事調査の方法 第4回 食事調査結果の評価 第5回 アンケート調査の進め方、統計解析 第6回 栄養カウンセリング(1) 個別的な相談指導のシナリオ作成 第7回 栄養カウンセリング(2) ロールプレイングの実施と評価 第8回 小学校における食に関する指導の展開、学習指導案の書き方 第9回 栄養教育計画(1) 目標の設定、教育方法の選択 第10回 栄養教育計画(2) 学習指導案の作成①作成方法とテーマの設定 第11回 栄養教育計画(3) 学習指導案の作成②学習過程の検討 第12回 栄養教育計画(4) 教育媒体の作成①<コンピュータの活用> 第13回 栄養教育計画(5) 教育媒体の作成②栄養教育計画のプレゼンテーションの準備 第14回 栄養教育計画(6) 発表・ディスカッション 第15回 栄養教育論実習のまとめ (食育推進キャンペーン)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題の提出 50% 小テストなど 20%		
失格条件	・出席が2/3以上に満たない場合 ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・課題の提出および発表をしなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	・食事調査のような事前に出した課題は、必ず準備して授業に臨むこと。(予習時間 1時間) ・講義で出す課題についてレポートを作成すること。(復習時間 1時間) ・欠席した場合は、必ずプリントを取りに来て、内容を確認しておくこと。		
課題へのフィード バック	実技・実習の取り組みに対して、個別または全体に向けてコメントする。		
教科書	栄養教育・栄養指導論演習・実習		
著者名	辻とみ子・平光美津子・堀田千津子 編著		
出版社	みらい		
参考書	授業の中で紹介する。 必要に応じてプリントを配布する。		
その他	特になし		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN207C02	期間	後期
授業科目名	栄養教育論実習 B		
英訳科目名	Nutrition Education Practice B		
担当教員名	小田 麗子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>栄養教育論A,B、栄養教育論実習Aで学んだ理論や、関連科目で学んだ知識・技術をもとに、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法を習得する。</p> <p>個人対象、集団対象の栄養教育を計画立案から実施、実演し、評価、改善する中で、実践力を身につけることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>①栄養教育計画を立案し、実践することができる。</p> <p>②行動変容に結びつく保健指導の支援スキルを高めることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 特定健診・特定保健指導の学習</p> <p>第2回 保健指導対象者の選定と階層化の演習、対象者の健診結果・質問票の読み取り</p> <p>第3回 行動科学理論を用いた分析・アセスメント・支援スキルの学習</p> <p>第4回 特定保健指導における初回面接実施準備</p> <p>第5回 特定保健指導における初回面接のロールプレイング① 各班で評価・改善をまとめ発表</p> <p>第6回 特定保健指導における初回面接のロールプレイング② 演習:望ましい初回面接に向けて</p> <p>第7回 特定保健指導における初回面接のロールプレイング③</p> <p>演習:減量方法とエネルギー量削減のための具体的方法案</p> <p>第8回 妊娠・授乳期の栄養教育の計画立案 (Plan)</p> <p>第9回 幼児期の栄養教育の計画立案 (Plan)</p> <p>第10回 思春期の栄養教育の計画立案 (Plan)</p> <p>第11回 成人期・高齢期の栄養教育の計画立案 (Plan)</p> <p>第12回 実施するライフステージ・対象者の決定 栄養教育実施に向け準備:指導案の完成、教材作成</p> <p>第13回 栄養教育実施に向け準備:教材、発表原稿作成、グループ内でリハーサル</p> <p>第14回 栄養教育の実施 (Do) と評価 (Check) ①</p> <p>第15回 栄養教育の実施 (Do) と評価 (Check) ② 評価の集計、改善策の考察</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 40%</p> <p>講義レポート 50%</p> <p>実技・実習 10%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が2/3以上に満たない場合</li> <li>ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</li> <li>・課題を提出しなかった場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育論で使用した教科書で、次回講義のテーマとなる単元を読んでおくこと(予習 1時間)</li> <li>・講義で使用したプリントと教科書で講義内容を確認し、ロールプレイや集団栄養教育の実施に備えること。(復習 1時間)</li> <li>・欠席した場合はレジュメを取りに来て、次の授業までに必ず各自学習すること。(要提出)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回行うグループワークにおける発表については、全体に向けコメントします。</li> <li>・講義レポートは提出後の授業で返却し、全体に向けコメントします。</li> <li>・実技・実習の取り組みに対して個別にコメントします。</li> </ul>		
教科書	栄養教育・栄養指導論演習・実習 (栄養教育論実習Aで使用した教科書と同一)		
著者名	辻とみ子・平光美津子・堀田千津子 編著		
出版社	みらい		
参考書	授業の中で紹介する。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、配布プリントは毎回持参すること。</li> <li>・第1回～第7回は連続した演習となるため、欠席した場合は次の授業までにレジュメを受け取り内容を確認、把握し、要提出と記載されたレジュメは提出すること。</li> </ul>		
備考	管理栄養士としての公衆栄養活動の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN207C03	期間	後期
授業科目名	栄養教育演習		
英訳科目名	Nutrition Education Exercises		
担当教員名	小野 くに子、小田 麗子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	栄養教育論・栄養教育論実習で修得した内容をより深く理解し、栄養教育に関する広範な知識を深化修得することを目標とする。栄養教育のマネジメントサイクル、行動理論等について復習し、対象者をライフステージ別に捉え、実践例も交えて演習を行う。		
到達目標	①行動理論を活用して、栄養教育のマネジメントができる。 ②ライフステージ別に栄養教育の実践ができる。		
授業計画	第1回 栄養カウンセリング(小田) 第2回 組織づくり・地域づくりへの展開、食環境づくりとの関連(小田) 第3回 要因のアセスメント、特定健康診査(小田) 第4回 乳幼児期、学童期、思春期の栄養教育(小田) 第5回 成人期、高齢期、傷病者、障がい者の栄養教育(小田) 第6回 食事バランスガイド、特定保健指導、内容理解の確認1(小田) 第7回 栄養教育実践例1(地域での栄養教育、乳幼児期対象)(小田) 第8回 栄養教育実践例2(地域での栄養教育、成人期・高齢期対象)(小田) 第9回 栄養教育実践例3(学校における栄養教育、学童期対象)(小野) 第10回 栄養教育実践例4(学校における栄養教育、思春期対象)(小野) 第11回 栄養教育の概念、行動理論(小野) 第12回 行動変容技法(小野) 第13回 栄養教育の目標と評価(小野) 第14回 学習形態(小野) 第15回 食事摂取基準、内容理解の確認2(小野)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 課題レポート 20% 試験 60%		
失格条件	・出席が2/3以上に満たない場合 ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・内容理解の確認1、2を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・栄養教育論で使用した教科書で、次回講義のテーマとなる単元を読んでおくこと。(予習時間 1時間) ・講義で配布したプリントと教科書で講義内容を確認し、課題についてはレポートを作成する。(復習時間 3時間)		
課題へのフィードバック	小テストは、その後の授業で返却し、個別または全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①管理栄養士国家試験過去問解説集(5年分徹底解説)中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版		
参考書	サクセス管理栄養士講座「栄養教育論」池田小夜子・斎藤トシ子・川野因 第一出版 (栄養教育論A・Bで使用した教科書)		
その他	特になし		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(小野) 管理栄養士としての公衆栄養活動の実務経験をもとに、この授業を進めます。(小田)		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN208A01	期間	前期
授業科目名	臨床栄養学 A		
英訳科目名	Clinical Nutrition A		
担当教員名	金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ○	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>臨床栄養学の科目目標は、傷病者の病態や栄養状態の特性に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得することである。</p> <p>臨床栄養学Aでは、栄養管理方法や各種パラメータについて学ぶ。栄養管理方法（マネジメント）の考え方、栄養評価（アセスメント）のパラメーターである臨床診査・臨床検査・各種計測・栄養素摂取量調査、各種栄養補給法、食品と医薬品の相互作用について学ぶ。また、在宅医療における管理栄養士の活動として、訪問栄養指導の実際について学び、患者支援と管理栄養士活動について考える。</p>		
到達目標	<p>栄養管理方法（マネジメント）の考え方、栄養評価（アセスメント）のパラメーターである臨床診査・臨床検査・各種計測・栄養素摂取量調査、各種栄養補給法、食品と医薬品の相互作用について理解する。在宅医療における管理栄養士の活動、訪問栄養指導、患者支援についても理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 臨床栄養学の基礎・臨床栄養管理総論  第2回 チーム医療・在宅医療  第3回 栄養ケアとマネジメント  第4回 栄養アセスメントの手法（臨床診査）（臨床検査）  第5回 栄養アセスメントの手法（身体計測）  第6回 栄養アセスメントの手法（栄養・食事調査）  第7回 臨床検査・症状と疾病（血液生化学、尿・便検査）（生理機能、免疫機能、体組成検査）  第8回 栄養必要量の算定（エネルギー・たんぱく質・水・電解質）  第9回 人体への栄養補給（消化と吸収）  第10回 栄養補給法（経口栄養）  第11回 栄養補給法（経腸栄養）  第12回 薬と栄養・食物の相互作用  第13回 栄養ケアの計画と実施、記録  第14回 栄養ケアの評価  第15回 臨床栄養管理のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 15%  試験 70%  小テストなど 15%</p>		
失格条件	<p>欠席回数4回までは評価の対象とする。  10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：使用する教科書をシラバスに沿ってよく読んで授業に臨むこと。（予習時間2時間）  復習：「解剖生理学」を復習し、人体の構造と機能を理解しておく。  その他の「人体の構造及び疾病の成り立ち」に関連する科目の復習をしておくこと。  さらに、授業終了後に理解が不十分と思われるところは、繰り返し調べること。（復習時間2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>レポートなどは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。  基礎教科の学習における小テストについては、講義のなかでも内容を解説する。</p>		
教科書	カレント 臨床栄養学		
著者名	明渡陽子 長谷川輝美 山崎大治 編		
出版社	建帛社		
参考書	月刊雑誌「臨床栄養」 医歯薬出版株式会社		
その他	特になし		
備考	病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN208B01	期間	前期
授業科目名	臨床栄養学B		
英訳科目名	Clinical Nutrition B		
担当教員名	竹山 育子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> -	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	臨床栄養学Bでは、疾患・病態別に身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法（マネジメント）について学習する。医療・介護制度や医療・介護チームの一員としての役割を自覚し、医療制度やチーム医療における役割について理解する。各疾患・病態別に生理学的特徴や栄養代謝を理解した上で、適切な食事療法、栄養補給が選択できる臨床栄養管理について修得することを目的とする。		
到達目標	食事療法の意義、栄養の役割、栄養補給方法について理解する。 各種疾患に応じた食事療法を理解し、献立の作成ができる。		
授業計画	<p>第1回 食事療法の意義 消化性潰瘍、炎症性疾患の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第2回 消化性潰瘍、炎症性腸疾患の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法  第3回 肥満症、脂質異常症の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第4回 糖尿病の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第5回 糖尿病の栄養アセスメント・ケアの実際、献立作成方法  第6回 肝硬変の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第7回 すい炎、胆のう炎の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第8回 高尿酸血症、痛風のアセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第9回 高血圧症、動脈硬化症、心臓病の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第10回 慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第11回 腎不全、人工透析、糖尿病性腎症の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第12回 たんぱく・エネルギー栄養障害、摂食障害・褥瘡の概要  栄養ケアの実際、アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第13回 貧血の栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第14回 食物アレルギーの栄養アセスメント・ケアの実際、食事療法の考え方  第15回 総論 具体的な栄養管理方法のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・提出物等 40% 試験60%		
失格条件	出席が2/3以上に満たない場合 10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 最終試験未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	関連科目をしっかりと見直し、各疾患の基礎知識、検査データについて学習(予習2時間) 授業で学んだ症例について検討し、献立作成する(復習2時間)		
課題へのフィード バック	毎回授業終了前にその日の学習内容の確認テストを実施し、次回の授業開始時に採点、添削したものを返却し、重要ポイントを再指導する。		
教科書	カレント 臨床栄養学(第2版)		
著者名	編著 明渡陽子・長谷川輝美・山崎大治		
出版社	建帛社		
参考書	日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 黒川清監修・中尾俊之編「腎臓病食品交換表」医歯薬出版株式会社 月刊雑誌「臨床栄養」医歯薬出版株式会社		
その他	特になし。		
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN208B02	期間	後期
授業科目名	臨床栄養アセスメント論		
英訳科目名	Clinical Nutrition Assessment		
担当教員名	石橋 朋美		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> -	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>臨床栄養学の科目目標は、傷病者の病態や栄養状態の特性に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について修得することである。</p> <p>臨床栄養アセスメント論では、疾患・病態と栄養状態との関連についてよく理解する。そして、疾患・病態別の栄養状態の評価や栄養教育のための知識・スキルについて学ぶ。</p> <p>また、チーム医療の中で専門性を発揮することの出来る管理栄養士の心構えなども伝えたい。</p>		
到達目標	<p>疾患・病態を理解し、疾患・病態別に栄養状態を評価できる。適切な栄養状態の評価・判定・栄養補給法を理解し、計画立案と指導を行うことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 栄養障害</p> <p>第2回 代謝疾・内分泌疾患(1)肥満症、メタボリックシンドローム</p> <p>第3回 代謝疾・内分泌疾患(2)糖尿病</p> <p>第4回 代謝疾・内分泌疾患(3)糖尿病(糖尿病食事療法のための食品交換表)</p> <p>第5回 代謝疾・内分泌疾患(4)脂質異常症、高尿酸血症、痛風、その他</p> <p>第6回 消化器疾患(1)消化管の疾患</p> <p>第7回 消化器疾患(2)肝胆膵の疾患</p> <p>第8回 循環器疾患</p> <p>第9回 腎・尿路疾患(1)糸球体腎炎、ネフローゼ症候群</p> <p>第10回 腎・尿路疾患(2)腎不全、糖尿病性腎症、透析療法</p> <p>第11回 神経疾患、摂食障害、呼吸器疾患</p> <p>第12回 血液系の疾患、筋・骨格疾患、免疫・アレルギー疾患</p> <p>第13回 感染症、がん、周術期の管理、クリティカルケア</p> <p>第14回 摂食機能の障害、身体知的障害、ライフステージ別の管理</p> <p>第15回 総まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	30%	
	試験	50%	
	小テストや課題など	20%	
失格条件	<p>欠席回数4回以上</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>「臨床栄養学」の基礎となる「人体の構造及び疾病の成り立ち」に関連する科目の確認をしておくこと(予習 1.5時間)。</p> <p>授業終了後は、病態と栄養管理との関連についてまとめ、理解しておくこと(復習 2.5時間)。</p>		
課題へのフィード バック	<p>提出の課題については、期日内に提出をすることを重要視する。</p> <p>また、解説を授業内で行う。</p>		
教科書	カレント 臨床栄養学		
著者名	明渡陽子・長谷川輝美・山崎大治編		
出版社	建帛社		
参考書	糖尿病食事療法のための食品交換表		
その他	特になし		
備考	管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	FN208B03	期間	後期
授業科目名	臨床栄養カウンセリング論		
英訳科目名	Clinical Nutrition Counseling		
担当教員名	竹山 育子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> -	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	臨床栄養カウンセリング論では傷病者を対象とした栄養マネジメントを適切かつ効果的に実践できるように学習する。栄養状態および病態・病状の評価と栄養マネジメントの応用として各疾患の栄養ケアについて詳しく学ぶ。また、肥満、糖尿病、摂食障害等の栄養教育に必要なカウンセリングについても学習する。		
到達目標	栄養ケアアセスメントができ、栄養ケア計画の作成ができる。 医療介護制度やチーム医療における栄養管理、管理栄養士の役割が理解できる。 病態や栄養状態に基づいた総合的な栄養管理を理解し、栄養指導ができる。		
授業計画	第1回 臨床栄養カウンセリング論概論、栄養評価の意義と方法、臨床検査の基準値、症例の見方 第2回 内分泌・代謝疾患（肥満、メタボリックシンドローム）の栄養ケアマネジメント 第3回 内分泌・代謝疾患（糖尿病）の栄養ケアマネジメント 第4回 内分泌・代謝疾患（脂質異常症）の栄養ケアマネジメント 第5回 消化器系疾患の栄養ケアマネジメント（肝疾患） 第6回 栄養ケアの記録の実際 第7回 循環器系疾患の栄養ケアマネジメント 第8回 消化器系疾患（上部消化器疾患）の栄養ケアマネジメント 第9回 消化器系疾患（下部消化器疾患：炎症性腸疾患）の栄養ケアマネジメント 第10回 腎臓疾患（慢性腎臓病）の栄養ケアマネジメント 第11回 腎臓疾患（透析）の栄養ケアマネジメント 第12回 脳血管疾患・褥瘡の栄養ケアマネジメント 第13回 呼吸器疾患の栄養ケアマネジメント 第14回 在宅栄養、摂食障害その他の疾患の栄養ケアマネジメント 第15回 栄養ケアマネジメント総論・内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度、提出物等40% 試験60%		
失格条件	出席が2/3以上に満たない場合 10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 最終試験未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	関連科目をしっかりと見直し、各疾患の基礎知識、検査データについて予習する（予習2時間） 授業で学んだ症例について復習し、栄養ケア計画を作成する。（復習2時間）		
課題へのフィード バック	提出された課題、レポートは、教員が点検、添削し、学習効果を高めるため指導を行う。		
教科書	カレント 臨床栄養学（第2班）		
著者名	編著 明渡陽子・長谷川輝美・山崎大治		
出版社	建帛社		
参考書	日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 黒川清監修・中尾俊之編「腎臓病食品交換表」 医歯薬出版株式会社 月刊雑誌「臨床栄養」 医歯薬出版株式会社		
その他	特になし		
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN208C01	期間	前期
授業科目名	臨床栄養学実習 A		
英訳科目名	Clinical Nutrition Practicum A		
担当教員名	竹山 育子、金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> -	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	臨床栄養管理は、人体の栄養状態を評価・判定（アセスメント）し、身体の状態に見合った栄養補給を行い、栄養状態を改善することのより、疾病を治癒し予防することである。そのために、ベッドサイドにおける個人の身体測定値や身体組成、血液生化学検査、栄養素等摂取状況、食習慣などの情報を基に栄養状態を科学的に評価する方法を学習する。さらに、栄養アセスメントに基づいた栄養補給法および栄養量、食事内容を検討し、患者への栄養教育へと繋げ、栄養管理計画の作成、治療食の実施・評価へと展開させ、傷病者に対する実践的な栄養療法の技能を修得する。		
到達目標	1.栄養アセスメントの指標を理解し、評価できる。 2.栄養ケアプランの栄養補給法が正しく選択できる。 3.アセスメント、プラン作成をもとに栄養管理計画書が作成できる。 4.初期計画のモニタリングができる。 5.POSによる記録方法を修得する。		
授業計画	第1回 総論・医療コミュニケーション(竹山) 第2回 栄養アセスメントの手法（臨床診査・臨床検査・身体計測）(竹山) 第3回 栄養アセスメントの手法（必要栄養量の算出）(竹山) 第4回 栄養アセスメントの手法（栄養・食事調査）(金石) 第5回 栄養補給法(金石) 第6回 栄養管理計画書の作成（基礎）(竹山) 第7回 栄養ケアプロセス・POSによる医療カルテへの記録(金石) 第8回 栄養アセスメント実践（栄養スクリーニング）(金石) 第9回 栄養アセスメント実践（栄養アセスメント表作成）(竹山) 第10回 栄養アセスメント実践（栄養ケアプラン作成）(竹山) 第11回 栄養アセスメント実践（栄養モニタリング・栄養評価表作成）(金石) 第12回 栄養アセスメント実践（食品構成と献立作成）(金石) 第13回 在宅における臨床栄養管理(竹山) 第14回 摂食嚥下障害者の栄養管理(竹山) 第15回 栄養指導実践練習、内容理解の確認(金石)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	40%	
	実習レポート・試験	60%	
失格条件	出席が2/3以上に満たない場合。ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 課題レポート未提出者、最終試験未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：「臨床栄養学A」「臨床栄養アセスメント論」の授業内容を復習し、各種計測による評価・判定方法を理解しておくこと。（予習0.5時間） 復習：実践的な実習は、各講のまとめ、記録をレポートすることにより、理解が深まり、さらにあらたな発展的な学習になる。 実習終了後に出す課題についてレポートを作成する（復習1.5時間）		
課題へのフィードバック	提出された課題、レポートは、教員が点検、添削し、学習効果を高めるため指導を行う。		
教科書	①臨床栄養学実習一フローチャートで学ぶ臨床栄養管理 第2版 ②栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学基礎編		
著者名	①中村富予・高岸和子編 ②本田佳子・土江節子・曾根博仁		
出版社	①建帛社②羊土社		
参考書	月刊雑誌「臨床栄養」 医歯薬出版株式会社 カレント臨床栄養学（第2版）		
その他	アボット「栄養アセスメントキット」医科学出版社を用いて実習を行う。		
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（竹山） 病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（金石）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN208C02	期間	後期
授業科目名	臨床栄養学実習 B		
英訳科目名	Clinical Nutrition Practicum B		
担当教員名	竹山 育子、金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> -	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> -
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	疾患・病態別に身体状況（口腔衛生を含む）や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法（マネジメント）について学習する。医療・介護制度や医療・介護チームの一員としての役割を自覚し、医療制度やチーム医療における役割について理解する。		
到達目標	医療施設における栄養管理部門の位置づけ・栄養管理システムについて学び、各疾患の献立作成・調理ができる。 常食から軟食・各種疾患に応じた特別食への展開ができる。 成分別栄養管理および形態別栄養管理について理解する。 生活習慣病患者に対してのアプローチ方法を修得する。		
授業計画	第1回 [臨床栄養学実習の基礎知識]食事療法の意義と目的・ポイント 治療食の種類・供食の流れ(竹山) 第2回 [成分別栄養管理]エネルギーコントロール食 糖尿病食品交換表(金石) 第3回 [成分別栄養管理]たんぱく質コントロール食 塩分コントロール食 たんぱく塩分コントロール食(竹山) 第4回 [成分別栄養管理]脂質コントロール食(竹山) 第5回 [形態別栄養管理]献立作成 濃厚流動食 流動食 軟菜食 固形食(金石) 第6回 [治療食(一般食)]常食から減塩食への展開 献立作成(金石) 第7回 [展開食の実習]展開食の実際 実習後献立・調理の評価と講評(金石) 第8回 [糖尿病食①]常食から糖尿病食への展開 献立作成(金石) 第9回 [糖尿病食②]糖尿病指導（集団指導個別指導）(竹山) 第10回 [糖尿病食③]糖尿病食の調理の実際 実習後献立・調理の評価と講評(竹山) 第11回 [腎臓病食①]展開食 献立作成 腎臓病食品交換表 治療用食品を使用した献立作成(金石) 第12回 [腎臓病食②]腎臓病食の実際 実習後献立・調理の評価と講評(竹山) 第13回 [アレルギー食]アレルギー食の実際 実習後献立・調理の評価と講評(金石) 第14回 [食事療法総括]入院から在宅へ(竹山) 第15回 [総論]プレゼンテーション(竹山)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% テスト・レポート・プレゼンテーション 70%		
失格条件	出席が2/3以上に満たない場合 20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 課題レポート未提出者、テスト未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	関連科目をしっかりと見直し、病態についての理解を深めておく(予習0.5時間) 課題レポートおよび献立作成(復習1.5時間)		
課題へのフィード バック	提出された課題、レポートは、教員が点検、添削し、学習効果を高めるため指導を行う。		
教科書	①糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 ②腎臓病食品交換表第9版		
著者名	①日本糖尿病学会編②中尾俊之、小沢尚、酒井謙 他 編		
出版社	①文光堂②医歯薬出版株式会社		
参考書	カレント 臨床栄養学(第2版) 月刊雑誌「臨床栄養」医歯薬出版株式会社		
その他	特になし		
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(竹山) 病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(金石)		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN209A01	期間	前期
授業科目名	公衆栄養学 A		
英訳科目名	Public Nutrition A		
担当教員名	上田 秀樹		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>公衆栄養学とは、集団（人々）の健康の維持・増進を目標とし、もってQOLの向上を図るための実践栄養の科学であり、公衆栄養活動を含むものである。</p> <p>本授業では、わが国の少子高齢社会における健康・栄養問題が、人口構成や社会・食環境の変化と密接に関係していることを修得する。次にわが国の健康づくり施策とその推進の一翼を担う管理栄養士の役割を学び、さらに地域住民の健康寿命を延伸し、QOLの向上を図るための公衆栄養活動について、公衆栄養マネジメントの理論と方法を学び、既存のマネジメントモデルや事例を示して理解を深める。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養活動の意義と目的が理解できる。</li> <li>・我が国の健康・栄養問題の現状と課題について理解できる。</li> <li>・健康づくり施策と公衆栄養活動の役割、行政における管理栄養士の業務等について理解できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、公衆栄養の概念(1) 意義と目的</p> <p>第2回 公衆栄養の概念(2) 公衆栄養活動の歴史</p> <p>第3回 公衆栄養の概念(3) 保健・医療・福祉・介護システムと公衆栄養活動</p> <p>第4回 公衆栄養活動(1) ヘルスプロモーションのための公衆栄養活動</p> <p>第5回 公衆栄養活動(2) 少子高齢社会における健康増進</p> <p>第6回 健康・栄養問題の現状と課題(1) 健康状態の変化</p> <p>第7回 健康・栄養問題の現状と課題(2) 食事・食生活の変化</p> <p>第8回 健康・栄養問題の現状と課題(3) 食環境の変化、食料需給表</p> <p>第9回 健康・栄養問題の現状と課題(4) 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題</p> <p>第10回 栄養政策(1) わが国の公衆栄養活動、公衆栄養関連法規</p> <p>第11回 栄養政策(2) わが国の管理栄養士・栄養士制度</p> <p>第12回 栄養政策(3) 国民健康・栄養調査</p> <p>第13回 栄養政策(4) 実施に関連する指針、ツール</p> <p>第14回 栄養政策(5) 国の健康増進基本方針と地方計画：健康日本21第二次、第3次 食育推進基本計画</p> <p>第15回 諸外国の健康・栄養政策</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>小テスト（5～6回程度）30%</p> <p>期末試験70%</p>		
失格条件	<p>出席回数が2/3以上に満たない場合</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p> <p>指定された提出物の未提出者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>この科目は、社会情勢と極めて関係が深いため、日ごろから報道に接し、日本だけでなく海外、および地域社会の動向を把握しておくようにすること。また講義終了後は、理解が不十分な内容については教科書や配布資料をよく読み理解を深めること。（予習2時間、復習2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、授業内容の復習に対する全体へのコメントをする。</li> <li>・小試験の結果返却と全体コメントをする。</li> </ul>		
教科書	サクセス管理栄養士講座(第7版) 公衆栄養学		
著者名	(著者)井上浩一・草間かおる・村山伸子		
出版社	第一出版		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養学 徳留裕子／伊達ちぐさ編（医歯薬出版）</li> <li>・食事摂取基準理論と活用（医歯薬出版）</li> <li>・食事バランスガイドを活用した栄養教育・食事実践マニュアル</li> <li>・国民衛生の動向（厚生統計協会）</li> </ul> <p>その他必要に応じて紹介します。</p>		
その他	特になし		
備考	大阪市職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN209B01	期間	後期
授業科目名	公衆栄養学B		
英訳科目名	Public Nutrition B		
担当教員名	上田 秀樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>栄養疫学は、ヒト集団を対象に、健康や疾病と食物・栄養との関連を明らかにする科学であり、栄養施策・公衆栄養活動のためのアセスメントや評価あるいは科学的根拠に基づいた公衆栄養活動のツールである。</p> <p>本授業では、栄養疫学の概念を理解し、公衆栄養活動における栄養疫学の必要性と意義について修得する。</p> <p>さらに、地域の健康・栄養活動への栄養疫学の活用方法についても学び、理解を深める。</p> <p>地域集団の食事摂取状況の評価と食事改善に食事摂取基準を活用する際の基本的な考え方とその活用、食環境づくり施策等の公衆栄養プログラムの展開についても学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養疫学の概念を理解し、公衆栄養活動における栄養疫学の必要性や地域の健康・栄養活動への栄養疫学の活用方法について理解できる。</li> <li>・栄養アセスメントの基礎となる食事調査方法と食事摂取基準の地域集団への活用について理解できる。</li> <li>・食環境づくり施策等と公衆栄養プログラムの展開について理解できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、栄養疫学(1) 公衆栄養活動における栄養疫学の役割</p> <p>第2回 栄養疫学(2) 曝露情報としての食事摂取量</p> <p>第3回 栄養疫学(3) 食事摂取量の測定方法(1) 食事調査法の種類と特徴</p> <p>第4回 栄養疫学(4) 食事摂取量の測定方法(2) 食事摂取量を反映する身体・生化学的指標</p> <p>第5回 栄養疫学(5) 食事摂取量の評価方法</p> <p>第6回 栄養疫学(6) 総エネルギー調整栄養素摂取量</p> <p>第7回 公衆栄養マネジメント マネジメントの意義と必要性</p> <p>第8回 公衆栄養アセスメント(1) 食事摂取基準の基本的な考え方と集団への活用</p> <p>第9回 公衆栄養アセスメント(2) 地域観察(社会調査法)の方法</p> <p>第10回 公衆栄養アセスメント(3) 既存資料の活用、健康・栄養情報の収集と管理</p> <p>第11回 公衆栄養プログラムの目標設定</p> <p>第12回 公衆栄養プログラムの計画、実施、評価(1) 計画策定</p> <p>第13回 公衆栄養プログラムの計画、実施、評価(2) 評価の意義と方法</p> <p>第14回 公衆栄養プログラムの展開(1) 食環境づくり、栄養表示制度</p> <p>第15回 公衆栄養プログラムの展開(2) 生活習慣病・ハイリスク集団</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>小試験 (5~6回) 30%</p> <p>提出物 10%</p> <p>期末試験 60%</p>		
失格条件	<p>出席が2/3以上に満たない場合</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。</p> <p>指定された提出物の未提出者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習2時間・復習2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生学(3年次前期)で習得した疫学について理解しておくこと。</li> <li>・日本人の食事摂取基準2015年版について理解しておくこと。</li> </ul>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、授業内容の復習に対する全体へのコメントをする。</li> <li>・小試験の結果返却と全体コメントをする。</li> </ul>		
教科書	サクセス管理栄養士講座 公衆栄養学(第7版)		
著者名	(著者) 井上浩一・草間かおる・村山伸子		
出版社	第一出版		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養学2015版 徳留裕子/伊達ちぐさ編 (医歯薬出版)</li> <li>・食事摂取基準理論と活用 (医歯薬出版)</li> <li>・わかりやすいEBMと疫学 (同文書院) 佐々木敏著</li> <li>・国民衛生の動向 (厚生統計協会)</li> </ul> <p>その他必要に応じて紹介します。</p>		
その他	特になし		
備考	大阪市職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN309C01	期間	後期
授業科目名	公衆栄養学実習 A		
英訳科目名	Public Nutrition Exercises A		
担当教員名	多門 隆子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	公衆栄養活動は、栄養・食生活に焦点をあてた公衆衛生活動の一環として実施される。地域集団における健康・栄養問題に関連する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定し、実際の公衆栄養プログラムを計画・実施へとつなげていくためのマネジメントサイクルについて実習により学ぶ。さらに、公衆栄養行政の実践方法、特に「健康日本21第二次」を地域や職域で実践していく方法について学ぶ。また、保健・医療・福祉・介護の場におけるマネジメントの概念を理解し、各集団の健康・栄養状況にあったプログラムを作成することを学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢社会がもたらす社会問題や健康・栄養問題について理解できる。</li> <li>・ 食生活と食環境の変化とその関連について理解できる。</li> <li>・ 公衆栄養活動を実施するに当たり、行政における管理栄養士の役割について理解できる。</li> <li>・ 国の健康づくり施策の基礎資料の1つである国民健康・栄養調査結果の活用について理解できる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 公衆栄養プログラムの展開Ⅰ 健康・食生活の危機管理と食支援ー自助・共助・公助を考えるー 第2回 公衆栄養プログラムの展開Ⅰ 地域における「食と防災」啓発ツールの作成とその活用 第3回 公衆栄養プログラムの展開Ⅱ 職域におけるポピュレーションアプローチの手法について考える 第4回 公衆栄養プログラムの展開Ⅱ 卓上POPの作成・活用と期待される教育効果 第5回 公衆栄養プログラムの展開Ⅲ 特定健診・特定保健指導とポピュレーションアプローチの効果 第6回 公衆栄養プログラムの展開Ⅲ 事業所におけるミニ健康・栄養教育の企画・実施とその評価 第7回 公衆栄養プログラムの展開Ⅳ 食環境づくりー中食・外食の現状と課題分析ー 第8回 公衆栄養プログラムの展開Ⅳ IT機器を活用した栄養成分表示システムの効果 第9回 公衆栄養プログラムの展開Ⅴ 第3次食育推進基本計画の推進 第10回 公衆栄養プログラムの展開Ⅵ 食品ロスの削減と対策 第11回 「わが国の食を巡る現状と食育の推進」について考える（農林水産省近畿農政局：予定） 第12回 公衆栄養アセスメントの基礎実習 社会調査法と文献調査 第13回 日本人の食生活の変遷と現状 国民健康・栄養調査の概要と年次推移グラフの作成 第14回 日本人の最近の食生活の課題 国民健康・栄養調査の調査結果の分析 第15回 まとめと総括		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度40%、課題レポートの提出60%で総合的に評価する。		
失格条件	出席が2/3以上に満たない場合 20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 指定された提出物の未提出者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	公衆栄養学で学習した理論を地域社会に展開するシュミレーションを行うので、国や地方自治体の活動をインターネット等で学習しておくこと。(予習1時間、復習1時間)		
課題へのフィード バック	プレゼンテーション等の実習後、または課題提出後に全体に向けてコメントする。		
教科書	公衆栄養学実習（学内編）		
著者名	（編著）幸林友男、上田秀樹		
出版社	南山堂		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすいEBMと疫学（同文書院）佐々木敏著</li> <li>・ 日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版）</li> <li>・ 国民衛生の動向（厚生統計協会）</li> <li>・ 食事バランスガイドを活用した栄養教育・食事実践マニュアル</li> </ul> その他必要に応じて紹介します。		
その他	後期に臨地実習A。Cが入るため、授業計画の変更あり。		
備考	行政管理栄養士として大阪府での34年間の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN309C02	期間	前期
授業科目名	公衆栄養学実習 B		
英訳科目名	Public Nutrition Exercises B		
担当教員名	上田 秀樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	地域・集団の健康状態や栄養摂取状況を把握するためには、既存統計資料などから情報の収集・分析の他、食習慣・食行動に対するアンケート調査や食生活調査など多様なアセスメントが必要である。本科目では、アセスメントから抽出された問題・課題に対する改善策の検討や実践活動および評価についてマネジメントする方法を実習する。また、地域診断に必要なデータ処理や統計手法についても実習を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養の現場において、地域集団の現状を把握分析し健康・栄養問題や課題の必要性が理解できる。</li> <li>・地域社会やライフステージにおけるニーズにあった公衆栄養プログラムの企画、実施、評価ができる。</li> <li>・コミュニケーション能力を高めて栄養教育現場における地域住民に対する食教育・指導ができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 ガイダンス、公衆栄養アセスメントの基礎演習(1) (既存資料の収集) 第2回 公衆栄養アセスメントの基礎演習(2) (既存資料の分析) 第3回 公衆栄養アセスメントの基礎演習(3) (アンケート調査の実際) 第4回 公衆栄養アセスメントの基礎演習(4) (食生活調査法の実際と集計分析) 第5回 公衆栄養アセスメントの基礎演習(5) (食生活調査結果の個人評価) 第6回 公衆栄養アセスメントの基礎演習(6) (食生活調査結果の集団評価) 第7回 公衆栄養活動の実際(1) (公衆栄養活動における目標設定と計画立案) 第8回 公衆栄養活動の実際(2) (栄養教育媒体の作成) 第9回 公衆栄養活動の実際(3) (栄養教育の実践と評価) 第10回 公衆栄養プログラム(1) (母子保健事業における栄養教育の企画) 第11回 公衆栄養プログラム(2) (母子保健事業における栄養教育の実践と評価) 第12回 公衆栄養プログラム(3) (生活習慣病対策事業における栄養教育の企画) 第13回 公衆栄養プログラム(4) (生活習慣病対策事業における栄養教育の実践と評価) 第14回 公衆栄養プログラム(5) (介護予防事業における栄養教育の企画) 第15回 公衆栄養プログラム(6) (介護予防事業における栄養教育の実践と評価)		
評価方法 (合計100%)	月別試験・課題の提出・授業態度・出席状況等を総合的に判断する。 月別試験(3回、30%) 課題の提出状況(30%) 授業への参加態度(40%)(グループワーク・プレゼンテーション力の評価含む)		
失格条件	出席が2/3以上に満たない者 20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 指定された提出物未提出の者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	インターネットなどを活用し、国や地方公共団体が実施している健康施策の実際を調べておく。 <予習> 次回の実習内容についてテキストやプリントをよく読み、必要に応じて資料を準備する。(予習 1時間) <復習> 理解の不十分な内容についてはよく調べ理解しておく。(復習 1時間)		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、授業内容の復習に対する全体へのコメントをする。</li> <li>・月別試験の結果返却と全体コメントをする。</li> <li>・提出物のチェックと個別・全体へのコメントをする。</li> </ul>		
教科書	公衆栄養学実習 学内編		
著者名	編著 幸林 友男・上田 秀樹		
出版社	南山堂		
参考書			
その他	特になし		
備考	大阪市職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN310A01	期間	後期
授業科目名	給食経営管理論		
英訳科目名	School lunch Management		
担当教員名	角谷 勲		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	特定給食施設における管理栄養士業務は、栄養食事管理と経営管理を併せて行わなければなりません。管理栄養士として基礎的な給食経営全般のマネジメントについて学び、内容理解の確認を行います。		
到達目標	適切な栄養管理を目的とした喫食対象者のアセスメントから始まる栄養・食事管理について、経営管理、品質管理、会計・原価管理などの理論や経営手法の基礎的な知識技能を習得し理解ができる。		
授業計画	第1回 給食の概要 第2回 給食給食システム、関係法規 第3回 経営管理の概要、給食とマーケティング 第4回 給食経営と組織 第5回 栄養・食事管理の概要 第6回 栄養・食事の計画、献立の作成 第7回 給食の品質 第8回 給食の品質の評価、改善 第9回 給食の生産（調理） 第10回 給食の安全・衛生の概念 第11回 給食の安全・衛生の実際 第12回 給食の施設・設備、人事・事務 第13回 給食の会計・原価 第14回 各種給食施設における給食の意義と特徴（病院） 第15回 各種給食施設における給食の意義と特徴（福祉施設、学校給食他）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 小テスト 60% 提出物 20%		
失格条件	5回以上（5回を含む）の欠席。10分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：授業計画に示された項目について教科書をよく読み、学習内容を理解しておく（予習時間 2時間）。 復習：授業において理解不十分な内容は、教科書、参考書等により調べノートにまとめるなど、理解を深める（復習時間 2時間）。 授業へのアドバイス：特定給食施設における栄養・食事管理及び食事提供サービスについて学び、給食経営管理業務に経営感覚を持てるよう授業に取り組み学習すること。		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。 小テストは授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	新・実践 給食経営管理論 第3版		
著者名	藤原政嘉、田中俊治、赤尾正編		
出版社	(株)みらい		
参考書	・「改訂 臨床栄養学実習 ―フローチャートで学ぶ臨床栄養管理― 第2版」 建帛社		
その他	特になし		
備考	国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		



ナンバリング	FN310B01	期間	後期
授業科目名	給食経営管理実務論		
英訳科目名	Institutional food service management		
担当教員名	岡村 吉隆		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	特定給食施設における管理栄養士に求められる栄養管理について、演習を取り入れながら実践内容を学ぶ。この授業では給食を提供するための栄養給与目標量の算出および食事計画の手法、食材料管理について理解力を高め給食経営管理の実務能力を養う。		
到達目標	特定給食施設における栄養食事管理とそれに伴う献立作成手法が理解できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食品成分表について 第3回 基礎演習 第4回 糖尿病の食品交換表 第5回 給与栄養目標量の算出方法 第6回 栄養価計算ソフトを用いた演習 第7回 食品構成について 第8回 栄養管理計画 第9回 栄養価計算ソフトを用いた献立作成① 第10回 発注演習 第11回 栄養価計算ソフトを用いた献立作成② 第12回 栄養価計算ソフトを用いた献立作成③ 第13回 食材料管理 第14回 大量調理施設衛生管理マニュアル 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	試験85%、授業への参加態度15% 欠席および遅刻およびレポート未提出は減点とする。		
失格条件	出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業スケジュールに沿って、教科書や配布資料をあらかじめ読んでおくこと。各自で用意する資料もあるので授業で使用するために望ましい内容を把握しておくこと。予習1時間(45分)。 授業終了後は講義内容を復習して小テストに備えておくこと。課題も出るので次回の授業までに仕上げておくこと。復習時間3時間(135分)。		
課題へのフィード バック	課題については個人別に評価を示し、評価に相当する理由がわかるようにコメントを記入し返却する。 小テストについては解答用紙のみを回収し、小テスト終了後に問題解説をする。		
教科書	①新実践 給食経営管理論 (第3版) ②新ビジュアル (7訂) 食品成分表 ③糖尿病食事療法のための食品交換表第7版		
著者名	①藤原政嘉ほか②新しい食生活を考える会③日本糖尿病学会		
出版社	①(株)みらい②大修館書店③文光堂		
参考書			
その他	演習内容が含まれるため、電卓とUSBメモリーを持参する。		
備考	病院管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN310C01	期間	前期
授業科目名	給食経営管理実習		
英訳科目名	Practice of food service management		
担当教員名	角谷 勲		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> -	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	①特定給食施設における給食経営管理の方法と安全かつ喫食者のニーズに応じた食事提供の技術を習得します。 ②給食経営のトータルプラン、給食の食事計画、給食の運営・管理、総合評価を行います。 実習では、大量調理を班別で行います。		
到達目標	1) 給食経営管理論の講義で学んだマネジメントサイクル（PDCAサイクル）に沿って、集団を対象とした栄養・食事計画の立案ができることをめざし、次の項目を達成目標とします。 2) リーダーシップの発揮とチームワークがとれる。 3) リスク管理ができる。 4) コミュニケーション能力を養う。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、概要説明、グループ編成、実習の進め方・演習、献立計画 第2回 事前準備 各種計画表作成、献立作成 第3回 試作実習①；栄養士役、調理師役による実習、後片付け 第4回 試作実習②；調理師役、栄養士役による実習、後片付け 第5回 献立計画の試作実習①；大量調理の打ち合わせと注意事項の確認 第6回 大量調理実習①；調理、供食。給食を媒体とした栄養教育及び調査 第7回 献立計画の試作実習②；大量調理の打ち合わせと注意事項の確認 第8回 大量調理実習②；調理、供食。給食を媒体とした栄養教育及び調査 第9回 献立計画の試作実習③；大量調理の打ち合わせと注意事項の確認 第10回 大量調理実習③；調理、供食。給食を媒体とした栄養教育及び調査 第11回 献立計画の試作実習④；大量調理の打ち合わせと注意事項の確認 第12回 大量調理実習④；調理、供食。給食を媒体とした栄養教育及び調査 第13回 実習のまとめ① 評価・管理などレポート作成 第14回 実習のまとめ② 総合評価会発表の資料作成 第15回 総合評価会・反省		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 課題・レポート提出 30% 実習への取り組み態度 30%		
失格条件	欠席回数4回以上（4回を含む）。10分以上の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習；家庭等での調理の経験を深め、大量調理に使用できる献立が作成できるよう予習しておくこと。大量調理施設衛生管理マニュアルをよく読み、実践に備える（予習時間1時間）。 復習；実習は大量調理及び販売を行うことから、食事提供サービスをとおして給食経営管理の技術・知識習得の到達度を高めるため、課題・疑問点は、教科書、参考書等をよく読み、調べノートに整理する。結果は、総合評価発表会に反映させる（復習時間1時間）。		
課題へのフィード バック	・課題実施後の授業で、随時個別もしくは全体に向けてコメントします。 ・最終の報告会では、総括として全体に向けてコメントします。		
教科書	給食経営管理実習ワークブック第3版		
著者名	藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編集		
出版社	株式会社 みらい		
参考書	調理場における衛生管理&調理技術マニュアル；学建書院 ISBN 978-4-7624-0878-6		
その他	衛生管理を最重要視すること。併せて火傷、切り傷、転倒などの事故防止に努め、問題意識を持って実習に臨むこと。また、お互いの立場を尊重し、コミュニケーションをとって実習に臨むこと。		
備考	国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN301A01	期間	後期
授業科目名	管理栄養総合演習		
英訳科目名	General exercise of management nutrition		
担当教員名	金石 智津子、上田 秀樹、角谷 勲、竹山 育子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	臨地実習を効果的に進めるために、それぞれの臨地実習科目についての事前・事後指導を行う。 事前指導では、実習における心がまえや課題研究に対する準備指導をきめ細やかに。事後指導では研修成果の発表をとおして各実習科目で評価する。さらに、管理栄養士のあり方について総括する。		
到達目標	臨地実習の目的を認識し、管理栄養士として必ず具備しなければならない知識・技術について理解する。 研究課題を設定し、研究計画を作成できる。 臨地実習で確認できた知識や技術の到達度を確認する。 課題について各自レポートにまとめ、スピーチ、発表することで、問題点を再認識し、管理栄養士の専門性についての理解を深める。		
授業計画	第1回 臨地実習B「公衆栄養学」の実習事前指導 第2回 臨地実習B「公衆栄養学」の研究課題設定 第3回 臨地実習B「公衆栄養学」の研究課題展開 第4回 臨地実習D「給食の運営」の実習事前指導 第5回 臨地実習D「給食の運営」の研究課題設定 第6回 臨地実習D「給食の運営」の研究課題展開 第7回 臨地実習A「臨床栄養学」の実習事前指導 第8回 臨地実習A「臨床栄養学」の研究課題設定 第9回 臨地実習A「臨床栄養学」の研究課題展開 第10回 臨地実習C「給食経営管理論」の実習事前指導 第11回 臨地実習C「給食経営管理論」の研究課題設定 第12回 臨地実習C「給食経営管理論」の研究課題展開 第13回 報告会準備指導 第14回 臨地実習報告会（公衆栄養学・給食の運営） 第15回 臨地実習報告会（臨床栄養学・給食経営管理論）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題レポート提出 70%		
失格条件	出席が2/3以上に満たない場合 10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 指定された提出物の未提出者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	それぞれの臨地実習の関連科目の復習（予習2時間） 臨地実習に向けての課題をまとめる 課題レポート作成（復習2時間）		
課題へのフィード バック	感想文などは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。 プレゼンテーション課題は事前に担当教員が内容を確認し、時間配分や強調点などを指導する。		
教科書	相愛大学臨地実習ファイル		
著者名			
出版社			
参考書	それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書		
その他	授業に先立ち、臨地実習オリエンテーション、マナー研修を開催するので必ず出席すること。		
備考	病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング	FN301C01	期間	通年集中
授業科目名	臨地実習 A		
英訳科目名	Clinical Training A		
担当教員名	竹山 育子、金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ○	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>臨地実習は、臨床栄養、栄養教育、給食管理、公衆栄養の実際を現場で研修し、管理栄養士として必要な知識、技能全般及び専門職としての意識を体得することを目的としている。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。臨地実習Aでは、病院および介護老人保健施設において臨床栄養学の実習を行う。栄養状態の評価・判定に基づいた栄養ケアプランの作成、実施、評価の総合的なマネジメントの考え方を理解し、栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得し、医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>病院および介護老人保健施設において患者および入所者に対して適切な栄養状態の評価・判定に基づいた栄養ケアプランの作成、実施、評価の総合的なマネジメントの方法を修得し、チーム医療における管理栄養士の役割について理解できる。</p>		
授業計画	<p>3年次の後期の1週間をあてる。 「管理栄養総合演習」において、臨地実習の事前・事後指導を行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>実習施設における評価60% 大学および実習施設への提出物40%</p>		
失格条件	<p>実習単位数の取得、実習施設への提出物、大学への提出物、実習施設における評価をもとに評価を行う。 失格条件 実習期間中の無断欠勤、遅刻、早退は原則として認めない。ただし、病気、けが（診断書が必要）、忌引き等で担当教員に欠席の届出があり、認められた場合、原則的に不足日数分の補充実習を行う。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>臨床栄養学、および関連科目について準備学習を十分行い臨地実習に臨むこと。(予習1時間、復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>学生が取り組んだ課題に関しては添削、アドバイスを繰り返し行い、学習効果を高める。提出レポートについては点検、添削を実施し学習指導を行う。</p>		
教科書	相愛大学「臨地実習ファイル」		
著者名			
出版社			
参考書	「臨地実習マニュアル」建帛社		
その他	<p>備考 臨地実習を受けるのに必要な条件 1. 学則第9条に定める卒業必要単位のうち基礎科目・共通科目・発達栄養学科専門科目群合わせて1年次で 30単位以上、2年次末で60単位以上を取得していること。 2. 事前・事後指導を行う「管理栄養総合演習」を必ず受講すること。 3. 原則として、履修ガイドに定める各分野ごとに定める必要単位数を取得、または取得見込みであること。</p>		
備考	<p>クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(竹山) 病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(金石)</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN301C02	期間	通年集中
授業科目名	臨地実習 B		
英訳科目名	Clinical Training B		
担当教員名	古川 和子、上田 秀樹、多門 隆子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ○	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>臨地実習は、臨床栄養、栄養教育、給食管理、公衆栄養の実際を現場で研修し、管理栄養士として必要な知識、技能全般及び専門職としての意識を体得することを目的とする。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。臨地実習 B では、保健所および保健センターにおいて公衆栄養学の実習を行う。地域や職域等の栄養問題とそれを取り巻く社会的要因等に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うとともに、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得し、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所および保健センターにおける栄養改善業務が、総合的な公衆栄養マネジメントサイクルにより実施されていることが理解できる。</li> <li>・行政における管理栄養士の業務が理解できる。</li> <li>・社会的資源の活用やコミュニケーションの管理などの仕組みについても理解できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>3年次の後期の1週間をあてる。 「管理栄養総合演習」において、臨地実習の事前・事後指導を行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>実習施設における評価60% 大学および実習施設への提出物40%</p>		
失格条件	<p>実習期間中の無断欠席、遅刻、早退は原則として認めない。 ただし、病気、けが（診断書が必要）、忌引き等で担当教員に欠席の届出があり、認められた場合、原則的に不足日数分の補充実習を行う。</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>公衆栄養学等、関連科目について準備学習を十分行い臨地実習に臨むこと。(予習1時間、復習1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>実習の取り組みに対して個別及びグループ別にコメントする。</p>		
教科書	公衆栄養学実習（学外編）		
著者名	編著 矢澤彩香、多門隆子		
出版社	南山堂		
参考書			
その他	<p>臨地実習を受けるのに必要な条件 1.学則第9条に定める卒業必要単位のうち基礎科目・共通科目・発達栄養学科専門科目群合わせて1年次で30単位以上、2年次末で60単位以上を取得していること。 2. 事前・事後指導を行う「管理栄養総合演習」を必ず受講すること。 3. 原則として、履修ガイドに定める各分野ごとに定める必要単位数を取得、または取見込みであること。</p>		
備考	<p>大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（古川） 行政管理栄養士として大阪府での34年間の実務経験をもとに、この授業を進めます。（多門） 大阪市職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（上田）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN301C03	期間	通年集中
授業科目名	臨地実習C		
英訳科目名	Clinical Training C		
担当教員名	角谷 勲、石橋 朋美		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ○	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>臨地実習では、臨床栄養、栄養教育、給食管理、公衆栄養の実際を現場で研修し、管理栄養士として必要な知識、技能全般及び専門職としての意識を体得することを目的としている。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合をはかります。</p> <p>臨地実習Cでは、病院や事業所において栄養・食事管理における栄養面、安全面、経済面、組織管理など給食経営管理の実習を行います。特定給食施設における献立等の食事計画、給食調理および提供、実施後の評価方法について修得することができます。</p>		
到達目標	給食経営管理のマネジメントの考え方や方法について理解できる。		
授業計画	<p>3年次の後期の1週間をあてる。</p> <p>「管理栄養総合演習」において、臨地実習の事前・事後指導を行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>実習施設における評価 60%</p> <p>大学および実習施設への提出物 40%</p> <p>をもとに総合的に評価を行う。</p>		
失格条件	<p>実習期間中の無断欠席、遅刻、早退は原則として認められない。ただし、病気、けが（診断書が必要）、忌引き等で担当教員に欠席の届出があり、認められた場合、原則的に不足日数分の補充実習を行う。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>給食経営管理の実習では、事前に研究課題を必ず設定し、準備学習を十分行い臨地実習に臨むこと。（予習1時間、復習1時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後の授業で、報告会を実施し、全体に向けコメントを行う。</p>		
教科書	相愛大学「臨地実習ファイル」		
著者名			
出版社			
参考書	「臨地実習マニュアル 給食経営管理・給食の運営」第3版 建帛社		
その他	<p>臨地実習を受けるのに必要な条件</p> <p>①学則第9条に定める卒業必要単位のうち基礎科目・共通科目・発達栄養学科専門科目群合わせて1年次で30単位以上、2年次末で60単位以上を取得していること。</p> <p>②事前・事後指導を行う「管理栄養総合演習」を必ず受講すること。</p> <p>③原則として、履修ガイドで各分野ごとに定める必要単位数を取得、または取得見込みであること。</p>		
備考	<p>国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（角谷）</p> <p>管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（石橋）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN301C04	期間	通年集中
授業科目名	臨地実習D (給食の運営を含む)		
英訳科目名	Clinical Training D		
担当教員名	角谷 勲、山北 人志		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ○	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	臨地実習では、臨床栄養、栄養教育、給食管理、公衆栄養の実際を現場で研修し、管理栄養士として必要な知識、技能全般及び専門職としての意識を体得することを目的としています。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合をはかります。		
到達目標	各種集団給食施設において、給食の経営の実習を行い、集団給食における調理技術の修得、給食計画立案能力の修得、給食実務に関する処理能力を修得することができる。		
授業計画	3年次の後期の5日間、指定する施設で実習する 「管理栄養総合演習」においても、臨地実習の事前・事後指導を行う。		
評価方法 (合計100%)	実習施設における評価 60% 大学及び実習施設への提出物 40% をもとに総合的に評価を行う。		
失格条件	①実習期間中の無断欠席、遅刻、早退は原則として認められない。ただし、病気、けが(診断書が必要)、忌引き等で担当教員に欠席の届出があり、認められた場合、原則的に不足日数分の補充実習を行う。 ②別途行う事前事後指導に出席しなかった場合。 ③臨地実習D実習記録を提出しなかった場合。 ④臨地実習D報告書を提出しなかった場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①小学校、老人福祉施設、産業給食施設等で実習を行う。各施設の管理栄養士の業務内容の理解を深めておくこと。 ②小学校で実習する場合は、給食時間における食に関する指導の主題を用意しておくこと。 (予習1時間、復習1時間)		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で、報告会を実施し、全体に向けコメントします。		
教科書	相愛大学「臨地実習ファイル」		
著者名			
出版社			
参考書	「臨地実習マニュアル 給食経営管理・給食の運営」 建帛社		
その他	臨地実習を受けるのに必要な条件 ①学則第9条に定める卒業必要単位のうち基礎科目・共通科目・発達栄養学科専門科目群合わせて1年次で30単位以上、2年次末で60単位以上を取得していること。 ②事前・事後指導を行う「管理栄養総合演習」を必ず受講すること。 ③原則として、履修ガイドで各分野ごとに定める必要単位数を取得、または取得見込みであること。		
備考	国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(角谷) 栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(山北)		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN300A01	期間	前期
授業科目名	基礎化学		
英訳科目名	Basic chemistry		
担当教員名	原田 匠彦		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	栄養に関する学習や実験を円滑に進めるためには、化学物質に関する基礎的な知識は不可欠です。本授業では、原子・分子の視点から、化学結合と化学変化における量的関係を正しく理解し、また有機化合物に関する基本的な知識を学びます。		
到達目標	この授業は、原子・分子の立場から化学物質を正しく理解し応用できる力の習得をめざし、以下の項目を達成目標とします。 (1) 化学変化に伴う物質の量的変化を、物質量(モル)の観点から正しく理解できる。 (2) 分子内における原子の結合について、電子配置の観点から正しく理解できる。 (3) 有機化合物について、その基本的な構造や化学変化のパターンを理解できる。 (4) 身につけた知識を生かして栄養に関する学習をより円滑に進めることができる。		
授業計画	第1回 授業ガイダンス 元素記号と周期表 第2回 原子量・分子量・式量 第3回 物質量(モル) 第4回 化学反応式 第5回 化学変化の量的関係 第6回 原子の電子配置 第7回 電子の軌道 第8回 電子式 第9回 構造式・分子の形 第10回 分子の極性 第11回 炭化水素 第12回 官能基 第13回 ベンゼン環を含む化合物 第14回 糖類 第15回 アミノ酸		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 小テスト 20% 作品(ノート)提出 40%		
失格条件	(次のいずれかに該当すれば失格となります。) (1) 出席時数が開講時数の3分の2に達しない場合。ただし遅刻・早退は3回で欠席1回と数えます。 (2) 作品を期限までに提出しなかった場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	学習などのアドバイス (1) 以下の計算力が要求されますので、苦手な方や、忘れてしまった方は、よく練習しておいて下さい。 ・足し算・引き算・かけ算・(特に)割り算・分数の計算(小学校程度) ・一次方程式(中学校程度) (2) 授業2回につき1回程度の小テストを行っています。授業でやった内容からの出題です。(復習 1時間) (3) 積み重ねが要求される内容なので、授業でやってきた事のうち、あやふやになってきた内容は、もう一度見直し、問題をやり直してみて下さい。(復習 1時間) (4) 最終試験は行いません。その代わりに、授業で扱って来た内容についてノートにわかりやすく編集したものを、最後に作品として提出していただき、評価の材料の一つとします。(復習 2時間)		
課題へのフィードバック	(1) 小テストは次回の授業時に返却し、全体に解説します。 (2) 提出作品については、返却時に全体にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	(1) 「授業への参加態度」には、出席率も含まれます。 また、過去に以下のような方が「授業への参加態度」の点数を落とし、結果として不可になっている例がありますので、ご注意ください。 ・小テストで0点を何度も取る人 ・授業を無断で抜け出す人  (2) 練習問題・小テストにおける、電卓等の使用は認めていません。 (3) 授業の録音や板書の撮影などは、学生が個人的に利用し本人自身の学習を進めるための目的以外には、使用することはできません。		
備考			
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		



ナンバリング	FN300A02	期間	後期
授業科目名	基礎統計学演習		
英訳科目名	Basic Statistics Exercises		
担当教員名	橋本 要		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>管理栄養士は、データを集計して、解析することが必須となっています。</p> <p>基礎統計学演習の授業では、データ分析を行うための基礎的な統計学の知識と技術の習得を目標に電卓やExcelを用いながら講義を行ない、演習を行なってもらいます。</p> <p>授業内容としては、いろいろな統計資料のデータを読むとき、アンケートや実験などでデータを収集するとき、そして集めたデータを分析するとき、それぞれに必要な統計学の考え方を習得してもらいます。</p>		
到達目標	<p>この授業の習熟目標は以下の3つです。</p> <p>1) 統計学の基本的な考え方に慣れる。</p> <p>2) Excelの操作技術を身につける。</p> <p>3) 標準偏差になれる。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Excel入門I Excelの基本操作</p> <p>第3回 Excel入門IIデータ入力の演習</p> <p>第4回 データの種類 統計学で扱えるデータと統計手法の関係</p> <p>第5回 表計算</p> <p>第6回 表計算II</p> <p>第7回 グラフの作成I</p> <p>第8回 グラフの作成II</p> <p>第9回 分散・標準偏差I</p> <p>第10回 分散・標準偏差II</p> <p>第11回 平均値の解析 (t検定)</p> <p>第12回 相関関係</p> <p>第13回 クロス集計</p> <p>第14回 分割表の解析 (x2検定)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度：10%</p> <p>課題：40%</p> <p>試験：50%</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2以上に満たない場合</p> <p>課題未提出者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習は必要ありませんが、統計学に関する新しい言葉や聞き慣れ無い単語が沢山出てきます。</p> <p>新しい事を学ぶときには、早くそれらの言葉に慣れることが重要です。</p> <p>この講義ではみなさんの専門に必要と思われるものを中心に説明していきますので、まずは、復習で統計処理必要な用語をしっかりと理解することからはじめてください。(復習 4時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後の授業で、全体に向けコメントします。</p>		
教科書	わかる統計学: 健康・栄養を学ぶために		
著者名	松村 康弘・浅川 雅美		
出版社	化学同人		
参考書	よくわかる統計学 介護福祉・栄養管理データ編 石村 貞夫, 石村 友二郎, 広田 直子 著 基礎統計学(栄養科学シリーズNEXTシリーズ) 鈴木良雄/廣津信義 著		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300A03	期間	前期
授業科目名	学校栄養教育論 A		
英訳科目名	School nutrition education theory A		
担当教員名	山北 人志		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>近年の子どもたちの食を取り巻く環境の変化に伴い、生活習慣病など食に起因する健康課題が指摘されている。そして、子どもたちが望ましい食習慣と自己管理能力を身に付けられるよう学校教育の充実が求められている。</p> <p>学校教育における食に関する指導を推進していくため、平成16年5月に学校教育法等の一部が改正され、新たな教諭職として栄養教諭が創設された。栄養教諭は学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして行う。その職務は、大きく3つに分けられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満傾向児、過度の痩身、偏食傾向の児童生徒等や食物アレルギーを持つ児童生徒等への個別的な相談指導。</li> <li>・給食の時間を中心として、家庭科や保健体育科など関連教科や特別活動の時間などに、学校給食を生きた教材として活用しつつ、食に関する指導を行う。</li> <li>・食に関する指導に係る全体計画の作成など、学校全体での取り組みを企画立案段階から中心にかかわり、他の教職員と連携・調整して食に関する指導を進めるとともに、学校給食だよりなどを活用した家庭への働きかけや、地域の生産者の方々等と連携して体験学習などを行う。</li> </ul> <p>本講義では、学校教育における食に関する指導の重要性、学校給食の役割、栄養教諭の全体像及び職務の実態等について学ぶ。</p>		
到達目標	①栄養教諭の役割及び職務内容 ②幼児・児童及び生徒の食の現状と課題 ③学校給食及び食生活に関する歴史及び課題を理解できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義 第3回 栄養教諭制度の経緯と背景 第4回 栄養教諭の役割と職務内容 第5回 学校給食の意義と役割 第6回 学校給食の栄養管理・衛生管理 第7回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる法令・制度 第8回 食生活に関する歴史的・文化的事項 第9回 学校給食の歴史と食文化の変遷 第10回 幼児・児童・生徒の栄養に係わる諸課題 第11回 児童・生徒の栄養の指導及び管理の現状と課題 第12回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会的事項 第13回 子どもの発育・発達 第14回 発達に応じた食に関する指導 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 15% 演習問題 35% 試験 50%		
失格条件	欠席回数5回(5回を含む)以上。20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	学校教育において栄養教諭がどのように仕事を行っているか興味・関心を持ってメディア等から情報を収集しておくこと。可能な範囲でインターンシップ等に参加し、学校教育における食に関する指導の実態を把握すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で授業する内容を次回講義までに予習しておくこと。(2時間)</li> <li>・講義終了時に出す課題について復習すること。(2時間)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	・演習問題については、授業時間内に返却し、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	三訂 栄養教諭論 理論と実際		
著者名	金田雅代編著		
出版社	建帛社		
参考書	「栄養教諭のための学校栄養教育論」笠原賀子 医歯薬出版		
その他	特になし		
備考	栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり (※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN300B01	期間	後期
授業科目名	学校栄養教育論 B		
英訳科目名	School nutrition education theory B		
担当教員名	山北 人志		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	近年、食生活の乱れが深刻になってきており、望ましい食習慣の形成は国民的課題となっている。子どもたちが将来にわたって健康で生き生きと生活していけるように、子どもたちに対する食育を充実し、望ましい食習慣の形成をはかることが求められている。学校教育における食育は食に関する指導として実施されている。食に関する指導は学習指導要領において、給食の時間、関連教科、道徳、特別活動など全教育活動を通じて行うことと示されている。本講義では、学校給食を「生きた教材」としてどのように食に関する指導を進めていくのかを学ぶ。実践演習では、指導案の作成、模擬授業などをグループ単位の活動で行う。		
到達目標	①給食時間、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、個別的营养相談指導および家庭・地域との連携等における食に関する指導がわかる。 ②給食時間、教科等における食に関する指導の実践ができる。		
授業計画	第1回 「食に関する指導」の全体計画 第2回 演習「食に関する指導」の全体計画の作成 第3回 「給食時間」における食に関する指導 第4回 教科における食に関する指導「家庭科、技術・家庭科」 第5回 教科における食に関する指導「体育科、保健体育科・その他」 第6回 「道徳」「特別活動」における食に関する指導 第7回 「生活科」「総合的な学習の時間」における食に関する指導 第8回 食物アレルギー等の個別指導 第9回 学習指導案の作成 第10回 演習 学習指導案の作成 第11回 学習指導案の発表 第12回 学習指導案の相互評価 第13回 食に関する指導の模擬授業 第14回 食に関する指導の模擬授業の相互評価 第15回 学校・家庭・地域が連携した食に関する指導		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 15% 試験 50% 全体計画 10% 指導案 20% 指導案の発表 5%		
失格条件	5回以上(5回を含む)の欠席。20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	第4～7回は教科等における指導内容である。教科書・指導書を参考に予習しておくこと。 第9.10回の学習指導案作成は指導する主題を用意しておくこと。 ・講義で授業する内容を次回講義までに予習しておくこと。(2時間) ・講義終了時に出す課題について復習すること。(2時間)		
課題へのフィード バック	・全体計画、指導案については授業時間内に返却し、解説します。 ・指導案の発表については必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	三訂 栄養教諭論 理論と実際 (学校栄養教育論Aと同じ)		
著者名	金田雅代編著		
出版社	建帛社		
参考書	「食に関する指導の手引」第一次改訂版 文部科学省		
その他	特になし		
備考	栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN300C01	期間	前期集中
授業科目名	栄養教育実習		
英訳科目名	Practice of nutrition education		
担当教員名	小野 くに子、山北 人志		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	栄養教育実習の期間は5日間であり、短期間に授業参観・実習授業を行う。実習の受講にあたり、必要な学校教育や組織をテーマとして取り上げる。実習授業に必要な学習指導案、教材作成を行うとともに、模擬授業により、学生相互の指導力を高める。		
到達目標	①栄養教育実習の意義や目的、心構えがわかる。 ②栄養教育実習に必要な知識と技能を身につける。 ③指導案・教材の作成、模擬授業ができる。 ④栄養教諭として必要な資質を身につける。		
授業計画	第1回 栄養教育実習の意義・目的 第2回 栄養教育実習の心得・学校組織の理解 第3回 実習目標・研究課題 第4回 栄養教育実習記録の書き方 第5回 食に関する指導の要点 第6回 指導案の作成 第7回 指導案の発表 第8回 指導案の相互評価 第9回 特別活動における模擬授業 第10回 模擬授業の相互評価 第11回 教科等における模擬授業 第12回 模擬授業の相互評価 第13回 実習校における栄養教育実習(5日間) 第14回 栄養教育実習内容報告(授業時間・給食時間) 第15回 栄養教育実習内容報告の相互評価		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度15% 演習 20% 提出物 15% 実習校の成績評価・報告書・実習ノート50%		
失格条件	①実習校における栄養教育実習以外 ・3回以上(3回を含む)の欠席 ・20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ②実習校における栄養教育実習 ・実習校で終了の認定を得られなかった者 ・栄養教育実習の記録を提出しなかった者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	①実習授業における題材は、日常の食生活の経験等に基づいて、作成しておくこと。 ②栄養教諭採用試験は各都道府県・政令市で実施日が決定されるので、情報収集しておくこと。 ③文献・インターネット等を活用し、小学校における学校給食や食に関する指導の取組を学習しておくこと。 ・講義で授業する内容を次回講義までに予習しておくこと。(2時間) ・講義終了時に出す課題について復習すること。(2時間)		
課題へのフィードバック	・模擬授業演習については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・指導案、その他提出物については授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	栄養教諭論Ⅱ 実践研究		
著者名	金田雅代 編著		
出版社	建帛社		
参考書	三訂 栄養教諭論 理論と実際		
その他	①栄養教育実習を受ける前年度までに修得しなければならない単位 ・教職に関する科目 教育原理、教育心理学 ・栄養に係る教育に関する科目 学校栄養教育論A・B ②栄養教育実習校の承諾等は前年度に行う。 ③栄養教諭採用試験を受験する。 ?「栄養教育実習の手引き」「栄養教育実習の記録」は講義で配布する。		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(小野) 栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(山北)		
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		

ナンバリング	FN300C02	期間	後期
授業科目名	スポーツ栄養演習		
英訳科目名	Sports nutrition exercises		
担当教員名	保井 智香子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	スポーツ活動における栄養学的サポートの基礎知識を習得し、アスリートの体調管理とコンディショニング作りのための栄養管理について学習することを目的とする。		
到達目標	1. スポーツ栄養学の基礎知識を習得する 2. パフォーマンス向上のための体調管理とコンディショニング作りのための栄養管理が実践できる		
授業計画	第1回 スポーツと栄養 第2回 スポーツ選手の身体組成と貯蔵エネルギー 第3回 トレーニングとエネルギー消費量・ウェイトコントロール（減量） 第4回 持久力競技と食事 第5回 筋肉づくりとたんぱく質摂取 第6回 貧血予防と鉄・たんぱく質摂取 第7回 コンディショニング維持とビタミン摂取 第8回 スポーツ・運動中の水分補給 第9回 運動時の適切な栄養摂取（運動前・中・後） 第10回 サプリメント・栄養補助食品のとり方 第11回 スポーツ選手のための献立作成（献立案） 第12回 スポーツ選手のための献立作成（栄養価計算） 第13回 スポーツ選手のための献立作成（プレゼンテーション準備） 第14回 スポーツ選手の献立に関するプレゼンテーション 第15回 スポーツ栄養学のまとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（20%）、レポート・プレゼンテーション・試験（80%）より評価を行う。		
失格条件	欠席回数4回までは評価の対象とする。20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻または早退は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習・復習については、授業時に指示する。（予習・復習各2時間）		
課題へのフィード バック	レポート、プレゼンテーションについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	新版コンディショニングのスポーツ栄養学		
著者名	樋口 満（編著）		
出版社	市村出版		
参考書	（書籍名） 「やさしい運動生理学」 （著者名） 杉 春夫 （出版） 南江堂		
その他	特になし		
備考	管理栄養士および健康運動指導士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300B02	期間	前期
授業科目名	臨床薬理学		
英訳科目名	Clinical Pharmacology		
担当教員名	上坂 康子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>昨今、医療現場でNSTの活動が成果を上げ、疾病治療に食事・栄養療法を盛り込むことの重要性が広く認識されるようになり、栄養士も薬物療法と栄養療法の関連性についての知識を求められるようになってきた。本講では、薬物が生体内でどのように効果を発揮するかを知るために、薬物の吸収、分布、代謝、排泄のメカニズムを理解し、薬物間の相互作用を知ることで食品と薬物の相互作用を理解し栄養指導に生かす能力を身につける。</p>		
到達目標	<p>1.薬物間の相互作用の基本的なメカニズムを通して薬物療法と食品との相互作用の知識を得て、栄養指導に生かす能力を身につける。 2.サプリメントやいわゆる健康食品について消費者に正しい情報を提供し、アドバイザーとしての役割を担うことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 栄養士に役立つ薬理学(医薬品と食品の違い、一般用医薬品の分類など) 第2回 医薬品について (1 薬機法、薬の法的分類、治療係数など) 第3回 医薬品について (2 新薬の開発、プラセボ、情報の探索方法) 第4回 薬物の相互作用の基礎 (薬物動態学的相互作用) 第5回 薬物の相互作用の基礎 (薬力学的相互作用) 第6回 神経系とは 第7回 受容体を介した薬の効き方 (1 受容体刺激により薬効発揮する薬物) 第8回 受容体を介した薬の効き方 (2 受容体遮断により薬効を發揮する薬物) 第9回 イオンチャネルを介した薬の効き方 第10回 酵素を介した薬の効き方 (1 酵素促進により薬効発揮する薬物) 第11回 酵素を介した薬の効き方 (2 酵素阻害により薬効発揮する薬物) 第12回 消化管の吸収過程で起こる医薬品との相互作用 第13回 肝臓の代謝過程で起こる医薬品との相互作用 第14回 腎臓の排泄過程で起こる医薬品との相互作用 第15回 まとめ (各項目について内容理解と課題の確認)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 20% 小テスト 20% 試験 60%</p>		
失格条件	<p>全授業回数の3分の1以上欠席した者は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席とする。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義中に板書した内容を十分に理解しておくこと。(復習時間3時間) 前回の小テストを見直して、次回講義で行う小テストに備えること。(予習時間1時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>・毎時の小テストは次回の授業時間内に返却し、解説します。 ・最終テストはテスト終了後に渡す正解表により各自で達成度を確認し課題を確認できるようにします。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>食品と薬の相互作用を学ぶことは、将来の栄養指導に役立つとともに、健康維持・増進目的に摂取する健康食品について適切なアドバイスができるNR・サプリメントアドバイザーの資格取得にも役立つ内容となっている。</p>		
備考	<p>薬剤師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300B03	期間	前期集中
授業科目名	行動カウンセリング論		
英訳科目名	Behavior counseling theory		
担当教員名	廣瀬 真理子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	心理学は行動や心的過程について研究する学問であり、中でも行動理論や学習理論は、カウンセリングやコーチング、パフォーマンスマネジメントなどに幅広い分野で応用されています。「どうして勉強が続かないのだろうか?」「どうしてAちゃんは泣いているのだろうか?」一人がなぜそのように行動するのか?—この問いに対して、観察可能な行動と環境の相互作用を丁寧にみていく姿勢が、行動カウンセリングの基本となります。本講は、対人援助の仕事に必要な行動理論に関する知識やカウンセリングの実践的な技術についてできるだけ具体的に学び、役に立つ援助をするには何が必要かを3日間の集中講義の中で理解していきます。		
到達目標	対人援助の仕事に必要な行動理論やカウンセリングに関する知識を身につける。		
授業計画	第1回 はじめに：対人援助のために必要なこと-自己理解 第2回 対人援助に必要な知識と技術：ヒトの行動の「なぜ?」に答える 第3回 心理学の基礎知識(1)発達心理学：生涯続くヒトの成長 第4回 心理学の基礎知識(2)認知心理学：ヒトの目を通じて見た世界 第5回 心理学の基礎知識(3)学習心理学：ヒトの行動の理解の仕組み 第6回 心理学の基礎知識(4)臨床心理学：心理臨床のゲンバ 第7回 行動カウンセリングの基本(1)受容・共感 第8回 行動カウンセリングの基本(2)応用行動分析1 第9回 行動カウンセリングの基本(3)応用行動分析2 第10回 行動カウンセリングの基本(4)行動カウンセリングの進め方 第11回 行動カウンセリングの進め方(1)初回面接 第12回 行動カウンセリングの進め方(2)査定と介入 第13回 行動カウンセリングの進め方(3)セルフマネジメント 第14回 まとめ 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（課題提出を含む）50% 理解度の確認（小テスト）50%		
失格条件	3回以上の欠席と課題未提出は失格とします。 また、講義の性質上、原則として遅刻は認めません。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義において学ぶ課題（心理学用語・キーワード）について自主的に参考文献・資料を読んで予め理解しておくこと（予習時間 1時間） 教授された内容について各自十分な復習をおこなうこと（次回授業冒頭で課す小テストで理解度の確認をおこなう）（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	課題および小テスト提出後の授業で全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	「対人支援の行動分析学」服巻繁・島宗理 ふくろう出版 「プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック」吉野智富美・吉野俊彦 学苑社 「動機づけ面接法」ローゼンブレン著 原井宏明監訳 星和書店		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300C04	期間	後期集中
授業科目名	行動カウンセリング演習		
英訳科目名	General exercise of behavior counseling		
担当教員名	廣瀬 真理子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	対人援助の仕事に必要なカウンセリングの実践的な技術を体験的に学習し、基本姿勢・技術の習得を目指します。また、心理検査や自己表現のエクササイズに挑戦することで、「人間」を理解し、援助するとはどういうことかを学びます。 行動カウンセリング論（前期集中）を受講していることが望ましいです。		
到達目標	行動カウンセリングの基本姿勢・基本技術を習得する。		
授業計画	第1回 前期の復習・面接の基本 第2回 応用行動分析と面接技法 第3回 行動カウンセリングの基本（1）マイクロカウンセリング（基本のキ） 第4回 行動カウンセリングの基本（2）効果的な質問 第5回 行動カウンセリングの基本（3）内容の反映 第6回 人を理解する視点(1)知能検査 第7回 人を理解する視点(2)心理検査 第8回 行動カウンセリングの基本（4）感情の反映 第9回 行動カウンセリングの基本（5）マイクロカウンセリングのまとめと実践 第10回 動機付け面接（1）動機付け面接（MI）のスピリット 第11回 動機づけ面接（2）動機付け面接のスピリット 第12回 動機づけ面接（3）基本技術OARS 第13回 動機づけ面接（4）チェンジトークを見つける 第14回 達成度の確認（実技） 第15回 理解度の確認（知識）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 達成度の確認（実技）50% 理解度の確認（知識）20%		
失格条件	3回以上の欠席と課題未提出は失格とします。 また、講義の性質上、原則として遅刻は認めません。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義において学ぶ課題（心理学用語・キーワード）について自主的に参考文献・資料を読んで予め理解しておくこと（予習時間 1時間） 講義終了後に自らの実習（グループワーク・ディスカッション）の振り返りと、自己の気づきならびに改善点を確認しておくこと（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	課題提出後、全体に向けてコメントします。実習の取り組みに対しては個別にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	「面接のプログラム学習」D・エバンズ.M・ハーン.M・ウルマン.A・アイビー 援助技術研究会訳 杉本照子監訳 相川書房 「動機づけ面接を身につける-一人でもできるエクササイズ集」 ディビッド・B・ローゼングレン著 原井宏明監訳 星和書店 「カウンセリングの技法を学ぶ」玉瀬耕治著 有斐閣		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		



ナンバリング	FN300A04	期間	後期
授業科目名	食文化論		
英訳科目名	The Food culture theory		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	日本の「食」が、どのように歴史の中に登場してきたか、どのようなものとして受け入れられたかを探ってみる。「食」の多様性と変容についての認識を具体的に獲得することと、忘れられたものに光を当て我々の生活に活用することが目標である。初めに利用しやすく信頼性のある資料を具体的に紹介し、ついで、具体的な食材・料理について時代的地域的な変遷を考察する。		
到達目標	「食」について古人の知恵を活用できる。 近代以前の料理の中から復活すべき物を探しだし、再現できる。		
授業計画	第1回 食文化論の意味 第2回 資料の紹介（1）古事類苑・群書類従・続群書類従 第3回 資料の紹介（2）本朝食鑑・和漢三才図会・嬉遊笑覧・守貞謄稿 第4回 資料の紹介（3）料理書の古典とその他の参考文献 第5回 刺身・膾・鮓 第6回 魚と鳥 第7回 江戸時代初期の野菜（花も食材だった） 第8回 幕末期の野菜（おなじみの物が多くなる） 第9回 江戸料理の活用 第10回 主食としてのご飯 第11回 すき焼き・蒲焼き・蕎麦・饅頭 第12回 献立の実際1（伊藤仁斎家の町汁） 第13回 献立の実際2（本居宣長家の婚礼料理） 第14回 江戸時代の中国料理 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% レポート 30% 授業のまとめ 20% テスト 30%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ほとんど予備知識がない領域だと思います。自分で勉強するのも簡単ではありません。復習が大切です。 毎回の配布物を読み直し、授業のまとめを作成すること（復習4時間）		
課題へのフィード バック	テストとレポートは実施後、できるだけ早くポータルサイトに全体的なコメントを掲示します。 小テストは原則的に次回の授業日にコメントをつけて返却します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業中に紹介した江戸時代の料理あるいはそれに類する物を実際に作ってもらいます。製作の記録をレポートといたします。		
備考			
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング	FN300A05	期間	後期
授業科目名	生活文化研究		
英訳科目名	The Life culture study		
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>人が生きていく上でのさまざまな活動が生活であり、その活動の中から生み出されてくる文化が「生活文化」です。人間にとって最も根元的な活動である「食べる」こと、「着る」こと、「住む」ことは、生活文化そのものと言えます。ですから、アメリカ文化や若者文化などという場合に比べて、生活文化はより具体的で身近な事象が対象になります。</p> <p>現在も人気のある「少し古めかしいが、なぜか懐かしい」昭和30年代は、日本がとても活気に満ちていた時期でした。現在、定番になっている食品やお菓子、飲料などが、その時期に多数誕生しています。</p> <p>本授業では、これらの商品や、学校給食、さらには食卓の変化を通して、昭和30年代から40年代に急激に変化した日本人の生活に注目して、私たちの「生活文化」を考察します。</p>		
到達目標	食と社会の係わりについて、考えることができる。		
授業計画	<p>第1回 本授業について</p> <p>第2回 生活文化について</p> <p>第3回 昭和30年代の子どもと駄菓子屋</p> <p>第4回 チョコレートとキャラメルなど</p> <p>第5回 都こんぶとインスタントコーヒーなど</p> <p>第6回 粉末ジュースとスポーツドリンク</p> <p>第7回 ふりかけとレトルトカレー</p> <p>第8回 まとめと理解の確認</p> <p>第9回 学校給食の変遷</p> <p>第10回 どんな給食？</p> <p>第11回 行事食の変化</p> <p>第12回 食卓の変化と食環境（ちゃぶ台以前）</p> <p>第13回 食卓の変化と食環境（ちゃぶ台の登場）</p> <p>第14回 食卓の変化と食環境（ちゃぶ台以降）</p> <p>第15回 まとめと理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 30%</p> <p>小レポート 30%</p> <p>最終レポート 40%</p>		
失格条件	<p>1.最終レポートを提出しない場合</p> <p>2.出席回数が3分の2に満たない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>&lt;予習&gt;</p> <p>図書館やパソコン演習室を活用して、食に係わる新聞記事や関連資料を調べるなど、積極的に情報を取り入れるように務めて下さい。(予習 2時間)</p> <p>&lt;復習&gt;</p> <p>授業で取り上げた内容をまとめて下さい。(復習 2時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業内課題については、個別もしくは全体にコメントします。</p> <p>最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	使用しません		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	茶懐石論		
英訳科目名			
担当教員名	湯木 潤治		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	千利休により完成された「茶の湯」であるが、その中でお茶をより美味しくいただくために創られたのが茶懐石である。茶の湯と料理が結びつくことにより、季節感を得て、「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れ、料理が文化として高まった。講義では、茶懐石の歴史や文化的側面を考察しながら、懐石の作法や流れを説明していく。		
到達目標	茶懐石の作法や流れについての知識を習得できる。		
授業計画	第1回 茶懐石とは 第2回 茶懐石の起源 第3回 茶懐石の歴史 第4回 茶懐石の心 第5回 茶懐石の作法 第6回 茶懐石の料理の器 第7回 茶懐石の流れ 第8回 茶懐石のすすめ方・いただき方 第9回 飯（実習） 第10回 汁物（実習） 第11回 向付（実習） 第12回 煮物（実習） 第13回 焼き物（実習） 第14回 預け鉢（実習） 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% レポート提出 50% 両方を総合的に見て判断する。		
失格条件	レポート未提出 授業を1/3以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	茶懐石に関連した書籍が多く出版されているので、1冊読んで、時代的背景や文化的側面に対する理解を深めておくとうい。（予習・復習 各2時間）		
課題へのフィード バック	実習終了後に、全体に向けてコメントをしている。		
教科書	特に使用しない。（プリントを配布する）		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	実習のための材料費3000円を受益者負担として徴収します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300B04	期間	前期
授業科目名	製菓実習		
英訳科目名	Confectionery Practice		
担当教員名	杉山 文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	製菓を作るうえで必要となる基礎知識や技術を学ぶ。 器具の使用方法を学び衛生的に作業を行う。		
到達目標	製菓の基礎技術を学び、調理操作理論を理解することができる。 器具等を扱う技術を身につけることができる。 積極的に作業に取り組む力をつけることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（衛生、器具の扱い） 第2回 スポンジ生地（共立て生地） 第3回 クッキー生地 第4回 タルト生地 第5回 キャラメル、プリン 第6回 スポンジ生地（別立て生地） 第7回 凝固剤 セラチン、アガー 第8回 パウンドケーキ 第9回 シフォンケーキ（アメリカ菓子） 第10回 クレープ生地 第11回 ガトーショコラ 第12回 シュトーレン（ドイツ菓子） 第13回 ティラミス（イタリア菓子） 第14回 シュー生地 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題レポート 60% 実技試験 10%		
失格条件	・5回以上欠席したものは失格とする。 ただし20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・試験を受験しなかった場合 ・課題レポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・事前に実習予定献立に目を通しておくこと。(予習 1時間) ・毎回課題レポートを,教科書、文献等から調べまとめること。 ・調理技術習得のために復習すること。(復習 1時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	特になし。 毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	実習のための材料費6000円を受益者負担として徴収します。		
備考	調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300A07	期間	前期
授業科目名	食デザイン演出		
英訳科目名	The food design theory		
担当教員名	吉田 由美		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>食デザイン演出の目的は、より良い食空間を創出することです。ここでは食の場面を演出するためのテーブルコーディネートを中心に、集いのスタイルや食の形態なども含めたトータルな空間構成を学びます。食卓演出概論、基本的ルールをもとに、各国の食卓文化の背景や歴史を学び、年間を通しての祭事のテーブルセッティングの学習とテーブルウェア用品に関する基本的知識の学習をします。食卓を快適で楽しく過ごすための知識、技術を学習し、食の場面の演出力を養成する授業です。</p> <p>現代では様々な分野で提案力やプレゼン力が求められています。食の世界でも、新たなビジネスチャンスが広がっており、発想力や企画力が今後ますます求められます。そこにデザインという視点は欠かせません。この授業を通して、食をベースに広い世界に飛び立ちましょう。</p> <p>授業は講義と実習ですすめます。実習ではグループ発表、またプランニングシートの作成、レポート提出もおこないます。そして個人での食空間演出プランニングのプレゼンテーションをおこないます。</p> <p>なお、実習の制約上、受講生は30人までとします。</p>		
到達目標	<p>食の場面を想定し、背景からイメージ演出ができる企画デザイン能力を身につけることができる。</p> <p>食空間について分析や評価ができ、プレゼンテーション能力を身につけることができる。</p> <p>社会ニーズにマッチした食空間プロデュース能力養成への初歩を身につけることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 食卓演出概論① テーブルコーディネートの基本</p> <p>第2回 食卓演出概論②食卓芸術史</p> <p>第3回 食卓演出概論③食器とその利用法・テーブルリネンの知識 演習：ナプキンの折り方</p> <p>第4回 テーブルの分類・トーク基本8分類①</p> <p>第5回 テーブルの分類・トーク基本8分類② イメージスケールボードの作成（各自ワーク）・小テスト</p> <p>第6回 プランニング企画・食卓構成の基本演習：基本のテーブルセッティング（英国式とフランス式）</p> <p>第7回 アフタヌーンティーパーティのテーブル演出・紅茶の知識・プランニングの仕方</p> <p>第8回 実習：アフタヌーンティーパーティのテーブル演出、プランニングシートの作成（グループ企画）発表</p> <p>第9回 日本の歳時記と世界の歳時記・季節のテーブル演出法・プランニングシート作成（グループ企画）</p> <p>第10回 実習：歳時のテーブル演出・プランニングシートの作成（グループ企画）発表</p> <p>第11回 和の知識・アジアの食文化と薬膳</p> <p>第12回 実習：アジアのテーブル演出・プランニングシートの作成（グループ企画）発表</p> <p>第13回 パーティ演出法①パーティの種類、パーティテーブル</p> <p>第14回 パーティ演出法②パーティプランニング、プランニングシートの作成、個人テーブル実習</p> <p>第15回 まとめ パーティプランニング、プレゼンテーション（個人発表）</p> <p>※進捗状況によって、順番が変わることがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 20%</p> <p>実習の成果 30%</p> <p>レポート提出 20%</p> <p>プレゼンテーション 20%</p> <p>小テストなど 10%</p>		
失格条件	<p>初回から連続3回の欠席</p> <p>大学規定の出席回数（2/3以上）を満たしていない場合</p> <p>テーブル演出実習全ての回への欠席（一度も出席していない場合）</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>普段から、食空間に関心を持ち、実際のホテル、レストランやカフェなどを意識して体験すること。</p> <p>また歴史にも触れるようにし、本物を体験することを心がけること。</p> <p>映画やメディアに登場する食の空間を意識的にチェックすること。</p> <p>ニュースや社会現象に関心を持ち、日常生活の中で意識して食空間をとらえる習慣を身につけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で紹介する参考文献や映画を観るなど（予習時間1～2時間）</li> <li>・講義終了後のプランニングシート作成、次回テーブル実習の発表準備（2～3時間）課題レポートを作成すること。（毎回ではない）</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージボードについては、提出後、個別コメントの上、返却します。</li> <li>・実習演出については授業時間内に、コメント、解説します。</li> <li>・実習提出、プランニングシートについては、必要に応じて個別、全体にコメントします。</li> <li>・小テストは後日授業時に返却、解説します。</li> </ul>		
教科書	食卓のコーディネート【基本】		
著者名	フードデザイン研究会		
出版社	株式会社優しい食卓		
参考書			
その他	受講生は30人までとします。必要に応じてプリントを配布します。		
備考	調理士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN300A08	期間	前期
授業科目名	商品開発入門		
英訳科目名	Introduction to theory of product development		
担当教員名	竹山 育子、鷺岡 和徳、杉山 文		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	商品開発についての理論や方法を体系化して修得し、能動的・自律的な学修へと発展させる。新たな市場の課題を分析する基礎的能力を修得する。本講義では、商品開発の課題を理解し、次いで商品開発マネジメントの基本的学習を行い、現代の市場課題を分析する。さらに具体的な商品開発を想定し、ビジネスモデルの戦略性も考察する。		
到達目標	マーケティング手法を使って、現状のビジネスのプロダクトライフサイクルについて説明できる。 最近の商品開発のステップおよび新商品の動向について理解する。		
授業計画	第1回 オリエンテーションー商品開発と経営について(鷺岡、竹山) 第2回 経営の意味とその構図について (どうしてモノが売れないのか) (鷺岡、竹山) 第3回 業種と業態について(鷺岡、竹山) 第4回 For the customerとは(鷺岡、竹山) 第5回 For the customer実現のための真空マーケット探し(鷺岡、竹山) 第6回 発想法について(鷺岡、竹山) 第7回 発想法 (アイデア着想法) 演習(鷺岡、竹山) 第8回 商品政策について(鷺岡、竹山) 第9回 価格政策について(鷺岡、杉山) 第10回 ネーミングについて(鷺岡、杉山) 第11回 ストアコンバリエーション演習<方法と実際>(鷺岡、杉山) 第12回 おいしさを創造する(鷺岡、杉山) 第13回 弁当作りの商品戦略の具体的事例(鷺岡、杉山) 第14回 一瞬で人間関係を作る技術「エマジネティクス演習」(鷺岡、杉山) 第15回 アメリカの外食最前線(鷺岡、杉山)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% レポート提出 60%		
失格条件	出席回数が2/3に満たない者 (遅刻、早退は3回で欠席1回に相当するものとする) 課題レポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回の授業のための資料を読むこと (予習時間1時間) 授業でだされた課題についてレポートを作成すること (復習時間3時間)		
課題へのフィード バック	提出された課題、レポートは、教員が点検、添削し、学習効果を高めるため指導を行う。		
教科書	使用しない (プリントを配布)		
著者名			
出版社			
参考書	「21世紀のチェーンストア」 渥美俊一		
その他	特になし		
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(竹山) 調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(杉山) 調理師、食品衛生指導員および第2種衛生管理者としての実務経験をもとに、この授業をすすめます。(鷺岡)		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	栄養疫学特別研究	
英訳科目名		
担当教員名	上田 秀樹、古川 和子	
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2 <課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4 <態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6
授業概要・ポイント	地域社会の健康状態には食習慣が密接にかかわっている。地域集団に健康増進や疾病予防の諸活動を行うためには疫学的手法による課題発見と課題解決のための計画立案や評価が重要である。本講座では、疫学の方法や疫学の方法と疫学分析に必要な統計学を食事調査資料などの具体的な事例を用いて演習し、栄養疫学を通じて根拠に基づく栄養学を理解する。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養疫学の必要性を理解できる。</li> <li>・栄養疫学と統計学の関係を理解できる。</li> <li>・統計学における検定・分析方法を理解できる。</li> <li>・集団の栄養学的評価ができる。</li> </ul>	
授業計画	第1回 栄養疫学を学ぶための基礎的事項（栄養・健康情報） 第2回 栄養疫学を学ぶための基礎的事項（根拠に基づく栄養学） 第3回 栄養疫学を学ぶための基礎的事項（疫学研究の方法） 第4回 栄養疫学を学ぶための基礎的研究（疫学研究の評価方法） 第5回 これまでの復習・理解度チェック① 第6回 疫学のための統計学入門(1) 分布、標準偏差、標準誤差、信頼区間 第7回 疫学のための統計学入門(2) 有意差検定 変数の種類と検定の種類 t-検定 第8回 これまでの復習・理解度チェック② 第9回 疫学のための統計学入門(3) 有意差検定、分散分析① 第10回 これまでの復習・理解度チェック③ 第11回 疫学のための統計学入門(4) マンホイットニー検定、 $\chi^2$ 乗検定 第12回 これまでの復習・理解度チェック④ 第13回 疫学のための統計学入門(5) 相関分析 第14回 疫学のための統計学入門(6) 回帰分析 第15回 総合理解度チェック	
評価方法 (合計100%)	課題レポート提出10% 理解度チェック 40% 合理度 50%	
失格条件	5回欠席すると失格とする。 出席しても居眠り、私語等授業態度不良の場合は授業に出席しているとは認めない。	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	統計学の基礎を十分学習しておくこと。(予習 1時間) 復習は記憶の定着に極めて重要である。復習は授業のノートをまとめ、用語の定義を書き写して覚えるなどを行うこと。(復習 3時間)	
課題へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、授業内容の復習に対する全体へのコメントをする。</li> <li>・理解度チェックの結果返却と全体コメントをする。</li> <li>・提出物のチェックと個別・全体へのコメントをする。</li> </ul>	
教科書	わかりやすいEBNと栄養疫学	
著者名	佐々木 敏	
出版社	株式会社同文書院	
参考書	縣俊彦 編著 「PubMed活用マニュアル」 南江堂 日本疫学会 編 「初めて学ぶやさしい疫学」 南江堂 坪野吉孝、久道茂 著 「栄養疫学」 南江堂	
その他	特になし	
備考	大阪府職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(上田) 大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(古川)	
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)	

ナンバリング	FN300B06	期間	後期
授業科目名	衛生学		
英訳科目名	Hygiene		
担当教員名	中川 学		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	「いのち（生命）を衛る」とはどのようなことか。講義ではトピックスなどの紹介等も織り交ぜながら、これまでに学習した基礎科目の知識を横断的に確認してゆく。		
到達目標	専門基礎分野の知識を深めることを目的とし、人体やそのおかれた環境との相互関係をもとに、健康について総合的に考える力を身に付ける。		
授業計画	第1回 社会や環境と健康との関係を理解する 第2回 細胞から組織・器官までの構造やその機能を理解する 第3回 ホメオスタシスを理解する①自律神経による調節 第4回 ホメオスタシスを理解する②ホルモンによる調節 第5回 血液の成分と機能について理解する 第6回 臨床検査の意義を理解する 第7回 消化器の構造について理解する 第8回 消化器の機能について理解する 第9回 食生活と生活習慣病について理解する 第10回 循環器の構造について理解する 第11回 循環器の機能および疾患について理解する 第12回 腎・泌尿器系の構造と機能および疾患について理解する 第13回 呼吸器系の構造と機能および疾患について理解する 第14回 免疫と生体防御について理解する 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	最終試験(約70%)を中心に評価する。 その他、授業への参加態度等(約30%)を考慮して総合的に評価する。		
失格条件	3分の1より多く欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	生理学、生化学をはじめとした基礎科目で学んだ知識との連携を念頭に置き、当該分野の教科書等を読み返しておいてください。(予習 1.5時間) また、各回の講義終了後、板書ノートなどを参考に知識の定着を心がけて下さい。(復習 2.5時間)		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	これまでに使用した「生化学」、「基礎栄養学」、「解剖生理学」等の教科書を適宜参考にしてください。		
その他	適宜、プリント資料を配布します。		
備考			
科目生への開講	あり（※発達栄養学科卒業生のみ対象）		



ナンバリング	FN300C05	期間	前期集中
授業科目名	インターンシップ実習		
英訳科目名			
担当教員名	金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>管理栄養士をはじめ、食の専門家として将来の就職を考える人を対象として、キャリアに関連しそうな企業、公益法人などで実際に就業を体験する。</p> <p>実際に仕事を行い、その概要を理解するとともに、実際に働いている人の指導を受け、仕事を通じて職場の状況を理解することで自分の将来の進路について考え、主体的な職業選択、職業意識を持つ事を目的とする。オリエンテーションや事前指導は必ず受けること。</p>		
到達目標	研修後、学習や学生生活及び将来の進路に対し、明確な目標を設定することができる。		
授業計画	<p>第1回 事前指導 ①実習の意義と概要について ②実習中の課題の設定</p> <p>第2回 インターンシップ実習 1日目1限 管理栄養士の仕事とは</p> <p>第3回 インターンシップ実習 1日目2限 管理栄養士としてのスキルとは</p> <p>第4回 インターンシップ実習 1日目3限 管理栄養士の役割とは</p> <p>第5回 インターンシップ実習 1日目4限 管理栄養士の将来性とは</p> <p>第6回 インターンシップ実習 2日目1限 調理部門での役割</p> <p>第7回 インターンシップ実習 2日目2限 調理部門との連携</p> <p>第8回 インターンシップ実習 2日目3限 栄養指導（食育）の理論</p> <p>第9回 インターンシップ実習 2日目4限 栄養指導（食育）の実践</p> <p>第10回 インターンシップ実習 3日目1限 コミュニケーションの取り方（他職種との連携）</p> <p>第11回 インターンシップ実習 3日目2限 コミュニケーションの実践</p> <p>第12回 インターンシップ実習 3日目3限 就業体験のまとめ</p> <p>第13回 インターンシップ実習 3日目4限 就業体験反省会</p> <p>第14回 事後指導 実習レポート（まとめ）の作成と提出</p> <p>第15回 実習報告 プレゼンテーション（準備と発表）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>実習先の評価40%</p> <p>実習記録・レポート60%</p>		
失格条件	<p>①実習期間中の無断欠席、遅刻、早退は原則として認めない。ただし、病気、けが（診断書が必要、忌引き等で担当教員に欠席の届出があり、認められた場合、原則的に不足日数分の補充実習を行う。</p> <p>②事前指導、実習報告の欠席。</p> <p>③期間を守って実習記録・レポートが提出されなかった場合。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>管理栄養士が実施している業務について実際に就業を体験することになるので、当該分野の管理栄養士業務について各プログラム毎に事前に調べておくこと。(予習時間1時間)</p> <p>就業体験の各プログラム終了毎に、学んだことや反省点を実習記録にまとめておくこと。(復習時間1時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>感想文などは、作成前に細かな指導を行う。提出された課題は各担当教員が添削してから学生に返却するとともに、講義のなかでも添削内容を解説する。</p> <p>プレゼンテーション課題は事前に担当教員が内容を確認し、時間配分や強調点などを指導する。</p> <p>基礎教科の学習における小テストについては、講義のなかでも内容を解説する。</p>		
教科書	不使用。資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>詳細は、オリエンテーション時に指導を行うので、4月始めのオリエンテーションには必ず出席すること。  インターンシップ実習受講届けを出した者だけが受講を認められる(受講限定)。</p>		
備考	病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N01	期間	後期
授業科目名	管理栄養士演習 A		
英訳科目名	General learning A for the managed dietician		
担当教員名	庄條 愛子、藤本 繁夫、杉山 文、水野 淨子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	管理栄養士国家試験に向けて、専門基礎分野の知識と技術をより深めることを目的とする。人間や生活について理解を深め、人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、治療等について学ぶ。また、食品の各種成分や人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価について、さらに食事設計と栄養・調理について学ぶ。		
到達目標	人体の構造や機能を理解し、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を説明できる。 食品の各種成分や人体に対しての栄養面や安全面等への影響や評価を説明できる。 食事設計と栄養・調理について説明できる。		
授業計画	<p>第1回 主要疾患の成因、病態、診断、治療および生活習慣病、栄養疾患、消化器疾患、代謝疾患の概要を理解する。正常な人体の仕組みについて理解する。(藤本)</p> <p>第2回 疾病の発症や進行および病態評価や診断、治療の基本的考え方を理解する。(藤本)</p> <p>第3回 個体とその機能を構成する遺伝子レベルで理解する。(水野)</p> <p>第4回 個体とその機能を構成する細胞レベルで理解する。(水野)</p> <p>第5回 個体とその機能を構成する組織・器官レベルで理解する。(水野)</p> <p>第6回 食事設計の基礎 について、食事設計の意義・内容および嗜好性の主観的評価・客観的評価の観点から理解する。(杉山)</p> <p>第7回 調理の基本について、調理の意義、非加熱・加熱調理操作の原理、熱の伝わり方と効率的な加熱条件、代表的な調理器具の使用法、代表的な調理操作および食品の特徴に応じた調理の特性の観点から理解する。(杉山)</p> <p>第8回 調理操作と栄養 について、調理操作による食品の組織・物性と栄養成分の 変化および調理による栄養学的・機能的利点の観点から理解する。(杉山)</p> <p>第9回 献立作成について、食品構成の作成、献立作成条件と手順および供食、食卓構成、食事環境の観点から理解する。(杉山)</p> <p>第10回 食品の成分の化学的性質と成分間反応を理解する。(庄條)</p> <p>第11回 食品の栄養特性、物性等について理解する。(庄條)</p> <p>第12回 新規食品・食品成分が健康に与える影響、それらの疾病予防とのかわりを理解する。(庄條)</p> <p>第13回 栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の加工や調理の方法を理解して修得する。(庄條)</p> <p>第14回 食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法を理解する。(庄條)</p> <p>第15回 まとめ(庄條)</p>		
評価方法 (合計100%)	・総合試験と小テスト：100%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験および最終試験を未受験</li> <li>・全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格</li> <li>・5分以上の遅刻は欠席</li> <li>・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席</li> <li>※電車遅延は、遅刻理由として考慮しません</li> <li>※※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	管理栄養士国家試験の過去問題、授業での配布物や教科書を元に、毎回の学習内容のまとめを行い、疑問点を整理するとともに、授業内の指示にそって宿題・次回の授業の予習などを行うこと。(所要時間4時間)		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト・中間テストの内容・解説および点数は、3回生用掲示板に掲示する</li> <li>・最終試験の内容・解説および点数は、3回生用掲示板に掲示する</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2019年度版 管理栄養士国家試験対策完全合格教本 上巻</li> <li>②2019年度版 管理栄養士国家試験対策完全合格教本 下巻</li> <li>③2019年度版 管理栄養士国家試験過去問題解説集5年分徹底解説</li> </ul>		
著者名	①・②東京アカデミー編③管理栄養士国家試験対策研究会編		
出版社	①・②七賢出版③中央法規		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は現在持っているものでも良いです(版が異なっても可)。</li> <li>・教科書中心講義を行うため、講義の前後にしっかりと教科書を読んで書き込むなどの努力をすること。</li> </ul>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N02	期間	前期
授業科目名	管理栄養士演習B		
英訳科目名	General learning B for the managed dietician		
担当教員名	品川 英朗、竹山 育子、今井 ももこ、金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士国家試験に向けて、栄養に関連する専門基幹科目（基礎栄養学、応用栄養学（ライフステージ栄養学）、臨床栄養学の3科目）の知識と技術を深化習得することを目的とし、オムニバス形式で講義を展開する。上記分野の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、出願の狙いや問題の難易度を読みとる力を同時に養う。		
到達目標	前期授業終了時には基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学の国家試験過去出題問題や類似問題を5割以上、正解できるようになること。		
授業計画	第1回 ガイダンス・応用栄養学（食事摂取基準）（品川） 第2回 基礎栄養学（消化吸収と栄養素の体内動態）（今井） 第3回 臨床栄養学（在宅医療、訪問栄養指導）（竹山） 第4回 臨床栄養学（栄養ケア・マネジメント、栄養アセスメント）（金石） 第5回 基礎栄養学（たんぱく質・脂質・糖質）（今井） 第6回 応用栄養学（妊娠期授乳期、新生児・乳児期、幼児・学童・思春期）（品川） 第7回 臨床栄養学（肝臓・消化器疾患の食事療法）（竹山） 第8回 臨床栄養学（臨床検査・症状と疾病）（金石） 第9回 基礎栄養学（ビタミン・ミネラル）（今井） 第10回 応用栄養学（成人期、高齢期、環境）（品川） 第11回 臨床栄養学（高血圧・腎臓病の食事療法）（竹山） 第12回 臨床栄養学（栄養補給法）（金石） 第13回 臨床栄養学（食物と薬物の相互作用）（金石） 第14回 臨床栄養学（肥満・糖尿病の食事療法）（竹山） 第15回 到達度の確認（品川・今井）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 10% 小テスト 40% 総合テスト 50%		
失格条件	出席が2/3（10回）以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義前に関連する教科書、参考書や配布資料を読んでおくこと。（予習時間 2時間） 講義終了後に要点をノートにまとめること。（復習時間 2時間）		
課題へのフィード バック	・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・レポート課題がある場合は、課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学の分野で使用した教科書 その他、必要に応じて適宜指示する。		
著者名			
出版社			
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学の国家試験過去問題で難易度の高い問題や十分理解できなかった項目については、夏季休暇中などに時間をかけて調べる。		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（品川） クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（竹山） 病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（金石）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N03	期間	前期
授業科目名	管理栄養士演習C		
英訳科目名	General learning C for the managed dietician		
担当教員名	角谷 勲、上田 秀樹、古川 和子、小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー-3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー-4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>管理栄養士演習A・Bで習得した内容に加え、管理栄養士国家試験に必要な科目(社会・環境と健康、栄養教育論、公衆栄養学、給食経営管理論)の知識と技術を深化習得することを目的とし、オムニバス形式で講義を展開します。</p> <p>上記分野の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にすると共に、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、出願の狙いや問題の難易度を読み取る力を同時に養い、到達度の確認を行います。</p>		
到達目標	受講する教科について過去問が正解できる。		
授業計画	<p>第1回 社会・環境と健康① 社会と健康 (担当：古川)</p> <p>第2回 社会・環境と健康② 生活習慣の現状と対策 (担当：古川)</p> <p>第3回 社会・環境と健康③ 主要疾患の疫学と予防対策 (担当：古川)</p> <p>第4回 社会・環境と健康④ 保健・医療・福祉制度 (担当：古川)</p> <p>第5回 栄養教育論① 栄養教育のための理論的基礎 (担当：小野)</p> <p>第6回 栄養教育論② 栄養教育マネジメント (担当：小野)</p> <p>第7回 栄養教育論③ ライフステージ別栄養教育 (担当：小野)</p> <p>第8回 公衆栄養学① 健康・栄養問題の現状と課題 (担当：上田)</p> <p>第9回 公衆栄養学② 栄養政策 (担当：上田)</p> <p>第10回 公衆栄養学③ 栄養疫学 (担当：上田)</p> <p>第11回 公衆栄養学④ 公衆栄養プログラムの展開 (担当：上田)</p> <p>第12回 給食経営管理論① 給食の概念 (担当：角谷)</p> <p>第13回 給食経営管理論② 栄養・食事管理 (担当：角谷)</p> <p>第14回 給食経営管理論③ 給食の安全・衛生管理 (担当：角谷)</p> <p>第15回 到達度の確認 (担当：角谷)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 15%</p> <p>分野ごとの総合テスト 85%</p>		
失格条件	出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：授業計画に示された項目内容について教科書・参考書をよく読み、過去問題を解き疑問点を明確しておく (予習時間 2時間)。</p> <p>復習：授業において理解不十分な内容について、教科書、参考書等により丁寧に調べノートにまとめる。過去問題や基本的な問題は正解に導けるよう学習する (復習時間 2時間)。</p>		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で、全体に向けコメントを行う。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②2019年版 東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻・下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国試対策研究会②東京アカデミー		
出版社	①中央法規出版②七賢出版株式会社		
参考書	各分野で使用した教科書 (社会・環境と健康, 栄養教育論, 公衆栄養学, 給食経営管理論)		
その他	特になし		
備考	<p>国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(角谷)</p> <p>小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(小野)</p> <p>大阪市職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(上田)</p> <p>大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(古川)</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	金石 智津子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康ー環境と健康等ー 第2回 社会・環境と健康ー生活習慣病の現状と対策等ー 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちー人体の構造等ー 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちーアミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等ー 第5回 食べ物と健康ー人間と食べ物等ー 第6回 食べ物と健康ー食品の表示と規格基準等ー 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学ー傷病者・要介護者の栄養アセスメント等ー 第11回 臨床栄養学ー栄養・食事療法、栄養補給法等ー 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論ー栄養・食事管理等ー 第14回 給食経営管理論ー給食の生産等ー 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3（10回）以上に満たない場合 ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合（学外模試による失格条件）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題（5年分）を解く。（予習時間 2時間） 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題（5年分）を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集（5年分徹底解説）中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	病院で勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	今井 ももこ		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3（10回）以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合（学外模試による失格条件）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題（5年分）を解く。（予習時間 2時間） 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題（5年分）を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集（5年分徹底解説）中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	角谷 勲		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康ー環境と健康等ー 第2回 社会・環境と健康ー生活習慣病の現状と対策等ー 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちー人体の構造等ー 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちーアミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等ー 第5回 食べ物と健康ー人間と食べ物等ー 第6回 食べ物と健康ー食品の表示と規格基準等ー 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学ー傷病者・要介護者の栄養アセスメント等ー 第11回 臨床栄養学ー栄養・食事療法、栄養補給法等ー 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論ー栄養・食事管理等ー 第14回 給食経営管理論ー給食の生産等ー 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合 (学外模試による失格条件)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題 (5年分) を解く。(予習時間 2時間) 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題 (5年分) を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規 【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻 【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻 【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	上田 秀樹		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合 (学外模試による失格条件)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題 (5年分) を解く。(予習時間 2時間) 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題 (5年分) を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規 【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻 【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻 【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編 ②東京アカデミー編 ③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規 ②七賢出版 ③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	大阪市職員として勤務した管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	藤本 繁夫		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合 (学外模試による失格条件)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題 (5年分) を解く。(予習時間 2時間) 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題 (5年分) を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規 【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻 【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻 【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	水野 淨子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康ー環境と健康等ー 第2回 社会・環境と健康ー生活習慣病の現状と対策等ー 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちー人体の構造等ー 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちーアミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等ー 第5回 食べ物と健康ー人間と食べ物等ー 第6回 食べ物と健康ー食品の表示と規格基準等ー 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学ー傷病者・要介護者の栄養アセスメント等ー 第11回 臨床栄養学ー栄養・食事療法、栄養補給法等ー 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論ー栄養・食事管理等ー 第14回 給食経営管理論ー給食の生産等ー 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3（10回）以上に満たない場合 ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合（学外模試による失格条件）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題（5年分）を解く。（予習時間 2時間） 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題（5年分）を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集（5年分徹底解説）中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	品川 英朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合 (学外模試による失格条件)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題 (5年分) を解く。(予習時間 2時間) 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題 (5年分) を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規 【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻 【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻 【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3（10回）以上に満たない場合 ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合（学外模試による失格条件）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題（5年分）を解く。（予習時間 2時間） 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題（5年分）を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集（5年分徹底解説）中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	庄條 愛子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> -
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> -	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合 (学外模試による失格条件)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題 (5年分) を解く。(予習時間 2時間) 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題 (5年分) を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規 【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻 【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻 【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	竹山 育子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3 (10回) 以上に満たない場合。ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合 (学外模試による失格条件)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題 (5年分) を解く。(予習時間 2時間) 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題 (5年分) を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集 (5年分徹底解説) 中央法規 【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻 【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻 【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編 ②東京アカデミー編 ③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規 ②七賢出版 ③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	古川 和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康ー環境と健康等ー 第2回 社会・環境と健康ー生活習慣病の現状と対策等ー 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちー人体の構造等ー 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちーアミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等ー 第5回 食べ物と健康ー人間と食べ物等ー 第6回 食べ物と健康ー食品の表示と規格基準等ー 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学ー傷病者・要介護者の栄養アセスメント等ー 第11回 臨床栄養学ー栄養・食事療法、栄養補給法等ー 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論ー栄養・食事管理等ー 第14回 給食経営管理論ー給食の生産等ー 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3（10回）以上に満たない場合 ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合（学外模試による失格条件）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題（5年分）を解く。（予習時間 2時間） 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。 さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題（5年分）を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集（5年分徹底解説）中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N04	期間	集中
授業科目名	管理栄養士演習D		
英訳科目名	General learning D for the managed dietician		
担当教員名	杉山 文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ー
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ー	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	管理栄養士演習A・B・Cで習得した内容に加え、管理栄養士養成全科目について必要な知識と技術を深化および習得することをねらいとし、講義を展開する。 各科目の重要な内容を解説・整理し、基礎的な理解を確実にするとともに、国家試験の過去問題を演習形式で取り入れ、管理栄養士に必要な知識の応用能力や問題解決能力を養う。		
到達目標	管理栄養士として必要な知識や技術を理解し、総合的な判断ができる。		
授業計画	第1回 社会・環境と健康－環境と健康等－ 第2回 社会・環境と健康－生活習慣病の現状と対策等－ 第3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－人体の構造等－ 第4回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち－アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の代謝等－ 第5回 食べ物と健康－人間と食べ物等－ 第6回 食べ物と健康－食品の表示と規格基準等－ 第7回 基礎栄養学 第8回 応用栄養学 第9回 栄養教育論 第10回 臨床栄養学－傷病者・要介護者の栄養アセスメント等－ 第11回 臨床栄養学－栄養・食事療法、栄養補給法等－ 第12回 公衆栄養学 第13回 給食経営管理論－栄養・食事管理等－ 第14回 給食経営管理論－給食の生産等－ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	15%	
	到達度最終試験	85%	
失格条件	・出席が2/3（10回）以上に満たない場合 ただし10分以上の遅刻は欠席とし、10分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ・到達度最終試験を受けなかった場合 ・学外模試を2回以上受けなかった場合（学外模試による失格条件）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 事前に示された項目内容について教科書をよく読み、過去問題（5年分）を解く。（予習時間 2時間） 復習： 理解の不十分な項目内容については過去問題を解いた後、解説書をよく読み理解を深める。さらに、わかりにくい所は教科書等で丁寧に調べてノートにまとめる。後期期間中に過去問題（5年分）を繰り返して解き、基本問題の正解が導けるよう学習する。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	小テスト・課題等は、その後の授業で全体に向けて解説またはコメントする。		
教科書	①2019 管理栄養士国家試験過去問解説集（5年分徹底解説）中央法規【管理栄養士演習Aで購入】 ②東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士上巻【管理栄養士演習Aで購入】 ③東京アカデミーオープンセサミシリーズ管理栄養士下巻【管理栄養士演習Aで購入】		
著者名	①管理栄養士国家試験対策研究会編②東京アカデミー編③東京アカデミー編		
出版社	①中央法規②七賢出版③七賢出版		
参考書	各分野で使用した教科書		
その他	学外模試による失格条件および不可の条件は、最初のガイダンスの時に告知する。		
備考	調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	藤本 繁夫		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	卒業研究は大学の講義・実習で学んできた栄養学を基礎にして、自らが問題提起したテーマを解決する方法を習得し、それを実践することにある。まず主テーマを決めて、その背景を論文やネットで調査して現状を調べる。その中で問題提起を行い、それに関する探索方法（研究計画）を立て、実践する。その結果をまとめて考察を行い、結論を導きだすシステムを習得する。主テーマとして、人間が健康で生涯を過ごすことができるための栄養学を基礎とした「食事と運動」に関すること、特に高齢社会を背景にした「認知機能」との関連に関する内容など。		
到達目標	自ら進んで課題を選択し、実施内容を検討・実行し、中間報告および最終報告でプレゼンテーションを行うことができる。 主テーマとして、（１）加齢に伴う認知機能を維持するための運動と食事に関して、身体活動（運動）が認知機能に及ぼす影響について検討する。特にどのような運動方法がより効果があるのか、そのメカニズムについて理解する。さらに認知と加齢の影響、栄養との関係を加えての検討する。 （２）体力を増強するための運動と食事（スポーツ栄養）に関して、健康を維持するためには、栄養と運動は不可欠です。健康体力を増強するための運動方法について、食事と運動の関係について検討する。さらに、運動能力を増すための運動方法と栄養補給法について検討する。		
授業計画	第1回 卒業研究についてのオリエンテーション 第2回 研究テーマの確認と問題点の整理 第3回 問題点の具体化、現状についての文献検討 第4回 卒業研究の実施内容についてのプレゼンテーション 第5回 現状についての文献検討と問題点の解決法の具体化(文献検討) 第6回 現状についての文献検討と問題点の解決法の具体化(文献検討) 第7回 現状についての文献検討と問題点の解決法の具体化(文献検討) 第8回 問題点の解決法の具体化とプレゼンテーション 第9回 研究計画の実施① 第10回 研究計画の実施② 第11回 研究計画の実施③ 第12回 研究計画の実施④ 第13回 研究計画の実施⑤ 第14回 中間報告のプレゼンテーション準備 第15回 中間報告のプレゼンテーション 第16回 中間報告において明らかになった問題点の解決法の具体化(全体討論)と研究計画の再検討 第17回 研究計画の実施⑥ 第18回 研究計画の実施⑦ 第19回 研究計画の実施⑧ 第20回 研究計画の実施⑨ 第21回 研究計画の実施⑩ 第22回 研究内容のまとめ、統計分析と論文作成① 第23回 研究内容のまとめ、統計分析と論文作成② 第24回 研究内容のまとめ、統計分析と論文作成③ 第25回 研究内容のまとめ、統計分析と論文作成④ 第26回 研究内容のまとめ、統計分析と論文作成⑤ 第27回 卒業研究報告のプレゼンテーション準備① 第28回 卒業研究報告のプレゼンテーション準備② 第29回 卒業研究報告のプレゼンテーション① 第30回 卒業研究報告のプレゼンテーション②		
評価方法 (合計100%)	卒業研究への具体的な取り組み 60% 中間および最終報告でのプレゼンテーション 40%		
失格条件	1.積極的態で卒業研究に取り組まないもの 2.指定された報告などが不可能なもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	日常生活の中で、健康と食事・運動に関する動向に注意を払い、新事実を理解したり、逆に疑問に感じたことは検索する能力をつける。自身の決めたサブテーマについて、論文や資料を検索し、結果をまとめ、考察を加えて報告する。（予習に数時間）		
課題へのフィード バック	・サブテーマに関するプレゼンテーションを行い、発表の仕方、内容の評価、質疑応答に関して評価する。 ・課題レポートを提出させ、内容を評価してコメントをつけて返却する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	角谷 勲		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>大学での教育・研究の総仕上げとして、下記テーマについてまとめる。</p> <p>研究テーマ：特定給食施設（事業所）＆相愛大学による「塩分と野菜摂取」のあり方を考える実践的な研究</p> <p>昨今の豊かな食生活の中で生活習慣病は顕著に増加、中でも高血圧は食塩の過剰が主な原因となることは古くから知られています。食塩摂取過剰により生じる高血圧予防にはカリウムの作用が大きく関与することから、減塩と野菜摂取をテーマに、事業所との連携による①卓上栄養メモ（減塩と野菜のPOP）の活用、②減塩および野菜摂取を目的としたレシピの開発など、実践活動を通して、施設利用者の食生活習慣の改善の支援、健康の維持増進に寄与することを目的に、特定給食施設の栄養・食事管理についての体験・学修を深めます。共同研究者：竹山育子、杉山文</p>		
到達目標	産学連携による実践活動の展開をとおして、特定給食施設の栄養食事管理について研究を進め、実践的に応用できる力の修得をめざす。		
授業計画	<p>第1回 卒業研究ガイダンス 概要、スケジュール等</p> <p>第2回 研究テーマの確認と問題点の整理</p> <p>第3回 テーマの検討① 候補案の検討</p> <p>第4回 テーマの検討② 候補案に関連する資料・文献の収集</p> <p>第5回 テーマの検討③ 資料・文献の整理と保存</p> <p>第6回 テーマの決定</p> <p>第7回 研究計画の実施① 文献検討</p> <p>第8回 研究計画の実施② ?</p> <p>第9回 研究計画の実施③</p> <p>第10回 研究計画の実施④</p> <p>第11回 研究計画の実施⑤</p> <p>第12回 研究計画の実施⑥</p> <p>第13回 研究計画の実施⑦</p> <p>第14回 中間発表原案作成</p> <p>第15回 中間発表</p> <p>第16回 中間発表において明らかになった課題の解決法の具体化と研究計画の再検討</p> <p>第17回 研究計画の実施⑧</p> <p>第18回 研究計画の実施⑨</p> <p>第19回 研究計画の実施⑩</p> <p>第20回 研究計画の実施⑪</p> <p>第21回 研究計画の実施⑫</p> <p>第22回 研究成果の作成① 目次、方向性、全体像の確認</p> <p>第23回 研究成果の作成② 緒言</p> <p>第24回 研究成果の作成③ 研究方法</p> <p>第25回 研究原案の作成④ 研究結果</p> <p>第26回 研究原案の作成⑤ 研究分析、考察</p> <p>第27回 研究原案の作成最終 引用文献のまとめ</p> <p>第28回 研究成果発表の準備（予行練習）</p> <p>第29回 研究成果の発表</p> <p>第30回 研究報告書（レポート）の提出</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究への取り組み、参加態度	50%	
	研究発表（プレゼンテーション）、研究報告書（レポート）	50%	
失格条件	研究報告書（レポート）の提出がない場合 出席回数が3分の2に達しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業研究は自ら調べて考えることが重要である。 図書館やメディカルオンライン、PubMedなどによる情報を徹底的に調べ、集めたデータの整理をしておくことが予習・復習につながる（予習2時間、復習2時間）。		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った実践活動の取り組みに対して個別にコメントします。</li> <li>・最終の研究成果の発表において、個別にコメントします。</li> </ul>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	随時提示		
その他	特になし		
備考	国立病院機構病院の管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	本年度未開講		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>大学での教育・研究の総仕上げとして、下記テーマについてまとめる。</p> <p>研究テーマ：大阪ガス&amp;相愛大学による「健康な食事」のあり方を考える実践的な研究</p> <p>厚生労働省は、2015年から日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方を推進している。個人の健康は、家庭や学校、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、社会全体として、個人の健康を支え、守る環境づくりに努めていくことが重要であるといわれている。そこで、本研究では、大阪ガスと連携し、働き盛りの男女を対象に、体組成や骨密度の測定等により、自身の「からだ」を知るとともに、正しい栄養・食生活の知識やスキルを身につけることで、「健康な食事」のあり方を参加者と一緒に考えるプロジェクトを実施する。なお本研究は、竹山ゼミ、杉山ゼミと共同で実施する。</p> <p>その他、住之江区社会福祉協議会&amp;相愛大学による「会食サービス」および特養のディサービスを活用した高齢者の食を考える実践的研究、ニッタバイオラボ&amp;相愛大学による「レシピ創造プロジェクト」の研究についても、竹山、杉山ゼミと合同で実施する。</p>		
到達目標	研究テーマに基づいて調査・研究を遂行し結論に達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の報告の仕方ができるようにする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究ガイダンス 概要、スケジュール等</li> <li>2. テーマの検討① テーマ案の例示と解説</li> <li>3. テーマの検討② テーマ候補案の検討</li> <li>4. テーマの検討③ テーマ候補案に関連する資料の収集</li> <li>5. テーマの検討④ 資料の整理と保存</li> <li>6. テーマの検討⑤ テーマの決定</li> <li>7. 卒業研究の実施① 文献調査法</li> <li>8. 卒業研究の実施② 文献調査</li> <li>9. 卒業研究の実施③</li> <li>10. 卒業研究の実施④</li> <li>11. 卒業研究の実施⑤</li> <li>12. 卒業研究の実施⑥</li> <li>13. 卒業研究の実施⑦</li> <li>14. 中間発表原案作成</li> <li>15. 中間発表</li> <li>16. 卒業研究の実施⑧</li> <li>17. 卒業研究の実施⑨</li> <li>18. 卒業研究の実施⑩</li> <li>19. 卒業研究の実施⑪</li> <li>20. 卒業研究の実施⑫</li> <li>21. 卒業研究成果の作成① 方向性、全体像の確認</li> <li>22. 卒業研究成果の作成② 目次の作成</li> <li>23. 卒業研究成果の作成③ 緒言</li> <li>24. 卒業研究成果の作成④ 研究方法</li> <li>25. 卒業研究原案の作成⑤ 研究結果</li> <li>26. 卒業研究原案の作成⑥ 研究分析、考察</li> <li>27. 卒業研究原案の作成最終 引用文献のまとめ</li> <li>28. 卒業研究成果予行練習</li> <li>29. 卒業研究成果の発表</li> <li>30. 卒業研究（レポート）の提出</li> </ol>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究への取り組み 50% 研究レポート（プレゼンテーション） 50%。		
失格条件	卒業研究（レポート）を未提出の場合。 出席回数が2/3に満たなかった場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業研究は自ら調べて考えることが重要である。図書館・書店の専門図書・雑誌の情報やインターネット情報を徹底的に調べ整理しておくことが予習・復習につながる。（予習2時間、復習2時間）		
課題へのフィード バック	授業時間中に解説する		
教科書	指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	今井 ももこ		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>メディアや広告などで健康や美容の目的で取り上げられることの多い栄養素について、科学的根拠は何なのかを研究し、それぞれの栄養素についてより知識を深めることを目的とする。</p> <p>①サプリメントや化粧品などは、実際に体内でどのように働くのか、謳い文句に科学的根拠はあるのか、②「糖質制限」という言葉が多く用いられるようになっているが、糖質の本来の役割は何なのか、どのような食品に糖質は含まれているのか等、その他自ら設定した課題について、研究計画を作成し、実施する。</p>		
到達目標	自ら進んで課題に取り組むことで、その成果をまとめて報告するという総合的な知識と技術力を養うことができる。		
授業計画	<p>第1回 卒業研究についてのオリエンテーション</p> <p>第2回 研究テーマの決定</p> <p>第3回 卒業研究の実施内容についてのプレゼンテーション</p> <p>第4回 研究計画書の作成</p> <p>第5回 研究テーマに関する情報の収集①</p> <p>第6回 研究テーマに関する情報の収集②</p> <p>第7回 研究テーマに関する情報の収集③</p> <p>第8回 研究テーマに関する情報の収集④</p> <p>第9回 研究テーマに関する文献検討①</p> <p>第10回 研究テーマに関する文献検討②</p> <p>第11回 研究テーマに関する文献検討③</p> <p>第12回 研究テーマに関する文献検討④</p> <p>第13回 研究計画の調整</p> <p>第14回 研究計画の実施①</p> <p>第15回 研究計画の実施②</p> <p>第16回 研究計画の実施③</p> <p>第17回 研究計画の実施④</p> <p>第18回 中間報告のプレゼンテーション準備</p> <p>第19回 中間報告のプレゼンテーション</p> <p>第20回 中間報告において明らかになった問題点の解決法の具体化(全体討論)と研究計画の再検討</p> <p>第21回 研究計画の実施⑤</p> <p>第22回 研究計画の実施⑥</p> <p>第23回 研究計画の実施⑦</p> <p>第24回 研究計画の実施⑧</p> <p>第25回 研究結果の分析①</p> <p>第26回 研究結果の分析②</p> <p>第27回 研究内容のまとめ、論文作成①</p> <p>第28回 研究内容のまとめ、論文作成②</p> <p>第29回 卒業研究報告のプレゼンテーション準備</p> <p>第30回 卒業研究報告のプレゼンテーション</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究への具体的な取り組み 50% 中間および最終報告書・プレゼンテーション 50%		
失格条件	1.出席回数が2/3に満たなかった場合 2.卒業研究報告書(レポート)の提出がなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	研究は、自ら積極的に行うことが重要である。日々の生活の中で情報収集を行い、図書館の本、雑誌やネット上 の情報などもリサーチし、集めた情報はきちんと整理しておく。(予習2時間、復習2時間)		
課題へのフィード バック	研究の進行状況などを踏まえ、個別に対応します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	品川 英朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	大学での教育・研究の総仕上げとして、発達栄養における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の報告の仕方を身につける。管理栄養士国家試験対策の演習を行う。		
到達目標	課題を発掘することができる。 問題提起と課題解決ができ、その結果を報告することができる。		
授業計画	<p>結論を導き出す過程を体験する。その過程で論文作成の基本的な決まりごとや各テーマに即した方法論を学ぶ。輪番で、テーマに関連する教科書を中心に担当箇所のまとめと報告、各自のテーマに即した研究報告を行う。</p> <p>第1回 オリエンテーション。  第2回 研究課題の文献検索方法  第3回 研究課題の文献和文検索①  第4回 研究課題の文献英文検索①  第5回 研究課題の文献和文講読②  第6回 研究課題の文献英文講読②  第7回 研究課題の文献和文講読③  第8回 研究課題の文献英文講読③  第7回 実験機器の利用方法の習得①  第9回 実験機器の利用方法の習得②  第10回 実験機器の利用方法の習得②  第11回 テーマの提起とテーマに見合った実験や調査の方法を理解。  第12回 試料の作製①  第13回 試料の作製②  第14回 試料の計測①  第15回 試料の計測②  第16回 データのまとめ  第17回 第一回実験報告会  第18回 試料の作製③  第19回 試料の作製④  第20回 試料の計測③  第21回 試料の計測④  第22回 データのまとめ  第23回 第二回実験報告会  第24回 試料の作製⑤  第25回 試料の作製⑥  第26回 試料の計測⑤  第27回 試料の計測⑥  第28回 データのまとめ  第29回 第三回実験報告会  第30回 論文作成</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業論文（レポート：共同執筆も可）50% 授業への参加態度50%		
失格条件	卒業論文（レポート）の担当教員への提出をもって完成する（共同執筆も可）ので、未提出者は失格とする。 出席回数が2/3に満たなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業での配布物や論文検索により、疑問点等を整理するとともに、実験研究の見通しを立てる。 (予習2時間、復習2時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	歯科医師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	竹山 育子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ○	ディプロマ・ポリシー2	<問題解決力>◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度>○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>臨床現場において生活指導を含む栄養指導は不可欠である。特に生活習慣病などの慢性疾患の場合、患者自身の食習慣を変えなければならない。そのため患者自身の問題点を抽出し、アセスメントすることによって個人に適した栄養指導を行うことが必要である。</p> <p>そこで、体重、血圧、体組成測定等の正確な測定方法および、食事調査、食習慣調査方法を研究し、生活習慣病指導に必要なスキルとは何かを健康教室でのサポートを通して考える。</p> <p>また、増加する高齢者に対する「健康な食事」の最新情報を提供する。特養のディサービス利用者や地域の独居老人に対し、より良いメニューの提案や食に関する情報を伝える。</p>		
到達目標	<p>管理栄養士としての科学的、論理的思考を行うことができる。</p> <p>情報を収集、分析、解析し、科学的に考察することができる。</p> <p>臨床現場において調査、結果報告ができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 研究テーマの決定</p> <p>第3回 研究テーマに関する総論的レクチャー</p> <p>第4回 データベースの利用方法</p> <p>第5回 文献の読み方</p> <p>第6回 データの取り扱い</p> <p>第7回 研究計画書の作成</p> <p>第8回 テーマ関連文献の収集</p> <p>第9回 文献検討</p> <p>第10回 研究項目の詳細検討・ディスカッション</p> <p>第11回 予備調査</p> <p>第12回 予備調査と研究課題について評価、検討</p> <p>第13回 研究課題に対する調査</p> <p>第14回 データ入力方法</p> <p>第15回 データの読み方</p> <p>第16回 統計処理方法</p> <p>第17回 結果解析</p> <p>第18回 研究課題に対する調査結果の検討</p> <p>第19回 解析結果についてのディスカッション</p> <p>第20回 レポートのまとめ方</p> <p>第21回 レポートの作成準備</p> <p>第22回 レポートの作成</p> <p>第23回 レポートの作成および結果についての検討</p> <p>第24回 レポートの作成および考察についての検討</p> <p>第25回 レポートの作成および内容についてのディスカッション</p> <p>第26回 完成レポートについての討論</p> <p>第27回 プレゼンテーション方法についての学習</p> <p>第28回 プレゼンテーション資料の作成</p> <p>第29回 プレゼンテーション</p> <p>第30回 レポート確認、提出</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>卒業研究への取り組み 50%</p> <p>研究レポート(プレゼンテーション) 50%</p>		
失格条件	<p>卒業研究(レポート)を未提出の場合</p> <p>出席回数が2/3に満たなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>研究テーマに関する文献、記事をしっかりと読む。(予習2時間)</p> <p>新聞、雑誌、インターネットの情報をファイルし、エビデンスを考える習慣をつける。</p> <p>関連科目の復習をする。(復習2時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>学生が取り組んだ課題に関しては添削、アドバイスを繰り返し行い、学習効果を高める。提出レポートについては点検、添削を実施し学習指導を行う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて、紹介する。		
その他			
備考	クリニックで勤務した調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	庄條 愛子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	卒業研究はこれまで受けてきた教わるタイプの授業形式とは異なり、自分で調べて自分でその成果を報告する授業である。 卒業研究の課題はいろいろあるが、自分が設定した課題に向かって全力で挑み、その成果をまとめて報告する総合力を養うことにある。 「食べ物の関わること、食品加工に関わること」をテーマに、学生自身の興味に応じて多面的に研究する。		
到達目標	自分の興味の対象に全力で挑み、その成果をまとめて報告できる。		
授業計画	第1回 卒業研究オリエンテーション 第2回 卒業研究テーマの選択① 食品とは？ 第3回 卒業研究テーマの選択② 食品加工とは？ 第4回 卒業研究テーマの選択③ さまざまな食品の加工技術と保存方法と？ 第5回 卒業研究テーマの選択④ 市販されている生鮮食品とその加工食品 第6回 市場調査① スーパーマーケットで市販されている食品 第7回 市場調査② デパートで市販されている食品 第8回 市場調査③ 道の駅などで市販されている食品 第9回 2～9回目の結果に基づく卒業論文テーマの選択 第10回 食品とその加工技術についての論文検索 (1) 日本国内の雑誌での検討① 第11回 食品とその加工技術についての論文検索 (2) 日本国内の雑誌での検討② 第12回 食品とその加工技術についての論文検索 (3) 日本国内の雑誌での検討③ 第13回 食品とその加工技術についての論文検索 (4) 海外の雑誌での検討① 第14回 食品とその加工技術についての論文検索 (5) 海外の雑誌での検討② 第15回 食品とその加工技術についての論文検索 (6) 海外の雑誌での検討③ 第16回 中間発表 (1) : 市場調査、卒業論文テーマの決定、論文検索についてまとめる 第17回 中間発表 (2) : 17でまとめた資料をもとにプレゼンテーションを作成する 第18回 中間発表 (3) : パワーポイントを用いたプレゼンテーションでの発表 第19回 中間発表 (4) : プレゼンテーションの振り返り、課題の見直し 第20回 食品加工施設の見学：食品加工とHACCPについて 第21回 生鮮食品と食品加工(1)：市販の加工食品の官能評価による比較① 菓子類 第22回 生鮮食品と食品加工(2)：市販の加工食品の官能評価による比較② 中食類 第23回 生鮮食品と食品加工(3)：市販の加工食品の官能評価による比較③ 二次加工食品類 第24回 生鮮食品と食品加工(4)：市販の加工食品の官能評価による比較④ 三次加工食品類 第25回 生鮮食品と食品加工(5)：食品の加工① 学内の野草を利用したハーブティーの調整 第26回 生鮮食品と食品加工(6)：食品の加工② 学内の野草を利用した加工食品の調整① 第27回 生鮮食品と食品加工(7)：食品の加工③ 学内の野草を利用した加工食品の調整② 第28回 卒業論文作成(1) 第29回 卒業論文作成(2) 第30回 卒業論文発表と論議提出		
評価方法 (合計100%)	卒論への取り組み態度・意欲 50% 調査等成果の報告・最終発表・報告書作成 50%		
失格条件	・成果報告書未提出または卒業ゼミへの不参加の合計が通年5回以上の者 ・最終の発表会・論文提出ができなかった者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	研究であるから自ら調べて考えることが重要である。図書館やweb（信頼性のある情報に限る）を使って過去に得られた情報を徹底的に集める。これらの時間に費やす時間は、少なくとも毎週2時間以上必要である。また、集めたデータを整理したり、新たな計画作成、あるいは報告書作成にも毎週2時間以上を費やすことが必要となる。学生はこうした卒論を実行するために必要な時間配分を考えた日常生活設計を立てる必要がある(予習 2時間、復習 2時間)。		
課題へのフィードバック	・文献調査、実験計画書、実験結果などを取りまとめたレポートはゼミ形式で討議し、見直しと新たな課題の確認を行う ・卒業論文は教員が添削し、学生との討議によって精査する		
教科書	指定する教科書はない。		
著者名			
出版社			
参考書	随時提示。		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	杉山 文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>1.ニッパバイオラボ&amp;相愛大学による「レシピ創造プロジェクト」ゼラチン、アガールの機能性を活かして、高齢の栄養・水分補給や、嚥下障害対応食への展開、減塩や低エネルギー食、油を使わない泡ドレッシングなどの調味料開発と、幅広い分野で学生の柔軟なアイデアを取り入れた「健康な食事」としてのレシピ開発を試みる。レシピについては、ニッパバイオラボ(株)のホームページに掲載する。</p> <p>2.特別養護老人ホームにおける「高齢者向けヘルシースイーツ」の開発・提供プロジェクト 高齢者の食生活にスイーツを上手に取れ入れることは、食事では足りない栄養の補助として、心身の健康維持に有用であるとともに、高齢者の生活を楽しく豊かにする。そこで、特別養護老人ホームにおいて、食べやすく、おいしい、栄養面も考慮した「高齢者向けヘルシースイーツ」レシピを学生が開発し、施設で提供するとともに、学生による食育を行う。また、施設利用者と職員を対象にアンケート調査を実施し、おやつづくりが参加者のQOLに及ぼす効果を検討する。</p>		
到達目標	<p>1.栄養やバランスを考慮した具体的なメニュー提案、作成ができる。</p> <p>2.具体的なメニュー提案、作成ができる。また対象者が必要な栄養管理を実施継続するための栄養教育を行うコミュニケーション能力やその媒体を作成する能力を身につけることができる。</p>		
授業計画	<p>研究テーマ1 第1回 卒業研究についてのオリエンテーション 第2回 卒業研究に関する総論 第3回 文献検索 第4回 対象者を確定しレシピを考案 第5回 レシピの作成方法・ディスカッション 第6回 レシピの試作 第7回 レシピの試作 第8回 レシピの試作 第9回 レシピの作成、栄養コメントの提案 第10回 レシピの詳細検討・ディスカッション 第11回 料理撮影 第12回 研究課題について評価、検討 第13回 研究課題最終ディスカッション 第14回 データ入力 第15回 研究活動のまとめ</p> <p>研究テーマ2 第1回 卒業研究についてのオリエンテーション 第2回 高齢者の食の課題抽出と 研究テーマの具体化 第3回 高齢者向けヘルシースイーツレシピ考案① 第4回 レシピの試作① 第5回 高齢者への食育活動案と媒体の作成① 第6回 施設でのおやつづくりと食育活動① 第7回 高齢者向けヘルシースイーツレシピ考案② 第8回 レシピの試作② 第9回 高齢者への食育活動案と媒体の作成② 第10回 施設でのおやつづくりと食育活動② 第11回 高齢者向けヘルシースイーツレシピ考案③ 第12回 レシピの試作③ 第13回 高齢者への食育活動案と媒体の作成③ 第14回 施設でのおやつづくりと食育活動③ 第15回 3回の研究活動のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究への取り組み 80% 研究レポート(プレゼンテーション) 20%		
失格条件	卒業研究(レポート)を未提出の場合 出席回数が2/3に満たなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1.研究テーマに関する文献、記事をしっかりと読む。(予習・復習 各2時間) 2.高齢者に対するの食の課題になる理解を深めるとともにその解決策を考えてみる。(予習・復習 各2時間)		
課題へのフィード バック	研究テーマ1 課題提出後、コメントをつけて個別に返却する。 研究テーマ2 レシピ作成と食育活動企画と媒体作成について、個別に取り組めるように指導する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて、紹介する。		
その他	特になし		
備考	調理専門学校および料理教室などで勤務した料理研究家、調理師・管理栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		



ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	古川 和子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・技能> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<課題解決力> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<情報発信力・コミュニケーション力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>① 特別養護老人ホームにおける「高齢者向けヘルシースイーツ」の開発・提供プロジェクト          高齢者の食生活にスイーツを上手に取り入れることは、食事では足りない栄養の補助として、心身の健康維持に有用であるとともに、高齢者の生活を楽しく豊かにする。特別養護老人ホームにおいて、食べやすく、おいしい、栄養面も考慮した「高齢者向けヘルシースイーツ」レシピを学生が開発し、施設で提供するとともに、学生による食育を行う。(杉山ゼミと共同研究)</p> <p>②近年わが国では、さまざまな自然災害が発生しており、その被害も甚大となっている。災害をなくすことはできないが、被害を少しでも減らすために取り組むことは可能である。          そのため平時から「食料の備え」「避難体制」「ライフラインの確保」などの防災意識や行動力を高めておくことが非常に重要である。本研究は、災害食の考案や避難経路の検討しマップ作製をすることによって学生の防災意識を高めることを目的として実施する。</p>		
到達目標	<p>①具体的なメニュー提案、作成ができる。また対象者が必要な栄養管理を実施継続するための栄養教育を行うコミュニケーション能力やその媒体を作成する能力を身につけることができる。</p> <p>②家庭の常備食品を調査し、それを元に発災直後、混乱が収まる時期、回復に向かう時期などの状況に合わせた災害食レシピを考案する能力を身につけることができる。          また、本研究を通じて、防災の意識を高めることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 卒業研究についてのオリエンテーション          第2回 高齢者の食の課題抽出と 研究テーマの具体化          第3回 高齢者向けヘルシースイーツレシピ考案①          第4回 レシピの試作①          第5回 高齢者への食育活動案と媒体の作成①          第6回 施設でのおやつづくりと食育活動①          第7回 高齢者向けヘルシースイーツレシピ考案②          第8回 レシピの試作②          第9回 高齢者への食育活動案と媒体の作成②          第10回 施設でのおやつづくりと食育活動②          第11回 高齢者向けヘルシースイーツレシピ考案③          第12回 レシピの試作③          第13回 高齢者への食育活動案と媒体の作成③          第14回 施設でのおやつづくりと食育活動③          第15回 3回の研究活動のまとめ          第16回 災害時の食支援研究論文の収集①          第17回 災害時の食支援研究論文の収集②          第18回 常備食品調査の活動①          第19回 常備食品調査の活動②          第20回 常備食品調査のデータ集計と分析          第21回 災害発生後のステージ別に応じた災害食レシピの考案①          第22回 災害発生後のステージ別に応じた災害食レシピの考案②          第23回 災害発生後のステージ別に応じた災害食レシピの考案③          第24回 市販災害食を使用したレシピの考案          第25回 レシピの試作①          第26回 レシピの試作②          第27回 レシピの試作③          第28回 レシピ集の作成①          第29回 レシピ集の作成②          第30回 避難経路のマップ作製</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.卒業研究への取り組み 50%          2.研究レポート 50%</p>		
失格条件	<p>1.卒業研究（レポート）を未提出の場合          2.出席回数が2/3に満たなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>①高齢者に対するの食の課題になる理解を深めるとともにその解決策を考えてみる。（予習・復習 各2時間）          ②災害時の食支援に必要な事項をライフステージ別や発災後のステージに応じ対策を考えてみる。（予習・復習 各2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>①レシピ作成と食育活動企画と媒体作成について、個別に取り組みるように指導する。          ②文献検索を通じ、個別に抽出した問題点について解説し、課題に取り組みよう指導する。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	日本災害食学会投稿論文		
その他	特になし		
備考	大阪府保健所栄養士としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	FN400N05	期間	通年
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	学校における食に関する指導とは、食生活と心身の発育・発達などの内容に関しての指導をさす。より効果的な食に関する指導は、発育段階を踏まえつつ、給食時間や教科など学校の教育活動全体で取り組むことが重要である。本研究では、地域の保護者・子どもたちを対象に、図書館と連携したに食に関する指導を計画・実践・評価する中で、よりよい教育活動・実践活動のあり方について検討・研究する。		
到達目標	研究テーマに基づいて、調査・研究を遂行し、結論に達成する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の報告ができる。		
授業計画	第1回 卒業研究についてのオリエンテーション 第2回 研究テーマの検討①テーマの主題・副題についての検討 第3回 研究テーマの検討②テーマに関連する資料収集 第4回 研究テーマの検討③テーマの決定 第5回 研究計画の実施① 第6回 研究計画の実施② 第7回 研究計画の実施③ 第8回 研究計画の実施④ 第9回 研究計画の実施⑤ 第10回 研究内容の実施・実践① 第11回 研究内容の実施・実践② 第12回 研究内容の実施・実践③ 第13回 研究内容の実施・実践④ 第14回 研究内容の実施・実践⑤ 第15回 中間報告のプレゼンテーションの準備 第16回 中間報告・発表 第17回 研究内容の実施・実践⑥ 第18回 研究内容の実施・実践⑦ 第19回 研究内容の実施・実践⑧ 第20回 研究内容のまとめ、統計分析と成果の作成① 第21回 研究内容のまとめ、統計分析と成果の作成② 第22回 研究内容のまとめ、統計分析と成果の作成③ 第23回 研究内容のまとめ、統計分析と成果の作成④ 第24回 研究内容のまとめ、統計分析と成果の作成⑤ 第25回 研究内容のまとめ、統計分析と成果の作成⑥ 第26回 卒業研究報告のプレゼンテーションの準備① 第27回 卒業研究報告のプレゼンテーションの準備② 第28回 卒業研究報告のプレゼンテーションの準備③ 第29回 卒業研究報告のプレゼンテーション① 第30回 卒業研究報告のプレゼンテーション②		
評価方法 (合計100%)	卒業研究への取り組み 60% 中間および最終報告でのプレゼンテーション 40%		
失格条件	積極的態度で卒業研究に取り組まないもの 指定された報告などが不可能なもの		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	卒業研究は、自ら調べて考えることが重要である。専門図書・専門雑誌等の情報やインターネット情報を徹底的に調べ、整理しておくことが予習・復習につながる。(予習2時間、復習2時間)		
課題へのフィード バック	・研究報告のプレゼンテーションの方法や内容について評価し、コメントする。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する		
その他	特になし		
備考	小学校で勤務した指導栄養教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		